2023年度

シラバス

札幌大谷大学

2023年度　札幌大谷大学　シラバス目次

大学1年生対象科目

■必修科目・大学共通科目

初年次教育・情報リテラシー	15
建学の精神と大谷学A	16

■必修科目・芸術学部音楽学科専門科目

ソルフェージュA	17
ソルフェージュB	18
合唱Ⅰ	19
合唱Ⅱ	20

■必修科目・芸術学部美術学科専門科目

西洋美術史A	21
西洋美術史B	22
共通基礎A	23
共通基礎B	24
共通基礎C	25

■必修科目・社会学部地域社会学科専門科目

市民社会と人間関係	26
キャリアデザイン論A	27
情報検索	28
社会問題入門	29
地域社会論Ⅰ	30
地域社会論Ⅱ	31
社会学基礎	32
文章構成法	33
文書実務（Word）（地域社会学科・丸山先生クラス）	34
情報処理演習A（Excel）（地域社会学科・丸山先生クラス）	35
基礎演習Ⅰ	36
基礎演習Ⅱ	37
地域実践	38

■選択科目・大学共通科目（一般教養科目）

情報検索	28
医学概論	39
障がい児教育	40
数学Ⅰ	41
数学Ⅱ	42
哲学	43
日本国憲法（大学）	44
臨床医学	45
児童心理学	46
建学の精神と大谷学B	47
文書実務（Word）（音楽・美術学科　常見先生クラス）	48
情報処理演習A（Excel）（音楽・美術学科　常見先生クラス）	49
文書作成法	50
口語表現法	51
健康スポーツ学A（体育理論）	52
健康スポーツ学B（体育実技）	53

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

札幌大谷キャリア支援プログラムA、B、C、D －Ⅰ～Ⅷ	54	

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

英語基礎Ⅰ（地域社会学科　石川先生・山田先生クラス）	55	
英語基礎Ⅰ（音楽・美術学科　赤間先生クラス）	56	
英語基礎Ⅱ（地域社会学科　石川先生・山田先生クラス）	57	
英語基礎Ⅱ（音楽・美術学科　赤間先生クラス）	58	
総合英語A	59	
総合英語B	60	
イタリア語基礎Ⅰ	61	2023年度　閉講
イタリア語基礎Ⅱ	62	2023年度　閉講
ドイツ語基礎Ⅰ	63	
ドイツ語基礎Ⅱ	64	
フランス語基礎Ⅰ	65	
フランス語基礎Ⅱ	66	
中国語基礎Ⅰ	67	
中国語基礎Ⅱ	68	

■選択科目・芸術学部共通科目（映像科目）

映像制作演習Ⅰ・Ⅱ	69

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

音楽概論A	70
音楽概論B	71
作曲・編曲法Ⅰ	72
作曲・編曲法Ⅱ	73
音楽療法概論	74
音楽療法の理論	75
音楽療法の技法	76
コードプログレッションA	77
コードプログレッションB	78
器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（吹奏楽・オーケストラ）	79
器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（弦楽合奏・オーケストラ）	80
器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	81
ピアノアンサンブルⅠ	82
ピアノアンサンブルⅡ	83
オペラ制作演習Ⅰ	84
オペラ制作演習Ⅱ	85
デジタルノーテーション	86
DAW	87
ピアノ伴奏法A	88
ピアノ伴奏法B	89
音楽療法技能A	90
音楽療法技能B	91
音楽療法演習Ⅰ	92
伴奏実習Ⅰ～Ⅱ	93
ステージスタッフ実習Ⅰ～Ⅱ	94
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・ピアノ）	95
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・声楽）	96
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・管弦打楽）	97
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅠ・Ⅱ	98
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・電子オルガン）	99
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副専攻・[…]）	100
実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副科・[…]）	101

■選択科目・芸術学部美術学科専門科目

色彩学	102
デザイン概論	103
コンピュータ造形	104
教職デザイン	105
教職彫刻	106
教職絵画	107
造形表現基礎〔油彩〕	108
造形表現基礎〔日本画〕	109
造形表現基礎〔版画〕	110
造形表現基礎〔立体〕	111

■選択科目・社会学部地域社会学科専門科目

統計学入門	112
地方自治入門	113
法学入門	114
経済学入門	115
経営学入門	116
現代社会と福祉	117
現代社会と教育	118
観光社会学	119
コミュニケーションの社会学	120
地域社会とICT	121

大学2・3年生対象科目

■必修科目・芸術学部共通科目

芸術文化論（再履修）	122

■必修科目・芸術学部音楽学科専門科目

ソルフェージュC	123
ソルフェージュD	124
音楽史A	125
音楽史B	126

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（ピアノコース）

実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・ピアノ）	127

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（声楽コース）

実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・声楽）	128

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（管弦打楽コース）

実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・管弦打楽）	129

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（作曲・サウンドクリエイションコース）

作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅢ～Ⅵ	130

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（電子オルガンコース）

実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・電子オルガン）	131

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽療法コース）

音楽療法各論Ⅰ	132
音楽療法各論Ⅱ	133
音楽療法各論Ⅲ	134
音楽療法技能C	135
音楽療法技能D	136
音楽療法技能E	137

音楽療法技能F	138
音楽療法演習Ⅱ	139
音楽療法実習Ⅰ	140
音楽療法実習Ⅱ	141

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽総合コース）

実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（副専攻・[…]）	142
実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（副科・[…]）	143

■必修科目・芸術学部美術学科専門科目

日本美術史A	144
日本美術史B	145

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　油彩専攻）

造形基礎C〔油彩〕	146
造形基礎C〔日本画〕	147
造形基礎C〔立体〕	148
造形基礎D〔油彩〕	149
造形基礎D〔日本画〕	150
造形基礎D〔立体〕	151
油彩研究A	152
油彩研究B	153

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　日本画専攻）

造形基礎C〔油彩〕	146
造形基礎C〔日本画〕	147
造形基礎C〔立体〕	148
造形基礎D〔油彩〕	149
造形基礎D〔日本画〕	150
造形基礎D〔立体〕	151
日本画研究A	154
日本画研究B	155

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　版画専攻）

造形基礎C〔油彩〕	146
造形基礎C〔日本画〕	147
造形基礎C〔立体〕	148
造形基礎D〔油彩〕	149
造形基礎D〔日本画〕	150
造形基礎D〔立体〕	151
版画研究A	156
版画研究B	157

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　立体専攻）

造形基礎C〔油彩〕	146
造形基礎C〔日本画〕	147
造形基礎C〔立体〕	148
造形基礎D〔油彩〕	149
造形基礎D〔日本画〕	150
造形基礎D〔立体〕	151
立体造形研究A	158
立体造形研究B	159

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　写真・映像・メディアアート専攻）

メディア基礎C	160
メディア基礎D	161
写真・映像・メディアアート表現研究A	162
写真・映像・メディアアート表現研究B	163
メディア表現ゼミA	164
メディア表現ゼミB	165

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　グラフィック・イラスト専攻）

メディア基礎C	160
メディア基礎D	161
グラフィック・イラスト研究A	166
グラフィック・イラスト研究B	167
メディア表現ゼミA	164
メディア表現ゼミB	165

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　情報・プロダクトデザイン専攻）

メディア基礎C	160
メディア基礎D	161
情報・プロダクトデザイン研究A	168
情報・プロダクトデザイン研究B	169
メディア表現ゼミA	164
メディア表現ゼミB	165

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　ファッション・デジタルファブリケーション専攻）

メディア基礎C	160
メディア基礎D	161
ファッション・デジタルファブリケーション研究A	170
ファッション・デジタルファブリケーション研究B	171
メディア表現ゼミA	164
メディア表現ゼミB	165

■必修科目・社会学部地域社会学科専門科目

情報処理演習B（Excel）	172
文章要約実践	173
論理的文章作成実践	174
社会調査入門	175
社会調査応用	176
地域課題研究Ⅰ	177
地域課題研究Ⅱ	178

■必修科目・社会学部地域社会学科専攻科目

専門基礎演習Ⅰ	179
専門基礎演習Ⅱ	180
専門演習Ⅰa（梶井クラス）	181
専門演習Ⅰb（西浦クラス）	182
専門演習Ⅰc（西脇クラス）	183
専門演習Ⅰd（太田クラス）	184
専門演習Ⅰe（津幡クラス）	185
専門演習Ⅰf（山田クラス）	186
専門演習Ⅱa（梶井クラス）	187
専門演習Ⅱb（西浦クラス）	188
専門演習Ⅱc（西脇クラス）	189
専門演習Ⅱd（太田クラス）	190
専門演習Ⅱe（津幡クラス）	191
専門演習Ⅱf（山田クラス）	192

■選択科目・大学共通科目（情報リテラシー科目）

情報処理演習B（Excel）	172
情報処理応用演習Ⅰ	193
情報処理応用演習Ⅱ	194

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

キャリアプラン基礎	195
キャリアプラン応用	196
札幌大谷キャリア支援プログラムA、B、C、D －Ⅰ～Ⅷ	54

■選択科目・大学共通科目（北海道科目）

北海道の地理	197
北海道の生活文化	198
北海道の歴史	199
北海道の美術	200
北海道の産業	201

■選択科目・大学共通科目（教養科目）

文学	202
政治学	203
芸術メディア論	204
日本の地理 [教職対象]	205
日本の地理 [教職以外対象]	206
発達心理学	207
臨床心理学概論	208
リハビリテーション医学	209
社会福祉	210
社会思想史	211
文化人類学	212
日本の歴史	213
臨床心理学	214
音楽心理学	215
国際社会と政治	216
国際社会と経済	217
西洋史	218
知的財産法概論	219
アイヌ文化論	220
東洋史	221
国際社会と法	222
欧米社会論	223
介護概論	224
マルチメディア論Ⅰ	225
マルチメディア論Ⅱ	226
コンピュータプログラミングⅠ	227
コンピュータプログラミングⅡ	228
民族音楽Ⅰ	229
民族音楽Ⅱ	230
美学A	231
美学B	232

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

英語演習Ⅱ（再履修）	233	
英語Ⅲ（応用）	234	
英語Ⅳ（応用）	235	
英語コミュニケーション A	236	
英語コミュニケーション B	237	
英語プレゼンテーション	238	
英語実践A	239	
英語実践B	240	
英語実践C	241	
英語実践D	242	
おもてなしの英語A	243	
おもてなしの英語B	244	
イタリア語Ⅲ（応用）	245	2023年度　閉講
イタリア語Ⅳ（応用）	246	2023年度　閉講
イタリア語コミュニケーション Ⅰ（基礎）	2023年度　未開講	
イタリア語コミュニケーション Ⅱ（応用）	2023年度　未開講	
ドイツ語Ⅲ（応用）	247	
ドイツ語Ⅳ（応用）	248	
ドイツ語コミュニケーション Ⅰ（基礎）	249	
ドイツ語コミュニケーション Ⅱ（応用）	250	
フランス語Ⅲ（応用）	251	
フランス語Ⅳ（応用）	252	
中国語Ⅲ（応用）	253	
中国語Ⅳ（応用）	254	

■選択科目・芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）

オペラ制作演習Ⅲ・Ⅴ	255
オペラ制作演習Ⅳ・Ⅵ	256
映像制作演習Ⅲ～Ⅵ	257
舞台美術演習 Ⅰ・Ⅱ	2023年度　未開講

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

和声法 Ⅰ	258
和声法 Ⅱ	259
対位法	260
管弦楽法	261
楽曲分析 Ⅰ	262
楽曲分析 Ⅱ	263
鍵盤音楽史A	264
鍵盤音楽史B	265
オペラ史A	266
オペラ史B	267
管弦楽史A	268
管弦楽史B	269
和楽器	270
日本の伝統歌唱	271
指揮法	272
合唱指導法	273
コンサートプロデュース論	274
音楽ビジネス論	275
実技教材研究 Ⅰ（ピアノ）	276
実技教材研究 Ⅱ（ピアノ）	277
実技教材研究Ⅲ（ピアノ）	278
実技教材研究Ⅳ（ピアノ）	279
実技教材研究 Ⅰ（吹奏楽）	280
実技教材研究 Ⅱ（吹奏楽）	281
実技教材研究Ⅲ（吹奏楽）	282

実技教材研究Ⅳ（吹奏楽）	283
実技教材研究Ⅰ（合唱）	284
実技教材研究Ⅱ（合唱）	285
実技教材研究Ⅲ（合唱）	286
実技教材研究Ⅳ（合唱）	287
即興演奏A	288
即興演奏B	289
即興演奏C	290
即興演奏D	291
器楽合奏Ⅲ～Ⅵ（吹奏楽・オーケストラ）	292
器楽合奏Ⅲ～Ⅵ（弦楽合奏・オーケストラ）	293
器楽合奏Ⅲ～Ⅵ（電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	294
オーケストラ・ハイブリッドオーケストラⅢ～Ⅵ	2023年度　未開講
ピアノアンサンブルⅢ	295
ピアノアンサンブルⅣ	296
ピアノアンサンブルⅤ	297
ピアノアンサンブルⅥ	298
合唱Ⅲ	299
合唱Ⅳ	300
合唱Ⅴ	301
合唱Ⅵ	302
リート研究Ⅰ	303
リート研究Ⅱ	304
フランス歌曲研究Ⅰ	305
フランス歌曲研究Ⅱ	306
声楽特別研究A	307
声楽特別研究B	308
音響デザインⅠ	309
音響デザインⅡ	310
サウンドレコーディングA	311
サウンドレコーディングB	312
音楽リテラシー演習Ⅰ	313
音楽リテラシー演習Ⅱ	314
音楽リテラシー演習Ⅲ	315
音楽リテラシー演習Ⅳ	316
声楽伴奏法Ⅲ・Ⅳ	317
器楽伴奏法Ⅲ・Ⅳ	318
伴奏法Ⅰ～Ⅳ	319
伴奏実習Ⅲ～Ⅵ	320
ステージスタッフ実習Ⅲ～Ⅵ	321
実技演奏研究Ⅰ～Ⅳ（演奏クラス）	322
室内楽Ⅰ～Ⅳ	323
実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（副専攻・[…]）	142
実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（副科・[…]）	143

■選択科目・芸術学部美術学科専門科目

情報デザイン論	324
コンテンポラリーアート	325
仏教美術	326
アートマネジメント	327
美術概論	328
感性デザイン論	329
広告論	330
マスメディア論	331
写真・映像論	332
表現研究	333
フォトグラフィ	334
テキスタイル	335
映像メディア表現	336
アニメーション	337
アートディレクション	338
絵画表現技法	339
サウンドデザイン	340
陶芸	341
Webデザイン	342
版画（リトグラフ）	343
版画（シルクスクリーンA）	344
デッサンB	345
イラストレーションA	346
イラストレーションB	347
メディアプラクティスA	348
メディアプラクティスB	349

■選択科目・社会学部地域社会学科専門科目

統計学応用	350
経営学応用（経営の組織と戦略）	351
憲法A	352
憲法B	353
民法A	354
民法B	355
民法C	356
民法D	357
行政法A	358
行政法B	359
ミクロ経済学	360
マクロ経済学	361
ジェンダーの社会学	362
公共の倫理	363
民法入門	364
コミュニティとまちづくり	365
地域社会と政治	366
会計学	367
子ども家庭福祉論	368
観光事業論	369
地域教育政策	370
プレゼンテーション実践	371
都市社会学	372
社会心理学	373
財産取引と法	374
企業と法	375
行政学	376
マーケティング入門	377
マーケティング応用	378

産業経済地理	379
財政学	380
生涯学習概論	381
地域福祉の理論と方法	382
ニューツーリズム論	383
地域メディア論	384
アンケート作成法	385
社会調査法演習	386
スポーツの社会学	387
地域スポーツ実践演習	388
ITソリューション論	389
公共政策論	390
税制税法概論	2023年度未開講
商品開発論	391
金融学	392
産業教育論	2023年度未開講
社会保障制度論	393
地域資源管理論	394
観光メディア演習Ⅰ	395
観光メディア演習Ⅱ	396
キャリアデザイン論B	397
都市計画論	398
地域社会とICT	121
データ解析論	2023年度未開講
コミュニティビジネス論	399
ベンチャー経営論（企業論）	400
インターンシップⅠ	401
インターンシップⅡ	402
インターンシップⅢ	403

大学4年生対象科目

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（ピアノコース）

実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・ピアノ）	404
卒業研究〔ピアノ〕	405

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（声楽コース）

実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・声楽）	406
卒業研究〔声楽〕	407

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（管弦打楽コース）

実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・管弦打楽）	408
卒業研究〔管弦打楽〕	409

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（作曲コース）

作曲・編曲実技Ⅶ・Ⅷ	410
卒業研究〔作曲〕	411

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（電子オルガンコース）

実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・電子オルガン）	412
卒業研究〔電子オルガン〕	413

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽療法コース）

音楽療法実習Ⅲ	414
卒業研究〔音楽療法〕	415

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽総合コース）

実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（副専攻・[…]）	416
実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（副科・[…]）	417
卒業研究〔音楽総合〕	418

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　油彩専攻）

油彩研究C	419
油彩研究D	420
卒業制作〔油彩〕	421

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　日本画専攻）

日本画研究C	422
日本画研究D	423
卒業制作〔日本画〕	424

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　版画専攻）

版画研究C	425
版画研究D	426
卒業制作〔版画〕	427

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域　立体専攻）

立体造形研究C	428
立体造形研究D	429
卒業制作〔立体造形〕	430

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　写真・映像・メディアアート専攻）

写真・映像・メディアアート表現研究C	431
写真・映像・メディアアート表現研究D	432
メディア表現ゼミC	433
メディア表現ゼミD	434
卒業制作〔写真・映像・メディアアート〕	435

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　グラフィック・イラスト専攻）

グラフィック・イラスト研究C	436
グラフィック・イラスト研究D	437
メディア表現ゼミC	433
メディア表現ゼミD	434
卒業制作〔グラフィック・イラスト〕	438

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　情報・プロダクトデザイン専攻）

情報・プロダクトデザイン研究C	439
情報・プロダクトデザイン研究D	440
メディア表現ゼミC	433
メディア表現ゼミD	434
卒業制作〔情報・プロダクトデザイン〕	441

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域　ファッション・デジタルファブリケーション専攻）

ファッション・デジタルファブリケーション研究C	442
ファッション・デジタルファブリケーション研究D	443
メディア表現ゼミC	433
メディア表現ゼミD	434
卒業制作〔ファッション・デジタルファブリケーション〕	444

■必修科目・社会学部地域社会学科専攻科目

専門演習Ⅲａ（西浦クラス）	445
専門演習Ⅲｂ（西脇クラス）	446
専門演習Ⅲｃ（森クラス）	447
専門演習Ⅲｄ（吉岡クラス）	448
専門演習Ⅲｅ（二通クラス）	449
専門演習Ⅲｆ（太田クラス）	450
専門演習Ⅲｇ（山田クラス）	451
専門演習Ⅳａ（西浦クラス）	452
専門演習Ⅳｂ（西脇クラス）	453
専門演習Ⅳｃ（森クラス）	454
専門演習Ⅳｄ（吉岡クラス）	455
専門演習Ⅳｅ（二通クラス）	456
専門演習Ⅳｆ（太田クラス）	457
専門演習Ⅳｇ（山田クラス）	458
卒業研究Ⅰａ（西浦クラス）	459
卒業研究Ⅰｂ（西脇クラス）	460
卒業研究Ⅰｃ（森クラス）	461
卒業研究Ⅰｄ（吉岡クラス）	462
卒業研究Ⅰｅ（二通クラス）	463
卒業研究Ⅰｆ（太田クラス）	464
卒業研究Ⅰｇ（山田クラス）	465
卒業研究Ⅱａ（西浦クラス）	466
卒業研究Ⅱｂ（西脇クラス）	467
卒業研究Ⅱｃ（森クラス）	468
卒業研究Ⅱｄ（吉岡クラス）	469
卒業研究Ⅱｅ（二通クラス）	470
卒業研究Ⅱｆ（太田クラス）	471
卒業研究Ⅱｇ（山田クラス）	472

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

おもてなしの英語C	473
おもてなしの英語D	474

■選択科目・芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）

オペラ制作演習Ⅶ	475
オペラ制作演習Ⅷ	476
映像制作演習Ⅶ・Ⅷ	477

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

音楽実技教授法Ⅰ（ピアノ）	478
音楽実技教授法Ⅱ（ピアノ）	479
音楽実技教授法Ⅰ（吹奏楽）	480
音楽実技教授法Ⅱ（吹奏楽）	481
音楽実技教授法Ⅰ（合唱）	482
音楽実技教授法Ⅱ（合唱）	483
即興演奏Ⅶ・Ⅷ	484
器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（吹奏楽・オーケストラ）	485
器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（弦楽合奏・オーケストラ）	486
器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	487
オーケストラ・ハイブリッドオーケストラⅦ・Ⅷ	2023年度　未開講
ピアノアンサンブルⅦ	488
ピアノアンサンブルⅧ	489
合唱Ⅶ	490
合唱Ⅷ	491

演奏解釈Ⅰ	492
演奏解釈Ⅱ	493
日本歌曲研究Ⅰ	494
日本歌曲研究Ⅱ	495
声楽特別研究C	496
声楽特別研究D	497
伴奏法Ⅴ・Ⅵ	498
伴奏実習Ⅶ・Ⅷ	499
ステージスタッフ実習Ⅶ・Ⅷ	500
実技演奏研究Ⅴ・Ⅵ（演奏クラス）	501
室内楽Ⅴ・Ⅵ	502

大学教職課程科目

教育原理	503
教師論	504
教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	505
特別支援教育論	506
生徒・進路指導論	507
教育心理学	508
教育相談の基礎と方法	509
教育課程論	510
道徳教育の理論と実践	511
教育制度論	512
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	513
介護等体験	514
教育実習事前事後指導	515
教育実地研究	516
教職実践演習（中・高）	517
音楽教育法A	518
音楽教育法B	519
音楽教育法C	520
音楽教育法D	521
美術教育法A	522
美術教育法B	523
美術教育法C	524
美術教育法D	525
社会科教育法A	526
社会科教育法B	527
公民教育法A	528
公民教育法B	529

授業科目	初年次教育・情報リテラシー	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	(芸術学部音楽学科)三山 博司、高田 由利子、河野 泰幸、鎌倉 亮太 (芸術学部美術学科)藤本 和彦、小町谷 圭 (社会学部地域社会学科)西浦 功、和田 佳子、丸山 宏昌、太田 稔、山田 政樹、上戸 理恵 (短期大学部保育科)山田 千春、田中 住幸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SO_CE 1011

授業概要

・初年次教育:学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力(主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力)」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたらされることを目的とする。
・情報リテラシー:外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通し「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。

到達目標

・初年次教育:①大学で学ぶための基礎的な学習能力を身につける。②学生間の交流を通し自己理解・他者理解・大学理解を深める。③他者との関係を築きながら自ら学ぶための基礎的態度を獲得する。
・情報リテラシー:①情報の読み書きについて基本概念を理解できる。②情報の受け手のみならず、情報発信に必要な技能の基礎を身に付けられる。③新たな時代の要請に答える担い手としての意識を持ち、自身の活動に情報を活用できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル:社会において多種多様な人と協働し実践する力
2 自律性:目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性:広い視野をもって、社会の課題を発見する力

授業計画

1週	情報リテラシーとは :オンライン授業
2週	情報利活用能力 :オンライン授業
3週	情報モラルに関する教育 :オンライン授業
4週	情報収集法 :オンライン授業
5週	事例紹介 :オンライン授業
6週	情報整理法 :オンライン授業
7週	情報発信 :オンライン授業
8週	初年次教育① 自分をツタエル(社会領域) :対面授業
9週	初年次教育② 音でツタエル(音楽領域) :対面授業
10週	初年次教育③ 体(感覚)でツタエル(保育領域):対面授業
11週	初年次教育④ 絵でツタエル(美術領域) :オンライン授業
12週	初年次教育⑤ 文字でツタエル(社会領域) :オンデマンド授業
13週	初年次教育⑥ 声でツタエル(保育領域) :オンライン授業
14週	初年次教育⑦ 言葉でツタエル(社会領域) :対面授業
15週	最終振り返り(全体)

成績評価方法・基準

レポート50%、平常点50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

kqvpegt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

受講者が調べたり発表したりする学習活動をとりいれます。授業時間外にも必要な情報を調べ、表現するための作業が生じることが予想されます。受講者の積極的な授業参加の姿勢が求められます。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は演習を含む講義形式で行いますが、グループワークやコンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウエアなど)を用い、アクティブ・ラーニングとしての相互学修形式を取り入れます。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

授業科目	建学の精神と大谷学A	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	宮本　浩尊	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO_CE 1001

授業概要

札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人(1173-1263)の仏教思想(浄土真宗)を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。

この授業では、仏教思想を学ぶことを通して、仏教の思考法と日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。

到達目標

① 仏教の基本的な思考法を知り、生活の中で活用することができる。
② 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。
③ 札幌大谷大学で学ぶ意義について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
音楽学科 2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
美術学科 2 自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
地域社会学科 2 自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。

授業計画

1週	ガイダンス(授業内容、目的、計画、評価方法の確認等)
2週	札幌大谷大学の「建学の精神」を知る
3週	釈尊の生涯
4週	釈尊の思想①　釈尊の言語観と縁起思想
5週	釈尊の思想②　四聖諦
6週	釈尊の思想③　八正道
7週	大乗仏教の思想① 自利から利他へ
8週	大乗仏教の思想② 空の思想
9週	親鸞聖人の生涯と思想①　浄土思想
10週	親鸞聖人の生涯と思想②　「私」が救われる世界を求めて
11週	釈尊の言葉に触れる①『ダンマパダ』の講読
12週	釈尊の言葉に触れる②『ダンマパダ』の講読
13週	釈尊の言葉に触れる③『ダンマパダ』の講読
14週	まとめ
15週	授業内試験

成績評価方法・基準

平常点(出席・課題の提出等)50%、授業内試験50%

教科書ソフト等

なし。適宜、プリントやスライドで対応する。

参考書等

なし。適宜、授業内で指示する。

クラスコード

5vbbwji

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ソルフェージュA	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平、阿部 佳子、後山 美菜子、平野 則子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 1001

授業概要	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、基礎的な楽典の確認などを、習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 読譜に必要な音楽の知識を身につけ、適切な表現ができる。 ② 習熟度に応じた読譜・記譜ができる。 ③ 楽器を使わずに、音を頭の中でイメージできる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画	
1週	オリエンテーション
2週	基礎的な課題① 視唱
3週	基礎的な課題② 初見視唱
4週	基礎的な課題③ 聴音
5週	札幌コンサートホールKitaraでのパイプオルガン特別講義(5/18)
6週	基礎的な課題④ 記憶唱
7週	基礎的な課題⑤ リズム打ち
8週	基礎的な課題⑤ クレ読み
9週	基礎的な課題⑥ 分析
10週	応用的な課題① 視唱、聴音
11週	応用的な課題② 初見奏
12週	応用的な課題③ リズム打ち
13週	総合的な課題
14週	クラス別試験とまとめ
15週	全クラス統一試験とまとめ

成績評価方法・基準	クラス別試験40%、全クラス統一試験40%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	aクラス（小山）ttmomvg　bクラス（阿部）klqs5df　cクラス（後山）rrrtaes　dクラス（平野）m7sn56m
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ソルフェージュB	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平、阿部 佳子、後山 美菜子、平野 則子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 1002

授業概要

音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、和音付けなどを、習熟度に応じて設定します。

到達目標

① 習熟度に応じた読譜・記譜ができる。
② 習熟度に応じた難易度の移調奏もしくは移調唱ができる。
③ 耳で聴いた楽曲を分析的にとらえることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	基礎的な課題① 視唱
3週	基礎的な課題② 初見視唱
4週	基礎的な課題③ 移調唱
5週	基礎的な課題④ アゴーギクについて
6週	基礎的な課題⑤ 複雑なリズム
7週	基礎的な課題⑥ 分析
8週	応用的な課題⑦ 和音付け
9週	応用的な課題① 聴音
10週	応用的な課題② 楽器のききとり
11週	応用的な課題③ 和音のききとり
12週	応用的な課題④ 編成のききとり
13週	応用的な課題⑤ 形式のききとり
14週	クラス別試験とまとめ
15週	全クラス統一試験とまとめ

成績評価方法・基準

クラス別試験40%、全クラス統一試験40%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス（小山）yakmlh2　bクラス（阿部）wy5nvwv　cクラス（後山）qoni46r　dクラス（平野）v74or2s

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	合唱Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 1201

授業概要

声楽アンサンブルの基本である正しい呼吸法と発声法の上に、表現力豊かなハーモニーを身につける。
前期はヴォイストレーニングに重点を置きながら、テキストとして様々な合唱作品を取り上げる。
前期の半ばから定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学習する。

到達目標

① 正しい呼吸法と発声法を学び、美しく柔軟性のある声で歌うことができる。
② 正確で美しい日本語で歌うことができる。
③ 合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンスを行い、年間の学修計画を示す
2週	各個人の声を聴き、適切なパート分けを行う①
3週	各個人の声を聴き、適切なパート分けを行う②
4週	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ①
5週	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ②
6週	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ③
7週	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ④
8週	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ⑤
9週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う①
10週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う②
11週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う③
12週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う④
13週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う⑤
14週	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う⑥
15週	前期のまとめ

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%、平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。尚、定期演奏会で使用する楽譜は必ず購入すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

2dk3rgg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行うこと。特に譜読みを終えた楽曲については念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	合唱Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 1202

授業概要

「合唱Ⅰ」に引き続き声楽アンサンブルの基本である正しい呼吸法と発声法の上に、表現力豊かなハーモニーを身につける。後期は定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学習する。

到達目標

① 正しい呼吸法と発声法を学び、美しく柔軟性のある声で歌うことができる。
② 合唱で歌う言語を正確で美しい発音で歌うことができる。
③ 合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	前期に学んだ定期演奏会の曲目について全体を通して音とテキストを確認する
2週	詩の内容と音楽を結び付けて声で表現できるようになるまで細かく練習する①
3週	詩の内容と音楽を結び付けて声で表現できるようになるまで細かく練習する②
4週	詩の内容と音楽を結び付けて声で表現できるようになるまで細かく練習する③
5週	詩の内容と音楽を結び付けて声で表現できるようになるまで細かく練習する④
6週	詩の内容と音楽を結び付けて声で表現できるようになるまで細かく練習する⑤
7週	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う①
8週	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う②
9週	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う③
10週	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う④
11週	定期演奏会のための強化練習①
12週	定期演奏会のための強化練習①
13週	定期演奏会のための強化練習①
14週	定期演奏会G. P. 本番
15週	定期演奏会の演奏を聴き、振り返りとまとめを行う

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート及び振り返りのレポート70%、平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。尚、定期演奏会で使用する楽譜は必ず購入すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

w2vzdix

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行うこと。特に譜読みを終えた楽曲については念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	西洋美術史A	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	下濱　晶子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA_MS 1000

授業概要

本授業では、古代から近世16世紀までの流れを解説しながら、西洋美術史の基礎知識を教授する。美術史とは、言葉や文章による叙述と、視覚的イメージを合体させて、歴史の流れを浮かび上がらせるものである。本授業では、古代から中世、近世、近代、現代へと続く西洋美術史の大きな流れについて概説する。絵画を中心に、彫刻、建築等、各時代の美術様式の特徴を理解できるように、映像やパワーポイント、プリント等の写真資料を紹介しつつ講義することにより、西洋美術の通史的な流れを理解させることを目標とする。

到達目標

① 西洋美術の基礎知識を習得できる。
② 西洋美術の古代から近世までの通史的な流れを理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週　西洋美術の基礎知識
2週　古代①　先史美術
3週　古代②　エジプト美術
4週　古代③　メソポタミア美術
5週　古代④　ギリシャ美術①
6週　古代⑤　ギリシャ美術②
7週　古代⑥　ローマ美術
8週　中世①　初期キリスト教美術
9週　中世②　ビザンティン美術
10週　中世③　ロマネスク美術
11週　中世④　ゴシック美術
12週　近世①　ルネサンス美術①
13週　近世②　ルネサンス美術②
14週　近世③　北方ルネサンス美術
15週　総括

成績評価方法・基準

レポート80%、授業内の課題を含む平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

k57anod

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業計画のキーワードを元に事前に調べてください。授業後は配付資料を元にノート整理等してまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。

授業科目	西洋美術史B	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	下濱　晶子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA_MS 1001

授業概要

本授業は、近世17世紀から現代までの流れを解説しながら、西洋美術史についての知識をより深めるための科目である。前期に「西洋美術史A」で習得した西洋美術の基礎知識を踏まえながら、各様式の特徴的な絵画、彫刻、建築等について、具体的な例を取り上げて解説する。西洋では、美術は時代やパトロンの権威を反映しつつ、過去を否定し、新しい様式が次々と生み出されていった。美術の背景にある社会や文化等との関連についても適宜紹介することで、西洋美術に対する理解をより深めさせ、現代人としての教養、審美眼、美的感覚の醸成を計ることを目標とする。

到達目標

① 西洋美術の知識を深めることができる。
② 西洋美術の各時代の様式の特徴的作品を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週　近世①　バロック美術①
2週　近世②　バロック美術②
3週　近世③　バロック美術③
4週　近世④　ロココ美術①
5週　近世⑤　ロココ美術②
6週　近世⑥　19世紀美術①
7週　近世⑦　19世紀美術②
8週　近世⑧　19世紀美術③
9週　近世⑨　19世紀美術④
10週　近代⑩　19世紀美術⑤
11週　現代①　20世紀美術①
12週　現代②　20世紀美術②
13週　現代③　20世紀美術③
14週　現代④　20世紀美術④
15週　総括

成績評価方法・基準

レポート80%、授業内の課題を含む平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

juloc3o

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業計画のキーワードを元に事前に調べてください。授業後は配付資料を元にノート整理等してまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。

授業科目	共通基礎A	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	今 義典、島名 毅、藤本 和彦、松隈 康夫、川口 浩	単位数	6	授業回数	64
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 1000

授業概要

本授業では、4つのグループに分かれ[油彩][立体][写真][Photoshop]の全ての内容を、実技を通して学ぶアクティブラーニング及びオンラインを活用した授業である。※グループや学び方については履修登録の際、補足説明を行う。
[油彩] 油彩画の制作を通して、基本的な対象の見方、捉え方、画材の使用方法や特性を理解し表現する力を身につける。
[立体] 水粘土を使った自刻・半面像の制作を通し、モデリングの感覚を理解し、構造や空間を把握・探究する。観念的に眺めるのではなく、注意深く観察する事を重視し、積極的に、3次元表現について考察する。
[写真] スマートフォンからデジタル一眼レフまでカメラの機種を問わず、レンズ特性や被写界深度を把握し、撮影ベースの実習をリモート・対面で行う。
[Photoshop] Photoshopを利用するにあたって、必ず使用することになるツールを中心に演習を行い、基本的な合成する力を身につける。

到達目標

美術・デザインを修めるにあたり必要になる基礎的な力を身につける。さまざまな画材や素材、ソフトウェアに触れ、自らの基盤となる基礎能力を高めることを目標とする。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1回	[油彩] Ga ガイダンス 使用画材の説明 特性の理解	17回	[写真] Gc 自宅で撮る商品撮影
2回	[油彩] Ga 油彩静物 F6号 下描き 構図の理解	18回	[写真] Gc 建築写真（内観）
3回	[油彩] Ga 着彩 下描き 全体 形体の再確認	19回	[写真] Gc 建築写真（外観）
4回	[油彩] Ga 着彩 描画 全体 明暗確認	20回	[写真] Gc スタジオ1
5回	[油彩] Ga 着彩 描画 描き込み	21回	[写真] Gc スタジオ2
6回	[油彩] Ga 着彩 描画 描き込み	22回	[写真] Gc 参考作品紹介
7回	[油彩] Ga 着彩 描画 描きこみ	23回	[写真] Gc 組写真
8回	[油彩] Ga 講評	24回	[写真] Gc 組写真講評
9回	[立体] Gb ガイダンス・自画像デッサン	25回	[Photoshop] Gd Lightroom基礎
10回	[立体] Gb 粘土練り・粗付け	26回	[Photoshop] Gd 水平・トリミング・修復ブラシ
11回	[立体] Gb スケールとボリューム	27回	[Photoshop] Gd さまざまな選択方法①
12回	[立体] Gb 骨格・構造	28回	[Photoshop] Gd さまざまな選択方法②
13回	[立体] Gb 肉付け	29回	[Photoshop] Gd レイヤーワーク
14回	[立体] Gb パーツ制作・細部表現	30回	[Photoshop] Gd 写真合成①
15回	[立体] Gb 質感表現、仕上げ	31回	[Photoshop] Gd 写真合成②
16回	[立体] Gb 講評・解体	32回	[Photoshop] Gd 写真合成③

成績評価方法・基準

[油彩][立体][写真][Photoshop]それぞれの点数の平均点を最終評価とする。
[油彩]・[立体]出席30%・提出課題70%　[写真]・[Photoshop] 出席30%・提出課題70%

教科書ソフト等

写真＜使用するアプリケーションはPhotoshop,LightRoomClassic＞
立体＜必要に応じて、作品集等使用＞

参考書等

クラスコード

油彩（川口）6dlj3pi　立体（松隈・藤本）cw5hgko　写真（今）[スリiuaseem, グリavnsyo2, ハツ4scabli
レイtflbj2u]　Photoshop（島名）tazw3kx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

それぞれの課題は、授業時間外での制作を前提としています。授業内で適切なアドバイスを受けられるよう課題に応じた予習・復習が必要となります。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生を4グループに分け、全員がGa～Gdの全てに取り組みます。取り組む順番はグループにより異なります（別途指示）。Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。
その他、各クラスで必要なものは適宜クラスルームで指示します。

授業科目	共通基礎B	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	鳥宮　尚道、小町谷　圭、平向　功一、 吉田　潤、堀じゅん子	単位数	6	授業回数	60
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 1001

授業概要

① 日本画作品の制作を通して伝統的な画材・技法についての基礎的な表現を習得する（平向）
② 凹版・孔版の構造を理解して制作プロセスを体験しながら、基礎的な製版・印刷技術を習得する（吉田）
③ ブックレットの制作を通して、言葉とビジュアルによる表現方法と、デスクトップパブリッシングの基本について学ぶ（堀）
④ Adobe Illustratorの基本操作を学び、デジタルによる平面表現に必要な技術を習得する（鳥宮）
⑤ Adobe PrmireとAfterEffectsの基本操作を学び、デジタルによる映像表現に必要な技術を習得する（小町谷）

到達目標

① 制作を通して素材の適切な扱い方を身につける。
② 表現技法について理解し、特性を意識した適切な表現を行うことができる。
③アナログ表現とデジタル表現の特徴を知ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	Ga:「紙本による日本画」日本画の歴史・素材の解説、写生（平向）		4週	Gc:ビジュアル素材制作③（堀）	
2週	Ga:「紙本による日本画」写生、和紙水張り（平向）		5週	Gc:InDesignによるレイアウト（堀）	
3週	Ga:「紙本による日本画」骨描き・下塗り（平向）		6週	Gc:InDesignによるレイアウト、まとめ（堀）	
4週	Ga:「紙本による日本画」彩色①（平向）		1週	Gd:オリエンテーション、Illustrator基本操作① 基本ツールと環境設定（鳥宮）	
5週	Ga:「紙本による日本画」彩色②（平向）		2週	Gd:Illustrator基本操作②パスツール（鳥宮）	
6週	Ga:「紙本による日本画」彩色③、まとめ（平向）		3週	Gd:Illustrator基本操作③文字（鳥宮）	
1週	Gb:凹版「ドライポイント①」版画の歴史・種類の解説、下絵制作（吉田）		4週	Gd:Illustrator基本操作④画像配置、レイヤー（鳥宮）	
2週	Gb:凹版「ドライポイント②」転写、描画（吉田）		5週	Gd:課題制作（鳥宮）	
3週	Gb:凹版「ドライポイント③」描画、印刷（吉田）		6週	Gd:講評会（鳥宮）	
4週	Gb:凹版「ドライポイント④」印刷（吉田）		1週	Ge:オリエンテーション、時間表現の設計と絵コンテ（小町谷）	
5週	Gb:孔版「カッティング法①」下絵制作、製版（吉田）		2週	Ge:動画編集ソフト基本操作①、ビデオコンテ（小町谷）	
6週	Gb:孔版「カッティング法②」印刷、講評会（吉田）		3週	Ge:動画編集ソフト基本操作②、モーショングラフィクス（小町谷）	
1週	Gc:プランと試作（堀）		4週	Ge:動画編集ソフトの基本操作③、モーションロゴ（小町谷）	
2週	Gc:ビジュアル素材制作①（堀）		5週	Ge:最終課題の制作（小町谷）	
3週	Gc:ビジュアル素材制作②（堀）		6週	Ge:講評（小町谷）	

成績評価方法・基準

素材や技法の特性を活かし制作されているか40%、制作物の完成度30%、課題に対する理解度30%

教科書ソフト等

特になし。授業内で指示します。

参考書等

特になし。授業内で指示します。

クラスコード

Ga：6vol276（平向）　Gb：yrgrnek（吉田）　Gc：5qiuenc（堀）　Gd:djxye5z（鳥宮）　Ge：7l7qmob（小町谷）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

・授業後の復習とデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生を4グループに分け、全員がGa～Geの全てに取り組みます。取り組む順番はグループにより異なります（別途指示）。Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。

授業科目	共通基礎C	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	集中（夏期）	講義形態	実技
担当教員	松村　繁、佐々木　剛、吉田　潤、 戸澤　逸美、宮本　一行、石岡　美久	単位数	4	授業回数	40
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 1002

授業概要

本授業は、6つのグループに分かれ、下記の全ての内容について集中的に取り組む実技科目である。また本授業では、夏期40コマ（計9日間）を履修する。グループ分けや学び方については、履修登録の際に補足説明を行う。
[静物デッサン][人物デッサン][石膏デッサン] 様々なモチーフに対するデッサン経験を通じて、平面表現の基本を理解し、長時間の観察を通して自分の表現を考察する力をつける。
[パッケージデザイン] パッケージデザインの制作を通じて、グラフィックデザインが立体になることも考慮し、応用できる力を身につける。
[プロダクトデザイン] 身の回りの光をカタチ取る実制作を通じて、デザイン表現に共通して必要な観察力やプレゼンテーションする力を身につける。
[ファッションデザイン] ファッションの知識や基礎実習を通じて、立体的な構成を理解し、表現する力を身につける。

到達目標

①制作を通じて美術の基礎的知識・表現力を理解することができる。②それぞれの表現方法を理解し適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

夏季集中講義（履修モデルの一例）

1日目	Ga:（松村）静物デッサン①1～5講目
2日目	Ga:（松村）静物デッサン②1～2講目
	Gd:（戸澤）パッケージデザイン①3講目 パッケージデザインについて説明・調査
3日目	Gd:（戸澤）パッケージデザイン②1～5講目 企画・制作・プレゼンテーション発表講評
4日目	Gb:（吉田）石膏デッサン①1～5講目
5日目	Gb:（吉田）石膏デッサン②1～2講目
	Ge:（宮本）プロダクトデザイン①3講目 プロダクトについての講義、課題説明
6日目	Ge:（宮本）プロダクトデザイン②1～5講目 課題制作、プレゼンテーションパネルの制作、講評会
7日目	Gc:（佐々木）人物デッサン①1～5講目
8日目	Gc:（佐々木）人物デッサン②1～2講目
	Gf:（石岡）ファッションデザイン①3講目 ファッションについて講義
9日目	Gf:（石岡）ファッションデザイン②1～5講目 道具の使用方法、パターン基礎、縫製基礎、課題制作
10日目	総評　5講目

成績評価方法・基準

[静物デッサン][石膏デッサン][人物デッサン][パッケージデザイン][プロダクトデザイン][ファッションデザイン]それぞれの点数の平均点を最終評価とする。 出席30%・提出課題70%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

特になし。授業内で指示します。

クラスコード

yyg6za6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後の復習とデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生を6グループに分け、全員がGa～Gfの全てに取り組みます。取り組む順番はグループにより異なります（別途指示）。
Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。
その他、各クラスで必要なものは適宜クラスルームで指示します。

授業科目	市民社会と人間関係	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	梶井　祥子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1101

授業概要	社会は人と人の「つながり＝関係性」によって成り立っています。「市民社会」とは、社会の近代化のなかで、個人の自由が平等に保障される領域として考え出された理念です。そこでは、一人一人が尊重され、寛容に認め合うことが重要となります。「市民社会」で果たすべき私たちの責任を問いつつ、現代社会の状況を批判的に捉え返してみたいと思います。本講では、社会事象を読み解くために必要な基本的な社会学の理論をベースとして、市民社会における人間のつながりの様相を探っていきます。
到達目標	①　社会における様々な事象を関連付ける（＝体系化する）ための方法論を理解すること。 ②　物事を相対化する視点を獲得し、そのことによって寛容なコミュニケーション・スキルを実践できるようになること。 ③　「社会学」という学問の特徴を理解すること。
学科のディプロマ・ポリシー	4　知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　オリエンテーション（授業の目的と概要、評価方法、参考文献の紹介） 2週　社会のなかの「人間」 社会学が想定している「人間像」、社会化される人間 3週　「私」という存在　自我の形成、社会的自我論 4週　「役割」を生きるということ　役割期待と役割獲得の相互作用 5週　「規範」と「逸脱」 社会を秩序づけているもの、寛容性の理解と包摂的社会 6週　機能分析の考え方　社会的事実を多角的にとらえる 7週　不完全な学歴社会にみる個人と社会 8週　組織と個人の関係から考える　現代の仕事、文化と労働環境 9週　社会の中のジェンダー構造　対等なコミュニケーションとは 10週　グローバル化する社会／　多文化共生社会とは 11週　宗教と社会　なぜ宗教は必要とされてきたのか 12週　地域社会とコミュニティ 13週　ソーシャル・キャピタル論の現代的意義 14週　リスク社会と現代 「環境」・「格差」・「人口変動」という視点から 15週　授業全体の整理・補足説明
成績評価方法・基準	学期末試験80%、授業内レポート・授業態度等20%
教科書ソフト等	なし。
参考書等	本田由紀編 『現代社会論－社会学で探る私たちの生き方』 有斐閣ストゥディア、長谷川公一ほか著 『社会学』 有斐閣
クラスコード	wqpjvg4
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	日常生活のなかで、社会現象や時代のトピックスに関心を持ち、敏感な感受性を磨くことが重要です。論理的な思考のトレーニングを心がけ、新聞には必ず目を通してください。 1時間／週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	意欲的な受講態度を期待します。授業内での質問を歓迎します。なお、本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅲ群に該当しています。 ＊各回のテーマは、社会のトピックスに合わせて変更されることもあります。

授業科目	キャリアデザイン論A	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	和田　佳子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1901

授業概要	キャリア発達の基礎理論を踏まえつつ、大学で学ぶことの意味と社会で働くことの意味について考え、自分の人生を自分の力で切り開く能動的態度を身につけることの重要性を理解します。現代社会が抱える問題に目を向けながら、大学で学ぶことの意義について考え、これから始まる大学4年間を充実したものにするための道筋を立てます。自己の価値観や行動特性に気づき、自分の生き方のスタイル（自分軸）やテーマを探ることをねらいとします。
到達目標	①　キャリア発達の基礎理論を学び、大学で学ぶことと社会で働くことの繋がりを意識できるようになる。 ②　自己理解を深めるとともに将来のキャリア形成を展望できる。 ③　有意義な大学生活を送るために必要な学習スキルを理解し、自律的に行動できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　オリエンテーション（キャリアデザインの考え方、授業への参加の仕方、課題と評価方法） 2週　大学4年間とその先を見据えたキャリデザイン① 3週　大学4年間とその先を見据えたキャリデザイン② 4週　キャリア発達とキャリア形成の基礎理論① 5週　キャリア発達とキャリア形成の基礎理論② 6週　キャリア発達とキャリア形成の基礎理論③ 7週　自己分析・自己理解のためのワーク① 8週　自己分析・自己理解のためのワーク② 9週　自己分析・自己理解のためのワーク③ 10週　キャリアデザインに影響する外部環境の変化① 11週　キャリアデザインに影響する外部環境の変化② 12週　グループワークで考えるキャリアデザイン① 13週　グループワークで考えるキャリアデザイン② 14週　課題提出 15週　課題に対するフィードバック、振り返りとまとめ
成績評価方法・基準	平常点（授業の参加態度）30%、毎回の課題提出30%、最終課題40%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	岡部正浩・松繁寿和 『キャリアのみかた　図で見る109のポイント』 有斐閣
クラスコード	chil4y7
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は企業実務経験のある教員が担当します。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	資料を読む、情報を集めるなど提示された課題には必ず取り組んでください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	講義を聞くだけではなく、グループで話しあったり、発表する場面があります。自分の将来を真剣に考える態度、仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。授業内のグループワークに積極的に参加しない、あるいは非協力的な姿勢が見られる場合には出席と認めないことがあります。

授業科目	情報検索	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	荒井　宏明	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1031

授業概要

大量かつ多様な情報が生まれ共存している情報化社会においては、自立したひとりの社会人として生きていくための基礎的な要素として、情報を読み解き評価する力、情報リテラシーを身につけることが求められている。授業では問題解決の典拠となる辞(事)典や参考図書の種類と特徴について学習するとともに、調査のプロセスを認識する行動を通して情報探索の技能を深める。

到達目標

① 問題解決には情報の入手と評価が必要なことを理解できる。
② 参考図書やデータベースを使い問題解決に役立つ情報を入手することができる。
③ 各自の関心テーマの探索プロセスを理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル:人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル:人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル:コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス　情報科社会における情報リテラシー能力の重要性 【情報リテラシーについての復習】
2週　大学の図書館(ホームライブラリー)は情報収集のベースキャンプ 【大学図書館の諸機能についての整理】
3週　ホームライブラリーの活用術①　OPAC(コンピュータ目録)の利用 【OPACを利用した課題】
4週　ホームライブラリーの活用術②　事がらを調べるためのレファレンスブック1 【レファレンスブックを利用した課題】
5週　ホームライブラリーの活用術③　事がらを調べるためのレファレンスブック2 【レファレンスブックの利用についての整理】
6週　ホームライブラリーの活用術④　文献を調べるためのレファレンスブック 【テーマに関する文献の所在を調べる課題】
7週　ホームライブラリーの活用術⑤　レファレンスサービスは究極のサービス 【レファンレンスサービスについての復習】
8週　他の図書館の利用　ホームライブラリーを基点に都合よく他の図書館を使う 【他の図書館の利用法についての整理】
9週　書誌・索引データベースの活用①　広く図書館を探す 【データベース検索の課題】
10週　書誌・索引データベースの活用②　広く雑誌記事・論文を探す 【データベース検索の課題】
11週　新聞記事の探索法:記事検索サービスの利用 【新聞記事探索の課題】
12週　インターネット情報源の活用①　検索エンジンの利用 【インターネット検索の課題】
13週　インターネット情報源の活用②　検索エンジンの利用 【インターネット検索の課題】
14週　情報源の評価とパスファインダー(情報ガイド) 【情報源の評価についての復習】
15週　探索ルートの地図化と情報探索の自己評価 【振り返り】

成績評価方法・基準

課題50%、定期試験40%、平常点10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『文献調査法:調査・レポート・論文作成必携:情報リテラシー読本』第4版(毛利和弘著、日本図書館協会)

クラスコード

aクラス　4xuvhf6　　bクラス　fy6kbb2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅰ群に該当しています。

授業科目	社会問題入門	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	荒井　宏明	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1911

授業概要

ボランティア活動の原理原則を踏まえたうえで、ボランティア活動やボランティアを取り巻く社会福祉の歴史、現在のボランティアを取り巻く社会や社会福祉の状況を明らかにする。

到達目標

広がりをみせる各種ボランティア活動の現状に対する理解を深めることで、今日的ボランティア活動の課題を探り、ボランティア活動のあり方を追求したい。同時に、ボランティア現場で実際に活用ができるよう実践力を磨く。

学科のディプロマ・ポリシー

3　課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。

授業計画

1週　講義の狙いや展開に関するガイダンス
2週　互助社会と社会福祉の歴史
3週　現代の互助システムと社会福祉のあり方
4週　ボランティア活動の理念と国内外の動向
5週　災害支援ボランティアの動向と社会認知
6週　社会課題の発見とミッションの立て方
7週　社会課題解決に向けたスキームの策定
8週　社会事業・起業の動向と社会認知
9週　社会事業の実際①　テーマの設定とマーケティング
10週　社会事業の実際②　ファンドレイジングと中長期計画の立て方
11週　社会事業の実際③　アカウンタビリティと広報
12週　職能性を有したボランティア活動
13週　ボランティア活動における課題点・メサイアコンプレックス
14週　新しい公共時代における市民セクターの分掌とボランティア実践に向けた準備
15週　授業内試験　まとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題40%、平常点10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『ボランティア―もうひとつの情報社会』（岩波新書）

クラスコード

ewyjxfb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に前回の講義内容を再度、読み込んでおくこと。授業後は講義の板書や内容を再確認すること。

2時間から3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式で進めていきますが、意見や発言を求める場合を設けますので、積極的な受講態度で臨んでください。

授業科目	地域社会論Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	西脇　裕之	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1111

授業概要

この科目は地域・都市の社会学への入門的な位置づけの科目です。前半では都市社会学の始まりから論じ、都市化という社会変動が何を生み出してきたのか、都市の社会的な効果について考えます。後半では現代の地域社会における都市的生活様式を支えているさまざまなインフラに焦点を定めて、地域で生活する利用者の視点から都市インフラを社会学的に分析することをめざします。この授業の目標は、都市化と地域生活を支えるインフラについての知識を現実社会に活用できるようになることです。

到達目標

① 地域社会の現実をとらえるアプローチの特徴を述べることができる。
② 都市の社会的な効果について、キーワードを用いて説明することができる。
③ 地域生活を支えるインフラについて利用者の立場からとらえ、論じることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス 都市が農村を生み出した
2週	都市的なものと都市の定義
3週	都市の公共空間
4週	シカゴと都市社会学
5週	人間生態学のアプローチ
6週	産業化と都市化
7週	生活様式としてのアーバニズム
8週	参与観察のアプローチ
9週	コミュニティ 解体か存続か
10週	都市インフラから見る地域社会（1）道路・交差点
11週	都市インフラから見る地域社会（2）駅・鉄道
12週	都市インフラから見る地域社会（3）水道・飲料
13週	都市インフラから見る地域社会（4）トイレ・ごみ
14週	都市インフラから見る地域社会（5）電柱・電線
15週	振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

定期試験60%、各回授業のミニ課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

田中大介（編著）『ネットワークシティ』北樹出版。その他、授業内で指示します。

クラスコード

ktxufja

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習＝授業の最後に次回の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。
復習＝返却された課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回のミニ課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

授業科目	地域社会論Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西脇　裕之	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1112

授業概要

地域社会は「地域」という限定された範囲でありながら、そこで人びとの多様な活動が関係し合っていく「社会」です。そこで、この授業では地域社会学科の4コースの学修と関連するトピックを織り交ぜながら、地域社会のさまざまな側面について学んでいきます。この授業の目標は、地域社会のさまざまな側面について基礎的な知識を得て、今後の地域社会についての学修の基礎を固めることです。

到達目標

① 地域社会の諸側面についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。
② 取り扱うトピックに関して、キーワードを適切に使用して論述ができる。
③ 地域社会の課題や可能性について、自分の考えを文章で説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4　知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス　4コースの学修との関連
2週　家族の選択と地域の人口
3週　地域社会と町内会
4週　地方自治のしくみ
5週　地方自治の原理と歴史
6週　地域社会と企業
7週　地域社会と産業
8週　地域社会と進学・就職
9週　地域社会と福祉
10週　地域社会と観光
11週　メディアのなかの地域社会
12週　地域メディアの役割
13週　地域社会と防犯
14週　地域社会と災害
15週　振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

学期末レポート60%、各回授業のミニ課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

r7j45kd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習＝授業の最後に次回の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。
復習＝返却された課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回のミニ課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

授業科目	社会学基礎	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西脇　裕之	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1102

授業概要

社会学は人と人が日々関わり合う相互作用のあり方に注目することによって、人びとが社会をつくり、また社会に影響される現象を記述・説明していこうとする科学です。この授業の目標は、近現代社会において社会学が取り組んできた問題と成果についての基礎を学ぶことを通じて、社会学の基本的な考え方とキーワードを理解することです。また、相互依存のネットワークにおける人間という発想と自律という価値との関係について考察し、その価値を実現するための社会的条件について反省的に理解することをめざします。

到達目標

① 取り扱うトピックに関して、社会学の基礎的なキーワードを適切に使用して論述ができる。
② 社会学の基本的な発想法を理解し、社会現象の原因や結果を多面的に考察することができる。
③ 社会学が探究してきた、自律の社会的条件について説明できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス 社会学のねらいと研究の手順
2週　社会学の発想(1)社会的ジレンマから考える
3週　社会学の発想(2)他者の意味世界を理解する
4週　社会学の発想(3)意図せざる結果に注目する
5週　社会学の発想(4)社会環境から説明する
6週　自律の条件(1)交換理論から考える
7週　自律の条件(2)模倣説から考える
8週　自律の条件(3)役割セット論から考える
9週　権威主義の社会学　自由からの逃走
10週　感情の社会学　なぜ感情管理が求められるのか
11週　演技と儀礼の社会学　観光みやげから考える
12週　都市と飢餓の社会学　都市はなぜ飢えないのか
13週　都市と権力の社会学　反都市主義のゆくえ
14週　経済の社会学　産業と経済の社会的埋め込み
15週　振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

定期試験60%、各回授業終了後にclassroomで課すミニ課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

森下伸也(著)『社会学がわかる事典』 日本実業出版社、櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功(編著)『アンビシャス社会学』 北海道大学出版会

クラスコード

4ryeu7r

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習＝授業の最後に次回の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。
復習＝classroom上で課題に取り組む。また、前回の課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。
2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回のミニ課題についてはclassroom上でフィードバックするとともに、次回の授業時に解説を加えて復習します。

授業科目	文章構成法	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	上戸　理恵	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1021

授業概要

レポートや論文を書くために必要な表現力を実践的な練習を通して学ぶ。論理的な文章に必要な事柄を確認した上で、それを用いて実際に文章を書いてみるという練習を反復することで、表現力の向上を目指す。

到達目標

① 文書作成に必要な基本的な語彙・表現を習得している。
② 文書作成に関する基本的な約束事を理解し、それを活用して論理的な文章を書くことができる。
③ 他者の意見を前提としながら、自分の意見を論理的に展開できる。また、資料やデータを適切に引用しながら、自分の意見を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル:コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス(授業の概要、評価方法、注意事項等)
2週　情報の整理① わかりやすい説明のために
3週　情報の整理② 階層化とツリー構造
4週　情報の整理③ 列挙方式
5週　意見文を書く① 要約と間接引用
6週　意見文を書く② 要約と意見
7週　意見文を書く③ 体験と報告① 中間レポート
8週　意見文を書く④ 体験と報告② 中間レポートのフィードバック
9週　意見文を書く⑤ 四部構成① 譲歩・逆説構文の基礎
10週　意見文を書く⑥ 四部構成② 譲歩・逆説構文の応用
11週　資料の活用① 引用のルール① 形式
12週　資料の活用② 引用のルール② 自分の意見と関連付ける
13週　資料の活用③ 社会的な問題を考える
14週　資料の活用④ 社会的意味を考える
15週　授業内試験(レポート試験)とまとめ

成績評価方法・基準

中間レポート・最終レポート60%、授業時の課題等40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』(新曜社、2013年)、

クラスコード

aクラス　gwvdt3j　bクラス　5um7sca

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

配付した資料を授業前および授業終了後に精読すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

意欲的な受講態度を期待します。

授業科目	文書実務(Word)	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1021

授業概要

この科目は文書作成ソフトWordの使用技術の習得を通して、日常生活やビジネスシーン、アカデミックライティングなど、多様な文書の作成技術の習得をめざす。Wordは文書作成はもとより、表作成やグラフィックなど多彩な機能を有する。授業では、実際に「調べて」、「考えながら」さまざまな文書を作成することに主眼を置き、Wordの機能を活用できることと、多様な文書作成のスキルを習得することを目標とする。
授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。

到達目標

① 書くより早く正確に入力し、文書を編集することができる。
② 案内文書を考えながら作成、編集することができる。
③ 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル:コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス(授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート)
2週	Windows基本操作　タイピング練習(ブラインドタッチ)
3週	MS-IMEと文字入力　文字の訂正
4週	文書の編集
5週	表の作成
6週	表の作成の応用
7週	図形機能と画像挿入
8週	特殊文字(ワードアート)と編集機能応用(行間変更、ドロップキャップなど)
9週	レポート・論文などで必要な様々な機能(ページ番号挿入、セクション区切りなど)
10週	パソコンメールのマナーと形式　PDFファイル変換など
11週	練習課題作成①
12週	練習課題作成②
13週	練習課題作成③
14週	練習課題作成④
15週	試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験(到達度テスト)40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

日本情報処理検定協会発行「文書デザイン検定試験 模擬問題集(2級)」
※授業途中で購入について説明あり

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス:u3vke5g　bクラス:zkncbjz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、企業でのPC業務などの実務経験を有する教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。入力速度をあげるため、タイピング練習(ブラインドタッチ)を継続練習する。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅳ群に該当しています。

授業科目	情報処理演習A（Excel）	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1031

授業概要

コンピュータ操作に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、データ処理や分析のための道具として使う表計算ソフト（Excel）を操作できる基本的知識を習得する。データの収集方法や収集したデータの加工方法、分析方法、その解釈に関する基礎的技能を身につける。

到達目標

① 表計算ソフト（Excel）の基本操作ができる。
② 表計算ソフト（Excel）を利用した、データの集計・整理・加工を行うことができる

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価、Excelの概要 【Excelの操作の復習】
2週	基本操作① データの入力、表の保存・呼出し、表の作成、書式設定 【入力、表作成の復習課題】
3週	基本操作② 印刷、表示、シートの操作 【Excelの操作の復習】
4週	基本操作③ 計算式、基本的な関数（合計、平均、最大、最少、四捨五入など） 【基本的な関数の使用に関する課題】
5週	基本操作④ グラフの作成、グラフの設定の変更 【グラフの作成の課題】
6週	関数① 絶対参照、相対参照 【関数の使用に関する課題】
7週	関数② COUNTA関数、IF関数、COUNTIF関数、SUMIF関数 【関数の使用に関する課題】
8週	関数③ 統計に関する基本的な関数 【関数の使用に関する課題】
9週	基本操作と関数の振り返りと授業内試験（到達度テスト） 【振り返り】
10週	データの集計と整理① 集計と並び替え 【データの集計と並び替えの復習】
11週	データの集計と整理② フィルター、条件付き書式設定 【フィルターの利用に関する課題】
12週	データの集計と整理③ VLOOKUP関数、HLOOKUP関数 【関数の使用に関する課題】
13週	データの集計と整理④ データベース関数 【関数の使用に関する課題】
14週	データの集計と整理⑤ ピボットテーブル 【ピボットテーブルの使用に関する課題】
15週	データの集計と整理の振り返りと授業内試験（到達度テスト）、全体のまとめ 【振り返り】

成績評価方法・基準

授業内試験（到達度テスト）40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算（第4版）』　発行：日経BP社　発売：日経BPマーケティング

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス：bhdqyb　bクラス：j3pyxnd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための社会調査実務関係の情報処理演習に該当しています。

授業科目	基礎演習Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌、石川　希美、和田　佳子、 仙波　希望、上戸　理恵	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1001

授業概要	レポート・論文の書き方を説明したテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容をレジュメにまとめる方法を実践的に学ぶ。また、レジュメをもとにしてテキストの内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。さらに、ビブリオバトルや新聞等を活用し、特定の話題について自分の意見を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力を養う。なお、2時間目は、履修指導・個別指導の他、フィールドワーク報告会の準備や課題学習等を行う。
到達目標	① テキストで説明されているレポート・論文の書き方の内容を理解し、要約できる。 ② ポイントを押さえてテキストの内容をまとめ、他者に説明できる。 ③ 特定の話題について自分の意見を述べることができる。 ④ 自ら課題を設定し、主体的に学習することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。

授業計画			
	1週	オリエンテーション（授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項）	／履修指導①
	2週	第1日「大学生のお作法」	／履修指導②
	3週	第2日「書き方の基本」	／リメディアル教育Ⅰ-① 個別指導及び補習
	4週	第3日「最低限のルール」	／リメディアル教育Ⅰ-② 個別指導及び補習
	5週	ビブリオバトル① ブックハント、学外活動	
	6週	☆第7章私たちはメディアをどう使う？	／リメディアル教育Ⅰ-③ 個別指導及び補習
	7週	第4日「具体的な書き方」	／フィールドワーク説明会
	8週	第5日「より良いものを書くための方法」	／フィールドワーク希望調査①
	9週	ビブリオバトル② 予選	／フィールドワーク希望調査②
	10週	ビブリオバトル③ 本選、合同ゼミ	
	11週	ブックレポートの作成	／フィールドワークチーム作り
	12週	ブックレポートの講評と振り返り	／リメディアル教育Ⅱ-① 個別指導及び補習
	13週	☆第4章地域社会はだれが作る？	／リメディアル教育Ⅱ-② 個別指導及び補習
	14週	☆第6章文化って何？	／リメディアル教育Ⅱ-③ 個別指導及び補習
	15週	到達度確認とまとめ	

成績評価方法・基準	授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%
教科書ソフト等	工藤・大山・笠井（編）『基礎ゼミ社会学』世界思想社、2017年 菅野仁『友だち幻想　人と人の＜つながり＞を考える』ちくまプリマー新書、2008年 小川仁志『5日で学べて一生使える！レポート・論文の教科書』ちくまプリマー新書、2018年
参考書等	なし。授業内で指示する。
クラスコード	llphuvs　※全員用　担当者別のクラスルームは別途指示します。
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前は、必ず教科書の該当ページを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の補習の際には、自ら課題を見つけ、主体的に学習すること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	基礎演習Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌、石川　希美、和田　佳子、 仙波　希望、上戸　理恵	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1002

授業概要

思考法・発想法を説明したテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容を要約する方法を実践的に学ぶ。また、要約を踏まえてレジュメを作成し、その内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。さらに、新聞等を活用し、社会的な課題への関心を広げることも行う。

到達目標

① テキストで説明されている思考法の内容を理解し、要約できる。
② ポイントを押さえてテキストの内容をレジュメにまとめ、他者に説明できる。
③ テキストで取り上げられている話題について自分の意見を述べ、他者と議論することができる。
④ 報告会の準備のために他者と協働して作業することができる。
⑤ 自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項）	／履修指導
2週	第1章「人は一人では生きられない？」	／フィールドワーク報告会の準備①
3週	第2章「幸せも苦しみも他者がもたらす」	／フィールドワーク報告会の準備②
4週	第3章「共同性の幻想」	／フィールドワーク報告会の準備③
5週	☆第1章自分と他人の関係ってどんなもの？	／フィールドワーク報告会の準備④
6週	フィールドワーク報告会（合同ゼミ）	
7週	前半のまとめ	／課題学習①
8週	第4章「「ルール関係」と「フィーリング共有関係」」	／課題学習②
9週	第5章「熱心さゆえの教育幻想」	／課題学習③
10週	第6章「家族との関係と、大人になること」	／課題学習④
11週	☆第2章家族ってどんな社会？	／課題学習⑤
12週	第7章「「傷つきやすい私」と友だち幻想」	／課題学習⑥
13週	第8章「言葉によって自分を作り変える」	／課題学習⑦
14週	☆第10章格差がなくならないのはなぜ？	／課題学習⑧
15週	まとめ	

成績評価方法・基準

授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

工藤・大山・笠井（編）『基礎ゼミ社会学』世界思想社、2017年
菅野仁『友だち幻想　人と人の＜つながり＞を考える』ちくまプリマー新書、2008年
小川仁志『5日で学べて一生使える！レポート・論文の教科書』ちくまプリマー新書、2018年

参考書等

なし。授業内で指示する。

クラスコード

llphuvs　※全員用　担当者別のクラスルームは別途指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず教科書の該当ページを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習の際には、主体的に学習すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	地域実践	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	丸山　宏昌、和田　佳子、石川　希美、 津幡　笑、仙波　希望、上戸　理恵	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 1912

授業概要	地域社会におけるボランティア活動に参加することにより、「社会問題入門」（ボランティア論）で学んだ理論に対する理解を深める。また、ボランティア活動を通して、地域社会の抱える課題やボランティア活動そのものの課題について理解し、他者と話し合いながらその原因について考え、その解決策の提案を試みる。なお、本授業は外部団体との連携にもとづくアクティブ・ラーニングの形式を取り入れる。
到達目標	本授業を通して、受講者は以下の項目を満たすことができる。 ① ボランティア活動への参加を通じて、ボランティア論への理解を深め、他者に説明することができる。 ② ボランティア活動で求められる知識・態度・スキルを身につける。 ③ 他者と協力し与えられた課題をこなすための資質を高める。
学科のディプロマ・ポリシー	3 課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
授業計画	1．前期開講科目「社会問題入門」（ボランティア論）の中で、具体的なボランティア先の選択方法およびボランティア実践に当たっての研究課題等について説明する。 ボランティア実習先は、あらかじめ用意した老人福祉施設、公共施設、児童福祉施設などのほか、受講者が希望する実習先があれば、担当教員と受け入れ先および学生との話し合いを経て、受け入れ条件等を精査した上で、実習先として認める場合もある。 2．本科目は実践科目のため、30時間の実習時間をもって1単位と認定する。 おおよその目安は、1日6時間で4日間の実習期間に事前準備と事後報告の時間を加えたものとする。 3．実習には、エントリーシートの作成、実習先との具体的な打ち合わせ等の準備と実習終了後の報告（口頭による報告会とレポートの提出）を含むこととする。 ［留意事項］ コロナウイルス感染状況等により、ボランティアが実施できない場合には、レポート提出等により代替することもある。
成績評価方法・基準	実習への準備および事後報告の取り組み状況50%、実習終了後のレポートおよび口頭発表30%（口頭でフィードバックします）、受け入れ先事業所からの評価表20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	2iw2t47
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	実習時間以外に、レポート作成、口頭発表準備、実習先との打ち合わせ等の作業が必要である。予め設定された期限等をしっかり守って行動すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	本授業は、大学だけではなく学部の企業やNPO組織などの団体との連携によって展開されている。したがって、受け入れ先での受講生の行動は、すべて大学と受け入れ先との信頼関係に大きな影響を及ぼすことになる。そのことをしっかりと踏まえた上で、主体的で責任ある行動をとること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む授業です。

授業科目	医学概論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	眞岡 知央	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1501

授業概要

近年医学・医療の進歩・発展は著しく、専門分化がより進み、様々な職種の人々が医療に携わるようになってきています。そのため医学・医療の全体像を完全に把握することは困難になってきていますが、多くの医療関係者がもつ共通認識や、現代医療における問題点などを理解することを目標に、身近な事例なども踏まえながら皆さんと一緒に考察して行きます。

到達目標

① 医学・医療全般に対するイメージをそれぞれ持つことができる。
② 実際の医療と向き合ったとき、考え方の基礎となる知識を身につける。
③ 現代医療における問題点について意識することができ、それらを改善して行くためにはどうしたら良いか、考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	身体におけるホメオスターシス
2週	循環・呼吸器系の形態と機能
3週	消化器系の形態と機能、栄養と代謝
4週	生体の防衛機構
5週	生活習慣病
6週	タバコの害
7週	アルコールの功罪
8週	ストレス
9週	日本の医療制度①
10週	日本の医療制度②
11週	全人的医療とチーム医療
12週	少子高齢化社会が抱える問題
13週	地域医療、救急医療、医療安全など
14週	ターミナル医療
15週	全体のまとめ、フィードバック等

成績評価方法・基準

毎回の授業内で行う小テストの合計点が、全講義終了時点で総点数の6割以上で合格。

教科書ソフト等

なし。授業内でノート（解説文）付きのスライドを共有します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

22cuzyn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、医療現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前には、興味のある分野についてインターネットや書籍で情報を集めるなどしてみてください。授業後は、疑問点を明確にし、箇条書きにするなどして整理し、次回授業後に質問してみてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式で行いますが、フォームやメールからの質問を受け付けます。授業内に前回の授業で実施した小テストのフィードバックを行います。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	障がい児教育	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	今井　常晶	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1401

授業概要	障害に対する基本的知識や正しい理解を習得し、障害児を取り巻く支援体制について理解する。
到達目標	障害に対する基本的知識やその支援体制について説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　特別支援教育の現状 3週　視覚障害の理解 4週　聴覚障害の理解 5週　知的障害の理解 6週　言語障害の理解 7週　肢体不自由の理解 8週　重症心身障害の理解 9週　自閉症スペクラム（ASD）の理解 10週　注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解 11週　学習障害（LD）の理解 12週　病気療養の理解 13週　障害の発見－乳幼児検診の実際－ 14週　発達障害とは 15週　まとめと授業内試験（筆記）
成績評価方法・基準	授業内試験（筆記）80%、平常点20%（感染状況の拡大次第で、レポート課題となることがある）
教科書ソフト等	なし。授業内で毎回資料を配付します。
参考書等	『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』東京学芸大学特別支援科学講座編　日本文化科学社
クラスコード	n5zg2sb
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は発達障害児への発達支援の実務経験のある教員が実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	前回までの授業内容や資料をしっかり復習し、質問されても答えられるようにしておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	新聞等に掲載される障害に関する記事を読んでおくことが望ましい。 授業内試験について問い合わせがあれば、模範解答について開示する。

授業科目	数学Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	中西　勝範	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO_CE 1911

授業概要

社会人として必要な基礎力の中で、論理的思考力や数的処理能力等を高め、課題解決能力を身に付けます。授業の進め方は次のとおりです。
① 導入: 基本的な概念・原理・法則を理解します。事象を数学的に考察し、表現する方法を確認します。
② 展開: グループ・ワークにより、課題解決に取り組み、その結果をプレゼンテーションします。各グループのプレゼンテーションを相互評価します。
③ まとめ: 小テスト、自己評価を行います。

到達目標

① 自ら課題を発見し、解決するための構想を立て、考察することができる。
② 数量の関係を式や図で表現し、的確に処理できる。
③ 論理的に考え抜いて、課題を解決することができる。
④ 自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを伝え合うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 3 課題発見・社会貢献性:現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
美術学科 3 課題発見・社会貢献性:現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
地域社会学科 3 課題発見・社会貢献性:調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション(授業概要、成績評価方法等)、外延量と内包量(内包量の性質等)
2週　割合と比の計算(m:nの意味、全体を100とした場合の部分の表し方)
3週　方程式Ⅰ(未知数、1次方程式とその解き方、連立方程式とその解き方)
4週　方程式Ⅱ(速度・距離・時間)
5週　料金計算(支払い総額と基本料金・割引料金、総額と1人当たりの負担額)
6週　損益算(定価＝仕入れ値＋利益、売値＝定価―値引き額、利益の積み上げ方式)
7週　仕事算(全体を1とした場合の部分の表し方、1日の仕事量と終了までの日数)
8週　分割払い(総額を1とした場合の分割払いの表し方、1回の支払金額と残金)
9週　集合(ベン図による表記、共通部分、和集合、補集合)
10週　場合の数・順列(場合の数、和の法則、積の法則、順列)
11週　組合せ(順列と組合せの違い)
12週　確率Ⅰ(事象と確率、積事象、独立な試行の確率)
13週　確率Ⅱ(和事象、排反事象、余事象)
14週　授業の到達目標の達成度の確認(総合演習)
15週　授業の到達目標の達成度の再確認(弱点克服)、学期末試験

成績評価方法・基準

平常点(グループ・ワークへの取組、相互評価、自己評価、小テスト、課題レポート等)30%、定期試験70%
なお、小テストと課題レポートについては、授業の中でフィードバックを行います　。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

数学Ⅰa・・・jyccttz、数学Ⅰb・・・cqji3ju

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

北海道教育委員会指導主事として数学担当教諭の研修事業に携わった経験を有する教員が、実務経験に基づき、数学の基礎・基本について講義を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

配付資料を必ず予習して授業に臨んでください。課題レポートに取り組み、既習事項の復習を繰り返し行ってください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題意識を持って能動的に学修に取り組んでください。プレゼンやグループ・ワークなどに積極的に参加し、発信力、傾聴力、柔軟性を高めてください。相互評価、自己評価を適切に行ってください。課題レポートを次の授業の最初に提出してください。

授業科目	数学Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	中西　勝範	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO_CE 1912

授業概要

社会人として必要な基礎力の中で、論理的思考力や数的処理能力等を高め、課題解決能力を身に付けます。授業の進め方は次のとおりです。
① 導入: 基本的な概念・原理・法則を理解します。事象を数学的に考察し、表現する方法を確認します。
② 展開: グループ・ワークにより、課題解決に取り組み、その結果をプレゼンテーションします。各グループのプレゼンテーションを相互評価します。
③ まとめ: 小テスト、自己評価を行います。

到達目標

① 自ら課題を発見し、解決するための構想を立て、考察することができる。
② 数量の関係を式や図で表現し、的確に処理できる。
③ 論理的に考え抜いて、課題を解決することができる。
④ 自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを伝え合うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 3 課題発見・社会貢献性:現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
美術学科 3 課題発見・社会貢献性:現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
地域社会学科 3 課題発見・社会貢献性:調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション(授業概要、成績評価方法等)、図形と方程式Ⅰ(関数、変化の割合、関数とグラフ(直線、放物線))
2週	図形と方程式Ⅱ(放物線、円、図形から方程式へ)
3週	不等式の表す領域Ⅰ(直線・放物線の上方・下方、円の内部・外部、連立不等式)
4週	不等式の表す領域Ⅱ(領域における最大・最小)
5週	表の読みとり(全体を100または1，000とした場合の部分の表し方)
6週	ブラックボックス(入力と出力、関数表記)
7週	推論Ⅰ(正しいかどうかの判定、順序(順位)付け)
8週	推論Ⅱ(内訳の判定、内包量)
9週	ものの流れと比率(1か所から1か所、2か所から1か所、経由地の通過)
10週	論証(命題と集合、逆・裏・対偶、三段論法)
11週	立体図形(体積、表面積、展開図、断面図)
12週	n進法(n進法の表現と計算)
13週	授業の到達目標の達成度の確認Ⅰ(総合演習Ⅰ)
14週	授業の到達目標の達成度の確認Ⅱ(総合演習Ⅱ)
15週	授業の到達目標の達成度の再確認(弱点克服)、学期末試験

成績評価方法・基準

平常点(グループ・ワークへの取組、相互評価、自己評価、小テスト、課題レポート等)30%、定期試験70%
なお、小テストと課題レポートについては、授業の中でフィードバックを行います。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

vqze4bc

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

北海道教育委員会指導主事として数学担当教諭の研修事業に携わった経験を有する教員が、実務経験に基づき、数学の基礎・基本について講義を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

配付資料を必ず予習して授業に臨んでください。課題レポートに取り組み、既習事項の復習を繰り返し行ってください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題意識を持って能動的に学修に取り組んでください。プレゼンやグループ・ワークなどに積極的に参加し、発信力、傾聴力、柔軟性を高めてください。相互評価、自己評価を適切に行ってください。課題レポートを次の授業の最初に提出してください。

授業科目	哲学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	大小田　重夫	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1101

授業概要	「哲学的に考える」とは、どういうことなのか。「知る」とはどういうことか。心と身体は別のものか、芸術とは何か、など西洋哲学の基本問題について考えることで、一人ひとりが哲学的思考を実践できるようになってもらいたい。
到達目標	1. 哲学の代表的な問題について知る。 2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。 3. 考えたことを論理的に文章化できるようにする。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画	
1週	哲学とは何か　哲学のはじまり
2週	西洋哲学の歴史（1） 合理主義哲学の歴史
3週	西洋哲学の歴史（2） イギリス経験論哲学とその言語観
4週	言葉と意味　 現代哲学における言語論的転回について
5週	言葉と行為　 言語行為論
6週	「心」とは何か　心身問題について
7週	「時間」とは何か　アリストテレス、アウグスチヌス、ベルクソンの時間論
8週	「時間」と自由　自由であるとはどういうことか
9週	「私」とは何か　＜私＞が＜私＞であるとはどういうことなのか
10週	「他者」とは何か　私たちにとって＜他者＞とはどのような存在か
11週	「行為」とは何か　カントの倫理学
12週	「美」とは何か　カント哲学における「美」について
13週	「芸術」とは何か　近代美学の成立について
14週	テクノロジーの時代の哲学（1） フランクフルト学派とコミュニケーション的理性
15週	テクノロジーの時代の哲学（2） ハンス・ヨナスの哲学

成績評価方法・基準	定期試験 40%、平常点（課題提出及び小テスト）60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	参考図書を授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。
クラスコード	necwyvy
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけ読んでみること。 複数回実施する少テストに備えてノート、配布資料を見直し復習すること。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	オンデマンド形式のビデオ学習の講義になります。各講義ごとに課題を提出します。受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	日本国憲法(大学)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤　信行	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1301

授業概要

日本国憲法の基本原則や内容について、基礎的な知識を習得する。おもに、基本的人権、国民主権、平和主義の分野を中心として、具体的な裁判例などを取り上げながら、憲法学上の考察を加える。基本的に教科書の流れに沿って授業を進めるが、教科書に入る前に、まずはじめに法学の基礎や近代憲法の歴史などを学ぶ。また、必要に応じて、民法、刑法、国際法などの関連法分野にも触れる。

到達目標

①国の基本法である憲法の意義と内容を、具体的な問題と関連付けて理解することができる。
②現実のさまざまな社会問題を憲法の観点から考えることができる。
③法律学的な思考方法に触れ、社会人として不可欠な法的常識やものの考え方を身に着けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
美術学科 4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
地域社会学科 4 知識活用:社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス、法学の基礎
2週　憲法の意味、憲法の歴史、日本国憲法の基本原則と基本構造
3週　基本的人権総論、子どもの人権
4週　国籍、外国人の人権
5週　幸福追求権
6週　法の下の平等
7週　信教の自由、表現の自由の意義
8週　表現の規制、経済的自由
9週　生存権、教育権
10週　適正手続きの保障・死刑制度
11週　象徴天皇制と国民主権
12週　平和主義:　戦争の放棄
13週　国会と内閣
14週　裁判所:司法制度
15週　まとめ

成績評価方法・基準

授業内試験(毎回の授業で実施)100%

教科書ソフト等

初宿正典ほか『いちばんやさしい憲法入門(第6版)』(有斐閣)

参考書等

初宿正典ほか編著『目で見る憲法(第5版)』(有斐閣)、中村睦男編著『はじめての憲法学(第4版)』(三省堂)

クラスコード

neourxi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

1. 日頃から新聞等に目を通し、憲法問題と関わりがありそうな記事に留意すること。 2. 予習:　事前に配信される講義レジュメを参照しつつ教科書の関連部分を読み、授業でかなる問題が取り上げられるかを考えるとともに、分からない言葉や論理について調べておくこと。 3. 復習:　授業内容を思い出し、なにが問題か、なにが重要か、なにが分かないか、を整理してメモを作成する。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

講義レジュメや音声(または映像)資料の配布、フィードバックなどはすべてGoogle Classroom上で行います。
オンデマンド授業となりますが、毎週コンスタントに勉強するようにしてください。とくに、毎回の授業で示される簡単な課題または小テストをその日のうちに提出しなければ欠席扱となりますので、注意してください。

授業計画の第13週～第15週の内容は、それまでの授業の進行具合に応じて変更されるかもしれません。この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	臨床医学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤　静恵	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1301

授業概要

音楽療法に必要な医学知識、特に脳機能については、胎児期からの発達並びに発達障害・加齢・疾病による変化・精神疾患について概説する。
① 正常な人体の構造や機能を系統的に理解し、音楽療法の対象となる障害の臨床症状に関する知識、診断方法の理解。
② 乳幼児期から老年期にかけて、こころの生涯発達特性について学び、治療・社会復帰、療育について学習。
③ 障害を有する対象への理解を深めて、暖かい共生社会を模索する姿勢と地域社会での支援活動を援助することが可能になるような基礎知識の習得。

到達目標

音楽療法士試験の過去の問題を理解し、適切な解答が導き出せる知識を習得する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
美術学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
地域社会学科 4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	人の身体・精神の成長・発達　遺伝障害（色覚障害／ビジョン）　胎芽病・胎児病　視覚認知の評価
2週	知的障害／発達障害／脳性まひ／筋ジストロフィー／二分脊椎・てんかん
3週	加齢・老化（含：廃用症候群）疾病の分類 がん対策
4週	高血圧症・動脈硬化・糖尿病　脂質異常症　高尿酸血症／肥満症／メタボリックシンドローム
5週	脳血管疾患（脳出血・クモ膜下出血・脳梗塞）虚血性心疾患
6週	神経疾患と難病対策　ALS／脊髄小脳変性症／多発性硬化症／パーキンソン病
7週	運動器疾患：骨折／変形性関節症／脊椎管狭窄症／椎間板ヘルニア／頚椎症／など
8週	感染症／感染症対策　呼吸器疾患
9週	消化器疾患　血液・自己免疫疾患・腎／泌尿器疾患
10週	障害の概要（視覚障害・聴覚障害（聴覚情報処理障害含む）平衡機能障害）　脊髄損傷　切断
11週	基本動作障害・協調運動障害　学習障害　ディスレキシア
12週	運動麻痺・歩行障害・失語症・メンタルヘルス・若者の心の病）
13週	高次脳機能障害　記憶障害（健忘症候群）認知症(ユマニチュード含む）
14週	メンタルヘルス・若者の心の病・精神疾患の分類と診断（ICD-11とDSM5）神経症
15週	こころのケア　精神保健福祉対策　習熟度確認試験

成績評価方法・基準

受講確認課題の提出60%、学期末試験40%

教科書ソフト等

教科書は使いません。授業前に資料をクラスルームにｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞします。受講終了時のﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰの提出と受講確認課題（復習として講義に関連したﾄﾋﾟｯｸｽなどの資料を提示しますので考察して理解を深める）の提出で出席とします。

参考書等

『リハビリテーションビジュアルブック』(Gakken・秀潤社)『人体の構造と機能及び疾病』(ミネルヴァ書房・中央法規)『基礎から学ぶリハビリテーションと音楽療法』(笠井史人）感覚統合を活かして子どもを伸ばす!音楽療法(明治図書)目からウロコの音楽活動(三輪書店)『脳の働きと心の関係／音楽の精神心理学（医学書院）/新しい介護（講談社）　脳と心の話』(高草木薫）医学的音楽療法(北大路書房)

クラスコード

4ngt7bn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、医療現場に携わる実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

示しますので考察して理解を深める）の提出で出席とします。講義に関連したﾄﾋﾟｯｸに関連する資料やHP等を紹介し、受講確認課題の提出を課します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

原則、講義形式は対面で行います。状況によってリモート(Meet/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ)対応をします。ワークや身体活動も取り入れていきます。受講確認課題の提出で出席とします(提出期を過ぎてからの提出は減点します)。講義に関するに質問や相談を個別に受け付けます。人間の身体機能やご自身やご家族など周囲の方の健康についても関心を持ち受講してください。あなたが受講して耳にした知識が誰かの命を救い、人生を変えるかもしれないという意識をもって受講してください。

授業科目	児童心理学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	渡辺　舞	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1402

授業概要

この授業では、乳児期・幼児期・児童期・青年期を対象とし、教育現場や社会場面で出会う子どもの行動と心理を理解することを目的とします。

到達目標

① 各発達段階での子どもの発達について、心理学の基本的理論を理解し、概説することができる。
② 教育現場での事例や研究を心理学的に理解し、これらの知識を教育場面や日常生活への実践で応用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
美術学科 4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
地域社会学科 4 知識活用:社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション　児童心理学とは
2週　子どもの知覚
3週　子どもの認知
4週　子どもの思考と知能
5週　子どもの情緒と感情
6週　子どもの動機と動機づけ
7週　子どもの人間関係①　自己を知る過程
8週　子どもの人間関係②　他者のこころの理解する過程
9週　子どもの人間関係③　教育現場での人間関係
10週　児童期①　道徳性と思いやりの発達
11週　児童期②　仲間関係の発達
12週　青年期①　大人への「こころとからだ」の変化
13週　青年期②　アイデンティティの確立
14週　配慮を必要する子どもと家族への対応
15週　児童心理学のまとめと授業内試験

成績評価方法・基準

授業内試験70%、講義内で実施する課題・演習への取り組み30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

rpwkadq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習;授業内で配付した資料および指示した参考書を元に、専門用語を理解しておいてください。
復習;授業内で提示した課題について、講義終了後、自分の考えをまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

講義中心の科目ですが、演習や実験も講義内で取り入れていきますので、積極的な授業姿勢を望みます。出席課題は、毎回の授業で提出してもらうことで、評価の対象となります。講義内で実施する実験や出席課題の結果を次回の授業でフィードバックし子どもの理解を深めていきます。

授業科目	建学の精神と大谷学B	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	宮本　浩尊、出雲路　英淳	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1002

授業概要

この授業は、宮本と出雲路の2名の講師が講義を行います。「建学の精神と大谷学A」で学んだ内容を踏まえて、より詳しく仏教思想について学びます。
仏教は、時代と地域を超えて人類に大切なことを伝え続けてきました。この授業では、仏教の基本的な思想について復習した後で、どのようにアジア全域に拡大していったのかを学びます。

到達目標

① 仏教の基本的な思考法を知り、生活の中で活用することができる。
② 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。
③ 仏教文化における音楽の役割について知ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス（担当：宮本，オンライン）
2週　釈尊の生涯と思想①（担当：宮本，オンライン）
3週　釈尊の生涯と思想②（担当：宮本，オンライン）
4週　釈尊の生涯と思想③（担当：宮本，オンライン）
5週　根本分裂から部派仏教の時代（担当：宮本，オンライン）
6週　大乗仏教の思想①（担当：宮本，オンライン）
7週　大乗仏教の思想②（担当：宮本，オンライン）
8週　中国への仏教伝来（担当：宮本，オンライン）
9週　飛鳥時代から奈良時代の仏教（担当：宮本，オンライン）
10週　平安時代の仏教（担当：宮本，オンライン）
11週　親鸞聖人の仏教思想（担当：宮本，オンライン）
12週　仏教音楽の世界　読経・声明・讃歌（担当：出雲路，対面授業）
13週　音楽的視点より見る親鸞の教え（担当：出雲路，対面授業）
14週　まとめ（担当：宮本，オンライン）
15週　授業内試験（担当：宮本，オンライン）

成績評価方法・基準

平常点（出席・課題の提出等）50%、授業内試験50%

教科書ソフト等

なし。適宜、プリントやスライドで対応する。

参考書等

なし。適宜、授業内で指示する。

クラスコード

uc2v7gf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式と、対面方式のハイブリッド型で実施します。

授業科目	文書実務(Word)	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	常見 裕子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1021

授業概要

この科目は文書作成ソフトWordの使用技術の習得を通して、日常生活やビジネスシーン、アカデミックライティングなど、多様な文書の作成技術の習得をめざす。Wordは文書作成はもとより、表作成やグラフィックなど多彩な機能を有する。授業では、実際に「調べて」、「考えながら」さまざまな文書を作成することに主眼を置き、Wordの機能を活用できることと、多様な文書作成のスキルを習得することを目標とする。
授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。

到達目標

① 書くより早く正確に入力し、文書を編集することができる。
② プログラム、案内文書などを考えながら作成、編集することができる。
③ 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週 ガイダンス(授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート) タイピングの基本
2週 Windows基本操作 Google Driveの使用方法 タイピング練習(ブラインドタッチ)
3週 MS-IMEと文字入力 文字の訂正と編集
4週 ビジネス文書の作成 ビジネス文書の基本構成とレイアウトについて
5週 表の作成
6週 表入りビジネス文書の作成 ページレイアウト設定について
7週 図形機能と画像挿入
8週 レポート・論文などで必要な様々な機能(ページ番号挿入、セクション区切りなど)著作権と引用
9週 パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など
10週 練習課題作成①
11週 練習課題作成② 特殊文字(ワードアート)と編集機能応用(行間変更、ドロップキャップなど)
12週 練習課題作成③
13週 練習課題作成④
14週 練習課題作成⑤
15週 試験とまとめ

成績評価方法・基準

課題提出70%、学期末試験30%
課題の提出・返却に、Classroomを使用する。課題の評価結果は、Classroomにより知らせる。

教科書ソフト等

日本情報処理検定協会発行「文書デザイン検定試験 模擬問題集」
※授業開始後、レベルにあわせ級を決定後問題集購入

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス：7kngsuc bクラス：qcytwv2 cクラス：tv5drxr dクラス：7yo4wj6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、企業でのPC業務などの実務経験を有する教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。入力速度をあげるため、タイピング練習(ブラインドタッチ)を継続練習する。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

特に予備知識はありません。タイピング練習(ブラインドタッチ、テンキーを含む)を継続練習してください。

授業科目	情報処理演習A（Excel）	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	常見　裕子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1031

授業概要

実社会での需要が多い「Microsoft Excel」。このソフトの基本操作から応用までを実社会での使用例や実践テクニックをもりこみながら学習する。
Excelを活用しながら様々な数値の求め方、データの加工方法などを理解する。
授業終了後、学内で実施する「情報処理技能検定（表計算）」を受験することができる。

到達目標

① Excelの基本操作を理解し、計算式（関数含む）などを入力した表を作成することができる。
② データベース機能を理解し、必要なデータを抽出・集計することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	ガイダンス　授業のねらいと進め方、ExcelK本操作・四則演算
2週	表の作成と書式設定
3週	関数Ⅰ（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNTなど）
4週	連続データ作成　コピーと貼り付けオプション
5週	行列の編集（行列の挿入と削除、行列幅の変更）
6週	絶対参照と相対参照
7週	関数Ⅱ（IF・ROUND・INTなど）
8週	グラフの作成
9週	データベース機能（並べ替え・抽出）
10週	関数Ⅲ（RANK.EQ・VLOOKUPなど）
11週	関数Ⅳ（IFの応用・データベース関数など）
12週	応用練習　実務練習①
13週	応用練習　実務練習②
14週	応用練習　実務練習③
15週	試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験（到達度テスト）30%、課題提出70%
課題の提出・返却に、Classroomを使用する。課題の評価結果は、Classroomにより知らせる。

教科書ソフト等

『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第4版）』　発行：日経BP社　発売：日経BPマーケティング

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス：npthvk2　bクラス：mksma5y　cクラス：6f3qx3k　dクラス：e4lb6vg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、企業でのPC業務などの実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は講義内で学習した内容を繰り返し練習・確認すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

特に予備知識はありません。タイピング練習（ブラインドタッチ、テンキーを含む）を継続練習してください。

授業科目	文書作成法	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　千春	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1051

授業概要

① 実際に文章を書くことを通して、文字言語における表現能力の向上を図る。
② 文末表現や接続の仕方、レトリックの工夫などの技術の習得と、論理的に文章を作成する方法を身につける。

到達目標

① 不適切な文章の修正を通して、課題を発見しつつ適切な表現方法を身につける。
② 文章の種類の具体例と書き方を理解し、目的や相手を意識した文書や文章を書くことができる。
③ 小論文等の論理的思考力、手紙等の自己表現力が育つ効果的な文章を書くことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス、文体…話し言葉と書き言葉
2週　悪文や誤った日本語の使い方の修正練習
3週　手紙や葉書等の書式に基づいた実用的な文章…お礼状を書く（提出１）
4週　文章の要約練習…箇条書きから文章へ、案内状を書く
5週　レジュメ、レポート、論文の違い、スケジューリングについて
6週　新聞記事を読んで、感想を書く（提出2）
7週　課題文を読んで自分の意見を書く（提出3）
8週　異なる主張を読んで、自分の主張を論理的に書く①
9週　異なる主張を読んで、自分の主張を論理的に書く②（提出4）
10週　ブックレポートを書く①　ブックレポートとは何か。本の指定。
11週　ブックレポートを書く②　レポートの構成・内容の要約
12週　ブックレポートを書く③　考察の書き方
13週　ブックレポートを書く④　校正・完成提出（提出5）
14週　テーマを決めて主張文を書く①　興味のあるテーマを社会の中から見つけ、構想を練る
15週　テーマを決めて主張文を書く②　主張したいことをはっきりさせ、論理的に書く（課題レポート）

成績評価方法・基準

提出物（１－５）50%、課題レポート40%、参加態度10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5moifhk

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

開講中、1冊は新書を読むようにしましょう。日常的に新聞記事を読むように心がけましょう。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際に文章の書き方の基礎・基本を学ぶ授業ですので、積極的な授業参加を期待しています。国語辞典を用意してください。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	口語表現法	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石橋　宜子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1052

授業概要

自分の意思を相手に伝えることの大切さを知り、確かに伝えるためには何が必要かを考えます。発声練習、言葉づかい、スピーチ構成など、表現のポイントを学びながら、実際の発表の中で、伝えることの大切さ、難しさを実感し、表現力を身につけていきます。自分の発表をふりかえること、また、仲間の発表を聴き、分析することで上達につなげます。

到達目標

① 「伝える」ことを目的に聞き手を意識して話すことができる。
② 聞き手に届き、聞き取りやすい発音を心がけることができる。
③ 構成を考えて、分かりやすく伝えることができる。
以上の力を、学内外の発表・コミュニケーションや就職活動などで積極的に活用できることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	口語（話し言葉）とは　印象の重要性　人間関係を築く あいさつの言葉
2週	パブリックスピーキングとは　呼吸法と発声の基本　スピーチの構成
3週	伝えること＆伝わること　～正しく伝わるための工夫、正しく受け取るための工夫
4週	スピーチ作成の手順　話材の集め方
5週	スピーチ発表Ⅰ　他者のスピーチを分析して評価する
6週	音声表現の技術　アクセントとイントネーション
7週	正しい日本語（敬語・言葉づかい）　スピーチを支えるパフォーマンス
8週	具体的表現で伝える　読んで伝える（ニュースなど原稿読み）
9週	スピーチ発表Ⅱ　他者の発表から学ぶ
10週	プレゼンテーションの組み立て　聴衆分析
11週	プレゼンテーション発表と他者評価
12週	自己PR　～就活に活かす口語表現
13週	古典朗読
14週	現代文朗読　司会のポイント
15週	授業内試験(実技)　自己評価・他者評価の提出　振り返り

成績評価方法・基準

講義内発表40%、授業内試験(実技)30%、提出物30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

dpdnmbo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

講師は放送局キャスター、司会等の実務を経験。現在は、話し方・プレゼンテーション・コミュニケーション等を指導しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

限られた発表回数の中で評価されます。発表前の準備を怠らないこと（準備シート作成・練習10回以上）。また発表後には自分のスピーチを振り返り、提出物を忘れないようにしてください。学んだ内容は授業の中にとどまらず、日常生活の中で活かすため次のことを日々心がけてください。①1日3分間の発声練習　②自分や周りの人の話し方（声や話の組立て）を意識してみる

90分程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

仲間の発表を聴き、適切なコメントをするのも口語表現を学ぶ重要なステップです。互いに刺激しあいながら上達しましょう。
課題の提出物はコメントを添えて返却します。次の課題や日常の口語表現に活かしてください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	健康スポーツ学A（体育理論）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	田口　夏美	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1511

授業概要	健康や体力の維持・増進、運動・スポーツを楽しむ環境整備とその価値を理解することは、生活を豊かに送るうえでとても大切です。 ① 体力の維持・増進 ② 身体を動かすこと（運動・スポーツ）の意味、および社会に与える影響の理解 ③ 発育発達とスポーツの関係の考察 を目的とし、さまざまな視点から運動・スポーツについて考えていく。
到達目標	① 「体力」の理解と、健康を維持・増進するとはどういうことかを理解できる。 ② 日々の生活の中における運動・スポーツ場面を考え、その意味や価値について考察し、自分なりの考えを持てるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。 美術学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。 地域社会学科 4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　ガイダンス　授業内容、方針、評価の説明など 2週　運動・スポーツと自分・社会・価値について考えよう 3週　運動・スポーツと健康・安全 4週　運動・スポーツと日常・生活 5週　運動・スポーツができるようになる過程を考える 6週　運動・スポーツと心理 7週　運動・スポーツとコーチング 8週　運動・スポーツと「感動」
成績評価方法・基準	自己評価カード50%、レポート25%、意欲・リーダーシップ25%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	rlxxaar
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業以外の時間でも積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をしてください（授業内で発表）。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	毎回の講義でその日のまとめのレポート提出を求めます。

授業科目	健康スポーツ学B（体育実技）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	田口　夏美、木村　彰浩	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1512

授業概要

身体活動の意味を理解し、健康維持や体力向上のための基礎知識を得ることを目標とする。有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチ、様々なスポーツなどをバランスよく組み込み、スポーツ活動や日常生活で求められる安全で効率のよい身体活動を身につける。

到達目標

① 日常生活における身体の使い方や姿勢に気づき運動によって心と身体の調子を整える。
② さまざまな運動の楽しみや喜び、合理的な運動のここちよさを体感する。
③ 生涯を通して運動に親しみ、仲間との協力関係作り、健康を守るための素地を作る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
美術学科 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
地域社会学科 4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）①
3週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）②
4週	ボールを使った運動（バルシューレ）①
5週	ボールを使った運動（バルシューレ）②
6週	卓球①
7週	卓球②
8週	バドミントン①
9週	バドミントン②
10週	ドッチボール①
11週	ドッチボール②
12週	バレーボール①
13週	バレーボール②
14週	バスケットボール①
15週	バスケットボール②

成績評価方法・基準

各週毎に記録する自己記録表の提出30%、全授業終了後に提出する課題レポート20%、個別課題への対応姿勢および集団課題における責任感と貢献度50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

前期：nctygp2　後期：5zpv62u

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、運動指導員として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業以外の時間でも、積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど、社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をする。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実技にふさわしい服装で参加（上靴・ジャージ）。実技を伴う教科なので前日の体調管理には十分気をつけ、規則正しい日常生活を心がけて欲しい。

授業科目	札幌大谷キャリア支援プログラム A、B、C、D－Ⅰ～Ⅷ	配当年次	配当外	必修選択	選択
		開講期	都度	講義形態	実習
担当教員	各学科の教員等	単位数	1	授業回数	45時間
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1931,1932,2933,2934,3935,3936,4937,4938 SO-CE 1941,1942,2943,2944,3945,3946,4947,4948 SO-CE 1951,1952,2953,2954,3955,3966,4957,4958 SO-CE 1961,1962,2963,2964,3965,3966,4967,4968

授業概要	学生の主体的な個人活動または団体活動を評価し、単位として認定します。本科目は、学部学科をはじめ、社会連携センター及びキャリア支援センターの協力のもと、大学共通科目（キャリア科目）に配置されたアクティブ・ラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。授業科目のAからDまでの区分は、次のとおりです。 札幌大谷キャリア支援プログラムA：産学官連携・地域連携活動 札幌大谷キャリア支援プログラムB：学生の主体的な個人活動または団体活動 札幌大谷キャリア支援プログラムC及びD：キャリア支援センター等による資格取得・キャリア支援講座・公務員対策講座等 担当教員による事前申請後に開講するプログラムです。プログラムの内容が決定次第、学生ポータルサイトに掲載し、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。内容によっては事前説明会も開催しますので参加してください。
到達目標	授業科目のAからDの詳細な内容により到達目標が若干変わりますが、共通の到達目標は、「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部のディプロマ・ポリシー」に準じます。 ①自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができるようになる。 ②コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができる。 ③専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 美術学科 2 自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 地域社会学科 2 自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
授業計画	各プログラムの「授業概要」により内容が異なります。プログラムが決定次第、随時、学生ポータルサイトに掲載するとともに、学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この授業科目の大まかな流れ・手続きの要領は以下のとおりです。 ①各プログラムの内容(授業概要、到達目標、授業計画、成績評価方法等)を見て、キャリア支援課に受講の申請を申し出てください。 ②プログラムA（産学官連携・地域連携活動や地域インターンシップ、企業とコラボで行う課題解決演習など）とプログラムB（学生の主体的な個人活動または団体活動個人活動におけるコンクールや展覧会等の入選、海外研修や国際セミナー参加など）は、各担当教員と打ち合わせながら進めてください。プログラム終了後に、担当教員が単位認定します（CAP外の1単位、秀・優・良・可で評価）。 ③プログラムCとD（資格取得、検定受験、公務員講座受講など）は、受講申請後、各自で学修し、合格した場合に合格証を添えて単位申請してください。合格証明をもってCAP外の1単位「認定」が付与されます。 ④≪単位認定の条件≫授業(プログラム)終了後、履修学生は担当教員の指示のもと、「実施記録票(またはポートフォリオ等)や レポート」 等を作成してください。資格取得の場合は、合格証明書のコピーを提出してください。
成績評価方法・基準	「成績評価方法・基準」は「授業概要」により異なります。プログラムA・Bは「秀・優・良・可」で評価、プログラムC・Dは「認定」の評価となります。
教科書ソフト等	プログラム開始前に担当教員から指示します。
参考書等	プログラム開始前に担当教員から指示します。
クラスコード	※受講申請する場合は、事務局　キャリア支援課に申し出てください。
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。「授業計画」と同様、「予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間」は、「授業概要」欄に記載された指示に従ってください。
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、プログラムの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレへお知らせします。 注：※通常授業の内容と重複して単位取得することはできません。　※活動時間数に関わらず、1科目1単位を原則とします。 この科目は、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含むアクティブ・ラーニング形式の科目です。

授業科目	英語基礎Ⅰ （音楽学科・美術学科　赤間先生クラス）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	赤間　荘太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1801

授業概要

この授業では英語のダイアローグ（対話文）、英語コミック、英語のジョーク、洋楽などを使って実用的な語を学び、英語コミュニケーション能力を身につけます。また、異文化理解に必要な日本と外国の文化や考え方の違いなども学んでいきます。

到達目標

① 英語のダイアローグや洋楽を聞き、リスニング能力を身につける。
② 口語表現を学んで発音し、スピーキング能力を身につける。
③ 英語コミックやエッセイを読み、リーディング能力を高める。
④ 英語を通して異文化を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	ガイダンス
2週	It's So Nice to Meet You!
3週	Shaking Hands
4週	Is He a Popular Professor?
5週	Club Activities
6週	He Showed Me a Way
7週	Living with a Host Family
8週	For Here or To Go?
9週	She Is So Beautiful
10週	Living on Campus
11週	Catching a Cab
12週	Tipping
13週	How Romantic!
14週	Online Dating
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題30%、平常点20%

教科書ソフト等

土屋武久、本多吉彦、Braven Smillie 『Hello New York』（金星堂）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

dクラス【 vpspexp 】、eクラス【 y6c6fww 】、fクラス【 at22a3l 】

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の問題にオンライン上で解答できるように、事前に予習をしておいて下さい。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書を準備することを推奨します（電子辞書やオンライン辞書の使用可）。また、コメント欄の意見や質問には毎回フィードバックを行います。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	英語基礎Ⅰ （地域社会学科　石川先生・山田先生クラス）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美、山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1801

授業概要

読む・聞く・書く・話すの4つの技能全般を指導するが、特に、聞く力と話す力の習得に重点を置く。その中でも、音そのものよりも意味を正確に聞き取り、言いたいことを正確に口頭で伝えるための技能の習得に重点を置く。授業は基本的に以下のように進める。
① 身近な話題や問題に関して、適切に応答したり、自分の意見などを簡潔に説明したりするような、リスニングやスピーキングを重視した様々な言語活動を行う。
② 基本的な語彙・表現についての知識を確認するだけでなく、各自が使い方がわかる、実際に使うことを行う。
③ 回数を追うごとに反復しつつも応用につなげるタスクを取り入れる。

到達目標

① 高校までに習得する基本語彙や基本英語表現を用いて話されたり、書かれたりした文章や会話を理解することができる。
② 英語圏の社会や文化に関する知識を増やす。
③ 大学生の日常生活に関わる様々な事柄について、1人から2人の個人に自分の意見や考えを簡潔かつ正確に表現したり、他の人の意見に質問や適切に返答できる。
④ 適切な言い方がわからない時、既得の知識や技能を活用して、コミュニケーションを円滑に前に進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション、クラス分けについて
2週　Unit 1 Listening & 基礎演習
3週　Unit 1 Reading & 応用実践
4週　Unit 2 Listening & 基礎演習
5週　Unit 2 Reading & 応用実践
6週　Unit 3 Listening & 基礎演習
7週　Unit 3 Reading & 応用実践
8週　中間まとめと振り返り
9週　Unit 4 Listening & 基礎演習
10週　Unit 4 Reading & 応用実践
11週　Unit 5 Listening & 基礎演習
12週　Unit 5 Reading & 応用実践
13週　Unit 6 Listening & 基礎演習
14週　Unit 6 Reading ＆応用実践
15週　全体のまとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題30%、授業参加度20%
授業形態によって、評価方法・内容が多少変更することがある

教科書ソフト等

JACETリスニング研究会（2021）『パワーアップ・イングリッシュ＜入門編＞』南雲堂

参考書等

授業内で指示します。

クラスコード

xkherej

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、教科書の該当部分の未知の語句を調べてノートに整理したり、課題をすること。小テストでは、語句・表現・英文について復習すること。各自で授業内容について復習しておくこと。※課題、小テストなどはGoogle Classroomに掲載されるので、各自適宜確認する習慣をつけること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

※※社会学部の学部必修科目のため、履修者を制限します。※※
辞書を持参すること。予習課題や小テストなどのフィードバックはすべて授業内に行う。

授業科目	英語基礎Ⅱ （音楽学科・美術学科　赤間先生クラス）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	赤間　荘太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1802

授業概要

この授業では英語のダイアローグ（対話文）、英語コミック、英語のジョーク、洋楽などを使って実用的な英語を学び、英語コミュニケーション能力を身につけます。また、異文化理解に必要な日本と外国の文化や考え方の違いなども学んでいきます。

到達目標

① 英語のダイアローグや洋楽を聞き、リスニング能力を身につける。
② 口語表現を学んで発音し、スピーキング能力を身につける。
③ 英語コミックやエッセイを読み、リーディング能力を高める。
④ 英語を通して異文化を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	ガイダンス
2週	I'm Not Feeling Well
3週	Travel Insurance
4週	Tickets for a Yankees Game
5週	What's on the Shopping List?
6週	Healthy Diet
7週	MoMA is Fun!
8週	The"Fourth of July"Is Coming up
9週	The Fourth of July
10週	Who Is That Guy?!
11週	You're My Best Friend
12週	Marriage Age
13週	We're Going to Be Late
14週	Driverless Cars
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題30%、平常点20%

教科書ソフト等

土屋武久、本多吉彦、Braven Smillie 『Hello New York』（金星堂）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

dクラス【 diim42t 】、eクラス【 i6za53m 】、fクラス【 zyl4ekx 】

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の問題にオンライン上で解答できるように、事前に予習をしておいて下さい。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書を準備することを推奨します（電子辞書やオンライン辞書の使用可）。また、コメント欄の意見や質問には毎回フィードバックを行います。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	英語基礎Ⅱ （地域社会学科　石川先生・山田先生クラス）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美、山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1802

授業概要

読む・聞く・書く・話すの4つの技能全般を指導するが、特に、聞く力と話す力の習得に重点を置く。その中でも、音そのものよりも意味を正確に聞き取り、言いたいことを正確に口頭で伝えるための技能の習得に重点を置く。授業は基本的に以下のように進める。
① 身近な話題や問題に関して、適切に応答したり、自分の意見などを簡潔に説明したりするような、リスニングやスピーキングを重視した様々な言語活動を行う。
② 基本的な語彙・表現についての知識を確認するだけでなく、各自が使い方がわかる、実際に使うことを行う。
③ 回数を追うごとに反復しつつも応用につなげるタスクを取り入れる。

到達目標

① 高校までに習得する基本語彙や基本英語表現を用いて話されたり、書かれたりした文章や会話を理解することができる。
② 英語圏の社会や文化に関する知識を増やす。
③ 大学生の日常生活に関わる様々な事柄について、1人から2人の個人に自分の意見や考えを簡潔かつ正確に表現したり、他の人の意見に質問や適切に返答できる。
④ 適切な言い方がわからない時、既得の知識や技能を活用して、コミュニケーションを円滑に前に進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション、クラス分けについて
2週	Unit 7 Listening & 基礎演習
3週	Unit 7 Reading & 応用実践
4週	Unit 8 Listening ＆基礎演習
5週	Unit 8 Reading & 応用実践
6週	Unit 9 Listening & 基礎演習
7週	Unit 9 Reading & 応用実践
8週	中間まとめと振り返り
9週	Unit 10 Listening & 基礎演習
10週	Unit 10 Reading & 応用実践
11週	Unit 11 Listening & 基礎演習
12週	Unit 11 Reading & 応用実践
13週	Unit 12 Listening & 基礎演習
14週	Unit 12 Reading & 応用実践
15週	全体のまとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題30%、授業参加度20%
授業形態によって、評価方法・内容が多少変更することがある

教科書ソフト等

JACETリスニング研究会（2021）『パワーアップ・イングリッシュ＜入門編＞』南雲堂
※前期と同じテキストを使用しますので、前期購入した人は改めて購入する必要はありません。

参考書等

授業内で指示します。

クラスコード

pczm2f2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、教科書の該当部分の未知の語句を調べてノートに整理したり、課題をすること。小テストでは、語句・表現・英文について復習すること。各自で授業内容について復習しておくこと。※課題、小テストなどはGoogle Classroomに掲載されるので、各自適宜確認する習慣をつけること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

※※社会学部の学部必修科目のため、履修者を制限します。※※
辞書を持参すること。予習課題や小テストなどのフィードバックはすべて授業内に行う。

授業科目	総合英語A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	石川　希美、クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 1821

授業概要

Sogo eigo I is a course designed as an introduction to English communication as it is applied to real situations that may be encountered when abroad. Language used to gather information, express desires and react to oral communication will be stressed in this course. Questioning activities will be used as a warm up to introduce weekly topics in coordination with a DVD series and a role play conversation to confirm usa in real situations are at the core of the textbook units. Also, a variety of supplimental activities will be provided by the instructor. Also, warm up talk activities will be done weekly in pairs to used common questioning patterns.

到達目標

As an introductory course, confidence building in the use of second language communication is the main objective of this course. Repetition of language functions in pair work exersises will bring about a deeper understanding as well as better recall when in a situation which calls for second language communication is the desired outcome of the class work. Student related themes in the studied texts are meant to give the students a higher motivation to communicate with a goal of expressing themselves and gaining success in their second language ability. A positive and comfortable learning enviornment for the students is also a goal for this class

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	Introduction to classmates. Telling and asking for personal information. Class goals will be discussed.
2週	Warm up talk questions introduced as a pre-topic weekly exersise will be taught. Unit 1: Welcoming/ explaining
3週	Warm up talk. Unit 1 continued. Role play with partner on welcoming and explaining rules and customs
4週	Warm up talk. DVD watched with questions for listening practice. Unit 2: Preparing for a BBQ party/talking about school studies and lifestyle
5週	Warm up talk. Asking other classmates about their school life and studies while taking notes and sharing information
6週	Warm up talk. Unit 3: Giving advice to personal personal problems and situations.Hypothetical situations will be used.
7週	Warm up talk. Continue Unit 3 second part: Invitations to social events/ making a plan to do something.
8週	Evaluation of students original role play in pairs will be performed. Supplimental activity for a language funtion given.
9週	Warm up talk. Unit 4: Talking about family. DVD will be watched followed by language for relations/ physical/ personality desription will be studied
10週	Warm up talk. Activity on physical/ personality description of students' family members in groups.
11週	Warm up talk. Other related personal information will be added to description to give a full introduction of a person.
12週	Warm up talk. Unit 5: Describing places/ teling classmates about past experiences
13週	Warm up talk. Unit 6: Talking about jobs and looking for wark. Questioning from text on current and desired employment
14週	Warm up talk. Interviewing on a new part time job and explaing details of a job
15週	A semester exam on learned language and functions from the Units covered in the first semester

成績評価方法・基準

Class Participation and Assignment 50%, Quiz and Exam 50%

教科書ソフト等

No textbook. Handouts will be given.

参考書等

Gershon, S., Mares, C.,& Walker, R. ″On the Go: English Skills for Gloabal Communication″ Pearson Longman, 2003

クラスコード

kmzda4l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

Active participation and a willing attitude will help you learn more. Preparation for exam questions is of the students responsibility and required in the course.

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

As an oral communication based course, pair and group speaking exersises will be continually used in class as well as a base for quizing.

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

授業科目	総合英語B	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	石川　希美、クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1822

授業概要

Sogo eigo II is a course designed as an introduction to English communication as it is applied to real situations that may be encountered whe abroad. Language used to gather information, express desires and react to oral communication will be stressed in this course. Questioning activities will be used as a warm up to introduce weekly topics in coordination with a DVD series and a role play conversation to confirm usa in real situations are at the core of the textbook units. Also, a variety of supplimental activities will be provided by the instructor. Also, warm up talk activities will be done weekly in pairs to used common questioning patterns.

到達目標

As an introductory course, confidence building in the use of second language communication is the main objective of this course. Repetition of language functions in pair work exersises will bring about a deeper understanding as well as better recall when in a situation which calls for second language communication is the desired outcome of the class work. Student related themes in the studied texts are meant to give the students a higher motivation to communicate with a goal of expressing themselves and gaining success in their second language ability. A positive and comfortable learning enviornment for the students is also a goal for this class.

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	Introduction to classmates. Telling and asking for personal information. Class goals will be discussed.
2週	Warm up talk questions introduced as a pre-topic weekly exersise will be taught..Unit 7: Ordering food at a restaurants
3週	Warm up talk. Asking other classmates about food they laike while taking notes and sharing information
4週	Warm up talk. Unit 8: Shopping various things at shops. Hypothetical situations will be used.
5週	Warm up talk. Continue Unit 8 second part: discussing prices and sizes/ bargaining at a yard sale
6週	Warm up talk. Unit 9: Leisure activies. DVD will be watched followed by language for social events and their explanation will be studied.
7週	Warm up talk. Activity on explaining festivals and events in groups.
8週	Evaluation of students original role play in pairs will be performed. Supplimental activity for a language funtion given.
9週	Warm up talk. Unit 10: planning a party/event.
10週	Warm up talk. Continue Unit 10: accepting and refusing an invitation.
11週	Warm up talk. Unit 11: Talking about an an apartment/house/dormitory.
12週	Warm up talk. Continue Unit 11: Discussing housing
13週	Warm up talk. Unit 12: Explaining well-known places.
14週	Warm up talk. Asking for directions/Talking about a trip
15週	A semester exam on learned language and functions from the Units covered in the second semester

成績評価方法・基準

Class Participation and Assignment 50%, Quiz and Exam 50%

教科書ソフト等

No textbook. Handouts will be given.

参考書等

Gershon, S., Mares, C.,& Walker, R. ″On the Go: English Skills for Gloabal Communication″ Pearson Longman, 2003

クラスコード

fipduyg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

Active participation and willing attitude will help you learn more. Preparation for exam questions is of the students responsibility and required in the course.

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

As an oral communication based course, pair and group speaking exersises will be continually used in class as well as a base for quizing.

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

授業科目	イタリア語基礎Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	片桐　亜古	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 1881

授業概要

講師は発音から始めて、主な初級文法のポイントをできるだけわかりやすく解説するよう努めます。
イタリア語という言語の特徴をつかみ、イタリア語文法の基礎の基礎を身につけることが目標です。

到達目標

① イタリア語特有の発音に慣れる。
② 名詞に性があること、名詞の性・数との関係で冠詞、形容詞が変化することが理解できる。
③ 名詞の性・数との関係で指示代名詞、指示形容詞の形が変化することが理解できる。
④ 動詞essere（英語のbe動詞）、avere（英語のhave動詞）および規則動詞の現在形の変化までをマスターできる。
⑤ 基本的な前置詞の意味をおさえ、用法をマスターできる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス／イタリア語のアルファベット
2週	発音とアクセント／名詞の性と数
3週	不定冠詞／数詞
4週	定冠詞
5週	規則動詞①　-are動詞　／疑問文と否定文
6週	規則動詞②　-ere動詞
7週	規則動詞③　-ire動詞
8週	前置詞
9週	essere（英語のbe動詞に相当）
10週	avere（英語の動詞haveに相当）
11週	形容詞
12週	「これ・それ・あれ」指示代名詞
13週	「この～・その～・あの～」指示形容詞
14週	生きたイタリア語にふれてみよう（イタリア映画鑑賞）
15週	まとめ・期末テスト

成績評価方法・基準

平常点（受講率・ワークシート提出状況・点数）40%、期末テスト 40%、レポート 20%

教科書ソフト等

『Nuovissimo A ZONZO（最新 ア・ゾンゾ 更新改訂版／CD・音声ダウンロード用QRコード付）』（一ノ瀬俊和、朝日出版社）
ISBN：978-4-255-55310-8

参考書等

なし。辞書・参考書については授業内で指示します。資料は毎回の授業配信に合わせアップロードをする形で配布します。

クラスコード

aクラス：y4o7tyg　bクラス：psuk7dh　cクラス：7zhivqj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

講師はイタリア在住歴14年。通訳・翻訳の経験豊富。Reconnecting With Your Culture日本支部長として日本とイタリアの子供たちの国際交流プロジェクトを進めている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容を予告しますので、勉強する予定の箇所について事前にテキストに目を通しておきましょう。授業後は勉強した文法事項に関連するワークシートをやり、理解度を確認しましょう。ワークシートの解説を元にフィードバックを行いましょう。

1時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業はオンライン（オンデマンド形式）です。時間割で設定されている曜日・時限に関わりなく、aクラス・bクラス・cクラス共通の日程で授業を実施します。
第14週のイタリア映画鑑賞については、講師が提示するイタリア映画三作品から一つを選び各自鑑賞の上、その映画についてレポートを提出するかたちになります。試験は第15週目に実施します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	イタリア語基礎Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	片桐　亜古	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1882

授業概要

講師は主な初級文法のポイントをできるだけわかりやすく解説するよう努めます。
イタリア語基礎Iで学んだことをベースに文法の基礎を身につけることにより、イタリア語で書かれた簡単な文であれば基本的な構造が把握でき意味をとることができるようになる、またシンプルなフレーズを用いて自分の言いたいことを表現できるようになるのが目標です。

到達目標

① 所有形容詞の用法をマスターできる。
② 不規則な活用をする動詞の現在形の変化をマスターできる。
③ 従属動詞の意味をおさえ、用法をマスターできる。
④ 直接目的語・間接目的語の代名詞の用法を理解し、目的語代名詞が用いられている文の意味をとることができる。
⑤ 代名詞ciとneの用法を理解し、これらが用いられている文の意味をとることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス／「イタリア語Ⅰ（基礎）」で学んだことの確認
2週　定冠詞と前置詞の結合形
3週　所有形容詞①　Andiamo con la mia macchina.「私のクルマで行きましょう」
4週　所有形容詞②　親族名詞と共に用いる場合
5週　従属動詞①　Voglio andare in Italia.「私はイタリアに行きたいです」
6週　従属動詞②　Posso assaggiare?「味見をしてもよいですか？」
7週　直接目的語の代名詞　Ti amo!「君を愛してる！」
8週　生きたイタリア語にふれてみよう（イタリア映画鑑賞）
9週　よく使われる不規則動詞①
10週　よく使われる不規則動詞②
11週　間接目的語の代名詞　Vi telefono stasera.「今晩、君たちに電話するね」
12週　直接・間接目的語代名詞の強勢形　Amo te, non lei!「僕が愛しているのは君だ、彼女じゃないよ！」
13週　直接・間接目的語代名詞の複合形
14週　代名詞ciとne
15週　まとめ・期末テスト

成績評価方法・基準

平常点（受講率・ワークシート提出状況・点数）40%、期末テスト 40%、レポート 20%

教科書ソフト等

『Nuovissimo A ZONZO（最新 ア・ゾンゾ 更新改訂版／CD・音声ダウンロード用QRコード付）』（一ノ瀬俊和、朝日出版社）
ISBN：978-4-255-55310-8

参考書等

なし。辞書・参考書については授業内で指示します。資料は毎回の授業配信に合わせアップロードをする形で配付します。

クラスコード

aクラス：pnkczeh　bクラス：eai2bsq　cクラス：5kxqm6o

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

講師はイタリア在住歴14年。通訳・翻訳の経験豊富。Reconnecting With Your Culture日本支部長として日本とイタリアの子供たちの国際交流プロジェクトを進めている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容を予告しますので、勉強する予定の箇所について事前にテキストに目を通しておきましょう。 授業後は勉強した文法事項に関連するワークシートをやり、理解度を確認しましょう。ワークシートの解説を元にフィードバックを行いましょう。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業はオンライン（オンデマンド形式）です。時間割で設定されている曜日・時限に関わりなく、aクラス・bクラス・cクラス共通の日程で授業を実施します。
第8週のイタリア映画鑑賞については、講師が提示するイタリア映画三作品から一つを選び各自鑑賞の上、その映画についてレポートを提出するかたちになります。試験は第15週目に実施します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ドイツ語基礎Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	荻原　達夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1891

授業概要

ドイツ語の初歩的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための基礎づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定（独検）5～4級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習もしていきます。

到達目標

① 初歩的な文法を習得し、応用することができる。
② 独検5～4級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス、ドイツ語のアルファベット
2週	発音の原則、ドイツ語特有の読み方をする母音、あいさつ表現
3週	ドイツ語特有の読み方をする子音①、数詞①
4週	ドイツ語特有の読み方をする子音②、数詞②
5週	数詞③、人称代名詞、不定詞、名詞の大文字書き
6週	基本的な人称変化①
7週	基本的な人称変化②
8週	arbeiten, reisen の人称変化
9週	sein, haben の人称変化
10週	語順、疑問文、疑問詞
11週	名詞の性別、定冠詞
12週	不定冠詞、格、定冠詞の格変化（4 格）、不定冠詞の格変化（4 格）
13週	3 格、定冠詞の 3 格、不定冠詞の 3 格
14週	2 格、冠詞の格変化のまとめ
15週	まとめとふりかえり

成績評価方法・基準

課題への取り組み方 50%、期末試験または期末レポート 50%

教科書ソフト等

橋本政義『しっかり身につくドイツ語』（三修社）

参考書等

適当な独和辞典。『アポロン独和辞典』（同学社）など。

クラスコード

zsy6p2q

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

独和辞典が必要です（和独は当面不要）。ある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』（同学社）など。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ドイツ語基礎Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	荻原　達夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1892

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための下地づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定（独検）4～3級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習もしていきます。

到達目標

① 基礎的な文法を習得し、応用することができる。
② 独検4～3級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	名詞の複数形
2週	複数形の冠詞と格変化
3週	疑問代名詞、男性弱変化名詞
4週	不規則変化動詞①
5週	不規則変化動詞②
6週	werden と wissen、前つづり
7週	分離動詞、非分離動詞
8週	命令形
9週	人称代名詞の 3 格と 4 格
10週	名詞を受ける人称代名詞
11週	人称代名詞の語順
12週	前置詞①
13週	前置詞②
14週	所有冠詞、否定冠詞
15週	まとめとふりかえり

成績評価方法・基準

課題への取り組み方 50%、期末試験または期末レポート 50%

教科書ソフト等

橋本政義『しっかり身につくドイツ語』（三修社）

参考書等

適当な独和辞典。同学社『アポロン独和辞典』など。

クラスコード

zdlv23p

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

独和辞典が必要です（和独は当面不要）。ある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』（同学社）など。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	フランス語基礎Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	大小田　重夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1871

授業概要

簡単な会話の発音、聴き取り、そこで使われている文法の学習をとおして、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

カフェでの注文、ホテルのフロントでの会話などを題材として、フランスを初めて旅するのに最低限必要なコミュニケーションができるようになることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　つづりと発音のルール①　アルファベット、つづり記号など
2週　つづりと発音のルール②　アルファベット、つづり記号など
3週　あいさつ、お礼・お詫びの表現①　主語人称代名詞
4週　あいさつ、お礼・お詫びの表現②　数詞1－20
5週　カフェでの会話①　名詞と冠詞
6週　カフェでの会話②　名詞と冠詞
7週　好き嫌いをたずねる①　第1群規則動詞
8週　好き嫌いをたずねる②　否定文のつくり方
9週　ブティックでの会話①　動詞etre、avoirの使い方
10週　ブティックでの会話②　指示形容詞
11週　職業をたずねる①　職業をあらわす表現
12週　職業をたずねる②　職業をあらわす表現
13週　人や物について語る①　形容詞の使い方
14週　人や物について語る②　形容詞の使い方
15週　人や物について語る③　時間の表現、国名と国籍の表現

成績評価方法・基準

課題提出 60%（各講義ごとに課題を提出します）、出席 40%

教科書ソフト等

『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』松村博史、バンドロム・エディ著、朝日出版社

参考書等

『ゼロから始めるフランス語－文法中心』猪狩広志著、三修社

クラスコード

pu6kx2t

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回4段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	フランス語基礎Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	大小田　重夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1872

授業概要	簡単な会話の発音、聴き取り、そこで使われている文法の学習をとおして、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。会話文の発音と聴き取りの練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。
到達目標	カフェでの注文、ホテルのフロントでの会話などを題材として、フランスを初めて旅するのに最低限必要なコミュニケーションができるようになることを目標とします。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　近い未来のことを語る①　動詞aller、venirの活用と用法 2週　近い未来のことを語る②　前置詞と定冠詞の縮訳形、曜日と月の名前 3週　ホテルのフロントでの会話①　さまざまな疑問文、所有形容詞 4週　ホテルのフロントでの会話②　さまざまな前置詞 5週　アルバイトについて語る①　-ir形の動詞 6週　アルバイトについて語る②　命令形、数詞（60－） 7週　理由をたずねる①　疑問詞 8週　理由をたずねる②　動詞faire、prendreの活用と用法 9週　過去のことを語る①　複合過去 10週　過去のことを語る②　時を表す表現 11週　列車に乗る①　疑問形容詞quel 12週　列車に乗る②　動詞vouloir、pouvoir、devoir 13週　比較して語る①　比較級と最上級 14週　比較して語る②　旅行に関する表現 15週　総合問題
成績評価方法・基準	課題提出 60%（各講義ごとに課題を提出します）、出席 40%
教科書ソフト等	『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』松村博史、バンドロム・エディ著、朝日出版社
参考書等	『ゼロから始めるフランス語－文法中心』猪狩広志著、三修社
クラスコード	olh56to
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回4段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	中国語基礎Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	藤野　陽平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1861

授業概要	本授業は、中国語入門という位置付けとして、次の事項について学びます。①ローマ字発音表記であるピンイン（母音、子音、声調）の仕組みと発音方法を学ぶことを通じて、自然な発音を身につけます。②簡単な挨拶文や基本的な文型を学び、それにかかわる文法について説明します。③一定量の単語を扱い、語彙力を高め、簡単な会話ができるようになるために準備します。
到達目標	ピンインの読み書きや発音をしっかり身につけ、基本的な文法構造が理解できるようになります。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　ガイダンス、 中国語を学ぶ前に知っておくべきことについて 2週　発音（1） 母音と声調 3週　発音（2） 子音 4週　発音（3） 鼻母音と声調の変化 5週　発音のまとめ（復習と応用練習） 6週　第1課　単語と文法　人称代名詞、動詞「是」、副詞「也」・「都」 7週　第1課　本文と練習　名前の言い方、出身地の言い方 8週　第2課　単語と文法　動詞術語文、代名詞、疑問詞疑問文 9週　第2課　本文と練習　所属、専攻の言い方 10週　第3課　単語と文法　方位詞、名詞述語文、変化の「了」 11週　第3課　本文と練習　家族や友達の紹介、年齢の言い方 12週　第4課　単語と文法　前置詞、連動文、反復疑問文、時間の言い方 13週　第4課　本文と練習　待ち合わせ 14週　第5課　単語と文法　選択疑問文、助動詞「想」・「要」、省略疑問文、量詞 15週　第5課　本文と練習　レストランで
成績評価方法・基準	課題の提出状況で判断します。
教科書ソフト等	沈国威 監修/氷野善寛 /小嶋美由紀 /海暁芳 /紅粉芳惠 /阿部慎太郎 共著『ライト版 中国語でコミュニケーション』2022年、朝日出版社、ISBN: 978-4-255-45355-2
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	mozh3c7
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	予習：　該当配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう（所要時間30分）。 復習：　既に習った配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確認しましょう（所要時間30分）。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	可能な限り毎回課題を提出して各自大きな声で発音練習をすること。そして、積極的に質問やコメントをすること。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	中国語基礎Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	許 仁碩	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1862

授業概要

前期に引き続き、後期でも中国語の基本的な知識を習得することを目的に授業を展開していきます。まず、語彙力を高めます。次に、発音は無論、基本的な文型を踏まえつつ、前置詞、副詞、助詞等の使い方を学び、さらには比較表現、使役表現、受け身表現などについても触れることを通じて、より複雑な文章が読めるようにします。最終的には、「聞く、話す、読む、書く」能力を一定程度身につけることを目指します。

到達目標

①基本的な文法を習得し、複雑な文章を読むことができるようになります。
②語彙を増やしつつ、基礎的な会話能力を養っていくことができます。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

美術学科 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

地域社会学科 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス、中国語を学ぶ前に知っておくべきことについて
2週	前期授業で取り上げた基本文型のおさらい
3週	第6課 単語と文法 形容詞述語文、比較、できる系助動詞、100以上の数字
4週	第6課 本文と練習 買い物をする
5週	第7課 単語と文法 時点と時量、前置詞「从」・「到」・「离」、結果補語、方位詞
6週	第7課 本文と練習 道案内
7週	第8課 単語と文法 完了の「了」、様態補語、二重目的をとる動詞
8週	第8課 本文と練習 興味があること、できることとできないこと
9週	第9課 単語と文法 進行の表現、経験の「过」、主述述語文、前置詞「对」・「给」・「跟」
10週	第9課 本文と練習 旅行の計画
11週	第10課 単語と文法 「是～的」構文、可能性の「会」、「一点儿」と「有点儿」
12週	第10課 本文と練習 病院で
13週	第11課 単語と文法 「把」構文、助動詞「得」、受身文
14週	第11課 本文と練習 トラブル対応
15週	全体のまとめ（復習と応用練習）

成績評価方法・基準

課題の提出状況で判断します。

教科書ソフト等

沈国威 監修/氷野善寛 /小嶋美由紀 /海暁芳 /紅粉芳惠 /阿部慎太郎 共著『ライト版 中国語でコミュニケーション』2022年、朝日出版社、ISBN: 978-4-255-45355-2

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qcsmwuz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習： 該当配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう（所要時間45分）。
復習： 既に習った配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確認しましょう（所要時間45分）。

1.5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

可能な限り毎回課題を提出して各自大きな声で発音練習をすること。そして、積極的に質問やコメントをすること。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	映像制作演習Ⅰ・Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	(音楽学科)小山　隼平、大黒　淳一 (美術学科)小町谷　圭、門間　友佑	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 1201、1202 MF-CE 2203、2204

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

① 音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
② 異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③ 異なる分野の学生との意思疎通をすることができる

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽または美術・デザインを通して解決を図ることができます。
4 知識活用 ： ４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス
2週　企画の提案と決定
3週　企画会議①　グループの編成
4週　企画会議②　内容の検討
5週　企画会議③　内容の決定
6週　作業スケジュールの作成、広報業務の分担
7週　グループごとの制作①　プロットの決定
8週　グループごとの制作②　台本、絵コンテの制作
9週　グループごとの制作③　前半部分の撮影
10週　グループごとの制作④　中間部の撮影、編集
11週　グループごとの制作⑤　後半の撮影、編集、作曲
12週　グループごとの制作⑥　すり合わせ
13週　初号試写、修正作業
14週　仕上げ、発表当日業務の確認・分担
15週　研究発表

成績評価方法・基準

参加状況60%、作品の審査40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

前期：p5vo453　後期：kmprsuy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者が主体的に作品に対する決定を行っていく授業形態（アクティブ・ラーニング）をとりますので、自発的に授業にかかわることが求められます。なお、上記の授業計画は基的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽概論A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	小山 隼平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1011

授業概要	楽典、音響学、楽器学等の各分野で、音楽の実践にとって必要な基礎知識を身につける。
到達目標	① 楽典と楽器についての基礎的な知識を身につけ、音楽について考えることができる。 ② 物理現象としての音、各種音律の原理と問題点、楽器・声の構造等の基礎原理が説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週 ガイダンス、楽典の仕上げ① 音程、音階 2週 楽典の仕上げ② 音階と旋法、調 3週 楽典の仕上げ② リズム、拍子、反復記号 4週 楽典の仕上げ③ 発想記号 5週 楽典の仕上げ④ 和音と和声 6週 物理現象としての音～振動、共鳴、自然倍音 7週 音律について 8週 第1週から第7週までの授業内試験(中間)とまとめ 9週 楽器について① ピアノ 10週 楽器について② 声楽 11週 楽器について③ オーケストラで使われる楽器 12週 楽器について④ 移調楽器 13週 吹奏楽の歴史 14週 楽器の分類について 15週 第9週から第14週までの授業内試験(最終)とまとめ
成績評価方法・基準	第1週から第7週までの授業内試験(中間)50%、第9週から第14週までの授業内試験(最終)50%
教科書ソフト等	久保田慶一編著『音楽用語の基礎知識』(アルテス・パブリッシング)
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	bb5k5hn
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業を受ける前に教科書で該当する箇所を予習しておくこと。授業で配付した資料を利用して復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業内の説明で不明な点は、オフィスアワー等を活用して積極的に質問すること。特別講義における振り替え授業が含まれることもあります。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	音楽概論B	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	小山 隼平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1012

授業概要	西洋音楽の主な形式、代表的な曲種の構造と歴史についての基礎知識を身に付ける。
到達目標	① 西洋音楽の形式を、楽譜から読み取り、聴き取ることが出来るようになる。 ② 西洋音楽の代表的な曲種（ソナタ、協奏曲、交響曲、ミサ、オペラ等）の構造、特徴が聴き取れるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週 ガイダンス、楽式① 動機、楽節 2週 楽式② リート形式 3週 楽式② ソナタ形式 4週 楽式③ ロンド形式 5週 楽式④ カノンとフーガ 6週 楽式⑤ 変奏形式 7週 第1週から第6週までの授業内試験(中間)とまとめ 8週 舞曲と組曲 9週 協奏曲 10週 交響曲、ソナタ 11週 オペラ 12週 ミサ曲、レクイエム、オラトリオ、受難曲 13週 ポピュラー音楽① ブラック・ミュージック 14週 ポピュラー音楽② ロック 15週 第9週から第14週までの授業内試験(最終)とまとめ
成績評価方法・基準	第1週から第6週までの授業内試験（中間）50%、第8週から第14週までの授業内試験（最終）50%
教科書ソフト等	久保田慶一編著『音楽用語の基礎知識』（アルテス・パブリッシング）
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	gznaski
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業を受ける前に教科書で該当する箇所を予習しておくこと。授業で配付したプリントを録音資料を活用して復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業内の説明で不明な点は、オフィスアワー等を活用して積極的に質問すること。特別講義における振り替え授業が含まれることもあります。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	作曲・編曲法Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	谷津　祐子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1021

授業概要

楽曲を構成する要素を分析し、曲がどのように作られているかを知ることによって、旋律や和音を効果的に用いた作曲・編曲法を学びます。

到達目標

① 曲の構成要素について理解できる。
② 効果的な旋律を作ることができる。
③ 和音を効果的に用いた伴奏付けや編曲ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス
2週　楽曲を構成する要素①
3週　楽曲を構成する要素②
4週　楽曲を構成する要素③
5週　楽曲のアナリーゼ①
6週　楽曲のアナリーゼ②
7週　和音による簡単な作曲
8週　既成の旋律への伴奏付け、編曲
9週　簡単な旋律の作曲と編曲
10週　借用和音①
11週　借用和音②
12週　借用和音を利用した作曲編曲①
13週　借用和音を利用した作曲編曲②
14週　非和声音と旋律、和音について
15週　旋律の作曲と伴奏付け、編曲／まとめ

成績評価方法・基準

試験60%、提出課題20%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5zcycti

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

なるべく多くの曲を鑑賞しておいてください。また、授業外での作曲・編曲を行う必要がある場合はその都度指示します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

五線紙を各自で用意してください。

授業科目	作曲・編曲法Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	谷津　祐子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1022

授業概要	「作曲・編曲法Ⅰ」で学んだ内容をもとに、コードネームによる和音進行や様々な形式を学び、意図したスタイルでの作曲・編曲ができる力を身に付けます。
到達目標	① コードネームについて理解し、自由な進行を作ることができる。 ② 楽曲の形式について理解できる。 ③ 自分の意図した作曲・編曲ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　ガイダンス 2週　コードネームについて① 3週　コードネームについて② 4週　コードネームについて③ 5週　基本的なコード進行① 6週　基本的なコード進行② 7週　応用的なコード進行① 8週　応用的なコード進行② 9週　さまざまな形の音階について 10週　複合的なコード進行を使用した作曲と編曲 11週　2部形式の作曲と編曲① 12週　2部形式の作曲と編曲② 13週　3部形式の作曲と編曲① 14週　3部形式の作曲と編曲② 15週　複合的な形式の作曲と編曲／まとめ
成績評価方法・基準	試験60%、提出課題20%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	oj2y4ul
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	なるべく多くの曲を鑑賞しておいてください。また、授業外での作曲・編曲を行う必要がある場合はその都度指示します。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	五線紙を各自で用意してください。

授業科目	音楽療法概論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	高田　由利子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1101

授業概要

① 音楽療法についてその歴史や理論的背景を理解する。
② 音楽療法の事例を紹介し、どのような音楽療法が求められるかについて考察する。
③ 音楽療法士としての倫理観を理解する。

到達目標

① 音楽療法の理論が理解できる。
② 音楽療法実践についての基礎知識を理解できる。
③ 音楽療法士としての必要な倫理観を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　音楽療法の定義
3週　音楽療法の歴史①　太古の時代から20世紀前半までの歴史を学びます。
4週　音楽療法の歴史②　20世紀後半から現在に至るまでの歴史を学びます。
5週　音楽のもつ療法的効果について①　生理的・心理的側面から学びます。
6週　音楽のもつ療法的効果について②　社会的側面から学びます。
7週　音楽療法の倫理と中間レポートのフィードバック
8週　音楽療法の実際　児童領域①　対象者について学びます。
9週　音楽療法の実際　児童領域②　事例に基づき学びます。
10週　音楽療法の実際　精神科領域①　対象者について学びます。
11週　音楽療法の実際　精神科領域②　事例に基づき学びます。
12週　音楽療法の実際　高齢者領域①　対象者について学びます。
13週　音楽療法の実際　高齢者領域②　事例に基づき学びます。
14週　プレゼンテーション①・講評
15週　プレゼンテーション②・講評

成績評価方法・基準

課題・習得度40%、授業内での発表30%、レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『音楽療法入門　Ⅲ　理論と実践』一麦出版社

クラスコード

hoxcziz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で配付した資料を元に、授業計画にしたがって講義内容をノートにまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業は、一方的な講義形式ではなく、すべての参加者に発言を求めます。したがって、具体的な課題が示されない場合でも、事前の学習が必要になります。毎回のレスポンスシートについては、特に、コメントが必要と判断したものについては、授業の最初に取り上げ、口頭にてフィードバックを行います。

授業科目	音楽療法の理論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	土屋　益子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1102

授業概要

音楽療法の定義や歴史などの基礎的知識を学びます。また、主な対象領域の実践について、さらに対象者にあった音楽を提供できるように音楽の機能その他について学んでいきます。

到達目標

① 音楽療法とは何かが理解できる。
② 音楽療法の必要性を理解できる。
③ 子ども、成人、高齢者の3領域の音楽療法の重要性を学び、対象者を理解し支援の方法が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　音楽療法の定義
3週　音楽療法の歴史①　外国
4週　音楽療法の歴史②　日本
5週　音楽の機能①
6週　音楽の機能②
7週　音楽療法のプロセス①
8週　音楽療法のプロセス②
9週　音楽療法テクニック
10週　音楽活動の役割
11週　高齢者領域の音楽療法
12週　障がい者（児）領域の音楽療法
13週　精神科領域の音楽療法
14週　他領域の音楽療法
15週　授業内試験（筆記）とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験（筆記）50%、授業内レポート30%、平常点20%

教科書ソフト等

『音楽療法入門　第3版　第1巻』一麦出版社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6i6nygl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書を元に、授業計画にしたがって講義内容をノートにまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽療法を学ぶ上で基礎となる科目である。テキスト、配布資料は繰り返し読むことで、着実に理解をして授業に臨んでください。授業内に実施した小テストのフィードバックを行います。

授業科目	音楽療法の技法	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	高田　由利子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1103

授業概要

音・音楽を治療に利用するとはどういうことでしょうか。この授業では、音楽のもつ生理的、心理的、社会的作用を理解するとともに、対象者にあった音・音楽の基本的な使い方について学びます。また、対人援助としての音楽の役割について考えます。

到達目標

① 音楽療法における治療構造を理解できる。
② 音楽療法に必要な技法を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　対人援助
3週　音楽療法の治療プロセス
4週　音楽療法における治療構造
5週　能動的音楽療法と受動的音楽療法の方法
6週　集団音楽療法の形態
7週　個人音楽療法の形態
8週　音楽療法が生理面に与える影響
9週　音楽療法が心理面に与える影響
10週　音楽療法が社会面に与える影響
11週　中間レポートのフィードバック
12週　音楽療法で用いる楽器の使い方
13週　音楽療法士の役割
14週　音楽の要素を利用する意味
15週　プレゼンテーションと講評

成績評価方法・基準

課題レポート50%、授業内発表30%、授業参加態度20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

iscslck

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容のガイダンスを行いますので、各自で関連する文献等で調べてから授業に臨んでください。また、フィードバックした課題やワークシートをまとめて、ノートに整理する等復習しておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業は、一方的な講義形式ではなく、すべての参加者に発言を求めます。したがって、具体的な課題が示されない場合でも、事前の学習が必要になります。毎回のレスポンスシートについては、特に、コメントが必要と判断したものについては、授業の最初に取り上げ、口頭にてフィードバックを行います。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	コードプログレッションA	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1053

授業概要	コードプログレッション(和声進行)について学びます。 ホモフォニーのもっとも重要な構成原理の1つがコードプログレッションです。 これについて理解を深めることで、作曲や編曲、即興演奏の可能性をさらに拡げることができます。 この科目では、基礎的な考え方を、実際の楽曲を通して身につけます。
到達目標	① スケール(音階)とコード(和声)の関係を理解することができる。 ② トニックコード、ドミナントコード、サブドミナントコードの機能を理解することができる。 ③ 簡易なコードプログレッションを自分で作ることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週 ガイダンスと楽典の確認 2週 ダイアトニック・コード 3週 コードネームの原理①トライアド 4週 コードネームの原理②セブンス・コードとナインス・コード 5週 コードネームの原理③まとめ 6週 コードの機能とケイデンス①トニック・コード 7週 コードの機能とケイデンス②ドミナント・コード 8週 コードの機能とケイデンス③サブドミナント・コード 9週 コードの機能とケイデンス④セカンダリー・ドミナント 10週 コードの機能とケイデンス⑤パラレル・キーからの借用 11週 コードの機能とケイデンス⑥まとめ 12週 6th、add9、sus4 13週 フラッテッド5thとオーギュメンテッド5th 14週 オン・コード 15週 まとめと期末テスト
成績評価方法・基準	期末テスト40%、単元ごとの小課題40%、課題の取り組み状況20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	特にありません。必要に応じて、資料を配付します。
クラスコード	njd7627
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	スケール(音階)と音程を理解していることが、基本になりますので、確実に覚えましょう。その上で、授業内で指示された課題に取り組んでください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業内での音名は英語を用います。その他の用語も、原則として英語をベースにしたものを用います。また、入試レベルの楽典を理解している前提で授業を進めます。

授業科目	コードプログレッションB	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1054

授業概要

キーボードハーモニーとリハーモナイズについて学びます。
適切なヴォイシングは、自然なコード進行を作る上で重要です。
また、リハーモナイズの方法を身につけることで、作曲や編曲、即興演奏に役立てることができます。

到達目標

① リハーモナイズができる。
② 鍵盤上で、適切なヴォイシングでコードを弾くことができる。
③ 基本形と転回形の違いを理解し、正しくベースを配置できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週 ガイダンスと基礎知識の確認
2週 オン・コードの利用とベースラインの作成
3週 リハーモナイズ①テンション・ノートの付加
4週 リハーモナイズ②機能が同じコードの利用
5週 リハーモナイズ③パラレル・キーのコードの利用
6週 リハーモナイズ④セカンダリー・ドミナントの利用
7週 リハーモナイズ⑤代理ドミナントの利用
8週 リハーモナイズ⑥まとめ
9週 ヴォイシング①クローズド・ヴォイシングとオープン・ヴォイシング
10週 ヴォイシング②ベースに応じたヴォイシング
11週 ヴォイシングとコードプログレッション①構成音の進行とコードの変化
12週 ヴォイシングとコードプログレッション②コルトレーン・チェンジズ
13週 オルタード・テンションズ
14週 最終課題①課題の選曲
15週 最終課題②課題の発表

成績評価方法・基準

最終課題50%、単元ごとの小課題30%、課題の取り組み状況20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、資料を配付します。

クラスコード

msvyqms

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

五線紙上での理論の学修に加えて、鍵盤を利用した実習が求められます。授業で配付した資料を参考にして、練習してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「即興演奏A～F」につながる内容を扱うので、事前にこの科目を履修しておくことが望ましいです。また、「コードプログレッションA」の内容を踏まえた、鍵盤楽器を使った学修が主となります。

授業科目	器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（吹奏楽・オーケストラ）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1211 MU-MS 1212

授業概要

合奏（大編成）を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけると共にアンサンブルの技能を高める。演奏会実現のなかで様々な役割を担いプロの演奏家及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。

4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス、授業内容、目的・計画、役割分担	16週	定期演奏会練習⑥　仕上げ
2週	簡単な楽曲を使いサウンド作り	17週	定期演奏会総練習
3週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ	18週	定期演奏会本番
4週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ	19週	キャンパスコンサート練習①　基礎
5週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ	20週	キャンパスコンサート練習②　質の向上
6週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ	21週	キャンパスコンサート練習③　仕上げ
7週	キャンパスコンサート練習①	22週	キャンパスコンサート本番①
8週	キャンパスコンサート練習②	23週	キャンパスコンサート本番②
9週	キャンパスコンサート練習③	24週	定期演奏会練習①　基礎
10週	キャンパスコンサート　本番	25週	定期演奏会練習②　質の向上
11週	定期演奏会練習①　譜読み	26週	定期演奏会練習③　質の向上
12週	定期演奏会練習②　基礎	27週	定期演奏会練習④　仕上げ
13週	定期演奏会練習③　基礎	28週	定期演奏会練習⑤　仕上げ
14週	定期演奏会練習④　質の向上	29週	定期演奏会総練習
15週	定期演奏会練習⑤　質の向上	30週	定期演奏会本番

成績評価方法・基準

演奏発表及び特別練習に参加すること50%、合奏に必要な基本的奏法がなされているかを評価する30%、
楽曲分析、演奏表現ができているかを評価する20%

教科書ソフト等

担当教員から指示を受けたライブラリアンが準備・配付しますが、コロナ禍のため、クラスルームにアップされたものを各自プリント

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qzaxhtr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに譜読みし、練習をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、コンサートに合わせ授業科目別の授業計画は変更が考えられます、その場合事前にお知らせいたします。コンサート前の別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種コンサートに絡み、授業回数が増える事があります。授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。管弦打楽コース以外でも履修を希望する場合、プレスメントテストを行う場合がある。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（弦楽合奏・オーケストラ）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸、グレブ・ニキティン、 中島　杏子、岩渕　晴子、富岡　雅美	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1221 MU-MS 1222

授業概要

オーケストラ音楽の主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術とアンサンブルによる表現方法を学ぶ。また、定期演奏会などで研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。

4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	弦楽器の正しいチューニング①	16週	弦楽器パートの正しいボーイング⑥
2週	弦楽器の正しいチューニング②	17週	弦楽器パートの正しいボーイング⑦
3週	弦楽器の正しいチューニング③	18週	弦楽器パートの正しいボーイング⑧
4週	弦楽器の正しいチューニング④	19週	弦楽器パートの正しいボーイング⑨
5週	弦楽器の正しいチューニング⑤	20週	弦楽器パートの正しいボーイング⑩
6週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備①	21週	初見能力①
7週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備②	22週	初見能力②
8週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備③	23週	初見能力③
9週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備④	24週	初見能力④
10週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備⑤	25週	初見能力⑤
11週	弦楽器パートの正しいボーイング①	26週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏①
12週	弦楽器パートの正しいボーイング②	27週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏②
13週	弦楽器パートの正しいボーイング③	28週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏③
14週	弦楽器パートの正しいボーイング④	29週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏④
15週	弦楽器パートの正しいボーイング⑤	30週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏⑤

成績評価方法・基準

授業への受講状況50%、合奏技術の達成度30%、演奏に取り組む姿勢20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hkyntvx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに譜読みし、練習をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。数台の弦楽器については貸し出しを行うが、原則、楽器は個人持ちとする。演奏会経費が別途かかります。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。演奏会前の特別練習などで授業回数が増える場合があります。弦楽器のみの合奏の発表も予定されています。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅰ・Ⅱ （電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	斉藤　宏子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1231 MU-MS 1232

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

① 楽曲にあった奏法を実践することができる。
② アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス、グループ編成の決定	16週	グループ全体での音作り（2曲目前半）
2週	選曲	17週	グループ全体での音作り（2曲目後半）
3週	楽器等の理解	18週	アンサンブル練習（2曲目前半）
4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	19週	アンサンブル練習（2曲目後半）
5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	20週	グループ全体での音作り（3曲目前半）
6週	楽譜作成、個々の音色づくり（1曲目）	21週	グループ全体での音作り（3曲目後半）
7週	楽譜作成、個々の音色づくり（2曲目）	22週	アンサンブル練習（3曲目前半）
8週	楽譜作成、個々の音色づくり（3曲目）	23週	アンサンブル練習（3曲目後半）
9週	楽譜作成、個々の音色づくり（4曲目）	24週	グループ全体での音作り（4曲目前半）
10週	グループ全体での音作り（1曲目前半）	25週	グループ全体での音作り（4曲目後半）
11週	グループ全体での音作り（1曲目後半）	26週	アンサンブル練習（4曲目前半）
12週	アンサンブル練習（1曲目前半）	27週	アンサンブル練習（4曲目後半）
13週	アンサンブル練習（1曲目後半）	28週	演奏会場でのサウンドプロダクション
14週	アンサンブル練習（1曲目仕上げ）	29週	G. P.
15週	前期のまとめ	30週	演奏会での発表

成績評価方法・基準

演奏技術の達成度40%、合奏における役割の理解度と表現力40%、演奏会に参加すること20%

教科書ソフト等

エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付（ヤマハ音楽振興会）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

msfaejv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブル Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、黒山　映、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1311

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。
古典の曲目を題材に、呼吸を合わせることを体感し、そのための方法を習得する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーションとプレテスト　グループ組を決める。
2週　モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
3週　モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
4週　モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
10週　モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
11週　モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
12週　モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ。

成績評価方法・基準

合同発表会 40%　演奏試験 50%　平常点10%

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

rwmd3ln

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、アンサンブルを行うためのピアノ演奏能力が必要とされます。初回にプレテストがあります。（音階、アルペジオ全調の中から、当日指定された調を長調・短調ともに弾くこと。音階については、長調（リピート有）をカデンツ付きで弾いた後、和声的短音階、旋律的短音階を続けて弾き（各リピート無）、最後にカデンツを弾くこと。アルペジオはリピート有。）
上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。
発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブルⅡ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1312

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。
重要な連弾曲の作曲家シューベルトの曲目を題材に、呼吸を合わせることを体感し、そのための方法を習得する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
3週　シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
4週　シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
10週　シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
11週　シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
12週　シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ。

成績評価方法・基準

合同発表会 40%　演奏試験 50%　平常点10%

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

74w5zso

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。
発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	オペラ制作演習Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 岡崎　正治、萩原　のり子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 1101

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス
2週	ソロ音楽稽古/合唱稽古①
3週	ソロ音楽稽古/合唱稽古②
4週	講義Ⅰ（予定）
5週	ソロ音楽稽古/合唱稽古③
6週	ソロ音楽稽古/合唱稽古④
7週	身体表現特別講義(予定)
8週	作品の講義Ⅱ（予定）
9週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤
10週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥
11週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦
12週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧
13週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨
14週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩
15週	ソロ、合唱、歌唱試験

成績評価方法・基準

アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%

教科書ソフト等

オリジナル楽譜作成（販売します）各自ステージシューズを購入すること（指定します）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aesrdoq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。

5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	オペラ制作演習Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 河野泰幸、岡﨑　正治、萩原　のり子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 1102

授業概要	総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。 また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割、舞台技術を身につける。
到達目標	一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。 また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。
学科のディプロマ・ポリシー	1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　音楽セリフ通し稽古 2週　ソロ、合唱稽古/セリフ稽古 3週　立ち稽古① 4週　身体表現特別講義 5週　立ち稽古② 6週　立ち稽古③ 7週　立ち稽古④ 8週　立ち稽古⑤ 9週　立ち稽古⑥ 10週　立ち稽古⑦ 11週　立ち稽古⑧ 12週　通し稽古① 13週　通し稽古② 14週　通し稽古③ 15週　G.P/本番
成績評価方法・基準	アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%
教科書ソフト等	オリジナル楽譜、一部指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること（指定します）
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	aesrdoq
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。 5時間から7時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	デジタルノーテーション	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1051

授業概要	ノーテーションソフトウェアの基本的な使い方を学修します。
到達目標	① ノーテーションソフトウェアを使って楽譜を作ることができる。 ② 楽譜作成ソフトウェアと周辺機器に関する基礎的な知識を身につける。 ③ ノーテーションソフトウェアを使って簡単な編曲ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週 ガイダンスとflatのアカウントの作成 2週 flat①音符の入力 3週 flat②発想記号とアーティキュレーションの入力 4週 flat③拍子と調の変更 5週 flat④1段に2つの声部を割り当てる方法 6週 flat⑤コードネームと歌詞の入力 7週 flat⑥課題の選曲と共有の方法 8週 flat⑦提出課題の作成 9週 入力用MIDI機器などの周辺機器について 10週 MuseScore①音符の入力 11週 MuseScore②テキストの入力 12週 MuseScore③アーティキュレーションの入力 13週 MuseScore④拍子と調の変更 14週 MuseScore⑤課題の選曲 15週 MuseScore⑥提出課題の作成
成績評価方法・基準	flatの課題50%、MuseScoreの課題50%
教科書ソフト等	無料楽譜作成ソフトウェアであるflatと、MuseScoreを使用します。
参考書等	特にありません。必要に応じて、授業内で資料を配付します。
クラスコード	dbzp5sa
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	ソフトウェアの使い方は、資料を使って説明するので、その内容に沿って復習してください。また、パソコンの基本的な操作(マウスやキーボードの使い方、コピー＆ペースト、ファイルの保存)については、事前に調べておいてください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	flatはパソコン、タブレット、スマートフォンでの使用が可能ですが、MuseScoreはパソコンのみで使用が可能です。パソコンは、事前に用意してください。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	DAW	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	塚原　義弘	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1052

授業概要	DAW(Digital Audio Workstation)の基本的な使い方を学びます。 DAWを用いた作曲や編曲の演習課題を通して、コンピューターを使用し自由な発想と音楽制作の基礎を身につけます。
到達目標	①DAWとは何か、理解することができる。 ②DAWを使って、簡易な作曲や編曲をすることができる。 ③波形編集等を使った音響作品の概念も習得する。
学科のディプロマ・ポリシー	4　知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　コンピューターの起動・データの保存・各種設定・周辺機器の理解 3週　ソフトウェアの基本知識①　ソフト音源、loopデータについて 4週　ソフトウェアのデータ入力①　MIDIデータの取り扱い方、ノートの入力 5週　ソフトウェアのデータ入力②　AUDIOデータの取り扱い方、AUDIOデータの録音、編集等 6週　リズムパターンの創作①　ドラム、Bass等、MIDI,AUDIOを駆使してビートの構築 7週　ミックスの基礎① プラグインの基本　パラメータの操作方法 8週　ミックスの基礎② プラグインの応用　エフェクタの基礎 9週　ミックスの基礎③ 素材を使ったミックスの練習 10週　今まで習得した技術を使い簡単な小作品の制作(中間作品提出) 11週　最終作品の制作開始(曲のスケッチ、素材収集等) 12週　楽曲の創作①　制作作業 13週　楽曲の創作②　制作作業 14週　楽曲の創作③　作品のチェック 15週　作品の発表、提出
成績評価方法・基準	提出作品40%、ソフトウェアへの理解度40%、授業に臨む姿勢や意欲20%
教科書ソフト等	なし。授業で適宜、資料を配付します。ソフトウェアについては、大学のコンピューターにインストールされているものを使用します。Logic,sutudioOne,AbltonLIVEを予定してます
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	4hx2jnz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	パソコンの基本操作を事前に習得しておいてください。また、授業で学んだ操作方法などをノートにメモし、復習してください。 時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ソフトウェアの使用方法などは、逐一ノートを取ってください。

授業科目	ピアノ伴奏法A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	岡本　孝慈	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1331

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。また器楽専攻の学生にとってもピアノとの正しい共演方法を学べる貴重な機会である。比較的取り組みやすい協奏曲や歌曲、映画音楽なども用いるが、次第に難易度の高い作品にも挑戦し他者と合わせて演奏することを学ぶ。

到達目標

① テンポ感や音量、音色など自然にソルフェージュ力を養うことができる。
② 共演者と互いの個性を認め合い協調することで、コミュニケーション術も向上する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　公開レッスン形式①
3週　公開レッスン形式②
4週　公開レッスン形式③
5週　公開レッスン形式④
6週　公開レッスン形式⑤
7週　公開レッスン形式⑥
8週　公開レッスン形式⑦
9週　公開レッスン形式⑧
10週　公開レッスン形式⑨
11週　公開レッスン形式⑩
12週　公開レッスン形式⑪
13週　公開レッスン形式⑫
14週　公開レッスン形式⑬
15週　試験（発表）

成績評価方法・基準

試験（発表）60%、受講態度40%
試験（発表）の評価は、演奏のみならず共演者としての資質なども考慮し加点することもある。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付しますので保管ファイルを用意すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

vdik67l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

全受講生が公平にレッスンを受けることができるよう、随時時間配分をする。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノ伴奏法B	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1332

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。本講義では、歌曲、オペラアリアの作品を教材とし、声楽曲の伴奏法を実践的に学ぶ。

到達目標

① テンポ感や音量、音色など自然にソルフェージュ力を養うことができる。
② 共演者と互いの個性を認め合い協調することで、コミュニケーション術も向上する。
③ 歌詞を発音することが出来、さらにその意味を理解し、音楽とどのように結びついているかを理解できる。
④ オーケストラ伴奏においては、使用楽器を理解し、その楽器の特性をピアノで再現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　公開レッスン形式①
3週　公開レッスン形式②
4週　公開レッスン形式③
5週　公開レッスン形式④
6週　公開レッスン形式⑤
7週　公開レッスン形式⑥
8週　公開レッスン形式⑦
9週　公開レッスン形式⑧
10週　公開レッスン形式⑨
11週　公開レッスン形式⑩
12週　公開レッスン形式⑪
13週　公開レッスン形式⑫
14週　公開レッスン形式⑬
15週　試験（発表）とまとめ

成績評価方法・基準

試験（発表）40%、受講態度60%
試験（発表）の評価は、演奏のみならず共演者としての資質なども考慮し加点することもある。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

yay2pjh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生がレッスンを受けることができるよう、オリエンテーション時に選曲、時間配分をします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法技能A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1301

授業概要

音楽療法の臨床場面で求められる音楽の基礎的な技術を身につけます。授業では、臨床場面で使用される曲について調べ、曲の背景を理解できるようにします。また、曲の背景が理解できた上で、対象者に合わせた音楽について何が必要であるかを考えます。さらに、対象者に合わせた音楽が臨機応変に提供できるような臨床的技術を身につけます。

到達目標

① 対象者の特性を理解した上で、その対象者に合った選曲ができる。
② 簡単な伴奏付けができる。
③ 音楽療法の実践に必要な歌唱ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　音楽療法で用いられる音楽の役割
3週　音楽療法における歌唱の目的とその効果
4週　曲（唱歌、童謡）の時代背景
5週　伴奏法①　音楽療法で用いられる童謡・唱歌（明治時代）
6週　伴奏法②　音楽療法で用いられる童謡・唱歌（大正時代）
7週　伴奏法③　音楽療法で用いられる童謡・唱歌（昭和時代）
8週　中間試験（伴奏づけ）とフィードバック
9週　曲（歌謡曲）の時代背景②　戦後
10週　伴奏法①　音楽療法で用いられる歌謡曲（1940年代～50年代）
11週　伴奏法②　音楽療法で用いられる歌謡曲（1960年代～70年代）
12週　伴奏法③　音楽療法で用いられる歌謡曲（1970年代以降）
13週　弾き歌い①　ロールプレイ（個別音楽療法）
14週　弾き歌い②　ロールプレイ（集団音楽療法）
15週　学期末試験（弾き歌い）とフィードバック

成績評価方法・基準

授業内試験（弾き歌い）70%、授業内での発表30%

教科書ソフト等

『愛唱名歌』のばら社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wdwgafm

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で扱った曲の時代背景は、ノートにまとめてください。伴奏の技法は、十分に練習を重ねること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は毎回、実技形式で進められて行きますので、自分が選曲した曲の予習・練習をして授業に臨んでください。ミニテストを実施した際のフィードバックを行います。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法技能B	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1302

授業概要

音楽療法実践の基本的な技能である伴奏の技術を磨きます。基礎的なピアノ演奏法を学び、実践場面を踏まえ、歌唱に伴奏付けを行います。合奏の基本的技術、即興演奏の技術等、臨床場面で必要な技能を身につけます。

到達目標

① 対象者に合わせたテンポで伴奏ができる。
② 初見の能力が身につく。
③ 弾き歌いの技術が獲得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　音楽療法における音楽の使い方
3週　音楽療法における合奏①　児童領域
4週　音楽療法における合奏②　成人領域
5週　音楽療法における合奏③　高齢者領域（小集団）
6週　音楽療法における合奏④　高齢者領域（集団）
7週　プレゼンテーション①・フィードバック
8週　プレゼンテーション②・フィードバック
9週　音楽療法における即興①　児童領域　その1
10週　音楽療法における即興②　児童領域　その2
11週　音楽療法における即興③　成人領域
12週　音楽療法における即興④　高齢者領域
13週　プレゼンテーション①
14週　プレゼンテーション②
15週　学期末試験（弾き歌い）とフィードバック

成績評価方法・基準

個別レッスンの受講70%、試験20%、授業態度10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『愛唱名歌』のばら社

クラスコード

rfaqyh6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

合奏および即興の技法で指導された項目は、十分に練習を重ねること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は毎回、実技形式で進められて行きますので、自分が選曲した曲の予習・練習をして授業に臨んでください。ミニテストを実施した際のフィードバックを行います。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法演習Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 1401

授業概要

音楽療法の対象を児童、成人、高齢者の3領域とし、その活動内容を学ぶ。グループに分かれ、それぞれの役割の中で音楽療法をどのように実践していくかを論議し、検討することを目的とする。

到達目標

① 児童・成人・高齢者の3領域を理解できる。
② 実践プログラムの立て方を理解し、立案できる。
③ それぞれの役割を理解できる。
④ 音楽療法の目的を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　児童領域における音楽療法①　事例をよむ
3週　児童領域における音楽療法②　事例に基づいて治療計画を考える
4週　児童領域における音楽療法③　グループに分かれたロールプレイその1・フィードバック
5週　児童領域における音楽療法④　グループに分かれたロールプレイその2・フィードバック
6週　精神科領域における音楽療法①　事例をよむ
7週　精神科領域における音楽療法②　事例に基づいて治療計画を考える
8週　精神科領域における音楽療法③　グループに分かれたロールプレイその1・フィードバック
9週　精神科領域における音楽療法④　グループに分かれたロールプレイその2・フィードバック
10週　高齢者領域における音楽療法①　事例をよむ
11週　高齢者領域における音楽療法②　事例に基づいて治療計画を考える
12週　高齢者領域における音楽療法③　グループに分かれたロールプレイその1・フィードバック
13週　高齢者領域における音楽療法④　グループに分かれたロールプレイその2・フィードバック
14週　プレゼンテーション①講評
15週　プレゼンテーション②講評

成績評価方法・基準

音楽療法実践計画書及びレポート提出60%、授業内発表40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

gpdq5jd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容のガイダンスを行いますので、各自で関連する文献等で調べてから授業に臨んでください。また、フィードバックした課題やワークシートをまとめて、ノートに整理する等復習しておいてください。
1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

前期に履修した「音楽療法の理論」および「音楽療法技能A」で使用した教科書を本講義で使用します。ゲストスピーカーや特別講義があります。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	伴奏実習Ⅰ～Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	黒山　映、河野　泰幸、針生　美智子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1351 MU-MS 1352

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス
2週　パートナーとの充分なリハーサル
3週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
4週　パートナーとの充分なリハーサル
5週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
6週　パートナーとの充分なリハーサル
7週　総練習
8週　本番①（演奏会・試験等）
9週　パートナーとの充分なリハーサル
10週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
11週　パートナーとの充分なリハーサル
12週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
13週　パートナーとの充分なリハーサル
14週　総練習
15週　本番②（演奏会・実技試験等）

成績評価方法・基準

平常点50%、協調性20%、表現力30%

教科書ソフト等

授業ごとに指示する。

参考書等

授業ごとに指示する。

クラスコード

wqoer5p

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅰ～Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実習
担当教員	小山 隼平、千葉 潤、谷本 聡子、黒山 映、外山 啓介、三山 博司、針生 美智子、大隅 雅人、河野 泰幸、高田 由利子、鎌倉 亮太、大黒 淳一	単位数	1	授業回数	
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1721 MU-MS 1722

授業概要	大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。 本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。
到達目標	①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。 ②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。 ③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。 2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
授業計画	「授業計画」は、「コンサート」の内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 なお、この授業科目の大まかな流れは次のとおりとなります。 ① 履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。 ② 各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。 ③ コンサートに向けて、任務に応じた準備を行い、当日は任務を遂行する。 ④ 担当教員は、履修者の事前準備、当日の動き方を観察し、評価する。 ⑤ コンサート終了後、担当教員は履修者に評価と改善点を伝える。 以上、①から⑤までの手順を、コンサートごとに繰り返す。
成績評価方法・基準	「授業計画」と同様、「成績評価方法・基準」は、コンサートの内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	宮崎 隆男著『「マエストロ、時間です」 ～サントリーホール ステージマネージャー物語～』(ヤマハミュージックメディア)
クラスコード	ebh2kux
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・ピアノ）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=sharing	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PI_MS 1101 PI_MS 1102

授業概要	ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。 バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。 個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。
到達目標	ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る 2週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る① 3週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る② 4週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする① 5週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする② 6週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③ 7週　暗譜で演奏できるようにする① 8週　暗譜で演奏できるようにする② 9週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする① 10週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする② 11週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める① 12週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める② 13週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③ 14週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④ 15週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出する。 実技試験の演奏曲は、最低3回はレッスンを受講している楽曲とする。試験課題は別途発表する。
教科書ソフト等	各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
参考書等	「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
クラスコード	yupwfk5
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・声楽）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	VM_MS 1101 VM_MS 1102

授業概要

まず、基本的な呼吸法、発声法を学ぶ。
正しい立ち方から始まり、声の出し方等、声楽に必要な訓練を徹底的に行う。
教材としては声質やレヴェルに適った教材を用い、時間をかけて学習する。
伴奏は学生が担当し、併せて伴奏指導も行う。

到達目標

① 「実技演奏法Ⅰ（主科・声楽）」
声楽学習の基本であるイタリア古典歌曲を正しい発音と発声で、詩の内容を適切に表現することを目指す。
② 「実技演奏法Ⅱ（主科・声楽）」以降
様々な楽曲をそれぞれの時代の適切な音楽スタイルで演奏できるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー

2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	学生の声を聴き、その声質やレヴェルに適った教材を選択して課題を与え、次週からの学習計画を示す
2週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける①
3週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける②
4週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける③
5週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける④
6週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑤
7週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑥
8週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑦
9週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑧
10週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑨
11週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑩
12週	それまでに学んだ楽曲を歌い、その中から試験曲として1曲を選ぶ
13週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する①
14週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する②
15週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する③

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

参考書等

コンコーネ50番、他

クラスコード

gfpl64s

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・管弦打楽）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	OI_MS 1101 OI_MS 1102

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。伴奏付きのレパートリーによりピアニストとのコミュニケーションやアンサンブル能力を習得。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。日々のレッスンから指導方法を学び、指導者としてのスキルも身につける。
学科のディプロマ・ポリシー	2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	a6wfv6e
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。管弦打楽コースのみ履修可。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイション Ⅰ・Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	CP_MS 1101 CP_MS 1102

授業概要	作曲の実技指導を行います。また、必要に応じて、参考となる楽曲の鑑賞・分析や、和声法、対位法、管弦楽法の指導も行います。作曲の課題内容と、作曲方法については、各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 興味・関心に応じた楽曲を制作できる。 ② 他者の作品から、参考になる部分を学ぼうとすることができる。 ③ 作品制作で使用する楽器・機器に対する知識を身につけることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週 興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する 2週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析① 3週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析② 4週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析③ 5週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析④ 6週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑤ 7週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑥ 8週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑦ 9週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑧ 10週 試演会での作品発表、上級学年の作品を鑑賞する 11週 試演会についてのディスカッション 12週 作品制作、浄書指導、仕上げ① 13週 作品制作、浄書指導、仕上げ② 14週 作品制作、浄書指導、仕上げ③ 15週 作品制作、浄書指導、仕上げ④
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	小山：u43uxfh　内藤：ssir7f6　塚原：bot2wck　大黒：xhm3cii
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	自作品の制作は授業時間外に進めてください。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	楽譜を作成する場合は、使用する五線紙について指示する場合があります。指示があった場合はなるべく早めに用意してください。コンピュータを購入して楽曲制作をする場合は、指導教員に相談をしてください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻・電子オルガン）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EO_MS 1101 EO_MS 1102

授業概要	電子オルガンの実技指導や楽曲のアナリーゼを個人レッスンで行い、基礎的な演奏テクニックや表現力を養います。レガート奏法、タッチコントロール、ペダル奏法など必要な奏法は、楽曲の中でマスターし、必要であればエチュードを用いて補強し、スコアを用いての編曲も実習していきます。
到達目標	① 電子オルガンの奏法・表現法をマスターできる。 ② 楽曲の内容を正確に演奏・表現できる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画	
1週	ガイダンス、個々のレベルに応じた楽曲の選択を行う。
2週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う①
3週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う②
4週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う③
5週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う④
6週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる①
7週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる②
8週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる③
9週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる④
10週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる①
11週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる②
12週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる③
13週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる④
14週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる⑤
15週	実技試験に向けた仕上げを行う。

成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	斉藤：3r5o4xu　播磨：b3uwzvt
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	実技試験前に試験で演奏する曲の楽譜の提出が求められます。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副専攻・[…]）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1101 MU-MS 1102

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。 選択できる楽器及び科目は別紙に記載する。
到達目標	基礎と演奏又は作曲能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内試験90%（または実技試験90%）、平常点10%。音楽総合コースの主たる副専攻楽器の場合は実技試験とする。 実技試験の評価は、複数、または授業担当者の採点した素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	lhktkpz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副科・[…]）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1111 MU-MS 1112

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	2　自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4　知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、採点者の素点を合計し算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	vwc3ee6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	色彩学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	徳中　康弘	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1002

授業概要	本授業は色彩の基礎知識を学び、色の持つ特性と感覚を理解し、応用として効果的な配色ができることを習得します。色彩をシステムとして捉え、色相、彩度、明度を基準とした配色、混色を理解します。さらに、情報化社会の中での色彩の役割、関係を理解した上でカラーユニバーサルデザインの基礎知識と対応策を身につけ多様な色覚に対し配慮された色表現ができるように指導します。
到達目標	① 色の見える仕組みと環境による見え方の違いを理解する。 ② カラーシステムによる色相とトーンを理解し、三属性を理解する。 ③ 多様な色覚の特性と最新の知識を習得しカラーユニバーサルデザインに対応した配色ができるようにする。
学科のディプロマ・ポリシー	1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
授業計画	1週　色とは何か　可視光線、プリズム、波長 2週　色はなぜ見える①　目の仕組みと脳 3週　色はなぜ見える②　原色と混色 4週　明度、彩度、色相について　色の三属性 5週　色の表示方法　マンセル表色系、PCCSなどの色相環とトーン分類 6週　光源と色　標準光源 7週　色の見え方①　色の感情効果、五感と色 8週　色の見え方②　色対比、トーンと形容詞 9週　配色　イメージから色を選ぶ、表現のための色選び 10週　背景色の変化による色の見え方 11週　色名と使い方　色の分類について 12週　色彩と情報化社会　色の持つ役割 13週　カラーユニバーサルデザイン①　色弱の基礎知識 14週　カラーユニバーサルデザイン②　混同色について、シミュレータによる確認 15週　カラーユニバーサルデザイン③　すべての人に見やすい配色
成績評価方法・基準	受講ノート評価40%、演習課題40%、出欠数取組み姿勢20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	cc47jwr
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	スライド説明時にメモをとり、次回まで受講ノートにまとめること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	演習としてトーナルカラーを使用しますのでハサミとノリを用意してください。

授業科目	デザイン概論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	下濱　晶子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1001

授業概要

本授業では、主に西洋の近代から現代のデザインについての知識を教授する。近代のデザインとは、工芸（アート・アンド・クラフト）が生産方式の変化にもとづいてデザインへと変容していく過程である。人々の生活に密着しているデザインという分野を学ぶことで、石・土・ガラス・鉄・紙・布などの素材の性質と機能を理解することを目標とする。またアール・ヌーボー様式など、西洋のデザインに日本美術が与えた影響、その逆に、日本における西洋のデザインの受容と創造も検証し、解説する。

到達目標

① 西洋のデザインの知識を深めることができる。
② 素材の性質と機能を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週　デザイン史について
2週　イギリスの美術工芸運動
3週　アール・ヌーボー①　アール・ヌーボーの成り立ち
4週　アール・ヌーボー②　ネオ・ロココ、ナンシー派
5週　アール・ヌーボー③　アール・ヌーボーのポスター
6週　分離派とウィーン工房
7週　グラフィック・デザイン①　グラフィックメディアの成長
8週　グラフィック・デザイン②　写真の発明とグラフィック・デザインへの応用
9週　グラフィック・デザイン③　世紀末から第一次世界大戦まで
10週　バウハウス
11週　アール・デコ①　幾何学的な形式
12週　アール・デコ②　アール・デコの工芸
13週　アメリカのデザイン
14週　日本のデザイン
15週　総括

成績評価方法・基準

レポート80%　授業内の課題を含む平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

rxkh7rb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業計画のキーワードを元に事前に調べてください。授業後は配付資料を元にノート整理等してまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。

授業科目	コンピュータ造形	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	笹木　詩穂	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1014

授業概要

本授業は美術学科1年生教職履修者を対象とした基礎科目である。コンピュータを有効なツールとして活用するためデジタル表現の基礎的な知識や表現技術を理解する。具体的には「グラフィックソフト」の定番であるIllustratorとPhotoshopの基本的な操作を中心に、応用表現までをPCと周辺機器の操作法も含め、多様な実技課題でデジタル表現制作の技術習得を目指し表現能力を身につける。

到達目標

① デジタル表現の基礎知識を演習を通じて習得する。
② Photoshop・Illustratorの実践的・創作的な制作技術を身につける。
③ 様々なテーマに対しそれぞれのメディアの特性に応じた表現を意識する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	グラフィックソフトの基礎知識・制作フロー解説
2週	課題① Illustrator基礎 オブジェクトの描画、パス、彩色、構成
3週	課題② Illustrator基礎 画像のトレース、イラストレーション描画
4週	課題③ Illustrator基礎 タイポグラフィ、ロゴタイプデザイン、他
5週	課題④ Illustrator応用 チラシデザイン制作①
6週	課題④ Illustrator応用 チラシデザイン制作②
7週	課題④ Illustrator応用 チラシデザイン制作③
8週	課題④ Illustrator応用 チラシデザイン講評
9週	課題⑤ Photoshop基礎 画像加工処理、色調補正
10週	課題⑥ Photoshop基礎 レイヤー効果、レイヤースタイル
11週	課題⑦ Photoshop基礎 画像の切り抜き、合成、他
12週	課題⑧ Photoshop応用 デジタルコラージュ制作①
13週	課題⑧ Photoshop応用 デジタルコラージュ制作②
14週	課題⑧ Photoshop応用 デジタルコラージュ制作③
15週	課題⑧ Photoshop応用 デジタルコラージュ講評

成績評価方法・基準

制作課題の完成度60%、課題に対する理解度・取り組む姿勢40%

教科書ソフト等

Adobe Creative Cloud（Illustrator ・ Photoshop）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

esdgf7b

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業後の見直しとデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

PC持参必須。毎週事前に授業に関しての連絡を行うので、必ず確認をしてください。受講に際しては、何事も積極的姿勢で取り組み制作課題を未消化にしない。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	教職デザイン	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	水野　一英	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1012

授業概要	本授業では、教職履修者を対象として、デザイン領域における表現を教授する。色彩構成やレタリング、シンボルマーク等、中学校・高等学校の美術の授業で扱われることが多い教材を基本にして、学校教育の場における実践例などを参考にしながら、デザインの基礎を習得することが目標である。社会におけるデザインの果たす役割と学校におけるデザイン教育の重要性を理解するとともに、将来教職に就き「学ぶ立場」から「教える立場」になることをイメージして、主体的に課題に取り組む姿勢を身につける。
到達目標	中学校の美術教育における基礎的・基本的事項について学習し、実践的な指導力を修得する。
学科のディプロマ・ポリシー	1　基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
授業計画	1週　デザインの果たす役割 2週　構成①　デザイン用具等の説明、課題説明、構想 3週　構成②　制作・講評 4週　文字のデザイン①　課題説明、構想 5週　文字のデザイン②　制作・講評 6週　マークのデザイン①　課題説明、構想 7週　マークのデザイン②　制作 8週　マークのデザイン③　講評 9週　映像メディアを用いた構成①　課題説明、構想 10週　映像メディアを用いた構成②　制作・講評 11週　総合課題①　課題説明、構想 12週　総合課題②　コンセプト決定、制作 13週　総合課題③　制作、完成 14週　総合課題④　講評 15週　まとめ
成績評価方法・基準	レポートおよび課題40%、文字のデザイン20%、マークのデザイン20%、構成10%、映像メディアを用いた構成10%
教科書ソフト等	『美術資料』秀学社
参考書等	中学校、高等学校の美術教科書及び指導書・参考作品など
クラスコード	cbwwnkf
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	指示された道具や材料、資料の準備を確実に行うようにしてください。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	実技は基本的に実技形式で行います。道具や材料、資料がないと制作に大きく影響するので忘れ物がないようにしてください。また、重要な内容を口頭で伝える場面もあるので、適宜メモをするなどしてください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	教職彫刻	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	集中	講義形態	実技
担当教員	藤本　和彦	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1013

授業概要	円形や矩形といった幾何形態をモチーフにした原初的構成立体の制作をおこなう。前半は円形（球体を含む）か矩形のいずれかをモチーフとした制作。後半は円形、矩形を造形的に組み合せた制作。構成のバランス感覚や、素材と構成の効果的な関係を探る（前半・後半の計2作品提出）。
到達目標	①　円形や矩形といった幾何形態をモチーフに構成立体を制作する事から、物体や空間といった三次元の基本要素を理解、把握することができる。 ②　素材として最も身近な「紙」を様々な状態から探っていくなかで、その可能性を見いだし、応用していくことができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画	
1週	モチーフとなる幾何形態の特徴を探り、展開方法を考える
2週	紙の様々な状態を考察する。（厚みや硬さの差など）
3週	前半課題（円形もしくは矩形をモチーフ）のエスキース
4週	エスキースから　マケット(模型)制作
5週	実制作①　紙と構成の関係を吟味し、丁寧な制作を意識する。パーツ制作
6週	実制作②　折込、接続、接着の工夫
7週	実制作③　組み込み、組み立て作業
8週	実制作④　全体の確認、完成
9週	後半課題　（円形と矩形を組み合せた造形）のエスキース
10週	それぞれのマケット制作
11週	実制作①　表現の工夫と完成度を重視した制作。パーツ制作
12週	実制作②　パーツ仕上げ、折込みなど
13週	実制作③　接続、接着、組み上げ作業
14週	実制作④　全体の確認、完成
15週	個別プレゼンテーション、個人講評、全体講評、まとめ

成績評価方法・基準	平面的素材を効果的に立体へと展開できているか40%、素材の特徴や道具の性格を理解し適正に進められたか40%、積極的に創意工夫を試み、制作に集中することができたか20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	wpkhoe7
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	テーマに沿った造形に応用可能な資料を準備・確認し、バリエーションを拡げておくこと。また、制作時には、パーツの構造や接続の方法、組立の順序などを探り、治具の準備とともに次作業の工程をシミュレーションしておくこと。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	主素材が「紙」ということから、その制作に必要なもの、また使用可能な道具等を各自、事前に用意しておくこと。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	教職絵画	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	川口 浩	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1015

授業概要

本授業では、教職履修者学生を対象として、絵画領域における基礎的な表現を教授する。デッサン・着彩表現を通じ様々な画材の体験と技法を体験し、色彩学、美術史、現代の美術状況に触 れることにより幅広く美術を学びます。

到達目標

① 立体・空間表現を学ぶことにより、絵画空間を表現できる。
② 色々な画材の特性を理解するとにより、様々な絵画表現が可能になる。
③ 美術一般の基礎知識を修得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週 ガイダンス 画材説明・絵画表現に必要な基礎的知識、技法・ 基礎デッサン(制作)
2週 静物デッサン① 鉛筆表現
3週 静物デッサン②講評会
4週 着彩表現(水彩)① 静物 F6
5週 着彩表現(水彩) ②
6週 フロッタージュ① フロッタージュ(加筆)②
7週 マーブリング(水性)①マーブリング(油性) ②
8週 墨を使った抽象表現
9週 デカルコマニー
10週 クロッキー(コスチューム)
11週 着彩表現(油彩・アクリル)① 静物 F8号
12週 着彩表現(油彩・アクリル)②
13週 着彩表現(油彩・アクリル)③ 講評会
14週 コラージュ 構成①
15週 コラージュ 構成②

成績評価方法・基準

絵画に必要な基本的な知識や表現が出来ているか。与えられた時間を十分に使い密度のある作品になっ ているか70%、授業態度30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

画集・適宜、資料を配付します。

クラスコード

uy3abxx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

作業の遅れが生じた場合は、各自授業外で制作すること。 図書館やWeb上で作品研究を行うこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

画材道具の確認と管理、補充は授業前に確実に行うこと。アトリエの使用ルールは厳守すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形表現基礎〔油彩〕	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	川口 浩	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1016

授業概要

絵画表現の基本を理解し、学ぶ方向を確認するとともに、観察力を養い、時間をかけて作り上げる集中力を身につける。
- 油彩用具の使用方法の確認と制作手順を学び、課題を制作する過程を通して理解を深める。
- 明暗と色彩表現の関係を理解し、構成を考えながらモチーフの量感や材質感を空間の中で表現することを学ぶ。

到達目標

① 画材・素材と用具・用法の基礎知識を修得し実践できる。
② 造形の基本となる対象物への観察力・洞察力をさらに深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	ガイダンス、画材についての基礎知識、キャンバス張	
2週	静物1	① F10号 制作手順の確認、構図について 下描き 明暗確認
3週		② 描画
4週		③ 描画
5週		④ 描画
6週		⑤ 描画
7週		⑥ 描画
8週		⑦ 描画 講評
9週	静物2	① F10号 下描き
10週		② 描画
11週		③ 描画
12週		④ 描画
13週		⑤ 描画
14週		⑥ 描画
15週		⑦ 描画 講評

成績評価方法・基準

提出作品70% 画材特性の理解20% 平常点10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

授業内で適宜、資料を提示・配付します。

クラスコード

heyhzw3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

作業の遅れが生じた場合は、各自授業外で制作すること。 画集やWeb上で作品研究を行うこと。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

画材道具の確認と管理、補充は授業前に確実に行うこと。アトリエの使用ルールは厳守すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形表現基礎〔日本画〕	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	関本　麻己子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1016

授業概要

本授業では、日本画の入り口として基礎を学ぶ事に重点を置き、現在の日本画に至るまでの歴史背景も踏まえるために模写を実践しつつ、他には無い日本画材の特徴を理解させたい。特徴を知ることで、自身の制作にどの画材が適しているかと模索する力を養う。
模写を通し、線描、彩色で道具として使われる筆の特徴を知ることで、扱いが難しいと言われる日本画材をより思い通りに画材を扱える技術を養う。

到達目標

① 現代の日本画が成り立つまでの歴史背景を学び、現代を生き表現する各自の制作とを意識下で結びつける。
② 日本画材ならではの特徴を知り、画材、道具を自身の制作に活用できる力を養う。
③ 伝統的と言われがちな日本画において、伝統的な画材と近代に独自に発展した画材とを理解し、自身の制作に適した画材を模索させる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	オリエンテーション・様々な紙に線描
2週	①鳥獣戯画・線描
3週	彩色
4週	彩色
5週	彩色
6週	②オリジナル鳥獣戯画制作・動物園写生
7週	構図、線描
8週	彩色
9週	彩色
10週	彩色
11週	③絹本、胡桃染
12週	線描
13週	彩色
14週	彩色
15週	彩色、まとめ

成績評価方法・基準

日本画の歴史背景を理解し、それを踏まえた制作が出来たか。（60%）、筆や画材の特徴を理解することが出来たか。（40%）

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6i46r6b

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

多様な日本画表現や技術を修得するため、外部機関での写生・見学・研修も行う。

週に5時間程度5回以内

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

日本画を専攻希望する学生が受講すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形表現基礎〔版画〕	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鳴海　伸一	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1016

授業概要

木版画と銅版画の基礎を中心とした実習をとおして版表現の魅力と自身の表現の展開を探る。
木版画では陽刻法、墨版1色で刷毛や刷子を用いて伝統的な制作を行う。銅版画では直刻法のドライポイント、腐蝕法ではエッチングとアクアチントを用いて作品を作り上げる。また様々な刷り方、現代版画の技法にもふれ、時代に求められる制作を模索する。

到達目標

①版種形態を把握し、版表現の魅力を生かした作品づくりができる。
②扱っている道具や材料の特性を理解し、安全かつ正確に制作できる事を目標とする。
③環境や材料にとらわれず、柔軟な制作の可能性を模索できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	ガイダンス	16週	木版画②/下絵の制作
2週	銅版画作品についてのリサーチ	17週	木版画③/転写と彫り
3週	銅版画①/直刻法ー製版	18週	木版画④/彫り
4週	銅版画②/直刻法ー刷り	19週	木版画⑤/彫り
5週	銅版画③/エッチング　下絵	20週	木版画⑥/彫りと摺り
6週	銅版画④/エッチング　腐蝕製版	21週	木版画⑦/摺り
7週	銅版画⑤/エッチング　腐蝕製版	22週	木版画⑧/摺り
8週	銅版画⑥/エッチング　アクアチント	23週	木版画⑨/摺り 応用編
9週	銅版画⑥/エッチング　製版	24週	木版画⑩/講評とまとめ
10週	銅版画⑦/エッチング　刷り	25週	現代版表現　併用版/ニス版/はがし刷り
11週	銅版画⑧/エッチング　刷り(応用編)	26週	現代版表現　平版
12週	銅版画⑨/エッチング　仕上げ	27週	現代版表現　凹版
13週	銅版画⑩/講評とまとめ	28週	現代版表現　CG版
14週	木版画作品についてのリサーチ	29週	仕上げと額装
15週	木版画①/陽刻法、陰刻法について	30週	講評　版表現の社会性と展開について

成績評価方法・基準

提出された作品の実験度・魅力・完成度(発想力・構成力・技術力)65%、併用または版種研究に対する積極的な意欲・ 姿勢35%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します

クラスコード

zayz4ct

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有り

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

学内図書館等を利用し、版画に関する書籍(作品集、技法書など)を閲覧しておいて下さい。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形表現基礎〔立体〕	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	藤本　和彦	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1016

授業概要

この授業は、週2コマ15週(30回)の授業で、油彩、日本画、版画、立体の中から一つ選択し、造形表現の基礎を確立する。立体の授業概要は次の通りとなる。
① 表現において、それぞれが様々なものに抱く「イメージ」を展開し、具現化するには、幅広い形式や媒体、素材があるが、ここでは、その一環として、課題テーマに対する「イメージ」の形態化、実空間化を試みる。
② 個別の意見交換から、「イメージ」を深化させ、素材としては、モデリング・カービング、双方の性質を兼ね備えた「石膏」を使用し、イメージの「抽象的」「具象的」再現をそれぞれ一点ずつ行う。

到達目標

[立体]の到達目標は次のとおりとなる。
①素材の特徴や取り巻く空間を把握し、各自の内にある、表現の方向や可能性を探り出すことができる。
②自己の周辺にある様々な事象に対し、解釈や視点を拡大・探究できる

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。

授業計画

1週	課題1―①　課題テーマのイメージを深化させ、展開方法を検討する。
2週	課題1―②　素材の「石膏」を考察、石膏の扱い方や芯材、支持体を考察
3週	課題1―③　エスキース作業から実制作へ（マケット制作など）
4週	課題1―④　芯棒制作・スタッフ（繊維状補強剤）にて補強
5週	課題1―⑤　石膏　直付けと削り
6週	課題1―⑥　石膏　直付けと削り･荒らし･研磨
7週	課題1―⑦　仕上げ（必要に応じて台座などの制作･組み立て）
8週	課題1―⑧　制作発表、全体講評、個人講評、振り返りとまとめ
9週	課題2―①　課題テーマのイメージを深化させ、展開方法を検討する。
10週	課題2―②　エスキース作業から実制作へ（スケッチなど）
11週	課題2―③　芯棒制作・スタッフ補強
12週	課題2―④　石膏　直付けと削り
13週	課題2―⑤　石膏　直付けと削り･荒らし･研磨
14週	課題2―⑥　仕上げ（必要に応じて台座などの制作･組み立て）
15週	課題2―⑦　制作発表、全体講評、個人講評、振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

モチーフの選択やアイデアの展開など考慮した表現ができたか　50%、素材の特徴や道具の性格を理解し、適正に形態化がなされたか　25%、積極的に創意工夫を試み、制作に集中することができたか　25%

教科書ソフト等

なし。必要に応じて、資料等を配布する。

参考書等

なし。授業内で指示する

クラスコード

5fxscyn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

図書館にて「彫刻」や「立体造形」に関係する作品集などに適宜、目を通し、作品・表現への意識を高めておくこと

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

用具の準備や点検、整備、補充を確実にしておくこと。石膏使用のため。衣服が汚れるため、作業に適した服装で授業に挑むこと

授業科目	統計学入門	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	中村 聖	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1201

授業概要	社会調査に基づく分析結果を読み取るために必要となる統計学の基礎的な知識を学ぶ。授業内ではデータの基礎集計、標本にもとづく推測統計、質的変数間の関連に関する分析について解説する。また、必要に応じて統計量の計算手順も紹介する。
到達目標	① データの種類に応じて適切に基礎集計ができる。 ② 標本にもとづく推測統計の考え方と技法を理解できる。 ③ クロス集計表を作成して、質的変数間の関連を分析できる。
学科のディプロマ・ポリシー	3 課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
授業計画	1週 オリエンテーション 統計学と調査データ 【統計学と調査データについての課題】 2週 データの基礎集計① 度数分布表とヒストグラム 【度数分布表についての課題】 3週 データの基礎集計② 変数の中心傾向とばらつき【変数の中心傾向とばらつきについての課題】 4週 データの基礎集計③ 標準化と標準得点 【標準化と標準得点についての課題】 5週 変数間の関連① 相関係数【相関係数についての課題】 6週 変数間の関連② クロス集計表 【クロス集計表の解釈についての課題】 7週 変数間の関連③ 相関関係と因果関係 【相関・因果関係の解釈についての課題】 8週 変数間の関連④ 変数の統制と三重クロス表 【第三変数の解釈についての課題】 9週 推測統計学の基礎① 母集団と標本 【母集団と標本についての課題】 10週 推測統計学の基礎② 統計的推定の考え方 【統計的推定についての課題】 11週 推測統計学の基礎③ 統計的検定の考え方 【検定の手順についての課題】 12週 推測統計学の基礎についての振り返り 【ワークシートによる振り返り】 13週 統計的検定① クロス集計表の統計的検定【クロス集計表の検定についての課題】 14週 統計的検定② 平均値の差の統計的検定【平均値の差の検定についての課題】 15週 全体のまとめと定期試験【ワークシートによる振り返り】
成績評価方法・基準	学期末試験70%、課題とワークシートへの取り組み状況30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	神林博史・三輪哲『社会調査のための統計学 －生きた実例で理解する－』技術評論社、2011年
クラスコード	yrwf6g2
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。各回の課題については、次回の授業時に解説を行う。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための社会調査理論関係の基礎統計学に該当しています。課題は、翌週の講義冒頭でフィードバックを行います。

授業科目	地方自治入門	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	鹿谷　雄一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1501

授業概要

現代日本における地方自治の基礎的なしくみと機能について理解する。
住民（有権者）、地方議会議員、都道府県知事・市町村長やこれらを支える地方公務員それぞれの役割について学び、政治・行政・財政・政策などの視点を踏まえながら地方自治を取り巻く環境や諸課題への対応について理解を深める。また、地方自治の主人公として、住民が参加する意義について理解を深めるとともに、具体的な取組事例について考察することで、必要な方策のあり方を考え理解を深める。

到達目標

1. 地方自治に関する基礎的なしくみの知識を習得し、自治体の意義と機能について説明することができる。
2. 地方自治体の運営を支えるしくみとそのあり方について説明することができる。
3. 地方自治の主人公として、自治体の活動について自分の意見・考えをまとめることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	イントロダクション：地方自治の重要性
2週	憲法における地方自治
3週	自治体の統治のしくみとアクター
4週	住民の権利と地方選挙
5週	地方議会と議員の活動
6週	知事・市町村長の役割と自治体の組織
7週	地方自治を支える公務員の役割
8週	地方自治の歴史と地方分権
9週	広域行政と狭域行政
10週	自治体の政策と計画
11週	自治体の予算と財政
12週	自治体経営と公共施設
13週	特色ある自治体の条例
14週	住民参加の推進
15週	授業内期末試験／多様な自治、住民自身の選択？

成績評価方法・基準

小課題25%、小テスト20%（2回：5週と9週）、レポート25%、期末試験30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

馬場健・南島和久編著『地方自治入門』法律文化社、2023年。今井照『地方自治講義』ちくま新書、2017年。これらのほか、授業内で提示します。

クラスコード

s3i427z

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

小課題は授業内容を踏まえて調べまとめるもので、授業資料の見直しをおこない取り組むこと。新聞・ニュースに日々接するとともに、興味のある分野について情報を収集すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

小課題は関心のある特定の市町村の状況について継続して取り組むことになります。小テストの実施、小課題・レポートの提出、これらのフィードバックのほか、授業資料の配布はGoogle Classroomでおこないます。

授業科目	法学入門	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1401

授業概要

私たちの身近で起きている事件や事故がいつ自分に起きるかわからない。情報化、高齢化、雇用形態の多様化という社会の変化に応じて、法律は改正されあるいは新たな法律が制定されている。社会の変化は、法律の変化をもたらしている。社会の変化を知ることと同時に法律の変化を日常生活でのいろいろな場面から知ることが重要である。日常生活を送る中で出会う事件や事故と法律の関連を知り、法律の基礎となっている領域に関する法知識の修得を目指す。

到達目標

法律を理解する上で必要な基礎的概念を日常用語と法律用語との双方から学ぶ。本講義を通して、社会生活を営む中で接する事象の中から、法律的問題が生じうる可能性を発見し、回避するために必要な基礎知識の修得を目標とする。基礎的な法律の専門用語を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　ガイダンス、法学の基礎知識
2週　法律の構造、法律用語
3週　法の分類、裁判の仕組み
4週　条文の読み方、法学の学習について
5週　民法1
6週　民法2
7週　民法3
8週　憲法1
9週　憲法2
10週　刑法1
11週　刑法2
12週　行政法1
13週　行政法2
14週　フィールドワーク（裁判所に裁判の傍聴に行ってみよう）
15週　到達度チェックと講評

成績評価方法・基準

学期末試験70%、毎回の講義内容に則して出題される小テスト30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

大石眞ほか編『デイリー六法』三省堂2022年，佐伯仁志 ほか編『ポケット六法』有斐閣2022年，デイリー 法学選書編修委員会編『ピンポイント民法』三省堂2018年，デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント 憲法』三省堂2018年，デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント行政法』三省堂2018年

クラスコード

tzm3ita

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

事前配付されるレジュメを手掛かりに、参考書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

講義内配布資料に記載されていない部分については、図書館に配架の法学入門に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。「民法入門」、「財産取引と法」及び「企業と法」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開される。

授業科目	経済学入門	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	澁谷　朋樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1301

授業概要

本講義は、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎的体系を理解するとともに、経済に関する情報を理論的・論理的に捉える基本的な力を養うことが目的である。その際に、日本における実際の経済事象に関する出来事や社会の仕組みに関しても説明していく。また、地域経済を分析するための手法を紹介する。

到達目標

①経済の基本的な仕組みを理解することができる
②経済学の基本的な考え方を理解することができる
③各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握することができる

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用:社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス(講義概要や評価方法、注意事項等の説明)
2週	経済学の基本的な考え方
3週	需要と供給(需要曲線、供給曲線、市場メカニズム)
4週	消費者行動の理論
5週	企業行動の理論
6週	市場構造(完全競争市場の調整メカニズム)
7週	市場の効率性(効率的な資源配分、不完全競争と独占)
8週	市場の失敗と政府の役割①(外部経済と政府介入)
9週	市場の失敗と政府の役割②(公共財とは、公共財の最適供給)
10週	GDPとは(三面等価の原則、名目と実質、景気循環の考え方)
11週	総需要と総供給(総需要曲線、総供給曲線)
12週	生産と成長(生産性、経済成長と公共政策)
13週	貨幣と金融(貨幣とは、貯蓄・投資、金融政策)
14週	財政と社会(歳入・歳出、日本の財政赤字)
15週	少子高齢化と経済社会(福祉レジーム、日本の社会保障政策)

成績評価方法・基準

学期末レポート(70%)、小テスト(20%)、コメントペーパー(30%)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳(2019)『マンキュー 入門経済学[第3版]』東洋経済新報社　※その他のものは、必要に応じて紹介する。

クラスコード

yg4qpgu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は、内容をノートに整理して復習に役立てること。また、日頃から各メディアの報道を通じて、国内外の経済動向に目を向けておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

基本的に、オンデマンド形式で進めます。コメントペーパーを通じて寄せられた質問等は、次の講義時に回答します。小テストのフィードバックは講義内で行います。時事問題を取り上げる予定なので、必ずしも授業計画に沿って進めるとは限りません。

この科目はオンライン・オンデマンド方式で実施されます。

授業科目	経営学入門	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	太田 稔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2302

授業概要

企業は先が見通せない時代に差し掛かり大きな変革期の真っ只中にあります。そんな時代の中で皆さんは企業での就職を考えている人も多いことでしょう。この授業では、そもそも企業の経営とはどういうもので、経営に必要なことは何かについて考え、その知識を自分自身のキャリア形成に生かせることを目的の一つとしています。また、多くの課題を背負っている地域の将来を考える場合、その担い手である地域の中での企業と起業について理解することも今や不可欠なテーマだと言えます。本講義では、企業経営の概念についての理解を積み上げながら、いくつかの事例について考え、その課題や起業の方向について考えます。

到達目標

①経営学の基礎的な知識から理解し説明できるようになること。
②地域での企業の果たす役割・課題について考え、説明できるようになること。
③課題を通じて、企業や経営についての情報収集と分析の基礎的なことができること。
④学んだ知識を通じて学生が自分のキャリアについて考えることができるようになること。
⑤地域で必要なビジネスとはどのようなものがあるかを考え出すことができるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用:社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週 Ⅰ 企業経営の基礎知識 ①経営とは何か？
2週 Ⅰ 企業経営の基礎知識 ②企業の目的と使命は何か
3週 Ⅰ 企業経営の基礎知識 ③会社形態とは
4週 Ⅰ 企業経営の基礎知識 ④会社組織とは
5週 Ⅱ 企業経営とキャリア ①企業における働き方
6週 Ⅱ 企業経営とキャリア ②企業と人的資源管理
7週 Ⅲ 北海道内企業分析 ①企業分析の手法
8週 Ⅲ 北海道内企業分析 ②ケース分析（各企業の事例を詳細に分析）
9週 Ⅲ 北海道内企業分析 ③発表準備（パワーポイント形式）
10週 Ⅲ 北海道内企業分析 ④各グループ毎に発表
11週 Ⅳ 地域社会における企業 ①持続可能性と企業活動
12週 Ⅳ 地域社会における企業 ②ソーシャルビジネス論
13週 Ⅳ 地域社会における企業 ③SBケース分析
14週 Ⅳ 地域社会における企業 ④各グループ毎に発表
15週 Ⅴ 総括とまとめ、最終課題発表

成績評価方法・基準

出席20%、事前・事後課題30%
授業貢献度（発言・質問・発表など）20%、最終レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

吉村典久 他（2006）『1からの経営学』中央経済社

クラスコード

yxfrqin

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅲ群に該当しています。

授業科目	現代社会と福祉	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西浦　功	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1601

授業概要	世界有数の豊かな国であるはずの日本でも、日常生活に様々な課題を抱える人は数多い。彼らの悩みを生み出す社会的背景を理解しつつ、現実的な支援のあり方を考える力を身につけることが、本講義の目的である。本講義では、高齢者及び障害者の福祉のみならず、子育てや教育・労働現場等の様々な領域における福祉の事例について解説する。また社会福祉の方法論の一部を実際に体験する機会を設けつつ、様々な社会問題の解決に対して福祉が担う役割についての理解を深める。
到達目標	①福祉のしくみについて大まかに説明できること ②福祉を必要とする人々の抱える悩みと背景を説明できること ③望ましい福祉のあり方を自ら考え提案できること
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　オリエンテーション、現代社会と福祉 2週　福祉と社会保障、生活を守るための様々なしくみ 3週　公的扶助のしくみと課題 4週　貧困問題の背景と対策 5週　家族と福祉のかかわり 6週　高齢者介護の今・むかし 7週　障害とは何かを考える 8週　障害者と脱施設化 9週　自立生活運動の目指すものは何か 10週　育児をめぐる諸問題① 育児に関する常識を振り返る 11週　育児をめぐる諸問題② 母親の「育児不安」の背景 12週　不登校問題の背景や支援のあり方 13週　なぜ人は過労死するか―その背景と対策 14週　認知症から考える高齢者ケア 15週　総括―福祉と家族と専門職／レポートのフィードバック
成績評価方法・基準	学期末試験50%、中間レポート20%、授業への参加態度（授業課題）30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	特になし。必要に応じて授業内で指示します。
クラスコード	qkouuiv
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。 2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	毎回の講義で提出を課すレスポンスシートで出席確認／参加態度評価を行うため、出し忘れのないように注意すること。また授業時にレポートのフィードバックを実施する。

授業科目	現代社会と教育	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	二通　諭	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1602

授業概要

現代社会の諸相を捕捉しながら、それが、学校教育や子ども・若者にどのような影響を及ぼしているのかについて多角的に検討する。さらに、学校制度を形作っている教育制度と法規に関する理解を深めるとともに、現代における子どもや若者を支える社会のしくみについて考察する。加えて、教育問題に焦点化した問いを立て、解決の方途、教育政策について探究する。

到達目標

到達目標は以下の通り
①公教育制度を構成する教育関係法規を実際の学校における教育活動の場面に当てはめ、他者に説明することができる。
②現象としての教育問題について、その背景も含めて他者に説明することができる。
③学校と地域との連携による教育活動の意義について、事例に基づいて説明することができる。
④人間発達を保障する教育制度のあり方について、自分なりの提案をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用:社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション(授業の概要、評価方法、参考文献等の紹介、注意事項についての説明)
2週　教育とは何か　ー　人間発達の視座から、その本質に迫る
3週　考察課題1　私たちはどんな社会を生きているのか
4週　考察課題2　いじめや不登校がなぜ増大しているのか
5週　考察課題3　通常教育から特別支援教育への大移動がなぜ起きているのか
6週　特別ニーズ教育概観　ー　その必然性と課題
7週　子どもの貧困と虐待
8週　マイノリティと学校教育
9週　ジェンダーと学校教育
10週　考察課題4　部活動をテーマとする映画やコミックがなぜ多いのか
11週　外国ルーツの子どもと学校教育
12週　災害と教育　ー　インクルーシブ防災の視座から
13週　共生社会の形成と教育
14週　レポート作成　人間発達と教育に関する今日的テーマについて考察する
15週　授業のまとめとレポート発表

成績評価方法・基準

授業各回の課題提出50%、レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付する。

参考書等

二通諭『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』全障研出版部、その他、適宜授業内で紹介する。

クラスコード

m56z45x

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　公立小学校20年、同中学校15年の教職経験、30年に障害者・マイノリティ映画評論経験を反映させる。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習:事前に配布された資料に目を通しておくこと。
復習:授業終了時に課題を提出し、その日の授業内容を振り返る。授業で提示された資料等を読み返し、保存する。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

双方向の授業、対話的な授業を追求する。課題に対する回答を個人情報に配慮しつつ授業内で共有する場合がある。外部の諸企画、イベントへの参加を呼びかけることがある。

授業科目	観光社会学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	仙波　希望	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3711

授業概要

ダニエル・ブーアスティンは『幻影の時代』のなかで、19世紀半ばを過ぎた頃から、英語において新たな言葉として「観光客 tourist」というものが登場し、その辞書的定義が「楽しむために旅行する人」であったと指摘している。観光とはまさに社会学の黎明期に現れた現象であり、同時に近代を特徴づける実践でもある。本講義では観光社会学における多様な観点を、授業計画に散りばめたキーワードをもとに読み解いていきたい。

到達目標

【1】現代観光の特徴を理解し，社会現象としての観光が理解できるようになること。
【2】多様なキーワードを介して、観光をめぐる諸問題に関する知識を習得すること。
【3】観光事象の分析を通して、社会の変遷過程を理解できるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	イントロダクション
2週	観光の始まりとマスツーリズム
3週	観光の近代／ポストモダン
4週	聖地巡礼
5週	ジェンダーと観光
6週	ポストコロニアリズム
7週	中間レポート：ピアレビュー
8週	ナショナリズムと観光
9週	グリーンツーリズム
10週	ダークツーリズム
11週	アートツーリズム(1)理論的展開
12週	アートツーリズム(2)事例検討
13週	アートツーリズム(3)事例検討
14週	最終レポート：ピアレビュー
15週	まとめ・レポート提出

成績評価方法・基準

授業への参加の度合い（プレゼン・ディスカッション・コメントシートの内容・取り組み）30%
中間レポート30%、最終レポート40%

教科書ソフト等

講義で取り扱う内容に関するPDFを随時Googleクラスルームにアップする。

参考書等

講義内で随時提示する。

クラスコード

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにするので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・各種WebサービスとQRコードによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート&ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する
上記のように一方向の知識伝達型ではない、双方向型の講義スタイルを採用するため、積極的なコメントやディスカッションへの参加を受講者に求める。

授業科目	コミュニケーションの社会学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西脇　裕之	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 1503

授業概要

この授業の目標は、コミュニケーションの基礎と諸問題について社会学の観点から理解することです。かつてはメディアがコミュニケーションを促進し、民主主義に寄与するという楽観的な考え方がありました。しかし、現代ではインターネットが社会を分断するのではないかという危惧が抱かれています。他方で、日本社会では社会化の過程において、同調性の能力はよく獲得されても、自律性が発揮されにくいということが以前より指摘されてきました。この授業ではコミュニケーションの成り立ちについての基礎を学ぶとともに、現代そして日本社会におけるコミュニケーションをめぐるさまざまな問題を取り上げて論じていきます。

到達目標

① 私たちのコミュニケーションがどのようにして成立するのか、その基礎について説明できる。
② 集団や組織におけるコミュニケーションの問題とその対処法について論述できる。
③ 現代のメディア環境や日本社会の特徴が引き起こすコミュニケーションの問題について論述できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	ガイダンス
2週	毛づくろいと立証ゲーム
3週	気持ちのわかりあい
4週	相手の身になる
5週	欲望の模倣説
6週	「みんな」とは違う意見を言えるか
7週	パロティングと沈黙のらせん
8週	オデュッセウスの冒険から
9週	ディスコミュニケーションの機能
10週	まちがい主義と発想法
11週	集団討議のゆくえ
12週	ネットは社会の分断を促すか
13週	ネット原因説を検証する
14週	組織における属人主義の罠
15週	振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

定期試験60%、各回授業終了後にclassroomで課すミニ課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

田中辰雄、浜屋　敏（著）『ネットは社会を分断しない』角川新書、岡本浩一（著）『無責任の構造』PHP新書

クラスコード

m6c3fln

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習＝授業の最後に次回の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。
復習＝classroom上で課題に取り組む。また、前回の課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。
2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回のミニ課題についてはclassroom上でフィードバックするとともに、次回の授業時に解説を加えて復習します。

授業科目	地域社会とICT	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	井門 正美	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SC-MS 1601

授業概要

国は第5期科学技術基本計画で「Society5.0」を掲げ、仮想と現実の融合した高度情報社会、すなわちAI・IoT(Internet of Things)の進展した社会を構築し、社会的課題や新たな価値の創造による幸福社会をめざす、としている。本科目では、情報通信技術革新の概要を捉えると共に、こうした技術革新が地域社会や私たちの生活にどのような影響をもたらすのか、そして、私たちや地域社会はそうした技術をどのように活用して生活の向上や地域の活性化を図るのかということについて追究する。加えて、高度情報化が進展する社会における課題についても捉える中で、ICTの使い手である私たちには適切な運用能力が求められていることを伝え、学生諸氏のメディアリテラシーを培いたい。

到達目標

本講義は、以下の目標を設定している。
①わが国及び北海道の人口減少と少子高齢化の実態から、国や地方自治体の進める地方創生策について理解を図る。
②地方創生策と関連して国や地方自治体の進める「Society5.0」(ICT)について具体的事例に基づき理解を図る。
③北海道の地方創生策におけるICTの果たす役割について考究し、具体的事例地を挙げて提案することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル:コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション(教員自己紹介、講義概要、受講記録カードの配布と説明、評価と評定等について)
2週	第1部「地域社会」を捉える ①日本の人口減少問題と地方創生ーまち・ひと・しごと創生ー
3週	第1部「地域社会」を捉える ②北海道の人口減少問題と地方創生ーいくつかの事例地を取り上げてー
4週	第1部「地域社会」を捉える ③北海道における地方創生化策ー夕張市を手がかりにー
5週	第2部「ICT」を捉える ①「Society 5.0」とはー「第5期科学技術基本計画」ー
6週	第2部「ICT」を捉える ②ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-産業の変化-
7週	第2部「ICT」を捉える ③ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-スマートシティ-
8週	第2部「ICT」を捉える ④ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-デジタル田園都市国家構想ー
9週	第3部「役割体験ワークショップ」 ①役割体験とGS「北海道創生」ーシナリオ紹介・担当分野決定と北海道創生調査1ー
10週	第3部「役割体験ワークショップ」 ②役割体験とGS「北海道創生」ー北海道創生調査2ー
11週	第3部「役割体験ワークショップ」 ③役割体験とGS「北海道創生」ー発表スライド作成ー
12週	第3部「役割体験ワークショップ」 ④役割体験とGS「北海道創生」ースライド発表・質疑1(前半7分野)ー
13週	第3部「役割体験ワークショップ」 ⑥役割体験とGS「北海道創生」ースライド発表・質疑2(後半3分野)と北海道創生策提案ー
14週	第3部「役割体験ワークショップ」 ⑦役割体験とGS「北海道創生」事後討議ー北海道創生策とワークショップの感想、学びー
15週	講義のまとめ(講義を振り返る、評価と評定、課題「私の考えるICTを活用した北海道創生策」と提出方法等について)

成績評価方法・基準

全ての講義への積極的参加が望ましいが、特段の事情がある場合、事前や事後の連絡をしっかり行う。課題である最終レポートを提出するには、最低、2／3の出席が必要である。 なお、本講義で受講記録カードを使用する。授業のコマ毎に学んだことや考えたこと、感じたことなどを記し、質問なども記入するので、この記録も評価の対象とする。また、受講人数にもよるが、講義の中でプレゼ1ー2回実施する予定である。受講記録カード(25%)、プレゼン(15%)、最終課題レポート(60%)とする。

教科書ソフト等

井門正美著『役割実践法に基づく地域社会の創造ー人口減少社会における地域活性化策の探究ー(仮題)』(電子書籍9月刊・価格1500円予定)を使用する。講義開始前の一定期間中に著者割引で販売する。

参考書等

必要に応じ授業の中で紹介する。

クラスコード

z3yfwz4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

井門は、日本の人口減少・少子高齢化社会対策としての地方創生策、市民による地方活性化の取組について研究と実践を重ねてきた。
特に、役割実践論に基づくゲーミング・シミュレーションを活用したワークショップを実施して、体験的・協働的課題解決を図っている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習は各々90分ほど必要である。各講義テーマを確認し、事前に調べ学習をすると共に、授業後には、講義の復習をすることが欠かせない。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各自に「受講記録カード」を配布するので、各講義終了後に講義内容や質問等をしっかり記入すること。講義では、役割実践法に基づくワークショップを予定している。オンデマンド(講義録画動画)のみならず、オンラインでの講義も実施し、ワークショップを行い、共に学び合う体験学習を実施したい。

本講義は新科目(2年目)で、本年度は1年生も受講するため、講義を進める中で、受講者の実態や参加人数も踏

授業科目	芸術文化論(再履修)	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤、下濱　晶子、堀　じゅん子、 出雲路　英淳、平 利弘	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF_CE 1001

授業概要	芸術学部の音楽・美術両学科の初年次学生を対象として、芸術文化に対する視野を拡げるための科目である。音楽・美術両学科の教員が、各自の専門分野の紹介を含め、芸術についての講義オムニバス形式でおこなう。時代の流れを通して、音楽・美術の文化がどのように相互に関連し、発展してきたかを理解する。授業のコーディネートと全回を通しての成績評価を、千葉潤と下濱晶子が担当する。
到達目標	① 芸術文化に対する視野が拡がる。 ② 芸術文化に関する基礎的な知識を説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用) 美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

授業計画	
1週	ヨーロッパの教会芸術① 西洋音楽の成立 〔千葉〕
2週	ヨーロッパの教会芸術② ゴシック美術と教会建築 〔下濱〕
3週	ヨーロッパの宮廷芸術① 宮廷文化と音楽の関係 〔千葉〕
4週	ヨーロッパの宮廷芸術② 18世紀のロココ美術 〔下濱〕
5週	ヨーロッパの市民社会と芸術① ベートーヴェンの音楽 〔千葉〕
6週	ヨーロッパの市民社会と芸術② ドラクロワとロマン主義の美術 〔下濱〕
7週	ヨーロッパの近代の芸術① 印象派の美術 〔下濱〕
8週	ヨーロッパの近代の芸術② ドビュッシーと近代フランス音楽 〔千葉〕
9週	日本の仏教文化① アジアの宗教音楽(仏教音楽) 〔出雲路〕
10週	日本の仏教文化② 日本の仏教美術 〔平〕
11週	日本の武家文化① 能の歴史と音楽的要素 〔千葉〕
12週	日本の武家文化② 狩野派の盛衰 〔平〕
13週	江戸の庶民文化① 歌舞伎と聴衆の関係性 〔千葉〕
14週	江戸の庶民文化② 江戸の風俗画(浮世絵) 〔堀〕
15週	日本の近代化と伝統文化の変容　日本の近代化が美術に与えた影響と意味 〔平〕

成績評価方法・基準	中間レポート50%、期末レポート50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	vomfawx
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	各講義をよくノートしておくこと。講義内容は各分野の一部を紹介するだけなので、興味ある内容・分野については、自発的に調べて、ノートを補足しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	出席フォームの未提出や締め切りを過ぎて提出した場合は、欠席扱いとなります。欠席回についてのレポート提出は認めません。毎回、出席フォーム上で授業についての質問や意見を出してもらい、必要に応じてコメントします。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ソルフェージュC	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、阿部　佳子、後山　美菜子、平野　則子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 2003

授業概要	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜 に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、 視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 習熟度に応じた読譜・記譜ができる。 ② 様々な種類の様式や楽譜に対応し、演奏できる。 ③ 耳で聴いた楽曲を分析的にとらえることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　基礎的な課題① 視唱 3週　基礎的な課題② 和音のききとり 4週　基礎的な課題③ 和音付け 5週　札幌コンサートホールKitaraでのパイプオルガン特別講義(5/18) 6週　基礎的な課題④ 伴奏付け 7週　基礎的な課題⑤ 転調を含む和音 8週　基礎的な課題⑥ 転調を含む伴奏 9週　応用的な課題⑦ 伴奏の移調 10週　応用的な課題① 和音付け 11週　応用的な課題② 伴奏付け 12週　応用的な課題③ 転調を含む和音 13週　応用的な課題④ 伴奏の移調 14週　クラス別試験とまとめ 15週　全クラス統一試験とまとめ
成績評価方法・基準	クラス別試験40%、全クラス統一試験40%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
クラスコード	aクラス(小山)rm6ljir　bクラス(阿部)plkzqsv　cクラス(後山)2jyldqj　dクラス(平野)yxuhkpq
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラ ス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ソルフェージュD	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、阿部　佳子、後山　美菜子、平野　則子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 2004

授業概要	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜 に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、即興的な 伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 習熟度に応じた読譜・記譜ができる。 ② 様々な種類の様式や楽譜に対応し、演奏できる。 ③ 耳で聴いた楽曲を分析的にとらえ、表現することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　基礎的な課題① 楽器のききとり 3週　基礎的な課題② 編成のききとり 4週　基礎的な課題③ アンサンブルのききとり 5週　基礎的な課題④ 管弦楽の聴音 6週　基礎的な課題⑤ 分析 7週　基礎的な課題⑥ 小編成のスコアリーディング 8週　応用的な課題⑦ 大編成のスコアリーディング 9週　応用的な課題① 編成のききとり 10週　応用的な課題② 分析 11週　応用的な課題③ 管弦楽の聴音 12週　応用的な課題④ スコアリーディング 13週　応用的な課題⑤ 総合的な課題 14週　クラス別試験とまとめ 15週　全クラス統一試験とまとめ
成績評価方法・基準	クラス別試験40%、全クラス統一試験40%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	aクラス(小山)w2fvkuf　bクラス(阿部)n2x6dux　cクラス(後山)yqh3wbe　dクラス(平野)ok4qdal
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラ ス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業

授業科目	音楽史A	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 2011

授業概要

① 単に音楽作品の歴史的発展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。
② 中世におけるグレゴリオ聖歌と教会音楽の発達、ルネサンス時代の教会音楽と世俗音楽、バロック時代、古典派のそれぞれの音楽様式を理解する。

到達目標

① 各時代固有の音楽様式や形式が聴き取れるようになる。
② 各ジャンル等の成立背景、演奏環境の特徴と作品との関連が説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	中世におけるグレゴリオ聖歌の成立と多声音楽の誕生
2週	ルネサンス① 多声音楽の発展
3週	ルネサンス② 世俗音楽、器楽
4週	ルネサンス③バロックへの移行
5週	バロック① オペラの誕生
6週	バロック② 教会音楽
7週	バロック③ ソナタ、組曲
8週	バロック④ 協奏曲
9週	初期古典派の音楽① 交響曲の発達
10週	初期古典派の音楽② オペラの発展①
11週	初期古典派の音楽③ オペラの発展②
12週	古典派① ハイドンの創作と動機労作
13週	古典派② モーツァルトのオペラと器楽
14週	古典派③ ベートーヴェンの器楽1
15週	古典派④ベートーヴェンの器楽2

成績評価方法・基準

レポート課題1:50%、レポート課題2:50%

教科書ソフト等

高橋 浩子他著『西洋音楽の歴史』(東京書籍)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jnnzuih

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当する箇所を事前に予習しておくこと。授業で配布されたプリント等を録音資料 を用いて復習すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

出席フォームの提出期限は、授業動画の配信から1週間です。期限を過ぎて提出したものは欠席扱いとなります。出席フォームで復習のための質問や、授業内容への意見を聞くことがあります。必要に応じて、クラスルームで意見等を共有したりコメントしながら、フィードバックします。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	音楽史B	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 2012

授業概要

① 単に音楽作品の歴史的発展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。
② 19世紀から、近代、20世紀までの西洋音楽及び明治時代以降の日本の洋楽それぞれの音楽の特徴と時代背景との関わりを理解する。

到達目標

① 各時代固有の音楽様式や形式が聴き取れるようになる。
② 各ジャンル等の成立背景、演奏環境の特徴と作品との関連が説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	19世紀① ドイツ・リート①
2週	19世紀② ドイツ・リート②
3週	19世紀③ ピアノ音楽:性格小品とヴィルトゥオーゾ
4週	19世紀④ 標題音楽的傾向の管弦楽
5週	19世紀⑤ 絶対音楽的傾向の管弦楽
6週	19世紀⑥ イタリア・オペラ
7週	19世紀⑦ ドイツ・ロマン主義オペラ
8週	19世紀⑧ 民族主義的な傾向
9週	世紀末① フランス印象主義と音楽
10週	世紀末② 表現主義、12音音楽
11週	リズムの革新
12週	音響素材の拡大
13週	両大戦間の音楽:新古典主義、ソ連の音楽
14週	日本の洋楽受容1
15週	日本の洋楽受容2

成績評価方法・基準

レポート課題1:50%、レポート課題2:50%

教科書ソフト等

高橋 浩子他著『西洋音楽の歴史』(東京書籍)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

auzb4ea

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当する箇所を事前に予習しておくこと。授業で配布されたプリント等を録音資料 を用いて復習すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

出席フォームの提出期限は、授業動画の配信から1週間です。期限を過ぎて提出したものは欠席扱いとなります。出席フォームで復習のための質問や、授業内容への意見を聞くことがあります。必要に応じて、クラスルームで意見等を共有したりコメントしながら、フィードバックします。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ(主専攻・ピアノ)	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	PI_MS 2103、2104 PI_MS 3105、3106

授業概要	ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。 バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。 個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。
到達目標	ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る 2週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る① 3週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る② 4週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする① 5週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする② 6週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③ 7週　暗譜で演奏できるようにする① 8週　暗譜で演奏できるようにする② 9週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする① 10週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする② 11週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める① 12週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める② 13週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③ 14週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④ 15週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出する。 実技試験の演奏曲は、最低3回はレッスンを受講している楽曲とする。試験課題は別途発表する。
教科書ソフト等	各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
参考書等	「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
クラスコード	yupwfk5
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること(コピー譜可)。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・声楽）	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	VM_MS 2103、2104 VM_MS 3105、3106

授業概要

まず、基本的な呼吸法、発声法を学ぶ。
正しい立ち方から始まり、声の出し方等、声楽に必要な訓練を徹底的に行う。
教材としては声質やレヴェルに適った教材を用い、時間をかけて学習する。
伴奏は学生が担当し、併せて伴奏指導も行う。

到達目標

① 「実技演奏法Ⅰ（主科・声楽）」
声楽学習の基本であるイタリア古典歌曲を正しい発音と発声で、詩の内容を適切に表現することを目指す。
② 「実技演奏法Ⅱ（主科・声楽）」以降
様々な楽曲をそれぞれの時代の適切な音楽スタイルで演奏できるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	学生の声を聴き、その声質やレヴェルに適った教材を選択して課題を与え、次週からの学習計画を示す
2週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける①
3週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける②
4週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける③
5週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける④
6週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑤
7週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑥
8週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑦
9週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑧
10週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑨
11週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑩
12週	それまでに学んだ楽曲を歌い、その中から試験曲として1曲を選ぶ
13週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する①
14週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する②
15週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する③

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

参考書等　コンコーネ50番、他

クラスコード　gfpl64s

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無　この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間　授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。
1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報　上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・管弦打楽）	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	OI_MS 2103、2104 OI_MS 3105、3106

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。伴奏付きのレパートリーによりピアニストとのコミュニケーションやアンサンブル能力を習得する。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。日々のレッスンから指導方法を学び、指導者としてのスキルも身につける。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	a6wfv6e
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。管弦打楽コースのみ履修可。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅢ～Ⅵ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CP_MS 2103、2104 CP_MS 3105、3106

授業概要	作曲の実技指導を行います。また、必要に応じて、参考となる楽曲の鑑賞・分析や、和声法、対位法、管弦楽法の指導も行います。作曲の課題内容と、作曲方法については、各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 興味・関心に応じた楽曲を制作できる。 ② 他者の作品から、参考になる部分を学ぼうとすることができる。 ③ 作品制作で使用する楽器・機器に対する知識を身につけることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週 興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する 2週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析① 3週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析② 4週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析③ 5週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析④ 6週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑤ 7週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑥ 8週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑦ 9週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑧ 10週 試演会での作品発表、上級学年の作品を鑑賞する 11週 試演会についてのディスカッション 12週 作品制作、浄書指導、仕上げ① 13週 作品制作、浄書指導、仕上げ② 14週 作品制作、浄書指導、仕上げ③ 15週 作品制作、浄書指導、仕上げ④
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	小山:u43uxfh　内藤:ssir7f6　塚原:bot2wck　大黒:xhm3cii
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	自作品の制作は授業時間外に進めてください。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	楽譜を作成する場合は、使用する五線紙について指示する場合があります。指示があった場合はなるべく早めに用意してください。コンピュータを購入して楽曲制作をする場合は、指導教員に相談をしてください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ（主専攻・電子オルガン）	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EO_MS 2103、2104 EO_MS 3105、3106

授業概要	電子オルガンの実技指導や楽曲のアナリーゼを個人レッスンで行い、基礎的な演奏テクニックや表現力を養います。レガート奏法、タッチコントロール、ペダル奏法など必要な奏法は、楽曲の中でマスターし、必要であればエチュードを用いて補強し、スコアを用いての編曲も実習していきます。
到達目標	① 電子オルガンの奏法・表現法をマスターできる。 ② 楽曲の内容を正確に演奏・表現できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画	
1週	ガイダンス、個々のレベルに応じた楽曲の選択を行う。
2週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う①
3週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う②
4週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う③
5週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う④
6週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる①
7週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる②
8週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる③
9週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる④
10週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる①
11週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる②
12週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる③
13週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる④
14週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる⑤
15週	実技試験に向けた仕上げを行う。

成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	斉藤：3r5o4xu　播磨：b3uwzvt
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	実技試験前に試験で演奏する曲の楽譜の提出が求められます。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法各論Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	今井　常晶	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 2201

授業概要	障害児への音楽療法に焦点を当て、実際のセッションを組む際に必要となる子どものアセスメント、治療目標の設定、治療構造の設定、治療プログラム、評価の仕方や留意点について理解する。
到達目標	障害児への音楽療法の組み方(アセスメント、治療目標、治療構造、治療プログラムの評価)について説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　対象者理解について① 子どもの発達状況のアセスメント 3週　対象者理解について② 音楽活動によるアセスメント 4週　治療目標について 5週　治療構造について 6週　治療プログラムについて 7週　音楽療法の実際① 音楽療法の様々な現場 8週　音楽療法の実際② 音楽療法に用いる楽器とアプローチの方法 9週　音楽療法の実際③ 乳幼児へのアプローチ 10週　音楽療法の実際④ 学齢児・成人へのアプローチ 11週　音楽療法の実際⑤ ノードフロビンズ音楽療法 12週　音楽療法の実際⑥ 障害児を抱える親の心理 13週　音楽療法の対象者の理解 発達障害とは 14週　心理療法全体からみた音楽療法 15週　まとめ
成績評価方法・基準	レポート課題80%、平常点20%
教科書ソフト等	
参考書等	参考書『標準音楽療法入門(下)実践編』日野原重明監修 春秋社
クラスコード	pj34g6n
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、発達障害児への音楽療法の実務経験のある教員が実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	前回までの授業内容を配布資料で復習し、質問されても答えられるようにしておくこと。次回の内容についてキーワードを基に自分で調べておくこと 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	将来の音楽療法士資格取得を考え、積極的に質問することが望ましい。レポート課題について問い合わせがあれば、評価のポイントについて開示する。

授業科目	音楽療法各論Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	高田　由利子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 2202

授業概要

高齢化社会において音楽療法のニーズが高まりつつある高齢者における音楽療法について学びます。
高齢者が抱える身体面や心理面についての知識を得ることで理解を深めます。さらに、音楽療法を行う上で考慮すべき点を考えながら、高齢者にとって音楽療法がどのような役割を担っているかを学びます。
この授業ではさまざまな事例に基づき、音楽療法の目的、技法、評価について学びます。

到達目標

① 高齢者の特性を理解できる。
② 高齢者の音楽療法の必要性を認識できる。
③ 高齢者の音楽療法の目的と方法を理解し、実施内容について述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	高齢とは何か
3週	老年期が抱える問題① 心理面
4週	老年期が抱える問題② 社会面
5週	高齢者のケア
6週	高齢者の音楽療法の役割① 日本の事例
7週	高齢者の音楽療法の役割② 海外の事例
8週	高齢者の音楽療法の実践① アセスメント
9週	高齢者の音楽療法の実践② 目的設定
10週	高齢者の音楽療法の実践③ プログラムの立て方 その1
11週	高齢者の音楽療法の実践④ プログラムの立て方 その2
12週	高齢者の音楽療法の実践⑤ 評価
13週	プレゼンテーション①・フィードバック
14週	プレゼンテーション②・フィードバック
15週	授業内試験と講評

成績評価方法・基準

授業内レポート30%、授業内試験(筆記)70%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

cforr7l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で配付した資料を元に、授業計画にしたがって講義内容をノートにまとめてください。ゲストスピーカーや特別講義があります。学外施設への見学があります。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業は、一方的な講義形式ではなく、すべての参加者に発言を求めます。したがって、具体的な課題が示されない場合でも、事前の学習が必要になります。毎回のレスポンスシートについては、特に、コメントが必要と判断したものについては、授業の最初に取り上げ、口頭にてフィードバックを行います。

授業科目	音楽療法各論Ⅲ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	下出　理恵子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 3203

授業概要

① 医療分野における対象者の疾患について知識を得る。
② 医療分野、特に精神科領域、緩和ケアについて学ぶ。

到達目標

① 医療分野の基礎知識を身につけ、各分野の対象者の症状を理解できる。
② 対象者に合わせた音楽療法の目的と治療構造を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	医療と音楽療法の歴史的背景
3週	脳機能疾患と音楽療法
4週	神経難病と音楽療法①
5週	神経難病と音楽療法②
6週	その他の医療現場
7週	日本の精神医療の歴史と概要
8週	精神科領域の音楽療法①
9週	精神科領域の音楽療法②
10週	心療内科の音楽療法①
11週	心療内科の音楽療法②
12週	心療内科の音楽療法③
13週	緩和ケアの音楽療法①
14週	自分のこころと向き合う
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、授業内での発表30%、レポート20%

教科書ソフト等

参考書等

『精神領域における音楽療法ハンドブック』久保田牧子 音楽之友社 、『ホスピスケアと音楽』 中山ヒサ子 春秋社

クラスコード

qfkorjf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、音楽療法士として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に配付資料をよく読み、関連した分野の先行論文を読むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

将来の音楽療法士資格取得を考え、積極的に質問することが望ましい。

授業科目	音楽療法技能C	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	土屋　益子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 2303

授業概要	音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。また、音楽療法実践で必要となる、鍵盤楽器による伴奏付け、移調、アレンジを対象者に応じて表現する技術を習得し、臨機応変に演奏を変化させる技術を習得する。
到達目標	① コードネームを把握に、鍵盤楽器による適切な伴奏付けができる。 ② 音楽療法の対象者、そして場面に合った表現ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　オリエンテーション:授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等 2週　即興に必要なコードネームの読み方、コードの仕組み① 3週　即興に必要なコードネームの読み方、コードの仕組み② 4週　コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習① 5週　コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習② 6週　コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習③ 7週　曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習① 8週　曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習② 9週　曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習③ 10週　模擬セッション① 11週　模擬セッション② 12週　基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する① 13週　基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する② 14週　基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する③ 15週　授業内試験とまとめ
成績評価方法・基準	授業内試験50%、課題レポート30%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	5moqtoe
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業後は講義内容をノートにまとめてください。授業で扱った曲は、必ず練習をしてください。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業は毎回実技形式で行います。十分練習した上で授業内で発表すること。 授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法技能D	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	土屋　益子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MT_MS 2304

授業概要

音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。音楽的イディオム、伴奏形を自由に使い分け、行動の変化に同調させたり、反応を引き出す弾き方をしたり、臨機応変に演奏を変化させる技術を身につける。

到達目標

① 音楽的イディオム、伴奏形を使い分け、即興演奏ができる。
② 音楽療法の対象者に合わせた即興演奏ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション 授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等
2週　音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習①
3週　音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習②
4週　音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習③
5週　模擬セッション①
6週　模擬セッション②
7週　音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習①
8週　音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習②
9週　音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習③
10週　模擬セッション
11週　即興的音楽活動①
12週　即興的音楽活動②
13週　即興的音楽活動③
14週　即興的音楽活動④
15週　授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験30%、授業内での課題発表50%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

byss6gt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は講義内容をノートにまとめてください。模擬セッションは終了後にセッション映像を見て、後日レポートを提出してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は毎回実技形式で行います。自分の選曲した曲の練習をして授業に臨んでください。授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法技能E	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 3305

授業概要

音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。

到達目標

① 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた即興演奏ができる。
② 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた作曲や編曲ができる。
③ ①と②で修得したことをセッションプログラムの中で構築できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　臨床的音楽技術について 概要の説明
3週　臨床的音楽技術について ピアノで実践① (課題①)
4週　臨床的音楽技術について ピアノで実践② (課題②)
5週　臨床的音楽技術について 弦楽器、打楽器で実践①
6週　臨床的音楽技術について 弦楽器、打楽器で実践②
7週　即興演奏について 概要の説明
8週　即興演奏について 実践①(ノードフ・ロビンズアプローチ)
9週　即興演奏について 実践②(ノードフ・ロビンズアプローチ)
10週　中間発表(課題①と②)・フィードバック
11週　即興演奏について 実践①(分析的音楽療法アプローチ)
12週　即興演奏について 実践②(分析的音楽療法アプローチ)
13週　各領域(子ども、成人、高齢者、終末期、コミュニティ)における作曲と編曲の特徴①
14週　各領域(子ども、成人、高齢者、終末期、コミュニティ)における作曲と編曲の特徴②
15週　グループ発表・フィードバック

成績評価方法・基準

中間発表とグループ発表70%、参加状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

c2cyieq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。具体的な内容についてはその都度指示します。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者同士でコミュニケーションを取って課題を進める必要があります。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法技能F	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 3306

授業概要	音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。
到達目標	① 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた即興演奏ができる。 ② 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた作曲や編曲ができる。 ③ ①と②で修得したことをセッションプログラムの中で構築できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　子ども領域におけるソングライティングの方法 3週　子ども領域における合奏の編曲の方法① 4週　子ども領域における合奏の編曲の方法② 5週　精神科領域における小集団合奏のための編曲の方法① 6週　精神科領域における小集団合奏のための編曲の方法② 7週　高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための手法① 8週　高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための手法② 9週　高齢者領域での小集団合奏のための編曲の方法 10週　模擬セッションプログラムの計画① 11週　模擬セッションプログラムの計画② 12週　模擬セッションプログラムの計画③ 13週　グループ発表①・フィードバック 14週　グループ発表②・フィードバック 15週　まとめとクロージング
成績評価方法・基準	中間発表とグループ発表70%、参加状況30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	2bmbamh
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。具体的な内容についてはその都度指示します。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修者同士でコミュニケーションを取って課題を進める必要があります。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法演習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 2402

授業概要

① 音楽療法士として必要な感性化トレーニングを行う。
② ロールプレイを通して音楽療法士としての基本的な対応の技術を体得する。
③ チームケアとしてのグループ活動を体験する。

到達目標

① 対象者に合わせたプログラムの作成ができる。
② 音楽療法士として必要な感性を持つことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	芸術療法
3週	表現者としての音楽療法士について
4週	表現アートセラピーワークショップ① 概論
5週	表現アートセラピーワークショップ② 実践
6週	表現アートセラピーワークショップ③ ふりかえり
7週	創造的活動について① 事例を通して学ぶ(海外)
8週	創造的活動について② 事例を通して学ぶ(日本)
9週	創造的活動について③ 様々な旋法を使うその1
10週	創造的活動について④ 様々な旋法を使うその2
11週	グループプレゼンテーションに向けたプランニング
12週	グループワーク①
13週	グループワーク②
14週	グループワーク③
15週	発表とフィードバック

成績評価方法・基準

レポート30%、発表技術30%、発表態度40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『静かな森の大きな木』生野里花 春秋社

クラスコード

rbjxtuo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回、実技形式で進められて行きますので、事前に配布した資料や参考書をもとに予習・練習をしておいてください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

クリエイティブな活動を行うので音楽に限らず、芸術全般に対して興味を持ち情報を得るこ と。グループワークについてのフィードバックを行います。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法実習Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	土屋　益子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 2401

授業概要

実習に必要な態度を身につけ、社会福祉施設や病院実習で考慮すべき事項を学ぶ。礼儀、服装などについて確認をし、音楽療法士としてふさわしい態度を身につける。施設、病院の音楽療法を観察、記録しその後、観察内容についての疑問点を話し合い、音楽療法士としての能力を養う。

この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

① 施設、病院の仕事を理解する。
② 観察、実習の評価が適切かを理解する。
③ 知識を実習に結びつけることができる。
④ 提出物に配慮できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	施設や病院での実践と記録、評価①
2週	音楽療法士としての職業倫理、衛生管理など	17週	施設や病院での実践と記録、評価②
3週	高齢者の音楽療法の治療構造	18週	施設や病院での実践と記録、評価③
4週	高齢者の音楽療法における歌唱活動①	19週	施設や病院での実践と記録、評価④
5週	高齢者の音楽療法における歌唱活動②	20週	施設や病院での実践と記録、評価⑤
6週	高齢者の音楽療法における楽器活動①	21週	施設や病院での実践と記録、評価⑥
7週	高齢者の音楽療法における楽器活動②	22週	施設や病院での実践と記録、評価⑦
8週	高齢者の音楽療法における楽器活動③	23週	施設や病院での実践と記録、評価⑧
9週	高齢者の音楽療法におけるアクティビティ①	24週	施設や病院での実践と記録、評価⑨
10週	高齢者の音楽療法におけるアクティビティ②	25週	施設や病院での実践と記録、評価⑩
11週	高齢者の音楽療法の評価	26週	施設や病院での実践と記録、評価⑪
12週	施設や病院における他職種との連携①	27週	施設や病院での実践と記録、評価⑫
13週	施設や病院における他職種との連携②	28週	実習を通して学んだことの振り返り①
14週	音楽療法活動の見学①	29週	実習を通して学んだことの振り返り②
15週	音楽療法活動の見学②	30週	まとめ

成績評価方法・基準

実習先からの評価60%、音楽療法実習計画書20%、授業内レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

tyfr6lu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

グループでの準備を有する課題を指示します。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽療法実習は5回の実習を行う。授業内容と関連して、1～2回の学外見学を行う。
授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法実習Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	高田　由利子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 3402

授業概要

講義、演習、「音楽療法実習Ⅰ」で学んだ知識や技術を実践を通して確かなものにするとともに、音楽療法士としての姿勢や態度を学ぶ。実習生の立場をわきまえ、施設や病院の職員からの指導を受ける。

この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

① 実習の内容や目的について理解すること。
② 実習施設・病院の対象者に合ったプログラムの作成ができること。
③ 対象者に合った実践を行い、評価ができること。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	施設や病院での実践と記録・評価⑧
2週	音楽療法実習	17週	施設や病院での実践と記録・評価⑨
3週	音楽療法の治療構造① 児童領域①	18週	施設や病院での実践と記録・評価⑩
4週	音楽療法の治療構造② 児童領域②	19週	施設や病院での実践と記録・評価⑪
5週	音楽療法の治療構造③ 成人領域	20週	施設や病院での実践と記録・評価⑮
6週	音楽療法の治療構造④ 高齢者領域①	21週	音楽療法の評価の検討①
7週	音楽療法の治療構造⑤ 高齢者領域②	22週	音楽療法の評価の検討②
8週	音楽療法実習の事前指導	23週	音楽療法の評価の検討③
9週	施設や病院での実践と記録・評価①	24週	施設や病院における多職種との連携①
10週	施設や病院での実践と記録・評価②	25週	施設や病院における多職種との連携②
11週	施設や病院での実践と記録・評価③	26週	地域コミュニティにおける音楽療法の役割①
12週	施設や病院での実践と記録・評価④	27週	地域コミュニティにおける音楽療法の役割②
13週	施設や病院での実践と記録・評価⑤	28週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック
14週	施設や病院での実践と記録・評価⑥	29週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック
15週	施設や病院での実践と記録・評価⑦	30週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック

成績評価方法・基準

実習先からの評価60%、音楽療法実習計画書20%、授業内レポート20%

教科書ソフト等

静かな森の大きな木 音楽療法のためのオリジナル曲集 春秋社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hogciz5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

グループでの準備を有する課題を指示します。

実習前に事前確認する時間を確保してください

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽療法実習は5回ないしは5日間の実習を行う(研修を含む)。年に数回外部施設での訪問音楽療法を実施する。ゲストスピーカーによる特別講義があります。音楽療法コースに必要な2年次までの開講科目の修得状況から判断し、「音楽療法実習Ⅱ」への準備不足と判断した場合は、履修を認めない場合がある。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ(副専攻・[…])	配当年次	3～4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MU-MS 2103、2104 MU-MS 3105、3106

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。 選択できる楽器及び科目は別紙に記載する。
到達目標	基礎と演奏又は作曲能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内試験90%(または実技試験90%)、平常点10%。音楽総合コースの主たる副専攻楽器の場合は実技試験とする。 実技試験の評価は、複数、または授業担当者が採点の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	lhktkpz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅲ～Ⅵ(副科・[…])	配当年次	3～4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MU-MS 2113、2114 MU-MS 3115、3115

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで受ける。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、採点者の素点を合計し、算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	vwc3ee6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本美術史A	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	寺嶋　弘道、齊藤　千鶴子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA_MS 2000

授業概要

人間の創造性と感性の所産である美術について、多様な展開をとげた日本美術の歩みを各時代の代表作によって概観し、その基礎知識を学ぶとともに、人びとの暮らしや生活空間と密接に結びついた日本美術の特徴的なテーマについて、時代と空間を往来しながらその特質を学ぶ。さらにこれらの美術史を構成する美術作品が文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に果たす意義にも理解を深めつつ、機会をとらえて美術館において実作に触れ、創造性を学ぶ美的体験の一助とする。

到達目標

① 日本美術史の概略を理解し、基礎的な美術用語を適切に用いることができるようになる。
② 日本美術の特質について、具体的な事例をあげて説明できることを目指す。
③ 文化財保護や美術史研究の場である美術館での美的体験を、他者と共有し考えを表現できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

授業計画

1週	文化財へのアプローチ ： 世界遺産探訪 ― もう一人の平山郁夫とその美術館 〔寺嶋〕
2週	縄文・弥生時代の美術 ： 岡本太郎の縄文発見@東京国立博物館 〔寺嶋〕
3週	飛鳥・奈良時代の美術① ： 仏像から写経まで ― 奈良のトレンド検索 〔齊藤〕
4週	飛鳥・奈良時代の美術② ： 正倉院宝物にみる東西 ― 日本のロイヤルコレクション 〔寺嶋〕
5週	平安時代の美術① ： 浄土への祈り ―「中尊寺」「平等院」と御仏の造形 〔寺嶋〕
6週	平安時代の美術② ： 国宝「源氏物語絵巻」と「鳥獣人物戯画」を読む 〔齊藤〕
7週	鎌倉時代の美術① ： 運慶・快慶、見参！ ― もののふの時代を生きる道 〔寺嶋〕
8週	鎌倉時代の美術② ： 墨蹟クローズアップ ― 親鸞上人の書 〔齊藤〕
9週	室町・桃山時代の美術 ： 文化の伝承 ― 茶の湯の美・もてなしの心としつらえ 〔寺嶋〕
10週	江戸時代の美術① ： 厚岸・正行寺:よみがえった襖絵 ― 障壁画の時代を探る 〔寺嶋〕
11週	江戸時代の美術② ： 渓斎英泉と浮世絵の図像学 ― 江戸庶民の美意識 〔寺嶋〕
12週	近代の美術① ： 新旧アカデミズムの相克 ― 近代ニッポン・文明開化150年の光と影 〔寺嶋〕
13週	近代の美術② ： 有島武郎・三岸好太郎・本郷新 ― モダン北海道の創造者 〔寺嶋〕
14週	現代の美術 ： ホワイトキューブのジレンマ ― ポップカルチャー時代の美術館 〔寺嶋〕
15週	フィールドワーク ： 市内の美術館 / 調査と鑑賞 〔寺嶋〕

成績評価方法・基準

ミニレポート/セルフワーク(10回程度)70%、定期試験20%、アート報告書(受講確認票15回)10%

教科書ソフト等

参考書等

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、山下裕二・高岸輝『日本美術史』美術出版社、河野元昭『日本美術史入門』平凡社、神林恒道・新関伸也『日本美術101鑑賞ガイドブック』三元社、『日本術全集』(全20巻)小学館、『日本美術館』小学館

クラスコード

jq2zwdd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、美術館館長・学芸員として実務経験のある教員が、実践的教育を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業終了後は配付資料、ノート、参考書等を読み返し、講義テーマを整理しておくこと。ミニレポート/セルフワーク等の課題を速やかに作成し、期限までに提出すること。次週のトルをもとにテーマ、作家、作品について図書、インターネット等で下調べをしておくこと。美術・文化関係の展覧会や画集、テレビ番組、映画等を見るほか、観覧が有用な美術展ついては授業内において指示する。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各回とも作品画像を提示しながら授業を進めるので、授業終了後に復習し、受講確認票を兼ねた「おすすめアート報告書」を忘れず提出すること。ミニレポート/セルフワークは提出後の授業またはオンライン上で解説・評価・指導する。15週目に記載しているフィールドワークは、調査対象美術展の会期・会場等を考慮して実施日時を調整し、別途指示する。観覧料・交通費は自己負担。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	日本美術史B	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	平　利弘	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA_MS 2001

授業概要

本授業では「日本美術史A」で学んだ日本美術の歩みの概要をふまえた上で、日本美術史の画期を彩った重要な絵師や仏師に焦点をあて、その足跡と代表的な作品を学ぶ。講義では、彼らがそれぞれの時代の潮流のなかで、いかに個性的創造を成し得たのかを理解するとともに、その作家がどのような影響を後世に与え、日本の美術を豊かにしたのかに踏み込む。この科目は、美術館学芸員としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

到達目標

① 日本美術の重要な作家を知り、その作品や美意識を理解し、説明することができる。
② 各作家の時代における個性や独創性を理解し、説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

授業計画

1週	日本美術の感性～その水脈と系譜～
2週	百済観音と救世観音～仏教の始まりをたどりつつ
3週	雪舟とその時代
4週	〈障壁画のライバル〉狩野永徳と長谷川等伯
5週	〈飾るこころ　琳派1〉本阿弥光悦と俵屋宗達
6週	〈飾るこころ　琳派2〉尾形光琳と琳派の画家たち
7週	〈江戸のユルカワ〉白隠・仙崖と与謝蕪村
8週	〈伝統と革新〉円山応挙の世界
9週	〈江戸の遊行僧〉円空と木喰
10週	〈江戸の奇想〉伊藤若冲の世界
11週	〈町人美術の成熟〉葛飾北斎と浮世絵
12週	〈近代のあけぼの〉油絵の開拓者・高橋由一
13週	〈近代日本画の革新〉横山大観の世界
14週	〈近代洋画の鬼才〉三岸好太郎とモダンアート
15週	展覧会鑑賞（道立近代美術館など）

成績評価方法・基準

小課題（13回）50%、小レポート（2回）50%

教科書ソフト等

参考書等

源豊宗 著『日本美術の流れ』（新思索社、2006年）、辻惟雄 著『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2005年）、『日本美術全集』（全20巻、小学館、1996年～）

クラスコード

6mfwqxf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、美術館学芸員としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に画集、インターネット等で次回テーマを調べ、授業後には配付資料を読み返すほか、参考書等を活用して理解を深めましょう。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各回とも作品画像を提示しながら授業を進めます。毎回の授業後の小課題（ワークシート方式）、中間と最終の小レポートに取り組み、提出、それぞれに評価などを付しフィードバックを行います。そのほか、画集、テレビ番組、ラジオ、映画関係の視聴や、美術、文化関係の展覧会の観覧などを通してセンスを磨くことをお勧めします。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	造形基礎C〔油彩〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	川口 浩	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2002

授業概要

油彩画人物(裸婦・コスチューム)、静物の実技を通じ、油彩画の特性や技法を学び表現力を身につける。
この過程の中で形・構図・構成・色彩の調和(バルール)など油彩画制作における基本を学びます。
特に、色彩・マチエール・トーンの関係においては、作品制作を通じ理論的に学習します。

到達目標

① 「造形基礎B」で体験してきた画材・素材に加え、更に多様な絵具と異素材に触れることができる。
② 画材・素材と用具・用法の基礎知識を修得することができる。
③ 造形の基本となる対象物への観察力・洞察力をさらに深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自立性)

授業計画

1週	ガイダンス(授業内容・授業目的・評価方法説明)、静物(F15号)制作① 形と構図
2週	静物(F15号)制作② 色彩とバルール
3週	静物(F15号)制作③
4週	静物(F15号)制作④ 講評 ／コスチューム(F15号)制作① 形と構図
5週	コスチューム(F15号)制作②
6週	コスチューム(F15号)制作③
7週	コスチューム(F15号)制作④ 講評 ／静物(F15号)制作① 色彩とマチエール
8週	静物(F15号)制作②
9週	静物(F15号)制作③
10週	静物(F15号)制作④ 講評 ／コスチューム(F15号)制作① 人物と背景との関係
11週	コスチューム(F15号)制作②
12週	コスチューム(F15号)制作③
13週	コスチューム(F15号)制作④ ／講評裸婦(F15号)① 形体とプロポーション
14週	裸婦(F15号)②
15週	裸婦(F15号)③ 講評

成績評価方法・基準

提出作品70%、画材特性の理解度15%、平常点15%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

画集・学生参考作品

クラスコード

prt7lny

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

制作に遅れが出た場合や内容深化のために、各自時間を作って制作すること。画集やWeb上で作品を調べ、制作に反映できるよう研究をすること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

画材道具の確認と管理、補充は授業前に確実に行うこと。アトリエの使用ルールは厳守すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形基礎C〔日本画〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	平向　功一、水野　剛志	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2102

授業概要

① 写生を元に日本画を制作し、モチーフや素材の魅力を引き出す力を養う。(共通)
② 古典作品を分析し，観察力を養いながら「古典模写」を行い，伝統的な技術や技法の修得を目指す。(平向)
③ 鉛筆・水彩絵の具・日本画材を使用し、人体の形態・色合い・質感を観察し描くことで人物を表現する力を養う。

到達目標

① 対象を観察し、写生を元に絵画を創作する基本的造形態度を身につけ実践できる。(共通)
② 古典技法について理解し、表現することができる。(平向)
③ 画材・素材と用具・用法を応用し、より複雑で深い内容の表現方法と結びつけることができる。(共通)
④ 各自が使用する画材・素材と関連する新しい表現や発想の糸口を発見することができる。(共通)
⑤ 人体の理解を深め、より正確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。【自立性】

授業計画

	平向　功一(週2コマ)		水野 剛志(週2コマ)
1週	ガイダンス	1週	ガイダンス・鉛筆デッサン(人物)①
2週	植物制作(百合)写生　西洋造形と東洋造形	2週	鉛筆デッサン(人物)②
3週	植物制作(百合)本画制作　構図・構成　胡粉・水干の使用法　膠の特性等	3週	着彩デッサン(人物)①
4週	植物制作(百合)本画制作　重色・混色	4週	着彩デッサン(人物)②
5週	植物制作(百合)本画制作仕上げ　研究会	5週	着彩デッサン(人物)③
6週	静物制作　ガイダンス　モチーフ設定　写生	6週	日本画制作(人物)下図・支持体準備
7週	静物制作　写生　構図・構成	7週	日本画制作(人物)下地・転写
8週	静物制作　本画制作　　質感表現	8週	日本画制作(人物)着色・描写①
9週	静物制作　本画制作　　質感表現	9週	日本画制作(人物)着色・描写②
10週	静物制作　本画制作　仕上げ　研究会	10週	日本画制作(人物)着色・描写③
11週	古典模写　ガイダンス　上写し用具説明	11週	日本画制作(人物)着色・描写④
12週	古典模写　模写制作　上写し	12週	日本画制作(人物)着色・描写⑤
13週	古典模写　模写制作　古色表現	13週	日本画制作(人物)着色・描写⑥
14週	古典模写　模写制作　裏打ち	14週	日本画制作(人物)着色・描写⑦
15週	まとめ・研究会	15週	日本画制作(人物)仕上げ・まとめ講評

成績評価方法・基準

植物をしっかりと観察し日本画材・素材の特性を活かし制作されているか25%、対象物を古典技法を理解し、表現することができたか25%(平向クラス)
人物を正確にとらえ表現しているか(25%)日本画材・素材の特性を理解し制作されているか25%(水野クラス)

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

otrkdbo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

技術向上のため、美術館などに足を運び常に研究すること。図書館で画集、技術書を見ること。 自画像や人物デッサンの 用紙代(ニューTMKポスター 紙を使用)を徴収します。 デッサン用具(鉛筆・練り消し、着彩道具など)、各自用意してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

絵具・用具などの日本画用具一式は事前に指示しますので履修者が各自購入してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形基礎C〔立体〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	国松　希根太	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2302

授業概要

「造形基礎C」は、油彩と日本画と立体があり、このシラバスは立体について説明します。
この授業は週4コマ15週(60回)の授業で、丸太を使った木彫の基本的技術の習得と立体制作における自己表現の確立を目指す。また木材としての素材の魅力を理解、考察した造形表現を探る。

到達目標

① 道具・工具の安全且つ正しい扱い方と基本的技術を修得し、作品化できる。
② 素材と自己の関わりを考察し、自己表現として造形することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	ガイダンス 素材の説明、造形作品紹介、鑑賞
2週	工具・道具の使い方、ノミの研ぎ方等説明
3週	素材のサイズや質感を考慮したイメージスケッチ
4週	水粘土等によるマケット制作
5週	制作計画、ディスカッション
6週	実制作開始、木材に墨入れ、デッサン
7週	木取り、部材切り出し
8週	粗削り開始
9週	形態彫り出し
10週	必要に応じ寄せ木加工などの作業
11週	細部形成
12週	ひび割れや欠けなどの修正作業
13週	研磨・着色などの作業
14週	細部も含め、全体の仕上げ作業、完成
15週	講評、総合評価とまとめ

成績評価方法・基準

提出作品80%(積極的な試行や実践ができたか)、積極的な制作姿勢20%(次年度につながる自己探求を意識しているか)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pbdio6i

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

制作意図の立ち上げの過程から、制作上のルール、工夫など、制作の一部始終を、復習作業として毎時後、制作ノートに纏めていくこと。また様々な展示や発表を鑑賞し、制作への応用意識を高めていくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

作業に相応しい装備で受講すること。自主性をもって作業の安全管理、工具・道具の整備、作業後の清掃に協力すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形基礎D〔油彩〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	松村　繁、佐々木　剛	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2003

授業概要

「造形基礎D」は、油彩と日本画と立体があり、このシラバスは油彩について説明します。
さらに、この授業は週4コマ15週(60回)の授業で、週前半を松村繁 、週後半は佐々木が担当します。
① 「造形基礎C」で学んだ対象の存在表現や空間表現を更に深めていく。
② 人体の表面のみにとらわれる事なく、内部構造に対する理解を深めた表現を目指す。
③ 人体の在り方を深く分析できる観察力をつけ、自分の感覚に合う画材の特性を引き出すことで表現力を養っていく。

到達目標

① 人体の比率・骨格・筋肉などの内部構造を学ぶ事によって、より自然な人体を描くことができる。
② 人体と周囲の空間を、明暗や色彩の関わりを活かして表現することができる。
③ 画材・素材と用具・用法を応用し、より実感のある色彩的魅力を表現することができる。
④ 自己の表現、思考について発表することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	課題1 人体頭部細密素描1 頭部撮影(B3画用紙) (以下　木曜日松村)	課題1 人体素描Ⅰ① 正確な比率(木炭紙大画用紙、白鳥画紙) (以下　金曜日佐々木)
2週	課題1 人体頭部細密素描2　制作 ポーズと構図の関係	課題1 人体素描Ⅰ②　制作、比率と構造(視点、骨格、筋肉)の理解
3週	課題1 人体頭部細密素描3 制作 頭部質感差の表現	課題1 人体素描Ⅰ③線の素描と調子の素描の違い
4週	課題1 人体頭部細密素描4 制作 頭部細部と全体	課題1 人体素描Ⅰ④ 時代、地域による素描の変遷
5週	課題1 人体頭部細蜜素描5 制作 頭部質感差の表現	課題1 人体素描Ⅰ⑤ 全体の把握、講評
6週	課題1 人体頭部細密素描6 制作　完成作品講評	課題2 人体素描Ⅱ① Ⅰを踏まえ制作
7週	課題2 人差し指細密着彩1 制作 肌色表現(色彩パッチ制作)	課題2 人体素描Ⅱ② 全体の把握
8週	課題2 人差し指細密着彩2 制作 肌色表現 完成作品講評	課題2 人体素描Ⅱ③ 別紙に骨格、筋肉の素描
9週	課題3 人体頭部細密着彩1 制作 下描き	課題2 人体素描Ⅱ④ 全体の把握
10週	課題3 人体頭部細密着彩2 制作 色彩を観察し頭部描写	課題2 人体素描Ⅱ⑤ ①②と③④の統合、講評
11週	課題3 人体頭部細密着彩3 制作 頭部骨格と筋肉	課題3 人体油彩①　(F15～20号)デッサンを元に制作
12週	課題3 人体頭部細密着彩4 制作 頭部細部と全体	課題3 人体油彩② 明度と色彩、固有色と補色、反対色の関係
13週	課題3 人体頭部細密着彩5 制作 頭部質感差描画	課題3 人物油彩③ 古典絵画技法の「人肌」
14週	課題3 人体頭部細密着彩6 制作 肌と眼球の質感差表現	課題3 人体油彩④ 既存絵画の色彩
15週	課題3 人体頭部細密着彩7 制作　完成作品講評	課題3 人体油彩⑤ 既存絵画の色彩

成績評価方法・基準

構成力と空間表現25%、人体内部構造の理解度25%、効果的な画材表現25%、完成度25%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

mnlwgu4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

モデルの許可が得られた場合は写真を活用し、撮影不可の場合は授業内で細部スケッチを複数制作し、それを元に授業時間外にも積極的な制作を行なうこと。自画像の場合はいつでも同じ状況を作れるので、次回の授業までの間に必ず制作時間を確保し作品を進めた状態で次の授業に参加すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「頭部細密描写」B3画用紙、F10～15号キャンバス・「人物素描」木炭紙大西洋紙・「人体油彩」F15～20号キャンバスを用意すること。毎回の講評時に作品を提出する。アトリエ内制作するための大切な場である。全員が協力し、緊張感ある空間にする様に心がけること。(私語の禁止・身の回りの整理整頓)

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形基礎D〔日本画〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	平向　功一	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2103

授業概要

「造形基礎D」は、油彩と日本画と立体があり、このシラバスは日本画について説明します。
① 「造形基礎C」で学んだ日本画の表現を基に，和紙や膠、箔などの日本画の独特な画材について「素材研究」を行い更に深く学ぶ。
② 古典作品を分析し，観察力を養いながら「古典模写」を行い，伝統的な技術や技法の修得を目指す。
③ 与えられたテーマや各自の表現テーマを深め、そのイメージにあった技法や表現方法をもちいて制作できる。
④ 伝統的な「表装」や「篆刻」について理解を深め，自らの現代的な表現へと応用できる力を養っていく。

到達目標

① 「造形基礎C」で体験した画材・素材の特徴を更に深く学ぶことによって、それらを自分の表現に合わせて使いこなすことができる。
② 古典技法について理解し、表現することができる。
③ 画材・素材と用具・用法を応用し、より複雑で深い内容の表現方法と結びつけることができる。
④ 各自が使用する画材・素材と関連する新しい表現や発想の糸口を発見することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

1週	ガイダンス・箔を使った古典技法①　箔について・面蓋の技法
2週	箔を使った古典技法②　箔あかしと箔押し・切箔と砂子技法
3週	箔を使った古典技法③　狩野派の模写
4週	動物写生
5週	「動物を描く」①構想・小下図
6週	「動物を描く」②下絵の制作・彩色
7週	「動物を描く」③彩色
8週	「動物を描く」④仕上げ・まとめ
9週	自由課題①　構想・下図制作
10週	自由課題②　パネル製作・和紙裏打ち
11週	自由課題③　彩色
12週	自由課題④　彩色
13週	自由課題⑤　彩色・仕上げ
14週	表装と篆刻
15週	自由課題⑥　彩色・仕上げ・まとめ

成績評価方法・基準

古典技法（箔）を理解し、表現することができたか20%、日本画材・素材の特性を応用し制作されているか30%、新しい表現を模索するための積極的な取り組み50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

otrkdbo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

技術向上のため、美術館などに足を運び常に研究すること。図書館で画集、技術書を見ること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

屋外での写生を実施します。篆刻については外部から講師を招き実施します。絵具・用具などの日本画用具一式は履修者が各自購入してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	造形基礎D〔立体〕	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	松隈　康夫、川上　理恵	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 2303

授業概要

「造形基礎D」は、油彩と日本画と立体があり、このシラバスは立体について説明します。さらに、この授業は週4コマ15週（60回）の授業で、週前半2コマを金属造形（川上理恵担当）と週後半2コマを塑像（松隈康夫担当）の制作を行い、それぞれ30回ずつ実施する。なお、金属造形と塑造の授業概要は次のとおりとなる。
① 各素材を立体作品に展開することについての基礎を学ぶ。
② 金属造形は金属を使用した立体作品制作を通して、素材の特徴や魅力を理解し、構成やバランスを考察する。
③ 塑造は粘土を使用した首像の制作を通して、人体の構造を把握し、空間や量感を探究する。

到達目標

① 「造形基礎C」で体験した「カービング」とは違った制作をする事で、より効果的で深い内容の表現方法を膨らませる事ができる。
② 素材の特徴の理解を深めることによって、それらを自分の表現に合わせて使いこなすことができる。
③ 素材や加工方法に関連する新しい表現や発想の糸口を発見することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

	金属造形 [川上]		塑造 [松隈]
1週前半	金属作品の紹介、鑑賞、課題主旨説明	1週後半	塑像作品の紹介、鑑賞
2週前半	機械・道具の扱い方の指導	2週後半	粘土練り
3週前半	アイデア展開、エスキースチェック	3週後半	デッサン
4週前半	マケット制作	4週後半	芯棒制作、粘土粗付け作業
5週前半	作業計画、ディスカッション	5週後半	制作①
6週前半	実制作開始、パーツ切り出し	6週後半	制作②
7週前半	プラズマカッターによるパーツ切断作業	7週後半	制作③
8週前半	グラインダーなどによるパーツ成形	8週後半	制作④
9週前半	パーツ成形継続(金槌による鍛造など)	9週後半	制作⑤
10週前半	ボール盤やハンドドリルによる穴あけ作業	10週後半	制作⑥
11週前半	溶接機やボルトナットによる接合作業	11週後半	石膏取り① 雌型製作、粘土掻き出し、型洗浄
12週前半	接合作業継続	12週後半	石膏取り② 麻繊維(スタッフ)準備、離型剤塗布
13週前半	接合作業の仕上げと細部成形	13週後半	石膏取り③ 雄型製作作業(振りかけ・張込み)
14週前半	錆びつけ、研磨仕上げ、完成	14週後半	石膏取り④ 割り出し、修正作業
15週前半	制作発表、個人講評、振り返りとまとめ	15週後半	制作発表、個人講評、振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

素材の特性を理解・応用し、制作されているか40%、新しい表現を模索するための積極的な取り組みができたか40%、素材に応じた制作方法を習得し、安全、正確に作業することができたか20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wgq47zw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時間外も利用し可能な限り沢山のエスキースを展開しておくこと。
また立体的な外観図を描けるようにしておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

作業に相応しい装備で授業に臨むこと。自主性をもって作業の安全管理、機材、道具の整備、作業後の清掃に協力すること。原則として講評時の無断欠席者は、課題未提出と見なし、単位取得不可とする。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	油彩研究A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	佐々木剛	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3004

授業概要	造形基礎で修得した内容を基盤とし、的確な形態の把握や構成、空間表現をさらに確実なものにより高度な造形表現を追求する。課題として与えられたテーマを各自が咀嚼し、展開する体験を通して自分の適性を探りながら、表現の幅を広げることを目標とする。学生の制作意図や表現の方向性に沿って主題を深め、それを具現化するための画面構成や、素材と技法のもたらす表現効果などについて制作を繰り返し、研究検証し、表現することの入口とする。
到達目標	① 形態や空間を更に的確に表現することができる。 ② 個々の使用表現素材の特性を理解、工夫し、表現の幅を広げることができる。 ③ 各自の制作意図を明快にし、表現することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性) 4 コミュニケーション能力や問題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス 環境整備	人体1－① 20～30号
2週	人体1－②	人体1-③
3週	人体1－④	人体1－⑤
4週	人体1－⑥	人体1－⑦ 講評
5週	空間と人体2－①	空間と人体2－②
6週	空間と人体2－③	空間と人体2－④
7週	空間と人体2－⑤	空間と人体2－⑥
8週	空間と人体2－⑦	空間と人体2－⑧ 講評
9週	抽象画演習＝静物ドローイング①	抽象画演習＝静物ドローイング②
10週	抽象画演習＝静物ドローイング③	抽象画演習＝静物ペインティング④
11週	抽象画演習＝静物ペインテイング	抽象画演習＝静物ペインテイング⑥ 講評
12週	人体と絵画空間:ドローイング①	人体と絵画空間:ドローイング②
13週	人体と絵画空間;ドローイング③	人体と絵画空間:ペインテイング④
14週	人体と絵画空間:ペインティング⑤	人体と絵画空間:ペインテイング⑥
15週	人体と絵画空間:ペインテイング⑦	人体と絵画空間:ペインテイング⑧ 講評

成績評価方法・基準	適格な形態の把握30%、構成・空間表現30%、表現素材の理解20%、表現テーマに対する取り組み20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	qy64vou
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	画面全体を確認し、加筆訂正できるところはしておくこと。次回授業で無駄のない制作ができるよ うに、また、授業内で指導指摘された点が、次回の制作に繋がるように計画を立てておくこと。
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	支持体の用意、エスキースの制作などの準備を怠らないこと。 用具の点検、整備、補充を確実にしておくこと。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	油彩研究B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	松村　繁	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3005

授業概要

「油彩研究A」で習得した内容を基盤とした形態の把握や空間表現との関わりを更に深めて行く。この授業は週4コマ15週(60回)の授業で、松村繁が担当する。また対象物と向き合って制作する以外に、各自の内面にあるイメージを具現化させるために、画材の特性を生かしながら模索していく。また本授業は3年生最後の授業であるため、卒業制作のアイデア探求につながる「制作資料」を作成する。この資料作成を通して、自分の中にある「描くべきテーマ」を見つけ出す手掛かりにしていく。

到達目標

① モチーフのバランスや動きを把握しながら簡略化と細部描写を組み合わせて表現することができる。
② モチーフと背景の関わりを、画面全体の明暗・色彩バランスを理解しながらより的確に表現できる。
③ 自分のイメージに合った形態や空間を画面の中で的確に表現することができる。
④ 自己の表現、思考について発表することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　課題1 授業概要説明後に、制作資料作成① 制作 自分が影響を受けたもの[松村]
2週　課題1 制作資料② 制作 集めた資料を基にプレゼンテーション [松村]
3週　課題2 人物画① 制作、プロポーションと背景構成 [松村]
4週　課題2 人物画② 制作、描き込みの狙いと省略を意識(B3前後の画用紙) [松村]
5週　課題2 人物画③ 制作、全体と細部を意識し完成 [松村]
6週　課題3 自由課題(自分のイメージを探る)① 制作 モノクロエスキース [松村]
7週　課題3 自由課題(自分のイメージを探る)② 制作 エスキース用資料収集 [松村]
8週　課題3 自由課題(自分のイメージを探る)③ 制作 色彩エスキース [松村]
9週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)① 制作 エスキースを元に本作(50号キャンバス) [松村]
10週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)② 制作 全体の明暗計画 [松村]
11週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)③ 制作 全体の色調計画 [松村]
12週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)④ 制作 主役と脇役バランスを意識 [松村]
13週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)⑤ 制作 質感とマチエールを意識 [松村]
14週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)⑥ 制作 全体を意識した細部表現 [松村]
15週　課題4 自由課題(自分のイメージを具現化)⑦ 制作 完成 [松村]

成績評価方法・基準

モチーフの明確な把握20%、構成と空間25%、自由な空間表現力25%、絵画空間に対する柔軟な発想力30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bvuluxf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

この授業では、自分のイメージを言語化して発表するためのレポートを作成します。レポート作成のために必要な資料収集は授業時間外に済ませ、授業時間では制作に専念出るようにしてください。課題提出日までは授業内外を問わず、全てが制作時間だと捉えて積極的に画面上での模索を続けてください。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

アトリエ内は制作するための大切な場です。全員が協力し、緊張感ある空間にしていく事を心がけて下さい。また自分のイメージを画面上で作り上げるためには、積み上げた作を動かしていく試行錯誤の時間も重要です。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本画研究A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	朝地　信介、水野　剛志	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3104

授業概要

本授業では日本画における基本的な造形力を養うため、「素材」や「風景」をテーマに自己の表現を追及し ていく。
① 前半の「素材」をテーマとした課題では、日本画の伝統的な画材や手法と共に様々な素材を製作・活用し、素材や表現の理解を深めるための作品制作を行う。
② 後半の「風景」の課題制作では、北海道の四季をテーマに、自然の光や色、空気感をとらえ、自由で個性的な表現へと発展させながら日本画作品を制作することを目指す。

到達目標

① 素材の製作・活用を通して素材への理解を深めることができる。
② 様々な画材・素材や手法を活用して、独創的な表現をすることができる。
③ 季節感や自然の光や色、空気感をとらえ、自由に表現することができる。
④ 構図の基本や空間表現を意識し表現できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	素材を知る／前半ガイダンス、素材収集フィールドワーク　〔朝地〕
2週	素材を活用する／素材・顔料製作　〔朝地〕
3週	素材を活用する／マチエール試作　〔朝地〕
4週	作品制作①　構想、素材検討　〔朝地〕
5週	作品制作②　基底材・下地制作　〔朝地〕
6週	作品制作③　着彩、素材活用　〔朝地〕
7週	作品制作④　仕上げ、講評　〔朝地〕
8週	自然を描く / 後半ガイダンス、描きたいものを考えテーマを設定、エスキス制作、提出作品の大きさ決める・素材技術研究〔水野〕
9週	本画制作①　情報収集やスケッチ、支持体の制作、下図（着彩）、素材技法研究　〔水野〕
10週	本画制作②　下図（着彩）、下地制作、転写、素材技法研究　〔水野〕
11週	本画制作③　下地着色　〔水野〕
12週	本画制作④　着色描写　〔水野〕
13週	本画制作⑤　着色描写　〔水野〕
14週	本画制作⑥　着色描写　〔水野〕
15週	本画制作⑦　仕上げ・講評〔水野〕

成績評価方法・基準

【前半】 素材・顔料製作10%、マチエール試作10%、課題作品制作（10号～20号程度・形態自由）30%
【後半】 フィールドワーク資料・スケッチ・下図着彩資料：10%・素材技法研究作品（0号×3枚）：10%・課題作品制作 （F10号）：30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

クラスコード

iniczn3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

2週：作品で使用する素材を持参。4週：基底材となる材料（10～20号分）を持参。素材の活用を考える。8週：持参するものクロッキー帳（大きさ自由）、素材研究用パネルF0号程度：3枚。提出作品の大きさ：F10号。用紙は雲肌麻紙を使用する予定です（当日、用紙代を徴収します。約4000円）

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

フィールドワークの実施について、前半は大学近隣の公園や豊平川周辺での素材収集を、後半は開拓の村で学外写生授業を行う予定です。事前に指示された用紙や用具、材料を揃えておくこと。授業開始後はその都度指示します。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本画研究B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	平向　功一	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3105

授業概要

・本授業では「日本画研究A」での素材研究などの実践を生かし、身の回りの静物や風景、動物などをテーマに、日本画を単なる素材や表現技法としてだけではなく、現代に生きるわたくしを表現する手法としてどう捉えるか、写生を通して自己の内面を探り、素材や技法を選択し、作品として発信する力を育てたい。
・日本の手漉き和紙文化に触れ、自ら和紙を漉く経験を通してその特徴と可能性を体得させたい。
・北海道に生息するエゾシカを原料とする膠を製造する。・自ら製造した基底材と固着材を使用し作品を制作する。

到達目標

① 各自が既に持つ課題や追及したいテーマを確認し、それをさらに深めるための写生を重ねることができ る。
② 各自のテーマにそって取材や構想を重ね、表現技法を選択し作品制作を進めることができる。
③ 楮(コウゾ)と黄蜀葵(トロロアオイ)を用いた手漉き和紙制作を経験し、日本の和紙文化への理解を深め、制作に生かすことができる。
④ エゾシカ由来の膠を自ら製造し伝統的な固着剤への理解を深める。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション・写生
2週　樹皮を描く①写生・岩絵の具の特性について
3週　樹皮を描く②下図・彩色
4週　樹皮を描く③彩色
5週　樹皮を描く④彩色
6週　樹皮を描く⑤仕上げ
7週　自由課題①　構想・小下図
8週　自由課題②　パネル製作・和紙裏打ち
9週　自由課題③　下図制作
10週　楮紙素を使った手漉き和紙の制作
11週　自由課題④　彩色
12週　自由課題⑤　彩色
13週　自由課題⑥　彩色
14週　自由課題⑦　彩色・仕上げ・まとめ
15週　エゾシカ膠の製造

成績評価方法・基準

① 写生を通して自らの主題「動物を描く」「心象を描く」を決定し、主題を的確に伝える為の構図構成を深めることができたか30%
② 画材を用いることへの意識を高め、自らの主題を生かす表現方法を研究し実践することができたか50%
③ 楮(コウゾ)を用いた和紙の制作やエゾシカ由来の膠の製造を通してその表現の可能性に気付くことができたか20%

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zdouvi5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修も行う。

週に5時間程度5回以内

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

日本画分野の学生は必修。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画研究A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	吉田　潤、坂東　伸之	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3204

授業概要

本科目は、週4コマ15週(60回)の授業で、週前半2コマを木版画(吉田潤担当)と週後半2コマをシルクスクリーン(坂東伸之担当)の制作を行い、それぞれ30回ずつ実施する。なお、版画とシルクスクリーンの授業概要は次のとおりとなる。
① 日本が世界に誇る伝統水性多色木版画(錦絵)の技法、製版と摺版について制作を通して学ぶ。加えて木口木版画技法を学び、幅の広い表現力を身につける。伝統を学び、さらに新しい創意と工夫を加えて現代木版画の創造に努める。
② シルクスクリーンは、版画のひとつの特徴である複数性に優れ、印刷技術として広く知られている版種である。ここではファインアートとしての作品制作を考える。シルクスクリーンの基礎的な特徴を踏まえながら、製版技術と刷り、表現力を養う。

到達目標

版種における表現の多様性を自主的に研究するフィールドを作り、授業内で制作する作品には各版画の技法、手段を効果的に表現者の意図に反映することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

	木版画 [吉田]	シルクスクリーン [坂東]
1週前半	概要説明、木版画の歴史、作品紹介と鑑賞	1週後半　オリエンテーション 歴史、特徴
2週前半	課題1-①　エスキース、版下絵制作	2週後半　課題1-①　エスキース、プランニング
3週前半	課題1-②　彫り(1)、彫版の技法、道具の扱い方	3週後半　課題1-②　制作
4週前半	課題1-③　彫り(2)	4週後半　課題1-③　制作
5週前半	課題1-④　校合摺り、色版制作(版分解)	5週後半　課題1-④　講評
6週前半	課題1-⑤　色版彫り(1)	6週後半　課題2-①　エスキース、プランニング
7週前半	課題1-⑥　色版彫り(2)	7週後半　課題2-②　写真製版用フィルム作成
8週前半	課題1-⑦　試摺り、紙の湿し方	8週後半　課題2-③　写真製版用フィルム作成
9週前半	課題1-⑧　本摺り(1)、摺版の技法の理解	9週後半　課題2-④　写真製版用フィルム作成
10週前半	課題1-⑨　本摺り(2)、作品の乾燥方法(水張り)	10週後半　課題2-⑤　写真製版用フィルム製版、刷り
11週前半	課題1-⑩　本摺り(3)、多色木版画の完成	11週後半　課題2-⑥　写真製版用フィルム製版、刷り
12週前半	課題2-①　木口木版画(下絵の制作、彫り技法)	12週後半　課題2-⑦　写真製版用フィルム刷り
13週前半	課題2-②　木口木版画(彫り、摺り技法)	13週後半　課題2-⑧　写真製版用フィルム刷り
14週前半	課題2-③　木口木版画(裏打ち、完成)	14週後半　課題2-⑨　写真製版用フィルム刷り
15週前半	作品のプレゼンテーションと講評 [吉田]	15週後半　作品のプレゼンテーションと講評[坂東]

成績評価方法・基準

技法研究に対する積極的な姿勢20%、提出された作品の完成度80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

styiebt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

作品のアイデア、エスキースは十分に時間をかけて準備し、完成作品に臨む。版画の展覧会に限らず積極的に美術館やギャラリーの企画展を鑑賞する。版画室の空き時間、放課後を利用して自由制作作品を制作する。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

4年次の卒業制作に向けて、木版画とシルクスクリーンの技法を習得し表現力を高める努力 をする。
汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画研究B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	鳴海　伸一	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3205

授業概要

① 凹版形式の版種として銅版画を扱う。直刻・腐蝕などの製版方法を理解し、実験、検証、研究、応用制作と向き合うことによって個性的かつ発展的な表現を模索する。
②平版形式の版種として印刷技術の原点となる石版画を扱う。版材、描画材の違いによる表現方法の多様性や、仕上げ方法などその特性を版表現の手段として使いこなす力を養う。

到達目標

① 凹凸版、平版の理解を深め、広い版表現を身につけることができる。
② 版画の基礎研究をもとに自己表現への応用展開ができる。
③ 次年の卒業制作、自主制作に向け、予算・制作作業など計画的で安全な制作方法を習得する。

学科のディプロマ・ポリシー

3　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

1　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	銅版画① ガイダンス、凹版魅力について。版画史、ノントクシック制作について。
2週	銅版画② 直刻法ードライポイント、エングレーヴィング
3週	銅版画③ 直刻法ーメゾチント
4週	銅版画④ 腐蝕法ーエッチング、アクアチント、ディープエッチング
5週	銅版画⑤ 腐蝕法ーリフトグランド、転写法
6週	銅版画⑥ 腐蝕法ー応用技法
7週	銅版画⑦ 印刷応用ー凹凸版刷り、雁皮刷り、ヘイター法、はがし刷り、石膏刷り
8週	石版画① ガイダンス、平版の魅力について。制作のスケジュール確認と石版の研磨
9週	石版画② 描画および製版方法について解説と実践
10週	石版画③ 石版研磨と製版
11週	石版画④ 刷りと基礎研究のまとめ・研究制作への応用
12週	研究制作① 研究制作 描画・製版
13週	研究制作② 研究制作 製版・刷り
14週	研究制作③ 研究制作 刷り
15週	「版画研究B」のまとめ　作品発表方法、額装、展示方法について

成績評価方法・基準

銅版画50%（提出作品の魅力・完成度（発想力・構成力・技術力）35%、積極的な意欲・姿勢15%）、
石版画50%（提出作品の魅力・完成度（発想力・構成力・技術力）35%、積極的な意欲・姿勢15%）

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

x42x2wb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

学内図書館等を利用し、版画に関する書籍(作品集、技法書など)を閲覧しておいて下さい。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	立体造形研究A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	藤本　和彦	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3304

授業概要

この授業は週4コマ15週(60回)の授業で、石彫制作をおこなう。素材として抵抗感の強い「石」の特徴や魅力の探求と存在感を意識した表現の可能性を追求する。またカービングの中では扱いにくい素材である「石材」の加工を通して、立体としての「もの」の捉え方や見方、素材や造形に対する「造形意識」を高める。

到達目標

① それぞれの場面で、機械・工具・道具などを正しく安全に扱うことができる。
② 素材の特長を理解し、それをいかした独自の発想による表現を追求することができる。
③ 表現としての「大きさ」について考察でき、選択した思考や形態、状況にあったスケールを選択することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス、受講留意点の説明、石彫作品の紹介・鑑賞
2週	石の彫り方、工具・道具の扱い方の説明
3週	アイデア展開、イメージスケッチ・エスキース
4週	水粘土によるマケット制作
5週	彫りだしに向けた作業スペースの準備や工具のメンテナンス
6週	実制作1(石材への墨入れ、作図、スケッチ)
7週	実制作2(ドリル、せり矢による矢割り、粗彫り開始)
8週	実制作3(石ノミ・コヤスケ・ダイヤモンドカッターによる粗彫り作業)
9週	実制作4(石ノミ・コヤスケ・ダイヤモンドカッターによる粗彫り継続)
10週	実制作5(ダイヤモンドカッター・カップを使った成形)
11週	実制作6(粗彫りからカップ、石ノミを使った細部形成)
12週	実制作7(細部形成やビシャン等を使ったマチエール表現)
13週	実制作8(砥石による手磨きや極小ノミを使った細部形成作業)
14週	実制作9(完成度を探った全体確認と仕上げ)
15週	制作発表・個人講評・振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

提出作品60%(丁寧かつ創意ある制作だったか)、制作ノート20%(正確な記録、復習的に分析されているか)、積極的な制作姿勢 20%(自発的な展開、集中した作業であったか)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pzsybar

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

制作意図立ち上げの過程から、道具・工具の扱いや制作の工夫、展示計画までを、制作ノートとしてまとめること。完成度、クオリティーの向上のための「制作」について考察しておき、毎時後かならず確認作業を入れ、制作ノートをまとめておくこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

作業に相応しい装備で受講すること。自主性をもって作業の安全管理、機材、道具の整備、作業後の清掃に協力すること。素材についての考察、実験を重ね、深化させておくこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	立体造形研究B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	国松　希根太	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 3305

授業概要

この授業は週4コマ15週(60回)の授業で、塑像による等身大人体の制作である。
生命、空間、動きといったことを意識し塑像における立体表現と自己表現の可能性を追求する。

到達目標

① 人体表現を通して自己発見、自己表現できる。
② 塑像における造形技法の習得、型取りができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス、造形作品の紹介、鑑賞
2週	多方向からのモデルのデッサン
3週	粘土練り
4週	芯棒制作
5週	地山作り、胴体部分への粘土付け
6週	動き、バランスを見ながらの足 制作
7週	全体のムーブマンを見ながらの頭部、手部の制作
8週	全体の骨格、ボリュームを意識した制作
9週	生命、空間を意識した細部制作
10週	細部を含めた全体の仕上げ作業
11週	石膏取り:切金入れ、石膏ふりかけ、塗り込み作業
12週	粘土掻き出し作業、雌型乾燥
13週	雌型への石膏ふりかけ、スタッフ(繊維状補強材)貼り込み作業
14週	割り出し、修正作業
15週	講評とまとめ

成績評価方法・基準

提出作品80%(積極的な試行や実践ができたか)、積極的な制作姿勢20%(次年度につながる自己探求を意識しているか)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ufriogo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

制作意図の立ち上げの過程から、制作上のルール、工夫など、一部始終を復習作業として毎時後、制作ノートにまとめておくこと。授業前に配布資料をよく読んでおくこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

作業に相応しい装備で受講すること。自主性をもって道具の整備や作業後の清掃に協力すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア基礎C	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鳥宮　尚道、宮本　一行	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 2402、2502 EM_MS 2602、2702

授業概要

① プロダクト(デジタルファブリケーション)
　身の回りで使用している製品を取り上げ、使用されている状況をよく観察した上で新たな解釈でリ・デザインを行い、最終的に簡易モデルを制作することによって提案能力を身につける。(前半8週)
② UI/UXデザイン
　モバイルアプリやWebサイトなどのインタラクティブなコンテンツデザインについて自らプロトタイプを制作し、提案するとともに、検証するスキルを身につける。(後半7週)

到達目標

① 日々の行動や身の回りの情報について観察する目を養うことができる。
② 自らの提案についてプロトタイプを制作し表現することができる。
③ 提案を検証し使いやすさについて理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	課題概要説明、素材加工法、デジタルファブリケーションの使い方 （宮本）
2週	コンセプト立案、アイデア出し （宮本）
3週	プロトタイプの設計 （宮本）
4週	プロトタイプの制作① （宮本）
5週	プロトタイプの制作② （宮本）
6週	プロトタイプの制作③ （宮本）
7週	撮影、提案パネル制作 （宮本）
8週	プレデンテーション、講評会 （宮本）
9週	課題概要説明、Adobe XD説明 （鳥宮）
10週	既存調査、コンテンツ立案、アイデア出し （鳥宮）
11週	ラフデザイン （鳥宮）
12週	制作(鳥宮)
13週	検証・修正 （鳥宮）
14週	提案パネル制作 （鳥宮）
15週	講評会 （鳥宮）

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

Adobe Creative Cloud。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

宮本「peqhcxh」、鳥宮「t3vgo43」

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題についての情報収集及び整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりとおこなってください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア基礎D	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今 義典、戸澤 逸美、宮本 一行、堀 じゅん子、石岡 美久	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 2403、2503 EM_MS 2603、2703

授業概要

① エディトリアルデザイン
　ページによる時間軸の概念及び視点誘導について演習を通し修得する。
② メディアセレクション
　課題を与え10週で作品を完成させる。これまでの学習内容を踏まえ、専攻を意識した創作活動を行う。展示でのプレゼンテーションを含め、成績順に所属ゼミが決まる。

到達目標

1 演習を通じてエディトリアルデザインの基本を身につける。
2 表現意図に適した形式と内容、メディアを選択できる。
3 作品テーマやコンセプトについて相手に適切に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	課題① InDesign基礎(IllustratorとInDesignの違い、ページの概念)〔戸澤〕
2週	課題② InDesign基礎(ページトレース)〔戸澤〕
3週	課題③ 実習(課題説明 エスキース)〔戸澤〕
4週	課題④ 実習〔戸澤〕
5週	課題⑤ 講評会・プレゼンテーション〔戸澤〕
6週	課題発表 参考作品紹介〔今、宮本〕
7週	アイデア出し〔今、宮本〕
8週	プロポーザル審査〔今、戸澤、宮本、石岡、堀〕
9週	プロポーザル審査〔今、戸澤、宮本、石岡、堀〕
10週	制作①〔石岡][研究室紹介1限、2限]
11週	制作②〔堀][研究室紹介1限、2限]
12週	制作③〔戸澤][研究室紹介1限、2限]
13週	制作④〔今、宮本][研究室紹介1限、2限]
14週	講評会・プレゼンテーション①〔今、戸澤、宮本、石岡、堀〕
15週	講評会・プレゼンテーション②〔今、戸澤、宮本、石岡、堀〕

成績評価方法・基準

出席率・制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

AdobeCC 授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bbpmskn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

受講者が調べたり発表したりする学習活動を取り入れます。授業時間以外にも教員とのミーティングや必要な情報を調べ表現するための作業が生じます。受講者の積極的な参加の姿勢が求められます。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業では、メールでのやり取りやコンピュータを用いた発表などを行います。事前に制作に必要な工具や材料の手配、発表の準備などの確認をすること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究A	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	酒井　広司、大黒　淳一、門間　友佑	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EM_MS 3404

授業概要

「ドキュメント」という概念をスチル・動画双方から捉えていく。「ドキュメンタリー」とは、出来事に虚飾を交えることなく記録、再構成した「フィクション」の反意的な表現といえる。しかし一方では「フィクション」が単なる絵空事ではなく、「ドキュメンタリー」の手法ではあからさまに伝えることができない物事の寓意として、あるいは事態をよりリアルに描き出すための過度な演出でもあるということもでき、メディアがある出来事を代行している以上、実際には両者の裾野は複雑に入り乱れているといえる。スチル、映像を取り巻くドキュメンタリーとフィクションの関係を探る。

到達目標

テーマを基に白黒バライタ印画紙によるプリントの制作を行う。「アーカイバルプリント」の制作を通して写真の長期保存への理解やファインアートとしての品質を極める。(酒井広司/15週)
テーマを基にやや尺の長い映像作品を作る。また音響・楽曲も自らで制作し、音と映像の関係性について考察を深める。(門間友佑/7回, 大黒　淳一/8回)
・写真・映像分野における専門的な知識や態度、映像機器の扱いやワークフローの基礎を身につけることができる。
・写真、映像制作に必要な暗室作業やソフトウェアの基礎的な操作を理解できる。
・静止画像にモーションを付け、編集する事ができ、なおかつ映像と音の関係について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	フィルム現像の解説〔酒井〕	映像加工について〔門間〕
2週	フィルム現像実習1〔酒井〕	映像制作①　企画〔門間〕
3週	印画紙プリント実習1〔酒井〕	映像制作②　脚本・絵コンテ〔門間〕
4週	撮影実習1屋内〔酒井〕	映像制作③　演出・進行〔門間〕
5週	フィルム現像実習2〔酒井〕	映像制作④　素材制作・撮影〔門間〕
6週	印画紙プリント実習2〔酒井〕	映像制作⑤　撮影・編集〔門間〕
7週	撮影実習2スタジオ〔酒井〕	映像制作⑥　撮影・編集〔門間〕
8週	フィルム現像実習3〔酒井〕	映像と音について〔大黒〕
9週	プリント実習4〔酒井〕	映像制作⑦　音響録音装置〔大黒〕
10週	プリント仕上〔酒井〕	映像制作⑧　音響録音装置〔大黒〕
11週	課題制作〔撮影〕〔酒井〕	映像制作⑨　編集・加工〔大黒〕
12週	課題制作〔撮影〕〔酒井〕	映像制作⑩　編集・加工〔大黒〕
13週	課題制作〔現像〕〔酒井〕	映像制作⑪　仕上げ〔大黒〕
14週	課題制作〔プリント〕〔酒井〕	映像制作⑫　発表準備〔大黒〕
15週	講評〔酒井〕	講評　まとめ〔大黒〕

成績評価方法・基準

課題の意図を理解し積極的に取り組む姿勢 40%、制作物の完成度 60%

教科書ソフト等

使用ソフトは、Adobe Creative Cloudなど目的に応じて利用します。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

酒井広司：d2vxr2y　大黒淳一：vwq3aql　門間友佑：nr3u5nb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後の自学・自習を前提に設定しています。所属する専攻の担当教員の指導を適宜、受けること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

PC持参必須。実習費を徴収します。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究B	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	酒井　広司、菊池　有騎、大黒　淳一	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EM_MS 3405

授業概要

写真撮影における多様な手法について学ぶ。スタジオでの機器の扱いから屋外での撮影、また空撮など様々な撮影手 法を紹介し、自身の表現に必要な撮影手法を構築し、表現力を養う。(酒井広司/ 7回)
アニメーションの基礎的知識を養う。動きを表現する上で必要な画力の向上を図ると共に、動きをより繊細かつ自然に見 せる動画工程を中心に学び、運動を一連の絵で表現する技術を養い2Dアニメーションの魅力を理解する。(菊池有騎/8 回)
サウンドアート及びニューメディアアートにおける、空間への関与を前提とした設置芸術・空間構成、無形の素材を提示 するための表現、またそれに伴うシステムの在り方について検討していく。作品制作に必要な総合的なワークフローを実習し学ぶ。(大黒 淳一/15回)

到達目標

・ユニークな表現を目指し、写真・映像分野における基本的な技術を応用していくための知識を身に付ける ことができる。
・テーマや被写体に応じ、写真撮影に必要なシステムを構築する知識を身につけることができる。
・ゲームやアプリケーション、コンピュータを利用したメディアインスタレーションや、メディアパフォーマンスなどに必要なプログラミングについて理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	写真の撮影手法1〔酒井〕	作品プラニング〔大黒〕
2週	写真の撮影手法2〔酒井〕	音響録音装置(スピーカー、インターフェース、レコーダ)〔大黒〕
3週	写真の撮影手法3〔酒井〕	映像/デバイス装置(カメラ、プロジェクター、センサー、タブレット)〔大黒〕
4週	課題制作1〔酒井〕	プログラミングの基礎〔大黒〕
5週	課題制作2〔酒井〕	プログラミングの基礎〔大黒〕
6週	課題制作3〔酒井〕	プログラミングの基礎〔大黒〕
7週	講評、まとめ〔酒井〕	プログラミングの応用と作品運用〔大黒〕
8週	アニメーション(1)シナリオの作成法、キャラクターについて〔菊池〕	プログラミングの応用と作品運用〔大黒〕
9週	アニメーション(2)コンテの作成方法、演出方法について〔菊池〕	プログラミングの応用と作品運用〔大黒〕
10週	アニメーション(3)レイアウトの作成方法、パースについて〔菊池〕	課題制作(1)〔大黒〕
11週	アニメーション(4)撮影、カメラワークについて〔菊池〕	課題制作(2)〔大黒〕
12週	アニメーション(5)エフェクトについて〔菊池〕	課題制作(3)〔大黒〕
13週	アニメーション(6)エフェクトについて〔菊池〕	課題制作(4)〔大黒〕
14週	アニメーション(7)作品発表〔菊池〕	課題制作(5)〔大黒〕
15週	まとめ〔菊池〕	作品のプレゼンテーション〔大黒〕

成績評価方法・基準

提出課題に対して技術的完成度60%、表現の独自性40% 、全課題の平均点を評価とする

教科書ソフト等

Adobe Creative Cloud導入のこと。その他のソフトウエアは目的に応じて利用します。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

授業内で指示します。

クラスコード

酒井広司:tcwcvkk　菊池有騎:fbvywub　大黒淳一:mpozvz4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後の自学・自習を前提に設定しています。所属する専攻の担当教員の指導を適宜受けること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実習費を徴収する。PC持参必須。予備知識は必要としませんが、課題に対し積極的に取り組んでください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア表現ゼミA	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	今　義典、鳥宮　尚道、島名　毅、小町谷　圭、 戸澤　逸美、宮本　一行、堀　じゅん子、石岡　美久	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3408、3508、 3608、3708

授業概要

文字、図形、音声、静止画、動画といった表現メディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ(創作物)は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室の独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討
2週	研究計画書の作成
3週	研究①:テーマや領域の現状
4週	研究②:テーマや領域の課題
5週	研究③:先行研究や事例
6週	中間発表・ディスカッション
7週	研究④:研究テーマ
8週	研究⑤:研究手法
9週	研究⑥:実施
10週	研究⑦:検証
11週	研究⑧:実施
12週	研究⑨:検証
13週	研究⑩:公開
14週	最終発表
15週	まとめ

成績評価方法・基準

授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、指示します。

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

クラスコード

鳥宮・宮本(j3pzuzm)島名・堀・戸澤(x6vs522)今・小町谷(zjtxsav)・石岡(ypgb4p6)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア表現ゼミB	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今　義典、鳥宮　尚道、島名　毅、小町谷　圭、 戸澤　逸美、宮本　一行、堀　じゅん子、石岡　美久	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3409、3509、 3609、3709

授業概要

文字、図形、音声、静止画、動画といった表現メディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室の独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究、発表を行い、より研究テーマに対する洞察を深めます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討
2週	研究計画書の作成
3週	研究①：テーマや領域の現状
4週	研究②：テーマや領域の課題
5週	研究③：先行研究や事例
6週	中間発表・ディスカッション
7週	研究④：研究テーマ
8週	研究⑤：研究手法
9週	研究⑥：実施
10週	研究⑦：検証
11週	研究⑧：実施
12週	研究⑨：検証
13週	研究⑩：公開
14週	最終発表
15週	まとめ

成績評価方法・基準

出席率、授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、指示します。

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

クラスコード

鳥宮・宮本（j3pzuzm）島名・堀・戸澤（acqyz66）石岡(g2bzjcn)　今・小町谷（zjtxsav）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	グラフィック・イラスト研究A	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	堀 じゅん子、長谷部 さやか、土井 孝弥	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3504

授業概要

2年次までに習得したメディア表現の基礎力を踏まえ、グラフィックデザイン領域についての専門性をさらに深める。
① VI/ロゴマーク・パッケージ・広告デザイン・エディトリアルデザインなどの実技制作の指導と、作品への具体的展開により、社会感覚を持ったデザイン表現力の習得を目指す。
② 実社会にあるニーズに取材し、コンセプトメーキングから実制作、プレゼンテーション、効果の把握など、一連のプロセスを経験する。

到達目標

① 人とデザインの関わりという観点から、より広範囲にデザインの果たす役割を見つめ、現状や実態を把握、検討する中から発想を広げ、制作することができる。
② グラフィックデザイン領域におけるより高度な知識と技能を修得し、目的に沿って応用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週前半 オリエンテーション、課題説明【長谷部】	1週後半 表現研究 タイポグラフィ演習①〔堀〕
2週前半 キャラクターの立ち絵制作① ラフ【長谷部】	2週後半 表現研究 タイポグラフィ演習②〔堀〕
3週前半 キャラクターの立ち絵制作② 線画【長谷部】	3週後半 表現研究 タイポグラフィ演習③〔堀〕
4週前半 キャラクターの立ち絵制作③ 線画【長谷部】	4週後半 表現研究 タイポグラフィ演習④ 講評〔堀〕
5週前半 キャラクターの立ち絵制作④ 彩色【長谷部】	5週後半 応用表現研究 ワークショップとグラフィックレコーディング〔堀〕
6週前半 キャラクターの立ち絵制作⑤ 彩色【長谷部】	6週後半 応用表現研究 サーベイ〔堀〕
7週前半 個別プレゼンテーション、講評【長谷部】	7週後半 応用表現研究 企画〔堀〕
8週前半 実習①:キャラクターデザイン【土井】	8週後半 応用表現研究 取材調査〔堀〕
9週前半 実習②:題材設定【土井】	9週後半 応用表現研究 アイディアスケッチ①〔堀〕
10週前半 実習③:ネーム・ストーリー制作【土井】	10週後半 応用表現研究 アイディアスケッチ②〔堀〕
11週前半 実習④:ネームの確認、修正【土井】	11週後半 応用表現研究 プレゼンテーション<第1回>〔堀〕
12週前半 実習⑤:ネームに基づいた漫画技法【土井】	12週後半 応用表現研究 コンセプトボード制作①〔堀〕
13週前半 実習⑥:制作【土井】	13週後半 応用表現研究 コンセプトボード制作②〔堀〕
14週前半 実習⑦:制作【土井】	14週後半 応用表現研究 コンセプトボード制作③〔堀〕
15週前半 講評会【土井】	15週後半 応用表現研究 プレゼンテーション<第2回>〔堀〕

成績評価方法・基準

コンセプト・作品の完成度60%、プレゼンテーション20%、授業姿勢20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pvrpzxf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員は、広告代理店、制作会社での実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内では制作に集中できるよう、授業当日の作業計画、事前の準備、予習が重要になる。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各自表現手法に応じて、素材・画材等を準備すること。
応用表現研究では、外部との連携授業、学外学習などを取り入れる可能性がある。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	グラフィック・イラスト研究B	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	島名　毅、戸澤　逸美、三善　俊彦	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3505

授業概要

「グラフィック・イラスト研究A」の授業を踏まえ、グラフィックデザイン・イラスト領域についてさらなる展開、発展を図る。
1 オリジナリティを重視した発想でのグラフィックデザインの展開を行なう。デザインを取り巻く社会環境の分析とその対応を考えていく。
2 数値やデータを視覚的に表現することでより一層伝達しやすくする。コミュニュケーションデザインを考える。

到達目標

1 人とデザイン・社会とデザインの関わりを通して時代を捉える視野を深める。グループワークを通して人と人及び社会とのコミュニケーション能力の向上を目指す(週前半 担当)。
2 ダイアグラムの世界を通じてコミュニュケーションツールの可能性を感じ、表現できることを目指す(週後半 担当 三善俊彦)。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週前半 ①テーマ見つける/調査・企画1〔島名・戸澤〕	1週後半 カタチの構成、タンカ① 自分の顔の表現〔三善〕
2週前半 ①テーマ見つける/調査・企画2〔島名・戸澤〕	2週後半 カタチの構成、タンカ② 自分の顔の表現〔三善〕
3週前半 企画3〔島名・戸澤〕	3週後半 カタチの構成、タンカ③ 自分の顔の表現〔三善〕
4週前半 企画プレゼン〔島名・戸澤〕	4週後半 カタチの構成、タンカ④ 自分の顔の表現・講評〔三善〕
5週前半 制作1〔島名・戸澤〕	5週後半 ピクトグラム① トイレのオリジナルピクト〔三善〕
6週前半 制作2〔島名・戸澤〕	6週後半 ピクトグラム② トイレのオリジナルピクト〔三善〕
7週前半 プレゼンテーションと講評〔島名・戸澤〕	7週後半 ピクトグラム③ トイレのオリジナルピクト〔三善〕
8週前半 ②グラフィック表現〔島名・戸澤〕	8週後半 ピクトグラム④ トイレのオリジナルピクト・講評〔三善〕
9週前半 企画1〔島名・戸澤〕	9週後半 グラフ① クラスのデータをグラフにする〔三善〕
10週前半 企画2〔島名・戸澤〕	10週後半 グラフ② クラスのデータをグラフにする〔三善〕
11週前半 制作1〔島名・戸澤〕	11週後半 グラフ③ クラスのデータをグラフにする〔三善〕
12週前半 制作2〔島名・戸澤〕	12週後半 グラフ④ クラスのデータをグラフにする・講評〔三善〕
13週前半 制作3〔島名・戸澤〕	13週後半 地図① 自分の通学路マップ〔三善〕
14週前半 制作4〔島名・戸澤〕	14週後半 地図② 自分の通学路マップ〔三善〕
15週前半 プレゼンテーションと講評〔島名・戸澤〕	15週後半 地図③ 自分の通学路マップ・講評〔三善〕

成績評価方法・基準

コンセプト・作品の完成度60%、プレゼンテーション20%、授業姿勢20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ojut7bt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内では制作に集中できるよう、授業当日の作業計画、事前の準備、予習が重要になる。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各自表現手法に応じて、素材・画材等アイディアに合わせて準備すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究A	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鳥宮　尚道、鎌田　順也	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EM_MS 3604

授業概要

情報デザインを専門的に学ぶ第一歩として、情報の整理と編集、観察の手法、視覚化の手法と技術を習得する。表現的な完成度だけでなく、オブザベーションから本質的な情報を引き出す技法を習得し、情報を伝えるためのメディアの「かたち」に各自が意識を向け、制作の方法を身につける。

到達目標

① 日常の中から観察を通じた情報収集ができる。
② 情報に適したフォーマットを作成することができる。
③ 提案を適切に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週前半	課題1-①「再解釈からのデザイン」説明(鳥宮)	1週後半	課題説明、ブレインストーミング(鎌田)
2週前半	課題1-② 調査、観察報告(鳥宮)	2週後半	デザイン・サーベイ①(鎌田)
3週前半	課題1-③ 調査結果の視覚化、マップ化(鳥宮)	3週後半	デザイン・サーベイ②(鎌田)
4週前半	課題1-④ アイデア展開と提案報告(鳥宮)	4週後半	中間発表1—① 準備(鎌田)
5週前半	課題2-① 課題説明(鳥宮)	5週後半	中間発表1—② 準備(鎌田)
6週前半	課題2-② フィールドワーク(鳥宮)	6週後半	デザイン・サーベイ③(鎌田)
7週前半	課題2-③ 情報収集と整理(鳥宮)	7週後半	デザイン・サーベイ④(鎌田)
8週前半	課題2-④ コンセプト立案(鳥宮)	8週後半	中間発表2—① 準備(鎌田)
9週前半	課題2-⑤ アイデア展開、整理(鳥宮)	9週後半	中間発表2—② 準備(鎌田)
10週前半	課題2-⑥ アイデア展開、整理(鳥宮)	10週後半	デザイン提案のための制作①(鎌田)
11週前半	課題2-⑦ プロトタイプ制作(鳥宮)	11週後半	デザイン提案のための制作②(鎌田)
12週前半	課題2-⑧ プロトタイプ制作、検証(鳥宮)	12週後半	デザイン提案のための制作③(鎌田)
13週前半	課題2-⑨ プロトタイプ制作、検証(鳥宮)	13週後半	デザイン提案のための制作④(鎌田)
14週前半	課題2-⑩ 成果報告・講評会(鳥宮)	14週後半	成果報告会準備(鎌田)
15週前半	課題2-⑪ 報告書作成(鳥宮)	15週後半	成果報告会・講評会(鎌田)

成績評価方法・基準

各回の報告40%、最終成果物60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。Adobe Creative Cloud導入のこと。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

spmm2z4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題についての情報収集および整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究B	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	宮本　一行、髙橋　文代	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3605

授業概要

情報デザインの概念や手法、社会的な役割について、実際に手を動かし、考え、対話する中で体感的に理解していきます。

到達目標

情報デザインを行なう上で必要とされる、以下の3点の能力の修得を目指します。
① 現状の問題を分析的に抽出する能力。
② 複数の情報を、それらの特性を活かしながら統合する能力。
③ 自らの提案を客観的に評価する能力。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週前半	イントロダクション、プロダクトデザインの概念〔宮本〕	1週後半	ガイダンス：使いやすい・分かりやすいデザイン実現のための人間理解と感性デザイン／アイディア描画演習〔高橋〕
2週前半	課題説明 調査項目の検討(ブレインストーミング)〔宮本〕	2週後半	人間の理解①：感覚のしくみと情報分析／感覚インタフェースのリサーチ〔高橋〕
3週前半	調査データの分析①〔宮本〕	3週後半	人間の理解②：知覚のしくみ（錯覚・ゲシュタルト要因・注意・学習）／デザイン・描画演習〔高橋〕
4週前半	調査データの分析②〔宮本〕	4週後半	人間の理解③：記憶のしくみとアフォーダンスを意識したインタフェースデザイン ／応用例リサーチ〔高橋〕
5週前半	問題の集約と提案コンセプトの立案：基本計画〔宮本〕	5週後半	前半のまとめとフィールドワークの準備・他者理解とUXデザイン（高橋）
6週前半	アイディア展開①〔宮本〕	6週後半	FWによる問題発見とディスカッション〔高橋〕
7週前半	アイディア展開②〔宮本〕	7週後半	FWにおける問題点の整理とコンセプトワーク〔高橋〕
8週前半	プレゼンテーション計画：基本構想〔宮本〕	8週後半	デザインテーマの設定とディスカッション〔高橋〕
9週前半	成果物制作作業①〔宮本〕	9週後半	成果物制作作業①デザインワーク〔高橋〕
10週前半	成果物制作作業②〔宮本〕	10週後半	成果物制作作業②デザインワーク〔高橋〕
11週前半	成果物制作作業③〔宮本〕	11週後半	中間報告とアイディアブラッシュアップ〔高橋〕
12週前半	成果物制作作業④〔宮本〕	12週後半	成果物制作作業③デザインワーク〔高橋〕
13週前半	成果物制作作業⑤〔宮本〕	13週後半	成果物制作作業④デザインワーク〔高橋〕
14週前半	成果物展示準備、プレゼンテーション準備〔宮本〕	14週後半	成果物制作作業⑤フィニッシュワーク〔高橋〕
15週前半	成果物展示、プレゼンテーション〔宮本〕	15週後半	成果物プレゼンテーションとフィードバック〔高橋〕

成績評価方法・基準

授業内課題60%、課題への取り組み状況20%、平常点(授業への参加度)20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

宮本（u7d2sjt）、髙橋（yxhcsfx）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題は身近なフィールドに設定します。授業外の時間で現状分析を行うなど、課題に対して日常的に取り組む姿勢が必要となります。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。火曜日講義(担当：高橋)では描画演習用を行います。スケッチブック（マルマンB4）とオイルパステル（16色程度のクレヨンまたはクレパスなど子ども用で可）を用意してください。この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究A	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	石岡　美久、城下　淑恵	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3704

授業概要

・ファッションデザインの基礎について学ぶ。ファッションデザイン画を描くための感性と、基礎的な技術・描法を習得し、デザインからパターンへの関連を理解していく。材の知識や縫製技法を身につけていき、最終的には製品の評価をするための基本を学ぶ。個人の体型にあわせた服を製作するために、ボディ(人体模型)を用いたドレーピングなどの必要な洋裁技術と知識をさまざまなアイテム製作を通して学ぶ。それぞれの実習を通して、①衣服設計のための材料の選択、②パターン設計の理解、③基礎的な縫製技術の習得、④着装評価の良否⑤人体と衣服との関連への理解を深めていく。(石岡)
・この授業の主要な課題は「立体裁断によるブラウス(袖なし)製作」です。トルソーを使用したダーツの理解、ゆるみ分の設定、アームホール、衿等々、立体裁断ならではの衣服製作の面白さ、人体構造の理解を目標とします。また、近世以降の服装史に触れながら服飾の本質的な理解を深め、ファッションを入り口とした視座を養うことを目的とします。(城下)

到達目標

①トルソーの構造線の理解
②文化としてのファッションの理解
①衣服設計のための材料の選択
②デザインの視野を広げ、柔軟性を身につける
③基礎的な縫製基礎技術の習得
④着装評価の良否
⑤デザイン画を忠実に具現化

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	立体裁断 〔城下〕	オリエンテーション　用具の使い方〔石岡〕
2週	立体裁断	ファッションクロニクル
3週	立体裁断	テキスタイル基礎、クリエーション
4週	立体裁断	企画MD基礎、ポートフォリオ
5週	立体裁断	イラストレーション、デザイン画基礎
6週	立体裁断	スタイル画、平画、ピンワークからのデザイン
7週	立体裁断	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　デザイン
8週	立体裁断	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　パターン①
9週	立体裁断	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　パターン②
10週	立体裁断	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　縫製①
11週	立体裁断	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　縫製②
12週	縫製	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　縫製③
13週	縫製	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　縫製④
14週	縫製	ドレーピングによるオリジナルスカート製作　仕上げ完成
15週	課題完成・講評	プレゼンテーション　講評

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

ファッションデザインテクニック／高村是州(石岡)

参考書等

「ちぐはぐな身体　ファッションって何？」著:鷲田清一　ちくま文庫　(城下)

クラスコード

石岡美久:i4nxshd　城下淑恵:xnovc5t

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、ファッションデザイナーやパタンナーとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

(石岡)第1週から第8週において授業時間内は、作業時間とするため事前準備は済ませてください。第9週から第15週においては授業終了後に毎回小さな課題を出し、eラーニングを用いたディスカッションやフィールドワークなど、相互学習形式を多く取り入れますので、教室外でも積極的な参加を求めます。
(城下)「授業概要」に記した主要製作課題とは別に、毎回小さな課題提出あり。採点対象とします。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウエアなどを用い授業を進めます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。　[城下]授業冒頭に次週授業課題の重要事項を伝えます。無断遅刻・無断欠席者には前述情報を伝えることはありません。

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究B	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小町谷　圭、谷内　彩子	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 3705

授業概要

デジタルによるパターンメーキングの設計を学ぶ。アパレル業界におけるアパレルCADの必要性を認識させ、基本システムと操作、機能を理解する。デジタルによってパターンを設計することにより、パターンメーキングの正確な作業と効率化を行う。制作を通してCADパターンメーキングと縫製の関係を理解する。(谷内)
ファッションテクノロジーの基礎について学ぶ。①3Dスキャナーなどを用いた採寸情報を活用し一人一人にあったアイテムの設計から3Dプリントサービスなどを活用したパーソナライズサービスについて理解する。②3Dプリンタやレーザーカッターなどを用いたマテリアルコンピューティングに触れながら、フォトクロミックインクなどの新素材や、電熱ヒーターなどを用いた被服の新たな役割について素材研究を行う。(小町谷)

到達目標

アパレルCADを使用してCAD基本操作ができる。デジタルによってパターンを設計することによって正確さ、効率化、感覚を習得し、パターンメーキングとデザイン展開ができる。(谷内)
ファッションテクノロジーやパーソナルサービスの基礎について学ぶ。デジタル化によるフューチャーファッションについてのアイデアや着想を持ち、制作に取りかかれるための基礎を身につける。(小町谷)
企画、デザイン、制作までを実践し、説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	オリエンテーション　アパレルCADとは、基本操作の練習 〔谷内〕	オリエンテーション 〔小町谷〕
2週	スカートパターン①スカート原型からデザインスカート展開 〔谷内〕	デジタルファブリケーション機器について①〔小町谷〕
3週	スカートパターン②スカート原型からデザインスカート展開 〔谷内〕	デジタルファブリケーション機器について②〔小町谷〕
4週	スカートパターン③スカート原型からデザインスカート展開 〔谷内〕	デジタルファブリケーション機器について③〔小町谷〕
5週	スカートパターン④　縫い代、情報、チェック方法 〔谷内〕	企画〔小町谷〕
6週	パターン①〔谷内〕	制作①〔小町谷〕
7週	パターン②〔谷内〕	制作②〔小町谷〕
8週	パターン③〔谷内〕	制作③〔小町谷〕
9週	パターン④〔谷内〕	新素材について①〔小町谷〕
10週	パターン⑤〔谷内〕	新素材について②〔小町谷〕
11週	パターン⑥〔谷内〕	新素材について③〔小町谷〕
12週	制作・縫製①〔谷内〕	制作①〔小町谷〕
13週	制作・縫製②〔谷内〕	制作②〔小町谷〕
14週	制作・縫製③〔谷内〕	制作③〔小町谷〕
15週	講評〔谷内〕	講評 〔小町谷〕

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

『誌上・パターン塾 Vol.1トップ編』(文化出版局) その他授業内で適宜、資料を配付します。
東レACS株式会社クレアコンポⅡ(パターンマジック)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qqlwxcd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、ファッションデザイナーやパタンナーとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウエアなど)を用い授業を進めます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウエアなど)を用い授業を進めます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。

授業科目	情報処理演習B（Excel）	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 2042

授業概要

「情報処理演習Ⅰ（Excel）」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、1つの変数の特徴や2つの変数の関係など基本的な統計量を用いたデータ処理や分析を表計算ソフト（Excel）で行うことができる基礎的技能を身につける。

到達目標

① 基本的な記述統計への理解を深めることができる。
② 表計算ソフト（Excel）を利用して、1つの変数の特徴や2つの変数の関係などのデータ処理や分析することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価、Excelの基本操作 【Excelの操作の復習】
2週	変数の種類（質的・量的）とデータ入力 【変数の種類についての復習】
3週	表とグラフの作成：大小比較、構成比、推移、バランス等 【グラフの作成の課題】
4週	1つの変数の特徴① データの図表化（度数分布とヒストグラム） 【度数分布表の作成の課題】
5週	1つの変数の特徴② 代表値（平均値、中央値、最頻値） 【代表値を求める課題】
6週	1つの変数の特徴③ 散布度（分散、標準偏差、変動係数） 【散布度についての復習】
7週	1つの変数の特徴④ 標準化（標準得点、偏差値） 【標準化についての復習】
8週	前半の振り返りと授業内試験（到達度テスト） 【振り返り】
9週	2つの変数の関係① 散布図 【散布図の作成の課題】
10週	2つの変数の関係② 共分散 【共分散についての復習】
11週	2つの変数の関係③ 相関係数 【相関係数に関する課題】
12週	2つの変数の関係④ クロス集計 【クロス集計表の作成の課題】
13週	ピポットテーブルによるクロス集計の方法① 表の作成、平均値、度数、構成比、データの更新 【クロス集計の課題】
14週	ピポットテーブルによるクロス集計の方法② 並べ替えと階層区分、形式を利用してコピー、表・グラフ作成 【クロス集計の課題】
15週	後半の振り返りと授業内試験（到達度テスト）、全体のまとめ 【振り返り】

成績評価方法・基準

授業内試験（到達度テスト）40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算（第4版）』　発行：日経BP社　発売：日経BPマーケティング
（情報処理演習Aで購入）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aクラス：3bxfnfu　bクラス：kqwvrvb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための社会調査実務関係の情報処理演習に該当しています。

授業科目	文章要約実践	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	上戸　理恵	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 2021

授業概要	前半では、文章を要約する方法を実践的な練習を通して学ぶ。その後、レポート作成に必要な基礎的な事柄について課題に取り組み、要約や文章作成の練習を行っていく。
到達目標	①要約の方法を理解し、評論文等を的確に要約できる。 ②他人の意見と自分の意見を区別して示すことができる。 ③適切な表現・形式を用いて論理的文章（レポート）を作成することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	1週　オリエンテーション(授業の概要、評価方法、注意事項等) 2週　要約の方法① キーワードと主題 3週　要約の方法② トピックセンテンスと論の展開 4週　要約の実践 5週　意見文の書き方 6週　中間レポート（意見文）の準備 7週　中間レポート（意見文） 8週　中間レポート（意見文）のフィードバック 9週　レポートの構成 10週　テーマの選択 11週　文献の選択と下読み 12週　文献の精読と問題設定 13週　最終レポートの準備① アウトラインの作成 14週　最終レポートの準備② アウトラインの検討 15週　授業内試験（最終レポート）とまとめ
成績評価方法・基準	中間レポート・最終レポート60%、授業時の提出物等40%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
クラスコード	inqp6rz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	配布した資料を授業前および授業終了後に精読すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	意欲的な受講態度を期待します。コース別課題については順番が入れ替わることがあります。

授業科目	論理的文章作成実践	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	上戸　理恵、西脇　裕之、西浦　功、 太田　稔、山田　政樹、津幡　笑	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 2022

授業概要	前半では、レポートや論文を書くために必要な読解力や表現力を実践的な練習を通して学ぶ。その後、社会学部の四コースの内容に即した基礎的な事例について各コース担当者からの説明を踏まえて課題に取り組み、論理的に自分の意見を示すための練習を行っていく。
到達目標	①新聞記事や評論文等の内容を把握し、論理的な文章に必要な事柄を理解できる。 ②適切な引用の方法を身につけ、他人の言葉と自分の意見を区別して示すことができる。 ③コース別の課題内容を踏まえて、現在、社会でどのような問題が起きているかを理解できる。 ④コース別の課題内容を理解し、それに対する自分の意見を説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	1週　オリエンテーション（授業の概要、評価方法、注意事項等）（上戸理恵） 2週　アカデミックライティングの基本の確認①（上戸理恵） 3週　アカデミックライティングの基本の確認②（上戸理恵） 4週　引用の方法（上戸理恵） 5週　レポートの構成とテーマの設定（上戸理恵） 6週　行政・法律的な課題を考える①（津幡笑） 7週　行政・法律的な課題を考える②（津幡笑） 8週　経済・経営的な課題を考える①（太田稔） 9週　経済・経営的な課題を考える②（太田稔） 10週　教育・福祉的な課題を考える①（西浦功） 11週　教育・福祉的な課題を考える②（西浦功） 12週　観光・メディア的な課題を考える①（山田政樹、西脇裕之） 13週　観光・メディア的な課題を考える②（西脇裕之、山田政樹） 14週　各課題のフィードバックとまとめ（上戸理恵） 15週　授業内試験（最終レポート）とまとめ（上戸理恵）
成績評価方法・基準	中間レポート・最終レポート40%、授業時の課題等60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	戸田山和久『最新版　論文の教室　レポートから卒論まで』（NHKブックス、2022年）
クラスコード	lo4h2yh
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	配布した資料を授業前・授業後に精読すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	意欲的な受講態度を期待します。コース別課題については順番が入れ替わることがあります。

授業科目	社会調査入門	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	西浦　功	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 2211

授業概要

質問紙調査による量的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。テーマ設定から仮説構築・サンプリング・設問構成等の調査技法やマナー及びデータ解析手法を調査事例に基づいて学習し，量的調査の一連の流れを理解する。

到達目標

① 量的調査の目的や調査手法としての利点・課題を理解できる。
② 量的調査の主な手順について理解できる。
③ 量的調査の実施の際に求められる調査法・分析手法について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　オリエンテーション　量的調査の目的と意義【量的調査の目的・意義に関する復習】
2週　調査データの活用　国勢調査と官庁統計【統計の種類・統計法に関する復習】
3週　質問紙調査の特徴　利点と課題【質的、量的調査の比較・整理】
4週　調査テーマの設定　概念・仮説の構成【作業のふり返りと補完】
5週　調査対象の設定　全数調査と標本調査【標本調査の意義の整理】
6週　サンプリングの方法①　有意抽出と無作為抽出の違い【無作為抽出の意義の整理】
7週　サンプリングの方法②　標本数と誤差【指定課題への取り組み】
8週　サンプリングの方法③　サンプリングの種類と目的【各手法の特徴と用途の整理】
9週　調査票の構成　質問文・選択肢・全体構成【避けるべき質問例の復習】
10週　実査の過程　調査票の配布・回収方法の種類【各方法の利点、欠点の整理】
11週　調査データ分析の手順①　エディティング・コーディング・クリーニング【作業のふり返りと補完】
12週　調査データ分析の手順②　単純集計【集計結果のふり返りと補完】
13週　調査データ分析の手順③　関連性の分析【分析結果のふり返りと補完】
14週　調査データ分析の手順④　検定の意味と方法【指定課題への取り組み】
15週　全体の総括　科学的な調査とは何か【「科学的調査の条件」について整理】

成績評価方法・基準

学期末試験40%、中間レポート20%、授業への参加態度（レスポンスシート・ミニレポート）40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

iw4inn7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための社会調査理論関係の社会調査法に該当しています。毎回の授業で課される予復習課題や中間レポートについては、後日の講義でフィードバックを行います。

授業科目	社会調査応用	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	翁 康健	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 2212

授業概要

面接聴き取り調査をはじめとする質的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。
テーマ設定から質問内容の検討、実査、分析に至る質的調査の技法やマナーについて調査事例に基づいて学習し、質的調査の一連の流れを理解する。

到達目標

① 社会調査の対象者に対して必要な倫理的配慮のあり方を理解できる。
② 様々な質的調査の種類とその利点・課題について理解できる。
③ 質的調査の主な手順・分析手法について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	オリエンテーション 社会調査の歴史・意義と倫理的配慮【倫理的配慮に関する事例検討】
2週	社会調査の種類 目的と方法【社会調査の目的・特徴に関する整理】
3週	質的調査のねらい 利点と課題【質的／量的調査の特徴の整理】
4週	面接調査の種類と主な手順 目的・対象に応じた手法【面接調査の種類と特徴に関する整理】
5週	面接調査の企画 仮設構築と調査項目の検討【仮設構築・調査項目案の準備】
6週	面接の技法を学ぶ 傾聴・聴き取りの技法と注意点【演習のふり返り】
7週	インタビューガイドの作成 聴き取りの段取りを考える【インタビューガイドの作成】
8週	インタビューデータの分析① 調査結果の記録と整理【データベースの作成】
9週	インタビューデータの分析② コーディング【コーディングの実施】
10週	インタビューデータの分析③ データの図式化【図式化の実施】
11週	観察調査とは何か 目的と手順【観察調査の目的・特徴に関する整理】
12週	観察事実を記録する フィールドノートの作成方法【フィールドノートの作成】
13週	ドキュメント分析とは何か 目的と手順【ドキュメント分析の目的・特徴に関する整理】
14週	ドキュメント分析演習 課題データによる学び【演習結果のふり返り】
15週	調査企画案の発表、総括【発表準備】

成績評価方法・基準

授業への取り組み・演習課題・コメントシート50%、最終レポート・発表50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

2qxhuxi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

個人やグループ単位で行う課題を出しますので、講義内容と指示をよく聴き、積極的に取り組んでください。コメントシートや課題の成果については、授業内で適宜、口頭にてフィードバックを行います。本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための社会調査理論関係の社会調査法に該当しています。

授業科目	地域課題研究Ⅰ	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	梶井　祥子、西浦　功、西脇　裕之、太田　稔、津幡　笑、山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3231

授業概要

「社会調査論(質的調査)」で学んだ基礎を踏まえて、専門演習のゼミナールごとに、札幌市内及び近郊でフィールドワーク経験を積むことを目的とする。フィールドに入る準備、インタビュー調査の実施までのプロセスを経験を通して学ぶ。

到達目標

① インタビュー調査を中心としたフィールドワークの手順を理解できる。
② 適切な調査計画を立案できる。
③ 現地学習において必要な作業を進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　オリエンテーション：授業概要とスケジュールの説明 【調査に向けた問題関心の整理】
2週　フィールドワーク調査の流れ：調査手順の説明 【調査手順の流れの整理】
3週　調査テーマの選定：テーマの検討 【調査テーマのしぼりこみ】
4週　事前資料調査：資料探索と読み込み 【資料を利用した調査の課題】
5週　事前資料調査の報告・共有：報告と相互検討 【調査の報告準備】
6週　フィールド調査の企画①　調査項目の検討【ブレーンストーミングの整理】
7週　フィールド調査の企画②　調査項目の集約【調査項目の集約】
8週　フィールド調査の企画③　調査計画の立案【調査計画の検討に関する課題】
9週　フィールド調査の企画④　調査計画書の作成【調査計画書の完成】
10週　フィールド調査の企画⑤　質問文の作成【質問文案の準備】
11週　フィールド調査の企画⑥　インタビューガイドの作成【インタビューガイドの完成】
12週　インタビュー調査の予行演習：課題にもとづいたインタビュー 【予行演習の振り返り】
13週　フィールド調査の実施①　観察とインタビュー【フィールドノートの整理】
14週　フィールド調査の実施②　観察とインタビュー【フィールドノートの整理】
15週　調査対象者への礼状の作成 【フィールド調査の振り返り】

成績評価方法・基準

事前資料調査での小レポート、その他の提出物 30%、調査計画書 50%、実地調査における貢献、参加態度 20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

梶井：d55jp3j　西浦：7z7jlyw　西脇：l7pxyrk　太田：i2zynv4　津幡：id6dfon　山田：r6yl7ek

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は「専門演習Ⅰ」と連動した科目であり、履修者も「専門演習Ⅰ」の各ゼミと重なります。フィールド調査のコマ数はゼミによって変更となる可能性があります。

授業科目	地域課題研究Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	梶井　祥子、西浦　功、西脇　裕之、太田　稔、津幡　笑、山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3232

授業概要	「フィールドワークⅠ」で実施した現地調査で収集したデータを整理・分析して、根拠にもとづいた知見を引き出す。収集したデータと分析結果を調査報告書にまとめ、報告会を実施する。
到達目標	① 質的調査の手順に沿って、調査データを分析することができる。 ② 事実として収集したデータとその分析から、知見や提言を引き出すことができる。 ③ 調査のプロセスと成果を報告書にまとめることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
授業計画	1週　オリエンテーション：授業概要とスケジュールの説明 【フィールドノートの整理】 2週　調査データの整理①　インタビュー起こし【インタビュー起こし作業の補完】 3週　調査データの整理②　インタビュー起こし【インタビュー起こし作業の補完】 4週　調査データの分析①　キーワードの抽出【キーワードの抽出作業の補完】 5週　調査データの分析②　コーディング【コーディング作業の補完】 6週　調査データの分析③　SWOT分析【分析作業の補完】 7週　分析結果の考察と提言①　考察作業と提言の導出【分析結果の考察作業】 8週　分析結果の考察と提言②　考察と提言の相互検討【分析結果にもとづく提言の検討】 9週　調査報告書の作成①　分担執筆【報告書の執筆作業】 10週　調査報告書の作成②　分担執筆箇所の相互検討【報告書の完成】 11週　プレゼンテーション資料の作成・準備①　パワーポイントの作成【演習時の作業の補完】 12週　プレゼンテーション資料の作成・準備②　パワーポイントの作成【プレゼン資料と発表原稿の点検】 13週　調査報告のリハーサル：リハーサルと点検 【リハーサルの振り返りと資料の修正】 14週　調査報告会① 報告と質疑応答【報告会の振り返り】 15週　調査報告会② 報告と質疑応答【報告会の振り返り】
成績評価方法・基準	調査データの整理・分析における貢献 20%、調査報告の出来栄え 10%、調査報告書 70%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	梶井：2i4yzlk　西浦：c7ia4o2　西脇：yzkgnia　太田：i2zynv4　津幡：txr7jqy　山田：r6yl7ek
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	本科目は「専門演習Ⅱ」と連動した科目であり、履修者も「専門演習Ⅱ」の各ゼミと重なります。ゼミによっては本科目においてもフィールド調査を実施する可能性があります。

授業科目	専門基礎演習Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美、和田　佳子、丸山　宏昌、 津幡　笑、仙波　希望	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC_2003

授業概要

前半では、社会学の基本的な概念を使ったテキストを用いて、レジュメを作成し議論を行い、その内容に対する理解を深める。後半の合同ゼミでは、三年次・四年次の専門ゼミの概要を学び、次年度以降の専門ゼミ選択への意識を高める。また、一年を通して、新聞等を活用し、社会的な課題への関心を広げることも行う。

到達目標

① テキストで説明されている内容を理解し、要約できる
② ポイントを押さえてテキストの内容をレジュメにまとめ、他者に説明できる。
③ テキストから引き出した問題について自分の意見を述べ、それについて他者と議論することができる。
④ 自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション(授業の概要，評価方法，参考文献紹介，注意事項について)	／履修指導
2週	はじめに	／課題学習①
3週	第1章「人は一人では生きられない？」	／課題学習②
4週	第2章「幸せも苦しみも他者がもたらす」	／課題学習③
5週	第3章「共同性の幻想」	／課題学習④
6週	第4章「「ルール関係」と「フィーリング共有関係」」	／課題学習⑤
7週	第5章「熱心さゆえの教育幻想」	／課題学習⑥
8週	前半のまとめ	／課題学習⑦
9週	第6章「家族との関係と、大人になること」	／課題学習⑧
10週	第7章「「傷つきやすい私」と友だち幻想」	／課題学習⑨
11週	第8章「言葉によって自分を作り変える」	／課題学習⑩
12週	合同ゼミ①、☆第1章＋第2章	
13週	合同ゼミ②、☆第14章	
14週	合同ゼミ③	
15週	まとめ	

成績評価方法・基準

授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

工藤・大山・笠井（編）『基礎ゼミ社会学』世界思想社、2017年
菅野仁『友だち幻想　人と人の＜つながり＞を考える』ちくまプリマー新書、2008年

参考書等

なし。授業内で指示する。

クラスコード

l3olauk ※全体用　各担任別のクラスルームは別途指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず教科書の該当ページを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。事前に必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の課題学習の際には、主体的に学習すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	専門基礎演習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌、石川　希美、和田　佳子、 津幡　笑、仙波　希望	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC_2004

授業概要

現代社会の労働の問題を論じているテキストを読み込み、ポイントを整理して、その内容を分かりやすく他者に伝える方法を実践的に学ぶ。また、他者との議論を通じて、テキストの理解を深めると共に、議論の仕方そのものについても学習する。さらに、テキストで取り上げられている問題を通じて現代の日本社会のあり方について自分なりの考察を行う。なお、2時間目は履修指導、課題学習等を行う。

到達目標

① テキストで説明されている内容を理解し、他者に説明できる。
② ポイントを押さえてテキストの内容をまとめ、他者に伝えることができる。
③ 他者の説明を聞き、疑問点や関連する自分の意見等を述べ、共通の話題について、他者と議論することができる。
④ 自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項）	／履修指導
2週	序章　若者雇用問題がなかった日本	／レポート指導①
3週	第1章①　「ジョブ型」社会と「メンバーシップ型」社会	／レポート指導②
4週	第1章②　日本の法律制度はジョブ型社会が原則	／レポート指導③
5週	第1章③　「入社」型社会はどのように作られた	／レポート指導④
6週	第2章　定期昇給は何のため？、時間と空間の無限定	／レポート指導⑤
7週	前半のまとめ、☆第5章働くってどういうこと？	／課題学習①
8週	第3章「就職」型職業教育の冷遇、「地頭がいい」人材を提供するだけの学校教育	／課題学習②
9週	第4章①　職業的意義なき教育ゆえの「人間力」就活	／課題学習③
10週	「専門演習」探究活動、☆第12章社会運動って特別なもの？	
11週	第5章①　若者雇用問題がなかった二〇世紀	／テーマ別課題学習①
12週	「専門演習」探究活動報告会（合同ゼミ）	
13週	第5章②　若者の雇用を確保するために、採用を年齢で差別しない	／テーマ別課題学習②
14週	第6章　生活保障なき無限定社員、「人間力」 就活がもたらすブラック企	／テーマ別課題学習③
15週	まとめ	

成績評価方法・基準

授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

工藤・大山・笠井（編）『基礎ゼミ社会学』世界思想社、2017年
浜口圭一郎『若者と労働』中公新書ラクレ、2013年

参考書等

森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015年、濱口桂一郎『新しい労働社会 雇用システムの再構築へ』岩波新書、2009年

クラスコード

l3olauk ※全体用。各担任別のクラスルームは別途指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず教科書の該当ページを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事 前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整 理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	専門演習Ⅰa	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	梶井　祥子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

日本社会は本格的な人口減少期を迎えています。大きな社会変動のなかで私たちが生きている地域社会を捉えなおし、住民同士のつながり、コミュニティ意識、制度の変遷、自治体の取組み、家族支援などを視点として地域創生を実践的に構想していきます。＜ソーシャル・キャピタル(社会関係資本・人間関係資本)＞という概念をキーワードとして、近未来の地域社会のあり方を模索し、これまでのライフスタイルや生活価値観を根本的に見直す作業をしていきます。

到達目標

① 人口減少期に突入した日本社会における「家族」・「雇用」・「地域社会」の変容をとらえることができる。
② 地域社会におけるソーシャル・キャピタルについて、議論することができる。
③ ソーシャル・キャピタルを醸成するための仕掛けについて、地域特性を考えながら構想することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	地域社会と地域コミュニティをどのように捉えるか
3週	地域コミュニティに何が期待されているのか。
4週	調査リテラシーの理解
5週	地域資源としてのソーシャル・キャピタル
6週	人口減少の推移と背景
7週	人口減少と家族の変容
8週	人口減少と雇用環境の変容
9週	人口減少と地域社会
10週	地方創生とは何か
11週	北海道の地域特性
12週	地域社会の魅力化と資源の活用
13週	コミュニティ意識の醸成
14週	地域研究の意義
15週	振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

最終レポート40%、授業への取組みとゼミへの貢献30%、中間レポート30%

教科書ソフト等

なし。

参考書等

稲葉陽二著『ソーシャル・キャピタル入門-孤立から絆へ-』中公新書 2011年、山崎史郎著『人口減少と社会保障ー孤立と縮小を乗り越える』中公新書 2017年

クラスコード

zwhoh5v

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

目的意識を持った受講を期待します。新聞のトピックスには必ず目を通してください。ラジオ番組の制作もあります。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

資料収集等は分担して行う。各自責任をもって参加すること。文献輪読時のレジュメ、課題作成、討論への参加は必須とします。

授業科目	専門演習Ⅰb	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

「専門ゼミ」の導入科目としてグループワークを通じて意思疎通の方法を学ぶとともに、各受講生のテーマに沿った文献の購読とディスカッションを通じて、自分の問題関心を社会学的に考察するための力を身につけることを本科目の目的とする。

到達目標

① 他者の意見や考えを深く理解しつつ、自分の意見を適切に述べることができる。
② 様々なリサーチを通じて、現代社会の抱える課題を明らかにし、適切に説明することができる。
③ 現代社会の抱える諸問題について、その社会的背景を具体的に説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	論文検索の方法
3週	多様性理解のグループワーク　①地球からの脱出
4週	多様性理解のグループワーク　②リフレーミングの基礎と応用
5週	地域再生について考える　①「近代化」とは何かを考える
6週	地域再生について考える　②仮説と現実を行き来する
7週	自分の問題関心を「社会学」する　①過疎問題の背景
8週	自分の問題関心を「社会学」する　②スポーツとジェンダー
9週	自分の問題関心を「社会学」する　③動物虐待問題
10週	自分の問題関心を「社会学」する　④現代社会における社会的不平等
11週	自分の問題関心を「社会学」する　⑤児童虐待問題
12週	自分の問題関心を「社会学」する　⑥災害時における情報発信
13週	自分の問題関心を「社会学」する　⑦アフターコロナ社会の構想
14週	自分の問題関心を「社会学」する　⑧観光まちづくりの現状と課題
15週	前期の振り返りとレポート作成指導

成績評価方法・基準

平常点（ゼミ発表・グループワークへの参加態度）50%、レポート評価50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

2fwuc7x

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習では、主として文献講読を通じて各分野の抱える課題や対応策について理解を深める。事前に提示される文献については次回までに良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

授業科目	専門演習Ｉc	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

コミュニティFMと街の公共サインをテーマとして、文献講読、ラジオ番組制作、観察調査を行います。この授業の目標はコミュニケーションとメディアをめぐる問題について、受け手と送り手の立場に立って理解することです。テーマに関する文献を講読していくことで、コミュニケーションの社会学についての理解を深めます。また、「地域課題研究Ｉ」の授業と連動しつつ、街の公共サインの観察調査を行い、そこに見られる工夫や問題点を点検していきます。月に1回コミュニティFMの生放送番組の企画・制作を行って、公共の電波を通じて伝える意義とその責任について考えます。

到達目標

① テキスト講読と公共サインの観察を通して、コミュニケーションをめぐる課題や工夫を指摘することができる。
② コミュニティFMの番組制作を通して、公共的なメディア空間にふさわしいコミュニケーションの作法を身につける。
③ 演習活動を通じて、ゼミナールとしての集団的な学習スキルや協働する力を高める。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス：コミュニティFM、公共サイン、社会学
2週　コミュニティFM番組（4月）の企画
3週　コミュニティFM番組（4月）の放送
4週　コミュニケーションとは何か
5週　コミュニティFM番組（5月）の企画
6週　コミュニティFM番組（5月）の放送
7週　身体・コミュニケーション・自己
8週　社会関係とコミュニケーション
9週　地域メディアの機能
10週　コミュニティFM番組（6月）の企画
11週　コミュニティFM番組（6月）の放送
12週　街の公共サインを点検する①観光スポットに見られる課題
13週　街の公共サインを点検する①観光スポットに見られる工夫
14週　コミュニティFM番組（7月・8月）の企画
15週　コミュニティFM番組（7月・8月）の放送

成績評価方法・基準

番組制作への貢献40%、調査・報告の出来栄え20%、期末レポート40%

教科書ソフト等

辻大介・是永論・関谷直也（著）『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

btsktxa

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=テキストを事前に読み、疑問点や意見をまとめる。また、番組の企画制作に向けた事前準備を行う。
復習=番組制作の反省、授業の振り返りと活動の成果を整理する。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎月第4火曜日にコミュニティFM三角山放送局（西区）で生放送を行います。また、公共サインの観察調査のために教室外へ出かける場面があります。時間や規律をしっかり守って行動することが重要です。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	専門演習Ｉｄ	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	太田　稔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

経営学は企業や組織の実情に合わせて日々進歩している学問領域です。専門演習Ｉでは経営学の基礎を知り、企業戦略の詳細を理論(学術面)と実践(実務面)の両面から学びます。また、近年の経営学のトピックでもある自然資本経営やCSR、ソーシャル・ビジネス、ソーシャル・マーケティングなども視野に入れながら、企業が社会に対してどのような戦略を取ることが必要なのかを体得してもらいます。また、論文や学術書の輪読を通じて、卒業論文執筆に対するアカデミックライティングの基本も習得してもらいます。文や学術書の輪読を通じて、卒業論文執筆に対するアカデミックライティングの基本も習得してもらいます。調査（インプット）と発言（アウトプット）がゼミの両輪となりますので、事前課題と事後課題は準備時間をしっかりと確保して臨んでください。

到達目標

① 経営学の基礎的な考え方と理論を習得する。
② 発表を通じて、レジュメの作成方法、プレゼンテーション、ディスカッションなどを習得する。
③ 論文や学術書の輪読を通じて、アカデミックスキルを学ぶ。
④ 卒業論文のテーマの「種」を見つける。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、経営学基礎、経済学と経営学の違いについて
2週	経営組織論①　組織デザイン、マクロ組織論
3週	経営組織論②　モチベーション、リーダー
4週	経営戦略論①　経営戦略、全社戦略
5週	経営戦略論②　競争戦略、事業戦略
6週	技術経営論①　生産管理、品質経営
7週	技術経営論②　製品開発、イノベーション
8週	戦略的CSR①　サスティナビリティ(持続可能性)とステークホルダー論
9週	戦略的CSR②　世界と日本のCSRケースと日本型CSR
10週	戦略的CSR③　CSRレポート分析
11週	生物多様性・自然資本経営① SDGsと自然資本経営
12週	生物多様性・自然資本経営② ESG投資と自然資本経営
13週	生物多様性・自然資本経営③ 自然資本経営ケース
14週	ソーシャル・ビジネス理論
15週	ソーシャル・マーケティング理論

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度（発表、討論）30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

嶋口充輝　他(2010)『1からの戦略論』中央経済社
片岡信之　他(2000)『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂
井上達彦（2014）『ブラックスワンの経営学』日経BP社

クラスコード

6aayww2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・グループワークが基本となります。2年間一緒に専門ゼミを過ごす仲間となりますので、どのような場合においても前向きに授業に参画してください。
・企業からのゲストをお招きして実際の経営についてお話を聞く機会があります。
・履修生の興味・関心によって授業内容を若干調整する可能性があります。

授業科目	専門演習Ｉe	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	津幡　笑	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

ゼミを通じて、法律のみかた、考え方を学びます。
毎回、民事法を中心とする１つの判例を取り上げ、担当者が事前に調べた事案や判決内容、学説などの概要を報告し、それについて出席者全員で議論します。
報告された判例に関係する民事法の基礎知識を全員で確認します。
取り上げるテーマには、「地域」の視点などを適宜取り入れるように努めます。

到達目標

公務員試験、宅建士試験など各種試験に対応する民事法の基礎知識を習得します。
民間就職希望の学生も、企業法務の基礎知識を学び、契約書を読んでその内容を理解できるようになることを目指します。
将来社会で活躍するために必要となるリーガルマインド(法的思考)を身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス・報告分担決定
2週	法令・判例・文献の調べ方
3週	判例の読み方
4週	法学入門他法律科目の振り返り
5週	第1報告
6週	第2報告
7週	第3報告
8週	第4報告
9週	中間まとめ
10週	第5報告
11週	第6報告
12週	第7報告
13週	第8報告
14週	第9報告
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

担当報告とそれをまとめたレポート70%、毎回の出席・授業発言状況30%

教科書ソフト等

神余博史『国家試験受験のためのよくわかる民法』(自由国民社)

参考書等

『民法判例百選Ⅰ、Ⅱ,Ⅲ』(2023年、有斐閣)

クラスコード

kvyrbsz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

報告担当者は2週間以上前から事前に教員と個別面談をしながら報告準備します。報告終了後はレポートを提出します

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

報告担当者だけでなく全員が議論に参加すること。ただ座っているだけでは出席点として評価しません。

授業科目	専門演習Ｉｆ	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3005

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。経営学は経済学、心理学（マクロとミクロ）、社会学から成り立っているといわれている。本科目ではその中でも経済学ディシプリンの経営理論およびマクロ心理学ディシプリンの経営理論を、教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。たくさんの企業や経営者、従業員、会社組織などに、普遍的に当てはまり、実証研究に堪えうるビジネスの真理法則(How、When、Why)を学ぶ。また、卒業論文の指導も個別面談を中心に行う。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる
② 経済学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
③ マクロ心理学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
④ 卒業論文のテーマを作成し、プレゼンテーションとディスカッションができるようになる

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　／　卒業論文テーマ作成概要
2週　経済学ディシプリンの経営理論：SCP理論
3週　経済学ディシプリンの経営理論：リソース・ベースト・ビュー（RBV）
4週　経済学ディシプリンの経営理論：情報の経済学、エージェンシー理論
5週　経済学ディシプリンの経営理論：取引費用理論（TCE）
6週　経済学ディシプリンの経営理論：ゲーム理論
7週　経済学ディシプリンの経営理論：リアル・オプション理論
8週　中間まとめ　／　卒業論文テーマ中間報告会
9週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：カーネギー学派の企業行動理論（BTF）
10週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：知の探索・知の深化の理論
11週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：組織の記憶の理論
12週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：組織の知識創造理論（SECIモデル）
13週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：認知心理学ベースの進化理論
14週　マクロ心理学ディシプリンの経営理論：ダイナミック・ケイパビリティ理論
15週　まとめと振り返り　／　卒業論文テーマ発表会

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（プレゼンテーション・レポート）50%

教科書ソフト等

入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

y5y4nao

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。卒業論文の作成では、個別指導を行うので指定されたパートをしっかり書いてくること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	専門演習Ⅱa	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	梶井　祥子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

日本社会は本格的な人口減少期を迎えています。大きな社会変動のなかで私たちが生きている地域社会を捉えなおし、住民同士のつながり、コミュニティ意識、制度の変遷、自治体の取組み、家族支援などを視点として地域創生を実践的に構想していきます。各人の卒業論文のテーマを絞りこみ、執筆方法を確認します。それぞれの執筆計画について、ゼミ内で検討し合います。

到達目標

① 人口減少期に突入した日本社会における「家族」・「雇用」・「地域社会」の変容をとらえることができる。
② 地域社会におけるソーシャル・キャピタルについて、議論することができる。
③ 卒論のテーマを決定し、執筆計画を確認する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	コミュニティとソーシャル・キャピタル
3週	卒論のテーマの絞り込み
4週	卒論とは何か
5週	執筆の方向性とエビデンスの収集の方法
6週	卒論執筆計画の中間発表
7週	卒論の検討会
8週	卒論の検討会
9週	フィールドワークとは何か
10週	フィールドワーク計画と下準備
11週	フィールドワークの計画と目標の確認
12週	フィールドワークの振り返り
13週	フィールドワーク報告会の準備
14週	フィールドワーク報告会
15週	振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

最終レポート40%、授業への取組みとゼミへの貢献30%、中間レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

稲葉陽二著『ソーシャル・キャピタル入門-孤立から絆へ-』中公新書 2011年、山崎史郎著『人口減少と社会保障―孤立を縮小を乗り越える』中公新書 2017年

クラスコード

iopqmki

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

目的意識を持った受講を期待します。社会学的想像力を醸成することを目指して、関係性を読み取る能力や多角的視点の獲得を理解してください。新聞のトピックスには必ず目を通してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

資料収集等は分担して行う。各自責任をもって参加すること。文献輪読時のレジュメ、課題作成、討論への参加は必須とします。

授業科目	専門演習Ⅱb	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

次年度の卒業研究への導入として研究方法論の基礎を学ぶとともに、多様性及び「共感」についての理解を深めるための文献購読とディスカッションを通じて、福祉的な観点から自分の問題関心を深め、問題解決について柔軟に考察を深める力を身につけることを本科目の目的とする。

到達目標

① 研究方法の基礎を理解し、自分なりの方法で応用することができる。
② 研究上の重要なキーワードについて、複数の視点から理解を深めることができる。
③ 上記をふまえて、自分の発見した社会課題に対して複眼的な視点から解決策を提案することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　研究の基本を学ぶ　①前期レポート課題の振り返り
2週　研究の基本を学ぶ　②「研究」とは何か
3週　研究の基本を学ぶ　③多様な考え方を意識・共有する
4週　研究の基本を学ぶ　④昔と今の比較から考える
5週　研究の基本を学ぶ　⑤国内外の比較から考える
6週　「共感」とは何かを考える　①「シンパシー」と「エンパシー」
7週　「共感」とは何かを考える　②エンパシーのはたらき
8週　「共感」とは何かを考える　③経済とエンパシーとのつながり
9週　「共感」とは何かを考える　④イギリスにおける「エンパシー」
10週　「共感」とは何かを考える　⑤「迷惑をかけること」と共感
11週　「共感」とは何かを考える　⑥性的多様性とエンパシー
12週　「共感」とは何かを考える　⑦各種メディアとエンパシーとの関係
13週　「共感」とは何かを考える　⑧エンパシーの光と影
14週　「共感」とは何かを考える　⑨エンパシーと教育
15週　後期の振り返りとレポート作成指導

成績評価方法・基準

方法・基準 平常点（ゼミ発表・参加態度）50%、レポート評価50%

教科書ソフト等

ブレイディみかこ、2021、『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』文芸春秋

参考書等

特になし。必要に応じて、授業中に随時紹介します。

クラスコード

fv5uoip

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習では、主として文献購読を通じて各分野の抱える課題や対応策について理解を深める。事前に提示される文献については次回までに良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

授業科目	専門演習Ⅱb	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

「専門演習Ⅰ」に引き続き、コミュニティFMと街の公共サインをテーマとして、文献講読、ラジオ番組制作、観察調査を行います。この授業の目標はコミュニケーションとメディアをめぐる問題について、受け手と送り手の立場に立って理解することです。「地域課題研究Ⅱ」の授業と連動しつつ、コミュニティFMの番組制作と公共サイン調査の成果をとりまとめていきます。後半では、4年次の「専門演習Ⅲ・Ⅳ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に向けて卒業論文のテーマをしぼり、研究計画を立てていきます。

到達目標

① テーマに関する文献を読みこなし、報告と議論ができる。
② コミュニティFMの番組制作を通して、公共的なメディア空間にふさわしいコミュニケーションの作法を身につける。
③ コミュニティFMの番組制作と公共サイン調査の成果をレポートにまとめることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	公共サインの調査結果の整理
2週	コミュニティFM番組（9月）の企画
3週	コミュニティFM番組（9月）の放送
4週	コミュニティFM番組（10月）の企画
5週	コミュニティFM番組（10月）の放送
6週	公共サインについての補足調査
7週	メディアの影響力
8週	コミュニティFM番組（11月）の企画
9週	コミュニティFM番組（11月）の放送
10週	卒論に向けて 研究テーマを考える
11週	コミュニティFM番組（12月～3月）の企画
12週	コミュニティFM番組（12月）の放送
13週	FM番組制作と公共サイン調査についてのプレゼンテーション資料の作成
14週	FM番組制作と公共サイン調査についてのレポート作成
15週	コミュニティFM番組（1月～3月）の放送

成績評価方法・基準

番組制作への貢献30%、調査・報告の出来栄え30%、期末レポート40%

教科書ソフト等

辻大介・是永論・関谷直也（著）『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

r6wn2z5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=テキストを事前に読み、疑問点や意見をまとめる。また、番組の企画制作と調査に向けた事前準備を行う。復習=番組制作の反省、授業の振り返りと活動の成果を整理する。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎月第4火曜日にコミュニティFM三角山放送局（西区）で生放送を行います。また、公共サインの観察調査のために教室外へ出かける場面があります。時間や規律をしっかり守って行動することが重要です。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	専門演習Ⅱd	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	太田 稔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

専門演習Ⅰで学んだ経営学基礎を実践(実務面)に接続し、新聞の情報やケース分析通じて経営学が企業活動の中でどのように利用されているかを学びます。また、サスティナビリティという視点から企業活動を俯瞰することで、実際の企業活動が理論(学術面)においてどのように研究されているのかも理解します。近年注目されているCSV(Creating Shard Value)やソーシャル・マーケティング、ソーシャル・ビジネスのビジネスモデルまでを網羅することで、これまでの利益追及型ビジネスだけではなく社会的課題に取り組むソーシャルビジネスのあり方も学びます。

到達目標

① 経営学の基礎的な考え方と理論を習得する。
② 発表を通じて、レジュメの作成方法、プレゼンテーション、ディスカッションなどを習得する。
③ 論文や学術書の輪読を通じて、アカデミックスキルを習得する。
④ 卒業論文のテーマを決定する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、サスティビナリティ経営
2週	サスティナブル・カンパニー① 社会的課題を解決するビジネス
3週	サスティナブル・カンパニー② サスティナブル・カンパニーを支える地域づくり
4週	サスティナブル・カンパニー③ ケース分析
5週	CSV経営① 次世代経営戦略としてのCSV
6週	CSV経営② マイケル・ポーターのCSV概念
7週	CSV経営③ CSVケース分析
8週	グッドワークス！① コーズ・リレイティッド・マーケティング(CRM)
9週	グッドワークス！② ソーシャル・マーケティング
10週	グッドワークス！③ グッドワークスケース分析
11週	ソーシャル・ビジネス① ソーシャルエンタープライズ論
12週	ソーシャル・ビジネス② ソーシャルイノベーション論
13週	ソーシャル・ビジネス③ ソーシャルアントレプレナー論
14週	論文執筆準備① リサーチクエスチョンの設定、なぜ？そのテーマなのかを深める
15週	論文執筆準備② リサーチクエスチョンの設定、テーマを掘り下げる

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度(発表、討論)30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

三橋規宏 (2006)『サスティナビリティ経営』講談社、大室悦賀 (2016)『サスティナブル・カンパニー入門』学芸出版社

クラスコード

6aayww2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・グループワークが基本となります。2年間一緒に専門ゼミを過ごす仲間となりますので、どのような場合においても前向きに授業に参画してください。
・企業からのゲストをお招きして実際の経営についてお話を聞く機会があります。
・履修生の興味・関心によって授業内容を若干調整する可能性があります。

授業科目	専門演習Ⅱe	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	津幡　笑	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

ゼミを通じて、法律のみかた、考え方を学びます。
毎回、民事法を中心とする 1 つの判例を取り上げ、担当者が事前に調べた事案や判決内容、学説などの概要を報告し、それについて出席者全員で議論します。
報告された判例に関係する民事法の基礎知識を全員で確認します。
取り上げるテーマには、「地域」の視点などを適宜取り入れるように努めます。

到達目標

公務員試験、宅建士試験など各種試験に対応する民事法の基礎知識を習得します。
民間就職希望の学生も、企業法務の基礎知識を学び、契約書を読んでその内容を理解できるようになることを目指します。
将来社会で活躍するために必要となるリーガルマインド(法的思考)を身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス・報告分担決定
2週	法令・判例・文献の調べ方の復習
3週	卒論テーマの選び方・考え方①
4週	第1報告
5週	第2報告
6週	第3報告
7週	第4報告
8週	中間まとめ
9週	第5報告
10週	第6報告
11週	第7報告
12週	第8報告
13週	第9報告
14週	卒論テーマの選び方・考え方②
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

担当報告とそれをまとめたレポート70%、毎回の出席・授業発言状況30%

教科書ソフト等

神余博史『国家試験受験のためのよくわかる民法』(自由国民社)

参考書等

『民法判例百選Ⅰ、Ⅱ,Ⅲ』

クラスコード

3hcvwgc

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

報告担当者は2週間以上前から事前に教員と個別面談をしながら報告準備します。報告終了後はレポートを提出します

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

報告担当者だけでなく全員が議論に参加すること。ただ座っているだけでは出席点として評価しません。

授業科目	専門演習Ⅱf	配当年次	3年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 3006

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。経営学は経済学、心理学（マクロとミクロ）、社会学から成り立っているといわれている。本科目ではその中でもミクロ心理学ディシプリンの経営理論および社会学ディシプリンの経営理論を、教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。たくさんの企業や経営者、従業員、会社組織などに、普遍的に当てはまり、実証研究に堪えうるビジネスの真理法則(How、When、Why)を学ぶ。また、卒業論文の指導も個別面談を中心に行う。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる
② ミクロ心理学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
③ 社会学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
④ 卒業論文の研究概要を作成し、プレゼンテーションとディスカッションできるようになる

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　/　卒業論文研究概要作成
2週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：リーダーシップの理論
3週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：モチベーションの理論
4週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：認知バイアスの理論
5週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：意思決定の理論
6週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：感情の理論
7週　ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：センスメイキング理論
8週　中間まとめ　/　卒業論文研究概要中間報告会
9週　社会学ディシプリンの経営理論：エンベデッドネス理論
10週　社会学ディシプリンの経営理論：「弱いつながりの強さ」理論、ストラクチャル・ホール理論
11週　社会学ディシプリンの経営理論：ソーシャルキャピタル理論
12週　社会学ディシプリンの経営理論：社会学ベースの制度理論、資源依存理論
13週　社会学ディシプリンの経営理論：組織エコロジー理論、エコロジーベースの進化理論
14週　社会学ディシプリンの経営理論：レッドクイーン理論
15週　まとめと振り返り　/　卒業論文研究概要発表会

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（プレゼンテーション・レポート）50%

教科書ソフト等

入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年。
※ 専門演習Ⅰgと同じ教科書です。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

y5y4nao

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。卒業論文の作成では、個別指導を行うので指定されたパートをしっかり書いてくること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	情報処理応用演習Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	丸山 宏昌	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2033

授業概要

「情報処理演習Ⅰ(Excel)」・「情報処理演習Ⅱ(Excel)」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、標本に基づく推測統計を表計算ソフト(Excel)で行うことができる基礎的技能を身につける。

到達目標

① 基本的な推測統計への理解を深めることができる。
② 表計算ソフト(Excel)を利用して、標本に基づく推測統計の分析ができる。
③ 仮説の検定と相関分析ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価、Excelによる記述統計【Excelの操作の復習】
2週	推測統計の基礎① 母集団と標本、母数と標本統計量【標本統計量についての復習】
3週	推測統計の基礎② 確率変数と確率分布【確率分布についての復習】
4週	推測統計の基礎③ 標本分布、標準誤差【標準誤差に関する課題】
5週	仮説検定の考え方① 帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側・片側検定【仮説検定の考え方についての復習】
6週	仮説検定の考え方② 検定の手順【仮説検定の手順についての復習】
7週	推測統計の基礎と仮説検定の考え方の振り返りと授業内試験(到達度テスト)【振り返り】
8週	仮説検定の方法① 独立性の検定【独立性の検定に関する課題】
9週	仮説検定の方法② 比率の差の検定【比率の差の検定に関する課題】
10週	仮説検定の方法③ 平均の差の検定【平均の差の検定に関する課題】
11週	仮説検定の方法④ 分散の差の検定【分散の差の検定に関する課題】
12週	相関分析① 散布図と相関係数【相関係数についての復習】
13週	相関分析② Excelの分析ツールによる相関分析【相関分析に関する課題】
14週	相関分析③ 相関係数の検定【相関係数に関する課題】
15週	仮説検定と相関分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト)、全体のまとめ【振り返り】

成績評価方法・基準

授業内試験(到達度テスト)40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算(第4版)』(情報処理演習Aで購入)

クラスコード

nzznmrm

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」を取得するための社会調査実務関係の情報処理演習に該当しています。

授業科目	情報処理応用演習Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	丸山 宏昌	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3034

授業概要

「情報処理演習Ⅰ(Excel)」・「情報処理演習Ⅱ(Excel)」及び「情報処理応用演習Ⅰ」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、社会調査データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、回帰分析を中心に取り上げ、表計算ソフト(Excel)で処理することができる基礎的技能を身につける。

到達目標

① 多変量解析について理解することができる。
② 回帰分析、重回帰分析のデータ処理や分析を表計算ソフト(Excel)で行えるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価、Excelによる推測統計【Excelの推測統計の復習】
2週	多変量データの解析① データの種類(変数の種類と役割)【データの種類についての復習】
3週	多変量データの解析② 多変量解析の手法(数量化理論、主成分分析など)【多変量解析の手法についての整理】
4週	多変量データの解析③ Excelの統計解析機能(統計関数と分析ツール)【Excelの統計解析機能を使用した課題】
5週	回帰分析① 回帰分析の基礎(最小二乗法、回帰式、回帰直線)【回帰分析の考え方についての復習】
6週	回帰分析② 単回帰分析の方法(散布図と近似曲線)【単回帰分析を使用した課題】
7週	回帰分析③ 単回帰分析の結果の解釈 【単回帰分析の結果を解釈する課題】
8週	多変量データの解析と回帰分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト)【振り返り】
9週	重回帰分析① 重回帰分析の方法【重回帰分析を使用した課題】
10週	重回帰分析② 重回帰分析の結果の解釈【重回帰分析の結果を解釈する課題】
11週	重回帰分析③ ダミー変数を含んだ重回帰分析【ダミー変数を含んだ重回帰分析の課題】
12週	重回帰分析④ 説明変数の絞り込み【説明変数の絞り込みについての復習】
13週	重回帰分析⑤ 重回帰分析の事例1【重回帰分析を使用した課題】
14週	重回帰分析⑥ 重回帰分析の事例2【重回帰分析を使用した課題】
15週	重回帰分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト)、全体のまとめ【振り返り】

成績評価方法・基準

授業内試験(到達度テスト)40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算(第4版)』(情報処理演習Aで購入)

クラスコード

4zubpz5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」を取得するための社会調査実務関係の情報処理演習に該当しています。

授業科目	キャリアプラン基礎	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	和田　佳子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3921

授業概要

大学で学んでいることと働くことのつながりを考え、キャリアプラン(キャリア形成上の目標)を立てることの意義について考えます。各自がこれまでの大学生活で獲得した資源(能力・技能・経験・人とのつながりなど)の棚卸しを行い、現代社会が求める力と照らし合わせながら、後半の大学生活の過ごし方を考えます。また、変化の激しい時代に社会の様々なフィールドで活躍する先輩たちの例を参考にしながら、自らの将来像を考えてみます。

到達目標

① キャリア発達の基礎理論をベースに、各自が将来のキャリアプランを描くことの重要性を理解する。
② 社会の出来事に関心を持ち、社会が求める人間像を探ると同時に、自分自身が大学でどのような力を身につけておくべきかを考えることができる。
③ 自己理解を深め、社会とのかかわり方、強み(専門性)の活かし方について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

音楽学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	オリエンテーション(キャリアプランとは何か、授業参加の仕方、課題と評価方法)
2週	若者の就労を取り巻く現状(私たちはどんな時代に生きているのか)
3週	大学での学び・専門性を社会でどのように活かすか(ポートフォリオの考え方)
4週	キャリアデザインの描き方、キャリアプランの立て方(ライフイベントとライフコース)
5週	キャリア発達・キャリア形成の基礎理論①
6週	キャリア発達・キャリア形成の基礎理論②
7週	自分を知るためのアセスメント① 価値観と行動特性
8週	自分を知るためのアセスメント② 自分の強みの把握
9週	大学での学びと社会のつながり①
10週	大学での学びと社会のつながり②
11週	大学での学びと社会のつながり③
12週	キャリア権とワークルール *課題の提示
13週	社会常識・時事問題①
14週	社会常識・時事問題②
15週	振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

平常点(参加態度等)30%、授業内課題提出30%、最終課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

阿部正浩・松繁寿和編『キャリアの観方 図で見る109のポイント』(有斐閣)

クラスコード

ojjwoze

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で指示された課題は、期日までに仕上げて必ず提出してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業ではグループで話し合う場面があります。自分の将来を真摯に考える態度や学科の枠を超えて仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。

授業科目	キャリアプラン応用	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	和田　佳子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3922

授業概要

社会の動きや労働環境の動向を捉え、社会人に求められる資質や能力についての理解を深めます。この時期は就職活動に向かう時期にかかることから、広く社会事象に関心を向けるとともに自己のキャリア形成を意識して、進路選択を具体的に考えていきます。生涯にわたる学びとキャリア形成の礎となる思考の方法について学びます(グループディスカッションや面接トレーニングを含む)。

到達目標

① 自分の強みと弱みに目を向け、卒業後の進路を具体的に考えられる。
② 社会の出来事に関心を持ち、どのようなことにも当事者意識を持って能動的に考えることができる。
③ 社会が求める能力や資質を理解できる。
④ グループワークを通して、組織的・協調的に思考・行動することの意義を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

音楽学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	オリエンテーション(授業の参加の仕方、課題と評価方法)
2週	現代若者の就業動向①
3週	現代若者の就業動向②
4週	様々な仕事・働きかたリサーチ① 卒業生の活躍から考える
5週	様々な仕事・働きかたリサーチ② 業種や職種についての情報収集
6週	様々な仕事・働きかたリサーチ③ 業種や職種についての情報分析
7週	働く現場・組織の知識① 組織行動の目的
8週	働く現場・組織の知識② ビジネスルールとマナー
9週	働く現場・組織の知識③ 職場の人間関係の特徴
10週	求職活動に活かせるツール① ジョブ・カードとは何か
11週	求職活動に活かせるツール② ジョブ・カードの活用
12週	課題解決ワーク①
13週	課題解決ワーク②
14週	課題解決ワーク③
15週	授業の振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

平常点(参加態度等)40%、授業内課題提出30%、最終課題30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

大内孝夫『音大卒は武器になる』(ヤマハミュージックメディア)、太丸伸章『デザインの仕事 なり方ガイド』(学習研究社)

クラスコード

6zioczt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で指示された課題は、期日までに仕上げて必ず提出してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業ではグループで話し合う場面があります。自分の将来を真摯に考える態度や学科の枠を超えて仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。

この科目はオンライン・オンデマンド方式で実施されます。

授業科目	北海道の地理	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	遠藤　正	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2201

授業概要

北海道の地理を理解するとともに、地域の主要な産業、課題、文化など幅広く北海道を理解する。また、北海道の地理的な特性を活用した観光にも着目し、地域づくりを観光の視点を交えて学ぶ。

到達目標

① 北海道の地理について、その特性の理解に努める。
② 地理的な見方とともに地域の特徴との関係を理解できる。
③ 地域の特徴や課題を認識し、地域社会と関わっていく習慣をつける。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　北海道の地理1
3週　北海道の地理2
4週　北海道の気候
5週　北海道と地域産業1
6週　北海道と地域産業2
7週　時事テーマによる地域の理解
8週　北海道と地域課題1
9週　北海道と地域課題2
10週　北海道と地域の観光1
11週　北海道と地域の観光2
12週　時事テーマによる地域の理解
13週　北海道とインバウンド
14週　授業内テスト
15週　まとめ 授業到達度の確認、授業内テストのフィードバック

成績評価方法・基準

平常点20%,授業内試験80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

gtnujik

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。北海道のニュース等時事問題を常に確認し、北海道の状況を理解してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

適宜参加者に発言も求めます。

授業科目	北海道の生活文化	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	齋藤　貴之	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2211

授業概要

この授業では、北海道に暮らす人びとの住民構成、北海道各地の多彩な暮らし、生活儀礼と世界観、信仰と宗教、年中行事と食、など北海道の人びとの暮らしの中に脈々と受け継がれている行為や習慣などのさまざまな事例を題材として取り上げ、その現状や変化、地域差などを解き明かしていくことで、北海道に暮らす人びとの行動や考え方の根底にある「北海道らしさ」を探求します。

到達目標

この授業では、北海道の生活文化を学ぶことを通して、自らを育んでくれた北海道の文化・風習・歴史に気づき、それらが持つ意味や役割を再認識しながら、身近な事例を通してそれらを学ぶための思考を養うとともに、その知識や理解を深めることを目指します。同時に、ものの考え方、ものの見方を身につけて、社会に出てからも自分の力を十分に発揮するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	ガイダンス：この講義の流れと進め方、なぜ今北海道の生活文化か
2週	東アジアと北海道の古代史：古代人はどこから来たのか
3週	人とものが集う場所：定期市とその役割
4週	フィールドワークの心得：見る方法、聞く方法、撮る方法について学ぶ
5週	【学外授業】定期市で学ぶ in 豊平神社骨董市
6週	【学外授業】博物館で異文化体験 in 北海道博物館
7週	北海道の暮らしと家族：系図に学ぶ我が家の歴史と家族
8週	アイヌ文化と現代：アイヌの文化と文化多様性
9週	北海道の海の暮らし：漁村の暮らしと採集漁
10週	北海道の町の暮らし：都市の暮らしと祭り
11週	北海道の暮らしと年中行事：年中行事と行事食
12週	近代の北海道：北海道開拓とアイヌ
13週	北海道の職人文化：人とものとをつなぐ北海道の鍛冶屋
14週	観光：アニメ・ツーリズム、アニメ・マンガによる観光、聖地巡礼
15週	北海道の昆布：北海道の昆布が支える日本の文化

成績評価方法・基準

平常点：60%、レポート：40%
中間試験や学期末試験は行わず、毎回の授業で提出してもらう授業課題や学外授業への積極的な参加を加味した平常点、期間中に2回予定している課題レポートによって総合的に評価します。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付しますので、適宜閲覧またはダウンロードしてください。

参考書等

なし。随時紹介し、必要に応じて配布しますので、適宜閲覧またはダウンロードしてください。

クラスコード

amusrry

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

【予習】次回の講義のテーマを確認し、それに関連する文献や資料を調べるほか、新聞やニュースなど通して北海道の歴史や文化に関する用語に触れておいてください。【復習】講義で取り扱ったテーマに関し、配布されたレジュメや資料などを見直し、理解を深めてください。講義で示す課題についてレポートを作成してください。

総計10時間、平均で毎回最低予習20分、復習20分の学修が必要です。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回、授業動画で出題する問いへの回答、ならびにその授業の感想やコメント等を記入した用紙を提出してもらいます。授業内に成績講評と課題レポートのフィードバックを行います。
授業期間内に2回実施を予定している学外授業・フィールドワークへの積極的な参加を成績に加味します。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	北海道の歴史	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	中島 宏一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3201

授業概要

北海道の歴史について、まず総合的に学習する。そのうえで足もとの生活文化史に焦点をあてながら、どのような物事にも歴史があり、相互にかかわりあいながら人間社会が成り立っていることを理解。開拓期の状況や衣食住、商工業など具体的な事例の変遷を通して、歴史を身近なものとして再認識する機会にする。さらにそれらを日本の全体史の中に位置づけることで、北海道の独自性と普遍性を知るとともに、歴史が単なる過去でなく、現在および未来を考えるうえでの重要な基盤でもあることを理解する。

到達目標

① 北海道の歴史の全体的な流れについて、正しい知識を身につける。
② 身近な事象について具体的に対象を絞りながら、多様な角度から歴史を見ることができる習慣を身につける。
③ 北海道の位置づけと生活文化史の理解を通して学習したことを、実際の社会事象と関連させて考えることの重要性を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	北海道の歴史の始まり～中世、アイヌ文化
2週	北海道の近世史～北方との交流
3週	北海道の近代①～政策としての開拓使の設置、屯田兵の編成
4週	北海道の近代②～北海道経済を支えたニシン漁と炭鉱、交通体系の開発
5週	北海道の生活文化史①～出発点としての母村と移住
6週	北海道の生活文化史②～その後の変遷
7週	北海道の生活文化史③～北海道の地名に移住者の母村を探る
8週	身近な暮らしから北海道の歴史をみる
9週	テーマ別生活文化史①～住の文化
10週	テーマ別生活文化史②～酒(麦酒、清酒、ワイン、スピリッツ)の文化
11週	テーマ別生活文化史③～菓子の文化
12週	テーマ別生活文化史④～商工業(商店街、市場、デパート)の文化
13週	テーマ別生活文化史⑤～商工業(商店街、市場、デパート)の文化part2
14週	テーマ別生活文化史⑥～食の文化
15週	授業内試験(提出レポート講評)とまとめ

成績評価方法・基準

平常点(授業内の小課題、テーマレポートなど)50%、授業内試験(レポート論述式)50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

it22ud4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時に指示した資料をよく読み、授業後は講義内容をまとめノート等の整理をおこなってください。北海道の歴史について、授業計画のテーマ別内容を参考によくふりかえっておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

人間に興味があり探究心のある学生の受講を希望する。授業内容に関わって実施したレポート課題等のフィードバックを行う。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	北海道の美術	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	中村　聖司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3211

授業概要

北海道の美術は明治になってから本格的に動き出し、これまでに多様な作家を輩出してきた。また、公募展やグループ展なども盛んに活動を繰り広げ、近年では大きなアート・プロジェクトが実現されるようになった。道内各地の美術館も、美術の普及に大きな役割を果たしている。しかし、それ以前からアイヌの人々が優れた造形を生み出し、また近世においても北海道ならではの美術も誕生していた。本講義ではこうした北海道美術の歩みをたどりながら、重要な作家や作品を深く知り、北方に開花した美術の成果を学ぶ。また北海道立近代美術館や北海道立三岸好太郎美術館などの見学を行い、実作に触れながら北海道の美術を理解する。

到達目標

①北海道の美術の流れの概略を理解できる。
②北海道美術の重要な作家とその創作について理解できる。
③北海道の歴史や自然条件と、美術との関係について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

授業計画

1週　北海道の美術・ハイライト
2週　近世の美術
3週　幕末～明治の美術
4週　中原悌二郎とその時代
5週　画壇の形成と道外への進出
6週　三岸好太郎とその時代
7週　戦前、戦中の美術
8週　抽象と具象
9週　前衛グループの活動
10週　現代の美術
11週　工芸、建築、デザイン、写真
12週　北海道立近代美術館・三岸好太郎美術館見学
13週　「縄文」と美術館
14週　「アイヌ・アート」と美術館
15週　北方で美を考える

成績評価方法・基準

意欲的に授業に取り組めたか30%、意欲的に美術館見学ができたか20%、
北海道美術史、作家についてのレポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

北海道立近代美術館編『ミュージアム新書』全30巻、北海道新聞社

クラスコード

rt2yn5q

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、美術館学芸員としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に画集、インターネット等で次回テーマについて調べ、授業後には配付資料をもとにノートなどを整理をしてください。また関連した道内外の美術展覧会を調べ、可能であれば観覧してみてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業後に課題（300字程度）を提出。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	北海道の産業	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期集中	講義形態	講義
担当教員	五味 宏	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 3221

授業概要

本講義の目的は「北海道の産業」がどのような経緯をたどって変化してきたのかを学び、将来の発展に必要な要素とは何か、理解することにあります。
また、講義の中での発言や提出文により、伝える力を養います。
講師は、札幌テレビ放送（STV）の解説委員で、双方向＝インタラクティブな授業運営が基本です。
教材は、STVが制作した「見たい！知りたい！北海道」（2017年～2019年）などの番組を予定しています。
それを講義の中で視聴して、北海道に見合った事業や新しい産業の可能性について、掘り下げる視点を磨きます。
スープカレー・奥芝商店の社長と一緒に新しいメニューの開発に挑戦するほか、STVの生放送の現場も視察します。
【なお、番組の視聴など、授業の内容については変更する可能性があります。ご容赦願います。】

到達目標

① 相手に自分の考えを伝えられること。
② みんなと同じ意見ではなく、自分らしい、独自の考えを表現すること。
③ 社会に出たときに、自分の考えをしっかり言えたり、周りから信頼されるために何が必要なのか、考えること。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	北海道の産業とは？ −オリエンテーション−
2週	北海道の漁業「留萌のニシンと数の子」に学ぶ
3週	北海道の酪農「おいしい牛乳」って？
4週	北海道の技術①釧路が生んだ「魔法の氷」
5週	北海道の技術②室蘭の製鉄とオリンピック
6週	北海道の技術③自治体や大学と企業のマッチング
7週	北海道から世界へ①森町のいかめし
8週	北海道から世界へ②ライスボール・プレイヤー
9週	北海道から世界へ③札幌発！「フラワー・デザイン」
10週	スープカレー①奥芝商店の経営変革
11週	スープカレー②北海道の特産品を活かせ！
12週	スープカレー③新しいメニューを作ろう！
13週	メディアに学ぶ①札幌大谷大学が協力した特別番組
14週	メディアに学ぶ②番組づくりとアナウンサー
15週	メディアに学ぶ③どさんこワイド　スタジオ見学

成績評価方法・基準

各回の課題提出30%，課題の完成度（＝視点）40%，質疑応答の頻度30%

教科書ソフト等

教科書なし。

参考書等

参考書なし。授業内で指示します。

クラスコード

rhqlyuy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で習得した情報に加えて、各回のテーマをインターネット等で調べて北海道の産業の特徴や強みをノートに書きだして理解を深めてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本講義では、番組を見て感じたことや、それを北海道の強みとしてどう生かすか、考えることがポイントです。みんなと同じではなく、自分自身の意見や考え、独自の視点を持つことを高く評価します。

授業科目	文学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	上戸　理恵	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2101

授業概要

文学表現を分析的に読む技法を身につけることと共に、文学表現を通して現代社会の様々な問題を多面的に考察する思考力を養うことを目標とする。文学作品を複数取り上げ、文学表現を分析する技法・理論を紹介しながら個々の作品の特徴を考察し、文学的な言語表現の特質を具体的に講義する。また、近現代の文学史を念頭に置きながら、文学と映画やテレビ、マンガなどの他メディアとの関わり方や、社会との関わりの中で文学が果たしてきた役割についても考察する。

到達目標

① 現代日本の女性作家の小説作品において、ジェンダーの問題がどのように表れているのかを検討し、その背景にある歴史的・社会的文脈を読み取ることができる。
② 文学表現を分析する技法を理解し、文学表現を分析的に読むことができる。
③ 文学表現以外の視聴覚メディアにおける表現や物語に触れ、現実社会との関わり方を多面的に考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	フェミニズム批評と〈女性〉文学をめぐる問題
3週	恋愛と結婚① 大庭みな子「山姥の微笑」
4週	恋愛と結婚② 江國香織「号泣する準備はできていた」
5週	恋愛と結婚③ 海野つなみ「逃げるは恥だが役に立つ」
6週	恋愛と結婚④ 論点の整理と補足
7週	ジェンダーのゆらぎと越境性① 大島弓子「パスカルの群れ」
8週	ジェンダーのゆらぎと越境性② 笙野頼子「胸の上の前世」
9週	ジェンダーのゆらぎと越境性③ 村田沙耶香「無性教室」
10週	ジェンダーのゆらぎと越境性④ 論点の整理と補足
11週	記憶と物語① 林京子「九日の太陽」
12週	記憶と物語② 中島京子「ゴースト」
13週	記憶と物語③ 論点の整理と補足
14週	文学を研究するということ
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験60%、授業時のQ&A・提出物40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

与那覇恵子編『現代女性文学を読む』（双文社出版、2006年）

クラスコード

oxkydye

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

配付した資料を授業前および授業終了後に精読すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

意欲的な受講態度を期待します。

授業科目	政治学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	三須　拓也	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2402

授業概要

現代の政治情勢を理解するには、出来事の歴史背景や他の出来事との関連を理解すべきです。この講義では、身近な問題を手がかりにしながら、その「読み解き方」を学びます。この授業はオンデマンド授業として行います。

到達目標

① 政治と経済の基礎的知見を身につける。
② 新聞の政治、経済ニュースが理解できるようになる。
③ 経済のグローバル化が政治に与える影響を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	【事前学修】シラバスの確認／【授業内容】イントロダクション、国際感覚の重要性／【事後学修】講義中で言及した文献等(第1回)の確認
2週	【事前学修】パワーポイント資料・第2回の確認／【授業内容】日本の動きと世界の動き／【事後学修】講義中で言及した文献等(第2回)の確認
3週	【事前学修】パワーポイント資料・第3回の確認／【授業内容】新聞の読み方／【事後学修】講義中で言及した文献等(第3回)の確認
4週	【事前学修】パワーポイント資料・第4回の確認／【授業内容】政治情報の読み解き方、スピンについて／【事後学修】講義で言及した資料(第4回)の確認
5週	【事前学修】パワーポイント資料・第5回の確認／【授業内容】政治分析の仕方、ステイクホルダーを意識する／【事後学修】講義で言及した資料(第5回)の確認
6週	【事前学修】パワーポイント資料・第6回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境①／【事後学修】講義で言及した資料(第6回)の確認
7週	【事前学修】パワーポイント資料・第7回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境②／【事後学修】講義で言及した資料(第7回)の確認
8週	【事前学修】パワーポイント資料・第8回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境③／【事後学修】講義で言及した資料(第8回)の確認 第1回～第8回までのまとめの課題①
9週	【事前学修】パワーポイント資料・第9回の確認／【授業内容】「肥満」から考える格差と政治／【事後学修】講義で言及した資料(第9回)の確認
10週	【事前学修】パワーポイント資料・第10回をの確認／【授業内容】「マクドナルド化する経済」と政治①／【事後学修】manabaにある資料(第10回)をの確認
11週	【事前学修】パワーポイント資料・第11回の確認／【授業内容】「マクドナルド化する経済」と政治②／【事後学修】manabaにある資料(第11回)の確認
12週	【事前学修】パワーポイント資料・第12回の確認／【授業内容】「ラーメン」から考える日本政治と国際関係①／【事後学修】manabaにある資料(第12回)の確認
13週	【事前学修】パワーポイント資料・第13回の確認／【授業内容】「ラーメン」から考える日本政治と国際関係②／【事後学修】manabaにある資料(第13回)の確認
14週	【事前学修】パワーポイント資料・第14回の確認／【授業内容】現代日本政治の特色／【事後学修】クラスルームにある資料(第14回)の確認
15週	【授業内容】第1回～第14回までのまとめの課題②、これまでの講義についての質疑応答／【事後学修】クラスルームにある資料(第1～14回)の確認

成績評価方法・基準

"まとめの試験の結果で評価します。それぞれの配点は、以下の通りです。
まとめの課題①(40点)、まとめの課題②(60点)。なお評価基準は以下の通りとします。全体的な講評も行う予定です。
秀:トピックを十分に理解し，自らの見解を論理的に展開している。／優:トピックを十分に理解し，自らの見解を述べている。／良:トピックを理解し，自らの見解を述べている。／可:トピックを理解しているが，自らの見解が述べられていない。／不可:講義の内容に即した議論を展開していない。"

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『グローバル開発史』(名古屋大学出版会、2022年)

クラスコード

b3dmtuo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

2時間から3時間程度/週。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

主体的に講義に「参加」する意思を持つ学生を歓迎します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	芸術メディア論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	平塚　弘明	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2711

授業概要

メディア技術の発展は、文化や社会に大きな影響を与えるとともに、多様な芸術表現の形態を生み出してきた。この授業では、様々なメディア技術の特性、その歴史的な発展と、これと関連した芸術表現の展開を具体例に則して考察していく。

到達目標

① メディア史の基本的な知識を身につける。
② 芸術表現のあり方を、メディア技術の特性と関連させて理解する。
③ メディア技術がもたらした社会的・文化的な変容を捉える、芸術表現の感性を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	文字や印刷がもたらしたもの
3週	印刷と国民国家
4週	フィードバック1
5週	19世紀都市の変容
6週	視覚メディアの展開と新しい視覚イメージ(科学写真、心霊写真)
7週	音とメディア
8週	フィードバック2
9週	うわさやデマというコミュニケーション
10週	UFOと都市伝説
11週	フィードバック3
12週	異なるメディアへの翻訳①　理論篇
13週	異なるメディアへの翻訳②　応用編そのー
14週	異なるメディアへの翻訳③　応用編そのニ
15週	フィードバック4

成績評価方法・基準

期間中の4回のミニレポート(フィードバックとある部分が対象)で評価します。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qygvjy4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レジュメを参考にしつつ各回の講義内容を文章として整理すること(任意)。メディア論関係の書籍などを1冊読破すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

文章を書いてもらうことが多くなります。また、書いていただいたレポートは、フィードバックで受講者全体に共有する場合があります。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	日本の地理 [教職対象]	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	菊地　達夫	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2111

授業概要

日本の地理(地誌／人文・自然)における地域的特色の理解を授業のテーマとします。日本の地誌を九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の7地方に分け、それらの地域的特色の理解を行います。その理解には、動態地誌的方法(作業学習)を用いて地理的な見方・考え方を高めます。また、地域的特色は、日本の地域構造(全体)、周辺地域(外国)を含みます。

到達目標

① 日本の7地方の地域的特色について説明できる。
② 周辺地域(外国)を含む日本の地域構造について説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション(授業の到達目標・展開方法・評価方法など)
2週　地理的地域区分のあり方
3週　九州地方の地域的特色
4週　中国・四国地方の地域的特色
5週　近畿地方の地域的特色
6週　中部地方の地域的特色
7週　関東地方の地域的特色
8週　東北地方の地域的特色
9週　北海道地方の地域的特色
10週　日本の地域構造
11週　周辺の地域構造①　北方領土:ロシア
12週　周辺の地域構造②　竹島:韓国
13週　周辺の地域構造③　尖閣諸島:中国・台湾
14週　各授業内容の到達目標の整理
15週　各授業内容の到達目標の確認と応用

成績評価方法・基準

授業内試験50%、作業課題30%、受講態度・参加意欲20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

文部科学省(2018):『中学校学習指導要領解説社会編』山口幸男編(2011):『動態地誌的方法におけるニュー中学校地理の展開』明治図書、地理教育研究会編(2010):『授業のための日本地理第5版』古今書院、地理教育研究会編(2006):『授業のための世界地理第4版』古今書院、菊地俊夫編(2011):『世界地誌シリーズ1　日本』朝倉書店、中村和郎他編(2006):『日本地誌2　日本総論Ⅱ(人文・社会編)』朝倉書店

クラスコード

2m5hrty

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当者は、高等学校教員(地歴、公民科)の経験を有します。この間、教育実習生の指導も実施してきました。
講義では、その知見も活かしていきます。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、参考書等を使用しながら、授業計画の内容(地域的特色)を、進度に合わせ概要理解しておくこと。復習は、授業後、板書事項、口頭説明、資料・作業課題の内容を振り返り、地域的特色を確認しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業内容に関する質問等は、原則、授業終了後に受けつけます。国内外における報道内容(地名表出のあったもの)では、地理的位置を確認する習慣をつけること。学習指導要領解説の関係する内容を授業前後でよく確認しておくこと。また、学習指導要領(小学校社会科と高校地歴科・公民科を含む)の関連内容には、とくに注意しておくこと。作業課題等の成果は、返却時に講評を行います。

授業科目	日本の地理 [教職以外対象]	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	遠藤　正	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2111

授業概要

日本の各地域の地理と観光地としての特性について、理解することを授業のテーマとする。具体的には、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の地理と地域の特徴を学ぶ。近年、地域の活性化策として観光が注目されているが、地域づくりは、その地域の地理的特徴の理解が重要となる。また、時事テーマを授業内で取り入れ、地理や地域の現状も学ぶ。

到達目標

①日本の地理について、自然地理環境・地域的特色の特性理解に努める。
②地理的な認識と地域の特徴を理解、説明できる。
③周辺諸国を含む日本の地域構造について理解、説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション　日本の地理概要(1)
2週　日本の地理概要(2)
3週　北海道地方の地理概要と地域の特徴1
4週　東北地方の地理概要と地域の特徴1
5週　関東地方の地理概要と地域の特徴1
6週　中部地方の地理概要と地域の特徴1
7週　時事テーマによる地域の理解1
8週　近畿地方の地理概要と地域の特徴1
9週　中国・四国地方の地理概要と地域の特徴1
10週　九州・沖縄の地理概要と地域の特徴2
11週　日本とその周辺地域の理解
12週　時事テーマによる地域の理解2
13週　時事テーマによる地域の理解3
14週　授業内テスト
15週　まとめ　各授業内容の到達目標の確認、授業内テストのフィードバック

成績評価方法・基準

平常点20%,授業内試験80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wase6vz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。
時事問題を常に確認の上、課題を確認してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

適宜参加者に発言を求めます。

授業科目	発達心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	柳内 景太	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2401

授業概要

発達について多角的な観点から捉え理解することを目指し、胎児期から老年期に至る発達の過程に関する基本的な知識を学びます。特に、胎児期から児童期に関する子どもの発達を重点的に扱います。また、各発達段階で起こり得る問題や発達障害について、臨床現場での事例を交えながら解説します。

到達目標

① 胎児期から老年期までの各発達段階における特徴や課題について説明できる。
② 子どもの発達を捉えるための基本的な視点や方法の重要性を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週 オリエンテーション 発達とは
2週 発達研究の歴史、理論、研究手法
3週 発達の基礎:遺伝と環境
4週 胎児期・乳幼児期の発達
5週 乳幼児期の認知と愛着
6週 幼児期の言語と認知
7週 幼児期の自我と社会性
8週 まとめ① ―胎児期～幼児期の発達―
9週 児童期の認知
10週 児童期の学習と社会性
11週 青年期の発達
12週 成人期の発達
13週 老年期の発達
14週 発達障害
15週 まとめ②と授業内試験

成績評価方法・基準

授業内試験50%、平常点(毎回のリアクションシート・講義への取り組み)50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

ベーシック発達心理学(開一夫ら, 東京大学出版会)、発達心理学Ⅰ・Ⅱ(無藤隆ら, 東京大学出版会) ほか、必要なものは授業内でその都度アナウンスします。

クラスコード

6cpjwau

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、児童における社会福祉の現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義前は、予習として各回のテーマに関する基礎的な知識について、参考書を読み確認しておくと良いでしょう。
講義後は、講義内容を踏まえて、配布資料やノートを確認して復習してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

初めて発達心理学を学ぶ人を対象にしたオンデマンド講義です。講義の補助として映像教材などを用います。
毎回リアクションシートに感想・質問を記載して、提出してもらいますので、欠席せずに積極的に参加してください。

この科目は、オンデマンド方式で実施します。

授業科目	臨床心理学概論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	田澤　佳江	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2411

授業概要

この授業は、医療、教育分野等で心理療法の実務経験を有する講師が講義を担当します。
この授業では、臨床心理学に関する基礎的な理論について学びます。臨床心理学における諸理論を概観し、さらに臨床現場で用いられる心理アセスメントや心理療法などの援助技法にはどのようなものがあるのかを学習していきます。

到達目標

① 臨床心理学の基礎的な理論を理解することができる。
② 日常生活の中でみられる人間の心理を、臨床心理学的な視点から把握することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　臨床心理学とはなにか
3週　臨床心理学の理論背景
4週　臨床心理学と援助対策①　精神障害
5週　臨床心理学と援助対策②　パーソナリティ障害・発達障害
6週　心理アセスメント①　質問紙検査
7週　心理アセスメント②　投映法検査
8週　心理アセスメント③　作業検査・知能検査
9週　心理療法①　精神分析
10週　心理療法②　来談者中心療法・行動療法
11週　心理療法③　家族療法・集団療法
12週　心理療法④　分析心理学・表現療法
13週　臨床心理学的地域援助①　コミュニティー心理学の考え方
14週　臨床心理学的地域援助②　各種領域での援助方法
15週　期末課題

成績評価方法・基準

提出課題65%、期末課題35%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zs2u7us

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、カウンセラーとして心理療法の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義前に配布される講義資料を事前に読んでから授業に臨んでください。提出課題の成績が出た後は、正誤を確認しながら講義内容をまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業内で実施した課題は、後日、フィードバックします。課題提出が出席確認を兼ねており、出席確認は毎週締切日があります。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	リハビリテーション医学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	中村　眞理子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2501

授業概要

リハビリテーションとは、いろいろな障害を持った人々に対し、その障害を可能な限り回復治癒させ、残された能力を最大限に高め、身体的・精神的・社会的にできる限り自立した生活が送れるように援助することです。本講義では障害者（児）や高齢者に対するリハビリテーションの理念や目的、方法を包括的に学びます。また、代表的な疾患をとりあげ、障害の捉え方と支援の考え方を理解することを目的とします。

到達目標

① リハビリテーションの理念や考え方を説明できる。
② リハビリテーションの方法に対する認識を深め、理解することができる。
③ 障害に対する理解や支援のあり方を述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	ガイダンス　リハビリテーションの概説（歴史、定義）
2週	理念と考え方（専門職・チームアプローチ）・障害の構造・障害のみかた
3週	高次脳機能
4週	脳障害の一般症状
5週	廃用症候群　筋力　関節可動域
6週	精神機能
7週	疾患と障害①　脳血管障害
8週	自助具
9週	疾患と障害②　リウマチ
10週	疾患と障害③　片麻痺のADL
11週	疾患と障害④　切断　装具
12週	疾患と障害⑤　脊髄損傷
13週	疾患と障害⑥　発達障害
14週	疾患と障害⑦　筋委縮性疾患
15週	疾患と障害⑧　神経変性疾患

成績評価方法・基準

レポート課題70%、平常点30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

柳澤信夫 監修,小松泰喜 編集　見て知るリハビリテーション医学　丸善出版株式会社

クラスコード

vulogrr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

参考書と配付した資料等を元に、授業計画にしたがって予習および復習をしてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業に対応していくつか提示している課題に、参考書等、調べ学習も含めて確実に取り組んでください。質問・フィードバックは必要に応じてclassroom上、mailで行います。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	社会福祉	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西浦　功	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2601

授業概要

世界有数の豊かな国であるはずの日本でも、日常生活に様々な課題を抱える人は数多い。彼らの悩みを生み出す社会的背景を理解しつつ、現実的な支援のあり方を考える力を身につけることが、本講義の目的である。本講義では、高齢者及び障害者の福祉のみならず、子育てや教育・労働現場等の様々な領域における福祉の事例について解説する。また社会福祉の方法論の一部を実際に体験する機会を設けつつ、様々な社会問題の解決に対して福祉が担う役割について理解を深める。

到達目標

① 我々の社会を支える社会保障・社会福祉の制度について、その概要を適切に説明できる。
② 社会的に弱い立場の人々が抱える生活課題が、どのような社会的背景から生み出されるのかを詳しく説明できる。
③ 我々の社会に求められる福祉のあり方を、具体的な生活場面と結びつけながら説明できる。
④ 地域や国家等のマクロな視点を意識しながら、望ましい福祉のあり方について自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

地域社会学科 5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション:現代社会と福祉
2週	福祉と社会保障、生活を守るための様々なしくみ
3週	公的扶助のしくみと課題
4週	貧困問題の背景と対策
5週	家族と福祉のかかわり
6週	高齢者介護の今・むかし
7週	障害とは何かを考える
8週	障害者と脱施設化
9週	自立生活運動の目指すものは何か
10週	育児をめぐる諸問題① 育児に関する常識を振り返る
11週	育児をめぐる諸問題② 母親の育児不安の背景
12週	不登校問題の背景や支援のあり方
13週	なぜ人は過労死するか:その背景を考える
14週	認知症から考える高齢者ケア
15週	総括―福祉と家族と専門職／中間レポートのフィードバック

成績評価方法・基準

授業への参加態度(課題提出)50%、期末テスト30%、中間レポート20%、

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

4uz4umr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・本科目は芸術学部生向けの授業であるため、地域社会学科生は履修しないこと。
・毎回の講義で課す予復習課題の提出状況で出席確認／参加態度評価を行うため、出し忘れのないよう注意すること。また授業時にレポートのフィードバックを実施する。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	社会思想史	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	小林　淑憲	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2301

授業概要

西洋の社会の歴史を大づかみに捉えれば，古典古代の崩壊にともなって，キリスト教が伝わって広がり，やがて宗教的な対立を経てから西洋の社会は宗派化・世俗化へ向かっていくという図式で説明される。この授業では，このような図式で説明される西洋の歴史の中で，古代から19世紀半ばに至る個々の思想家が，どのような問題を抱え，それを解決しようとしたかを明らかにする。

到達目標

1.西洋社会思想史の大まかな流れを把握する。
2.個々の思想家がおかれた歴史的状況と，思想家の抱えた問題との対応を理解する。
3.個々の思想家の思想的特色を，その時代や地域の特色と対応させながら他人に説明できるようにする。
4.自分がおかれた歴史的状況と，解決すべき問題およびその解決方法について考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

地域社会学科 3 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。(協調性)

地域社会学科 5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション　社会思想史の対象と方法
2週	プラトン
3週	アリストテレス　第1回小テスト
4週	ヘレニズムとキケロー
5週	キリスト教とその展開
6週	アウグスチヌスとトマス・アクィナス　第2回小テスト
7週	ルネサンスと宗教改革
8週	マキアヴェッリ
9週	ルターとカルヴァン　第3回小テスト
10週	新しい自然観の成立
11週	ホッブズとロック
12週	啓蒙思想とドルバック　第4回小テスト
13週	ルソー
14週	スミス
15週	ヘーゲルと市民社会　第5回小テスト

成績評価方法・基準

小テストを3週ごとに1回(1回当たり，10問×2点＝20点分)で，全部で5回100点分で評価する。各小テストの実施期間は，3週ごとの授業の終了後，1週間程度とします。なお毎回の出席は，出したクイズに正解する必要があります。正解しないと出席とは認められません。

教科書ソフト等

なし。オンデマンド型のオンライン授業です。資料(レジュメ，引用集など)をアップロードしますので，毎回ダウンロードし，目を通してから授業に臨んで下さい。

参考書等

古賀敬太『西洋政治思想と宗教』風行社，2018年。宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣，2013年。升味準之輔『増補版ユートピアと権力』上・下，東京大学出版会，1986年。その他，授業内で指示します。

クラスコード

v6vv33c

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前にアップロードしたレジュメや引用集，その他の資料に目を通しておくこと。知らない言葉や人物については下調べをしておくこと(2時間程度)。授業後はアップロードしたプリント類を読み直すこと(1時間程度)。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

分からない言葉は自分で調べる習慣を身につけること。授業の連絡，資料配付，小テスト，フィードバックなどは全てGoogle Classroomで行います。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	文化人類学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	北原　モコットゥナシ	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2121

授業概要

世界の諸地域で暮らす人々の文化に触れることを通じて、人間の文化の普遍性と多様性を理解することを主目的とします。特にアイヌ民族の文化を知り、日本文化と対比することで双方についての理解を深めつつ、他者との共存について考えていきます。

到達目標

① 文化人類学の諸概念と用語が理解できます。
② 他者と共存するための視点、感覚を学生それぞれの立場から身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	人種について・民族とエスニシティ
3週	フィールドワーク
4週	家族と親族
5週	ジェンダーとセクシュアリティ
6週	社会関係
7週	生業①採集
8週	衣服文化
9週	生業②　狩猟・漁労
10週	宗教と世界観
11週	植民地主義
12週	経済
13週	人類と言語
14週	観光
15週	多文化共生

成績評価方法・基準

60点以上で単位取得。課題や小レポートの提出はGoogle Classroomで行う。
出席点(質問・感想)　2点×13　26点、各回の課題　4点×11　44点、小レポート　15点×2　30点

教科書ソフト等

宮岡真央子・渋谷努・中村八重・兼城糸絵編『日本で学ぶ文化人類学』昭和堂

参考書等

なし

クラスコード

3kvt2u2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後に課題・小レポートを実施します。出席点は、講義に対する質問・感想の記入によって評価します。それぞれ提出要領を確認し、必ず提出してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

参考となる書籍や記事などをアナウンスすることがあります。授業時間外にも、積極的それらに目を通してください。授業の感想や疑問、意見などは、翌週以降の講義で共有し、必要に応じてコメントします。授業スケジュールは学生の関心や理解度によって変更することがあります。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	日本の歴史	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	市川　大祐	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2112

授業概要	地域を学ぶ上で不可欠な知識である歴史について、基礎的知識を習得する。授業では同時代的視点に立って、欧米及びアジアの歴史的発展との比較をしつつ、世界及び日本の歴史的潮流を概観的かつ包括的に把握する。
到達目標	世界史上の歴史的な流れに対応させて、日本史の基礎知識を学ぶ。歴史の因果関係に焦点を当てて、世界史と日本史の基本的事項を理解し、説明することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用） 美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性） 地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	1週　歴史を学ぶ意義　ヨーロッパ世界と日本の古代国家から見て 2週　東アジアの形成　中国・日本 3週　8世紀の世界と日本の社会・経済 4週　ヨーロッパ「封建」社会と日本の武家政権を比較して 5週　中世社会のなりたち　日本と世界を比較して 6週　ルネッサンス社会の到来と日本の戦国時代 7週　江戸幕府の成立とアジア世界 8週　「鎖国」時代の日本と対外関係 9週　欧米列強のアジア進出と幕末開港 10週　世界の工業化と日本の産業革命 11週　第一次世界大戦　近代から現代へ 12週　世界恐慌とファシズムの台頭 13週　第二次世界大戦と戦時体制 14週　第二次世界大戦後の国際秩序と日本の復興 15週　授業内試験とまとめ
成績評価方法・基準	毎回授業後に提出する質問・コメントペーパーの内容40%、授業内試験60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	6luuiac
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業後は講義内容をよくまとめ、ノート整理を行ってください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業は基本的に講義形式で進めていきますが、毎回授業の最初に質問・コメントペーパーを通じ解説を行いますので、質問や意見等積極的に書いてください。特にコメントが必要と判断したものについては、授業内で適宜フィードバックを行います。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	臨床心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	田澤　佳江	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2412

授業概要

この授業は、医療、教育分野等で心理療法の実務経験を有する講師が講義を担当します。
臨床心理学は、心理学の理論と技術によってこころの問題を理解し、適切な援助を行うための基礎となる学問です。この講義では、心理臨床的援助に関わる代表的なテーマに絞って講義をすすめます。また、知的理解にとどまらず、実習による体験学習なども織り交ぜながら援助技法について学んでいきます。

到達目標

① こころの問題に対する臨床心理学的なとらえ方の基礎を理解できる。
② 臨床心理学で用いられる援助技法についての基礎的理解ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　パーソナリティの深層心理学的理解
3週　パーソナリティの発達①　エリクソンの自我発達理論　乳幼児から児童期
4週　パーソナリティの発達②　エリクソンの自我発達理論　思春期から老年期
5週　パーソナリティと適応①　適応と不適応
6週　パーソナリティと適応②　適応問題
7週　パーソナリティ査定の諸技法
8週　描画検査の実習(バウムテスト／HTP)
9週　描画検査の実習(風景構成法)
10週　心理療法諸理論の概説
11週　来談者中心療法の理論
12週　来談者中心療法の実際
13週　遊戯療法の理論と実際
14週　パーソナリティと適応③　デートDVについて
15週　期末課題

成績評価方法・基準

提出課題80%、期末課題20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

lk7jplx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、カウンセラーとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義前に配布される講義資料を事前に読んでから授業に臨んでください。テスト形式の提出課題の成績が出た後は、正誤を確認しながら講義内容をまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業内で実施した課題は、後日、フィードバックします。課題提出が出席確認を兼ねており、出席確認は毎週締切日があります。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	音楽心理学	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	安達　真由美	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 3421

授業概要

音楽演奏に関わる技能について、認知心理学や認知科学の視点から考える。また、音楽学習に関わる生得的要因と環境的要因に目を向けるとともに、学習を促すために親や教師がどのようなことができるのか、発達・教育心理学の視点から考える。さらに、演奏不安や音楽医学など、音楽家特有の臨床的問題についても考える。これらのトピックを通して、音楽心理学の研究方法についても触れる。

到達目標

① 音楽演奏に関わっている認知機能や運動機能について理解することができる。
② 音楽学習に関わる生得的要因と環境的要因について理解し、(将来の)指導者・音楽療法士、または養育者としてどのようなことができるのかについて考え、自分の言葉で表現することができる。
③ 音楽家特有の臨床的問題について理解し、音楽家、(将来の)指導者・音楽療法士、または養育者としてどのようなことができるのかについて考え、自分の言葉で表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション ＆ 初見視奏①: 情報処理モデル
2週　初見視奏②: 視覚的符号化、視覚ー運動コーディネーション、実行、校正者のエラー
3週　読譜①: 「音」と「記号」の関連性、読譜の認知プロセス
4週　読譜②: 読譜力・初見視奏能力を伸ばすには？
5週　練習: 練習の目的、熟達レベルと練習方法
6週　研究紹介:幼児にとって練習とは？
7週　暗譜: 音楽における「記憶」とは？ 暗譜能力を伸ばすには？
8週　グループワーク①: 音楽的発達と動機づけ
9週　音楽能力の発達: 音楽に関わる生得的要因と環境的要因
10週　即興演奏: 即興演奏のメカニズムと脳活動、即興演奏能力を伸ばすには？
11週　イントネーション:音律、音高・音程の知覚、イントネーション技能の発達
12週　コミュニケーション①: 楽曲の構造的特徴をどう聴き手に伝えるのか
13週　コミュニケーション②: 楽曲の情動的特徴をどう聴き手に伝えるのか
14週　コミュニケーション③: 演奏者の「身体の動き」の役割とは
15週　グループワーク②: 演奏不安と怪我について

成績評価方法・基準

毎回授業後にクラスルームから提出する5問程度の「オンライン小テスト」50%、毎回授業後に教室で提出する「自己評価シート」20%、グループワークに向けた予習2回分(①教科書の「環境からの影響」「動機づけ」のどちらかの章、および②「演奏不安」「音楽医学」のどちらかの章を選択し、選択した章の内容をそれぞれ3ページ程度にまとめ印刷して持参する。予習としての「章のまとめ」はグループワーク①②各回終了後に提出する。)30%

教科書ソフト等

R. パーンカット ・ G. E. マクファーソン(編著)(2011)『演奏を支える心と科学』誠信書房

参考書等

補足資料は適宜クラスルームからダウンロードできるようにする。

クラスコード

njj6trr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員は、ピアノ指導、幼児音楽指導、音楽教員指導などの実務経験を有している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

① 予習として、各授業におけるトピックに関連する教科書の章を読んでくること。また、計画を立ててグループワークに向けた準備を行う。
② 復習として、講義内容、クラスルームに掲載した補足資料、および教科書の該当章の内容を確認しながら「オンライン小テスト」を行い、授業後1週間以内に提出する。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

読譜(楽譜を読むこと)を伴う音楽経験があることを履修条件とする。各授業はクラスルームの「課題」として設定するので、該当する授業回のスライド資料を自分でダウンロード刷し、授業中に必要事項を記入できるようにしておくこと。毎回授業後にその日のトピックに対する興味や進行具合、自分の参加度などについての評価と自由記述を含む「自己価シート」を提出することで「出席」とする。毎回授業後には、その日のトピックに関する授業動画を掲載するので、何らかの事情で授業を欠席した場合には、1週間以内にその動を見ながら自習し、「オンライン小テスト」を〆切までに受験すること。

授業科目	国際社会と政治	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	若月　秀和	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3241

授業概要

20世紀の二度にわたる世界大戦と米ソ冷戦を経て、国際社会の相貌は、ナショナリズムの広がりとグローバル化、国家間の相互依存の深化により、大きく変化した。特に、近年は中東や東アジアの国際情勢は不穏となる一方、米国など先進諸国を中心に排他的なナショナリズムが台頭してきている。このような不穏で混沌とした現状の国際社会をより的確に把握するため、この講義では、外交史的アプローチに則って、17世紀の主権国家体制の成立から冷戦後の国際政治史を概説したうえで、現代の日本外交について考察していきたい。

到達目標

学生が国際政治のダイナミズムを長期的視点に立って把握したうえで、日本外交の今後の進路を考える能力を涵養する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
美術学科　1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
地域社会学科　1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週　主権国家体制の成立から古典外交の時代
2週　勢力均衡の崩壊　第一次世界大戦へ
3週　米国とソ連の登場とヴェルサイユ体制の成立
4週　ヴェルサイユ体制の崩壊から第二次世界大戦へ
5週　米ソ冷戦対立構造の成立と脱植民地化の潮流
6週　冷戦対立構造の変容　雪解け・中ソ対立・デタント
7週　新冷戦から冷戦終焉へ
8週　冷戦終結後の国際社会　対テロ戦争・中国の台頭
9週　敗戦国・日本の独立獲得の軌跡
10週　「自主」外交の模索と吉田路線の定着
11週　高度成長期の日本外交
12週　冷戦変容期の日本とアジア「全方位外交」の時代
13週　国力絶頂期の日本外交　日米同盟強化と中曽根外交
14週　冷戦終結後の国際社会と「失われた10年」の日本
15週　21世紀の日本外交　不穏なアジア情勢のなかで

成績評価方法・基準

授業後に行われる確認テストの得点による評価(100%)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

r2qtey3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配布資料や参考文献をよく読み、理解を深める。また、国際政治や日本外交に関して、新聞やニュースではどのように取り上げられているかチェックする。
2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は基本的に講義形式で進める。毎回、授業の最初に前回の授業内容に関するフィードバックの意味を込めた質問を、学生に対して行うので、復習やノートまとめを怠らないこと。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	国際社会と経済	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	集中	講義形態	講義
担当教員	濱地　秀行	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3242

授業概要

国家の役割にスポット当てて、グローバリゼーションとは何かについて考える。また、そのことから、今後、日本がどのような道を選択すべきなのかについて考察する。これらの具体的な事象とともに、国際経済の理論的な問題について学ぶ。

到達目標

① 「グローバリゼーションとは何か」を理解する。
② 「グローバリゼーションと日本の関係」を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
美術学科　1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
地域社会学科　1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	国際収支とは何か
3週	為替相場の決定理論 ① 国際収支と為替相場
4週	為替相場の決定理論 ② 心理と為替相場
5週	株式会社をつくろう ① 株式会社とは
6週	株式会社をつくろう ② 会社を設立しよう
7週	株式会社をつくろう ③ プレゼンテーション
8週	株式会社をつくろう ④ 経済状況と株式会社
9週	貿易の利益
10週	貿易ゲーム ① ゲームの実践
11週	貿易ゲーム ② ゲームのふり返り
12週	貿易ゲーム ③ 貿易の利益と貿易ゲーム
13週	時事問題
14週	テスト
15週	総括

成績評価方法・基準

テスト70%、「まとめ」30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wm4quhw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、国際的な問題についての新聞をよく読んでください。復習は、講義内容をきちんとまとめてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

国際経済に対する関心を高く持ってください。経済は理論だけで存在するわけではありません。毎回、授業の最後に「授業のまとめ」を記入してもらいます。学生からの疑問については、授業の中で取り上げます。

授業科目	西洋史	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	大場　崇代	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3231

授業概要

今なお世界の政治や経済に影響を及ぼし続けている西洋の歴史から私たちは何を学び得るのか、私たちの現在と未来を視野に入れながら考えます。教職課程の学生は長い歴史を大まかに把握することと、より細かい出来事について理解することが必要です。そのどちらも身に着けることを目指します。

到達目標

この講義によって習得する知識・能力は以下の通りです。
① 長い西洋史の大まかな流れを把握できる、
② 重要な歴史的事件を説明できる。
③ 教員になるために必要な西洋史の最低限の知識について述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
美術学科 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週　歴史とは何か
2週　古代の世界① ギリシャ
3週　古代の世界② ローマ
4週　神聖ローマ帝国
5週　キリスト教の影響
6週　宗教改革
7週　大航海時代
8週　革命の時代① 産業革命
9週　革命の時代② アメリカ独立戦争、 革命の時代③フランス革命
10週　帝国主義と第一次世界大戦
11週　戦間期
12週　第二次世界大戦とその後
13週　EU
14週　民族紛争
15週　授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

7週目か8週目の授業内試験　50%、最終日の授業内試験　50%。

教科書ソフト等

『詳説世界史B　改訂版』(山川出版社)、『最新世界史図説　タペストリー　二十一訂版』(帝国書院)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

oyqmgfd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義で扱えない時代について教科書や自分自身が選んだ書籍など通して学び、歴史の流れを理解しておくように努めてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

わからない用語などは、自分で調べるなどし、曖昧なままにしないこと。

授業科目	知的財産法概論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3232

授業概要	知的財産法の基本的な考え方について習得する。ニュースで特許権侵害や著作権侵害の事件を耳にしたり、ネットで「パクリ」が炎上したりと、知的財産の保護については関心が高まる昨今であるが、権利者の保護は発明や創作へのインセンティブになる一方、その保護が過剰であれば自由な創作活動や研究開発の萎縮を招く。本講義では、代表的な特許法と著作権法を中心に、権利の保護と自由の範囲のバランスを法がどのようにとっているのか解説し、意匠法、商標法、不正競争防止法についても簡単に解説する。
到達目標	知的財産権の基本知識の定着を目標とする。特許法、著作権法については知的財産管理技能検定3級受験レベルの知識を修得することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画	
1週	知的財産法総論
2週	著作物とは
3週	著作者とは
4週	著作権の内容
5週	著作隣接権
6週	著作権の制限
7週	特許制度概要
8週	特許要件
9週	特許権侵害の要件と防御
10週	営業秘密
11週	デザイン（意匠）の保護
12週	デザインの保護範囲
13週	不正競争防止法によるネーミングの保護
14週	商標法によるブランドの保護
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準	学期末試験70%、毎回の講義内容に即して出題される小テスト30%
教科書ソフト等	大石玄・佐藤豊編『18歳からはじめる知的財産法』（2021）法律文化社
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	rmqyosw
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	法学入門を履修していることを前提に講義は進められるが、この科目から履修することも可能である。

授業科目	アイヌ文化論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	北原　モコットゥナシ、北嶋　由紀、中井　貴規	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3212

授業概要

2020年7月に「国立アイヌ民族博物館」を中核とする「民族共生のための象徴空間」が開設しました。この施設は、アイヌ文化復興の拠点となるとともに、日本における多文化共生社会の象徴となることをも目指しています。このことからもわかるように、民族的マイノリティの文化的回復と、アイヌと和人を始めとする異なる民族間の共生は、今日の社会における重要な課題となっています。このことを念頭に置きながらアイヌ民族の言語や歴史、物質文化、現状、海外の先住民族や他のマイノリティとの比較などといったテーマについて、多角的・専門的に学習していきます。

到達目標

北海道には旧石器時代から人が住み続け、多様な文化を形成してきました。今日においても、北海道に多様な文化が存在することを理解すること、自己と他者の違いを的確にとらえ、共生を考える資質を身に付けることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

美術学科　3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

地域社会学科　3　地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。（協調性）

授業計画

1週	アイヌ民族の歴史（環日本海地域の歴史）
2週	アイヌ民族の歴史2（北海道の近・現代）
3週	アイヌ民族の歴史3（樺太と千島の近・現代）
4週	「現在に息づくアイヌ文化」とは（ステレオタイプの形成と解消）
5週	アイヌ語（アイヌ語とはどのような言語か）
6週	危機言語（言語の危機はなぜ起こるか）
7週	アイヌ文化の食（四季の食べ物、保存食）
8週	アイヌ文化におけるジェンダー
9週	アイヌ文化における川漁（marekという漁具）
10週	国立アイヌ民族博物館の役割と展示
11週	旭川地方のアイヌ語と文学
12週	アイヌの衣服文化（素材と織）
13週	アイヌの衣服文化（仕立てと装飾）
14週	浦河地方のアイヌ語と文学
15週	アイヌ文化の未来（共に生きる社会）

成績評価方法・基準

出席（質問・感想）2点×13回　26点、課題提出4点×11回　44点、小レポート15点×2回　30点で評価する。評点は記載内容による。提示と提出はGoogle classroomで行う。

教科書ソフト等

各回の授業前に配布。

参考書等

北海道新聞『まなぶん』アイヌ関連記事：https://www.hokkaido-np.co.jp/manabun/mintara/
北海道観光振興機構『アイヌ文化　ガイド教本』：https://ainu-guide.visit-hokkaido.jp/ainu_guide.pdf

クラスコード

vrtv3ni

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容の振り返りや理解の確認のため、授業後の課題に取り組むこと。指示があった場合には、指定された文章などに目を通しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題（小テスト）は、その週の授業についての理解度を知るために実施する。資料を閲覧せず、試験に回答だけ記入することのないように。質問・感想は翌週以降に共有し、コメントするので、個人情報は書かないように注意すること。授業の改善要望、取り上げて欲しいテーマを書いても良い。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	東洋史	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	藤野 陽平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3232

授業概要	中国を中心とした東アジア世界とイスラーム世界に焦点を当てつつ、アジアの歴史をたどりながら、アジア世界の特質を解明する。
到達目標	歴史を学ぶということは単に過去を回顧することではなく、現在をよく理解し未来に向かって正しい道筋をみつけようとすることである。東洋の歴史を学び、私たちの現在と未来を考えよう。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 美術学科 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性) 地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
授業計画	1週 東洋史を学ぶ意義 2週 東アジア文化圏の形成① 3週 東アジア文化圏の形成② 4週 イスラーム世界の形成と拡大① 5週 イスラーム世界の形成と拡大② 6週 東西交渉① 7週 東西交渉② 8週 イスラーム世界の成熟① 9週 イスラーム世界の成熟② 10週 アジア諸国の民族運動① 11週 アジア諸国の民族運動② 12週 辛亥革命の時代① 13週 辛亥革命の時代② 14週 アジアの変貌① 15週 アジアの変貌②
成績評価方法・基準	定期試験70%、小テスト20点、講義への参加態度10%。 ※フィードバックについては、クラスルームにて行います。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	参考資料については講義中に紹介または配付します。
クラスコード	stj7qyz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	講義で扱えない時代について教科書や自分自身が選んだ書籍など通して学び、歴史の流れを理解しておくように努めて下さい。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	東洋の歴史に興味を持って積極的に発言してください。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	国際社会と法	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤　信行	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3243

授業概要

国際法（国際公法）を学ぶ。国際法は、国際社会において国家間の関係をはじめとする諸関係を規律する法であり、条約や慣習国際法の形で存在する。通常は国内社会でも法的効力を与えられ、国内法の一部をなす。国際法は長い伝統と広範な内容を有し、今日その重要性はますます高まっている。本講義では、ビジュアル要素を豊富に取り入れた新しいテキストを使って、国際法の基礎と概要を学ぶ。

到達目標

国際法の全体像を把握し国際法の基礎知識を修得することによって、国際社会の諸問題を法的視点で考え、法的にはどのようなことが問題となるかを理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
美術学科　1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
地域社会学科　1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

授業計画

1週　ガイダンス：国際法をなぜ学ぶのか
2週　国際社会のルールはこうしてできた：国際法の成り立ち
3週　国際社会で守るルール：国際法総論
4週　国ができたり、なくなったり：国家とは？
5週　国と国がつきあう①：条約法
6週　国と国がつきあう②：外交・領事関係法
7週　領土のない国はない①：国家領域、領土紛争
8週　領土のない国はない②：特殊地域、宇宙
9週　海の恵みを分かち合う①：海洋法の構造、航行利用
10週　海の恵みを分かち合う②：海洋資源の利用
11週　国が集まってルールをつくる：国際組織
12週　人権を国際的に保護する①：国籍・難民
13週　人権を国際的に保護する②：国際人権保障
14週　国の安全を守る：安全保障
15週　総復習とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験（毎回の授業で実施）100%。

教科書ソフト等

加藤信行ほか編著『ビジュアルテキスト国際法（第3版）』（有斐閣、2022年）

参考書等

杉原高嶺 『基本国際法（第3版）』（有斐閣 2018年）、玉田大ほか 『国際法（第2版）』（有斐閣 2022年）、佐藤義明ほか 『ここからはじめる国際法』（有斐閣 2022年）。

クラスコード

rvp64hh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に予め教科書の関連部分を読み、疑問点を整理するとともに授業内容を想定しておく。授業後、授業内容をまとめた自分自身のノートを作成する。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

提出物は、必ず提出期限内に提出してください。期限を過ぎてから提出しても、不提出となります。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	欧米社会論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	大場　崇代	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3244

授業概要	現代のヨーロッパ社会はエスニック・マイノリティーの統合を含む諸分野における統合の試み、そしてそれに対するナショナリズムの発現および分権化の要求など様々な角度から社会全体のあり方が問い直されようとしています。またアメリカ合衆国とヨーロッパ並びに他の諸国との関係は変化していくのか、などの問題を踏まえて欧米の社会を概観していきます。この講義によって、ヨーロッパ社会とアメリカ社会を比較できようになること、世界の中の欧米という位置から欧米社会を見ることができるようになることを目指します。
到達目標	この講義によって習得する知識・能力は以下の通りです。 1. ヨーロッパ全体の歴史を概説できる。 2. アメリカ合衆国の歴史を概説できる。 3. 今なお世界に影響を与えている欧米社会の現在の状況と問題点を指摘できる。 4. 冷戦終了後の民族をめぐる問題を理解できる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科　1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 美術学科　1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性) 地域社会学科　1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
授業計画	1週　はじめに 2週　国際関係の主体 3週　政治社会の変化 4週　ヨーロッパ統合① 歴史 5週　ヨーロッパ統合② 課題 6週　ヨーロッパ統合③ 統合とナショナリズム 7週　イギリスとアイルランド 8週　ヨーロッパの民族問題 9週　アメリカ合衆国の社会① 歴史 10週　アメリカ合衆国の社会② 超大国アメリカ 11週　アメリカ合衆国の社会③ 矛盾の中のアメリカ 12週　国家的アイデンティティー 13週　地理的条件と国際関係 14週　「欧米」という社会 15週　授業内試験とまとめ
成績評価方法・基準	授業内試験60%、小テスト30%、講義への参加態度10%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で適宜、指示します。
クラスコード	e6cd3pd
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業後に講義内容、配付資料を読み返し整理しておくこと。日頃からテレビ、新聞、本などを通して、日本と世界の出来事に注意をはらうようにしてください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	わからない用語などは、自分で調べるなどし、曖昧なままにしないこと。講義中予告なく小テストを行います。小テストの解答例などは講義中に説明します。

授業科目	介護概論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	本間　美幸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3601

授業概要

少子高齢社会といわれる現代では、介護を必要とする人の増加を背景に「介護」に関連する課題が数多く問われています。「介護」とはそもそもどういうことを言うのでしょうか。介護および介護福祉の概念・理念から、授業をスタートさせます。それらを踏まえて、介護福祉サービスを提供するための基本的な考え方と技法まで学び、介護を必要とする方のニーズに沿った援助について考えていきます。

到達目標

① 介護・介護福祉についての基本的知識を身につける。
② 介護を取り巻く状況について、社会情勢と関連付けて考えることができる。
③ 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援の重要性を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	授業ガイダンス～介護とは何か
2週	介護を必要とする人の理解
3週	介護が必要な人と家族のための制度
4週	介護が展開される場
5週	認知症高齢者ケア①認知症の理解
6週	認知症高齢者ケア②適切な関わり方
7週	介護援助の基本① コミュニケーション
8週	介護援助の基本② 社会的な生活の支援
9週	介護援助の基本③ 日常生活の支援
10週	介護援助の基本④ 食べるを支援
11週	介護援助の基本⑤ 排泄の支援
12週	生活や社会の変容と介護福祉
13週	介護福祉における倫理
14週	尊厳を支える介護
15週	授業内試験とまとめ(介護福祉の新たな課題)

成績評価方法・基準

授業内試験50%、平常点30%、毎回のリアクションペーパー20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

mpg45j7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、社会福祉の現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で配付した資料を活用して講義内容をまとめて予習・復習してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

特に予備知識は必要としませんが、日頃から社会情勢に興味関心を持つことを期待します。また、提示された問いについて自身で考え、発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。

リアクションペーパーの内容を翌週の授業でフィードバックし、学びを深めていきます。

授業科目	マルチメディア論Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	田邉　鉄	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2721

授業概要

マルチメディア技術の進歩は、わたしたちの生活や社会のあり方を大きく変えようとしている。この授業では、実際にパソコンを操作してマルチメディア作品を制作することを通して、メディア理論とその応用について学ぶ。また、具体的な事例として、大学生に身近な学習・教育を取り上げ、マルチメディアがもたらす新たな「学び」の可能性を探る。

到達目標

① パソコンについてわからないことを自分で調べたり、人に使い方を教えることができる。
② プレゼンテーションについて知り、効果的なビジュアルデザインを考えることができる。
③ ヒトの視覚の仕組を知り、イラストやアニメを作成することができる。
④ ヒトの聴覚の仕組を知り、ビジュアルプログラミングによって音楽や音声ソフトウェアを開発することができる。
⑤ マルチメディアについて語るための、基本的な概念や用語を学ぶ。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　オリエンテーションを兼ねる「マルチメディアとは何か」
2週　マルチメディア表現の基本技術
3週　プレゼンテーション入門　講義と実習　PowerPoint・Googleスライドの使い方
4週　プレゼンテーション入門　実習　プレゼン名刺の設計
5週　プレゼンテーション入門　実習　プレゼン名刺の制作①
6週　プレゼンテーション入門　実習　プレゼン名刺の制作②
7週　視覚とマルチメディア　講義　ヒトは刺激-反応物質ではない
8週　視覚とマルチメディア　講義と実習　なぜアニメは動いて見えるのか
9週　視覚とマルチメディア　実習　パラパラアニメを作る①
10週　視覚とマルチメディア　実習　パラパラアニメを作る②
11週　音声・音響・音楽とマルチメディア　講義　電子音楽の起源と音楽のカジュアル化
12週　音声・音響・音楽とマルチメディア　講義と実習　音楽とプログラミング①
13週　音声・音響・音楽とマルチメディア　講義と実習　音楽とプログラミング②
14週　音声・音響・音楽とマルチメディア　講義と実習　音楽とプログラミング③
15週　まとめ　提出課題へのフィードバック

成績評価方法・基準

各回の課題の達成度40%、中間・最終作品の完成度40%、平常点10%、コメントレポート10%

教科書ソフト等

学校から提供しているMS-Officeを自分のパソコンで使えるようにインストールしておくこと。教科書は使いません。授業内で適宜、資料を配付します。また、Google Classroomで参考となるWebサイトなどを紹介します。

参考書等

なし。

クラスコード

jej3xew

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

事前に指示されたWebサイトを見ておくこと。学んだパソコン操作を、家のパソコンやスマートフォンなどで試し、結果をノートなどにまとめて、振り返りを行うこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

パソコンに関する予備知識は必要としないように進める予定。時間内に課題が終わらなかった場合は、課題ごとに指示する期限までに完成させること。

授業科目	マルチメディア論Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	田邉 鉄	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2722

授業概要

マルチメディア技術の進歩は、わたしたちの生活や社会のあり方を大きく変えようとしている。この授業では、実際にパソコンを操作してマルチメディア作品を制作することを通して、メディア理論とその応用について学ぶ。事例として、遊び・学び・仕事の3つの領域を設定し、それぞれの分野でマルチメディア技術がどのように活用されているか、具体的な工夫を発見し、検討する。

到達目標

① 実用的なマルチメディア作品を作る。
② メールやWebと安全につきあう。
③ デジカメ写真を活用する。
④ ケータイ新機種の見所を知る。
⑤ プログラミングについて知る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週 「『遊び』とマルチメディア」 講義 「ビデオゲームの楽しみ」
2週 「『遊び』とマルチメディア」実習 アドベンチャーゲームを作る①
3週 「『遊び』とマルチメディア」実習 アドベンチャーゲームを作る②
4週 「『遊び』とマルチメディア」実習 アドベンチャーゲームを作る③
5週 「『遊び』とマルチメディア」実習 アドベンチャーゲームを作る④
6週 デジタル時代の写真術 講義・実習 「月の撮り方」
7週 「『学び』とマルチメディア」講義 教育情報化と電子書籍
8週 「『学び』とマルチメディア」実習 「教科書」を作る①
9週 「『学び』とマルチメディア」実習 「教科書」を作る②
10週 「『学び』とマルチメディア」実習 「教科書」を作る③
11週 「『学び』とマルチメディア」実習 「教科書」を作る④
12週 「『仕事』とマルチメディア」講義・実習 プログラミングⅡ①
13週 「『仕事』とマルチメディア」講義・実習 プログラミングⅡ②
14週 「『仕事』とマルチメディア」講義・実習 プログラミングⅡ③
15週 まとめ 提出課題へのフィードバック

成績評価方法・基準

各回の課題の達成度40%、中間・最終作品の完成度40%、平常点10%、コメントレポート10%

教科書ソフト等

大学で提供されているMS-Officeを各自のPCにインストールしておくこと。教科書は使いません。授業内で適宜、資料を配付します。また、Google Classroomで、Webサイト等を紹介します。

参考書等

なし。

クラスコード

v5fr2z6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

事前に指示されたWebサイトを見ておくこと。実習にあたっては、前の回での指示に従って、設計・材料の収集などの準備をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

パソコン操作に詳しい人は、知り合いで困っている人がいたら助けてあげてください。課題は指示のあった期限までに必ず終わらせて下さい。提出が遅れそうな時は、必ず連絡して下さい。

授業科目	コンピュータプログラミング Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　志真子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2701

授業概要

この授業では、はじめてプログラミングを行う初学者を対象に、近年、幅広く利用されているJAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技法の学習を実習形式で行います。
数学やプログラミングに関する専門的な知識などはなくてもかまいません。
授業目標としては、プログラミングの基本的な文法を学習し、それらを用いて、自分自身で目的に応じたプログラムを作ることができることを目的としています。
自分自信でプログラミングを書いて、動かしてみることで、プログラミングの楽しさを実感してもらえれば幸いです。

到達目標

本講義の到達目標は、JAVAの基本的な文法を理解し、それを利用して、自分が解決したい問題に対して、自分で解決法を考えて、プログラムを作成できるようになることです。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション (授業の進め方と講義概要)
2週　プログラムのコンパイルと実行、文字列の扱い方
3週　変数の扱い方
4週　変数と演算子 (1)
5週　変数と演算子 (2)
6週　条件分岐 if文の使い方
7週　条件分岐 switch文の使い方
8週　繰り返し処理(for文の使い方)
9週　繰り返し処理(while文の使い方)
10週　多重の繰り返し処理 (繰り返し処理の入れ子構造)
11週　配列の扱い方
12週　配列の応用
13週　文法の復習
14週　最終課題プログラムへの取り組み
15週　最終課題プログラムへの取り組み2

成績評価方法・基準

小テストや期末テストは行いません。授業中に課すプログラミング課題をもとに評価します。
【評価基準】 秀:90点以上、優:80点以上90点未満、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、パワーポイントスライド資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5v6xduu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

プログラマーとしての実務経験有り

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業中の実習で取り組んだ問題に対する復習、および、課題に取り組む時間として週2-3時間が大体の目安となります(ただし個人差による)

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

持ち運び可能なパソコンを所持し、大学へも持参可能な方のみ履修可能な科目です。また、履修に当たってはあらかじめjavaをインストールしてください。javaのインストール方法については事前にGoogleClassRoomのほうへアップロードしておきますので、受講前に確認し、必ず各自のパソコンにインストールしておいてください。

授業科目	コンピュータプログラミングⅡ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　志真子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3702

授業概要	この授業では、はじめてプログラミングを行う初学者を対象に、近年、幅広く利用されているJAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技法の学習を実習形式で行います。数学やプログラミングに関する専門的な知識などはなくてもかまいません。コンピュータプログラミングIで学習した内容をベースに、さらに、GUIアプリケーションやWebアプリケーションなどを中心に学んでいきます。尚、講義の前半はコンピュータプログラミングIの内容の復習から行いますので、コンピュータプログラミングIを受講していない人でも受講できるように対応しています。ただし積み上げ科目なのでⅠの単位を修得した方のみ履修できます。
到達目標	本講義の到達目標は、JAVAの基本的な文法を理解し、Java言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎、及び、GUIアプリケーションの作成方法を習得する．更に、目的に応じたプログラムを作成する技術を習得することを目標とする。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科　5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用) 美術学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル) 地域社会学科　4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
授業計画	1週　JAVA構文の復習 (1) (データ型、変数宣言) 2週　JAVA構文の復習 (2) (条件分岐, 繰り返し) 3週　JAVA構文の復習 (3) (配列) 4週　オブジェクト指向プログラミングの復習(1) 5週　オブジェクト指向プログラミングの復習(2) 6週　オブジェクト指向プログラミングの復習(3) 7週　オブジェクト指向プログラミングの復習(4) 8週　総合演習1 9週　GUIアプリケーションの作成(1) 10週　GUIアプリケーションの作成(2) 11週　GUIアプリケーションの作成(3) 12週　Webアプリケーションの作成(1) 13週　Webアプリケーションの作成(2) 14週　Webアプリケーションの作成(3) 15週　総合演習2
成績評価方法・基準	授業中に課すプログラミング課題をもとに評価します。【評価基準】 秀:90点以上、優:80点以上90点未満、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満ただし, 出席回数が授業回数の3分の2以上ない場合は出席不足になります。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、スライド資料を配付します。
参考書等	なし。
クラスコード	a4p2v56
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	プログラマーとしての実務経験有り
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業中の実習で取り組んだ問題に対する復習、および、課題に取り組む時間として週2-3時間が大体の目安となります(ただし個人差による) 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	持ち運び可能なパソコンを所持し、大学へも持参可能な方のみ履修可能な科目です。また、履修に当たってはあらかじめjava、eclipse、JavaFXをインストールしてください。javae eclipse、JavaFXのインストール方法については事前にGoogleClassRoomのほうへアップロードしておきますので、受講前に確認し、必ず各自のパソコンにインストールしておいてください。

授業科目	民族音楽Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	枡谷　隆男	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2731

授業概要

世界の音楽文化に親しむことを主な目的とします。同時に人や社会と音楽との関係について多面的に理解するため、歴史的経緯や現代の状況などを踏まえ、多様な観点から世界各地の民族音楽を概観します。前半では音楽起源の諸説を元に音楽と自然環境・風土との関わりや、楽器論などの基礎知識を学ぶことに重点を置き、後半では映像・音声資料などにより世界の多様な音の世界を体験することで認識を深めます。

到達目標

① 民族音楽に対する固定的なイメージを廃し、現在の各民族の状況や多様な視点があることを理解できる。
② 人間にとって音楽とはどのような存在なのかを考察し、音楽を通じて世界の様相をつかみ、異文化を理解する視点を学生それぞれの立場から身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　音楽の起源・音楽考古学
3週　諸民族の音楽
4週　自然と音楽
5週　言語と音楽
6週　生業(労働)と音楽
7週　楽器と音具
8週　求愛と音楽・中間のまとめ
9週　アフリカの音楽
10週　ヨーロッパの音楽
11週　アジアの音楽①
12週　アジアの音楽②
13週　オセアニア・アメリカ(大陸)の音楽
14週　日本の音楽
15週　まとめ、小論文

成績評価方法・基準

平常点(意欲・態度)20%、授業レポート50%、小論文30%

教科書ソフト等

藤井知昭他編『民族音楽概論』東京書籍、1998年

参考書等

柘植元一・塚田健一『はじめての世界音楽』音楽之友社 1999年、柘植元一・植村幸生『アジア音楽史』音楽之友社 1996年、
フィリップ・V・ボールマン『ワールドミュージック／世界音楽入門』音楽之友社 2006年、増野亜子『民族音楽学12の視点』音楽之友社 2015年

クラスコード

p2sbrsw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

高等学校において36年間、札幌市生涯学習センターにおいて23年間、世界の諸民族の音楽の指導の経験があります。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に該当部分の教科書や参考書等を熟読し、諸民族の音楽文化について予習をしてください。授業後は配布資料や教科書で復習をして、各民族の特徴を整理してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽は「時間芸術」です。時間を守りましょう。世界の各国の民族の歴史や文化に興味関心を持ち、積極的に発言したり実習等に臨んでください。授業レポートを毎時必ず提出してください。

授業科目	民族音楽Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	枡谷　隆男	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2732

授業概要

世界の民族音楽が置かれている状況は、グローバル化などにより常に変化しています。「伝統音楽」の伝承や保存と、観光目的やコンサートでの演奏、メディアとの関わりなどについて、特に音楽の奏でられる「場」を意識しながら、世界の音楽文化と人との関係を学びます。ユネスコに登録された「無形文化遺産」の音楽や舞踊を通じて、文化継承の在り方も考察します。

到達目標

① 映像や音声資料を通じて、音構造や演奏形態の多様性を知ることができる。
② 音楽と演奏の場、政治、メディアなどとの関係の考察から、音楽文化の継承について多角的に捉えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

地域社会学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	伝統音楽と商業音楽
3週	宗教と音楽
4週	東アジア・東南アジアの音楽
5週	南アジア・西アジアの音楽
6週	中央アジア・北アジアの音楽
7週	北ヨーロッパの音楽
8週	東ヨーロッパの音楽・中間のまとめ
9週	アフリカの音楽
10週	オセアニアの音楽
11週	北アメリカの音楽
12週	中央アメリカ・南アメリカの音楽
13週	日本の音楽～ユネスコ無形文化遺産①
14週	日本の音楽～ユネスコ無形文化遺産②
15週	まとめ、小論文

成績評価方法・基準

平常点(意欲・態度)20%、授業レポート50%、小論文30%

教科書ソフト等

藤井知昭他編『民族音楽概論』東京書籍、1998年

参考書等

柘植元一・塚田健一『はじめての世界音楽』音楽之友社 1999年、柘植元一・植村幸生『アジア音楽史』音楽之友社 1996年、
フィリップ・V・ボールマン『ワールドミュージック／世界音楽入門』音楽之友社 2006年、増野亜子『民族音楽学12の視点』音楽之友社 2015年

クラスコード

io3bbfs

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

高等学校において36年間、札幌市生涯学習センターにおいて23年間、世界の諸民族の音楽の指導の経験があります。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に該当部分の教科書や参考書等を熟読し、諸民族の音楽文化について予習をしてください。授業後は配布資料や教科書で復習をして、各民族の特徴を整理してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽は「時間芸術」です。時間を守りましょう。世界の各国の民族の歴史や文化に興味関心を持ち、積極的に発言したり実習等に臨んでください。授業レポートを毎時必ず提出してください。

授業科目	美学A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	北村 清彦	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3701

授業概要

芸術が新たなるものの創造である限り、芸術に対する考え方も刻々と変化しています。芸術に関し、今日の私たちが当然と思っていることがどのような経緯で成立してきたのか、古代・中世・ルネサンス・近代・現代における西洋の芸術理論をり上げながら考察します。
この講義に関する資料はすべてClassroomにアップロードします。受講生は事前に各自で資料をダウンロードし、講義の概要を予習した上で出席してください。

到達目標

① 西洋における芸術概念の変遷について理解する。
② 歴史的な問題が単に過去の問題ではなく、今日的課題にも通じていることを理解する。
③ 自ら芸術について考察する能力を涵養する。
④ 今日の芸術文化活動や行為についての関心を深める。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

授業計画

1週 ガイダンス(講義の進め方、成績評価方法、レポートの書き方・提出の仕方など履修上の注意事項)
2週 芸術の概念について
3週 古代の芸術論(1)プラトンとアリストレレス
4週 古代の芸術論(2)修辞学(※)
5週 中世の芸術論(1)キリスト教と芸術
6週 中世の芸術論(2)象徴について
7週 中世の芸術論(3)偶像論争(※)
8週 ルネサンスの芸術論(1)アルベルティ
9週 ルネサンスの芸術論(2)ジョルジョ・ヴァザーリ(※)
10週 近代の芸術論(1)ヴィンケルマンとレッシング
11週 近代の芸術論(2)リーグルとヴェルフリン
12週 近代の芸術論(3)コンラード・フィードラー(※)
13週 現代の芸術論(1)構造主義
14週 現代の芸術論(2)受容美学(※)
15週 まとめ

成績評価方法・基準

学期末試験(50%)、課題レポート(50%)で成績評価を行います。15回の講義中6回以上欠席した受講生は、学期末試験、課題レポートの内容如何に関わらず、自動的に成績評価の対象とならないので注意してください。体調不良や忌引き、教育実習など、公的な理由で欠席せざるをえない場合には、所定の書式によって欠席届を提出してください。

教科書ソフト等

なし。Classroomで適宜、資料を配付します。各自でダウンロードしてください。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

q4a5bt5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義資料をClassroomに公開するので、各自でダウンロードしてください。また講義に基づく課題レポートを各時代の区切りの講義(※)後、5回提示しますので、提出締め切り(原則、講義が行われた翌週の水曜日23:59)までにClassroomを通じて提出してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

レポート作成に際して、ネットなどからコピー、ペーストしたものは不可とします。他者の意見を引用する際には必ず引用符をつける等の仕方で明確に区別し、その出典元を明示すること。なおレポートの書き方については、第1回目の講義で説明します。レポートは添削の上返却します。
その他、重要な事項等は講義中やClassroomで随時、発信しますので、注意してください。

授業科目	美学B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3702

授業概要	第1週から第6週までは、西洋芸術史を辿りながら、音楽・美術の個別の様式やジャンルからは見えてこない、各時代固有の芸術観・美学観を概観する。第7週から第14週までは、現代の芸術やアートを手がかりに、新しい創作手法や現象に見られる現代の美的感性を概観する。
到達目標	① 音楽活動・聴取体験の構造や特性が理解できる。 ② 音楽を理解するための様々なアプローチを用いて、問題を考察できる。 ③ 新しい音響・音楽実践について理解が深まる。
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性) 美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
授業計画	1週　授業ガイダンス 2週　過去の芸術観① 古代ギリシャ、中世 3週　過去の芸術観② バロック時代 4週　過去の芸術観③ 古典美学における芸術・芸術家 5週　過去の芸術観④ 形式主義 6週　過去の芸術観⑤ モダニズム 7週　過去の芸術観⑥ ポストモダニズム 8週　現代芸術の手法と理解① 引用、コラージュ、間テクスト性 9週　現代芸術の手法と理解② 芸術とジェンダー 10週　現代芸術の手法と理解③ 視覚と聴覚 11週　現代芸術の手法と理解④ ナショナリズム 12週　現代芸術の手法と理解⑤ クレオール性 13週　芸術の手法と理解⑥ 芸術と身体性 14週　芸術の手法と理解⑦ ポピュラーカルチャーの美学 15週　現代芸術の手法と理解⑧ 「カワイイ」の美学
成績評価方法・基準	レポート1:50%、レポート2:50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	dadyyvu
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	講義内容を各自きちんとノートにまとめること。授業でとり上げた作品をよく復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	度々、授業内容についての質問や意見を提出してもらい、クラスルームで意見を共有し、コメントしながら学びを深めます。できるだけ楽譜や専門知識を使わずに、分かりやすく解説します。いろいろな芸術やアートに関心のある方に、受講をお勧めします。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	英語演習Ⅱ（再履修）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美、山田　政樹	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 1812

授業概要

「英語演習Ⅱ」では、読む・聞く・書く・話すの4つの技能全般を指導するが、特に、聞く力と話す力の習得に重点を置く。その中でも、音そのものよりも意味を正確に聞き取り、言いたいことを正確に口頭で伝えるための技能の習得に重点を置く。そのため、授業は基本的に以下のように進める。
① 教科書の学習内容に基づいて、言語機能として明示された毎時間の学習目標を理解する。
② 教科書のモデル英文等の徹底的な練習を通して、目標達成に必要な語句や表現が身につける。
③ 教科書での学習内容を基にして、身近な話題や問題に関して、適切に応答したり、自分の意見などを簡潔に説明したりする。
④ 学習内容を各自の記録として書きとめる。

到達目標

① 高校までに習得する基本語彙や基本英語表現を用いて話されたり、書かれたりしている文章や会話を理解できる。
② 英語圏の社会や文化に関する知識を増やす。
③ 大学生の日常生活に関わる様々な事柄について、1人から2人の個人に自分の意見や考えを簡潔かつ正確に表現したり、他の人の意見に質問や適切に返答できる。
④ 言い方がわからない時も、既得の知識や技能をフルに活用して、コミュニケーションを円滑に前に進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	飛行機の中で初対面の人と気軽に英語で会話を始めることができるようになる
3週	空港で起こることが想定される出来事に英語で対処することができるようになる
4週	ホテルで起こることが想定される出来事に英語で対処することができるようになる
5週	レストランで想定される出来事に英語で対処することができるようになる
6週	ショッピングについて話したり、色々な場所で買い物をするための会話ができるようになる
7週	アメリカの野球（MLB）の伝統について知り、野球について話をすることができるようになる
8週	中間まとめ
9週	ミュージカルや観劇について話したり、劇場で想定される出来事に英語で対処することができるようになる
10週	観光旅行先での様々な案内を英語で理解し、同じような案内が自分もできるようになる
11週	旅行中のトラブル（落とし物や忘れ物）に英語で対処することができるようになる
12週	体調不良を英語で人に説明できるようになる
13週	電話で様々な予約をする際に想定される出来事に英語で対処することができるようになる
14週	英語圏での滞在中にお世話になった人に手紙やメールで感謝を述べたり、思い出を語ったりできるようになる
15週	到達度評価とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題30%、授業参加度20%
授業形態によって、評価方法・内容が多少変更することがある

教科書ソフト等

JACETリスニング研究会『総合英語パワーアップ（入門編）』南雲堂、2009　※1年次に使用したものでよい。
それ以外は、別途指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します

クラスコード

qze2pku

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習課題、小テストなどは、Google Classroomを活用します。
小テストを実施するので、語句・表現・英文について復習すること。それ以外でも各自で授業内容について復習しておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

社会学部の学部必修科目で、**2022年度英語演習Ⅱを不可だったか未履修の履修者のみを受講可**とします。未履修の場合は、英語演習Ⅰを合格している人のみ履修できます。辞書を持参すること。予習課題や小テストのフィードバックはすべて授業内に行う。

授業科目	英語Ⅲ(応用)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	赤間　荘太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2803

授業概要	この授業では「英語Ⅰ(基礎)」及び「英語Ⅱ(基礎)」で学んだことを活かし、少しレベルの高い文献を読んで実践的な英語を学んでいきます。 日本に住んでいる外国人が書いた異文化理解についてのエッセイを読み、自分の意見を英語で書くことにより英語力を身につけていきます。
到達目標	① 英語のエッセイを読み、リーディング能力を高め、語彙力をつける。 ② 英作文をしてライティング能力を高める。 ③ 日本と外国の考え方や文化の違いを理解する。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　Lesson 1　Small Talk with Strangers 3週　Lesson 2　Foreign Teachers vs. Freshmen 4週　Lesson 3　From Melting Pot to Salad Bowl 5週　Lesson 4　The Daily Fight on Japanese Trains 6週　Lesson 5　Let's Study Foreign Customs before Going Abroad 7週　Lesson 6　About Tokyo Noise Pollution 8週　Lesson 7　Trash and Recycling 9週　Lesson 8　Things Foreigners Like and Dislike about Japan 10週　Lesson 9　Travelling Abroad Can Be Dangerous for Japanese Tourists 11週　Lesson 10　Welcoming Neighbor 12週　Lesson 11　Will Kyoto's Atmosphere Be Destroyed by Modern Concrete? 13週　Lesson 12　To Tip or Not to Tip? That is the Question 14週　Lesson 13　You Become a Representation of Your Nationality 15週　授業内試験とまとめ
成績評価方法・基準	授業内試験50%、課題40%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	4a2xplu
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	オンライン上の問題に解答できるように、事前にエッセイの予習をしておいて下さい。また、背景知識を理解しておく必要があるので、必ずトピックに関する情報を調べておいて下さい。 3時間から4時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	辞書を準備することを推奨します(電子辞書やオンライン辞書の使用可)。また、コメント欄の意見や質問には毎回フィードバックを行います。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	英語Ⅳ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	赤間　荘太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2804

授業概要

この授業では「英語Ⅰ（基礎）」及び「英語Ⅱ（基礎）」で学んだことを活かし、少しレベルの高い文献を読んで実践的な英語を学んでいきます。
日本に住んでいる外国人が書いた異文化理解についてのエッセイを読み、自分の意見を英語で書くことにより英語力を身につけていきます。

到達目標

① 英語のエッセイを読み、リーディング能力を高め、語彙力をつける。
② 英作文をしてライティング能力を高める。
③ 日本と外国の考え方や文化の違いを理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	Lesson 1　The Case of Magically Appearing Money
3週	Lesson 2　Britain and America Are Divided by English
4週	Lesson 3　Gift-Giving Habits
5週	Lesson 4　Service by Employees
6週	Lesson 5　Why Won't Japanese Sit Next to Me in the Train?
7週	Lesson 6　I'm Not a Free, Walking English Lesson
8週	Lesson 7　Karaoke Is Now Conquering the World
9週	Lesson 8　The World's Worst Taxie
10週	Lesson 9　I Voted!
11週	Lesson 10　My Visit to the Land of Smiles Taught Me a New Philosophy
12週	Lesson 11　My First Trip to New York
13週	Lesson 12　Caring Aging Parent
14週	Lesson 13　Don't Judge a Book by Its Cover
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験50%、課題40%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

oqxdma7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

オンライン上の問題に解答できるように、事前にエッセイの予習をしておいて下さい。また、背景知識を理解しておく必要があるので、必ずトピックに関する情報を調べておいて下さい。

3時間から4時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書を準備することを推奨します（電子辞書やオンライン辞書の使用可）。また、コメント欄の意見や質問には毎回フィードバックを行います。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	英語コミュニケーションA	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 2831

授業概要	In Eigo communication I, content for the course will be varied in order to keep motivation high for the studentsas well as provide the practical skills needed for improvement. Classes will generally open with a warm up talkactivity based on a list of general information gathering questions provided to be used on a weekly basis aboutreal activities from the students personal lives. A core textbook will be the base of weekly lessons. Each unit will cover real life situations which present a target language through natural dialoques, listening challenges in nativeand non-native accents and role play pair work which consolidates the unit language in a way that gives confidence and meaning to their language learning.
到達目標	The first goal of this course is to provide the students with the practical skills they need to communicate effectively in English in situations that would be encountered abroad and to promote an interest in internationalism as an opportunity. Other course goals include students ability to share experiences and personal language production with partners. The varied activities used will highlight areas of ability and areas of needed practice for the students in their language progress. Enjoyment of the course studies is of importance as this leads to higher motivation.
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	Warm up talk introduction, dicussion of course goals, classmates introduction activity
2週	Warm up talk, Introduction of Unit 1,reservations, expressing desires, arranging transportaion
3週	Continue Unit 1,listening activity based on target language, role play of hotel reservation
4週	Warm up talk, Unit 2: Information gathering about facilities on a university campus,studying abroad situations
5週	Warm up talk, continue Unit 2 themes, substitution cues used with practical dialouge
6週	Warm up talk, Unit 4: Asking for and giving directions, building language needed to give and understand directions
7週	Warm up talk, pair work: giving directions by use of a city map and understanding location language
8週	Warm up talk, short pair work oral quiz on the first three units
9週	Warm up talk, listening for comprehension activity, Introduction of Unit 5: Asking for description and advice
10週	Warm up talk, continue unit 5: Ordering a meal at a restaurant, use of translation cards to make appropriate questions
11週	Warm up talk, Unit 6: Pricing and reading numbers, asking for information in a rental situation
12週	Warm up talk, role play at a rental goods shop with a partner, giving advice to given situations
13週	Warm up talk, Unit 7: Learning about taking transportation, reading time schedules and asking how to get around
14週	Warm up talk, continue unit 7 using real maps and transportation schedules, prepare for a final paper exam
15週	Paper exam on the first 6 units from the textbook

成績評価方法・基準	Warm up talk 10% , Class participation 40%, Attendance 25%, Quiz and Exam 25%
教科書ソフト等	Gershon, Mares, Walker "On The Go", Pearson/ Longman Asia ELT, 2016, ISBN: 978-962-00-5254-5
参考書等	Reference materials will be shown in class when necessary.
クラスコード	54wpofu
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	Practice of units studied with textbook CD, preparation for oral or written exams will take between 30 minutes to one hour of preparation time. 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	Feedback will given in class.

授業科目	英語コミュニケーションB	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SO-CE 2832

授業概要

In Eigo communication II, a continuation of the course in order to keep high motivation for the students as well as the practical skills they need will be carried out. To achieve this goal use of a variety of study activities such as a weekly warm up talk based on a list of common questioning patterns will be used. In addition to this list, a textbook providing pair work questions, various listening activities and a practical role play confirming understanding and pronunciation are used. Through these activities confidence will increase and language learning achieved.

到達目標

As in Eigo Communication 1, this course will provide the practical skills needed to communicate/ survive in social situations abroad and promote interest in Internationalism and the opportunities it allows in future career or travel situations. Students will have the chance to share personal information, ask for information, confirm understanding and use practical language in a given situation encountered abroad. Again, enjoyment in their studies and a positive atmosphere are also a desired goal.

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	Introduction to the second semester. Pairwork activity about students summer vacation. Past questions will be used
2週	Warm up talk. Unit 8: Hotels. Asking about past experiences/ checking in and related problems
3週	Warm up talk. Continue checking in role play using suplimental prints provided by instructor
4週	Warm up talk. Textbook listening exersise followed by an introduction to Unit 9: Describing fashion and shopping
5週	Warm up talk. Learn vocabulary used in describing clothes with use of pictures. Start role play on shopping with related questions
6週	Warm up talk. Begin Unit 10: At the airport. Checking in for an international flight and facilities at an airport.
7週	Warm up talk. Continue unit roleplay expressing desires and giving flight information. Also, a listening activity for comprehension.
8週	Warm up talk. Oral evaluation through role play on one of the related situations covered in the first three units.
9週	Warm up talk. Unit 12: Desribing family and hometown in casual conversation situation. Asking questions about social plans and activities
10週	Warm up talk. Role play: describing family and hometown with a practice partner at a coffee shop. Interview style questioning used.
11週	Warm up talk. Listening exersise on travel updates. Unit 13: Deciding on tourist activities to do. Practice language functions on decision making.
12週	Warm up talk. Asking for information about a tourist activity and role play on deciding what to do with given information.
13週	Warm up talk. Unit 16: Saying farewell to others when leaving using social situations. Customs such as exchanging gifts and other gestures involved.
14週	Warm up talk. Practice role play saying farewell to a class partner. Review for second semester exam.
15週	Final exam on reviewed units and language functions studied in the second semester.

成績評価方法・基準

Warm up talk 10%, Class participation 40%, Attendance 25%, Quizes and Exams 25%

教科書ソフト等

Gershon, Mares, Walker "On The Go", Pearson/ Longman Asia ELT, 2016, ISBN: 978-962-00-5254-5

参考書等

Reference materials will be shown in class when necessary.

クラスコード

dnj4gt5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

Practice of units studied with textbook CD, preparation for oral and written exams will take between 30 minutes to one hour of preparation time. Also, learning given warm up questions will be expected.

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

Feedback will be given in class.

授業科目	英語プレゼンテーション	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2841

授業概要

① 英語による口頭発表を行うための資料作成方法や、発表者として求められる発表技法について実践的に学ぶ。
② 資料作成、原稿作成、実際のプレゼンテーションを通じて、表現能力を身につける。

到達目標

① 英語の発表原稿とプレゼンテーションの内容にふさわしい視覚補助資料を作成することができる。
② プレゼンテーションを英語で行うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　オリエンテーション(プレゼンテーションの基礎事項の確認)
2週　課題テーマを掘り下げる
3週　主張(結論)、根拠、論拠
4週　裏付け
5週　視覚資料の準備
6週　論理的に述べる
7週　中間発表・質疑応答・相互評価
8週　相互評価フィードバック・課題考察
9週　内容構成を工夫する
10週　話し方を工夫する
11週　ビジュアル表現を工夫する
12週　発表者に質問をする
13週　聴衆の質問に答える
14週　最終発表・質疑応答・相互評価
15週　相互評価フィードバックとまとめ

成績評価方法・基準

発表50%、平常点(課題、相互評価、授業内活動)50%
※発表は複数回を予定しています。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

苅谷剛彦 『知的複眼思考法』 講談社 2002年、諏訪邦夫 『発表の技法』 講談社 1995年、黒木登志夫 『知的文章とプレゼンテーション』 中公新書 2011年

クラスコード

ohqzogg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

資料・データ収集、内容の整理、原稿の作成などを行ってもらいます。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は履修希望者が多い場合、履修人数を制限します(「学生便覧」の「履修人数の制限」を参照)。履修人数や制限する場合の方法など詳細は、掲示板でお知らせします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	英語実践A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2851

授業概要

英語によるコミュニケーション能力の基礎を堅固なものすることを目指す。
① 使用教科書で取り上げられている文法項目を理解し、使い方に習熟する。
② 使用例を通して語彙力を身につける。
③ 様々な言語活動を通してリスニング・リーディングの力を強化する。
④ 身近な話題について英語で自由に表現できる力を身につける。

到達目標

① 簡単な説明文を理解し、簡単な図表から必要な情報を読み取ることができる。
② 日常生活の身近な話題に関する話を理解することができる。
③ 興味・関心のある話題について話されたことを理解し、自分の立場から話すことができる。
④ 自分の将来の希望について話したり、書いたりすることができる。
⑤ 身近な事物について説明したり、紹介文を書いたりできる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	Personal Correspondence (1) 基礎演習
3週	Personal Correspondence (1) 応用実践
4週	Personal Correspondence (2) 基礎演習
5週	Personal Correspondence (2) 応用実践
6週	Biography (1) 基礎演習
7週	Biography (1) 応用実践
8週	中間まとめと振り返り
9週	Biography (2) 基礎演習
10週	Biography (2) 応用実践
11週	Events & Festivals 基礎演習
12週	Events & Festivals 応用実践
13週	Directions & Locations (1) 基礎演習
14週	Directions & Locations (1) 応用実践
15週	総復習とまとめ

成績評価方法・基準

授業内課題達成度50%、その他の課題（予習、小テストなど）30%、授業参加度20%

教科書ソフト等

JACETリスニング研究会『Power-Up English 〈Basic〉』 南雲堂　※後期開講の英語実践Bでも同じ教科書を使用する。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

v4ewzxl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、Google Classroom上の課題を終えておくこと。復習は、学習内容を整理してノートに整理しておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書を持参すること。ノートを持参すること。原則として実用英語検定試験を受験すること。
予習課題や小テストのフィードバックは全て授業内に行う。

授業科目	英語実践B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石川　希美	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2852

授業概要

「英語実践A」の発展的な科目で、さらに英語によるコミュニケーション能力を高めることを目指す。
① 使用教科書で取り上げられている文法項目を理解して、その使い方に習熟する。
② 使用例を通して語彙力を身につける。
③ 様々な言語活動を通してリスニング・リーディングの力を強化する。
④ 身近な問題について自分の意見や感想を交えて英語で表現できる力を身につける。

到達目標

① 一般向けに書かれた説明文を理解することができる。
② ある程度まとまった量の英文の要点を理解することができる。
③ 日常生活の身近な情報や説明を聞いて理解することができる。
④ 日常生活での出来事を説明したり文章に書くことができる。
⑤ 買い物や道案内など簡単な用件を話したり聞き取ったりできる。
⑥ 自分の住んでいる地域について簡単な英語で説明したり、紹介文を書いたりできる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	Occupations (1) 基礎演習
3週	Occupations (1) 応用実践
4週	Occupations (2) 基礎演習
5週	Occupations (2) 応用実践
6週	Instructions 基礎演習
7週	Instructions 応用実践
8週	中間まとめと振り返り
9週	Health & Physical Condition 基礎演習
10週	Health & Physical Condition 応用実践
11週	Service Requests 基礎演習
12週	Service Requests 応用実践
13週	Special Orders 基礎演習
14週	Special Orders 応用実践
15週	総復習とまとめ

成績評価方法・基準

授業内課題達成度50%、その他の課題（予習、小テストなど）30%、授業参加度20%

教科書ソフト等

JACETリスニング研究会『Power-Up English 〈Basic〉』 南雲堂　※前期開講の英語実践Aと同じ教科書のため、継続履修の場合は改めて購入しなくてよい。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zheugxd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、Google Classroom上の課題を終えておくこと。復習は、学習内容をノートに整理しておくこと　。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書を持参すること。ノートを持参すること。原則として実用英語検定試験を受験すること。
予習課題や小テストのフィードバックは全て授業内に行う。

授業科目	英語実践C	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3853

授業概要

ビジネスでは交渉や会議の前に雑談を行うことが多い。ビジネスで人と人の関係を築く際に大切な、その場を和らげるためのツールとして、ビジネスパーソンと雑談をする力を実践的に学ぶ。ケースとして、インバウンド編では日本に訪問・滞在しているビジネスパーソンとの対話、アウトバウンド編では海外での滞在・訪問先で現地のビジネスパーソンとの対話を想定し、相手に伝え、相手の話す内容を聞き取る対話力を身に着ける。難しい単語や文法にはこだわらず、可能な限り簡単な英語を使用し、相手に伝えられるようにする。英語の正確性ではなく、相手との意思疎通の正確性を重視する。

到達目標

① 簡単な英語を使用し、話を語る(Story Telling)ことができる
② 簡単な英語を使用し、話を膨らませることができる
③ 簡単な英語を使用し、自分の意見や考え、気持ちを正確に伝えることができる

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	オリエンテーション （授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明）
2週	～インバウンド編～ 食文化
3週	日本のビジネス習慣
4週	国内旅行
5週	日本の文化
6週	健康スポーツ
7週	中間まとめ
8週	フレンドリーな会話、震災・復興、宗教
9週	～アウトバウンド編～ ビジネスモデル
10週	観光、交通機関
11週	芸術・美意識
12週	食文化
13週	文化・習慣
14週	総まとめ
15週	授業内試験(プレゼンテーション)

成績評価方法・基準

学期末試験50%(プレゼンテーションおよび事後レポート提出)、課題30%、授業参加度20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

マルコム・ヘンドリックス・緒方秀夫(著)、藤井正嗣(監)『グローバル時代のビジネス英語雑談力 』秀和システム、2015、その他は授業内で指示します。

クラスコード

v2t3awl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習として課題のトピックについて特に話を膨らませるポイント、フレーズに関してはメモとしてまとめて、使用できるようにしておくこと。各トピックに関して事前に情報収集を行い、授業で話せるようにノートやスライドにまとめておくこと。復習はケースを中心に例を通して理解を深めること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	英語実践D	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3854

授業概要	総合的な英語運用能力の向上を目指して学ぶ。特に英語のスピーキング、プレゼンテーションを中心として、コミュニケーション能力を身に着ける。また、その運用能力を養う練習をする。 ※ 2023年度は状況によりe-learningによるオンディマンド学習となる可能性があります。
到達目標	① 簡単な英語を駆使しながら、英語で社会問題について意見陳述することができるようになる。 ② グローバル社会で通用するプレゼンテーションの仕方を習得する。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	1週　オリエンテーション （授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明） 2週　議論の組み立て方1：5 reasons why we need or don't need University 3週　議論の組み立て方2：5 reasons why we need or don't need alcohol restriction on age, 20 4週　議論の組み立て方3：5 reasons why we need or don't need cash 5週　議論の組み立て方4：5 reasons why we need or don't need the library 6週　議論の組み立て方5：5 reasons why we need or don't need basic income 7週　説得力のあるポイントある並べ方：ポイント1：聞き手の共感を呼ぶ情報提供 8週　説得力のあるポイントある並べ方：ポイント2：聞き手の注意を引く情報提供 9週　説得力のあるポイントある並べ方：ポイント3：聞き手に新しい知見、一押し情報を与える情報提供 10週　説得力のあるポイントある並べ方：ポイント4：聞き手が自然と耳を傾け，方向づけを図る導入 11週　説得力のあるポイントある並べ方：ポイント5：聞き手が全体を理解しやすいまとめ 12週　グローバルに通用するスライド作り1：効果的な文字と色の使い方 13週　グローバルに通用するスライド作り2：効果的な図表の使い方 14週　グローバルに通用するスライド作り3：効果的な背景の使い方 15週　プレゼン総括
成績評価方法・基準	議論のポイント提出（50%）、スライド作成（25%）、プレゼンテーション（25%）
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。（e-learningとなった場合は別途Google classroom内で指示します）
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	637rj6t
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	予習として事前に、毎回指定テーマに関して，議論のポイントを5つ英語で考えてきて、Google classroomに提出してもらいます。復習は英語力、構成、説得性、観点の面白さの4点から評価コメントを考えてみましょう。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。議論の準備、スライド作成、プレゼン準備はしっかりやりましょう。

授業科目	おもてなしの英語A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	川内　裕子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3861

授業概要

学生は、地元を含む北海道の特定地域を選び、選んだ地域のすばらしさを海外に発信するための具体的な方法の基礎を日本人教員とともに学んでいく。自分自身や地域についての英語プレゼンテーションと、質疑応答を含めた会議を英語で行い、好印象を持ってもらえるようにするための基本的な知識や技能を習得することを目的とする。日本および北海道に関わる文化語彙を増やしながら、おもてなしのためのプレゼンテーションを作ることを通して、いざとなれば、自分の所属する地域や機関のために、自分が持っている英語力を最大限に駆使して、通訳者や観光ガイドの役割を果たせるような人材となるための基礎的な知識と技能の習得を目指す。後期の「おもてなしの英語B」、さらには4年次の「おもてなしの英語C・D」に接続している。

到達目標

① 日⇒英、英⇒日の通訳演習を通じ、日本語と英語の発想の違いや類似性を学びながら、北海道の特定地域や産業の紹介や宣伝をするための効果的な表現を身につける。
② 英語による会議運営の基本に関する知識と技能を身につけ、上記①に関する話題での（1）会議の司会進行を務めることができ、また、必要に応じて（2）プレゼンテーションが行えるようになる。
③ リスニング、シャドーイング、ディクテーション、スラッシュリーディング、サイトトランスレーションなどといった通訳技術について理解し、それらの技術に習熟することによって英語力を継続的に高める努力ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科　1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
美術学科　1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
地域社会学科　1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

授業計画

1週　コースおよび教材と、異文化間の交流や交渉における通訳者の役割についての説明＋実践練習
2週　通訳で求められる基本的な技能について理解し、日→英／英→日通訳を実際に体験してみる（1）
3週　通訳で求められる基本的な技能について理解し、日→英／英→日通訳を実際に体験してみる（2）
4週　通訳で求められる基本的な技能について理解し、日→英／英→日通訳を実際に体験してみる（3）
5週　会議での通訳に必要な様々な技術を練習する―基本（1）：会議で使う基本的表現、意見を述べる表現
6週　会議での通訳に必要な様々な技術を練習する―基本（2）：会議の次第、進め方、まとめ方、議長の役割
7週　同上―基本（3）：トピックを選ぶ／意見をまとめる／リサーチが必要な内容を確認する／議長の使う表現
8週　同上―基本（4）：選んだトピックについて話し合うために具体的にどうするかがわかるようになる。
9週　同上―基本（5）：これまでの練習に基づき、実践形式で模擬会議を行なう＝会議実践形式小テスト（第1回）＋フィードバック
10週　英語でのプレゼンテーション（1）－ プレゼンの種類、構成、基本的表現・原稿作成（自己紹介）
11週　英語でのプレゼンテーション（2）－ プレゼンテーション原稿完成、リハーサル、質問の扱い方
12週　同上（3）－ 実践形式小テスト（第2回―自己紹介）、北海道・札幌・出身地の《何か》に関するプレゼンを準備＋フィードバック
13週　同上（4）－ 通訳実戦形式小テスト（第3回）、プレゼンテーション原稿作成（添削）ができるようになる＋フィードバック
14週　同上（5）－ プレゼン原稿の作成（添削）とリハーサルができるようになる。
15週　英語会議と英語プレゼンテーションの英語プレゼンテーションの実践形式小テスト （第4回）＋フィードバック

成績評価方法・基準

授業内小テスト（4回）80%、授業参加度20%

教科書ソフト等

斎藤彩子他　Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition> （『通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]』）南雲堂

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

m23cars

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員は現役の翻訳家、会議同時通訳者。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、授業で指示される課題を準備してくること。復習は、授業で学修した語彙や表現を、予習課題として与えられる具体的なタスクの中で実際に使ってみることで、それらの使い方に慣れたり、理解が十分でない点がないか確認する。質問事項をまとめておく。

1～2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書必携。ただし、高校時代に使っていたもので良い。電子辞書でも構わない。

授業科目	おもてなしの英語B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	ミラー望月	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3862

授業概要

In this semester, we will work on the skills necessary for giving a public speech or presentation. Students will prepare and practice speeches to perform for the class.

到達目標

The goal of the semester will be to increase students' confidence in presenting themselves in front of an audience.

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
美術学科 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週 Introduction to the class and discussion of content
2週 Unit 1 Self-introduction speech basics
3週 Unit 1 Self-introduction speech continued, practice with a partner
4週 Unit 1 Perform Self-introduction speeches
5週 Unit 2 Introducing someone
6週 Unit 2 Practice and Perform Introduction speeches
7週 Unit 3 Demonstration Speech basics
8週 Unit 3 Prepare Demonstration Speeches
9週 Unit 3 Perform Demonstration Speeches
10週 Unit 4 Layout Speech basics
11週 Unit 4 Layout Speech basics, continued
12週 Unit 4 Perform Layout Speeches
13週 Discuss choice of topic for Final Speech
14週 Prepare Final Speeches
15週 Perform Final Speeches

成績評価方法・基準

Grades will be based on class participation and performance of speeches. There will be five speeches given during the semester. Each speech will be worth 15%. The remaining 25% will be a grade for class participation

教科書ソフト等

Getting Ready for Speech, C. LeBeau, D. Harrington, Language Solutions, Inc 2002

参考書等

Before the start of the course, students can practice speaking (in English or Japanese) in front of a mirror.

クラスコード

cwx3tgi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

There are no special requirements to take this course.

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

As an oral communication based course, pair and group speaking exersises will be continually used in class as well as a basis for quizzes.

授業科目	イタリア語Ⅲ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	片桐　亜古	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2883

授業概要

イタリア語基礎で学んだことをベースに、より多様な表現を可能にする文法事項について学びます。例えば、尋ねたい事柄に応じた疑問詞の使い分けと用法。あるいは過去の出来事・経験・状態について語る、もしくは尋ねる際にどのような表現を用いれば良いか、等。文法事項の解説にあたり、日常・旅行会話、歌劇や文学作品にみられる用例も合わせてみていきます。生きた表現に触れることみより、用法に対する理解がより深まりますし、イタリアの人々の人間性も垣間見えてきます。また、聖書や文学作品からインスピレーションを受けた芸術家が自身の表現においてそれをいかに昇華させたのか一言語表現と芸術的表象との関係について考察する可能性を拡げてくれることでしょう。

到達目標

① 旅行、留学、芸術・社会活動等、自らの具体的な活動においてイタリア語を活かすことができる。
② イタリア語で書かれた資料を辞書の助けを借りながら一人で読み解くことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　ガイダンス／「イタリア語Ⅰ（基礎）」及び「イタリア語Ⅱ（基礎）」で学んだことの確認
2週　よく使われる疑問詞①　Che cos'è questo?「これは何ですか？」
3週　よく使われる疑問詞②　Quale gelato preferisci?「どのジェラートがいいいの？」
4週　時間に関する表現　Che ora è?「今何時？」
5週　近過去①　助動詞にavereをとるタイプ
6週　近過去②　助動詞にessereをとるタイプ
7週　関係代名詞①　Ho un amico che abita a Roma.「私にはローマに住んでいる友人がいます」
8週　関係代名詞②　Anna è l'amica con la quale sono andata in Italia.「アンナはイタリアに一緒に行った友人です」
9週　再帰動詞①　Mi chiamo～「私の名前は～です」
10週　再帰動詞②　Ci vediamo domani！「また明日ね！」
11週　半過去
12週　近過去と半過去の使い分け
13週　遠過去　Vissi d'arte, vissi d'amore…「歌に生き、恋に生き…」
14週　生きたイタリア語にふれてみよう（イタリア映画鑑賞）
15週　まとめ・期末テスト

成績評価方法・基準

平常点（受講率・ワークシート提出状況・点数）40%、期末テスト 40%、レポート 20%

教科書ソフト等

『Nuovissimo A ZONZO（最新 ア・ゾンゾ 更新改訂版／CD・音声ダウンロード用QRコード付）』（一ノ瀬俊和、朝日出版社）
ISBN：978-4-255-55310-8

参考書等

なし。資料は毎回の授業配信に合わせアップロードをする形で配布します。

クラスコード

5hvwxn7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

講師はイタリア在住歴14年。通訳・翻訳の経験豊富。Reconnecting With Your Culture日本支部長として日本とイタリアの子供たちの国際交流プロジェクトを進めている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容を予告しますので、勉強する予定の箇所について事前にテキストに目を通しておきましょう。授業後は勉強した内容に関連するワークシートをやり、理解度を確認しましょう。ワークシートの解説・解答を元にフィードバックを行いましょう。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

オンライン（オンデマンド形式）で授業を実施します。第14週のイタリア映画鑑賞については、講師が提示するイタリア映画三作品から一つを選び各自鑑賞の上、その映画についてレポートを提出するかたちになります。試験は第15週目に実施します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	イタリア語Ⅳ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	片桐　亜古	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2884

授業概要

未来形や進行形に加え、自身の願望や考え・印象を述べる際の表現法、また微妙なニュアンスが込められた言い回しや婉曲表現の理解に必要な文法事項について学びます。いかなる表現法が用いられているかに着目することにより、単に客観的事実を述べているのか、話者・書き手の主観がこもった個人的見解なのかを判断できるようになります。また、言い回しや言葉づかいから話者・書き手がどのようなニュアンスを込めたかったのかを汲み取ることができるようになります。文法事項の解説にあたり、日常的な会話や歌劇・文学作品にみられる用例も合わせてみていきます。その奥深さにも関わらず、言語では表現し尽くせないものがある一芸術表現の価値について考察する可能性を拡げてくれます。

到達目標

① 旅行・留学・芸術活動等、自らの具体的な場面でイタリア語を活かすことができる。
② イタリア語で書かれた資料を辞書の助けを借りながら一人で読み解くことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　ガイダンス ／「イタリア語Ⅲ（応用）」で学んだことの確認
2週　直説法未来　Con te partirò.「君といっしょに旅立とう」
3週　比較級
4週　最上級
5週　命令法　Nossum dorma「誰も寝てはならぬ」
6週　ジェルンディオ　Che stai facendo?「今、何をしているの？」
7週　ジェルンディオを用いた様々な構文
8週　条件法①　婉曲な表現・推測・仮定　Potresti farmi un favore?「ひとつお願いを聞いてくれる？」
9週　条件法②　実現しない（しなかった）事柄について述べる
10週　生きたイタリア語にふれてみよう（イタリア映画鑑賞）
11週　接続法① 自身の願望・考えを述べる　Spero che superi l'esame!「試験に受かりますように！」
12週　接続法② 接続法を用いた様々な表現
13週　受動態
14週　Siの様々な用法　Si può pagare con la carta di credito?「クレジットカードで払えますか？」
15週　まとめ・期末テスト

成績評価方法・基準

平常点（受講率・ワークシート提出状況・点数）40%、期末テスト 40%、レポート 20%

教科書ソフト等

『Nuovissimo A ZONZO（最新 ア・ゾンゾ 更新改訂版／CD・音声ダウンロード用QRコード付）』（一ノ瀬俊和、朝日出版社）
ISBN：978-4-255-55310-8

参考書等

なし。資料は毎回の授業配信に合わせアップロードをする形で配布します。

クラスコード

itb5gra

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

講師はイタリア在住歴14年。通訳・翻訳の経験豊富。Reconnecting With Your Culture日本支部長として日本とイタリアの子供たちの国際交流プロジェクトを進めている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業の最後に次回の内容を予告しますので、勉強する予定の箇所について事前にテキストに目を通しておきましょう。授業後は勉強した内容に関連するワークシートをやり、理解度を確認しましょう。ワークシートの解説を元にフィードバックを行いましょう。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

オンライン（オンデマンド形式）で授業を実施します。第10週のイタリア映画鑑賞については、講師が提示するイタリア映画三作品から一つを選び各自鑑賞の上、その映画についてレポートを提出するかたちになります。試験は第15週目に実施します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ドイツ語Ⅲ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	荻原　達夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2893

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を確実なものにし、やや高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定（独検）3～2級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習もしていきます。

到達目標

① 基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。
② 独検3～2級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　ガイダンス、既習事項の復習①発音
2週　復習②動詞の現在人称変化
3週　復習③語順、名詞と冠詞
4週　復習④haben, sein, werden, nehmen、所有冠詞、否定冠詞
5週　復習⑤人称代名詞
6週　復習⑥疑問詞
7週　復習⑦前置詞
8週　定冠詞類、時刻表現
9週　話法の助動詞①
10週　話法の助動詞②、möchte
11週　未来形
12週　形容詞の用法、形容詞の格変化①
13週　形容詞の格変化②
14週　形容詞の名詞化、比較級と最上級
15週　まとめとふりかえり

成績評価方法・基準

課題への取り組み方 50%、期末試験または期末レポート 50%

教科書ソフト等

橋本政義『しっかり身につくドイツ語』（三修社）

参考書等

適当な独和辞典。同学社『アポロン独和辞典』など。

クラスコード

f4bkybn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

独和辞典が必要です（和独は当面不要）。ある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』（同学社）など。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ドイツ語Ⅳ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	荻原　達夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2894

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を確実なものにし、高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定（独検）3～2級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習もしていきます。

到達目標

① 基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。
② 独検3～2級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　序数、日付の言い方
2週　zu 不定詞①
3週　zu 不定詞②
4週　副文
5週　再帰動詞
6週　動詞の 3 基本形①
7週　動詞の 3 基本形②
8週　動詞の 3 基本形③
9週　過去形
10週　現在完了形①
11週　現在完了形②
12週　非人称表現
13週　受動態①
14週　受動態②
15週　まとめとふりかえり

成績評価方法・基準

課題への取り組み方 50%、期末試験また期末レポート50%

教科書ソフト等

橋本政義『しっかり身につくドイツ語』（三修社）

参考書等

適当な独和辞典。同学社『アポロン独和辞典』など。

クラスコード

7w5puvg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

独和辞典が必要です（和独は当面不要）。ある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』（同学社）など。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	ドイツ語コミュニケーションⅠ（基礎）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	アーノルド・ダニエル	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3891

授業概要

① 実際の場面で使えるコミュニケーション能力の養成を目指します。
② ペアを組んで対話をしながら表現を覚え、文法規則を理解する。
③ 聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学習する。
④ 言語を通して異文化の風習を知る。

到達目標

① ヨーロッパ言語共通参照枠の最初のレベルA1修了試験（Start Deutsch1）に合格できるようにドイツ語運用能力を身につける。
② 語彙や文法は自分で推測したり発見したり、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	発音、挨拶、数詞、スペルの復習
2週	初対面（名前、出身地、住まい）、電話番号
3週	ヨーロッパの国々、滞在期間や旅費の話
4週	国、言語、専攻
5週	ドイツの留学生の現状
6週	曜日、科目、他人紹介
7週	食べ物、飲み物
8週	好き嫌い、ドイツの食生活
9週	趣味の話
10週	ドイツ人の休暇の過ごし方
11週	お誘いの話
12週	できることの話（話法の助動詞）
13週	やりたいことの話（話法の助動詞）
14週	家族の話
15週	職業の話、ドイツの教育現状、期末口頭試験、期末口頭試験のフィードバック

成績評価方法・基準

各授業の課題提出（いわゆる宿題）50%、学期末口頭試験50%

教科書ソフト等

Szenen 1 heute aktuell 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子、三修社、ISBN978-4-384-12308-1、2300円＋税

参考書等

独和辞典

クラスコード

vqiwvs3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

A&F Computersysteme AG.　8年間ITシステムエンジニア

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に予習しておいて、授業後に復習とノートの整理を行ってください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

この講義では文法の高度な説明を受け身で聞くのではなく、1・2年生で習得したものを実際に声に出して練習し、体で覚えることが大切です。完璧でなくても、楽しく学習することによって、自然にレベルアップします。授業内に提出した課題のフィードバックを行う。

授業科目	ドイツ語コミュニケーションⅡ（応用）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	アーノルド・ダニエル	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 3892

授業概要	① 「ドイツ語コミュニケーション基礎」で修得した知識を活かして、実際の場面で使えるコミュニケーション能力を更に広げていく。 ② ペアを組んで対話をしながら表現を覚え、文法規則を理解する。 ③ 聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学習する。 ④ 任意で、札幌に試験会場もあるヨーロッパ言語共通参照枠の最初のレベルA1修了試験に向けて、練習する。
到達目標	① ヨーロッパ言語共通参照枠の最初のレベルA1修了試験（Start Deutsch1）に合格できるようにドイツ語 運用能力を身につける。 ② 語彙や文法は自分で推測したり発見したり、主体的に学習できる。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画	
1週	人の性格、体型、容姿
2週	ドイツにおける家族構成
3週	持ち物、ドイツの若者のお小遣い
4週	買い物の話
5週	ピクニックの話
6週	休暇の過ごし方について語る（現在完了）
7週	経験の話（…したことがあるかないか）
8週	過去と現在の比較（昔は…、そして今は…）
9週	ドイツの学生の住居現状
10週	部屋や家具の話
11週	ドイツでの部屋探し
12週	部屋と日付
13週	１日中の出来事
14週	交通手段
15週	簡単な道案内、期末口頭試験、期末口頭試験のフィードバック

成績評価方法・基準	各授業の課題提出（いわゆる宿題）50%、学期末口頭試験 50%
教科書ソフト等	Szenen 1 heute aktuell 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子、三修社、ISBN978-4-384-12308-1、2300円＋税
参考書等	独和辞典
クラスコード	kqd4gzu
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	A&F Computersysteme AG. ８年間ITシステムエンジニア
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に予習しておいて、授業後に復習とノートの整理を行ってください。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	この講義では文法の高度な説明を受け身で聞くのではなく、1・2年生で習得したものを実際に声に出して練習し、体で覚えることが大切です。完璧でなくても、楽しく学習することによって、自然にレベルアップします。授業内に期末口頭試験のフィードバックを行う。

授業科目	フランス語Ⅲ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	大小田　重夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2873

授業概要	「フランス語Ⅰ（基礎）」及び「フランス語Ⅱ（基礎）」で学習した文法の確認と復習、新たな文法事項の学習とともに、語彙力を含めた表現力、フランス語を聞き取る力の拡充を目的とします。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。
到達目標	簡単な日常会話の聴き取りやそこで使われている文法の学習をとおして、ワンランクアップしたコミュニケーションができることを目標とします。
学科のディプロマ・ポリシー	4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	1週　動詞の現在形と複合過去の復習①、「頻度」に関する表現 2週　動詞の現在形と複合過去の復習②、これまでの経験について簡単な会話をする 3週　直接・間接目的語と強勢形の代名詞①、「コミュニケーション」に関する表現 4週　直接・間接目的語と強勢形の代名詞②、日常生活について語る 5週　直接・間接目的語と強勢形の代名詞③、日常生活について語る 6週　代名動詞の使い方①、一日の行動に関する表現 7週　代名動詞の使い方②、一日の行動に関する表現 8週　中性代名詞と指示代名詞①、「程度」に関する表現 9週　中性代名詞と指示代名詞②、中性代名詞を使った簡単な会話をする 10週　未来についての表現①、「～と言う」「～と思う」などの表現 11週　未来についての表現②、未来形を使って簡単な会話をする 12週　短文読解「日本マニアのフランス人」① 13週　短文読解「日本マニアのフランス人」② 14週　文法補足①現在分詞とジェロンディフ 15週　文法補足②過去分詞と受動態、所有代名詞
成績評価方法・基準	課題提出 60%（各講義ごとに課題を提出します）、出席 40%
教科書ソフト等	『クロワッサン2　もっと知りたいフランス語』松村博史、バンドロム・エディ著、朝日出版社
参考書等	『現代フランス広文典』目黒士門著　白水社
クラスコード	osyseic
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回4段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	フランス語Ⅳ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	大小田　重夫	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2874

授業概要

「フランス語Ⅰ（基礎）」及び「フランス語Ⅱ（基礎）」で学習した文法の確認と復習、新たな文法事項の学習とともに、語彙力を含めた表現力、フランス語を聞き取る力の拡充を目的とします。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

簡単な日常会話の聴き取りやそこで使われている文法の学習をとおして、ワンランクアップしたコミュニケーションができることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	過去について語る①複合過去と半過去、「活動」に関する表現
2週	過去について語る②複合過去と半過去、これまでの経験について簡単な会話をする
3週	過去について語る③大過去、これまでの経験について簡単な会話をする
4週	時・理由・条件を表す接続詞①、「大学生活」に関する表現
5週	時・理由・条件を表す接続詞②、接続詞を使った簡単な会話をする
6週	仮定の話をする①条件法現在、「レストラン」に関する表現
7週	仮定の話をする②条件法現在、想像の世界について語る
8週	仮定の話をする③条件法過去、想像の世界について語る
9週	関係代名詞①、「観光地」に関する表現
10週	関係代名詞②、関係詞を使った文を作る
11週	強調構文
12週	接続法①、あいずちの表現
13週	接続法②、接続法を使った文を作る
14週	接続法③、接続法を使った文を作る
15週	短文読解「ワッフルとムール・フリットの国ベルギー」

成績評価方法・基準

課題提出 60%（各講義ごとに課題を提出します）、出席 40%

教科書ソフト等

『クロワッサン2　もっと知りたいフランス語』松村博史、バンドロム・エディ著、朝日出版社

参考書等

『現代フランス広文典』目黒士門著、白水社

クラスコード

y2dmasz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回4段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	中国語Ⅲ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	藤野　陽平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2863

授業概要

本授業は、基礎中国語の応用編（前期）という位置付けとして、次の事項について学びます。①前年度の「中国語Ⅰ・Ⅱ」で扱った基礎的な文法を再確認しつつ、応用力を高めていくことで入門レベルからステップアップしていきます。②前期には、日常的な場面を想定した比較的にやさしいパッセージを用いて様々な文法や文型について、どのような場面でどのように使うかを学習します。③そして、練習問題を解きながら、学習内容をしっかり身につけているか、知識を応用できるかを確認します。④その上で、シチュエーション別の会話の時間を設け、自然な発音はもちろん、簡単なコミュニケーションがスムーズにできるようにします。

到達目標

①基礎文法をマスターし、応用力を身につけることができます。
②語彙力を高め、よりスムーズに簡単な会話ができるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　ガイダンスと発音の復習
2週　第1課　単語と文法
3週　第1課　本文と練習
4週　第2課　単語と文法
5週　第2課　本文と練習
6週　第3課　単語と文法
7週　第3課　本文と練習
8週　第1−3課　総復習
9週　第4課　単語と文法
10週　第4課　本文と練習
11週　第5課　単語と文法
12週　第5課　本文と練習
13週　第6課　単語と文法
14週　第6課　本文と練習
15週　第4−6課　総復習

成績評価方法・基準

課題の提出（60%）と取り組み具合（40%）で判断します。

教科書ソフト等

徐送迎『仲間で話そう中国語　初級から中級へ』2019年、朝日出版社、ISBN：978-4-255-45320-0

参考書等

授業内で適宜指示します。

クラスコード

5odbr7f

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習：該当配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう（所要時間30分）。
復習：既に習った配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確認しましょう（所要時間30分）。

時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

可能な限り毎回出席して大きな声で発音及び会話の練習をすること。そして、積極的に質問やコメントをすること。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	中国語Ⅳ（応用）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	許 仁碩	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 2864

授業概要

本授業は、基礎中国語の応用編（前期）という位置付けとして、次の事項について学びます。①前年度の「中国語Ⅰ・Ⅱ」で扱った基礎的な文法を再確認しつつ、応用力を高めていくことで入門レベルからステップアップしていきます。②前期には、日常的な場面を想定した比較的にやさしいパッセージを用いて様々な文法や文型について、どのような場面でどのように使うかを学習します。③そして、練習問題を解きながら、学習内容をしっかり身につけているか、知識を応用できるかを確認します。④その上で、シチュエーション別の会話の時間を設け、自然な発音はもちろん、簡単なコミュニケーションがスムーズにできるようにします。

到達目標

①基礎文法をマスターし、応用力を身につけることができます。
②語彙力を高め、よりスムーズに簡単な会話ができるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	ガイダンスと基本文法の復習
2週	第7課 単語と文法
3週	第7課 本文と練習
4週	第8課 単語と文法
5週	第8課 本文と練習
6週	第9課 単語と文法
7週	第9課 本文と練習
8週	第7―9課 総復習
9週	第10課 単語と文法
10週	第10課 本文と練習
11週	第11課 単語と文法
12週	第11課 本文と練習
13週	第12課 単語と文法
14週	第12課 本文と練習
15週	第10―12課 総復習

成績評価方法・基準

課題の提出（60%）と取り組み具合（40%）で判断します。

教科書ソフト等

徐送迎『仲間で話そう中国語　初級から中級へ』2019年、朝日出版社、ISBN：978-4-255-45320-0

参考書等

授業内で適宜指示します。

クラスコード

xtlswfe

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習：該当配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう（所要時間30分）。
復習：既に習った配布資料（テキスト）の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確認しましょう（所要時間30分）。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

可能な限り毎回出席して大きな声で発音及び会話の練習をすること。そして、積極的に質問やコメントをすること。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	オペラ制作演習Ⅲ・Ⅴ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 岡崎　正治、萩原　のり子	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 2103 MF-CE 3105

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　ソロ音楽稽古/合唱稽古①
3週　ソロ音楽稽古/合唱稽古②
4週　講義Ⅰ(予定)
5週　ソロ音楽稽古/合唱稽古③
6週　ソロ音楽稽古/合唱稽古④
7週　身体表現特別講義(予定)
8週　作品の講義Ⅱ(予定)
9週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤
10週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥
11週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦
12週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧
13週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨
14週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩
15週　ソロ、合唱、歌唱試験

成績評価方法・基準

アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%

教科書ソフト等

オリジナル楽譜、一部指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること(指定します)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aesrdoq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。
5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	オペラ制作演習Ⅳ・Ⅵ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 河野泰幸、岡﨑　正治、萩原　のり子	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 2104 MF-CE 3106

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割、舞台技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	音楽セリフ通し稽古
2週	ソロ、合唱稽古/セリフ稽古
3週	立ち稽古①
4週	身体表現特別講義
5週	立ち稽古②
6週	立ち稽古③
7週	立ち稽古④
8週	立ち稽古⑤
9週	立ち稽古⑥
10週	立ち稽古⑦
11週	立ち稽古⑧
12週	通し稽古①
13週	通し稽古②
14週	通し稽古③
15週	G.P/本番

成績評価方法・基準

アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%

教科書ソフト等

オリジナル楽譜、一部指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること(指定します)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aesrdoq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。

5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	映像制作演習Ⅲ～Ⅵ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	(音楽学科)小山　隼平、大黒　淳一 (美術学科)小町谷　圭、門間　友佑	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 2203、2204 MF-CE 3205、3206

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

① 音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
② 異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③ 異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　企画の提案と決定
3週　企画会議①　グループの編成
4週　企画会議②　内容の検討
5週　企画会議③　内容の決定
6週　作業スケジュールの作成、広報業務の分担
7週　グループごとの制作①　プロットの決定
8週　グループごとの制作②　台本、絵コンテの制作
9週　グループごとの制作③　前半部分の撮影
10週　グループごとの制作④　中間部の撮影、編集
11週　グループごとの制作⑤　後半の撮影、編集、作曲
12週　グループごとの制作⑥　すり合わせ
13週　初号試写、修正作業
14週　仕上げ、発表当日業務の確認・分担
15週　研究発表

成績評価方法・基準

参加状況60%、作品の審査40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

前期:p5vo453　後期:kmprsuy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者が主体的に作品に対する決定を行っていく授業形態(アクティブ・ラーニング)をとりますので、自発的に授業にかかわることが求められます。なお、上記の授業計画は基的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	和声法Ⅰ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	小山 隼平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2021

授業概要

和声の学習は与えられたバスに基づき四声体を作り上げること(バス課題の実施)を根幹とします。
このような学習に加え、和声に関する基礎的な知識を身につけます。

到達目標

① 和音の機能に関する知識を身につけ、説明することができる。
② 三和音、七の和音の配置方法を身につけ、適切な配置で書くことができる。
③ 三和音、属七の和音の連結ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

4 知識活用:4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

授業計画

1週 ガイダンスと基礎知識の確認、および三和音の成り立ちについて
2週 和音の機能と配置について
3週 三和音(基本形)の連結①長調
4週 三和音(基本形)の連結②短調
5週 三和音(第一転回形)の配置について
6週 三和音(第一転回形)の連結①基本的な考え方について
7週 三和音(第一転回形)の連結②8小節程度の課題の実施
8週 三和音(第二転回形)の機能と配置について
9週 三和音(第二転回形)の連結①基本的な考え方について
10週 三和音(第二転回形)の連結②8小節程度の課題の実施
11週 属七の和音の機能と配置について
12週 属七の和音の連結①基本的な考え方について
13週 属七の和音の連結②8小節程度の課題の実施
14週 和音設定について
15週 授業内試験(筆記)とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験(筆記)50%、単元ごとの小テスト30%、課題の実施状況20%

教科書ソフト等

柳田孝義(著)『名曲で学ぶ和声法』(音楽之友社)

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で資料を配付します。

クラスコード

amtu7nr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

音程と音階に関する知識が既にあり、大譜表を読めることが前提になります。その上で、授業内で提示される課題に取り組んでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題に取り組む上で、五線紙か楽譜作成ソフトウェアのどちらかが必要になります。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	和声法Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	小山 隼平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2022

授業概要

和声の学習は与えられたバスに基づき四声体を作り上げること(バス課題の実施)を根幹とします。
このような学習に加え、和声に関する基礎的な知識を身につけます。

到達目標

① 変化和音が何かを理解することができる。
② 副次調や副属の和音が何かを理解することができる。
③ 転調を含むバス課題を実施することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンスと前期の復習
2週	属九の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について
3週	属九の和音の連結②8小節程度の課題の実施
4週	副七の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について
5週	副七の和音の連結②8小節程度の課題の実施
6週	準固有和音の連結
7週	ナポリの和音の連結
8週	ドリアの六度、エオリアの七度
9週	副次調、副属の和音について
10週	副次調、副属の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について
11週	副次調、副属の和音の連結②8小節程度の課題の実施
12週	転調を含む課題①調判定
13週	転調を含む課題②課題の実施
14週	転調を含む課題③総括
15週	授業内試験(筆記)とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験(筆記)50%、単元ごとの小テスト30%、課題の実施状況20%

教科書ソフト等

柳田孝義(著)『名曲で学ぶ和声法』(音楽之友社)

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で資料を配付します。

クラスコード

z4kcxgj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

「和声法Ⅰ」の内容を理解している前提で授業を進めます。その上で、授業内で提示される課題に取り組んでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題に取り組む上で、五線紙か楽譜作成ソフトウェアのどちらかが必要になります。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	対位法	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	谷津　祐子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3021

授業概要

＜目的＞
単旋律聖歌であるグレゴリオ聖歌の模倣から始め、等長の1:1の2声作法からその他の作法までを理解し作成できるよう目指す。
＜概要＞
15世紀に興った声楽ポリフォニーは、16世紀にパレストリーナが出現したことにより最高に円熟したものとなった。声楽ポリフォニーは器楽ポリフォニーに比較して音の流れが流麗であることが大きな特徴である。これらを学習することによって拍子やパターン化されたリズムとは違う、線的な動きに対する柔軟な感性を培う。

到達目標

①　2声の自由模倣の小品が作曲できるようになる。
②　3声の簡単な小品が作曲できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　ガイダンス：授業内容、授業計画の説明／教会旋法について
2週　単声法の基礎①
3週　単声法の基礎②
4週　2声の等長対位法①
5週　2声の等長対位法②
6週　2声の等長対位法③
7週　2声の1対2対位法①
8週　2声の1対2対位法②
9週　2声の1対3、1対4対位法①
10週　2声の1対3、1対4対位法②
11週　2声の混合対位法①
12週　2声の混合対位法②
13週　2声の混合対位法③
14週　3声の対位法①
15週　3声の対位法②／まとめ

成績評価方法・基準

試験60%、提出課題20%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

e23kbe5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

繰り返し課題を実施、作成することによって感覚が培われるため、複数の課題を実施すること。
2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

五線紙を各自で用意してください。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	管弦楽法	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3022

授業概要

「管弦楽法」では、管弦楽と吹奏楽の中で扱われる管弦打楽器についての基本的な事柄や書法を学びます。楽器それぞれの音色の特徴や一般的な奏法、使用される音域、移調楽器などについての基礎的な理解を深め、管弦楽作品や吹奏楽作品の分析も適宜行いながら授業を進めてゆきます。教師や部活動の外部指導員、フリーの音楽指導者などになる人に対して、将来必要となる管弦楽や吹奏楽への理解と基本的な編曲スキル(簡易な音の置き換えで)を含んだ幅広い学習を展開します。それによって受講生それぞれの卒業後の音楽へのかかわり方を支援してゆきます。

到達目標

① 管弦楽や吹奏楽で使用されるそれぞれの楽器の特徴を理解できる。
② スコアを的確に把握し、それを活かした表現方法や練習方法を考えることができる。
③ 弦楽アンサンブルや管楽アンサンブル、小編成吹奏楽などへの簡単な編曲ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

授業計画

1週	ガイダンスと受講に必要な知識の確認、管弦楽や吹奏楽のスコアの書かれ方を概観する。
2週	木管楽器それぞれの特性と音域について。小編成木管アンサンブルへの簡単な編曲実習①
3週	小編成木管アンサンブルへの簡単な編曲実習②
4週	金管楽器それぞれの特性と音域について。小編成金管アンサンブルへの簡単な編曲実習①
5週	小編成金管アンサンブルへの簡単な編曲実習②
6週	弦楽器それぞれの特性と音域について。弦楽アンサンブルへの簡単な編曲実習①
7週	弦楽合奏への簡単な編曲実習②
8週	管弦楽や吹奏楽で一般的に用いられる打楽器の特性や使用方法と打楽器アンサンブルへの簡単な編曲実習
9週	スコアリーディング～課題として挙げる作品のスコア分析
10週	小編成吹奏楽への編曲実習①　選曲と編成の設定
11週	小編成吹奏楽への編曲実習②　ピアノスコア(コンデンススコア)作成の工夫
12週	小編成吹奏楽への編曲実習③　オーケストレーションの工夫
13週	小編成吹奏楽への編曲実習④　オーケストレーションの検討
14週	小編成吹奏楽への編曲実習⑤　全体的な点検と仕上げ
15週	スコアの浄書指導、前期課題提出

成績評価方法・基準

木管楽器や金管楽器アンサンブルの編曲実習40%、小編成吹奏楽への編曲実習40%、
作品研究レポート10%、平常点10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

最新吹奏楽講座(5)　編曲の基本と応用(音楽之友社)

クラスコード

kickl4s(ケイ・アイ・シー・ケイ・エル・4・エス)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

編曲実習に授業時間内で取り組む場合と、次週までに課題として取り組んで提出する場合があります。その際の復習としての必要な時間(※)は以下の目安です。

※30分から60分程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ピアノや声楽専攻の学生にとっても、将来のために管弦楽や吹奏楽のスタイルを楽譜の側から知りたい場合には、この「管弦楽法」が有用な講義となります。講義の中で扱われる移調楽器や、楽曲の調性の選択、そこで展開している和声法上の特徴把握などについては、ある程度の楽典や和声の知識も必要となります。

授業科目	楽曲分析Ⅰ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3001

授業概要

本講においてはとりわけ和声構造分析やオーケストレーション分析に重点を置き、古典派の音楽から近現代の音楽を中心とした作品群の中から分析の視点（要素）を抜き出し、和声法や管弦楽法で習得した知識や内容が、実際の楽曲でどのように普遍的表現方法として活用されているかを分析する。
さらに、関連する多くの作品を聴きながらそのインプレッションを文章で表現することを同時に行う。

到達目標

音楽を論理的に読み解く姿勢を身につけるとともに、音楽に対する自分の意見を持ち、それを文章で表現するという意識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週	ガイダンス～和声分析に必要な機能和声法の確認
2週	平易な楽曲を教材にした和声分析の解説と実習①（ピアノ曲を中心に）
3週	平易な楽曲を教材にした和声分析の解説と実習②（歌曲や合唱曲を中心に）
4週	教材楽曲を例にした和音構造やオーケストレーションの分析①
5週	教材楽曲を例にした和音構造やオーケストレーションの分析②
6週	教材楽曲を例にした和音構造やオーケストレーションの分析③
7週	教材楽曲を例にした和音構造やオーケストレーションの分析④
8週	調性構造の分析①
9週	調性構造の分析②
10週	小規模なソナタ形式の分析①　ソナタ形式の一般的な構造とそのバリエーションなど
11週	小規模なソナタ形式の分析②　和声及び調性構造と動機操作についての分析
12週	歌詞を持つ音楽①　ドイツリート音楽における歌とピアノの関係性（歌曲におけるオーケストレーション）
13週	歌詞を持つ音楽②　歌曲や合唱曲における歌詞に対する和声や旋律の変化と声楽的オーケストレーション
14週	歌詞を持つ音楽③　独唱曲や合唱曲における歌詞に対する様々な要素の変化を見る
15週	授業内試験（筆記）と講義のまとめ（楽曲分析レポート）

成績評価方法・基準

授業内試験（筆記）50%、授業出席状況や参加態度20%、分析シートおよびインプレッションノート等の提出物30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

sb7z544（エス、ビー、7，ゼット、5，4，4）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

分析シートおよびインプレッションノートの作成。指示された楽曲の聴取および復習。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「和声法Ⅱ」で学習した程度の内容を理解していること。履修していない学生は受講前に各自学習しておくこと。一般的な筆記用具の他に五線紙と定規を用意すること。授業内容についての自由発言は、その時間を適宜設けるので、いつも自分の意見が他者にわかりやすく伝えられるように日常的に意識を高めておくこと。

授業科目	楽曲分析Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3002

授業概要

本講においては、ここで取り上げる作曲家の音楽的な個性を楽曲分析から読み取るため、彼らの代表的な作品にスポットを当て、分析と解説を進めてゆく。さらに、関連する多くの作品を聴きながらそのインプレッションを文章で表現することを同時に行う。

到達目標

音楽を論理的に読み解く姿勢を身につけるとともに、音楽に対する自分の意見を持ち、それを文章で表現するという意識を身につけることができる。そして、こうしたスキルと経験値を上げることで、コンサートプログラムの楽曲解説を書くことができ、自身の取り上げる演奏曲について、その表現方法や練習方法を楽曲分析に根拠を置いて考えられるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週	フーガの特徴についての一般的な解説
2週	J.S.Bachのフーガ（平均律クラヴィーア曲集より）の構造を決定する要素の認識方法とその解説
3週	J.S.Bachのフーガ（平均律クラヴィーア曲集より）の主題と応答、対旋律の多声構造とフーガの調性構造の分析
4週	J.P.Sweelinckの作品分析（「わが青春は過ぎ去り」他）～動機の展開と変奏の手法分析
5週	G.F.Händelの作品分析（オラトリオ「メサイア」より）～そのポリフォニーとホモフォニーの特徴
6週	F.Chopinの作品を通してその転調法や動機操作の特徴を分析①　Chopinならではの新しい響きや独自のピアノ書法の特徴
7週	F.Chopinの作品を通してその転調法や動機操作の特徴を分析②　和声音のエンハーモニック変換による遠隔調転調
8週	P.I.Tchaikovskyの晩年作品分析①　交響曲第4番の分析
9週	P.I.Tchaikovskyの晩年作品分析②　交響曲第5番の分析
10週	P.I.Tchaikovskyの晩年作品分析③　交響曲第6番の分析
11週	S.Rachmaninovのピアノ作品分析①　24の前奏曲より抜粋（嬰ト短調など）
12週	S.Rachmaninovのピアノ作品分析②　ピアノ協奏曲第2番より
13週	R.Wagnerのトリスタン和声分析～機能和声法崩壊への端緒となったこの作品の和声法を分析する
14週	O.Respighiのオーケストラ作品分析　交響詩「ローマの松」全曲
15週	授業内試験（筆記）と講義のまとめ～オンライン授業の場合は分析レポートの提出となる

成績評価方法・基準

授業内試験（筆記）50%、授業出席状況や参加態度(主に積極的な発言等の有無）20%、分析シートおよびインプレッションノート等の提出物30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付。取り上げる作品については事前に視聴するなどして、音楽的な外観や印象を把握しておくことが望ましい。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hyh7e3u（エイチ、ワイ、エイチ、7，イー、3，ユー）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

分析シートおよびインプレッションノートの作成。指示された楽曲の聴取および復習。

60分から90分程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「楽曲分析Ⅰ」で学習した内容を充分に把握すること。講義に関しては筆記用具等の準備が必要。課題作成時には文書作成アプリかソフト、楽譜作成についても楽譜アプリかソフトを各自用意することが望ましい。それが難しい場合は五線紙やレポート用紙で対応してもよい。授業中の発問や自由発言についてはその時間を適宜設ける。常に自分の意見が他者にわかりやすく伝えられるよう日頃から意識を高めておくこと。

授業科目	鍵盤音楽史A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3011

授業概要	バロックの時代から19世紀前半までの鍵盤音楽の歴史を概観し、各時代固有の楽器の構造や演奏習慣の問題との関連などを理解する。
到達目標	① 各時代の演奏習慣や楽器の特性と、音楽作品との関連が説明できる。 ② 各時代に固有の音楽様式やジャンルの特徴が説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性） 4 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
授業計画	1週　バロック時代のクラヴィーア音楽 2週　バッハの鍵盤音楽①　平均律 3週　バッハの鍵盤音楽②　舞曲と組曲 4週　バッハの鍵盤音楽③　ゴールドベルク変奏曲 5週　バッハの鍵盤音楽④　バッハ作品の編曲 6週　古典派のピアノ音楽①　ハイドンのソナタ 7週　古典派のピアノ音楽②　モーツァルトのソナタ 8週　古典派のピアノ音楽③　モーツァルトの協奏曲 9週　古典派のピアノ音楽④　ベートーヴェンのソナタ1 10週　古典派のピアノ音楽⑤　ベートーヴェンのソナタ2 11週　古典派のピアノ音楽⑥　ベートーヴェンの協奏曲 12週　幻想曲① 13週　幻想曲② 14週　ロマン派の協奏曲① 15週　ロマン派の協奏曲②
成績評価方法・基準	レポート1：50%、レポート2：50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	34hckzt
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ピアノコースの試験曲については、できる限り授業内で取り上げます。授業範囲で取り上げてほしい作品を出席フォームでリクエストすることもあります。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	鍵盤音楽史B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3012

授業概要

① 「鍵盤音楽史A」を継続し、盛期ロマン派から現代までのピアノ作品を取り上げ、個々の作曲家の音楽様式やピアノ書法の基本的な特徴を理解する。
② 印象派以降は、必ずしも作曲家別ではなく、リストと印象主義、新ヴィーン楽派の作曲家等、関連性のある作曲家・作品の比較も行って、それぞれの特徴を理解する。

到達目標

① 各作曲家の音楽様式や作曲技法と、音楽作品との関連が説明できる。
② 近現代の作品の新しいピアノ書法の特徴が把握でき、自分なりの作品解釈ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週	盛期ロマン派のピアノ音楽① ショパン「エチュード」
2週	盛期ロマン派のピアノ音楽② リスト「超絶技巧練習曲」
3週	盛期ロマン派のピアノ音楽③ リストのピアノ創作
4週	盛期ロマン派のピアノ音楽④ 19世紀の変奏曲
5週	印象主義のピアノ音楽① ドビュッシー「版画」、「映像」
6週	印象主義のピアノ音楽② ドビュッシー「前奏曲」
7週	印象主義のピアノ音楽③ ラヴェルとジャズ
8週	スクリャービン
9週	ラフマニノフ①
10週	ラフマニノフ②
11週	プロコフィエフ①
12週	プロコフィエフ②
13週	バルトーク
14週	現代曲①
15週	現代曲②

成績評価方法・基準

レポート1：50%、レポート2：50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

xiz2p7a

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ピアノコースの試験曲については、できる限り授業内で取り上げます。必要に応じて、授業で取り上げてほしい作品をリクエストすることもあります。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	オペラ史A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3013

授業概要

前期はバロック時代から、古典派、初期イタリア・ロマン派オペラ、ヴェルディまでを取り上げて、オペラの歴史を概観しながら、登場人物の性格付け、舞台や台詞の構造と音楽形式との関連等を理解する。

到達目標

① 個々の作品における役柄の特徴や、歌詞内容・演技と音楽との関連が理解でき、登場人物の性格付けを自分なりに掘り下げられるようになる。
② 宮廷オペラ、オペラ・セリア、オペラ・ブッファ、ジングシュピール等、各ジャンルの様式的特徴が理解され、歴史的・社会的背景から説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週　モーツァルト「フィガロの結婚」①
2週　モーツァルト「フィガロの結婚」②
3週　モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」①
4週　モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」②
5週　モーツァルト「魔笛」
6週　ミュージカル「オペラ座の怪人」
7週　19世紀イタリア・オペラ①　ロッシーニ
8週　19世紀イタリア・オペラ②　ベルカント・オペラ
9週　19世紀イタリア・オペラ③　ベルカント・オペラ
10週　ヴェルディ①　「ラ・トラヴィアータ」
11週　ヴェルディ②　「リゴレット」
12週　ヴェルディ③　「アイーダ」
13週　ヴェルディ④　「オテッロ」
14週　ヴェリズモ・オペラ
15週　ミュージカル「レ・ミゼラブル」

成績評価方法・基準

レポート1：50%、レポート2：50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

foveji3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業範囲で関わりのある作品があれば、事前に申し出てください。授業内で取り上げることもあります。オペラの内容や演出の意図などについて、出席フォームで意見を出してもらい、クラスルームで共有しコメントしながら学びを深めます。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	オペラ史B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3014

授業概要	19世紀ロシア、フランスのオペラ、ヴァーグナー、プッチーニ等の作品及びオペラと関連の深いミュージカル作品を取り上げて、オペラの歴史を概観しながら、登場人物の性格付け、舞台や台詞の構造と音楽形式との関連等を理解する。
到達目標	① 個々の作品における役柄の特徴や、歌詞内容・演技と音楽との関連が理解でき、登場人物の性格付け を自分なりに掘り下げられるようになる。 ② ロマン主義の影響やヴァーグナーの楽劇理論、ヴェリズモ等、新しいオペラ創作の問題が理解され、作品解釈をより深く掘り下げられるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性） 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
授業計画	1週　19世紀フランス・オペラとビゼー「カルメン」 2週　オッフェンバックのオペレッタ 3週　19世紀ドイツ・ロマン主義オペラとヴァーグナー 4週　ヨハン・シュトラウスのオペレッタ 5週　19世紀ロシア・オペラ① 6週　19世紀ロシア・オペラ② 7週　プッチーニ①「ラ・ボエーム」 8週　ラーソン「レント」 9週　プッチーニ②「トスカ」 10週　プッチーニ③「蝶々夫人」 11週　ロイドウェバー「ミス・サイゴン」 12週　プッチーニ④「トゥーランドット」 13週　ガーシュウィン「ポーギーとベス」 14週　ミュージカル「」屋根の上のヴァイオリン弾き 15週　ミュージカル「ウエストサイド物語」
成績評価方法・基準	レポート1：50%、レポート2：50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	cll7w5s
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業範囲で関わりのある作品があれば、事前に申し出てください。授業が1回にまとまらない場合、2回分に分けて同時配信することがあります。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	管弦楽史A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3015

授業概要	バロック時代の協奏曲、古典派・ロマン派の交響曲や協奏曲をとり上げながら、西洋の管弦楽の歴史を概観し、各時代・ジャンル固有の音楽様式や形式、歴史的楽器や演奏習慣等を学びます。
到達目標	①　管弦楽曲の歴史的な様式の変遷が理解され、各時代に相応しい作品解釈ができるようになる。 ②　基本的な楽曲形式とオーケストレーションとの関連が理解され、管弦楽曲における楽器の音色の機能を、より適確に把握できるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性） 3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
授業計画	1週　モーツァルトの協奏曲 2週　19世紀の交響曲①　メンデルスゾーン 3週　19世紀の交響曲②　シューマン 4週　19世紀の交響曲③　ブラームス① 5週　19世紀の交響曲④　ブラームス② 6週　19世紀の交響曲⑤　ブルックナー 7週　19世紀の管弦楽　ロシア① 8週　19世紀の管弦楽　ロシア② 9週　19世紀の管弦楽　ロシア③ 10週　世紀末の管弦楽　R・シュトラウス① 11週　世紀末の管弦楽　R.シュトラウス② 12週　世紀末の管弦楽　マーラー① 13週　世紀末の管弦楽　マーラー② 14週　世紀末の管弦楽　ロシア④ 15週　世紀末の管弦楽　シベリウス
成績評価方法・基準	レポート1：50%、レポート2：50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	ltvfwf6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	吹奏楽やオーケストラの定期演奏会で演奏する作品があれば授業内でも取り上げます。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	管弦楽史B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	千葉　潤	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3016

授業概要

印象主義から、20世紀前半までの作品を取り上げて、西洋の管弦楽の歴史を概観し、
各時代・ジャンル固有の音楽様式や形式、時代思潮との関連を理解する。

到達目標

① 管弦楽の歴史的な様式の変遷が理解され、各時代に相応しい作品解釈ができるようになる。
② 基本的な楽曲形式とオーケストレーションとの関連が理解され、管弦楽曲における楽器の音色の機能 を、より適確に把握できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週　20世紀の管弦楽① ドビュッシー
2週　20世紀の管弦楽② ラヴェル①
3週　20世紀の管弦楽② ラヴェル②
4週　20世紀の管弦楽③ ストラヴィンスキー①
5週　20世紀の管弦楽④ ストラヴィンスキー②
6週　20世紀の管弦楽⑤ 新古典主義
7週　20世紀の管弦楽⑥ プロコフィエフ
8週　20世紀の管弦楽⑦ ショスタコーヴィチ
9週　20世紀の管弦楽⑧ バルトーク
10週　20世紀の管弦楽⑨ アメリカ1
11週　20世紀の管弦楽⑩ アメリカ2
12週　現代の管弦楽
13週　日本の管弦楽
14週　クラシック音楽としての吹奏楽
15週　20世紀の室内楽

成績評価方法・基準

授業内試験80%、レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6rgy5ty

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

定期演奏会で取り上げる作品があれば授業内でも解説します。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	和楽器	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	集中	講義形態	講義
担当教員	花季　汀月	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2411

授業概要	小・中・高校とも以前にも増して日本音楽を学ぶ機会が多くなっている。特に教職をめざす者にとって日本の音楽の知識は必須であり、福祉の分野ではコミュニケーションツールとしての活用が大いに期待される。特に中学校・高等学校において和楽器の導入が必修になっている中、三味線をはじめとする和楽器の演奏を体験することにより日本音楽の理解を深め、次世代への継承する知識の一端を習得できる内容とする。また、三味線を中心に和楽器それぞれの歴史、特長、構造、演奏法などについても解説する。
到達目標	①　日本の伝統音楽で活用される三味線を、楽譜を用いて演奏する。 ②　さまざまな和楽器における特徴や演奏方法を知り、他者へ伝えることができる。 ②　西洋音楽とは全く異なる日本の音を感じることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス、和楽器全般の歴史、種類、特徴 2週　三味線について 3週　弾くことへの挑戦(2名に対して1提づつ) 4週　楽譜の読み方、三味線の扱い方、楽しく弾く 5週　初めての三味線は童謡3曲 6週　アンサンブル(合奏)曲に挑戦　荒城の月、虫の声など 7週　弾いてみての感想、洋楽器との違いなど 8週　和楽器の可能性、将来性など
成績評価方法・基準	平常点(レポート課題、授業姿勢など)60%、授業内実技発表20%、最終課題提出20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	x6s52ld
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏者として実務経験のある教員が実践的授業を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	知識をただ習得するだけでなく、自分の言葉として他者に伝えられるよう自己研鑽に努めること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	貸三味線、バチなどは、ていねいに扱うこと。

授業科目	日本の伝統歌唱	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	集中・隔週	講義形態	講義
担当教員	花季　汀月	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2412

授業概要

初等・中等教育において日本音楽を学ぶ機会が広がる中、特に教職をめざす者においてはその知識の習得が求められる。日常生活では中々触れる機会の少ない伝統音楽について広く理解するために、もっとも身近な歌唱を通して、歴史や種類、特徴、現代における位置づけ、日本語の情緒などについて学ぶ。

到達目標

① 日本の伝統音楽の概要を知ることができる。
② 日本の伝統音楽について時代背景をふまえて理解することができる。
③ 明治維新以前に作られた歌曲の歌唱に取り組み、その音楽性や歌唱方法における西洋音楽との違いを感じられる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス　授業内容・目的・評価法など、課題曲(3曲)の紹介と実践
2週　日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史(古代)
3週　日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史(中世)
4週　日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史(近世)
5週　日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史(江戸～近代)
6週　日本の伝統的な歌唱方法について
7週　時代背景から考える日本歌曲について
8週　振り返りとこれからの邦楽の可能性について

成績評価方法・基準

平常点(レポート課題、授業姿勢など)70%、最終課題の提出30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

3p3xuo4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

日本歌唱の歴史や現代に息づく姿を知り、他者に説明できるようにすること。課題としてあげられた伝統歌曲が歌えるよう自己研鑽に努めること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

原則対面で実施いしますが、仮にオンラインの場合、課題の提出をもって出席とし、回答内容で理解度を把握します。

授業科目	指揮法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	陣内　直	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2501

授業概要	基本的な指揮の動き、約束事を知る。その上でその約束事が、ジャンルと様式、時代によって、どのように変化するか知る。曲を知り楽譜を理解することにより、指揮のあり方を導き出すための訓練を積む。
到達目標	全くの初心者が指揮を勉強するのに必要な語句や方法を学びその上で基本的な指揮の動き、約束事を知る。さらにジャンルや様式によってどのように腕で音楽が表現できるか、楽譜から指揮の動きを導き出すための勉強の仕方や方法を身に付ける。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス 2週　2拍子、3拍子の振り方① 3週　2拍子、3拍子の振り方② 4週　加えて4拍子の振り方、右手左手の使い分け、合図の出し方①レポートの提出 5週　加えて5拍子の振り方、右手左手の使い分け、合図の出し方②レポートのフィードバック 6週　5拍子と6拍子の基本、表情(強弱)の出し方① 7週　5拍子と6拍子の基本、表情(強弱)の出し方② 8週　6拍子の実際の歌わせ方、6拍子での合図① 9週　6拍子の実際の歌わせ方、6拍子での合図②、レポート第2回提出 10週　拍子が変化する曲を習得する①、レポートのフィードバック 11週　拍子が変化する曲を習得する② 12週　テンポが変化する曲について学ぶ① 13週　テンポが変化する曲について学ぶ②レポート第3回提出 14週　伴奏者がいる曲の指揮の振り方①レポートのフィードバック 15週　伴奏者がいる曲の指揮の振り方②、まとめの試験(授業内)
成績評価方法・基準	授業内での指揮・実演の発表40%、レポート課題30%、筆記試験20%、平常点10%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	xtskfo7
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業で取り上げる楽曲についての十分な予習・復習を必要とします。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	教室で生徒に音楽を教えるために、必要な要素・科目です。必要性を十分に理解し、授業には真剣に参加してください。指揮の経験の有無は問いませんが、学ぶ姿勢(授業態度、歌唱の参加)と必要な準備をしてきたかどうかを、重要視します。授業で実施したレポートのフィードバックを行います。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡してください。

授業科目	合唱指導法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	陣内　直	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2511

授業概要

合唱団という集団を指導するために必要な準備について学ぶ。実際に合唱団の前に立ち、決められた時間内で課題をこなす体験を通じて、的確なコミュニケーションの方法とは何かを議論する。

到達目標

指揮者としてのみならず、指導者としても、合唱団のために曲を探し、楽譜と資料を用意し、音取りから音楽づくり、さらに最終的な演奏まで、ひととおりの手順と方法を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　音取りについて、手順と準備①
3週　音取りについて、手順と準備②
4週　音取りについて、手順と準備③、第1回レポート提出
5週　言葉の勉強の仕方①、レポートのフィードバック
6週　言葉の勉強の仕方②
7週　言葉の勉強の仕方③
8週　様式の勉強①　ルネサンス音楽、第2回レポート提出
9週　様式の勉強②　ルネサンス音楽、レポートのフィードバック
10週　様式の勉強③　ロマン派の音楽
11週　様式の勉強④　ロマン派の音楽
12週　様式の勉強⑤　現代音楽
13週　様式の勉強⑥　現代音楽、第3回レポートの提出
14週　日本の合唱曲、レポートのフィードバック
15週　まとめ、筆記試験(授業内)

成績評価方法・基準

授業内での指導の発表40%、レポート課題30%、筆記試験20%、平常点10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

mslgdvj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回の授業内容に対する十分な準備が必要です。授業で異なる課題が提案され、それに対して自分なりの考えを「指導案」にまとめることが要求されます。ただし、教わったやり方をマニュアルとして鵜呑みにするのではなく、自分ならどうやって指導できるかを手探りし編み出すために、自分なりのやり方を見つけ、指導案にまとめるために、十分な時間をとってください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席する場合は、必ず担当教員に連絡して下さい。「指揮法」で使った配付資料を使用しますので、「指揮法」を履修しなかった学生は、授業が始まる前に資料を取りに来てください。授業内でレポートのフィードバックを行います。

授業科目	コンサートプロデュース論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期・集中	講義形態	講義
担当教員	大石　泰、鎌倉　亮太、小山　隼平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MU-MS 3701

授業概要

多様化した現代社会においては、あらゆる分野でプロデューサーの役割が重要になってきている。この授業では、コンサートのプロデュースを例にとり、プロデューサーの役割を学び、実際にコンサートを制作する体験を通じて、社会に出てから役に立つプロデュース能力を身につけてもらう。授業はプロデュースについての理解を深める講義と、学生自らが企画から公演までを手掛ける実習の要素とからなる。なお「コンサート・プロデュース」は体系的に確立された学問ではなく、授業は私がこれまでにコンサート制作の現場で培ってきた知見に基づいて行われる。

到達目標

学生たちが自らの手でコンサートを企画・制作し、公演まで行うことによって、コンサート・プロデュース能力を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5　統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	コンサート・プロデュースは自己表現	課題：自己紹介レポート（事前提出）
2週	履修者面談	課題：コンサートの企画案を考える
3週	企画アイデアのプレゼンテーション	
4週	コンサート・プロデュースの実際	課題：企画書の作成
5週	コンサート企画の検討	
6週	コンサート企画の決定	課題：台本の作成
7週	台本はすべての土台	
8週	役割分担の決定と公演計画の策定	
9週	台本の完成	
10週	コンサートは生き物～正解は一つではない	
11週	舞台仕込みと準備	
12週	公演リハーサル	
13週	公演リハーサル（つづき）	
14週	公演準備とゲネプロ	
15週	公演本番	レポート：公演の振り返り

成績評価方法・基準

最終公演の成果 30%、公演への参加姿勢 10%、レポート・課題などの提出物 20%、出欠を含む授業に取り組む態度 40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

agpinvg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

出校が3週間に1回のため、毎回の授業の終わりに次の授業までに取り組む課題、レポートなどを課す。その内容は「授業計画」欄に記入済。

2～3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

興味関心を自分で見つけて、積極的に授業に取り組んでいくこと。また予習・復習をしっかりやること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

授業科目	音楽ビジネス論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	小山 隼平、鎌倉 亮太、塚原 義弘、黒田 朋子、 今野 くる美、巽 真紀子、中田 朱美、藤原 浩、 福田 恭子、林 睦、松井 脩、小澤 貴広、阿部 紫野	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2622

授業概要

音楽分野における様々な業種について、理解を深める授業である。様々な音楽業界で実際に活躍されている方を、オムニバス形式で招聘する。自身のビジネス分野について紹介してもらいながら、音楽家のセルフマネジメントの意義等について学ぶ。
また、その中から特に興味を持った1つの業種を選び、その職業について自身で更に深く調べ、その成果を発表する。

到達目標

①音楽分野において、様々な業種があることを知り、職種の多様性について理解を深めることができる。
②興味を持った分野について、さらに自ら研鑽を積み、就職を見据えた学びにつなげることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	ガイダンス(対面:小山・鎌倉)
2週	アントレプレナー(対面:今野くる美)
3週	ワークショップ:Webページ作成支援(オンライン:中田朱美)
4週	音楽ビジネスの導入:アウトリーチ(対面:塚原義弘)
5週	職種理解:放送業界における音楽の仕事(対面:藤原浩)
6週	職種理解:コンサートホールの仕事(オンライン:林睦)
7週	職種理解:楽器店の仕事(対面:阿部紫野)
8週	職種理解:オーケストラ事務の仕事(対面:松井脩)
9週	職種理解:音楽教室の仕事(オンライン:巽真紀子)
10週	職種理解:アーティストのマネージャーの仕事(オンライン:福田恭子)
11週	職種理解:音楽イベントプロデュースの仕事(オンライン:小澤貴広)
12週	職種理解:音楽スタジオとポピュラー音楽制作の仕事(対面:黒田朋子)
13週	研究テーマまとめ指導(対面:小山・鎌倉)
14週	研究テーマまとめ指導(対面:小山・鎌倉)
15週	発表、振り返り(対面:小山・鎌倉)

成績評価方法・基準

レポート・課題などの提出物 20%、出欠を含む授業に取り組む態度 40%、最終発表40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bcakwsd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義内容は各分野の一部を紹介するだけなので、特に興味ある内容・分野については、自発的に調べ、積極的に業種理解に努めること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際の現場で活躍されている方々を講師にお招きするため、道外の講師も多数いらっしゃる。そのため、オンラインでの開催の回と、対面での開催の回がある。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技教材研究Ⅰ（ピアノ）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	後山　美菜子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2601

授業概要

幼児から小学校低学年を対象とした導入期、ごく初期のためのピアノ実技教材の研究。
ピアノ実技導入の補助手段としてソルフェージュ、リトミックにも触れる。

到達目標

① 導入期の指導に必要な音楽の基礎知識を習得できる。
② 指導に必要な初見視奏の能力を習得できる。
③ ピアノ実技導入教材を幅広く知ることによって、ピアノを学習する生徒のタイプや始める年齢を考慮した適切な教材選びができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	ソルフェージュ導入
3週	特に小さな子（3才児以下）への導入
4週	ロシアの教材
5週	ハンガリーの教材
6週	アメリカの教材① トンプソン　ほか
7週	アメリカの教材② ラーニング・トゥ・プレイほか
8週	アメリカの教材③ バスティンほか
9週	日本の教材① うたとピアノの絵本ほか
10週	日本の教材② ピアノランドほか
11週	日本の教材③ オルガンピアノの本ほか
12週	ドイツの教材
13週	フランスの教材
14週	教材の選び方と教具試作について
15週	導入教材全般のまとめと整理

成績評価方法・基準

視奏能力30%、指導者としての興味拡大と知識の学修50%、指導者としてのコミュニケーション能力20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

nvcwfof

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に配付した資料（教材コピー）をよく読み、練習しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

開講後、ゲスト講師講座の周知を行うので確認のこと。
配布資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

授業科目	実技教材研究Ⅱ（ピアノ）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	後山　美菜子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2602

授業概要

ピアノ導入教則本終了程度のレッスン使用曲（バロック、古典派、ロマン派、近現代）を選び、テクニック・楽曲解釈など様々な角度から指導内容を検討する。補助手段として広い意味でのソルフェージュ活用への意識を高める。

到達目標

① 初期のピアノ指導に必要な音楽の基礎知識を活用できる。
② 指導に必要な初見視奏の能力を展開できる。
③ ピアノ実技導入教材を幅広く知ることによって、ピアノを学習する生徒のタイプや年齢を考慮した適切な教材選びができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	様々な角度の読譜展開（ソルフェージュ）について
2週	バロックの作品①　教則本終了程度
3週	オーディション課題曲研究①
4週	古典派の作品①　教則本終了程度
5週	オーディション課題曲研究②
6週	ロマン派の作品①　教則本終了程度
7週	近・現代の作品①　教則本終了程度
8週	校外見学学習　（オーディション聴講・レポート）
9週	テクニック教材
10週	バロックの作品②様々な舞曲等
11週	古典派の作品②ソナチネへのつなぎ
12週	ロマン派の作品②
13週	近・現代の作品②
14週	教則本終了程度の連弾曲
15週	まとめとレポートのフィードバック

成績評価方法・基準

視奏能力30%、指導者としての興味拡大と知識の学修40%、
指導者としてのコミュニケーション能力15%、レポート15%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bcxf2wv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に配付した資料（教材コピー）をよく読み、練習しておくこと。校外見学学習終了後、12月にレポートを提出すること。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

校外見学学習の日程は変更の可能性があるので確認のこと。配布資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

授業科目	実技教材研究Ⅲ(ピアノ)	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	後山　美菜子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2602

授業概要

実技教材研究Ⅰ Ⅱに続き、導入終了後の小学生程度を対象にしたピアノ実技教材を知る。時代様式を考慮した与え方を念頭に曲を取り上げ、学生同士でのロールプレイを通してレッスン実習へのステップとする。

到達目標

様式別の指導に必要な音楽的知識を身につける。
各時代の音楽文学を広く知ることによって、学習程度に応じた教材選び(出版社選びも含む)ができる。
学習者に模範を示すための視奏の能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	バロック作品①バッハ:インヴェンション
3週	バロック作品②舞曲について
4週	バロック作品③仏バロック・伊バロック
5週	古典派の作品①ソナチネアルバムより、クレメンティー等
6週	古典派の作品②ハイドン等、前古典派について
7週	古典派の作品③ベートーヴェン等
8週	テクニック・メカニックの教材について
9週	ロマン派の作品①ウェーバー・シューベルト等
10週	ロマン派の作品②シューマン・ショパン等
11週	ロマン派の作品③チャイコフスキー等
12週	近現代の作品①フランス近代小曲
13週	近現代の作品②バルトーク・カバレフスキー等
14週	近現代の作品③ギロック・邦人作品・現代奏法等
15週	最新情報とまとめ(リトミック・各国指導法等)

成績評価方法・基準

視奏能力40%、指導者としての興味拡大と知識の学修40%、口頭説明能力20%

教科書ソフト等

なし。毎回、教材コピーを配付するが、手持ちの楽譜の持参も促す。

参考書等

なし。様々な版の楽譜・ピアノ教材や指導に関する書籍を授業内で紹介する。

クラスコード

77w55gz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回配付する教材(曲)を授業前に読譜してくること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

積極的な意見交換を期待する。推奨する特講については開講後周知する。

授業科目	実技教材研究Ⅳ(ピアノ)	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	後山　美菜子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3604

授業概要

実技教材研究Ⅰ Ⅱ Ⅲに続き、小学生高学年程度を対象にしたピアノ実技教材を知る。
時代様式を考慮した与え方を念頭に曲を取り上げ、学生同士でのロールプレイを通してレッスン実習へのステップとする。

到達目標

様式別の指導に必要な音楽的知識を身につける。
各時代の音楽文学を広く知ることによって、学習程度に応じた教材選び(出版社選びも含む)ができる。
学習者に模範を示すための視奏の能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	バロック作品①(高学年対象:バッハ:シンフォニア)
2週	バロック作品②(テレマン等)
3週	バロック作品③(スカルラッティのソナタ)
4週	古典派の作品①(平易なソナタ等)
5週	古典派の作品②(オーディション課題曲等)
6週	古典派の作品③(オーディション課題曲等)
7週	テクニック・ペダルについて
8週	ロマン派の作品①(メンデルスゾーン:無言歌等)
9週	ロマン派の作品②(ショパン:ワルツ、課題曲等)
10週	ロマン派の作品③(ブラームス・グリーグ等)
11週	校外見学学習(オーディション聴講)
12週	近現代の作品①(ドビュッシー小品等)
13週	近現代の作品②(ウェーベルン小品等)
14週	レポート2種のフィードバック
15週	大人のビギナーの教材紹介とまとめ

成績評価方法・基準

視奏能力30%、指導者としての興味拡大と知識の学修30%、
レポート2種(①オーディション聴講・②今までレッスンを受けた曲の分類一覧表作成と考察)40%

教科書ソフト等

なし。毎回、教材コピーを配付するが、手持ちの楽譜の持参も促す。

参考書等

なし。様々な版の楽譜・ピアノ教材や指導に関する書籍を授業内で紹介する。

クラスコード

ubrmc3l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回配付する教材(曲)を授業前に読譜してくること。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

積極的な意見交換を期待する。 12月にレポート2種提出。
校外学習の日程は変更の可能性があるので確認のこと。

授業科目	実技教材研究Ⅰ（吹奏楽）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	河野　泰幸、内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2611

授業概要

吹奏楽で演奏される楽曲は、古典音楽から現代音楽、さらにジャズやポップスまで加わり多様な傾向を見せている。
幅広いジャンルの音楽が指導できるよう、より深く作品を理解する技術を身につける。

到達目標

導入期の指導に必要な音楽基礎知識を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅰを研究①　譜読み
3週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅰを研究②　分析
4週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅱを研究①　譜読み
5週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅱを研究②　分析
6週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅲを研究①　譜読み
7週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅲを研究②　分析
8週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅳを研究①　譜読み
9週　吹奏楽コンクール課題曲Ⅳを研究②　分析
10週　吹奏楽の名曲を研究する　ホルスト①
11週　吹奏楽の名曲を研究する　ホルスト②
12週　吹奏楽の名曲を研究する　ホルスト③
13週　吹奏楽の名曲を研究する　ヴァンデルロースト①
14週　吹奏楽の名曲を研究する　ヴァンデルロースト②
15週　吹奏楽の名曲を研究する　ヴァンデルロースト③

成績評価方法・基準

作品の理解度60%、受講状況（積極的な質問や発言）および平常点40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pf3pn4b

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

クラスルームに提示する楽譜・資料を見れる環境が必要。

授業科目	実技教材研究Ⅱ（吹奏楽）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	河野　泰幸、内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2612

授業概要

吹奏楽で演奏される楽曲は、古典音楽から現代音楽、さらにジャズやポップスまで加わり多様な傾向を見せている。
幅広いジャンルの音楽が指導できるよう、より深く作品を理解する技術を身につける。

到達目標

導入期の指導に必要な音楽基礎知識を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　吹奏楽の名曲を研究する　A.リード①　読譜
2週　吹奏楽の名曲を研究する　A.リード②　読譜と分析
3週　吹奏楽の名曲を研究する　A.リード③　分析
4週　吹奏楽の名曲を研究する　バーンズ①　読譜
5週　吹奏楽の名曲を研究する　バーンズ②　読譜と分析
6週　吹奏楽の名曲を研究する　バーンズ③　分析
7週　内藤淳一先生作品を読み解く①　ブライアンの休日など
8週　内藤淳一先生作品を読み解く②
9週　内藤淳一先生作品を読み解く③
10週　吹奏楽のポップス作品を研究する①　宝島、オーメンズなどの名曲を5週にわたり研究する
11週　吹奏楽のポップス作品を研究する②
12週　吹奏楽のポップス作品を研究する③
13週　吹奏楽のポップス作品を研究する④
14週　吹奏楽のポップス作品を研究する⑤
15週　まとめ

成績評価方法・基準

作品の理解度60%、受講状況（積極的な質問や発言）および平常点40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

dbfngfn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

クラスルームに提示する楽譜・資料を見れる環境が必要。

授業科目	実技教材研究Ⅲ（吹奏楽）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	河野　泰幸、内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3613

授業概要

少子化に伴い当たり前の編成で吹奏楽を行うことが難しなり、自分たちのバンドに合った編曲が必要になってきます。吹奏楽の楽曲を研究し、「より少ない編成を想定した管打楽器のアンサンブル」に対応できるよう様々な編成で編曲してみます。

到達目標

① 指導に必要な音楽的知識を習得できる。
② 学習者に模範を示すための能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する①　楽曲選定
3週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する②　楽曲分析
4週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する③　構想
5週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する④　編曲実践
6週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑤　編曲実践
7週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑥　仕上げ
8週　ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑦　編曲した作品を演奏する
9週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する①　楽曲選定
10週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する②　楽曲分析
11週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する③　楽曲分析
12週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑤　構想
13週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑥　編曲実践
14週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑦　編曲実践
15週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑨　仕上げ

成績評価方法・基準

課題提出60%、受講状況および平常点40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

tqkvqd6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに、指示された事項を準備すること。授業後は課題仕上げる事。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

楽譜作成アプリを使用する。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技教材研究Ⅳ（吹奏楽）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	河野　泰幸、内藤　淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3614

授業概要

少子化に伴い当たり前の編成で吹奏楽を行うことが難しなり、自分たちのバンドに合った編曲が必要になってきます。吹奏楽の楽曲を研究し、「より少ない編成を想定した管打楽器のアンサンブル」から小編成、大編成に対応できるよう様々な編成での編曲をしてみます。

到達目標

① 指導に必要な音楽的知識を習得できる。
② 学習者に模範を示すための能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑩ 前期の振り返りと編曲した曲を演奏する
2週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する① 楽曲選定
3週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する② 楽曲分析
4週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する③ 楽曲分析
5週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する④ 構想
6週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑤ 編曲実践コンデンススコア作成
7週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑥ 編曲実践コンデンススコア作成
8週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑦ 編曲実践コンデンススコア作成仕上げ
9週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑧ 編曲実践フルスコア作成
10週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑨ 編曲実践フルスコア作成
11週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑩ 編曲実践フルスコア作成
12週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑪ 編曲実践フルスコア作成
13週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑫ 編曲実践フルスコア作成仕上げ
14週　室内楽作品やピアノ作品を大編成バンド用に編曲する⑬ 編曲実践フルスコア作成仕上げ
15週　演奏発表

成績評価方法・基準

課題提出60%、受講状況および平常点40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6qotmis

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに、指示された事項を準備すること。授業後は課題仕上げる事。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

楽譜作成アプリを使用する

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技教材研究Ⅰ（合唱）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	三山　博司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2621

授業概要

西洋音楽の歴史の中で合唱音楽が果たした役割を理解する。13世紀から現代に至るまで幅広く作品を知ること理解することを目的に、実際に曲を演奏してみることでその作品の良さを深く感じる。授業の柱として、合唱音楽の歴史に対する俯瞰的な視野を持てるための議論をもちたい。その上で、戦後の日本でどのような合唱作品が生まれたか、また現在演奏されているか、実際の演奏を通じて体験をもつ。また、指揮と指導の前段階として、ソルフェージュとスコアリーディングにも眼を向け、授業の中で読譜や楽曲分析の訓練も併せて行う。

到達目標

① 合唱音楽の歴史的知識を整理して説明できる。
② 時代ごとの演奏様式に従って各々の楽曲を指導できる。
③ 新曲を自分で分析し、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	ルネサンス期の音楽①　概略と全体像
3週	ルネサンス期の音楽②　初期のポリフォニー①
4週	ルネサンス期の音楽③　初期のポリフォニー②
5週	ルネサンス期の音楽④　初期のポリフォニー③
6週	ルネサンス期の音楽⑤　最盛期の音楽①
7週	ルネサンス期の音楽⑥　最盛期の音楽②
8週	ルネサンス期の音楽⑦　最盛期の音楽③
9週	ルネサンス期の音楽⑧　国別の音楽事情①
10週	ルネサンス期の音楽⑨　国別の音楽事情②
11週	レポート作成とまとめ（1）
12週	ロマン派の音楽①　古典派とロマン派
13週	ロマン派の音楽②　後期ロマン派
14週	ロマン派の音楽③　ドイツ以外のロマン派
15週	レポート作成とまとめ（2）

成績評価方法・基準

毎回の授業での課題及びレポート70%、学修状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6ejja6w

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業ではヨーロッパのレパートリーを増やすために様式別に曲を学べる機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施したレポートについて授業内でフィードバックを行う。

授業科目	実技教材研究Ⅱ（合唱）	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	三山　博司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2622

授業概要

西洋音楽の歴史の中で合唱音楽が果たした役割を理解する。13世紀から現代に至るまで幅広く作品を知ること理解することを目的に、実際に曲を演奏してみることでその作品の良さを深く感じる。授業の柱として、合唱音楽の歴史に対する俯瞰的な視野を持てるための議論をもちたい。その上で、戦後の日本でどのような合唱作品が生まれたか、また現在演奏されているか、実際の演奏を通じて体験をもつ。また、指揮と指導の前段階として、ソルフェージュとスコアリーディングにも眼を向け、授業の中で読譜や楽曲分析の訓練も併せて行う。

到達目標

① 合唱音楽の歴史的知識を整理して説明できる。
② 時代ごとの演奏様式に従って各々の楽曲を指導できる。
③ 新曲を自分で分析し、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	バロック音楽①　バロックの始まり①
3週	バロック音楽②　バロックの始まり②
4週	バロック音楽③　中期・後期のバロック音楽①
5週	バロック音楽④　中期・後期のバロック音楽②
6週	バロック音楽⑤　国別の音楽事情①
7週	バロック音楽⑥　国別の音楽事情②
8週	バロック音楽⑦　国別の音楽事情③
9週	レポート作成とまとめ（1）
10週	20世紀以降の音楽①　近現代①
11週	20世紀以降の音楽②　近現代②
12週	20世紀以降の音楽③　日本の合唱①
13週	20世紀以降の音楽④　日本の合唱②
14週	20世紀以降の音楽⑤　日本の合唱③
15週	レポート作成とまとめ

成績評価方法・基準

毎回の授業での課題及びレポート70%、学修状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

lcmdyda

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業ではヨーロッパのレパートリーを増やすために様式別に曲を学べる機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施したレポートについて授業内でフィードバックを行う。

授業科目	実技教材研究Ⅲ（合唱）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3623

授業概要

本授業では、主に邦人の合唱作曲家に焦点を当てる。日本の合唱の歴史において、戦後から現代に至るまで多くの作曲家が合唱作品を残した。その作曲家について理解することはもちろん、各々の作品を幅広く理解することを目的とする。実際に代表作を調べ、演奏してみることでその作曲家自身や作品について深く理解する。そのために、本授業では事前課題を基に、実際に録音を聴いたり演奏したりする体験をもつ。また、スコアリーディングにも目を向け、読譜や楽曲分析の訓練も併せて行う。

到達目標

① 国内における合唱音楽の歴史的知識を整理して説明できる。
② 主だった邦人作曲家について、その人物についてや作風について理解できる。
③ 新曲を自分で分析し、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	日本における合唱の役割、位置付けの理解
3週	邦人作曲家についての理解（NHK全国学校音楽コンクール、全日本合唱コンクール等を参考に）
4週	作曲家①についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
5週	作曲家②についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
6週	作曲家③についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
7週	作曲家④についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
8週	作曲家⑤についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
9週	作曲家⑥についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
10週	作曲家⑦についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
11週	作曲家⑧についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
12週	作曲家⑨についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
13週	作曲家⑩についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
14週	作曲家⑪についての研究。人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
15週	講評とまとめ

成績評価方法・基準

授業内での課題80%、学修状況20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

on5yw2i

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業では邦人作曲家のレパートリーを増やすための機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施した課題について授業内でフィードバックを行う。

授業科目	実技教材研究Ⅳ（合唱）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3624

授業概要

国内で行われている合唱コンクールを参考に、課題曲や自由曲を調べながら、実際の学校現場や一般合唱団で扱われている合唱曲について理解を深める。課題曲・自由曲共に、それぞれの曲について音楽的観点から分析を行い、また過去の実際の出場した学校の選曲状況を調べながら、自分が指導者になったと仮定して、選曲するポイントについて考察する。

到達目標

① 合唱コンクールについて理解し、教育現場や一般の合唱団の中での意味・位置づけについて理解できる。
② 課題曲や自由曲について考察し、自分自身が指導者として選曲する際のポイントを理解できる。
③ 選曲した曲について、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	2021年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
3週	2019年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
4週	2018年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
5週	2017年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
6週	2016年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
7週	2015年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考5
8週	2014年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
9週	2013年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
10週	2012年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
11週	2011年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
12週	2010年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
13週	2009年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
14週	2008年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
15週	講評とまとめ

成績評価方法・基準

授業内での課題80%、学修状況20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bln2vrb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業では邦人作曲家のレパートリーを増やすための機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施した課題について授業内でフィードバックを行う。

授業科目	即興演奏A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、向坂　元吾	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1361

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

① コードネームを理論的に理解できる。
② コードネームに沿って即興的に音を出すことができる。
③ 適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　グループ分け、選曲
3週　グループごとにセッションをする（前半）①　コードネームの理解
4週　グループごとにセッションをする（前半）②　コードネームの表現
5週　グループごとにセッションをする（前半）③　リズムの表現
6週　グループごとにセッションをする（前半）④　スケールの理解
7週　グループごとにセッションをする（前半）⑤　スケールに沿ったメロディーの表現
8週　グループごとにセッションをする（前半）⑥　総括
9週　中間発表
10週　グループごとにセッションをする（後半）①　コードネームの表現
11週　グループごとにセッションをする（後半）②　リズムの表現
12週　グループごとにセッションをする（後半）③　スケールの理解
13週　グループごとにセッションをする（後半）④　スケールに沿ったメロディーの表現
14週　グループごとにセッションをする（後半）⑤　総括
15週　期末発表とまとめ

成績評価方法・基準

中間発表20%、期末発表20%、取り組む姿勢60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で配付します。

クラスコード

前期：kecex2m　後期：ufqqere

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	即興演奏B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、向坂　元吾	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 1362

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

① コードネームを理論的に理解できる。
② コードネームに沿って即興的に音を出すことができる。
③ 適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　グループ分け、選曲
3週　グループごとにセッションをする（前半）①　コードネームの理解
4週　グループごとにセッションをする（前半）②　コードネームの表現
5週　グループごとにセッションをする（前半）③　リズムの表現
6週　グループごとにセッションをする（前半）④　スケールの理解
7週　グループごとにセッションをする（前半）⑤　スケールに沿ったメロディーの表現
8週　グループごとにセッションをする（前半）⑥　総括
9週　中間発表
10週　グループごとにセッションをする（後半）①　コードネームの表現
11週　グループごとにセッションをする（後半）②　リズムの表現
12週　グループごとにセッションをする（後半）③　スケールの理解
13週　グループごとにセッションをする（後半）④　スケールに沿ったメロディーの表現
14週　グループごとにセッションをする（後半）⑤　総括
15週　期末発表とまとめ

成績評価方法・基準

中間発表20%、期末発表20%、取り組む姿勢60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で配付します。

クラスコード

前期：kecex2m　後期：ufqqere

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	即興演奏C	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、向坂　元吾	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2363

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

① コードネームを理論的に理解できる。
② コードネームに沿って即興的に音を出すことができる。
③ 適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　グループ分け、選曲
3週　グループごとにセッションをする（前半）①　コードネームの理解
4週　グループごとにセッションをする（前半）②　コードネームの表現
5週　グループごとにセッションをする（前半）③　リズムの表現
6週　グループごとにセッションをする（前半）④　スケールの理解
7週　グループごとにセッションをする（前半）⑤　スケールに沿ったメロディーの表現
8週　グループごとにセッションをする（前半）⑥　総括
9週　中間発表
10週　グループごとにセッションをする（後半）①　コードネームの表現
11週　グループごとにセッションをする（後半）②　リズムの表現
12週　グループごとにセッションをする（後半）③　スケールの理解
13週　グループごとにセッションをする（後半）④　スケールに沿ったメロディーの表現
14週　グループごとにセッションをする（後半）⑤　総括
15週　期末発表とまとめ

成績評価方法・基準

中間発表40%、期末発表40%、取り組む姿勢20%

教科書ソフト等

特にありません。必要に応じて、授業内で指示します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で配付します。

クラスコード

前期：kecex2m　後期：ufqqere

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	即興演奏D	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、向坂　元吾	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2364

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

① コードネームを理論的に理解できる。
② コードネームに沿って即興的に音を出すことができる。
③ 適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　グループ分け、選曲
3週　グループごとにセッションをする（前半）①　コードネームの理解
4週　グループごとにセッションをする（前半）②　コードネームの表現
5週　グループごとにセッションをする（前半）③　リズムの表現
6週　グループごとにセッションをする（前半）④　スケールの理解
7週　グループごとにセッションをする（前半）⑤　スケールに沿ったメロディーの表現
8週　グループごとにセッションをする（前半）⑥　総括
9週　中間発表
10週　グループごとにセッションをする（後半）①　コードネームの表現
11週　グループごとにセッションをする（後半）②　リズムの表現
12週　グループごとにセッションをする（後半）③　スケールの理解
13週　グループごとにセッションをする（後半）④　スケールに沿ったメロディーの表現
14週　グループごとにセッションをする（後半）⑤　総括
15週　期末発表とまとめ

成績評価方法・基準

中間発表40%、期末発表40%、取り組む姿勢20%

教科書ソフト等

特にありません。必要に応じて、授業内で指示します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で配付します。

クラスコード

前期：kecex2m　後期：ufqqere

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。
コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。

授業科目	器楽合奏Ⅲ～Ⅵ(吹奏楽・オーケストラ)	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2213、2214 MU-MS 3215、3216

授業概要

合奏(大編成)を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけると共にアンサンブルの技能を高める。演奏会実現のなかで様々な役割を担いプロの演奏家及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、授業内容、目的・計画、役割分担	16週	定期演奏会練習⑥　仕上げ
2週	簡単な楽曲を使いサウンド作り	17週	定期演奏会総練習
3週	仮)吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ	18週	定期演奏会本番
4週	仮)吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ	19週	キャンパスコンサート練習①　基礎
5週	仮)吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ	20週	キャンパスコンサート練習②　質の向上
6週	仮)吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ	21週	キャンパスコンサート練習③　仕上げ
7週	キャンパスコンサート練習①	22週	キャンパスコンサート本番①
8週	キャンパスコンサート練習②	23週	キャンパスコンサート本番②
9週	キャンパスコンサート練習③	24週	定期演奏会練習①　基礎
10週	キャンパスコンサート　本番	25週	定期演奏会練習②　質の向上
11週	定期演奏会練習①　譜読み	26週	定期演奏会練習③　質の向上
12週	定期演奏会練習②　基礎	27週	定期演奏会練習④　仕上げ
13週	定期演奏会練習③　基礎	28週	定期演奏会練習⑤　仕上げ
14週	定期演奏会練習④　質の向上	29週	定期演奏会総練習
15週	定期演奏会練習⑤　質の向上	30週	定期演奏会本番

成績評価方法・基準

演奏発表及び特別練習に参加すること50%、合奏に必要な基本的奏法がなされているかを評価する30%、
楽曲分析、演奏表現ができているかを評価する20%

教科書ソフト等

担当教員から指示を受けたライブラリアンが準備・配付しますが、コロナ禍のため、クラスルームにアップされたものを各自プリント

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qzaxhtr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに譜読みし、練習をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、コンサートに合わせ授業科目別の授業計画は変更が考えられます、その場合事前にお知らせいたします。コンサート前の別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種コンサートに絡み、授業回数が増える事があります。授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。管弦打楽コース以外でも履修を希望する場合、プレスメントテストを行う場合がある。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅲ～Ⅵ(弦楽合奏・オーケストラ)	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸、グレブ・ニキティン、 中島　杏子、岩渕　晴子、富岡　雅美	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MU-MS 2223、2224 MU-MS 3225、3226

授業概要	オーケストラ音楽の主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術とアンサンブルによる表現方法を学ぶ。また、定期演奏会などで研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。
到達目標	楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング①	16週	弦楽器パートの正しいボーイング⑥
2週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング②	17週	弦楽器パートの正しいボーイング⑦
3週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング③	18週	弦楽器パートの正しいボーイング⑧
4週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング④	19週	弦楽器パートの正しいボーイング⑨
5週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング⑤	20週	弦楽器パートの正しいボーイング⑩
6週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備①	21週	初見能力①
7週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備②	22週	初見能力②
8週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備③	23週	初見能力③
9週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備④	24週	初見能力④
10週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備⑤	25週	初見能力⑤
11週	弦楽器パートの正しいボーイング①	26週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏①
12週	弦楽器パートの正しいボーイング②	27週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏②
13週	弦楽器パートの正しいボーイング③	28週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏③
14週	弦楽器パートの正しいボーイング④	29週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏④
15週	弦楽器パートの正しいボーイング⑤	30週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏⑤

成績評価方法・基準	授業への受講状況50%、合奏技術の達成度30%、演奏に取り組む姿勢20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	hkyntvx
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業までに譜読みし、練習をしておくこと。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。数台の弦楽器については貸し出しを行うが、原則、楽器は個人持ちとする。演奏会経費が別途かかります。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。演奏会前の特別練習などで授業回数が増える場合があります。弦楽器のみの合奏の発表も予定されています。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅲ～Ⅵ （電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	斉藤　宏子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2233、2234 MU-MS 3235、3236

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

① 楽曲にあった奏法を実践することができる。
② アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、グループ編成の決定	16週	グループ全体での音作り（2曲目前半）
2週	選曲	17週	グループ全体での音作り（2曲目後半）
3週	楽器等の理解	18週	アンサンブル練習（2曲目前半）
4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	19週	アンサンブル練習（2曲目後半）
5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	20週	グループ全体での音作り（3曲目前半）
6週	楽譜作成、個々の音色づくり（1曲目）	21週	グループ全体での音作り（3曲目後半）
7週	楽譜作成、個々の音色づくり（2曲目）	22週	アンサンブル練習（3曲目前半）
8週	楽譜作成、個々の音色づくり（3曲目）	23週	アンサンブル練習（3曲目後半）
9週	楽譜作成、個々の音色づくり（4曲目）	24週	グループ全体での音作り（4曲目前半）
10週	グループ全体での音作り（1曲目前半）	25週	グループ全体での音作り（4曲目後半）
11週	グループ全体での音作り（1曲目後半）	26週	アンサンブル練習（4曲目前半）
12週	アンサンブル練習（1曲目前半）	27週	アンサンブル練習（4曲目後半）
13週	アンサンブル練習（1曲目後半）	28週	演奏会場でのサウンドプロダクション
14週	アンサンブル練習（1曲目仕上げ）	29週	G. P.
15週	前期のまとめ	30週	演奏会での発表

成績評価方法・基準

演奏技術の達成度40%、合奏における役割の理解度と表現力40%、演奏会に参加すること20%

教科書ソフト等

エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付（ヤマハ音楽振興会）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

msfaejv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブルⅢ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、黒山　映、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2313

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。
アンサンブルの練習を積んだ上で、ロマン派以降の生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
12週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

3vgsmrh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人で譜読みをし、十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ・Ⅱを履修していること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブルⅣ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2314

授業概要

2台ピアノの曲を演奏する時の音の整理・バランスの取り方などを古典派の楽曲を通して学び、大きな規模のアンサンブルに挑戦する。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同発表会
9週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
12週　自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ。

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

q2kps3p

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ・Ⅱ・Ⅲを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブルⅤ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、黒山　映、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3315

授業概要

2台ピアノの曲を演奏する時の音の整理・バランスの取り方などをロマン派以降の楽曲を通して学び、大きな規模のアンサンブルに挑戦する。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同発表会
9週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
12週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ。

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

jfkqung

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ～Ⅳを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

授業科目	ピアノアンサンブルⅥ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3316

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
12週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

fhnfqvs

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨む こと。
グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ～Ⅴを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

授業科目	合唱Ⅲ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2203

授業概要

合唱ⅠおよびⅡで習得した内容を基礎として、より高度な声のハーモニーを様々な合唱曲で実習する。
語感を大切にした合唱表現、ハーモニーの要求する音楽的抑揚などを踏まえた表現を学習する。
授業後半では定期演奏会で取り上げる作品を集中的に取り扱う。
ピアノ伴奏も重要なパートであることから受講生で積極的に担当する。

到達目標

① 正しい呼吸法と発声法の更なる習得に努め、声楽アンサンブルに活かすことができる。
② ハーモニーの要求する音楽的な抑揚を的確に捉え、演奏に反映することができる。
③ 作品のもつ様式を正しく理解し、適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	年度初めのガイダンス。取り上げる合唱曲についてはGoogle classroomに曲名を掲示。
2週	①日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
3週	②日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
4週	③日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
5週	④日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
6週	⑤日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
7週	⑥日本の合唱作品を学ぶ:混声合唱曲
8週	⑦日本の合唱作品を学ぶ:女声合唱曲および男声合唱曲
9週	⑧日本の合唱作品を学ぶ:女声合唱曲および男声合唱曲
10週	⑨日本の合唱作品を学ぶ:女声合唱曲および男声合唱曲
11週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習①
12週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習②
13週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習③
14週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習④
15週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習⑤

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%、
平常点(積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度)30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

xez2joh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行なうこと。特に譜読みを終えた楽曲については、念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加(歌唱)することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	合唱Ⅳ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2204

授業概要

「合唱Ⅲ」で習得した内容を基礎として、より高度な声のハーモニーを実習する。
ハーモニーの色彩感に加えて、言葉の抑揚やリズムを踏まえた歌唱表現を学習する。
定期演奏会で取り上げる作品に加えて、さらに日本の現代作品や諸外国の合唱作品にも挑戦し、時代や地域による演奏方法の違い、表現の違いを実習する。

到達目標

① 正しい呼吸法と発声法の更なる習得に努め、声楽アンサンブルに活かすことができる。
② より複雑なハーモニーの抑揚をくみ取り、それを表現に活かしてゆくことができる。
③ 語感を大切にした発音に努め、表情豊かに表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく①
2週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく②
3週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく③
4週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく④
5週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく⑤
6週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく①
7週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく②
8週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく③
9週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく④
10週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく⑤
11週	定期演奏会全体総練習
12週	定期演奏会本番をこれに充てる
13週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り①
14週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り②
15週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り③

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%
平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ietdhkb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行なうこと。特に譜読みを終えた楽曲については、念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	合唱Ⅴ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3205

授業概要

これまでの合唱Ⅰから Ⅳで培ってきた合唱経験をさらに深め、歌唱のテクニックを高めるとともに合唱音楽のレパートリーを増やしてゆく。また定期演奏会にむけての練習の中ではオーケストラとの共演による響きの違いを認識しさらなるテクニックを身に付ける。

到達目標

① 正しい呼吸法と発声法の更なる発展と習得に努め、声楽アンサンブルに活かすことができる。
② ハーモニーの要求する音楽的な抑揚を的確に捉え、演奏に確実に反映することができる。
③ 作品のもつ様式を正しく理解し、適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　年度初めのガイダンス。取り上げる合唱曲についてはGoogle classroomに曲名を掲示。
2週　①日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
3週　②日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
4週　③日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
5週　④日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
6週　⑤日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
7週　⑥日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
8週　⑦日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
9週　⑧日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
10週　⑨日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
11週　定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習①
12週　定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習②
13週　定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習③
14週　定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習④
15週　定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習⑤

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%
平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

参考書等

なし。授業内で、指示します。

クラスコード

mcd62i5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行なうこと。特に譜読みを終えた楽曲については、念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1～2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です　。

授業科目	合唱Ⅵ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3206

授業概要

これまでの2年間で培ってきた合唱への理解、歌唱のテクニックを十分に使えるようになること、また合唱音楽のレパートリーを増やし、楽曲についての知識、様式感、和声の分析についても、理解を深める。合唱における対位法の魅力を知り、色彩豊かな和声の表現方法を知る。定期演奏会にむけての練習の中で、無伴奏合唱とは違うオーケストラとの共演によるレパートリーの違いを認識し、テクニックを身に付ける。

到達目標

1. 楽曲による作曲技法の違いを理解し、その演奏方法を工夫することができる。
2. 楽曲に使用されている和声の仕組みを理解し、演奏に活かすことができる。
3. 様々な楽曲の地域性や時代性の違いを感じ取り、演奏表現に反映させることができる。
4. 合唱作品により多く触れることで、経験を通してそのレパートリーを豊かにすることがことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく①
2週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく②
3週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく③
4週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく④
5週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく⑤
6週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく①
7週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく②
8週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく③
9週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく④
10週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく⑤
11週	定期演奏会全体総練習
12週	定期演奏会本番をこれに充てる
13週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り①
14週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り②
15週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り③

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%

平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

クラスコード

jvb6dcc（ジェイ、ブイ、ビー、6、ディー、シー、シー）※必要な資料等は「合唱Ⅳ」のクラスルームに掲示するためクラスコードietdhkbからの招待も承認してください。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行なうこと。特に譜読みを終えた楽曲については、念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	リート研究Ⅰ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	加藤　ゆかり	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3131

授業概要	モーツァルトからR. シュトラウスに至るまでのドイツリートを取り上げ、鑑賞や演奏を通してその作風の特徴を追求する。ドイツ語の発音を正しく明瞭にし、詩の内容と曲の表現の関連性を学ぶ。作品の背景を理解し、歌唱とピアノ伴奏の両面から曲を完成させる。また、詩人と作曲者の音楽史上での位置付け等についても確認する。
到達目標	授業内で取り上げるモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブラームスまでの歌曲の中から各作曲家につき、数曲の歌曲を演奏できる(ピアノ専攻者のピアノ伴奏中心の履修も可能)。
学科のディプロマ・ポリシー	2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)
授業計画	1週　概論①　リート全般、レポート提出の指示 2週　概論②　モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン 3週　概論③　ブラームス、H. ヴォルフ、マーラー、R. シュトラウス 4週　モーツァルトの歌曲作品の研究① 5週　モーツァルトの歌曲作品の研究② 6週　モーツァルトの歌曲作品の研究③ 7週　モーツァルトの歌曲作品の研究④ 8週　ベートーヴェンの歌曲作品の研究① 9週　ベートーヴェンの歌曲作品の研究② 10週　ベートーヴェンの歌曲作品の研究③ 11週　シューベルトの歌曲作品の研究① 12週　シューベルトの歌曲作品の研究② 13週　シューベルトの歌曲作品の研究③ 14週　シューベルトの歌曲作品の研究④ 15週　シューベルトの歌曲作品の研究⑤
成績評価方法・基準	授業内での課題研究の参加状況80%、レポート課題20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	ldh6n34
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	前もって配付される歌曲の譜面から、詩の発音、意味、全体の譜読みを予習し、歌唱、伴奏共にスムーズに進められるよう、各々が充分に準備をした上で受講して下さい。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ドイツリートを勉強した経験は必ずしも必要はありません。ドイツ語の発音や内容の解釈等、繰り返し勉強する重要さを理解し、努力できることが大切です。提出したレポートは、採点後、第4週以降の講義に活用します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	リート研究Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	加藤　ゆかり	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3132

授業概要	モーツァルトからR. シュトラウスに至るまでのドイツリートを取り上げ、鑑賞や演奏を通してその作風の特徴を追求する。ドイツ語の発音を正しく明瞭にし、詩の内容と曲の表現の関連性を学ぶ。作品の背景を理解し、歌唱とピアノ伴奏の両面から曲を完成させる。また、詩人と作曲者の音楽史上での位置付け等についても確認する。
到達目標	授業内で取り上げるモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブラームスまでの歌曲の中から各作曲家につき、数曲の歌曲を演奏できる（ピアノ専攻者のピアノ伴奏中心の履修も可能）。
学科のディプロマ・ポリシー	2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
授業計画	1週　シューマンの歌曲作品の研究① 2週　シューマンの歌曲作品の研究② 3週　ドイツ語詩の朗読の試験と発音の復習① 4週　ドイツ語詩の朗読の試験と発音の復習② 5週　シューマン、ブラームスの歌曲作品の研究① 6週　シューマン、ブラームスの歌曲作品の研究② 7週　シューマン、ブラームスの歌曲作品の研究③ 8週　シューマン、ブラームスの歌曲作品の研究④ 9週　H. ヴォルフの歌曲の鑑賞と研究 10週　マーラーの歌曲の鑑賞と研究 11週　R. シュトラウスの歌曲の鑑賞と研究 12週　実技試験のための全体仕上げ① 13週　実技試験のための全体仕上げ② 14週　歌唱、あるいはピアノ伴奏による実技試験とまとめ① 15週　歌唱、あるいはピアノ伴奏による実技試験とまとめ②
成績評価方法・基準	年度末実技試験50%、ドイツ語詩朗読試験20%、授業内での課題研究の参加状況30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	z7vi3pf
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	前もって配付される歌曲の譜面から、詩の発音、意味、全体の譜読みを予習し、歌唱、伴奏共にスムーズに進められるよう、各々が充分に準備をした上で受講して下さい。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ドイツリートを勉強した経験は必ずしも必要はありません。ドイツ語の発音や内容の解釈等、繰り返し勉強する重要さを理解し、努力できることが大切です。提出したレポートは、採点後、第4週以降の講義に活用します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	フランス歌曲研究Ⅰ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3133

授業概要	前期はグノーの歌曲を中心に取り上げ、まずフランス語の正しい発音による歌唱を演習する。フランス語辞典を用い、発音記号の認識と正確な発音を習得することを目指す。後期はフォーレやドビュッシーなどの代表的な歌曲作品を課題とし、共演者として重要性の高いピアノパートを含めた歌唱とピアノの両面から総合的な歌唱表現と演奏解釈を研究する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。
到達目標	①　発音記号を認識し、正しいフランス語の発音で歌唱することができる。 ②　歌、ピアノパートともにテキスト(詩)に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス 2週　フランス歌曲の歴史を同時代の詩人や美術史との関連① 3週　フランス歌曲の歴史を同時代の詩人や美術史との関連② 4週　フランス歌曲の歴史を同時代の詩人や美術史との関連③ 5週　発音記号を学び、舞台語としての正しく美しいフランス語の発音を習得する① 6週　発音記号を学び、舞台語としての正しく美しいフランス語の発音を習得する② 7週　発音記号を学び、舞台語としての正しく美しいフランス語の発音を習得する③ 8週　グノーの初期の歌曲を教材に、正しいフランス語で歌うことに慣れる① 9週　グノーの初期の歌曲を教材に、正しいフランス語で歌うことに慣れる② 10週　グノーの初期の歌曲を教材に、正しいフランス語で歌うことに慣れる③ 11週　グノーの歌曲を通してフランス語での歌唱に習熟① 12週　グノーの歌曲を通してフランス語での歌唱に習熟② 13週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究① 14週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究② 15週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究③
成績評価方法・基準	授業での演習70%、フランス語の発音や詩の構造を確認するチェックテスト30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	『グノー歌曲選集1』、『フォーレ歌曲全集1～3』(全音楽譜出版社)
クラスコード	gpkuxr6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	フランス語の正しい発音を修得するために、授業で学んだ楽曲について予習・復習を充分してから授業に臨むこと。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修者は年度末の発表演奏会で歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏をしなければなりません。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	フランス歌曲研究Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3134

授業概要

前期はグノーの歌曲を中心に取り上げ、まずフランス語の正しい発音による歌唱を演習する。フランス語辞典を用い、発音記号の認識と正確な発音を習得することを目指す。後期はフォーレやドビュッシーなどの代表的な歌曲作品を課題とし、共演者として重要性の高いピアノパートを含めた歌唱とピアノの両面から総合的な歌唱表現と演奏解釈を研究する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。

到達目標

① 発音記号を認識し、正しいフランス語の発音で歌唱することができる。
② 歌、ピアノパートともにテキスト(詩)に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究④
2週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑤
3週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑥
4週　フォーレの初期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑦
5週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究①
6週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究②
7週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究③
8週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究④
9週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑤
10週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑥
11週　フォーレの中期の代表的歌曲を歌唱とピアノ両面から研究⑦
12週　発表演奏会に向けての総合演習①
13週　発表演奏会に向けての総合演習②
14週　発表演奏会に向けての総合演習③
15週　発表演奏会

成績評価方法・基準

授業での演習70%、発表演奏会に向けての取り組み30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『グノー歌曲選集1』、『フォーレ歌曲全集1～3』、『ドビュッシー歌曲集1』(全音楽譜出版社)

クラスコード

lxulvzk

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

フランス語の正しい発音を修得するために、授業で学んだ楽曲について予習・復習を充分してから授業に臨むこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者は年度末の発表演奏会で歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏をしなければなりません。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	声楽特別研究A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、角　岳史	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3321

授業概要

オペラ、オペレッタなど幅広い分野の重唱を教材にして、楽曲を分析し、ストーリーを研究、歌唱をして、演技を入れたアンサンブルを演習する。楽曲分析、戯曲の研究を行い、理解と知識を習得する。伴奏もピアノコースの学生がコレペティトールの元で知識を習得し、共にアンサンブルを演習する。

到達目標

ステージを作る、という目標を持ち、音楽を幅広く捉える事ができる。アンサンブルの魅力を体感し、今後の音楽活動への多大な手掛かりとする力が身につく。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　解説を交えた音楽稽古①
3週　解説を交えた音楽稽古②
4週　解説を交えた音楽稽古③
5週　解説を交えた音楽稽古④
6週　解説を交えた音楽稽古⑤
7週　解説を交えた音楽稽古⑥
8週　解説を交えた音楽稽古⑦
9週　講義（予定）
10週　音楽稽古①
11週　音楽稽古②
12週　音楽稽古③
13週　音楽稽古④
14週　音楽稽古⑤
15週　前期歌唱試験

成績評価方法・基準

重唱試験及び受講状況による評価80%、アンサンブルとしての音楽性と表現力20%

教科書ソフト等

指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること（指定します）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zb7m3xh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で取り上げる楽曲の譜読み、、内容を予習、授業で行った事は必ず復習を行うこと。
5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。

授業科目	声楽特別研究B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、角　岳史	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3322

授業概要

オペラ、オペレッタなど幅広い分野の重唱を教材にして、楽曲を分析し、ストーリーを研究、歌唱をして、演技を入れたアンサンブルを演習する。楽曲分析、戯曲の研究を行い、理解と知識を習得する。伴奏もピアノコースの学生がコレペティトールの元で知識を習得し、共にアンサンブルを演習する。

到達目標

ステージを作る、という目標を持ち、音楽を幅広く捉える事ができる。アンサンブルの魅力を体感し、今後の音楽活動への多大な手掛かりとする力が身につく。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　音楽稽古①
2週　音楽稽古②
3週　音楽稽古③
4週　講義（予定）
5週　立ち稽古①
6週　立ち稽古②
7週　立ち稽古③
8週　立ち稽古④
9週　立ち稽古⑤
10週　立ち稽古⑥
11週　立ち稽古⑦
12週　立ち稽古⑧
13週　通し稽古
14週　G.P
15週　舞台発表

成績評価方法・基準

重唱試験及び受講状況による評価80%、アンサンブルとしての音楽性と表現力20%

教科書ソフト等

指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること（指定します）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zb7m3xh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で取り上げる楽曲の譜読み、、内容を予習、授業で行った事は必ず復習を行うこと。
5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。

授業科目	音響デザインⅠ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	大黒　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2051

授業概要	音という存在からイマジネーションを広げて幅広い作曲の概念を学び、様々な音響の制作手法を実践する。 フォーリーサウンド、サウンド・スケープ、サウンド・インスタレーション、ライブ・エレクトロニクス、電子音響音楽、EDMなど。実際に制作をおこないながら、音や作品について考える。
到達目標	① 身近な音から幅広い作曲の概念について理解できる。 ② 録音機材の使用や編集能力を養うことができる。 ③ 感性を磨いて豊かな表現力や創造力を高めることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　音とは何か、音の概念や音が鳴る現象 2週　フォーリーサウンド①　生活空間の様々な音や環境① 3週　フォーリーサウンド②　生活空間の様々な音や環境② 4週　サウンド・スケープ①　音空間におけるアート作品① 5週　サウンド・スケープ②　音空間におけるアート作品② 6週　録音素材からリズムを制作する① 7週　録音素材からリズムを制作する② 8週　録音素材からメロディーを制作する① 9週　録音素材からメロディーを制作する② 10週　音楽の構成を考える　トラック制作① 11週　音楽の構成を考える　トラック制作② 12週　動画に音・音楽をつける　サウンドエフェクト① 13週　動画に音・音楽をつける　サウンドエフェクト② 14週　音響を使った様々な音楽① 15週　音響を使った様々な音楽②
成績評価方法・基準	作品提出、発表(試験)50%、授業姿勢・意欲50%
教科書ソフト等	授業内で適宜、資料を配付します。音楽ソフトウェアはAbleton Liveを使用します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	ddkhtry
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	ソフトウェアについて事前に調べて予習してください。授業で学んだ操作法など、ノートを確認して復習してください。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ソフトウェアの操作法など、逐一ノートを取ってください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音響デザインⅡ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	大黒　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2052

授業概要	音という存在からイマジネーションを広げて幅広い作曲の概念を学び、様々な音響の制作手法を実践する。 フォーリーサウンド、サウンド・スケープ、サウンド・インスタレーション、ライブ・エレクトロニクス、電子音響音楽、EDMなど。実際に制作をおこないながら、音や作品について考える。
到達目標	① 身近な音から幅広い作曲の概念について理解できる。 ② 録音機材の使用や編集能力を養うことができる。 ③ 感性を磨いて豊かな表現力や創造力を高めることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　シンセサイザー合成の基礎① 2週　シンセサイザー合成の基礎② 3週　動的なサウンドデザイン制作① 4週　動的なサウンドデザイン制作② 5週　波形の編集 ワープ・タイムストレッチ① 6週　波形の編集 ワープ・タイムストレッチ② 7週　立体音響/サラウンド/バイノーラルサウンド制作① 8週　立体音響/サラウンド/バイノーラルサウンド制作② 9週　エフェクト加工① 10週　エフェクト加工② 11週　電子音響音楽の制作① 12週　電子音響音楽の制作② 13週　電子音響音楽の制作③ 14週　電子音響音楽の制作④ 15週　作品発表と講評
成績評価方法・基準	作品提出、発表(試験)50%、授業姿勢・意欲50%
教科書ソフト等	授業内で適宜、資料を配付します。音楽ソフトウェアはAbleton Liveを使用します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	lgfbpo2
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	ソフトウェアについて事前に調べて予習してください。授業で学んだ操作法など、ノートを確認して復習してください。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	ソフトウェアの操作法など、逐一ノートを取ってください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	サウンドレコーディングA	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	大黒　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3053

授業概要	音を追求し、レコーディング技術/PA技術面から音楽を制作演出するサウンドレコーディングについて学ぶ。デジタル機器や音響録音機器、DAW(コンピュータ)などを使用した対面型実習です。
到達目標	①音楽スタジオで使用されるシステムや技術について学び、音声、音響の役割について理解を深める。 ②アコースティック楽器やボーカルなどの録音を通して整音まで行い適切なレコーディング技術を学ぶ。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　音と音声信号の基礎知識 2週　マイクロホンの基礎知識 3週　ミキサー/レベルメーターの基礎知識 4週　スピーカー/アンプの基礎知識 5週　レコーディング機材(コンピュータ・サウンドレコーダー)の基礎知識 6週　レコーディングにおける準備プランについて 7週　音声インタビュー録音 8週　音声インタビューの編集 9週　アコースティック楽器の録音①(ピアノ) 10週　アコースティック楽器の録音②(弦楽器/ギター) 11週　アコースティック楽器の録音③(打楽器) 12週　アコースティック楽器の録音④(ボーカル) 13週　サウンドレコーディングの為のPA基礎技術① 14週　サウンドレコーディングの為のPA基礎技術② 15週　作品発表・講評会
成績評価方法・基準	作品提出、発表(試験)50%、授業姿勢・意欲50%
教科書ソフト等	授業内で適宜、資料を配付します。音楽ソフトウェアはAbleton Liveを使用します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	i2e6zgd
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作法など、ノートを確認して復習してください。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	機器やソフトウェアの操作法など、逐一ノートを取ってください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	サウンドレコーディングB	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	大黒　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3054

授業概要	音を追求し、レコーディング技術/MA技術面から音楽を制作演出するサウンドレコーディングについて学ぶ。デジタル機器や音響録音機器、DAW(コンピュータ)などを使用した対面型実習です。
到達目標	①前期のサウンドレコーディングAで行った基礎知識を元に音楽スタジオワークの実作業について理解を深める。 ②映像作品や音楽作品などのMA技術を通して最終的な作品完成を目指すレコーディング技術を学ぶ。
学科のディプロマ・ポリシー	5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画	
1週	MA(MultiAudio)の基礎知識
2週	MAの実作業とワークフローについて
3週	映像作品のためのMA基礎知識
4週	音声編集の実践応用
5週	音声と音楽の最適なミキシング編集について
6週	適切な音声出力について(放送用ラウドネス規格)
7週	生演奏のレコーディングプランについて
8週	生演奏のマルチレコーディング①
9週	生演奏のマルチレコーディング②
10週	生演奏のマルチレコーディング③
11週	生演奏のマルチレコーディング④
12週	楽曲のマスタリング基礎技術①
13週	楽曲のマスタリング基礎技術②
14週	楽曲のマスタリング応用技術
15週	作品発表・講評会

成績評価方法・基準	作品提出、発表(試験)50%、授業姿勢・意欲50%
教科書ソフト等	授業内で適宜、資料を配付します。音楽ソフトウェアはAbleton Liveを使用します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	cwikcan
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作法など、ノートを確認して復習してください。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	機器やソフトウェアの操作法など、逐一ノートを取ってください。サウンドレコーディングAの基礎知識/実技経験を元に行いますので、可能な限り選択済みであることが望ましいです。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽リテラシー演習 I	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	千葉　潤	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2041

授業概要	①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。 ②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。
到達目標	①音楽学的な文献の収集や批判的読解ができる。 ②音楽学の研究方法の基礎が身につく。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス、音楽研究の方法論の概説、テキスト紹介 2週　レポートのテーマ相談 3週　レポートのテーマ相談 4週　参考文献の検索 5週　参考文献の読解① 6週　参考文献の読解② 7週　参考文献の読解③ 8週　参考文献の読解④ 9週　レポート作成① 10週　レポート作成② 11週　レポート作成③ 12週　レポート作成④ 13週　レポート作成⑤ 14週　レポート作成⑥ 15週　まとめ、講評
成績評価方法・基準	レポート80%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	「音楽用語の基礎知識」（久保田慶一編著、アルテス）
クラスコード	6vuccnw
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	この授業は受講生に個別に時間設定し、クラスルームでオンラインで指導を行います。したがって、時間割に縛られず、自由に受講時間を設定できます。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	自分自身が関心のあるテーマを幾つか考えておいてください。また個人的な興味だけでなく、社会にとってどのような意味があるのか、幅広い視点を持つことが大切です。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	音楽リテラシー演習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	千葉　潤	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2042

授業概要

①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。
②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。

到達目標

①レポートの書き方が身につく。
②関心のあるテーマについての参考文献が収集・読解できるようになる。③レポート作成の基礎的スキルが身につく。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　レポートのテーマの検討①
2週　レポートのテーマの検討②
3週　テーマに関する参考文献の収集
4週　参考文献の読解①
5週　参考文献の読解②
6週　参考文献の読解③
7週　参考文献の読解④
8週　レポートの作成①
9週　レポートの作成②
10週　レポートの作成③
11週　レポートの作成④
12週　レポートの作成⑤
13週　レポートの作成⑥
14週　レポートの作成7口
15週　まとめ、講評

成績評価方法・基準

レポート課題80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

xt7nlwy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

音楽リテラシー演習Ⅰで身に付けたスキルを活かしながら、さらに関心あるテーマを掘り下げてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

この授業は受講生に個別に時間設定し、クラスルームでオンラインで指導を行います。したがって、時間割に縛られず、自由に受講時間を設定できます。

授業科目	音楽リテラシー演習Ⅲ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	千葉　潤	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3043

授業概要

①「音楽リテラシーⅠ・Ⅱ」での学習成果に基づいて、自分で興味のある音楽に関する研究テーマを設定し、情報を収集し分析する。
②音楽のジャンルにふさわしい分析方法を身に付ける。
③パワーポイントやスライドを使った研究発表のスキルを身に付ける。

到達目標

①様々な音楽に応じて、幅広く分析ができるようになる。
②音楽に関する情報を収集・分析し、批判的に読解できるようになる。
③自分自身の主張を発表することができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス、研究テーマの検討①
2週　研究テーマの検討②、情報収集
3週　研究テーマの決定、情報収集
4週　情報収集と読解①
5週　情報収集と読解②
6週　情報収集と読解③
7週　情報収集と読解④
8週　情報収集と読解⑤
9週　中間発表
10週　発表準備①
11週　発表準備②
12週　発表準備③
13週　発表準備④
14週　発表準備⑤
15週　発表

成績評価方法・基準

授業内発表80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

baljnum

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

研究テーマに関連する音楽系の情報を読み解くこと。興味ある音楽ジャンルを幅広く聴く。

1.5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

前期はオンラインでの個別指導が中心となるため、自学自習の習慣を身に付けること。

授業科目	音楽リテラシー演習Ⅳ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	千葉　潤	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 3044

授業概要	①「音楽リテラシー演習Ⅲ」で身に付けたスキルを用いて、興味のある研究テーマに関する情報を収集し分析する。 ②音楽のジャンルにふさわしい分析方法を身に付ける。 ③パワーポイントやスライドを使った研究発表のスキルを身に付ける。
到達目標	①様々な音楽に応じて、幅広く分析ができるようになる。 ②音楽に関する情報を収集・分析し、批判的に読解できるようになる。 ③自分自身の主張を発表することができるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス、研究テーマの検討① 2週　研究テーマの検討②、情報収集 3週　研究テーマの決定、情報収集 4週　情報収集と読解① 5週　情報収集と読解② 6週　情報収集と読解③、中間発表準備① 7週　情報収集と読解④、中間発表準備② 8週　情報収集と読解⑤、中間発表準備③ 9週　中間発表 10週　発表準備① 11週　発表準備② 12週　発表準備③ 13週　発表準備④ 14週　発表準備⑤ 15週　発表
成績評価方法・基準	授業内発表80%、平常点20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	cpbah6e
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	研究テーマに関連する音楽系の情報を読み解くこと。興味ある音楽ジャンルを幅広く聴く。 1.5時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	前期に引き続き、オンラインでの個別指導が中心となるため、自学自習の習慣を身に付けること。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	声楽伴奏法Ⅲ・Ⅳ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2333 MU-MS 2334

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。本講義では、歌曲、オペラアリアの作品を教材とし、声楽曲の伴奏法を実践的に学ぶ。

到達目標

① テンポ感や音量、音色など自然にソルフェージュ力を養うことができる。
② 共演者と互いの個性を認め合い協調することで、コミュニケーション術も向上する。
③ 歌詞を発音することが出来、さらにその意味を理解し、音楽とどのように結びついているかを理解できる。
④ オーケストラ伴奏においては、使用楽器を理解し、その楽器の特性をピアノで再現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　公開レッスン形式①
3週　公開レッスン形式②
4週　公開レッスン形式③
5週　公開レッスン形式④
6週　公開レッスン形式⑤
7週　公開レッスン形式⑥
8週　公開レッスン形式⑦
9週　公開レッスン形式⑧
10週　公開レッスン形式⑨
11週　公開レッスン形式⑩
12週　公開レッスン形式⑪
13週　公開レッスン形式⑫
14週　公開レッスン形式⑬
15週　試験（発表）とまとめ

成績評価方法・基準

試験（発表）40%、受講態度60%
試験（発表）の評価は、演奏のみならず共演者としての資質なども考慮し加点することもある。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

声楽伴奏法Ⅲonzo6ju、声楽伴奏法Ⅳits3jmx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生がレッスンを受けることができるよう、オリエンテーション時に選曲、時間配分をします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽伴奏法Ⅲ・Ⅳ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	岡本　孝慈	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2353 MU-MS 2354

授業概要

器楽伴奏法Ⅰ Ⅱでの学びをふまえ、単なる協調にとどまらずソリストとピアニストとして互いの個性を尊重しそれをどのようにして融合させるかを模索する。

到達目標

① 楽曲の構成感や表現方法など、密度の高いアンサンブルが出来るようになる。
② 演奏のみならず聴衆とのコミュニケーションのために重要な口頭での楽曲解説など話術が向上する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　オリエンテーション
2週　公開レッスン形式①
3週　公開レッスン形式②
4週　公開レッスン形式③
5週　公開レッスン形式④
6週　公開レッスン形式⑤
7週　公開レッスン形式⑥
8週　公開レッスン形式⑦
9週　公開レッスン形式⑧
10週　公開レッスン形式⑨
11週　公開レッスン形式⑩
12週　公開レッスン形式⑪
13週　公開レッスン形式⑫
14週　公開レッスン形式⑬
15週　試験(発表)

成績評価方法・基準

試験(発表)40%、レポート40%、受講態度20%
試験(発表)の評価は、演奏のみならず共演者としての資質なども考慮し加点することもある。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付しますので保管ファイルを用意すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

3y5bhfs

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生がレッスンを受けることができるよう、オリエンテーション時に選曲、時間配分をする。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	伴奏法Ⅰ～Ⅳ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	岡本　孝慈、浅井　智子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2031、2032 MU-MS 3033、3034

授業概要	伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。（岡本：グレード取得方向、浅井：教員採用試験方向）
到達目標	① ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、自然に初見演奏能力も向上する。 ② 既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。
学科のディプロマ・ポリシー	5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　オリエンテーション（合同） あらかじめアンケートで希望する進路方向を提出しそれぞれのクラス分かれる。 2週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）① 3週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）② 4週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）③ 5週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）④ 6週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑤ 7週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑥ 8週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑦ 9週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑧ 10週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑨ 11週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑩ 12週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑪ 13週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑫ 14週　対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑬ 15週　試験
成績評価方法・基準	試験70%、課題30% 〔平常点有り〕
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付しますので保管ファイルを用意すること。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	Ia(岡本) mhqpcco　Ib(浅井) sd7wtky　Ⅱa(岡本) xao4vax　Ⅱb(浅井) khjwalp　Ⅲa(岡本) bo32q7g　Ⅲb(浅井) po5ckqc　Ⅳa(岡本) 3cskofv　Ⅳb(浅井) omw7lbt
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

授業科目	伴奏実習Ⅲ～Ⅵ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	黒山　映、河野　泰幸、針生　美智子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2353、2354 MU-MS 2355、2356

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	パートナーとの充分なリハーサル
3週	レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
4週	パートナーとの充分なリハーサル
5週	レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
6週	パートナーとの充分なリハーサル
7週	総練習
8週	本番①（演奏会・試験等）
9週	パートナーとの充分なリハーサル
10週	レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
11週	パートナーとの充分なリハーサル
12週	レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
13週	パートナーとの充分なリハーサル
14週	総練習
15週	本番②（演奏会・実技試験等）

成績評価方法・基準

平常点50%、協調性20%、表現力30%

教科書ソフト等

授業ごとに指示する。

参考書等

授業ごとに指示する。

クラスコード

wqoer5p

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅲ～Ⅵ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実習
担当教員	小山 隼平、千葉 潤、谷本 聡子、黒山 映、外山 啓介、三山 博司、針生 美智子、大隅 雅人、河野 泰幸、高田 由利子、鎌倉 亮太、大黒 淳一	単位数	1	授業回数	
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2723、2724 MU-MS 3725、3726

授業概要	大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。 本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。
到達目標	①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。 ②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。 ③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性） 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	「授業計画」は、「コンサート」の内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 なお、この授業科目の大まかな流れは次のとおりとなります。 ① 履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。 ② 各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。 ③ コンサートに向けて、任務に応じた準備を行い、当日は任務を遂行する。 ④ 担当教員は、履修者の事前準備、当日の動き方を観察し、評価する。 ⑤ コンサート終了後、担当教員は履修者に評価と改善点を伝える。 以上、①から⑤までの手順を、コンサートごとに繰り返す。
成績評価方法・基準	「授業計画」と同様、「成績評価方法・基準」は、コンサートの内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	宮崎 隆男著『「マエストロ、時間です」 ～サントリーホール ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア
クラスコード	ebh2kux
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

授業科目	実技演奏研究Ⅰ～Ⅳ（演奏クラス）	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	三山博司、大隅雅人、黒山映、小山隼平、 谷本聡子、針生美智子、鎌倉亮太、河野泰幸	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2121、2122 MU-MS 3123、3124

授業概要	個人レッスンの形式で、専攻分野に対する研究を深めます。 また、学外のオーディション、コンクールや演奏会等へ参加するか、または発表機会を設けることを前提とし、それに対しての準備や事後評価を行います。
到達目標	①自分の専攻分野について研究を深め、社会の中での音楽家、演奏家としてのあり方を能動的に考えることができる。 ②学外のオーディションやコンクール、演奏会等へ参加したり、自分で発表の機会を作ったりすることで、１人の音楽家として、社会に向けた自己の発信をすることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4 知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　ガイダンス 2週　研究テーマの検討 3週　研究テーマの決定 4週　演奏研究または作品制作① 5週　演奏研究または作品制作② 6週　演奏研究または作品制作③ 7週　演奏研究または作品制作④ 8週　演奏研究または作品制作⑤ 9週　演奏研究または作品制作⑥ 10週　演奏研究または作品制作⑦ 11週　発表に向けての準備① 12週　発表に向けての準備② 13週　発表に向けての準備③ 14週　発表に向けての準備④ 15週　発表に向けての準備⑤
成績評価方法・基準	① 学外のコンサート（前期は音の輪コンサートを含む）やオーディション、演奏会などの発表機会を最低１回は持つこと60% ② 取り組む姿勢20% ③ ①以外の発表機会に対する積極性20%
教科書ソフト等	授業内で指示します。
参考書等	授業内で指示します。
クラスコード	h755e47
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家あるいは作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	練習や創作の時間を充分確保することはもちろんですが、それに加えて楽曲分析や文献の調査、創作環境の向上につながる情報収集を絶えず行って下さい。 3時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	事前に実施した、演奏クラス選抜試験に合格した学生のみが履修できます。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

授業科目	室内楽Ⅰ～Ⅳ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	河野 泰幸、谷本 聡子、大隅 雅人、黒山 映、鎌倉 亮太、外山 啓介、グレブ・ニキティン、石川 祐支、石橋 克史、大家 和樹、小杉 恵、佐藤 淳一、坂東 邦宣、中野 耕太郎、小野木 遼、川口 晃	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 2301、2302 MU-MS 3303、3304

授業概要

ピアノ、管弦打楽器等を様々な形で組み合わせ、アンサンブルを実技レッスン形式で行う。編成は二重奏から八重奏くらいまでの範囲とする。バロックから近現代までのオリジナルの室内楽曲を中心に、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンスを行い、履修グループごとに課題曲を決める

2週　楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する

3週　楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する

4週　アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする

5週　アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする

6週　アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする

7週　アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする

8週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は「原典版」を使用することが望ましい。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

lu4cfyl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。ピアノ・ス・管弦打楽コース以外の学生が履修を希望する場合は、プレイスメントテストを行う場合がある。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

取り上げるのは、原則出版されているオリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知せします。実技演奏法（主科）又は実技演奏法（副専攻）を履修していること。副専攻の場合は同一楽器で1年以上レッスンを受講している事。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	情報デザイン論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	鳥宮　尚道	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2003

授業概要

「情報デザイン」という言葉がデザインのひとつの分野として一般的に認知されるようになったのは、1980年代後半頃からであった。情報デザインの中心的な課題である「情報をどのように“わかりやすく”伝えるのか」というテーマは、今日ますます重要性を増している。この授業では、情報を伝えるための手法や表現、デザイナーや研究者の制作物や研究成果などを紹介し、解説することで、「情報を伝えるための方法」としての情報デザインの意義を理解することが目的である。

到達目標

① デザインに関する用語等の基礎知識を説明できる。
② 人とデザインの関わりを踏まえたデザインプロセスについて説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　「情報」をデザインするとは
2週　図・地図と情報デザイン
3週　記号・文字と情報デザイン
4週　複製技術とメディア
5週　“時代”を映す広告・ポスター
6週　“時代”を映すCM
7週　情報の視覚化①　アイソタイプ、ピクトグラム
8週　情報の視覚化②　ダイアグラム
9週　情報の構造化
10週　わかりやすさのデザイン
11週　エモーショナル・デザイン
12週　観察からのデザイン
13週　ユーザビリティ
14週　情報デザインの役割と広がり
15週　まとめ、授業内質問へのフィードバック

成績評価方法・基準

期末レポート60%、授業内への参加意欲40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

lbq5tzh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、次回のキーワードを紹介するので調べておくことが望ましい。また、学んだ事柄を確認し理解を更に深めること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各回毎に授業内容に関する質問があります。資料などを調べ、見識を深めてもらいたい。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	コンテンポラリーアート	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	細川　麻沙美	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2004

授業概要

本授業では、現代社会におけるコンテンポラリーアートを、広く取り上げ、紹介することで、その状況を知り、理解する。そのためには、美術史的な観点だけに止まらず、経済的な観点や技術的な変化を含め広く俯瞰することでさらに理解を深め、今後の作品鑑賞や創作活動に繋がる意識や知識、ひいては現代社会そのものを考察する力を身につける。また、札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）の実務経験を踏まえ、過去の芸術祭での作品展開やキュレーションの変化など、グローバルな観点での芸術祭の在り方や位置付けなども知ることが出来る。

到達目標

① 美術史の流れを踏まえて、現代社会におけるコンテンポラリーアートの在り方や状況を理解することできる。
② 上記を踏まえ、芸術作品やプロジェクトを歴史や現代社会と関連させて鑑賞・考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

3　西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）

授業計画

1週　コンテンポラリーアート（現代美術）とは
2週　アートシーンとは何か、美術作品を巡る現在
3週　展覧会と芸術祭
4週　現代美術の流れ ①　20世紀までの美術
5週　現代美術の流れ ②　20世紀以降の美術
6週　現代美術の流れ ③　抽象表現主義以降
7週　現代美術の流れ ④　20世紀末から21世紀へ
8週　日本の現代美術 ①　1945 年までの美術
9週　日本の現代美術 ②　1945 年以降
10週　日本の現代美術 ③　1980 年代を中心に
11週　日本の現代美術 ④　20世紀末から21世紀へ
12週　コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ①
13週　コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ②
14週　コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ③
15週　総括とテストの実施

成績評価方法・基準

学期末試験30%、平常試験40%、レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

美術手帖編『現代アート事典』美術出版社、末永照和監修『カラー版20世紀の美術』美術出版社、馬定延『日本メディアアート史』美術出版社　他、授業内で参考文献を多数扱います。

クラスコード

qgnzbri

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる参考文献等を用いて、積極的に美術史への理解を深めること。可能であれば、実際の美術作品、アートプロジェクトを、難しい場合は、オンライン上で、多様な術表現を多く鑑賞すること。毎回の授業では、美術に関するキーワードを提示します。適宜、講義の内容を小テスト形式で確認します。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

美術史の大きな流れを掴むために、講義内容はきちんと確認してください。初めての用語やアーティスト名は、必ずチェックをし、自ら調べるようにしてください。また、実際に作品する機会を積極的に設けてください。レポート提出の課題を出します。レポートのフィードバックは適宜講義中に行います。

授業科目	仏教美術	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	下濱　晶子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3005

授業概要

本授業では、仏教の展開に応じた仏教のための造形美術を学ぶ。まず仏教の発祥地インドからその流れをたどり、仏像を中心に仏教思想が生み出した造形の特徴と、その意味するものを探る。また、料理、茶道、生け花など生活の中の仏教美術も考察する。

到達目標

① 祈りの形の豊かさと多様性にふれ、仏教美術の根底に流れる造形精神への理解を深める。
② 仏教美術の技法や材質も把握できる。
③ 生活の中の仏教美術を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　釈尊の生涯とそれにまつわる造形美術
3週　仏教美術のはじまり
4週　仏教美術のひろがり
5週　仏教美術①　彫刻・建築①
6週　仏教美術②　彫刻・建築②
7週　仏教美術③　彫刻・建築③
8週　仏教美術④　彫刻・建築④
9週　仏教美術⑤　絵画①
10週　仏教美術⑥　絵画②
11週　仏教美術⑦　工芸①
12週　仏教美術⑧　工芸②
13週　仏教美術と料理・茶道
14週　仏教美術と生け花
15週　総括

成績評価方法・基準

レポート80%、授業内の課題を含む平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

f7aztxg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は復習を行ってください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

仏教関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。

授業科目	アートマネジメント	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	細川　麻沙美	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3006

授業概要

アートマネジメントの基本的な考え方とその概念を知った上で、昨今多様化するアートマネジメントの実例、そしてその展開を知ることが出来る。また、札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）の実務経験における、アートプロジェクトの制作や運営といった観点も加味し、現代のアートシーンで求められる実践的なマネジメントスキルを多様な例から学ぶことができる。

到達目標

①アートマネジメントの基本的な考え方とその概念を知ることが出来る。
②上記を踏まえて、現代社会における文化芸術のあり方を考察する。
③アートマネジメントにおける役割の多様性を知ることで、自身の創作や活動の可能性を広がられる知識、意欲を得る。

学科のディプロマ・ポリシー

5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　イントロダクション
2週　アートマネジメントとは何か ①　その歴史と考え方
3週　アートマネジメントとは何か ②　日本の状況
4週　アートマネジメントとは何か ③　地域の状況
5週　アートマネジメントとは何か ④　国内外の文化プログラム
6週　札幌国際芸術祭の実践 ①
7週　札幌国際芸術祭の実践 ②
8週　ディスカッション
9週　アートプロジェクトの実践 ①
10週　アートプロジェクトの実践 ②
11週　アートプロジェクトの実践 ③
12週　アートプロジェクトの実践 ④
13週　アートプロジェクトの実践 ⑤
14週　アートプロジェクトの実践 ⑥
15週　総括と試験

成績評価方法・基準

学期末試験30%、平常試験70%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

林容子「進化するアートマネージメント」2004年　他

クラスコード

wsflytu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

展覧会や芸術祭をはじめとした文化事業とアートマネジメントは密接につながっています。授業を理解するためにも多くの文化事業に足を運んで自ら体験することを心がけてください。また講義で取り上げる参考文献等は積極的に目を通すようにしてください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

適宜講義に応じたレポート課題を実施し、授業内でフィードバックを行います。

授業科目	美術概論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	下濱　晶子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2007

授業概要

本授業では、造形の理論として主に美術理論の知識を教授する。美術とは、視覚的または空間的な美を表現する建築・絵画・彫刻・工芸などの造形芸術全般を指す。本授業では「美術とは何か」という問題を、各時代の美術理論を通して習得させる。西洋ではチェンニーノ・チェンニーニの「技法書」が書かれたルネサンス期から20世紀に至るまでの社会的背景と、その時代に支配的であった造形原理や美術理論を紹介する。日本では、明治期の白樺派などの理論を取り上げ、ロダン、セザンヌ、ゴッホら印象主義以後の西洋美術の日本における受け入れられ方を解説する。

到達目標

① 美術理論の知識を習得できる。
② 美術表現と社会的条件との関係を理解できる。
③ 作品の技法や材質も把握できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　古代社会と美術
2週　ギリシャ・ローマ時代の美術理論
3週　中世の美術理論と技法①　初期キリスト教美術、ビザンティン美術、初期中世美術
4週　中世の美術理論と技法②　ロマネスク美術、ゴシック美術
5週　ルネサンスの美術理論と技法①　イタリア初期ルネサンス美術
6週　ルネサンスの美術理論と技法②　イタリア盛期ルネサンス美術
7週　ルネサンスの美術理論と技法③　北方美術
8週　絶対主義社会と美術
9週　市民社会と美術
10週　ロココ社会と美術
11週　19世紀の美術理論と技法①　近代の建築
12週　19世紀の美術理論と技法②　近代の彫刻と工芸
13週　19世紀の美術理論と技法③　近代の絵画
14週　20世紀の美術理論
15週　総括

成績評価方法・基準

レポート80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

mcvwnpd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は復習を行ってください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。

授業科目	感性デザイン論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	宮本　一行	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2008

授業概要

本授業では、感性デザインについて教授する。「人間中心のシステム」が求められるデザインの領域では、従来の論理的な思考だけではなく、人間の基本的能力でもある「感性的思考」が重視されている。感性工学によるデザイン手法の成り立ちやその意義について理解を深めるとともに、グループワークを通じて、他者の感性的判断や働きについて分析することに取り組む。また、デザインの今日的な展開を踏まえ、ユーザーのニーズや価値観、社会的な課題や展望を発見する力を身につける。

到達目標

① デザインの基本である人間情報について理解する。
② デザインにおける科学的アプローチの基本的知識・手法を習得する。
③ グループワークを通し、チームでデザインを評価する軸を導き出す。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	プロダクトデザインと感性工学
3週	感性工学とはなにか
4週	ワード出しのブレスト
5週	感性評価①　概要と手順
6週	感性評価②　アンケート調査方法
7週	SD法によるアンケートの実施例
8週	SD法のアンケート作成①　調査対象の選定
9週	SD法のアンケート作成②　好みの度合いを調査
10週	SD法のアンケート作成③　ランダリングによる評価ワード出し
11週	SD法のアンケート作成④　アンケートの作成
12週	アンケートの回答
13週	セマンティック・プロフィールの作成
14週	最終レポートのまとめ
15週	総括

成績評価方法・基準

レポート課題35%、授業への参加意欲65%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

yagzovr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、次回のキーワードを紹介するので調べておくことが望ましい。また、学んだ事柄を確認するとともに、自主制作に生かしながら理解をさらに深めること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業の中盤にレポート課題を出題します。また、授業中にGoogleアプリケーションを使うことがあるので、教員の指示に従って適宜ノートパソコンを持参すること。

授業科目	広告論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	長岡　晋一郎	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2009

授業概要

社会を映す鏡と言われてきた広告。時代ごとにカタチや役割を変えながら、ずっと社会に寄り添い発展を遂げてきた。広告を学ぶことは、デザイン・美術を学ぶことであり、商業経済、ひいては現代社会そのものを学ぶことである。
本授業では、マーケティングやクリエイティブの基礎知識と、アイデアを考える力を身につける。また架空の広告制作にもチャレンジする。

到達目標

① 広告の基本構造を理解し、基礎知識を身につける。
② 歴史的名作、世界的名作を知り、理解する。
③ 課題制作を通し、アイデア発想力を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

授業計画

1週	ガイダンス(名作鑑賞、広告クリエイティブの魅力を知る)
2週	制作体験
3週	広告の基礎知識①消費経済の変遷
4週	広告の基礎知識②広告の歴史
5週	広告の基礎知識③マーケティング戦略
6週	広告の基礎知識④消費行動のモデル
7週	アイデア発想法　グラフィック
8週	広告の基礎知識⑤広告メディア
9週	広告の基礎知識⑥ブランドの価値構造を学ぶ
10週	アイデア発想法　ムービー
11週	広告制作ワークショップ　オリエンテーション
12週	グループワーク
13週	企画書とプレゼンテーション
14週	広告制作ワークショップ　中間発表
15週	広告制作ワークショップ　プレゼンテーション(授業内でフィードバックを行う)

成績評価方法・基準

授業内レポート20%、期末課題制作80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wp2njaa

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、広告業について実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

世の中の広告を観察し、その意味や背景を考えてみよう。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

楽しみながら積極的に受講する姿勢を望む。

授業科目	マスメディア論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	森田　英和	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3010

授業概要

現代生活に欠かせないマスメディア。新聞・出版、テレビ・ラジオからネットで展開するものまで多様な形態があり、毎日さまざまな情報を伝える。それらの成り立ちや特徴を理解し、ニュース報道を軸にマスメディアを分析する。その上で美術制作とも共通する「表現の自由」について考える。

到達目標

マスメディアの現状について理解を深め、メディア・リテラシーを高める。国内外のニュースを読み解くことにより、社会人としての基礎力をつける。そのうえで「表現の自由」について考えることを通じ、美術制作者としての資質を高める。

学科のディプロマ・ポリシー

2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	マスメディアとは何か
2週	マスメディアの歴史と現状　日本
3週	マスメディアの歴史と現状　アメリカ
4週	マスメディアの歴史と現状　英国と欧州
5週	マスメディアの歴史と現状　中国
6週	取材活動の実際
7週	調査報道の意義
8週	世論調査の仕組み
9週	地域とマスメディア
10週	グローバリズムの影響
11週	権力とジャーナリズム
12週	人権と報道
13週	既存メディアとインターネット
14週	経営体としてのマスメディア
15週	表現の自由について

成績評価方法・基準

中間、期末レポート各40%、講義内での議論への参加20%

教科書ソフト等

なし。毎回、その週の授業テーマと、国内外のニュースについての資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で適宜、指示します。

クラスコード

wo4twxu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、マスメディア（新聞・テレビ・ネット）での報道に関わった経験を持つ教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

新聞やテレビ、ネットなどのマスメディアをよく見聞きし、最新の国内、国際ニュースを常にウォッチしておく。

最低でも30分程度/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は聴くだけでなく、自分の意見や疑問を積極的に発言する。

授業科目	写真・映像論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	三橋　純予	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3011

授業概要

写真術の始まりから現代までの様々な写真作品や映像作品を見ながら写真史および映像論を学び、独特なメディアについて自らが考えることを重ねていく。

到達目標

① 写真・映像というメディアの持つ、記録性、表現力、メッセージなどがあることを知る。
② 様々な作品を見ながら、芸術における表現の可能性を考えることができる。
③ 作品から読み取った事項を言葉で表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	写真術の発明と黎明期
2週	ダゲレオタイプ・カロタイプ等の古典技法
3週	19世紀の肖像写真
4週	写真と絵画の関係(写真のピクトリアリズム)
5週	近代写真の始まり
6週	アメリカのドキュメンタリー写真
7週	戦争写真
8週	ファッション写真
9週	日本の戦後写真
10週	日本の60年代以降の写真
11週	技術の変遷
12週	映像と動画
13週	美術の中の映像
14週	総括講義
15週	試験・まとめ

成績評価方法・基準

毎回実施する小レポート40%、学期末試験60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pguiiv2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で配付した資料をよく読み、自分なりにまとめをしてください。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、写真作品を鑑賞して、感想や意見を書く小レポートが毎回あります。積極的に書いてください。

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	表現研究	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	川口 浩	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2018

授業概要

本授業は、作品制作のための様々な素材と表現方法を体験的に学ぶための科目である。様々な素材や表現方法を経験することで、各自のその後の表現活動に活用できるようになることを目標とする。学内での制作だけでなく、個人として制作活動を続ける場合も可能性が広がるように、身近な道具や素材を使った表現を紹介し、それらの素材の特長や性質を応用し、使い方の工夫や新しい表現方法を探る。

到達目標

① 素材の特性を理解し表現につなげることができる。
② 素材や技法を生かし独自の表現方法を探り、応用展開できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週 授業の概要説明と使う材料
2週 フロッタージュ 1
3週 フロッタージュ 2 構成
4週 マーブリング 水性 1
5週 マーブリング 水性 2
6週 墨とポスターカラーの洗い流しによる作品 1
7週 墨とポスターカラーの洗い流しによる作品 2
8週 マーブリング 油性 1
9週 マーブリング 油性 2
10週 コラージュ 構成1
11週 コラージュ 構成2
12週 自由制作①
13週 自由制作②
14週 自由制作③
15週 自由制作④

成績評価方法・基準

自由制作では課題内容を踏まえ、独自の素材選びと表現方法を探ることができたか40%、課題ごとに素材を生かし表現したか20%、それぞれ素材の特性を理解できたか20%、授業に集中できたか20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

l4kkuzj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に配付資料をよく読んでおいてください。項目ごとに材料が変ります。準備するものが不十分では制作できません。毎回道具、材料を確認・準備し、授業に臨んでください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

創作意欲、継続力のある学生の受講を希望します。受講生は作業に支障のない服装・髪形の準備をしておくこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です

授業科目	フォトグラフィ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	今 義典	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2019

授業概要

暗室で銀塩写真を学ぶ。ピンホールカメラを通じ映像が結ばれることを知り、デジタルカメラからフィルムカメラへと移行していく。レンズの画角や焦点距離、絞り、速度、感度などを学び表現の礎を築く。

到達目標

① デジタル・アナログ問わず光学の原理や仕組みをカメラオブスキュラを通して理解する。
② フィルム写真では撮影・現像・スキャニング・プリント・展示・保存までの一連を、またデジタルにおいても撮影から出力まで独力で行えることを目標に掲げる。
③ 基本的なカメラ操作ができることを到達目標に掲げる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	ガイダンス カメラ制作(工作1)
2週	ピンホールカメラ①(工作2)
3週	ピンホールカメラ②(工作3)
4週	ピンホールカメラ③
5週	ピンホールカメラ④
6週	ピンホールカメラ⑤
7週	ピンホールカメラ⑥
8週	デジタル写真① 撮影
9週	デジタル写真② 画像処理①
10週	デジタル写真③ 画像処理②中間講評会
11週	作品研究III
12週	フィルム写真(35mm)①撮影(自由課題)
13週	フィルム写真(35mm)②現像・プリント①
14週	フィルム写真(35mm)③現像・プリント②
15週	講評会

成績評価方法・基準

提出課題に対しての技術的完成度及び出席率75%、表現の独自性25%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

レジュメなど授業内で指示します。

クラスコード

前期フォトグラフィa (hdjzswx)　後期フォトグラフィb (u2jidqa)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は必ず先週伝えた内容を思い出し、周到な準備をすること。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

定員はレポートによる志望動機から素点で判断し上位8名とする。コロナ感染の拡大縮小の情勢にあわせて、クラスを2分するなどの対策を行う。対面、オンライン、オンデマンド授業形態は事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。開講期の前期・後期は通年という意味ではない。前期、後期それぞれ同じ授業を2回行うという意味で、原則前期履修したものは、同じ科目は後期履修できないものとする。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	テキスタイル	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	森迫　暁夫	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2020

授業概要	ケシゴムスタンプでリピートのしくみを学んだ後、洋型紙をつかった型染めで、四方送りというリピート技法を学ぶ。学生は、リピートというシンプルで奥深い世界を知り、それを体験することで身につける。
到達目標	基本的なリピート技法を学ぶことで工芸と染と模様について学び、自らの表現の幅を広げ、教育実習へのアイデアにつなげる。学生は、伝統的な工芸の世界に触れることにより、日本の工芸の大切さについて述べることができるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
授業計画	1週　オリエンテーション　授業についてとテキスタイル、工芸について 2週　課題①　ケシゴムスタンプによるリピートの研究(原画描き) 3週　ケシゴムを彫る(デザインナイフ使用、カッティングの技術向上) 4週　法則を考えスタンピング(リピートの仕組を学ぶ) 5週　課題②　型染めによる四方送り(原画)　手ぬぐい制作 6週　原画、彫り(リピートを意識して原画づくり、型をカッティング) 7週　彫り 8週　のり置き①　型のりのつくり方指導 9週　のり置き②　のりの置き方指導 10週　豆汁引き①　大豆から豆汁をつくる 11週　豆汁引き②　地染め(地入れ、染めの為の準備) 12週　地染め(色を入れてゆく) 13週　蒸し(定着) 14週　洗い(のりを落す) 15週　講評
成績評価方法・基準	作品の評価60%、授業の内容に積極的に取り組むことができたか40%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	lc55qfg
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	屋外での作業がある為、天候に左右されることがあります。授業時間内で終わる為にも、自宅での作業は必ず必要です。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業では工程も多いのでしっかりとメモを取り、時間どおりに制作することも重要視する。材料費として1人2,000円を徴収する。授業では工程も多いのでしっかりとメモを取り，時間どおりに制作することも重要視する。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	映像メディア表現	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	門間　友佑	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 1017

授業概要

本授業では、近年益々多種多様化が進む「映像メディア」の基礎的な知識や仕組み、実際の制作についての学習を行う。自己の表現手段や情報の伝達、その他多岐にわたる「映像メディア」の基礎を理解し、応用につなげることを目的とする。また本授業は「造形表現領域」・「教職履修」履修者を主とする選択授業として、2年以降の他の「メディア系」教科にリンクさせていくベース科目としての位置付けである。

到達目標

① 映像の仕組み、構成などについての知識を身につける。
② 映像編集ソフト（DaVinci Resolve）の基礎操作やデジタルカメラ、スマートフォン等での映像撮影の基本など、映像完成までに必要な基礎知識を身につける。
③ 映像を通しての表現についての考察、それを加味した映像制作を行う。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

1週　映像メディアについての基礎知識
2週　映像制作についての基礎知識
3週　制作1 スマートフォンなどを使用した映像制作 準備
4週　制作1 スマートフォンなどを使用した映像制作 撮影
5週　制作1 スマートフォンなどを使用した映像制作 編集
6週　制作1 スマートフォンなどを使用した映像制作 公開・講評
7週　制作2 ソフトウェアの基礎操作①
8週　制作2 ソフトウェアの基礎操作②
9週　制作2 映像の企画と構成の考案
10週　制作2 撮影①
11週　制作2 撮影②
12週　制作2 編集①
13週　制作2 編集②
14週　制作2 編集③
15週　制作2 完成した映像の公開・講評

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題の把握、取り組む姿勢40%

教科書ソフト等

無料の映像編集ソフトウェアDaVinci Resolveを使用します。
推奨スペック以下でも制作はできますが、処理等に時間がかかることなどがあります。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5x6xdzd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

技術的要件が多いのため、各回毎に復習、不明点の確認、課題の提出を行い、次回に備えること。

1時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

PC持参必須。無料の映像編集用ソフトウェアを使用した授業を行います。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	アニメーション	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	菊池　有騎	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2021

授業概要

手描きアニメーションの制作手順や基礎知識を養うとともに、基礎画力や動きの意識など、アニメーションに必要な技術や考え方を培う。鉛筆を使用した清書の方法や動きを作成する際の「原画」と「動画」の概念を学び課題を作成する。物が動く様を一連の絵で表現する技術を養い。2Dアニメーションの魅力を体験し、作品制作する「ひとつの手法」を修得する。また、AfterEffectsなどを使用した撮影技法などについても触れていく。

到達目標

① 手描きアニメーションを作成する一連の作業工程を身につける。
② 動きのタイミングや、それに伴い必要な絵を描ける画力を身につける。
③ デジタル作業での着色や撮影、動画として完成するまでの工程を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	2D(手描き)アニメーションの制作方法やなりたちを学ぶ 課題の内容を企画構想。 絵コンテの描き方について。
2週	課題制作「回転」平面内での奥行きを表現する方法。コンテの作成、カメラワーク、タイミングの意識を持つ。プリプロダクション作業。
3週	課題制作「回転」レイアウト作成。【レイアウトとはコンテを基にした画面構図を一枚の絵として仕上げます(背景あり)】
4週	課題制作「回転」レイアウト作成。
5週	課題制作「回転」レイアウト作成。レイアウトを基準とした原画、背景の作成。
6週	課題制作「回転」原画を作成する。
7週	課題制作「回転」原画を作成する。
8週	課題制作「回転」原画を作成する。
9週	課題制作「回転」動画工程、原画の中割。
10週	課題制作「回転」動画工程、原画の中割。
11週	課題制作「回転」動画工程 原画の中割。および完成。アナログ作業の完成目標。スキャンの仕方。デジタル工程へ。
12週	課題制作「回転」クリスタを使用した着色作業。
13週	課題制作「回転」クリスタを使用した着色作業。
14週	課題制作「回転」AfterEffectsを使用した撮影方法。 仕上げ。ポストプロダクション作業。
15週	課題制作「回転」AfterEffectsを使用した撮影方法。 仕上げ。ポストプロダクション作業。 完成。

成績評価方法・基準

参加の積極性や自発的な意欲を持って授業に参加していた20%、課題の達成30%、完成20%、提出30%(課題での評価が主となります。)

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。CLIP STUDIOやAfterEffects等を使用した一部デジタル作業があります。対象ソフトの準備が必要です。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

rr3taey

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、TVアニメーション制作原画スタッフ経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業では平面内に奥行きを考えた絵を描く力が必要になりますのでその技法についての解説、理解が主となります。作業的な部分での遅れなどは各々課外で対応して頂く場合出てきます。(主に背景仕上げ等。)動く作品ほど各枚数も増えますので自主的な作業を行う意欲を必要とします。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本授業の評価は作品評価となります。期限内での作品提出がなされない場合は単位取得できません。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	アートディレクション	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	小林　元、鎌田　美智子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2022

授業概要

ブランディングや広告など幅広いデザインビジネスの観点から、アートディレクションの幅広い役割や必要な能力について学び、それぞれを探究していく。
また、プロジェクトと社会の間をつなぐ役目としてのコミュニケーションについて考察し、コンセプトワークを学び、その表現を実践していきます。

到達目標

・アートディレクションとは何かを理解する
・アートディレクションの役割とその発展について理解する
・コンセプトワーク、プレゼンテーションの基礎を理解する
・コミュニケーションのための表現を考え、制作できる

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

1週　オリエンテーション/アートディレクションとは
2週　アートディレクションのポジションと必要な能力
3週　ビジュアルコミュニケーションとは
4週　コンセプトの捉え方と考え方
5週　キービジュアル/写真と撮影
6週　空間と体験/サービスデザイン
7週　商品と体験/市場とインサイト
8週　コミュニケーションツール/企業ブランド
9週　映像・デジタルクリエイティブ/SNS
10週　広告/文字と言葉
11週　プレゼンテーション/企画書
12週　プロジェクトのデザイン①
13週　プロジェクトのデザイン②
14週　プロジェクトのデザイン③
15週　発表

成績評価方法・基準

授業毎のテーマごとに出題する毎回課題の評価および授業全体の学修内容を総合的に集約した最終課題により評価する。授業ごとに出題される課題に確実に取り組むことが重要である。課題30%、最終課題50%、課題への取り組み方など20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

新クリエイティブ資本論（リチャード・フロリダ）、How to Be a Graphic Designer without Losing Your Soul（Adrian Shaughnessy）

クラスコード

ajlxr6l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回ミニ課題シートを出しますので、復習と予習に役立ててください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

課題毎に定められた提出物をすべて期限までに完成させて提出することが求められます。
また、課題制作には、PCによる制作が必要になります。各アプリケーションの習熟にも努力するようにしてください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	絵画表現技法	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	松村　繁	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3023

授業概要

本科目では鉛筆表現・アクリル絵具のマチエール表現を用いてイメージ力や構成力を引き出していく。
各画材を使って偶発的な表情を引き出し、それらを基に制作を行なっていく事で、新しいイメージを発見し制作につなげる事ができる。実験精神を持った姿勢で制作すること。

到達目標

① ここでは平面作品に使用される描画材の中から、鉛筆・アクリル絵具を用いて、その特性について理解を深めることができる。
② 上記の画材特性と、各自のイメージを繋ぎ合せて表現の可能性を広げていくことができる。
③ 偶発的に表れたイメージをコントロールし、新しい発想で画面構成や空間を作り上げることができる。
④ 自己の表現、思考について発表することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週	課題1 各画材の組成・特徴・使用上の注意点を実際の作品資料を使って前提講義
2週	課題2 アクリル絵具によるマチエール制作①盛上げ材と各種素材の組み合わせでマチエールを作る
3週	課題2 アクリル絵具によるマチエール制作②マチエール上に透明色・不透明色を使い分けて色層を作る(前半
4週	課題2 アクリル絵具によるマチエール制作③マチエール上に透明色・不透明色を使い分けて色層を作る(後半)
5週	課題2 アクリル絵具によるマチエール制作④色層を削り出しながら偶発的表現の魅力を引き出す(完成作品の講評)
6週	課題3 鉛筆による素材転写を基に制作①　鉛筆による下地作りと様々な素材転写
7週	課題3 鉛筆による素材転写を基に制作② 転写された形から空間設定を考える
8週	課題3 鉛筆による素材転写を基に制作③ 空間の中にエレメントを構成する
9週	課題3 鉛筆による素材転写を基に制作④ エレメントに明暗表現を加え立体感を与える
10週	課題3 鉛筆による素材転写を基に制作④立体化したエレメントに質感表現を加える(完成作品の講評)
11週	課題4 自由制作① 鉛筆表現で自由なイメージを制作する
12週	課題4 自由制作② 作品の世界観を意識した構成を意識し制作
13週	課題4 自由制作③ 全体の明暗バランスを意識し制作
14週	課題4 自由制作④ 完成へ向けて制作
15週	課題4 自由制作⑤(完成作品の講評)

成績評価方法・基準

マチエールの魅力的な表情を引き出せている30%、転写表情を生かした作画が出来ている30%、
積極的実験的に新しいイメージ性を追求できている40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

uugchx3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

・授業時間内だけでは課題の理解を深めることは困難であるため、毎回の授業で学んだ手法を活かして授業時間外に制作を進めて次の授業に持参すること
・隔週でリモート作業を入れる場合があるので、対面授業の時には必ず課題を進めて持参すること。
・課題は定められた期限内に必ず提出すること

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・指定された道具類を必ず持参すること ・作業が複雑なため欠席や遅刻をすると作品を完成出来なくなる ・未完成作品の提出は受付けない。
・この授業の定員は20名である　定員を超えた場合は 1.過去に制作したアナログ平面作品画像3点　2.授業を受講したい理由レポート(800字以上)
以上の2課題を提出後、審査した上で20名の受講者を決定する

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	サウンドデザイン	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	大黒　淳一	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3024

授業概要

サウンドデザインの基礎から学び、現在の多様化したマルチメディア環境に於ける音表現の向上を目指す。主に音楽製作の現場で用いられる音楽ソフトウェアAbleton Liveや音楽プログラミングソフトのMax6、録音機器類を用いて音制作の基礎を習得してサウンドデザインの実践を行っていく。授業では映像に音や音楽を付ける製作などの課題を通して段階的に進み、発表及び相互批評会の場を設けながら行う。

到達目標

① 音や音楽に於ける創造力と制作手法を身につけることができる。
② 映像表現に於けるサウンドトラックの制作ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週　サウンドデザインのガイダンス
2週　音の基礎、音楽の基礎
3週　サウンドデザイン基礎①　Max6
4週　サウンドデザイン基礎②　Max6
5週　サウンドデザイン基礎③　Ableton Live
6週　サウンドデザイン基礎④　Ableton Live
7週　録音機材、レコーディング、音編集の基礎
8週　サウンドデザイン制作①　フィールドレコーディング
9週　サウンドデザイン制作②　シンセサイザーでの音作り
10週　サウンドデザイン制作③　サウンドロゴ制作
11週　サウンドデザイン編集①　MAD制作
12週　サウンドデザイン編集②　Mashup制作
13週　課題制作①　映像のサウンドトラック制作
14週　課題制作②　映像のサウンドトラック制作
15週　発表、講評会、まとめ

成績評価方法・基準

積極性30%、授業に対する理解度30%、制作物の完成度40%

教科書ソフト等

授業内で適宜、資料を配付します。音楽ソフトウェアはAbleton Liveを使用します。

参考書等

ノイマンピアノ（赤松正行＋左近田展康）2006 『2061：Maxオデッセイ音楽と映像をダイナミックに創造する！最高の開発環境を徹底解説』 東京：株式会社リットーミュージック ISBN-8456-1361-1

クラスコード

kjxdpqq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回、授業で学んだことや参考資料などを読んでノートにまとめて整理すること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽経験の有無は全く必要としません。積極的な授業姿勢を望みます。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	陶芸	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	安部　郁乃	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3025

授業概要

① 学生が自然の産物である粘土に触れ、その特性を理解し、想像力を刺激すると共に、表現の幅を広げ、今後の自己表現につなげることをめざす。
② 手びねりを中心に制作し、個性的でぬくもりを感じる表現をめざす。

到達目標

学生が授業を通して陶芸の基本的技術を習得し、土の手触り感や味わいといったものを感じながら自由な発想で作品化できる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)

授業計画

1週　道具および技法説明、粘土の特性を知る
2週　ひも作りでの制作
3週　前週の仕上げ(削り、絵付け)
4週　板作り・タタラ作りでの制作
5週　前週の仕上げ(削り、絵付け)
6週　素焼きの窯詰め
7週　施釉の説明
8週　施釉、本焼きのための窯詰め
9週　窯出し、作品鑑賞をふまえての制作
10週　前週の仕上げ(削り、絵付け)
11週　総合的要素を含めての自由制作
12週　前週の仕上げ(削り、絵付け)
13週　素焼きの窯詰め
14週　施釉、本焼きの窯詰め
15週　窯出し、講評

成績評価方法・基準

提出作品80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

weyz4lh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

一つの作品の完成までに幾つかの工程を経ての作業になって行くので次の工程へある程度デザイン的にイメージをまとめておく。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業はほぼ実技的作業になります。制作するにあたっての説明をよく聞き、作業は集中して取り組んでください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	Webデザイン	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	山本　武	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3026

授業概要

本授業では、Webサイトをデザインするための基礎的な技術を教授する。Webサイト制作の基本であるHTMLの習得から、Photoshopを使用したレイアウト作成、Dreamweaverを使用したコーディング、Webサーバへデータをアップロードしての情報開示まで、インターネットで情報を発信する為に必要な技術を習得させる。また、社会において、インターネットを通じてコミュニケーションをおこなうことの意義を意識し、学生各自が主体的に情報技術を活用できるようになることを目指して指導を行う。

到達目標

① WEBサイト制作のための基礎知識を身につける。
② WEBサイト制作のためのスキルを身につける。

学科のディプロマ・ポリシー

2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

授業計画

1週	WEBサイトの基礎知識
2週	HTMLの学習
3週	実習①　基本的なHTMLで作成するWEBサイト
4週	CSSの学習
5週	実習②　基本的なCSS＋HTMLで作成するWEBサイト
6週	WEBデザインの基礎知識
7週	Photoshopを用いたレイアウト作成
8週	Dreamweaverを用いたコーディング作成
9週	実習③　Photoshopを用いたWEBサイトデザイン
10週	実習④　WEBサイトの作成（9週でデザインしたWEBサイトの実制作）
11週	実習⑤　WEBサイトの作成（9週でデザインしたWEBサイトの実制作）
12週	WEBデザインとWEBマーケティング
13週	課題：企業サイトデザイン①　デザイン作成
14週	課題：企業サイトデザイン②　コーディング
15週	課題：企業サイトデザイン③　完成と講評

成績評価方法・基準

実習1の成果物提出10%、実習2の成果物提出10%、実習3の成果物提出10%、
実習4の成果物提出10%、課題の成果物提出60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。
※指定したソフト（Photoshop,DreamWeaver）とハード（ノートパソコン）は各人で手配してください

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5bft4np

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、WEB関連会社の代表としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

PhotoshopやIllustratorといったデザイン制作ツールの使い方については授業内では触れませんので、課題を行うのに必要なツールの修得は各人行っておいてください。また、授業は必ず前講義の振り返りからはじめますので各人復習を行っておくようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業の中で3回ワークとしての課題制作を行います。内容の企画についても評価対象となりますので、積極的な課題への取り組みを期待します。また、パソコンの操作や各種グフィックツールは講義取得のための必須技能となります。受講には指定したソフトPhotoshop,DreamWeaverとハード（ノートパソコン）の持参を条件とします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画(リトグラフ)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	關川 敦子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2028

授業概要

本授業では、版画の基礎を学ぶ実技科目として、リトグラフ(平版)の制作指導を行う。基本的な平版の原理を理解させ、版面への描写、製版の作業工程を教授する。前半は単色一版刷りの作品制作で上記の過程を体験し、後半は版の重なりによる混色(シアン、マゼンタ、イエロー+墨)を考えて四色四版刷りの作品を完成させる。リトグラフの特徴のひとつに、描画材料の違いによる様々な表現形態がある。油性クレヨン、ダーマトグラフなど、扱いやすい材料を使用し、基本的な描画と製版技術を習得することを目標とする。

到達目標

① 基本的な版画の種類・特徴、リトグラフ(平版)の歴史・原理についてその特色・他版種との違いを理解できる。
② 描版、製版、印刷という基本的な作業工程を身につけ、単色一版刷り作品を制作することができる。
③ 版の重なりによる混色等を考えながら、多色多版刷作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	リトグラフの歴史及び、凹版、凸版、平版、孔版など各版種の違い
2週	第1単色一版刷り作品の下図の準備、第1製版① 描版
3週	第1製版② 描版
4週	第2製版① 描版
5週	第2製版② 描版、刷り
6週	第2製版③ 刷り、仕上げ、講評
7週	四色四版刷り① 下図
8週	四色四版刷り② 下図、アルミ版(4枚)を用意する
9週	描版① 1版 イエロー
10週	描版② 2版 マゼンタ
11週	描版③ 3版 シアン
12週	描版④ 4版 墨
13週	製版、試し刷り、調整
14週	刷り、仕上げ
15週	作品講評

成績評価方法・基準

描画材料の特色を生かし、オリジナリティのある表現ができたか80%、
リトグラフの基本的な制作過程について理解できたか20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

drn3stp

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に配付資料をよく読んでおいてください。授業時間内での作業の遅れは、各自授業時間外に取り組んでおいて下さい。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

プレス機を使用しての作業は個別になるため、作業順序、時間などはクラスルームで連絡します。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画(シルクスクリーンA)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	森迫　暁夫	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2029

授業概要

本授業では、版画の基礎を学ぶ実技科目として、シルクスクリーン(孔版)の制作指導を行う。シルクスクリーンの特徴と、主に感光製版による多様な表現方法を紹介し、基礎的な技法を教授する。作品の制作を通して、学生各自は自分の表現に合った描画方法、技法の展開などを模索する。シルクスクリーンによる表現の特性を活かし、グラフィックデザイン、イラストレーション、絵画など、様々な表現へと展開させる応用力を身につけることを目的とする。

到達目標

学生は、シルクスクリーンの特徴を習得し、各自の表現の幅を広げる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	授業内容、授業計画、目標、評価、版の可能性(4版式について)
2週	(紙)課題①　平面を立体にする(正多角形の展開図の中から一つ選び、それをもとに原画をつくる)
3週	カラーカンプ(色プラン)
4週	版下制作(カッティング又は手描き)
5週	製版(感光製版)
6週	刷り①　1色目
7週	刷り②　ヒラーを使い1版目に加工を入れる
8週	刷り③　2色目
9週	刷り④　2版目にも加工を入れる
10週	組み立てと講評
11週	(布)課題②　トートバッグエスキース(持ち歩くことを意識して原画作成)
12週	版下制作(カッティング又は手描き)
13週	製版(布用乳剤を使用し感光製版)
14週	刷り
15週	まとめ(展示)と講評

成績評価方法・基準

作品の完成度40%、授業の内容に積極的に取り組むことができたか30%、
シルクスクリーンの特徴を理解し作品に反映させることができたか30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zscnuox

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

時間的にタイトな作業になるので、授業前に配付したプリントで各自の作業を必ず予習すること。また、プリントはあくまで参考程度のものなので、各自工程をまとめてくることも必要。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業で必ず用意するものは、作業着・ウエス(綿のもの)・空きビン・筆記用具(メモ帳も可)です。受講の人数は、原則としては制限はしていませんが、あまりに多い場合、後期に変更など考えてもらう場合もあります。また、グループワークも必要となる場合もあります。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	デッサンB	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	川口 浩	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2032

授業概要	「デッサンA」で学んだデッサンの基礎を次の段階に進めます。ここではモデルを使い人体の基本的な構造を学びます。クロッキーではモデルの動きを中心とした形の捉え方を、デッサンでは人体の構造を理解した上での立体表現を学びます。
到達目標	クロッキーでは様々な画材を習得し、人物の動きを中心とした形を表現することができる。デッサンでは人体の構造を知り質感・量感、空間を意識した立体的な表現ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
授業計画	1週 ガイダンス 授業内容・授業目的・評価方法・基礎デッサン(制作) 2週 デッサン ① 石膏像(木炭紙大画用紙)人体の形体とムーブマン・線と調子との関係 3週 デッサン ② 石膏像 4週 デッサン ③ 石膏像 量・質・空間の表現 5週 デッサン ④ 石膏像／講評会 6週 クロッキー① バレリーナ／複数の画材による表現／講評会 7週 デッサン ① 裸婦 8週 デッサン ② 裸婦 9週 デッサン ③ 裸婦／講評会 10週 クロッキー① 裸婦／人体の形体とムーブマン／講評会 11週 デッサン ① コスチューム／質感と色の表現 12週 デッサン ② コスチューム 13週 デッサン ③ コスチューム／講評会 14週 クロッキー① 裸婦／モデルと他のモチーフとの組み合わせ／講評会 15週 クロッキー① 裸婦／色彩を用いての表現／講評会
成績評価方法・基準	デッサンに必要な基本的表現ができているかどうか。与えられた時間を十分に使い、密度のある作品になっているか。提出作品80%、授業態度20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	画集・学生参考作品
クラスコード	fafiwmz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	使用画材の点検、確認、補充を怠らないこと。図書館で画集、技法書を見て研究すること。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	作品提出は原則として講評会当日とする。モデルのポーズ中はアトリエの出入りはできません。アトリエ内の制作環境を良好に保つよう各自協力しあうこと。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	イラストレーションA	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	會田　千夏	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2033

授業概要

本科目では、主にアナログ手法を用い、小説やエッセイなどに添えられる挿絵、絵本制作などの実践を通して、イラストレーションの役割を考えていきます。さまざまな絵本の鑑賞を通して、絵づくりのための画材の研究や、ターゲット別の描き分けについて一緒に考え、最終的に一冊の絵本を手製本で制作していきます。

到達目標

① 主観的イメージから視野を広げ、様々な角度から問題を観察し、表現に応用することができる。
② 主題を理解するための取材や、コミュニケーションを積極的に取ることができる。
③ 提出期限に間に合う制作プラン、描画方法、入稿方法を選ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	画材の紹介(アクリル絵の具、アルキド性樹脂絵の具と油絵の具の併用、パステル、水彩絵の具、色鉛筆など)
2週	画材研究①(絵本のイラストレーションから、さまざまな描き方を発見する。)
3週	画材研究②(①で発見した描き方を実践する。)
4週	画材研究③(前週の続き)
5週	画材研究④ 講評
6週	絵本研究① イラストレーションと絵本の歴史と、現代に続く役割について
7週	絵本研究② 目に見えないものを描く(音・香り・味覚・気配) 講評
8週	絵本研究③ 絵本制作実践 アイデア出し・ラフ (既存の物語・創作)
9週	絵本研究④ 絵本制作実践 ラフ・ダミー本
10週	絵本研究⑤ 絵本制作実践 ダミー本・原画制作
11週	絵本研究⑥ 絵本制作実践 原画制作
12週	絵本研究⑦ 絵本制作実践 原画制作・スキャン
13週	絵本研究⑧ 絵本制作実践 原画制作・スキャン・編集・プリント・製本
14週	絵本研究⑨ 絵本制作実践 原画制作・スキャン・編集・プリント・製本
15週	絵本研究⑩ 絵本制作実践 講評

成績評価方法・基準

作品の完成度30%、自己の作品に対するオリジナリティーの探求姿勢20%、制作の為の自発的なリサーチとコミュニケーション能力20%、提出期限を守れたかどうか30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pewihbq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自の表現手法や制作進度に合わせ、授業外での作業内容、作業量を各自考えて行うこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

画材・用紙等、各自の表現方法に応じて準備すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	イラストレーションB	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	堀 じゅん子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 3034

授業概要

多様なメディアで用いられるイラストレーションの概念や目的について学び、キャラクター、空間イメージ、イラストレーションによるポスターを、テーマに沿って制作する。それらの課題を通して、複数の画材やデジタル表現に触れ、イメージを視覚化する方法を探究してゆく。

到達目標

イラストレーションの発想方法や制作過程、制作手法について、アナログ表現、デジタル表現を用いながら、実制作を通して習得する。第1、第2課題では、想像上の生き物や風景空間を視覚化することで、想像力の幅を拡げ、イメージをイラストレーションとして表現する力を養う。また、第3課題ではポスターのメディアとしての特性を理解しつつ、制作したイラストをレイアウトしてみることによって、構想力・構成力・表現力を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	第1課題 想像上の生き物を表現する① 下絵の制作
2週	第1課題 想像上の生き物を表現する② 仕上げ・講評
3週	第2課題 空間表現を含むイラストレーションを制作する① アイディアスケッチ
4週	第2課題 空間表現を含むイラストレーションを制作する② 下絵の制作(ラフスケッチ)
5週	第2課題 空間表現を含むイラストレーションを制作する③ 下絵の完成と着彩
6週	第2課題 空間表現を含むイラストレーションを制作する④ 着彩
7週	第2課題 空間表現を含むイラストレーションを制作する⑤ 仕上げと講評
8週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション① アイディアスケッチ
9週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション② アイディアスケッチと原寸ラフ
10週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション③ 下絵の制作
11週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション④ 下絵の完成と着彩
12週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション⑤ 着彩
13週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション⑥ 仕上げとレタッチ
14週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション⑦ ポスターのレイアウト
15週	第3課題 ポスターのためのイラストレーション⑧ プレゼンテーションと講評

成績評価方法・基準

提出物による評価 70%、受講態度及び制作姿勢 30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。第三課題ではアドビイラストレーターを使用します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

gedvaqc

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員はイラストレーターとしても活動しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自の表現手法や制作進度に合わせ、授業外での作業内容、作業量を考えて行うこと。展覧会、画集、ウェブサイトなど、積極的に探し、参考にしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

画材・用紙等、各自の表現方法に応じて準備すること。場合により、展覧会等を授業で見学することもありうる。なお、本科目は履修希望者が多い場合、履修人数を制限します(「学生便覧」の「履修人数の制限」を参照)。履修人数や制限する場合の方法など詳細は、掲示板でお知らせします。

授業科目	メディアプラクティスA	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	今　義典、宮本　一行、菊池　有騎、山本　武	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2037

授業概要

本科目は、多彩な表現を行う上で必要な知識や技術を身につける。以下4つの異なるカテゴリーを設け、各自学習の方向性に見合った内容をそれぞれ選択すること。
〔1〕キャラクターデザイン は2Dアニメーションの基礎を学び、特に人体の動きに重きを置き作品1点を制作・提出する。
〔2〕写真表現 は一眼レフをベースに、スタジオや屋外での撮影、出力全般を学ぶ。一連の実習を通じデザインや広告写真で常識とされる知識を身につける。
〔3〕3DCG はソリッドモデラー、サーフェースモデラーの違いを紹介しながら課題をこなし、Blenderによる3DCGの基本をマスターする。
〔4〕Webデザイン はHTMLとはなにか？から始まりCSS＋HTMLでのサイト構築を行う。自作をベースにしたeポートフォリオの完成を目指し、サイトを完成させる。
【前半（第 7 週まで）】〔1〕キャラクターデザインか、〔2〕写真表現のいずれか1つを選択
【後半（第 8 週から）】〔3〕3DCGか、〔4〕Webデザインのいずれか1つを選択。

到達目標

本科目は、3年次専攻の選択及び将来の目標を見据えるためのものとする。学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業で学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想や創作、発信・構築ができるようになることを本授業の到達目標に掲げる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

	〔1〕キャラクターデザイン 〔菊池〕		〔2〕写真表現 〔今〕
1週	オリジナルキャラクター三面図、表情集制作、企画構想	1週	ガイダンス　機材・施設・作品紹介
2週	頭身、プロポーション、人体基礎、シルエット	2週	自然光　定常光（商品）
3週	表情集制作、頭部、俯瞰と煽り構図と感情表現	3週	自然光　定常光（人物）
4週	レイアウト。背景とキャラクター配置	4週	建築写真内観　デジタル・アナログ（三脚）
5週	レイアウト。対比と取り方とアイレベルの関係	5週	レンズ各種（屋外にて実習）自由課題①
6週	レイアウト。一点透視図法と二点透視図法	6週	撮影・出力①　自由課題②
7週	レイアウト完成。清書作業と完成作品提出	7週	出力②
	〔3〕3DCG 〔宮本〕		〔4〕WEBデザイン〔山本〕
8週	3DCGの基本的な考え方	8週	基本的なHTMLによるWebサイト①
9週	ソリッドモデラー基本操作	9週	基本的なHTMLによるWebサイト②
10週	サーフェイスモデラー基本操作	10週	CSS＋HTMLによるサイト①
11週	課題モデリング①	11週	CSS＋HTMLによるサイト②
12週	課題モデリング②	12週	ポートフォリオサイト①　デザイン作成
13週	課題モデリング③	13週	ポートフォリオサイト②　コーディング
14週	テクスチャ 、レンダリング	14週	ポートフォリオサイト③　コーディング
15週	まとめと講評	15週	ポートフォリオサイト④　コーディング　完成と講評

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題の意図を理解し積極的に取り組む姿勢40%

教科書ソフト等

Adobe CCおよびBlender　授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

宮本（lpf4eox）今（e5dm3xt）菊池(3hn2uri)　山本（kla2yde）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

技術的要件が多いので、各回毎に復習不明点の確認を行い次回に備えること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実習費を徴収します。前・後半の科目選択に関して事前に希望を取ります。対面・オンライン・オンデマンドの授業形態は事前にクラスルームで告知するので必ず授業毎に確認しておくようにしてください。ノートPCを持参すること。それぞれ使用するソフトが違います。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディアプラクティスB	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	島名　毅、小町谷　圭、城下　淑恵、門間　友佑	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	FA-MS 2038

授業概要

本科目は、多彩な表現を行う上で必要な知識や技術を4つのカテゴリーから学ぶ。
〔1〕ファッション、〔2〕樹脂モデリング、〔3〕ゲームデザイン、〔4〕映像といった異なるジャンルを設け、各自学習の方向性に見合った内容をそれぞれ選択し、受講すること。
【前半（第8週まで）】〔1〕ファッション、または〔2〕樹脂モデリングのいずれかを選択
【後半（第9週から）】〔3〕ゲームデザイン、または〔4〕映像のいずれかを選択
〔1〕と〔3〕、〔1〕と〔4〕、〔2〕と〔3〕、〔2〕と〔4〕の4つの組み合わせの中から1つ選択して受講すること。
なお曜日が複数分かれているので、履修登録時に担当教員に確認すること。

到達目標

本科目、3年次専攻の選択及び将来の目標を見据える指針とする。
学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業を通して学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想、創作、発信のワークフローが構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）

授業計画

	〔1〕ファッション　〔城下〕		〔2〕樹脂モデリング　〔島名〕
1週	立体裁断による型出し①	1週	原型モデリング①
2週	立体裁断による型出し②	2週	原型モデリング②
3週	立体裁断による型出し③	3週	原型モデリング③
4週	立体裁断による型出し④	4週	シリコン型制作①
5週	縫製①	5週	シリコン型制作②
6週	縫製②	6週	シリコン型制作③
7週	縫製③	7週	樹脂流し込み
8週	仕上げ・講評会	8週	仕上げ・講評会
	〔3〕ゲームデザイン　〔小町谷〕		〔4〕映像　〔門間〕
9週	フレームワーク①	9週	カメラワーク
10週	フレームワーク②	10週	企画・構成
11週	素材制作①	11週	撮影①
12週	素材制作②	12週	撮影②
13週	シーン制作①	13週	編集①
14週	シーン制作②	14週	編集②
15週	まとめ	15週	まとめ

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題の意図を理解し積極的に取り組む姿勢40%

教科書ソフト等

Adobe Creative Cloud導入のこと。その他のソフトウエアは目的に応じて利用します。
授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ファッション：rgtytls　樹脂：hm4bisz　ゲームデザイン：gg6rjia　映像：hkcerjn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

技術的要件が多いので、各回毎に復習、不明点の確認を行い、次回に備えること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

PC持参必須。予備知識は必要としません。前・後半の科目選択に関して、事前に希望を取ります。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	統計学応用	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	中村 聖	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2201

授業概要

相関係数やクロス表といった2変量の基礎的な分析方法を理解したうえで、多変量解析の分析手法や分析結果の読み取り方を習得することを目指し、社会事象の背後にあるより複雑な因果のメカニズムを多変量の関係から説明できるようになる。

到達目標

①統計分析に関する基礎的な用語や概念について理解する。
②授業で取り扱う分析手法を理解し、統計ソフトを使用して目的に応じた分析ができるようになる。
③分析結果の解釈、および、報告を想定した結果の整理を適切に行うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	1変量の記述統計の基礎 変数の分類と記述統計量 【変数の分類と記述統計量の復習】
2週	2変数の関連の記述統計① 量的・質的変数の相関関係 【クロス表，相関係数の復習】
3週	2変数の関連の記述統計② 変数間の関連の有無に関する分析 【3重クロス表の復習】
4週	2変数の関連の推定と検定① 母集団と標本 【相関係数のt検定と区間推定に関する課題】
5週	2変数の関連の推定と検定② クロス表の独立性に関する検定 【カイ二乗検定に関する課題】
6週	2群の平均値の差の検定 2つのグループの平均値の比較 【平均値の差の検定に関する課題】
7週	分散分析① 3つ以上のグループの平均値の比較【1要因分散分析に関する課題】
8週	分散分析② 独立変数が2つある分散分析【2要因分散分析に関する課題】
9週	重回帰分析① 回帰分析の基礎【回帰分析に関する課題】
10週	重回帰分析② ダミー変数，交互作用効果【交互作用効果に関する課題】
11週	重回帰分析③ 階層的重回帰分析【階層的重回帰分析に関する課題】
12週	ロジスティック回帰分析① 二項ロジスティック回帰【二項ロジスティック回帰に関する課題】
13週	ロジスティック回帰分析② 多項・順序ロジスティック回帰【多項・順序ロジスティック回帰の課題】
14週	ログリニア分析① ログリニア分析の基礎【ログリニア分析に関する課題】
15週	因子分析① 因子分析の基礎【因子分析に関する課題】

成績評価方法・基準

期末課題50%、授業で実施する課題50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『調査データ分析の基礎－JGSSデータとオンライン集計の活用－』 岩井紀子・保田時男著 有斐閣

クラスコード

rrum7bo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。
各回の課題については、次回の授業時に解説を行う。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」「社会調査アシスタント」を取得するための領域Ⅱ科目に該当しています。

授業科目	経営学応用(経営の組織と戦略)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	太田 稔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2303

授業概要

皆さんは、これまで多くの組織の中で生活してきました。幼稚園や保育園にはじまり小学校、中学校、高校という組織に所属し、部活やサークル、学習塾など何かしらの集団に所属していたと思います。大学生になってからも、同じゼミのメンバーや同級生であったり、部活やアルバイトで新たな人々との中で新たなる活動に取り組んでいるのでは無いでしょうか。このように、学生生活をしているといつの間にか所属している組織ですが、社会人になると自分はその組織の一員となります。本授業では、社会人になるために必要な組織のあり方と企業戦略について学びます。

到達目標

①組織論の基礎的な知識から理解し説明できるようになること。
②組織が戦略にどのように影響しているのを検討できるようになること。
③課題を通じて、企業や経営についての情報収集と分析の基礎的なことができること。
④学んだ知識を通じて社会人になってからの自分の行動を考えることができるようになること。
⑤企業組織として組織と戦略の強みを生み出すことができるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション、組織と戦略とは
2週	なぜ？組織で働くのか(イノベーションの主体としての組織)
3週	経営管理とは？意思決定と組織デザイン
4週	組織文化とは
5週	組織とモチベーション、マズローの5段階欲求
6週	マネジャーの仕事
7週	コミュニケーションと意思決定
8週	グループとリーダーシップの基礎知識
9週	戦略論について、事業戦略の考え方
10週	戦略論の分類について
11週	組織論から考えるワークショップデザイン
12週	ダイバーシティ・マネジメントとネットワーク組織
13週	ネットワーク組織とケース分析
14週	グループごとに発表
15週	総括とまとめ、最終課題発表

成績評価方法・基準

出席20%、事前・事後課題30%
授業貢献度(発言・質問・発表など)20%、最終レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

鈴木秀一(2002)『入門経営組織』新世社、小樽商科大学ビジネススクール編(2013)『MBAのための組織行動マネジメント』同文舘出版

クラスコード

nyttzio

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための領域Ⅰ科目に該当しています。

※経営学入門を履修していなくても本科目を受講できます。

授業科目	憲法A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	盛永　悠太	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2403

授業概要	本授業は、憲法学のうち「基本的人権」の分野について、基礎的な知識を習得したうえでその理解を深めることを目的とする。具体的には、人権という概念の意義、日本国憲法が規定する諸々の基本的人権の内容、現代社会における様々な人権問題などについて、総合的な講義を行う。授業内容のレベルとしては、公務員試験（例えば市役所上級など）対策になりえる程度を想定している。なお、後期の「憲法B」も履修することを強く勧める。
到達目標	・「基本的人権」の考え方やその内容を理解することができる。 ・現実社会で生じている様々な問題を、憲法学の観点からとらえることができるようになる。 ・法学的思考の基礎を身につけることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　授業ガイダンス／「憲法」の意味 2週　人権総論① ～人権の歴史、観念、分類～ 3週　人権総論② ～人権の享有主体～ 4週　人権総論③ ～日本国憲法と「基本的人権」～ 5週　包括的人権 6週　法の下の平等 7週　人身の自由／裁判を受ける権利 8週　生存権と社会保障 9週　教育を受ける権利／職業選択の自由 10週　居住・移転の自由／財産権 11週　思想・良心の自由 12週　信教の自由と政教分離 13週　表現の自由① 14週　表現の自由② 15週　授業のまとめ
成績評価方法・基準	平常点（出席・課題提出（Googleフォーム上での簡単な小テスト））40%、定期試験60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。なお下記の参考書等で挙げている文献は、初学者の方にも分かりやすく記述がされているものや、判例・資料や図なども豊富に掲載されているものです。興味のある方は、授業の前後に該当範囲を読むことで内容への理解が深まると思います。
参考書等	毛利透『グラフィック憲法入門　第2版』(新世社、2021年)　斎藤一久・堀口悟郎編『図録日本国憲法　第2版』(弘文堂、2021年) 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1　人権　第8版』(有斐閣、2022年)
クラスコード	yc3kf6d
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	なし
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	【予習】授業の前に配布するレジュメ・資料をよく読んでおくこと。読んでいてわからなかった部分があればチェックしておくこと。 【復習】過去の授業内容との関連性を意識しながら、ノートで整理すること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	講義に関するレジュメ・資料や動画はGoogle Classroomで配布します。1～2回ほど受講者全員にリアクションペーパーをお願いする予定ですが、授業内容に関する個別の質問や要望はその都度メール等で受け付けます。

授業科目	憲法B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	盛永　悠太	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SC-MS 2404

授業概要	本授業は、憲法学のうち「統治機構」及び「憲法総論」の分野について、基礎的な知識を習得したうえでその理解を深めることを目的とする。具体的には、日本国憲法が規定する統治機構の基本原理、国会・裁判所・内閣等から成る統治システム、憲法上の地方自治論等について、総合的な講義を行う。授業内容のレベルとしては、公務員試験（例えば市役所上級など）対策になりえる程度を想定している。なお、前期の「憲法A」も履修することを強く勧める。
到達目標	・「統治機構」の仕組みやその構造を理解することができる。 ・現実社会で生じている様々な問題を、憲法学の観点からとらえることができるようになる。 ・法学的思考の基礎を身につけることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　授業ガイダンス／日本国憲法制定史 2週　権力分立について ～「三権分立」？～ 3週　国会① ～選挙と参政権～ 4週　国会② ～唯一の立法機関～ 5週　国会③ ～両院制、国会・議院の権限～ 6週　内閣① ～議院内閣制～ 7週　内閣② ～内閣の権限・役割～ 8週　内閣③ ～内閣と諸々の行政機関～ 9週　裁判所① ～司法権～ 10週　裁判所② ～三審制と裁判員裁判～ 11週　裁判所③ ～違憲立法審査権～ 12週　地方自治 13週　国民主権と天皇制 14週　平和主義／憲法改正 15週　授業のまとめ
成績評価方法・基準	平常点（出席・課題提出（Googleフォーム上での簡単な小テスト））40%、定期試験60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。なお下記の参考書等で挙げている文献は、初学者の方にも分かりやすく記述がされているものや、判例・資料や図なども豊富に掲載されているものです。興味のある方は、授業の前後に該当範囲を読むことで内容への理解が深まると思います。
参考書等	毛利透『グラフィック憲法入門　第2版』(新世社、2021年)　斎藤一久・堀口悟郎編『図録日本国憲法　第2版』(弘文堂、2021年) 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2　統治　第8版』(有斐閣、2022年)
クラスコード	mggjii6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	なし
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	【予習】授業の前に配布するレジュメ・資料をよく読んでおくこと。読んでいてわからなかった部分があればチェックしておくこと。 【復習】過去の授業内容との関連性を意識しながら、ノートで整理すること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	講義に関するレジュメや動画はGoogle Classroomで配布します。1～2回ほど受講者全員にリアクションペーパーをお願いする予定ですが、授業内容に関する個別の質問や要望はその都度メール等で受け付けます。

授業科目	民法A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2405

授業概要

我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の総則部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。

到達目標

将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、民法の学び方
2週	制限行為能力者1
3週	制限行為能力者2
4週	失踪宣告
5週	法人
6週	物
7週	意思表示1
8週	意思表示2
9週	代理1
10週	代理2
11週	無効・取消し
12週	条件・期限
13週	時効1
14週	時効2
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

学期末試験70%、毎回の講義内容に則して出題される小テスト30%

教科書ソフト等

鶴田秀樹『公務員試験最初でつまずかない民法 I』実務教育出版2019年，大石眞ほか編『デイリー六法』三省堂2022年

参考書等

窪田 充見ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』第9版，有斐閣，2022年

クラスコード

esny7yx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。「民法A,B,C,D」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開される。

授業科目	民法B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2406

授業概要

我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の物権法部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。この講義では、民法のうち、民法第2編物権（民法第１７５条から第３９８条の2まで）に規定されている制度（物権、担保物権等）についてを取り扱う。

到達目標

将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	物権の性質と効力
2週	不動産物権変動1
3週	不動産物権変動2
4週	即時取得
5週	占有
6週	所有権
7週	共有
8週	用益物権
9週	担保物権の種類と性質
10週	質権
11週	抵当権1
12週	抵当権2
13週	抵当権3
14週	譲渡担保
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

学期末試験70%、毎回の講義内容に則して出題される小テスト30%

教科書ソフト等

鶴田秀樹『公務員試験最初でつまずかない民法 I』実務教育出版2019年，大石眞ほか編『デイリー六法』三省堂2022年

参考書等

窪田 充見ほか編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』第9版，有斐閣，2023

クラスコード

g2ejgmd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

事前配付されるレジュメを手掛かりに、教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。「民法A,B,C,D」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開される。

授業科目	民法C	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3407

授業概要	我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の債権総論部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。「民法A,B,C,D」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開されるが、ABCDの順に履修しないでCから受講することも可能である。
到達目標	将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス・民法の学習の仕方 2週　債権法の特徴・構造 3週　債権の性質と種類 4週　債務不履行① 5週　債務不履行② 6週　債務不履行③、債権者代位権① 7週　債権者代位権② 8週　詐害行為取消権 9週　連帯債務 10週　保証債務 11週　債権譲渡① 12週　債権譲渡② 13週　債権の消滅原因① 14週　債権の消滅原因② 15週　まとめと到達度チェック
成績評価方法・基準	学期末試験70%、毎回の講義内容に即して出題される小テスト30%
教科書ソフト等	鶴田秀樹『公務員試験最初でつまずかない民法 II』実務教育出版2019年，大石眞ほか編『デイリー六法』三省堂2022年（六法は過年度のものも可）
参考書等	窪田 充見ほか編『民法判例百選II 債権』第9版，有斐閣，2023年
クラスコード	lzahqug
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。

授業科目	民法D	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3408

授業概要	我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の債権各論・親族・相続部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。「民法A,B,C,D」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開されるが、ABCDの順に履修しないでDから受講することも可能である。
到達目標	将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス・民法の学習の仕方 2週　債権法・家族法の構造 3週　契約総論 4週　贈与・売買 5週　消費貸借・使用貸借・賃貸借 6週　その他の典型契約 7週　事務管理・不当利得 8週　不法行為① 9週　不法行為② 10週　婚姻 11週　親子 12週　相続① 13週　相続② 14週　遺言・遺留分 15週　まとめと到達度チェック
成績評価方法・基準	学期末試験70%、毎回の講義内容に即して出題される小テスト30%
教科書ソフト等	鶴田秀樹『公務員試験最初でつまずかない民法 II』実務教育出版2019年，大石眞ほか編『デイリー六法』三省堂2022年（六法は過年度のものも可）
参考書等	窪田 充見ほか編『民法判例百選II 債権』第9版，有斐閣，2023年
クラスコード	kpo7vhy
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と 復習をしてください。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。

授業科目	行政法A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	岸本　太樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3412

授業概要	公益（又は公共の福祉）の維持・増進を目的として活動する国又は地方公共団体の「行政活動」に焦点を当てる。行政活動は、公益を実現するために、時として私たち個々人（私人）の権利・利益（私益）を制約することがある（憲法上職業選択の自由が認められているからといって、医療行為を行う知識と技能を身につけていない者が医師や看護師としての活動を行うことは禁止されている）。この授業では、実際の行政活動に焦点を当て、その種類や具体例を説明しつつ、公益実現とい大義名分のもと、個々人の私益を制約することもある国や地方公共団体の行政活動が、どのような法原則に従いながら行われなければならないのかについて、説明する。
到達目標	法律による行政の原理、行政の公益適合性の原則など、行政活動が行われる上で遵守されるべき原理原則の内容を正確に理解するとともに、国や地方公共団体が日々行っている数々の行政活動が、法律や条例との関係で、果たして適法に行われているか、本当に公益実現という目的に適っているかを考えることができるようになること。これが本講義の到達目標である。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　国家による社会管理（行政）の意義、内容。行政「法学」の存在意義 2週　法律による行政の原理とは何か。存在意義と内容 3週　行政活動を統制する法源（法の種類）　行政立法（1）法規命令　政令・省令など 4週　行政活動を統制する法源（法の種類）　行政立法（2）行政規則 5週　行政行為の概念　許可・特許・認可など 6週　行政行為の特殊な効力（1）　公定力とは何か 7週　行政行為の特殊な効力（2）不可争力・不可変更力・自力執行力とは何か 8週　行政裁量論（1）　行政裁量の概念、存在理由 9週　行政裁量論（2）　裁量行為の司法審査（裁量権の逸脱・濫用とは何か） 10週　行政裁量論（3）　裁量行為の司法審査　最高裁判例の動向 11週　行政行為の取消しと絶対無効 12週　行政上の義務履行確保 13週　非権力行政活動（1）行政指導とは何か 14週　非権力行政活動（2）行政上の契約 15週　行政計画
成績評価方法・基準	定期試験により評価する。
教科書ソフト等	畠山武道編『はじめての行政法（第4版）』三省堂2023年
参考書等	
クラスコード	eept3gq
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	北海道行政不服審査会委員　札幌市都市計画審議会委員
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	毎回授業終了時に指定テキストの該当箇所をアナウンスする。次回授業までにそれを読み、論点を復習することを求める。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	他の受講生に迷惑をかける行為に対しては厳しく対処する。理解できない箇所は、恥ずかしがらず、積極的に質問してほしい。

授業科目	行政法B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	岸本　太樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SC-MS 3413

授業概要	国又は公共団体の行政活動は、法律適合性の原則（法律による行政の原理）及び行政の公益適合性の原則に従わなければならない。本講義は、行政活動が、これら二大原則に違反して違法または不当に行われ（これを瑕疵（かし）ある行政活動という）、その結果、権利又は利益等の私益が違法に侵害された場合に、それが「どのような法制度のもとで救済されるか」について説明する。
到達目標	行政裁判制度を規律する「行政事件訴訟法」、「国家賠償法」の制度概要、並びに、行政不服審査制度を規律する「行政不服審査法」の制度概要を体系的に把握し、新聞やニュース等で報道される数々の行政裁判の動向に興味を持つようになること。これが本講義の到達目標である。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　導入　行政救済制度の全体像 2週　行政事件訴訟法の構造　主観訴訟と客観訴訟の区別 3週　主観訴訟（1）抗告訴訟　行政庁の公権力行使に対する不服の訴訟としての抗告訴訟 4週　主観訴訟（1）抗告訴訟　取消訴訟の原告適格（誰が訴訟を提起できるのか） 5週　主観訴訟（1）抗告訴訟　取消訴訟の原告適格（最高裁判例の動向） 6週　主観訴訟（1）抗告訴訟　取消訴訟以外の抗告訴訟（不作為違法確認訴訟、義務づけ訴訟） 7週　主観訴訟（1）抗告訴訟　取消し訴訟以外の抗告訴訟（差止訴訟） 8週　主観訴訟（2）当事者訴訟　当事者訴訟の利用局面　概観 9週　主観訴訟（2）当事者訴訟　最高裁判例の動向分析 10週　客観訴訟　客観訴訟（民衆訴訟・機関訴訟）とは何か（主観訴訟との違い） 11週　国家賠償（1）　国家賠償法第1条 12週　国家賠償（1）　国家賠償法第1条　最高裁判例の動向 13週　国家賠償（2）　国家賠償法第2条　営造物の設置管理の瑕疵 14週　国家賠償（2）　国家賠償法第2条　営造物の設置管理の瑕疵をめぐる最高裁判例の動向 15週　行政不服審査制度　行政不服審査法
成績評価方法・基準	定期試験により成績評価を行う。
教科書ソフト等	畠山武道他編『はじめての行政法（第4版）』三省堂2023年
参考書等	
クラスコード	rpcfxt3
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	北海道行政不服審査会委員
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	毎回授業終了時に指定テキストの該当箇所をアナウンスするので、それを読み復習することを求める。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	他の受講生に迷惑となる行為に対しては厳格に対処する。わからない箇所があれば、恥ずかしがらず、積極的に質問する姿勢を求める。

授業科目	ミクロ経済学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	堤 泰一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2301

授業概要

ミクロ経済学、市場論の形成過程を学びつつ、現代社会におけるミクロ経済学の有用性を検討します。

到達目標

ミクロ経済学の手法をとおして、新聞等で報道される問題を経済学的な視点から考えられるようになることを目的として授業を行います。具体的には、
①ミクロ経済学の基礎的な知識を身に着ける
②身に着けた知識をベースとして、現実の事象について考える
③身に着けた知識を用いて課題を抽出できる
この3点を到達目標として授業を行います。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	イントロダクション
2週	市場論の全体像
3週	オーストリア学派の限界効用理論
4週	オーストリア学派の歴史的制約
5週	ワルラスの限界効用理論と一般均衡論
6週	ローザンヌ学派の一般均衡論
7週	パレートの静的均衡状態仮説
8週	一般均衡と価値論
9週	ローザンヌ学派の歴史的制約
10週	ケンブリッジの新古典学派
11週	マーシャル経済学の動的一般理論的性格
12週	ピグーの厚生経済学
13週	所与とされた現代のミクロ経済学
14週	総復習
15週	試験とまとめ

成績評価方法・基準

各回の授業終わりに小テストを行います(60%)小テストは、次の授業の最初にフィードバックを行います。
第15回目の授業においてまとめのテストを行います(40%)

教科書ソフト等

なし。授業内で適時、資料を配布します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

njlsxtw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の内容を復習し、疑問に思った点やわからなかった点をまとめてみましょう。
各回の積み重ねが大事です。毎回きちんと知識を定着させ、次の授業に臨みましょう。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業科目	マクロ経済学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	堤 泰一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2302

授業概要

国民所得の基本概念と金融・財政政策が国民所得にどのような影響を及ぼすのかを学びます。

到達目標

マクロ経済学の視点をとおして、新聞等で報道される景気、金融・財政政策の意義や効果について考える力を身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	イントロダクション
2週	マクロ経済学の全体像
3週	国民所得と三面等価
4週	レオンチェフの経済連関表
5週	ケインズの国民所得論
6週	消費性向と投資乗数
7週	乗数理論と信用創造
8週	IS-LM分析
9週	財政政策とクラウディングアウト
10週	金融政策
11週	総需要・総供給関数
12週	景気循環と経済成長
13週	リカードの比較生産費説とリストの関税論
14週	総復習
15週	試験とまとめ

成績評価方法・基準

各回の授業終わりに小テストを行います(60%)。
第15回目の授業において、まとめテストを行います(40%)。

教科書ソフト等

なし。授業内で適時、資料を配布します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

gd2m5eu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の内容を復習し、疑問点をまとめてみましょう。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業科目	ジェンダーの社会学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	梶井　祥子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2602

授業概要	先進諸国においてジェンダーやセクシュアリティの考え方が登場した社会的背景について学び、男女間の不平等問題について理解を深める。多様な言説を通して「ジェンダー」についての正しい理解を身につける。現実世界における事象から、ジェンダー平等について具体的に考えていく。各自の「気づき」を発表し合い、ディスカッションを通して複数の視点を実践的に学びます。
到達目標	① ジェンダーとセクシュアリティを理解し、実社会の問題解決力の基礎的能力を得る。 ② ジェンダーについての視点を多角的に捉えることができる。 ③ ジェンダー問題について、解決方法を考えられる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　オリエンテーション：＜性別＞の根拠 2週　隠れたカリキュラム：教育現場における性役割の再生産 3週　＜同性婚＞について考える：婚姻制度の変遷 4週　＜女子力＞と＜男子力＞：メディアがつくる性役割 5週　社会の中の＜性別役割＞ 6週　＜フェミニズム＞は何を目指してきたか 7週　＜男性学＞の登場 8週　LGBTQについて考える 9週　言葉とジェンダー・センシティブ 10週　家事とジェンダー 11週　離婚とジェンダー 12週　＜ケア＞とジェンダー 13週　兵士とジェンダー 14週　グローバル化とジェンダー構造 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業中のリアクションペーパー・GW（グループワーク）60%、レポート30%、積極性10%
教科書ソフト等	なし。
参考書等	なし。授業内で指示します。＊各週のテーマは進行状況によって変更されることもあります。
クラスコード	6t3knxq
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に配付資料をよく読み、授業後はノートを整理して下さい。さらに、ニュース、新聞などから常に情報を得ること。授業での発表があります。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	GW（グループワーク）に積極的に参加してほしい。特に質問や意見は大歓迎。講義の際にパワーポイントやVTRも使用します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	公共の倫理	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	集中	講義形態	講義
担当教員	多田　光宏	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2501

授業概要

「公共」においては、多様な倫理的な問題があり、私的な事柄が公共（性）と関わる場面では、価値観の衝突が生じる。特に応用倫理学の扱う諸問題においては、個人的な価値観と社会通念上の価値観が対立することは少なくない。このような対立に直面した場合に、どのようなことに注意し、どのようなことを考えなくてはならないのか、それを本講義では探っていく。
このような探求を通じて、私的な事柄と公共的な事柄との関係について、学生が自分自身の知見を広げ、自分自身の考えを深められるようになることを目的とする。

到達目標

学生が、応用倫理学の扱う問題の基本的な知識を身につけることによって、自分自身の知見を広げ、自分自身の考えを深められるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション （授業の方法・内容）
2週	公共とは何か①
3週	公共とは何か②
4週	生命倫理と公共性①（臓器移植）
5週	生命倫理と公共性②（臓器移植）
6週	生命倫理と公共性③（臓器移植）
7週	生命倫理と公共性④（着床前診断）
8週	生命倫理と公共性⑤（着床前診断）
9週	生命倫理と公共性⑥（着床前診断）
10週	生命倫理と公共性⑦（尊厳死）
11週	生命倫理と公共性⑧（尊厳死）
12週	生命倫理と公共性⑨（尊厳死）
13週	環境倫理と公共性⑩
14週	環境倫理と公共性⑪
15週	講義内容のまとめ

成績評価方法・基準

レポート70%、平常点30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

加藤尚武 『応用倫理学のすすめ』 丸善ライブラリー 1994年

クラスコード

p2kkeqq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

講義で扱う内容を自分自身の問題として受け止め、ニュース等も視聴し、主体的に考える時間をもつように努めてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

意欲的な受講態度を期待します。

授業科目	民法入門	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	南 知里	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2401

授業概要

社会生活を送る中で必要不可欠な契約について、身近な事案を例に学習する。契約締結にあたり、どのような問題・リスクが生じ得るかを想定するための基礎知識の習得、法的思考の習慣の形成を促す。

到達目標

民法の基礎知識が社会生活の具体的場面でどのように必要とされているかを学ぶ。本講義をとおして、社会生活を営む中で発生する様々な法的関係、法的リスクを認識し、法的観点から世の中の事象をとらえるための基礎的な知識の習得を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、民法概観
2週	交通事故の法的責任
3週	インターネット上の誹謗中傷に関する法的責任
4週	売買契約にまつわる法的責任①売買契約と債務不履行
5週	売買契約にまつわる法的責任②商品表示と契約不適合
6週	売買契約にまつわる法的責任③通信販売
7週	習い事に関する法律関係
8週	物の貸し借り～無償の場合
9週	お金の貸し借り
10週	クレジット契約・定型約款
11週	住居にまつわる法律関係①賃貸
12週	住居にまつわる法律関係②所有
13週	結婚・離婚の法律関係
14週	相続
15週	振り返り

成績評価方法・基準

講義毎に行う小テスト50%、最終講義におけるテスト50%

教科書ソフト等

潮見佳男・中田邦博・松岡久和編『18歳からはじめる民法（第4版）』法律文化社　2019年
鎌田薫ほか編『デイリー六法』三省堂　2022年

参考書等

遠藤研一郎著『はじめまして、法学』ウェッジ　2019年、松久三四彦・遠山純弘・林誠司著『オリエンテーション民法』有斐閣　2020年、増成牧ほか『ナビゲート民法　契約社会を賢く生きるための14章』大路書房　2019年

クラスコード

5goa3qb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

指定範囲の教科書、参考書、レジュメを読み込むこと、講義毎に行う小テストの復習を行い理解を深めること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業科目	コミュニティとまちづくり	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	仙波　希望	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2711

授業概要

1970年代以降、日本では「コミュニティ」という概念が広く流布されてきた。2011年の東日本大震災を機に、さまざまな政策やメディアをつうじて「コミュニティ」の必要性が説かれている一方、「コミュニティ」という言説のインフレーションを指摘する研究もある。本講義では、主にまちづくり・都市の視点から「コミュニティ」に関する理論・事例を多角的に検討していく。

到達目標

【1】共同体や関係性に関する基礎的事項について説明できる。
【2】独立した個人が新たなコミュニティを創造するという考えを批判的に議論することができる。
【3】コミュニティにおける多様性を理解した上で、地域課題に対する意見をもつことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	イントロダクション
2週	コミュニティにおける理論的展開(1)：地域・家族と共同社会？
3週	コミュニティにおける理論的展開(2)：ヤング、バウマンの議論から
4週	サードプレイスとコミュニティ
5週	郊外とコミュニティ：「団地」に着目して
6週	災害ユートピア：自然発生的コミュニティ
7週	中間レポート：ピアレビュー
8週	コミュニティにおける理論的展開(3)：明日の田園都市
9週	コミュニティにおける理論的展開(4)：想像の共同体？
10週	エスニシティとコミュニティ
11週	コミュニティとしてのスラム
12週	町内会の今と昔
13週	コミュニティはデザイン可能か？
14週	最終レポート：ピアレビュー
15週	まとめ・レポート提出

成績評価方法・基準

授業への参加の度合い（プレゼン・ディスカッション・コメントシートの内容・取り組み）30%
中間レポート30%、最終レポート40%

教科書ソフト等

講義で取り扱う内容に関するPDFを随時Googleクラスルームにアップする。

参考書等

講義内で随時提示する。

クラスコード

3kb2r5v

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにするので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・各種Webサービスと QRコードによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート&ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する
上記のように一方向の知識伝達型ではない、双方向型の講義スタイルを採用するため、積極的なコメントやディスカッションへの参加を受講者に求める。

授業科目	地域社会と政治	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	鹿谷　雄一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2502

授業概要

地域社会が抱える課題について、地方政治と関わる観点から理解する。
地域社会の課題は、多様化・複雑化し、知事・市町村長（首長）や議員（地方議会）のみで解決できるものではない。これらに地方政治の運営を委任している住民や企業（市場）も加わって取り組むことで、安定した地域社会を実現することができる。地域社会における具体的な問題の所在と解決方策の事例を踏まえながら、中長期的な視点をもって考察することによって地域社会と地方政治の関係の理解を深める。

到達目標

1. 地域社会が抱える諸課題について理解し、説明することができる。
2. 地域社会の活動を支える担い手（アクター）について説明することができる。
3. 地域社会が抱える諸課題の解決に必要な取り組みや方策について、社会の一員として考えを示すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	イントロダクション：「新しい公共」の担い手
2週	人口問題：少子化・高齢化と外国人
3週	地方政治：選挙と担い手不足
4週	地方行政：行政の守備範囲
5週	政府組織：権力分立と地域組織の役割
6週	住民組織：非営利組織の役割
7週	民間企業：地域における社会的責任
8週	危機管理：大規模災害と地域社会
9週	地域福祉：共助と公助による福祉
10週	生活環境：ゴミをめぐる問題
11週	環境問題：エネルギーをめぐる問題
12週	地域交通：地域住民の足の確保
13週	住宅問題：まちづくりと移住促進
14週	観光振興：観光資源の創造と活用
15週	授業内期末試験／持続可能な地域社会：住民の役割の高まり

成績評価方法・基準

小課題25%、小テスト20%（2回：5週と9週）、レポート25%、期末試験30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で提示します。

クラスコード

rqc3rwj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

小課題は授業内容を踏まえて調べまとめるもので、授業資料の見直しをおこない取り組むこと。新聞・ニュースに日々接するとともに、興味のある分野について情報を収集すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

小課題は関心のある特定の市町村の状況について継続して取り組むことになります。小テストの実施、小課題・レポートの提出、これらのフィードバックのほか、授業資料の配付はGoogle Classroomでおこないます。

授業科目	会計学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	岩橋　忠徳	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2301

授業概要

企業会計を株主・投資家などの企業外部にいる人を対象にする会計（財務会計）と経営者・管理者などの企業内部にいる人を対象とする会計（管理会計）とに分け、各領域において会計が果たしている意義や役割について学習する。賃借対照表と損益計算書の読み方、複式簿記の仕組みなどを取り扱い、学生が企業会計の全体像について理解することを目的とする。

到達目標

① 学生が現代社会において企業会計が果たしている役割について説明することができる。
② 学生が企業会計の二つの領域である財務会計と管理会計について説明することができる。
③ 学生が複式簿記の基本的な仕組みについて説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	現代社会における会計の役割
2週	財務会計と管理会計の意義と役割
3週	財務諸表と複式簿記
4週	貸借対照表と損益計算書の作成①
5週	貸借対照表と損益計算書の作成②
6週	複式簿記の特徴
7週	複式簿記と仕訳
8週	仕訳と転記
9週	転記と試算表
10週	試算表の作成
11週	決算の仕方
12週	管理会計の全体像
13週	原価計算と管理会計①
14週	原価計算と管理会計②
15週	授業のまとめと授業内試験

成績評価方法・基準

授業内試験85%、平常点15%

教科書ソフト等

鶴日出郎・山口幸三編『はじめまして会計学』中央経済社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

xj35u5v

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業では教科書を使いますので、授業前に教科書をよく読んでおいてください（1時間）。
授業後は復習をして、ノートや配付された資料を整理し、理解を深めてください（1時間）。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は休まず、出席してください。欠席すると講義を理解するのが難しくなります。配付資料は復習にも使ってください。授業内に実施した試験のフィードバックを行う。なお、本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅱ群に該当しています。

授業科目	子ども家庭福祉論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	梶井　祥子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2601

授業概要

戦後日本の家族は、高度経済成長期に「標準的家族像」を確立したと言われています。しかし、1980年代には「あるべき家族像」が大きく揺らぎ、90年代以降は家族の多様化が進みました。私たちはなぜ「家族」を必要とするのでしょうか。人口減少社会のなかで、家族はどのように変容していくのでしょうか。家族の変遷をたどりながら、家族に関する固定観念を見直し、家族を相対化する視点を探っていきます。また、家族と地域の関わり、社会制度としての家族、ケア機能と家族について、具体的な事例を基に理解を深めていきます。

到達目標

① 家族の変容過程を時代状況の変動と対応させながら理解する。
② 家族の「多様化」を意識・実態・制度のレベルから多角的に考察する方法を理解する。
③ 家族の機能について捉えなおし、家族の可能性について説得的な議論ができるようにする。
④ 「家族」をとおして、社会変化と人々の意識変容を逆照射する視点を獲得する。
⑤ 地域社会による家族支援の実態を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の目的と概要、評価方法、参考文献の紹介）
2週	「家族」とは何か　固定観念を疑う
3週	「結婚」の意味　誰と結婚するのか、なぜ結婚するのか
4週	未婚化は進むのか　シングル化する社会
5週	イエ制度と戦後日本の近代家族　家族の変容を歴史的に探る
6週	近代家族のなかの「子ども」 子どもの位置づけの変化
7週	「子育て」は誰が担うのか　育児不安と父親不在
8週	家族のなかの暴力　DV、児童虐待、高齢者虐待
9週	家族が別れる時　離婚とジェンダー
10週	貧困と格差　家族を巡る社会保障
11週	高齢者にとっての「家族」 ケアの意味するもの
12週	脱青年期の親子関係　長期化する関係性
13週	生殖補助医療と家族　自己決定を迫られる家族
14週	地域と家族　家庭の自律を支援する
15週	授業内試験とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験80%、授業内レポート・授業態度等20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

クラスコード

eoegred

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

日常生活のなかで、家族に関連する社会現象や時代のトピックスに関心を持ち、敏感な感受性を磨くことが重要です。映画やドラマ、小説、漫画など、家族をテーマにしたものはたくさんあります。新聞には必ず目を通してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

＊本科目は2021年度以前の「現代の家族」に該当します。すでに「現代の家族」の単位を修得済みの学生は履修できません。意欲的な受講態度を期待します。授業内での質問を歓迎します。

授業科目	観光事業論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	朝倉　俊一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3512

授業概要	観光を構成する様々な要素についての理解を深めます。また、北海道観光を取り巻く産業を分野別に取り上げ、具体的な事例に基づきながらそれぞれの産業の現状や課題を理解するとともに、観光産業で働くことの利点や問題点について考えます。最後に北海道の観光を取り巻く最新事情を紹介するとともに、北海道観光の未来について考えます。
到達目標	① 北海道を取り巻く観光市場の特徴を説明することができる。 ② 地域経済における観光産業の位置づけや役割を説明することができる。 ③ 観光産業の分野別の特性について説明することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス，観光の基礎知識 2週　地域経済の中の観光 3週　北海道の観光（北海道観光のあゆみ・世界市場からみた北海道） 4週　北海道観光の国際戦略 5週　観光政策と観光統計 6週　観光移動 7週　観光イメージ 8週　まちづくりと観光 9週　観光を取り巻く産業①　宿泊産業 10週　観光を取り巻く産業②　交通産業 11週　観光を取り巻く産業③　旅行業及びその他の産業 12週　観光事業の展開（観光施設の整備と運営手法） 13週　レポート発表と講評 14週　観光産業の最前線と北海道観光の未来 15週　授業内試験とまとめ
成績評価方法・基準	平常点50%、レポート30%、授業内試験20%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	適宜、授業時に指示します。
クラスコード	ngkiyiu
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、建設コンサルタント会社での実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	観光に関連した書籍を読み、その内容について発表してもらいます。（「授業計画」欄第13週目） 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	旅行に興味があって、意欲と好奇心を持つ学生の受講を希望します。

授業科目	地域教育政策	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	二通　諭	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2602

授業概要

子どもたちの発達の諸相を切り取りながら、学校と地域の今日的課題を探究する。その際、関連する諸政策の変遷と、それが地域に与えた影響について考察する。また、だれもが持てる力を発揮できる地域、学校をつくるうえで、地方公共団体や地域住民がどのような取り組みを展開しているのかについて、課題解決の第一線で活躍している方からの話題提供を含め、「現場のリアル」をふまえながら検討する。

到達目標

① 子どもたちの発達という視点から捕捉した地域と教育の課題について理解し、説明できる。
② 子どもの貧困や学びの格差などの今日的課題に挑む実践や施策について理解し説明できる。
③ 特別な支援や配慮を必要とする子どもたちを地域で育むという今日的課題に挑む実践や施策について理解し説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項についての説明）
2週	教育とは何か ― 教育思想史と原体験からひもとく
3週	子どもたちの発達をめぐる学校と地域の今日的課題
4週	体験的地域教育政策論 ― 障害児の高等部進学率全国最低から希望者全入まで
5週	福祉の制度を活用した知的障害教育における教育年限延長の取り組み
6週	高校統廃合をめぐる諸問題
7週	ゲストスピーカー：学びの格差に挑む学習支援のムーブメント
8週	不登校の実態と課題
9週	発達障害の実態と課題
10週	通級指導教室、スクールソーシャルワーカー等による不登校、発達障害への支援実践
11週	求められる教員像 ― 道教委『北海道における教員育成指標』から見えるもの
12週	ゲストスピーカー：日本語未修得の外国ルーツの子どもへの支援
13週	学校と地域は性的マイノリティにどのように向き合ってきたか
14週	討論：だれもが持てる力を発揮できる地域、学校とは ― 教育政策の視座から
15週	講義全体のまとめとレポートの作成

成績評価方法・基準

授業各回の課題提出（口頭発表を含む）50%、レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示、紹介します。

クラスコード

s4pcij2

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

公立小学校教員20年、同中学校教員15年、北海道いじめ問題対策連絡協議会委員2年、北海道教員育成連絡協議会委員3年

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業各回で配布される資料の読み込みと認識の整理、教育の時事的課題を含め、自身の問題関心から発する学習に取り組むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

双方向の授業、対話的な授業を追求する。外部講師は高い熱量をもって受講生に正対する。受講生も学びへの強い姿勢をもって臨んでもらいたい。課題に対する回答を、個人報に配慮しつつ授業資料として全体で共有する場合がある。授業に関連する外部の諸企画、イベントの情報を随時提供する。

授業科目	プレゼンテーション実践	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	丸山　宏昌、和田佳子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2921

授業概要

社会での人間関係形成には、コミュニケーションの基礎知識が不可欠である。基礎知識を理解し、自己を客観的に振り返ることでコミュニケーションの必要性を学び、社会で必要なコミュニケーション能力を高める基盤とする。特に、自己の考えを相手に伝える〈プレゼンテーション〉能力は欠かせない。実践的な〈プレゼンテーション〉能力獲得のために、現代社会における〈プレゼンテーション〉の意義と役割を理解し、そのために必要な理論と方法を学ぶ。

到達目標

① 分かりやすい話し方と、伝わる表現で発表することができる
② 根拠に基づいて、説得力のある論理的な説明をすることができる
③ 聞き手を想定した発表用資料を作成することができる

学科のディプロマ・ポリシー

3　地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。（協調性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション （授業のねらい、進め方）
2週	コミュニケーションの概念と自己理解
3週	プレゼンテーションの表現技術（発声、話し方、ボディランゲージの方法）
4週	分かりやすい話し方の基本（分かりやすい構成方法、ナンバリング、ラベリング）
5週	聞き手を引き込む説明の方法(聴衆分析、分かりやすい表現、内容の構造化)
6週	共感させ行動を促す説得の方法(説得の種類、メリットの提示)
7週	論理的思考力(論理の前提、道筋、結論)
8週	論理的に整理するツール（ロジックツリー）
9週	ICT(情報通信機器)を活用した資料作成の基本技術①
10週	ICT(情報通信機器)を活用した資料作成の基本技術②
11週	プレゼン資料作成①
12週	プレゼン資料作成②
13週	プレゼン資料作成③
14週	発表とフィードバック①
15週	発表とフィードバック②

成績評価方法・基準

授業内試験（到達度テスト）40%、課題への取り組み状況30%、授業への取り組み状況30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aeu3g4b

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

毎回の授業で与えられる課題は、授業時間外での準備を必要とする。特に、データ収集や分析、グループ発表に向けた準備などは、授業時間外での活動が不可欠となる。

6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目Ⅳ群に該当しています。授業内では、与えられたテーマに沿って、自分で研究課題を設定し、データの収集、分析、課題解決に向けた提案の作成、調査内容の発表について、個人およびグループで主体的に取り組むことを前提とした授業である。履修にあたっては、グループ活動および発表の機会が多いということを念頭に入れておくこと。また、データ収集のために授業時間外に学外にてフィールドワークや、文献調査などの作業が必要となるので留意しておくこと。

授業科目	都市社会学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	大島　有史	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2511

授業概要

近年、都市を取り巻く情勢は急激に変化しています。国内的には少子高齢化が急激に進展する一方、情報化やLCC（低廉な航空輸送会社）の登場により、ヒト・モノ・カネのボーダレス化が進み、グローバル化も同時に進行しています。本講義では、こうした日本を取り巻く環境の変化を踏まえ、今後の都市のあり方について理解し、考えることを目的としています。

到達目標

① 都市および都市を取り巻く環境の現状と課題について学習します。
② 自らが今後生活していくであろう都市のあるべき姿について各自のビジョンを持てるようにします。
③ 質問や意見等のディスカッションを通じて、個々人が主体的に考え、課題解決を行うことのできる能力の醸成をめざします。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	都市とは何か
3週	都市社会学の誕生
4週	都市社会学の理論
5週	少子高齢化と都市
6週	情報化・グローバル化と都市
7週	地域コミュニティ
8週	中間レポートの作成
9週	都市と観光
10週	都市と土地利用
11週	コンパクトシティ
12週	都市と交通
13週	札幌市の都市計画
14週	都市と防災
15週	レポート作成・まとめ～これからの都市のあり方

成績評価方法・基準

レポート（2回）70%、授業内課題30%　※授業内の課題は次の授業でフィードバックします

教科書ソフト等

なし。各授業でプリントを配付する。

参考書等

松本康編『都市社会学入門』有斐閣アルマ2014年。吉原直樹『都市社会学』東京大学出版会。

クラスコード

dmle4fx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

建設コンサルタントで働いて、まちづくりの仕事をしています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

街歩きをして、都市を実感しましょう。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

積極的な質問や発言を期待しています。

授業科目	社会心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	後藤　聡	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2801

授業概要

対人関係には様々な心の諸相がともなう。個人では発生しない集団特有の心理現象も存在する。また、社会で受け取る情報は人間の心に様々な影響を与える。それらの概念、発生のメカニズム、機能、行動の要因などについて教授し、社会生活に活用する資質を育成する。毎回の講義ごとに異なったテーマを取り上げ、講義内容の理解を深めさせるために、既存の研究結果や具体的な事例を根拠として裏付けながら解説するので、自分と対照させながら理解してもらう。

到達目標

① 人間関係における、あるいは集団内で起こる自らの心理現象について理解し、それが他者に与える影響に気づき、良好な人間関係の形成・維持の実践、自分の行動調整に活かす基盤とすることができる。
② 社会で触れる情報を多角的に分析し、その結果を適切な社会生活に活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス　他
2週	自己呈示
3週	援助行動
4週	攻撃行動
5週	ステレオタイプ
6週	対人コミュニケーション
7週	対人認知
8週	社会の中の誤り
9週	道徳性
10週	演繹と帰納
11週	社会的比較
12週	社会的ジレンマ
13週	うわさ
14週	社会的現実
15週	授業内試験（筆記）とまとめ

成績評価方法・基準

授業内試験（筆記）70%、授業中に指示する課題30%
ガイダンスにおいて禁止事項として示した行動が見られた者には減点を課すことがある。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

x5dsget

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は必要ありません。復習を求めます。主に授業中にプリント内へ記入した用語の意味とその有効性を理解してください。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

正当な理由なく授業を欠席した者は、その時間に指示した課題を提出することができません。提出課題について、必要があれば口頭でフィードバックします。なお、本科目は「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための領域Ⅰ科目に該当しています。

授業科目	財産取引と法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2411

授業概要	法学入門，民法入門において，社会生活の基盤である衣・食・住と関連する法律分野を概観している。本講においては「住」に関する法律分野をさらに深めて学ぶ。財産取引に関する分野のうち，不動産取引の場面に関連する法を理解する。
到達目標	法学入門，民法入門の基礎知識を前提に民法の多少複雑な事例問題にも対応できる力を習得することができる。 財産取引とりわけ不動産取引に関する法的知識について，宅地建物取引士資格試験に出題される権利関係に関する分野の基礎的知識を習得し，関連する専門用語を説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス，時効 2週　相隣関係、地役権 3週　債務不履行 4週　危険負担 5週　賃貸借 6週　債権譲渡・債務引受 7週　弁済・相殺 8週　連帯債務 9週　保証 10週　抵当権 11週　担保物権 12週　相続 13週　不動産物権変動 14週　借地借家法 15週　まとめと到達度チェック
成績評価方法・基準	学期末試験70%、毎回の講義内容に則して出題される小テスト30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	内田勝一『借地借家法案内』勁草書房，2017年、後藤巻則『契約法講義［第4版］』弘文堂，2017年
クラスコード	t4xylby
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	事前配付されるレジュメを手掛かりに、教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と復習をしてください。 講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	法学入門，民法入門を履修済みであることを前提に，宅地建物取引士資格試験に出題される権利関係に関する分野を中心に講義は進められる。

授業科目	企業と法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	津幡　笑	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2412

授業概要

法学入門，民法入門において，社会生活の基盤である衣・食・住と関連する法律分野を概観している。本講においては民法入門では深く取り扱っていない民法総則の人・法人についてを学び、さらに社会人となってから関わりを強くもつ「企業・会社」について学ぶ。その他ビジネス法務で関連する諸法律のほか、消費者法、労働法についても概観する。

到達目標

法学入門，民法入門の基礎知識の定着を目標とする。
財産取引の主体としての人，法人，企業に関する法的知識とともにビジネスマンが日常業務で必要とされる法的知識について，ビジネス実務法務検定試験3級に出題される分野の基礎的知識を修得し，関連する専門用語を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス，権利の主体
2週	意思表示・代理
3週	債務不履行・契約不適合責任
4週	不当利得・事務管理・不法行為
5週	法人
6週	会社の機関1
7週	会社の機関2
8週	企業財産の管理
9週	債権の管理と回収1
10週	債権の管理と回収2
11週	企業活動に関する法規制
12週	その他企業が守らなくてはいけない法
13週	労働法1
14週	労働法2
15週	まとめと到達度チェック

成績評価方法・基準

学期末試験70%、毎回の講義内容に則して出題される小テスト30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント会社法』三省堂，2018年

クラスコード

wq2vhiy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

事前配付されるレジュメを手掛かりに、教科書等を読み込むなど単位に見合うだけの予習と復習をしてください。
講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

法学入門，民法入門を履修済みであることを前提に，東京商工会議所が実施するビジネス実務法務検定試験3級の出題範囲を中心に講義は進められる。

授業科目	行政学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	浅野　一弘	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2413

授業概要

新型コロナウイルスへの対応をみてもわかるように、われわれが日々の生活をしていくうえで、役所＝行政機関とのかかわりは密接不可分といってよい。近年では、多発する自然災害などとの関連で、とりわけ、危機時におけるわれわれと行政機関との“協働”について注目があつまってきている。
そこで、今年度の本講義においては、「危機管理」を大きなテーマの一つとしつつ、行政学の基礎概念の修得をこころみる。

到達目標

協働の意識をもつ地域社会の一員として、行政機関について日々報じられるニュースに関心をいだくとともに、危機管理というキーワードをもとに、日本の行政の実像を冷静かつ積極的に議論し、その課題や解決策を提示する論理的思考力・知識を修得できるようになる。また、ディスカッションをとおして、他者の意見を尊重できるようになる。
さらに、本講義では、公務員試験の教養試験対策にくわえ、民間企業の一般常識試験にも対応できるような能力が養成できることに関しても、目的としている。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	「行政」の意味－行政学の基礎概念（1）－
2週	行政国家とは？－行政学の基礎概念（2）－
3週	情報公開の重要性－行政学の基礎概念（3）－
4週	官僚制とは？－行政学の基礎概念（4）－
5週	政官関係の現状と課題－行政学の基礎概念（5）－
6週	ガバナンスとガバメント－行政学の基礎概念（6）－
7週	「危機」概念の多様化－危機管理の行政学（1）－
8週	「危機管理」の意味－危機管理の行政学（2）－
9週	行政機関と危機管理－危機管理の行政学（3）－
10週	新型コロナウイルスをめぐる危機管理－危機管理の行政学（4）－
11週	東日本大震災をめぐる危機管理－危機管理の行政学（5）－
12週	市町村合併と危機管理－危機管理の行政学（6）－
13週	環境をめぐる危機管理－危機管理の行政学（7）－
14週	公務員の“失言”をめぐる危機管理－危機管理の行政学（8）－
15週	リーダーシップと危機管理－危機管理の行政学（9）－

成績評価方法・基準

Google Classroom上で、小テスト（10%）および学期末の定期試験（90%）を実施し、その結果にもとづいて評価する。
なお、小テストの講評についてはその都度、学期末試験の講評は学期末試験終了後に公開する予定である。

教科書ソフト等

教科書は、浅野一弘『日本政治をめぐる争点―リーダーシップ・危機管理・地方議会―』（同文舘出版、2012年）を使用する。
各自、事前にかならず購入しておくこと。

参考書等

参考書としては、さしあたって、浅野一弘『危機管理の行政学』（同文舘出版、2010年）をあげておく。 危機管理に関する理解をさらに深めたい場合、教科書とあわせて丹念に読破すること。

クラスコード

【464k3nq】（この授業を履修する場合、Google Classroomへの登録を必須とする）。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

なし。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

【予習】時事的なテーマもあつかうので、新聞に目をとおし、自分の意見をもつこと（2時間程度）。
【復習】教科書を再読し、テーマごとのポイントを簡潔にまとめられるようになること（2時間程度）。
3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生の学修効果および利便性を考慮して、動画によるオンデマンド授業を基本としつつも、Zoomによるオンライン授業（アクティブ・ラーニングの要素をもりこむ）を実施する場合もありうるので注意すること。
この科目はオンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	マーケティング入門	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	山田　政樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2311

授業概要

マーケティング入門では、マーケティングという聞きなれない言葉について、それがどのように重要なのかを学び、マーケティングが消費者の行動に興味を持つ必要があることを学ぶ。

到達目標

① マーケティングのねらいを理解し、企業の市場選択の考え方や方法を理解することができる。
② 企業の市場分析の実際を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション （授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明）
2週	第Ⅰ部 マーケティング発想の経営
3週	第1章 マーケティング発想の経営（ドリルを売るには穴を売れ，ハーレーダビッドソン）
4週	第2章 マーケティング論の成り立ち（フォードになくてGMにあったもの）
5週	第3章 マーケティングの基本概念（ペットボトル入りコーヒー「クラフトボス」）
6週	中間まとめ
7週	中間到達度チェック
8週	第Ⅱ部 マーケティングのマネジメント
9週	第4章 製品のマネジメント（カレーメシの開発）
10週	第5章 価格のマネジメント（明治「ザ・チョコレート」の価格マネジメント）
11週	第6章 広告のマネジメント（「ファブリーズ」による消臭市場の創造 ）
12週	第7章 チャネルのマネジメント（化粧品業界の流通経路とメーカーの多様なチャネル ）
13週	ケーススタディ
14週	総まとめ
15週	最終到達度チェック

成績評価方法・基準

学期末試験（授業内試験、中間試験）50%、課題30%、授業参加度20%

教科書ソフト等

石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）『1からのマーケティング（第4版）』発行所：碩学舎/発売所：中央経済社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

skv75bj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習として教科書の該当章を読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。復習として授業内容のマーケティング理論と実際の商品例を紐づけて考え、整理しておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroom内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可なデバイスを使用することがあります。なお，本科目は「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための領域Ⅰ科目に該当しています。

授業科目	マーケティング応用	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	山田　政樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3311

授業概要	マーケティング応用では、マーケティングが実際にどのように実践されているかを、サプライチェーン、営業、ビジネスモデル、顧客関係、顧客理解、ブランドの観点から学ぶ。そのうえで、さらに現代的なマーケティングの広がりを学ぶ。
到達目標	① サプライチェーン、営業、ビジネスモデル、顧客関係、顧客理解、ブランドのマネジメントにおける企業の対応の仕方について理解することができる。 ② 市場への適応だけでなく、市場との対話をめざす新たなマーケティングの枠組みについて理解することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　オリエンテーション （授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明） 2週　第8章 サプライチェーンのマネジメント（赤城乳業の「ガリガリ君」） 3週　第9章 営業のマネジメント（サントリーのウイスキー事業と営業活動） 4週　マーケティングマネジメントのまとめ 5週　第10章 顧客関係のマネジメント（熱狂的ファンをつかむ「スノーピーク」） 6週　第11章 ビジネスモデルのマネジメント（タニタの製品開発とマーケティング） 7週　第12章 顧客理解のマネジメント（ファンとともに成長するマツダCXシリーズ） 8週　中間まとめ 9週　中間到達度チェック 10週　第13章 ブランド構築のマネジメント（グローバルブランドとしての「キットカット」） 11週　第14章 ブランド組織のマネジメント（コカ・コーラのスクリーンタイム・キャンペーン） 12週　第15章 社会責任のマネジメント（キリンCSV戦略） 13週　ケーススタディ 14週　総まとめ 15週　最終到達度チェック
成績評価方法・基準	学期末試験（授業内試験、中間試験）50%、課題30%、授業参加度20%
教科書ソフト等	石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）『1からのマーケティング（第4版）』発行所：碩学舎/発売所：中央経済社 ※マーケティング入門で使用した教科書と同じです。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	niygf4a
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	予習として教科書の該当章を読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。復習として授業内容のマーケティング理論と実際の商品例を紐づけて考え、整理しておくこと。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	予習，復習および課題は、しっかりやっていることを前提に授業を進めます。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。マーケティング入門相当の知識があることを前提に進めます。フィードバックはClassroom内で行います。なお、本科目は「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための領域Ⅰ科目に該当しています。

授業科目	産業経済地理	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	飯田 治	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2332

授業概要

北海道は、全国に先駆けて人口減少と少子・高齢化が進行しており、道内各市町村では数多くの解決すべき問題を抱えている。一方、北海道は広大な土地、恵まれた四季折々の自然、さらには新鮮で安全な食材が豊富であり、コロナの終息に伴いインバウンド需要の回復が見込まれている。このたび最先端半導体の国産メーカー・ラピダスの千歳市への工場進出が決定しており、北海道経済の起爆剤になるとみられる。本講義では、北海道経済の現状と道内各地域の地域経済構造を理解し、地域経済の活性化とは何かを自分自身で考え、提言できる力を身につけることを目的としている。

到達目標

① 各種経済統計の種類・見方を説明できる。
② 北海道経済のあゆみを理解し、説明できる。
③ 道内各地域の産業経済動向を理解し、説明できる。
④ 北海道経済活性化に向けての課題を理解し、自分自身の考えを述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　産業経済地理とは何か
2週　経済学の復習及び確認
3週　各種経済統計の種類と見方
4週　北海道経済の立ち位置～全国との比較
5週　北海道経済の現状
6週　北海道経済のあゆみ①(明治維新～第二次世界大戦前)
7週　北海道経済のあゆみ②(第二次世界大戦後～)
8週　RESAS(地域経済分析システム)を用いた地域経済構造分析
9週　圏域(振興局)別の産業経済動向①(道央、道南、道北)
10週　圏域(振興局)別の産業経済動向②(オホーツク、十勝、釧路・根室)
11週　札幌一極集中について
12週　地域活性化とは何か
13週　今後の北海道経済の注目点①
14週　今後の北海道経済の注目点②
15週　北海道経済活性化に向けての課題

成績評価方法・基準

授業態度20%、レポート提出40%、学期末試験40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

kuhdnfh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

道内金融機関とシンクタンクに長年従事。実務経験有。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

新聞を読むよう心がけてください。特に、地域経済や中小企業に関連する記事に注意してください。講義内容との関係の有無等、自分で考え整理する習慣を身につけてください。講義後は、講義で説明した内容を整理し、自分自身で説明できるように努力してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

質問、意見、要望など積極的な発言と授業への参加を求めます。

授業科目	財政学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	野口 剛	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SC-MS 2333

授業概要	予算を通じた政府の経済活動である財政には、歳出(予算を通じた支出)と歳入(主に税収)の2つの側面があります。本講義では，国の予算と社会保障、税の制度(しくみ)の基礎を学ぶことを通じて、講義受講者が税と財政について考えていくための基礎材料を提供したいと考えています。
到達目標	・税財政が現代経済とどのようにかかわり、どのような役割を果たしているかを知ること。 ・わが国の税財政の基礎的な理屈、しくみ、現状、問題点などを把握すること。 ・税財政に関するニュースに関心を持ち、その内容が少しでも分かるようになること。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　講義ガイダンス 2週　財政とは？ 3週　予算①:財政法の諸原則、予算編成プロセスその1 4週　予算②:予算編成プロセスその2、予算の類型 5週　予算③:予算の諸問題 6週　社会保障①:年金の基礎 7週　社会保障②:医療保険の基礎 8週　第1週から第7週のまとめと中間試験(第1週から第7週の講義内容を中間試験の範囲とします) 9週　税の基礎①:なぜ税というものが世の中に存在するのか？、税原則、税の分類 10週　税の基礎②:税の役割(機能)、税は誰が負担するのか？ 11週　所得税①:所得とは？、わが国所得税の諸特徴 12週　所得税②:所得税額計算法 13週　消費税①:消費課税の類型 14週　消費税②:逆進性緩和 15週　第9週から第14週のまとめと講義内試験(第9週から第14週の講義内容を講義内試験の範囲とします)
成績評価方法・基準	第8週に実施する中間試験50%、第15週に実施する講義内試験50%、合計100%で評価します。(講評は、クラスルームに掲示する予定)
教科書ソフト等	なし。担当者作成のレジュメ(パワーポイントスライド)、資料を配布します。
参考書等	なし。講義の理解を深めるうえで参考となる文献は、その都度、レジュメ(パワーポイントスライド)に記載しますので、適宜参照するようにしてください。
クラスコード	6fjuaph
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	(予習)新聞やテレビ，インターネットのニュースを通じて，1週間の政治や経済，社会の動向を把握するようにしてください。 (復習)配布スライドの見直しや関連文献・資料の読み込みを行う。また、講義の要点の整理(まとめ)をしてください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	毎年の予算編成、税制改正の議論が行われる時期と講義開講時期が重なりますので、財政に関する報道に接する機会も増えると思います。講義の予習・復習の素材として活用してください。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	生涯学習概論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	二通　諭	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3622

授業概要

生涯学習の歴史、意義と理論、方法についての基礎的な知識を身につけ、その可能性についての理解を深める。生涯学習の現場における実際の取り組みについて、資料やフィールドワークなどによって把握する。生涯学習の今日的な課題について、学習支援者や学習者の視点から検討する。なお、本授業は、担当教員の学校教育および生涯学習の支援者としての実務経験を活かし、受講者の問題関心やニーズを加味しながら弾力的に展開する。

到達目標

① 生涯学習の歴史、意義と理論、方法、内在している可能性について説明できる。
② 生涯学習の実際の取り組みと、それが個人や社会にもたらす意義や効果について説明できる。
③ 生涯学習の今日的テーマについて考察し、提示することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項についての説明）
2週	教育とは何か ― 教育思想とそれぞれのライフヒストリーを往還させて
3週	人間発達とは何か ― 人間発達論とそれぞれのライフヒストリーを往還させて
4週	生涯学習とは何か ― その歴史と展開
5週	生涯学習の視座から捕捉する学校教育の意義 ― 教科外活動に焦点化して
6週	社会的課題への挑戦と生涯学習
7週	個人の自己教育・自己実現と生涯学習
8週	生涯学習支援の施設と団体
9週	生涯学習の支援者と学習者としての青少年
10週	生涯学習の支援者と学習者としての成人・高齢者
11週	生涯学習の支援者と学習者としてのマイノリティ
12週	生涯学習の支援者と学習者としての女性
13週	生涯学習の支援者と学習者としての特別な配慮を要する人々
14週	レポート作成（生涯学習の今日的テーマについて考察する）
15週	レポート発表会

成績評価方法・基準

授業各回の課題提出（小テスト含む）50%、レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示、紹介します。

クラスコード

rzj3oce

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

公立小学校教員20年、同中学校教員15年、札幌学院大学コミュニティカレッジ講師・企画者として12年24回

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業各回で配布される資料の読み込みと認識の整理、時事的課題を含め、自身の問題関心から発する学習に取り組むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

時に双方向の授業、対話的な授業を追求する。課題に対する回答を、個人情報に配慮しつつ授業資料として全体で共有する場合がある。外部の諸企画、イベントへの参加を呼びかける場合がある。その際に示される意欲や姿勢も成績評価に加味される場合がある。

授業科目	地域福祉の理論と方法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	西浦　功	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2611

授業概要

本科目では、その歴史的な発展の過程をふまえつつ、地域福祉とは何かについてまず理解するとともに、近年拡大・深刻化する様々な地域福祉の課題について学びを深め、今後の日本の地域福祉の将来の在り方を考察する。基本的には講義形式だが、福祉の現場で用いられるワークショップ体験等の受講生参加型プログラムを盛り込むことで、地域福祉の現場感覚に即した授業を実施する。

到達目標

1）地域福祉とは何か、その歴史的変遷をふまえつつ、説明することができる。
2）地域福祉の主体と対象について、具体的に説明することができる。
3）地域福祉に係る専門職及び組織・団体について、具体的活動内容をふまえて説明することができる。
4）地域福祉活動の推進方法について、具体的事例に基づいて説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	地域福祉の概念と理念：地域福祉とは何か
3週	コミュニティと地域社会
4週	地域福祉の歴史と理論の発展①　海外の地域福祉
5週	地域福祉の歴史と理論の発展②　日本の地域福祉
6週	地域福祉の主体と対象①　地域社会における専門職の働き
7週	地域福祉の主体と対象②　地域社会における地域住民の働き
8週	地域福祉に係る行政組織や民間組織の役割①　地域を支える様々な組織と団体
9週	地域福祉に係る行政組織や民間組織の役割②　地域福祉に求められる組織間連携
10週	地域福祉における住民参加と協働
11週	地域福祉におけるサービスと活動
12週	地域福祉とネットワーキング
13週	地域における社会資源の活用・調整・開発
14週	地域福祉計画の実践と展望―地域福祉計画と地域福祉活動
15週	まとめ　今後の地域福祉の展望

成績評価方法・基準

学期末試験50%、中間レポート20%、授業への参加態度（授業課題）30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。必要に応じて授業内で指示します。

クラスコード

s5g7bei

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の講義で課される予復習課題で参加態度を評価するため、出し忘れのないように注意すること。また授業時にレポートのフィードバックを実施する。

授業科目	ニューツーリズム論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	遠藤　正	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2712

授業概要	従来の団体旅行から個人旅行（FIT)が中心となり、着地型の観光に代表されるニューツーリズムが拡大してきた。特に近年は、アドベンチャートラベルをはじめ体験型の観光分野がさらに注目されている。北海道は自然環境に恵まれ、体現型観光で大きなポテンシャルを持っている地域である。本講義では、スポーツツーリズム（例えば冬季のスキー）や道内各地の体験型観光を通じてニューツーリズムを学習する。また、映像等も利用し、海外の体験型観光の先進事例を学習する。
到達目標	①従来型のツーリズムとニューツーリズムの違いを理解し、説明できる。 ②北海道のアドベンチャートラベルや体験観光を理解し、説明できる。 ③地域におけるニューツーリズムの創出と磨き上げを理解し、説明できる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　オリエンテーション 2週　従来型の観光とは 3週　個人型旅行の台頭 4週　ニューツーリズムとは(1) 5週　ニューツーリズムとは(2) 6週　ニューツーリズムとは(3) 7週　ケーススタディー（北海道内の事例1） 8週　ケーススタディー（北海道内の事例2） 9週　ケーススタディー（道外の事例1） 10週　ケーススタディー（道外の事例2） 11週　ケーススタディー（海外の事例1） 12週　ケーススタディー（海外の事例2） 13週　北海道とアドベンチャートラベル 14週　授業内テスト 15週　まとめと振り返り、確認テストのフィードバック
成績評価方法・基準	平常点20%,授業内試験80%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	beryrpe
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。時事問題を常に確認の上、課題を確認してください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	

授業科目	地域メディア論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤　知美	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2701

授業概要

かつての伝統的な地域社会では内部でのコミュニケーションの効率が良かった反面、近隣家庭の事情が筒抜けになるなどプライバシーが守りにくい状態があった。しかし、現代社会では住民どうしの関わりやコミュニケーションは希薄になり、さまざまな地域課題の解決も行政等、外部の機能（システム）に依存しがちである。一方、マスメディアが伝える地域情報はステレオタイプになりがちで、地域の実態から乖離してしまう傾向が見られる。こうした社会状況のもとで、地域情報を発信・共有し、地域内コミュニケーションを促進する場・空間としての地域メディアが地域の社会課題の解決ツールとして注目されている。本講義では特に北海道のコミュニティFM放送をとりあげ、具体的な事例を扱いながら、地域メディアの機能と公共性について考える。

到達目標

① メディアリテラシーの必要性を理解し身につける。
② 地域メディアの機能について説明することができる。
③ コミュニティFMの公共性について説明することができる。
④ 北海道のコミュニティFMの現状を説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	イントロダクション、災害とメディア
2週	新聞を読む、テレビを観る、ラジオを聴く
3週	ニュースができるまで
4週	ドキュメンタリー番組と調査報道
5週	メディアリテラシーを身につける
6週	コミュニティとメディア
7週	北海道はコミュニティFM発祥の地
8週	市民が創るメディア
9週	非営利放送と地域メディア
10週	被災地のコミュニティFM
11週	コミュニティFMと多文化共生
12週	コミュニティFMで地域の課題解決
13週	海外にみるパブリックアクセス
14週	地域メディアを活用する
15週	地域メディアのこれから

成績評価方法・基準

レポート50%、授業内課題30%、授業への参加態度20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ujv4ces

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、マスコミ分野での実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は配付資料を読み直して講義内容の復習をしてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業科目	アンケート作成法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	遠山　景広	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2221

授業概要

社会調査の実施に至る具体的なプロセスについて、調査票（アンケート用紙）の作成方法を中心に学ぶ。
社会的な課題・調査目的の設定、課題や目的に適した調査対象の選定や設問の方法、遵守すべき調査倫理など、適切な調査設計を行うための知識と能力を身につける。

到達目標

① 社会が抱える課題に関心を持ち、自身の周囲にある事柄と結び付けた社会的な調査目的を設定することができる。
② 回答の偏りを防ぐなど、質問の作成方法や調査票の構成について、基礎的な注意事項を理解できる。
③ 概念の操作化や仮説構築について理解を深め、実践を通して適切な仮説・質問を作成する能力を身につける。
④ 調査倫理をはじめとする、社会調査における配慮すべき事柄について理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　調査研究のデザイン 様々な調査の特性の把握と調査目的との関係について 【調査と研究の関連に関する復習】
2週　調査票調査の特徴 利点と課題【各種調査票調査の実施方法について整理する】
3週　調査テーマの具体化 既存研究の検討とテーマの明確化 【関心領域の統計データの探索】
4週　仮説の構築① 概念と変数 【指定課題への取り組み】
5週　仮説の構築② 概念の操作化と作業仮説の構成 【指定課題への取り組み】
6週　仮説の構築③ 仮説作成演習 【仮説の作成・準備】
7週　質問作成の手法 回答の「偏り」がもつ意味と偏りを防ぐ質問方法 【避けるべき質問方法の復習】
8週　尺度の作成① 選択肢を設けることの意味 【自由回答法と比較しての利点、欠点の整理】
9週　尺度の作成② 選択肢の尺度と分析手法 【質問方法とそれぞれの尺度に応じた分析手法の復習】
10週　調査と倫理 調査票調査に求められる倫理的配慮 【倫理的配慮の重要点を整理】
11週　質問票のデザイン① 質問紙の構成と体裁 【既存の調査票の探索と検討】
12週　質問票のデザイン② 質問の種類とその配置 【様々な質問の種類についての復習】
13週　質問票のデザイン③ 社会属性質問の活用 【社会属性を尋ねる際の注意点を復習】
14週　質問票のデザイン④ 調査票を改善する【これまでの課題を見直し、テーマに合わせた調査票の改善案を検討】
15週　全体の総括 調査票作成上の様々な配慮 【指定課題への取り組み】

成績評価方法・基準

学期末試験・レポート課題70%、授業への取り組み・コメントなど30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

轟亮・杉野勇・平澤和司編『入門・社会調査法 第4版』2021年、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著 『新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房 2013年、鈴木淳子『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ出版 2011年（その他授業内でも提示します）

クラスコード

tdphtnn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自で関心領域についての資料や文献等の収集を進め、疑問点を整理しておくこと。
その他、各回の内容に合わせて上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

①自分の関心のある分野の動向・現状について調べてみるなど、社会の状況を自分なりに把握するよう努めること。②演習であるため、欠席が作業や課題作成に大きく影響します。早いうちに他の履修者や教員に内容や作業について確認をとること。③課題のフィードバックは提出後メールで行う予定です。④本科目は「社会調査実務士」の必修科目、「社会調査アシスタント」の必修科目です。

授業科目	社会調査法演習	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	遠山　景広	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3221

授業概要	「社会調査論（質的調査）」及び「社会調査論（量的調査）」「アンケート作成法」で学んだ、社会についての情報の収集と分析のための基礎知識をもとに、調査の企画、実施、分析の過程を実際に体験しながら、具体的な調査の実施方法を身につける。 調査及び分析の結果をまとめ、適切な形で報告するための能力を身につける。
到達目標	① 社会的な課題と自らの関心を連動させた調査目的と仮説を設定することができる。 ② 自分の問題関心を掘り下げ、具体的な調査内容を企画することができる。 ③ 調査目的に沿った実査・分析方法を理解し、実践する。 ④ 目的や実施方法を踏まえ、調査結果を適切な形で報告し、考察に結び付ける。
学科のディプロマ・ポリシー	2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
授業計画	1週　オリエンテーション：授業概要とスケジュール説明 【調査に向けて自己の問題関心の整理】 2週　調査目的と調査手法：調査目的に沿った調査方法の検討 【関心領域の研究例の探索】 3週　社会調査の企画①　ブレーンストーミングと調査テーマの設定 【調査テーマ案の準備】 4週　社会調査の企画②　様々な調査方法とその特性 【各種調査法に関する復習】 5週　社会調査の企画③　調査内容の具体化と仮説構築 【仮説構築・概念構築方法の復習】 6週　社会調査の企画④　調査項目の検討 【調査項目案の準備】 7週　社会調査の企画⑤　質問文の作成 【質問文案の準備】 8週　社会調査の企画⑥　調査票の作成 【質問案のチェックと補完】 9週　調査データの分析①　データ入力 【実習時の作業の補完】 10週　調査データの分析②　コーディング・クリーニング／データベース作成 【実習時の作業の補完】 11週　調査データの分析③　分析方法・検定の確認 【疑似データを用いた分析の実施と手法の確認】 12週　調査データの分析④　分析の実施 【各種分析方法の確認と実データを用いた分析の予習】 13週　調査データの分析⑤　調査結果の図式化と解釈 【演習時の作業のふり返りと補完】 14週　報告書の作成：調査報告書の作成と発表会準備 【調査結果の文章化と発表原稿の用意】 15週　調査報告会：調査結果の発表、総括・講評 【発表会のふり返りと反省】
成績評価方法・基準	調査報告書の作成50%、授業への取り組み・演習課題50%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	rfc6oec
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	本演習は各自の問題関心が不可欠となるため、関心領域についての疑問点の整理、関連資料の収集を進めておくこと。その他毎回の授業に合わせた具体的な内容は、上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	①本科目は「社会調査実務士」の必修科目、「社会調査アシスタント」の必修科目です。②本科目は「社会調査論（質的調査）」、「社会調査論（量的調査）」、「アンケート作成法」全て修得していることが履修条件です。③本年度は、基本的には量的調査のみとなります。④毎週、個人・グループでの課題や作業があるので欠席しないこと。万一の場合は早に作業内容の確認を行うこと。

授業科目	スポーツの社会学	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	瀧澤　一騎	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3712

授業概要

社会における体育・スポーツの意義と現状を解説し、学校体育、地域スポーツ、スポーツビジネスに関するさまざまな問題を理解する。生涯スポーツ社会を実現していくための具体的方策を学ぶ。

到達目標

① 社会における体育・スポーツの意義や位置づけについて説明できる。
② 現代社会における体育・スポーツ分野の動向についての基本的な知識を養う。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	スポーツと社会（オリエンテーションとして授業概要、評価方法、注意事項について説明）
2週	スポーツと体育
3週	スポーツの歴史
4週	スポーツと体力
5週	スポーツマンシップ① スポーツの倫理について
6週	スポーツマンシップ② フェアプレイについて
7週	学校体育① 運動部活動の導入と展開
8週	学校体育② 運動部活動の今日的な問題
9週	スポーツビジネス① メガスポーツイベントについて
10週	スポーツビジネス② 「スポーツ選手」と経済
11週	スポーツマネジメント① 組織論
12週	スポーツマネジメント② ガバナンス
13週	スポーツマネジメント③ 戦略と戦術
14週	スポーツとコーチング① リーダーシップ機能
15週	スポーツとコーチング② 求められるリーダーについて

成績評価方法・基準

授業内レポート60%、積極的な授業姿勢（授業内での発言等）40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

gkdag4e

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験：スポーツ・身体活動に関する指導やコンサルタント、研究等を業務とする法人の運営・経営

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

テレビ、新聞、SNS、友人知人との会話などから多くの情報を蒐集してください。本授業に関わる情報（スポーツ、運動、健康、社会問題など）は、授業の前後で結びつけると学習効果が高まります。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回必ずレポートを書いてもらいます。授業内では発言の機会をつくりますが、人と違った見方や意見は授業を刺激的な環境にしてくれます。ゆえに主体的な姿勢は高い評価となります。発言に対してはその授業時間内に、レポートに対しては次回授業時にフィードバックをします。

授業科目	地域スポーツ実践演習	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	瀧澤　一騎	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3713

授業概要	この地域におけるスポーツの実践状況の現状と課題を解説し、地域スポーツの指導を実践するうえで必要な知識を養う。また、生涯スポーツ社会を実現していくための具体的方策を学び、自ら実践できるようにする。最終的に、地域のスポーツイベントにおいて、指導の実践を行う。
到達目標	① 地域におけるスポーツ活動の意義や位置づけについて説明できる。 ② 年齢や体力に合わせたスポーツ活動が提案できる。 ③ スポーツ活動のルール説明や実技指導を行うことができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
授業計画	1週　ガイダンス・授業目的の説明 2週　年齢による体力要素の変化 3週　体力要素に見合ったスポーツ活動の理解 4週　発育・発達段階と身体活動 5週　スポーツ活動のルールと体力 6週　スポーツ・レクリエーション活動の実際① 7週　スポーツ・レクリエーション活動の実際② 8週　体力要素・年齢に見合ったスポーツ・レクリエーション活動の提案① 9週　体力要素・年齢に見合ったスポーツ・レクリエーション活動の提案② 10週　体力要素・年齢に見合ったスポーツ・レクリエーション活動の提案③ 11週　体力要素・年齢に見合ったスポーツ・レクリエーション活動の提案④ 12週　学外イベントにおけるスポーツ指導の実践① 13週　学外イベントにおけるスポーツ指導の実践② 14週　学外イベントにおけるスポーツ指導の実践③ 15週　学外イベントにおけるスポーツ指導の実践④
成績評価方法・基準	出席状況も含む授業態度・積極性　60%、最終レポート　40%。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	jsqvcnj
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験：スポーツ・身体活動に関する指導やコンサルタント、研究等を業務とする法人の運営・経営
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	これまでに行われてきたスポーツ・レクリエーション活動についての情報収集と、関連書籍の検索。また、演習科目であることから、それらの内容について実践しておくことも必要となる。 授業毎に、前後各90分程度。
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	学外での活動も含まれるため、服装やマナーについても十分注意する必要がある。また、授業内での活動については、その都度フィードバックを行う。

授業科目	ITソリューション論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	吉田　祐一郎	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3332

授業概要	ITソリューション論を基本として、デジタル・トランスフォーメーションの基礎知識と 今、DX・GDXが必要な理由を理解してもらい、基礎知識を習得できる事を目的とする。 具体的にはビジネスシーンで必要なITスキルやDXアドバイザー資格取得の為の基本的技能を身につける。
到達目標	①今DXとGXが必要なことを理解できる。 ②ビジネスシーンでITスキルを実践できる。 ③DXアドバイザー資格取得が可能なレベルまで到達する事ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス授業の目的と進め方、成績評価 2週　デジタルトランスフォーメーション（DX)がなぜ必要なのか？ 3週　グリーントランスフォーメーション（GX）がなぜ必要なのか？ 4週　アナログとデジタル化の違い 5週　会社における作業のデジタル化 6週　デジタル化に伴う個人情報保護の必要性 7週　ビックデータとAIについて 8週　ITソリューションに必要なセキュリティ対策 9週　デジタル人材の必要性 10週　企業が取り組むべきDXの課題 11週　グループワーク① 12週　グループワーク② 13週　グループワーク③ 14週　グループワーク発表 15週　総括
成績評価方法・基準	グループワーク発表40%、課題への取り組み20%、授業への参加40%
教科書ソフト等	なし。授業内で資料を共有します。
参考書等	なし
クラスコード	gaqc4qb
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は東証プライム上場企業の支店長で経営コンサルの実務経験があり、DXアドバイザー資格を保有した教員が実務経験に基づき授業を行います。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業内で使った資料や伝えた内容を復習して、次回以降質問した時に答えられる状態にしておいてください。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	グループワークに積極的に参加してください。質問等も大歓迎です。

授業科目	公共政策論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	仙波　希望	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	

授業概要	「新しい公共」という呼びかけとともに、行政・民間の二分論にとどまらない公共サービスのあり方が模索されている。しかし「公共」とは一体何か。またそれを構成する「多様性」とは果たしてどのような状況を指すのか。本講義では前半でこのような「公共」「多様性」に関する理論的な議論を行い、後半では「クリエイティブシティ」論、「ジェントリフィケーション」、そして「地域アート」に着目し、公共政策の現代的実践について考察する。
到達目標	【1】「公共」「多様性」に関する基礎的事項について説明できる。 【2】現代的な都市政策におけるさまざまな実践事例について批判的に議論することができる。 【3】「市民」という考え方を精査した上で、さまざまな公共サービスを分析することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　イントロダクション 2週　公共とは何か（1）Public／Private 3週　公共とは何か（2）「市民」 4週　多様性とは何か（1）理念・政策としての多様性 5週　多様性とは何か（2）多様性の功罪？ 6週　公共政策とまちづくり 7週　中間レポート：ピアレビュー 8週　クリエイティブシティ論（1）定義と源流 9週　クリエイティブシティ論（2）伝播と功罪 10週　ジェントリフィケーション（1）立退なき排除？ 11週　ジェントリフィケーション（2）日本における事例 12週　地域アートと公共政策（1）まちおこしとアート 13週　地域アートと公共政策（2）それは「亡霊」か 14週　最終レポート：ピアレビュー 15週　まとめ・レポート提出
成績評価方法・基準	授業への参加の度合い（プレゼン・ディスカッション・コメントシートの内容・取り組み）30% 中間レポート30%、最終レポート40%
教科書ソフト等	講義で取り扱う内容に関するPDFを随時Googleクラスルームにアップする。
参考書等	講義内で随時提示する。
クラスコード	trtgrzc
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにするので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	・各種WebサービスとQRコードによるQ&Rシステムを活用する ・随時ショート&ロングディスカッションの機会を設ける ・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する 上記のように一方向の知識伝達型ではない、双方向型の講義スタイルを採用するため、積極的なコメントやディスカッションへの参加を受講者に求める。

授業科目	商品開発論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	太田 稔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3321

授業概要

私たちの周りにある商品やサービス（以下商品）は、企業活動の結果により市場に投入されています。企業は市場を分析し、消費者ニーズを把握することで新たな商品やサービスを開発していますが、そのプロセスは一般的には知ることはありません。商品開発論では、実際のビジネスシーンを想定して市場分析から導き出されるデーターから、マーケティング分析、コンセプト作成、商品デザイン、プレゼンテーションまで一貫して学びます。有形（商品）と無形（サービス）の2つの視点からビジネスプランを通じて商品開発を考えます。

到達目標

①商品開発のプロセスを基礎的な知識から理解し説明できるようになること。
②企業における商品開発の役割を認識し説明できるようになること。
③データーから商品開発における必要事項を読み取れるようになること。
④プレゼンテーションを通じて自分の言葉で商品を説明できるようになること。
⑤社会に出てから必要な商品開発に関する実行力を身につけること。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション、身の回りにある商品
2週	企業の中の商品開発とその背景
3週	市場にある課題抽出と市場分析
4週	商品コンセプトの構築プロセス
5週	アイデア創出とその手法
6週	企画書作成
7週	販売戦略の立案について
8週	ビジネスプラン説明、商品（有形）の商品開発とケース分析
9週	プレゼン手法とプレゼン準備①
10週	ビジネスプラン①、各グループごとに発表
11週	サービス（無形）の商品開発とケース分析
12週	プレゼン手法とプレゼン準備②
13週	ビジネスプラン②、各グループごとに発表
14週	商品開発と評価
15週	総括とまとめ、最終課題発表

成績評価方法・基準

出席20%、事前・事後課題30%
授業貢献度（発言・質問・発表など）20%、最終レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

西川英彦、廣田章光（2012）『1からの商品企画』中央経済社

クラスコード

wms6bvm

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。課題提出について締め切りに間に合わない、未提出などは評価が下がりますのでご注意ください。

2～3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いので積極的に取り組んでください。

授業科目	金融学	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	岩立 顕一郎	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3322

授業概要

わが国の経済は、今大きな転換期にあります。多くの学生のみなさんはこの環境の中でより良い社会の実現に向けて価値創造の活動を担っていくことになりますが、企業に所属するにしても、起業するにしても、個人として資産形成を行うにしても全ての取引の基本に金融があり、金融の理解が価値創造の鍵を握っています。本講義では、金融の基礎的な概念の理解を積み上げつつ、実際の地域社会の課題解決にどのように役立てるかを考えていきます。

到達目標

①金融の仕組みがどうなっているのか、基礎的な知識を理解し説明できること
②金融取引の特徴について、基礎的な知識を理解し説明できること
③地域の金融システムの全体像を理解し説明できること
④課題を通じて、金融システムと地域の課題を関連付けて理解することができ、課題解決に向けた基本的な提案ができること
⑤学んだ知識を通じて学生が自分のキャリアについて考え始めること

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	Ⅰ	金融取引とは何か
2週	Ⅱ	金融取引と情報の不完全性
3週	Ⅲ	金融取引とその阻害要因(情報の不確実性)
4週	Ⅲ	金融取引とその阻害要因(契約の不完備性)
5週	Ⅳ	金融システム(1)市場中心の金融システム
6週	Ⅳ	金融システム(2)銀行中心の金融システム
7週	Ⅴ	クラウドファンディングとは
8週	Ⅵ	ベンチャーキャピタルとは
9週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(企業・自治体)
10週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(個人)
11週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(地域が抱える課題)
12週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(地域が抱える課題)
13週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(地域が抱える課題)
14週	Ⅶ	地域経済における金融システムの役割(地域が抱える課題)
15週	Ⅷ	授業内試験(到達度チェック)とまとめ

成績評価方法・基準

出席15%、事前・事後課題35%、授業貢献度(発言・質問・発表など)30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配布します。

参考書等

村瀬英彰 (2016)『新エコノミクス金融論 第2版』日本評論社

クラスコード

22brzic

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

労働金庫の営業店及び本部業務、労働金庫業態の中央機関(東京)での調査・企画業務、融資に関する保証を行う保証機関での業務

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。

2時間から3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いので積極的に取り組んでください。

授業科目	社会保障制度論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	松岡　是伸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3611

授業概要

社会保障制度の主な制度の内容と課題を理解する
社会保障制度論では、現代における社会保障の諸制度、年金制度、医療制度、労働保険制度、社会福祉制度等がそれぞれどのような仕組みと利用実態になっているかを理解する。そのうえで社会保障の個別の制度の仕組みや実施、利用、問題・課題等を理解することにより、制度に対するさらなる理解と課題を解決する力量を涵養する。また国際的な視点から社会保障制度を概観し、日本の社会保障制度を振り返るようにする。なお、社会保障制度を理解を促すために”(社会)連帯”を鍵として講義を展開する。

到達目標

具体的な到達目標
①社会保障の年金、医療、雇用保険等の各制度の内容を理解し説明できる。
②社会保障の課題を理解し、今後の社会保障のあり方について自分なりの意見を表明できる。
③諸外国の社会保障制度の概要を理解し、日本の社会保障との対比において考察し説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーションと現代日本の社会保障制度の全体像
2週	社会の変容と社会保障制度　―人口・労働・地域―
3週	暮し(生活)と社会保障制度　―世帯所得・所得再分配・生活意識―
4週	社会保障制度の変遷(1)　戦後から安定成長まで
5週	社会保障制度の変遷(2)　少子・高齢化の社会保障構造改革
6週	社会保障制度の現在　―全世代型社会保障の構築―
7週	年金保険制度の体系(1)　年金制度の体系・沿革
8週	年金保険制度の体系(2)　国民年金・厚生年金について
9週	医療保険制度の体系(1)　医療保険の体系・沿革
10週	医療保険制度の体系(2)　被用者保険制度・国民健康保険等について
11週	介護保険制度　体系と沿革
12週	雇用保険制度・労働災害保険　：　体系と内容
13週	生活困窮者自立支援制度
14週	生活保護制度・諸外国の社会保障制度
15週	現代日本の社会保障制度と生活

成績評価方法・基準

レポート　50%、授業内における発言などの参加態度　30%、リアクションペーパー　20%

教科書ソフト等

教科書指定なし。講義資料については、moodleにてアップロードするため各自準備して講義に参加すること。

参考書等

・社会福祉士養成講座編集委員会(2016)『社会保障』中央法規、・厚生統計協会(各年)『保険と年金の動向』、『厚生労働白書』 等。

クラスコード

6l74wcf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回のテーマに関する社会保障の動向や現状について新聞記事や雑誌記事、マスメディア等に関心を向け、それらを多く読み込み事前学習に取り組んでください。また講義内容を整理すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・レポート課題　については、講義中に掲示・アナウンスする。
・講義は学生参加型にて展開することもあるため、遠隔講義の場合はカメラをオンにして展開する場合がある。
・レポートに関しては複数回、課す場合がある。

授業科目	地域資源管理論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	五味 宏	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	SC-MS 3331

授業概要

地域資源とは何か。北海道がもっている「地域の風土」、「山」、「森」、「川」、「海」、「農地」、「水」、「雪」、「流氷」、「祭り」、「伝統技術」など、さまざまに利活用できる要素を指します。人々の生活を悩
てきた強い風を、エネルギーに変えて役立てることも新たな資源の創出です。また、地域を盛り上げようとする「人材」は、とりわけ重要な資源の1つです。
本講義では、そうした地域資源の意義や特徴を理解し、講義の中での発言や提出文によって表現する力を養います。
講師は、札幌テレビ放送（STV）の解説委員で、双方向＝インタラクティブな授業運営が基本です。
STVが制作した「見たい！知りたい！北海道」（2017年～2019年）などの番組を教材として予定し、それを講義の中で視聴して、北海道にあるさまざまな地域資源を学びます。最終課題として、地域資
のテーマを1つ選んで、それを活かそうとする「人材」と「地域の魅力」、「課題解決のアイデア」などをリポートにまとめます。
【なお、番組の視聴など、授業の内容については変更する可能性があります。ご容赦願います。】

到達目標

① 地域に顕在あるいは潜在する、可視的あるいは不可視的な資源を発掘して明示化し、その資源の地域的および社会的な意義を明確に説明することができる。
② 地域課題の解決を目的とした、既存の地域資源の利活用と、新たな資源の創生により、地域社会の持続的発展の方法について理解を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	イントロダクション －地域資源とは－ 積丹の森と「崖っぷち温泉」
2週	地域と観光① 登別・伊達時代村
3週	地域と観光② 礼文島の魅力「桃岩荘」
4週	地域と観光③ ゴールデンカムイと聖地巡礼
5週	地域を活かせ！① 北海道の絶景とドローン
6週	地域を活かせ！② 新千歳空港 行列の理由
7週	最終課題に向けて① テーマと主人公を決めよう！
8週	地域を活かせ！③ コンサドーレ 強さとミライ
9週	地域を活かせ！④ 五輪選手 なぜ幕別町から？
10週	地域と食① 北見のすごいニンジン
11週	地域と食② エゾシカとジビエ料理
12週	最終課題に向けて② 構成しよう！
13週	冬の地域資源① 旭川空港 95．5%の就航率
14週	冬の地域資源② 雪まつり 市民雪像の技
15週	最終課題 全員提出 発表も

成績評価方法・基準

各回の課題提出と完成度（＝視点）60%,質疑応答と質問頻度20%,最終課題の提出と完成度（＝視点）20%

教科書ソフト等

教科書なし。

参考書等

参考書なし。授業内で指示します。

クラスコード

m5ptjtt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で習得した情報に加えて、各回のテーマをインターネット等で調べて地域資源の特徴や強みをノートに書きだして理解を深めてください。また、最終課題については作成する時間を、各回の講義の合間に取っていきます。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本講義では、番組を見て感じたことや、それを地域にどう生かすか、考えることがポイントです。みんなと同じではなく、自分自身の意見や考え、独自の視点を持つことを高く評価します。

授業科目	観光メディア演習 I	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹、西脇 裕之	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3513

授業概要

現在はメディアそのものが観光的な要素を持ち合わせている時代となっている。本科目では観光の各コンテンツを例として、講義とディスカッション、プレゼンテーションを通し、観光とメディアの関係性について学ぶ。

到達目標

① 観光とメディアの関係が理解できるようになる。
② 観光の各コンテンツについてディスカッションとプレゼンテーションができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　オリエンテーション （授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明）
2週　モバイルメディアと観光①　講義とディスカッション
3週　モバイルメディアと観光②　ワーク
4週　モバイルメディアと観光③　プレゼンテーション
5週　ツーリズムとしての音楽フェス①　講義とディスカッション
6週　ツーリズムとしての音楽フェス②　ワーク
7週　ツーリズムとしての音楽フェス③　プレゼンテーション
8週　中間まとめ
9週　写真と観光メディア①　講義とディスカッション
10週　写真と観光メディア②　ワーク
11週　写真と観光メディア③　プレゼンテーション
12週　コンテンツツーリズム（聖地巡礼）①　講義とディスカッション
13週　コンテンツツーリズム（聖地巡礼）②　ワーク
14週　コンテンツツーリズム（聖地巡礼）③　プレゼンテーション
15週　総まとめ

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（課題・プレゼンテーション）50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

57dqepw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習として各回の内容について事前に調べ、自分の意見を考えておくこと。復習として各回の内容と各学生のプレゼンテーションの内容をまとめておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	観光メディア演習Ⅱ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西脇 裕之、山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3514

授業概要

昔からメディアやイベントが観光地についての情報を伝え、そのイメージをつくってきた。また、さまざまな観光資源がメディアと結びつくことで、にぎわいを創出し記憶を次世代へとつなげていく。この科目では札幌市内のさまざまな観光資源をとりあげて、講義とディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して、メディア・交通と観光の場所・資源との関係について理解を深める。

到達目標

①観光資源がメディアと結びつくことで、どのようにしてその価値を高めていくのか、事例の理解を通してそのしくみを説明することができる。
②札幌市内の観光資源について調べたことにもとづいて、ディスカッションやプレゼンテーションができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週　オリエンテーション　世界の車窓から
2週　公園とイベント①　ワーク（イベント参加）
3週　公園とイベント②　講義とディスカッション
4週　公園とイベント③　プレゼンテーション
5週　路面電車のまちの魅力①　講義とディスカッション
6週　路面電車のまちの魅力②　ワーク（市電で周遊）
7週　路面電車のまちの魅力③　プレゼンテーション
8週　中間まとめ
9週　メディアとしての建造物①　講義とディスカッション
10週　メディアとしての建造物②　ワーク（歴史建築散歩）
11週　メディアとしての建造物③　プレゼンテーション
12週　キャラクターと観光①　講義とディスカッション
13週　キャラクターと観光②　ワーク（雪ミク電車の撮影）
14週　キャラクターと観光③　プレゼンテーション
15週　総まとめ

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・ワークへの参加態度等）50%、アウトプット（課題・プレゼンテーション）50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

pvezzu6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習として各回の内容について事前に調べ、自分の意見を考えておくこと。復習として各回の内容を整理し、各学生のプレゼンテーションへのコメントを提出すること。

1時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

通常の授業時間外に札幌市内でのフィールドワークを3回程度実施する予定です。自宅から現地までの交通費が実費でかかります。スマートフォンやデジカメでの撮影を行うワークがあります。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	キャリアデザイン論B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	和田　佳子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3901

授業概要

社会の動きや労働環境の動向を捉え、社会人に求められる資質や能力についての理解を深めます。この時期は就職活動に向かう時期にかかることから、広く社会事象に関心を向けるとともに自己のキャリア形成を意識して、進路選択を具体的に考えていきます。生涯にわたる学びとキャリア形成の礎となる行動・思考の方法について学びます（グループディスカッションや面接トレーニングを含む）。

到達目標

① 労働環境・就業にまつわる用語を理解し、大学から社会に移行するための意識を高めることができる。
② 社会的事象に関心を持ち、新聞やニュース、白書等から情報を収集して考えることができる。
③ いかなる環境下でも、構成されたメンバーで建設的に話し合い解決策を導くことができる。
④ 求職の仕組みを知り、就職活動のための具体的な準備・行動ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション（授業の進め方、参加の仕方、評価の視点）
2週	論理的な思考整理法①
3週	論理的な思考整理法②
4週	論理的な思考整理法③
5週	働き方の変化（複雑化する労働の世界）、キャリアデザイン（自分に合った職業とは何か）
6週	求職と求人（企業経営と求人の仕組み、職業選択の新たな視点）
7週	就職活動と大学教育（就職活動までに準備すること）
8週	昇進と昇格（企業内訓練と昇進・昇格、異動と配置転換の意味）
9週	ワークライフバランスとは（労働時間と休暇、福利厚生制度の今後）
10週	ダイバーシティと様々なキャリア（離職と転職、キャリア形成の考え方）
11週	課題解決ワーク①
12週	課題解決ワーク②
13週	課題解決ワーク③
14週	課題の発表
15週	課題の発表、授業の振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

平常点（授業の参加態度）30%、毎回の課題提出30%、最終課題40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

岡部正浩・松繁寿和 『キャリアのみかた　図で見る109のポイント』 有斐閣

クラスコード

ngd35kz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

資料を読む、情報を集めるなど提示された課題には必ず取り組んでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

講義を聞くだけではなく、グループで話しあったり、発表する場面があります。自分の将来を真剣に考える態度、仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。授業内のグループワークに積極的に参加しない、あるいは非協力的な姿勢が見られる場合には出席と認めないことがあります。

授業科目	都市計画論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	仙波　希望	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	

授業概要	1961年、『アメリカ都市の生と死』と題した、一人の「アマチュア」の手による書籍が世界を席巻した。荒廃の進み、さまざまな再開発計画の進展するニューヨークを舞台としたこの本は、著者のもつ鋭敏な観察眼から都市の生態系を生々と描き出しながらも、明確な「反―都市計画」を掲げていた。本講義は、現代においてはむしろ都市計画におけるバイブルとなった本書を起点に、都市計画をめぐる多様な実践を検討し、その上で昨今の都市研究で展開されるジェンダー・クィアスタディーズと都市計画の接点について考えていく。
到達目標	【1】都市をめぐる様々な事象を把握するための理論的展開を理解する。 【2】都市計画とスラムクリアランスの間に存在するさまざまな課題についての知識を身につける。 【3】現代の都市におけるジェンダー・クィアの面からの課題を説明することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　イントロダクション 2週　都市計画と反都市計画（1）：1960年代、ニューヨーク 3週　都市計画と反都市計画（2）：ジェイン・ジェイコブズ 4週　都市計画と反都市計画（3）：ロバート・モーゼス 5週　都市美運動（1）：シティプランニング／タウンプランニング 6週　都市美運動（2）：日本におけるシヴィックアートの技法 7週　中間レポート：ピアレビュー 8週　都市計画とスラム（1）「剥ぐ」、除却、クリアランス 9週　都市計画とスラム（2）「平和都市」の「原爆スラム」 10週　都市計画とスラム（3）スラムを飼い慣らす？ 11週　ジェンダー・クイアと都市計画（1）「フェミニストシティ」の逆襲 12週　ジェンダー・クイアと都市計画（2）クィアな空間の系譜学 13週　ジェンダー・クイアと都市計画（3）ダイバーシティと排除 14週　最終レポート：ピアレビュー 15週　まとめ・レポート提出
成績評価方法・基準	授業への参加の度合い（プレゼン・ディスカッション・コメントシートの内容・取り組み）30% 中間レポート30%、最終レポート40%
教科書ソフト等	講義で取り扱う内容に関するPDFを随時Googleクラスルームにアップする。
参考書等	講義内で随時提示する。
クラスコード	
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにするので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	・各種WebサービスとQRコードによるQ&Rシステムを活用する ・随時ショート&ロングディスカッションの機会を設ける ・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する 上記のように一方向の知識伝達型ではない、双方向型の講義スタイルを採用するため、積極的なコメントやディスカッションへの参加を受講者に求める。

授業科目	コミュニティビジネス論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	太田 稔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3322

授業概要

コミュニティビジネスは、その地域の中で社会的課題を解決するための商品やサービスを提供することでコミュニティの発展を支えるようなビジネスのことを指します。例えば、閉校になった学校を使った新しいビジネスを創造したり、観光資源の開発のためにUターンする若者を支援したり、学校以外の子ども達の居場所を作ることもコミュニティビジネスと言えます。この授業では、コミュニティビジネスの理論と実践の両方からコミュニティにある企業のあり方を学びます。

到達目標

①コミュニティ・ビジネスの基礎的な知識から理解し説明できるようになること。
②地域に必要とされる活動を認識し説明できるようになること。
③事例検討から必要事項を読み取り、応用可能性を検討できるようになること。
④プレゼンテーションを通じて自分の言葉で商品を説明できるようになること。
⑤コミュニティ・ビジネスの担い手として戦略立案ができるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション、コミュニティ・ビジネス概論、地域に生きるビジネス
2週	地域における組織の役割、企業・行政・市民の活動
3週	ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネス
4週	海外におけるコミュニティ・ビジネス事例検討①
5週	海外におけるコミュニティ・ビジネス事例検討②
6週	国内におけるコミュニティ・ビジネス事例検討①
7週	国内におけるコミュニティ・ビジネス事例検討②
8週	ビジネスプランニングの手法①(マーケティング的視点より)
9週	ビジネスプランニングの手法②(戦略論的的視点より)
10週	ビジネスプランニングの手法③プレゼンテーション
11週	ビジネスプランニング準備①
12週	ビジネスプランニング準備②
13週	ビジネスプランニング発表
14週	コミュニティ・デザインと地域に生きる企業活動
15週	総括とまとめ、最終課題発表

成績評価方法・基準

出席20%、事前・事後課題30%
授業貢献度(発言・質問・発表など)20%、最終レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

細川信孝(2010)『新版コミュニティ・ビジネス』学芸出版社

クラスコード

5t2fbmo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。課題提出について締め切りに間に合わない、未提出などは評価が下がりますのでご注意ください。

2～3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いので積極的に取り組んでください。

授業科目	ベンチャー経営論（企業論）	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	太田　稔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3323

授業概要

ベンチャー企業は、革新的なアイデアや技術を活動し、新しい製品やサービスを市場に投入する企業を意味します。各地のベンチャー企業の事例をもとに、どのような企業活動をしているかを検討し、事業の企画から起業までの一連の流れを学びます。

到達目標

①ベンチャー経営の基礎的な知識を理解し説明できるようになること。
②地域での中小企業の果たす役割・課題について考え、説明できるようになること。
③課題を通じて、ベンチャー企業の設立に関するノウハウを得ること。
④アントレプレナーとして起業家精神を育成すること。

学科のディプロマ・ポリシー

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション、ベンチャー経営の基礎知識
2週	ベンチャー経営の歴史
3週	アントレプレナーとベンチャー経営
4週	ベンチャービジネスの経営資源
5週	イノベーションと知的財産
6週	ベンチャー企業の資金調達
7週	成功する企業家の特徴
8週	スタートアップとベンチャー経営
9週	ベンチャー企業の商品・サービス開発
10週	ローカルベンチャーと地域経済
11週	起業計画策定1　事業計画書の書き方
12週	起業計画策定2　財務計画の作り方
13週	起業計画策定3　発表資料のまとめ方
14週	事業計画の発表
15週	総括とまとめ、最終課題発表

成績評価方法・基準

出席20%、事前・事後課題30%
授業貢献度（発言・質問・発表など）20%、最終レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

長谷川博和（2018）『はじめての経営学　ベンチャー経営論』東洋経済新報社

クラスコード

3736tf5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ローカルベンチャーをより深く理解するための「コミュニティビジネス論」と資金調達なども学ぶ「金融学」を受講しておくと理解が深まります。

授業科目	インターンシップⅠ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	和田　佳子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2931

授業概要

本講は、3年前期「インターンシップⅢ」で実習（職業体験）に出る前の基礎編に位置づけ、インターンシップの目的や意義を理解するとともに、職業や組織理解を深めます。新規学卒者の就労環境の変化、インターンシップ先となる企業の研究方法、実習に出るまでの心構えや準備しておくべきことを具体的に学びながら就業意識を高めます。職場内で信頼を得るために必要となる対人コミュニケーション力やビジネスマナーなどを、体験型のトレーニングを取り入れながら実践的に学修します。
※インターンシップ実習に参加するのは3年前期以降となります。

到達目標

① インターンシップ参加の目的と意義を理解し、自らの職業選択およびキャリア形成について展望できる。
② 社会が求めるコミュニケーション能力やビジネスマナーについて学び、それらを日常の生活で実践できる。
③ 社会で起きている出来事や課題に関心を持ち、自ら調べ、解決法を考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

3 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。（協調性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション（授業の目的と参加のルール、評価の仕方）
2週　インターンシップの種類と目的（学生から見るインターンシップ、企業から見るインターンシップ）
3週　インターンシップ参加体験から学ぶ①　職場・組織の特徴
4週　インターンシップ参加体験から学ぶ②　企業が学生に求めるもの（実習プログラム分析）
5週　インターンシップ参加体験から学ぶ③　業界・企業研究（新聞の活用）
6週　ジョブカードを活用した自己分析①　キャリアポートフォリオとは何か
7週　ジョブカードを活用した自己分析②　キャリアポートフォリオの作成
8週　職場の人間関係とコミュニケーション①
9週　職場の人間関係とコミュニケーション②
10週　職場の人間関係とコミュニケーション③
11週　ビジネスマナーの基本①　ビジネスマナーの必要性
12週　ビジネスマナーの基本②　聴く・話すためのビジネスマナー
13週　ビジネスマナーの基本③　仕事をこなすためのビジネスマナー
14週　ビジネスマナーの基本③　書くためのビジネスマナー
15週　振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

参加状況30%、授業内に提出する課題シート、ディスカッションへの参加30%、レポート（最終課題）40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

7xc36l4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

資料を読む、情報を集めるなど提示された課題には必ず取り組んでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

3年次のインターンシップ実習に参加するための事前指導に位置づけられます。実習参加を希望する学生は必ず履修してください。

「インターンシップⅠ～Ⅲ」は、積み上げ科目になっています。

授業科目	インターンシップⅡ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	和田　佳子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 2932

授業概要

業界研究および企業訪問による社会人への聞き取りを通して、仕事の意義や働くことの意味を理解することを目的とします。授業内外で行われる事前学習、企業訪問とインタビュー、事後報告は主にグループワークとして実施します。様々な角度から「仕事」について考察し、社会や職業の多様性を理解するとともに、「インターンシップⅢ」の実習準備につなげます。なお、コロナ感染状況や訪問先企業の都合により、予定が変更になることがあります。

到達目標

① 働くことの意味や社会人としての役割を理解できる。
② 企業等で働く方々と直接対話し、仕事のやりがいや困難さ、キャリア形成について共感的に理解できる。
③ 業界や企業の特徴、仕事の成り立ちについて学び、職業の多様性を理解できる。
④ 仕事に関する情報を多角的に収集し、分析することを通して自らのキャリア形成の目標を立てることができる。
⑤ グループ活動において自分の役割を認識し、協力的かつ責任を持ってプロジェクトを遂行できる。

学科のディプロマ・ポリシー

3 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。（協調性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション（授業の目的と参加のルール、評価の仕方）
2週　訪問形式による企業研究①　プロジェクトの概要説明、企業研究の仕方
3週　訪問形式による企業研究②　事前準備（訪問先の選択・決定）
4週　訪問形式による企業研究③　訪問の段取り、聞き取り内容の企画
5週　訪問形式による企業研究④　訪問に向けた最終打ち合わせ
6週　訪問形式による企業研究⑤　訪問日
7週　訪問形式による企業研究⑥　訪問日
8週　訪問形式による企業研究⑦　訪問日
9週　訪問形式による企業研究⑧　プレゼン資料の作成
10週　訪問形式による企業研究⑨　プレゼン資料の作成
11週　訪問形式による企業研究⑩　プレゼン資料の作成
12週　課題発表と情報共有①
13週　課題発表と情報共有②
14週　インターンシップ実習参加に向けて
15週　課題発表のフィードバック、振り返りとまとめ

成績評価方法・基準

プロジェクトへの参加状況など40%、課題発表30%、レポート30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

J. Dクランボルツ、A. Sレビン著『その幸運は偶然ではないんです！』（ダイヤモンド社）、谷内　篤博著『働く意味とキャリア形成』（勁草書房）

クラスコード

6ccpd2m

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教室外で各グループで打ち合わせをしたり、資料を作成すること。指示に従い各自が役割を果たし責任をもって課題を遂行するよう努めてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「インターンシップⅠ～Ⅲ」は積み上げ科目です。

授業科目	インターンシップⅢ	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	和田　佳子、山田　政樹	単位数	1	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SC-MS 3933

授業概要

「インターンシップⅠ」の単位を取得している学生を対象として行う実習科目です。進路・職業選択に向けて視野を広げることを目的とし、主に夏季休暇期間を利用して、自分が興味のある企業・団体で職業体験を行います。ウェブ型のインターンシップの参加も可能です。事前準備7コマ、職業体験（webによるものも可とする）、報告書の作成と報告会参加をもって単位認定します。
※コロナウィルス感染の状況によっては、対面による現場実習ができないことがあります。その場合は、ウェブ型インターンシップへの参加または、学内インターンシップなどに切り替えることがあります。

到達目標

① インターンシップ実習に主体的に参加することを通して働くことの現実を理解し、職業観の構築につなげられる。
② 大学で学んでいることが、実際の仕事現場でどのようにつながり、活かせるのかを認識できる。
③ 実習先での経験を通して自己の課題に気づき、その後の大学生活の過ごし方に反映できる。
④ 目上の人たちとのかかわりの中で、コミュニケーション能力やマナーの重要性を認識できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

3 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を 通して、働くことの意義への理解を深めつつ 、社会性をもって協働することができます。（協調性）

4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）

5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1．ガイダンス（インターンシップ実習までの流れ、受講のルール・注意事項と評価の仕方）
2．インターンシップに参加するための事前講座（1）
3．インターンシップに参加するための事前講座（2）
4．インターンシップに参加するための事前講座（3）
5．インターンシップに参加するための事前講座（4）
6．インターンシップに参加するための事前講座（5）
7．インターンシップに参加するための事前講座（6）
8．インターンシップに参加するための事前講座（7）
9～13．インターンシップ実習（職業体験）
・活動終了後に担当教員に報告し、実習日誌等の必要書類を提出する。
14．事後指導
・インターンシップ体験をその後の大学生活および進路選択にどのように活かすかを考える。
15．インターンシップ報告書の作成・報告会の開催

成績評価方法・基準

事前指導の受講状況と課題提出30%、実習参加40%、レポート提出・報告会参加30%、

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jecew3h

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は企業実務経験のある教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

実習時間以外に、資料の作成、実習先との事前打ち合わせ等の時間が必要となります。
報告・連絡・相談の習慣を徹底してください。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本授業は、外部の企業・団体の協力の下で行われる体験学習であるため、実習生の真摯な取り組みが不可欠です。事前指導時に欠席した場合、あるいは指示通りに行動できない場合は実習に出ることはできませんので注意してください。実習に参加するためには、「インターンシップⅠ・Ⅱ」を必ず履修してください。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・ピアノ）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	PI_MS 4107 PI_MS 4108

授業概要	ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。 バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。 個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。
到達目標	ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る 2週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る① 3週　数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る② 4週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする① 5週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする② 6週　各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③ 7週　暗譜で演奏できるようにする① 8週　暗譜で演奏できるようにする② 9週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする① 10週　自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする② 11週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める① 12週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める② 13週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③ 14週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④ 15週　実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出する。 実技試験の演奏曲は、最低3回はレッスンを受講している楽曲とする。試験課題は別途発表する。
教科書ソフト等	各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
参考書等	「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
クラスコード	yupwfk5
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上／日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔ピアノ〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	黒山　映、谷本　聡子、外山　啓介	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	PI_MS 4001

授業概要

4年間で培った学習の総仕上げとして、卒業演奏曲及び作曲家につながる、全ての歴史的背景等の中からテーマを決め、広範囲に渡り研究する。

到達目標

4年間の学修の集大成として、調べる、レポートに書く、口答で発表する、演奏に生かすという作業を自立して行うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	1年間の研究テーマ設定へのガイダンス	16週	各自の研究レポート⑨
2週	各自の研究テーマ設定と研究計画表	17週	各自の研究レポート⑩
3週	各自の研究レポート①	18週	グループ内での研究レポートの発表と議論④
4週	各自の研究レポート②	19週	各自の研究レポート⑪
5週	グループ内での研究レポートの発表と議論①	20週	各自の研究レポート⑫
6週	各自の研究レポート③	21週	グループ内での研究レポートの発表と議論⑤
7週	各自の研究レポート④	22週	合同研究発表会への準備
8週	グループ内での研究レポートの発表と議論②	23週	合同研究発表会への準備
9週	各自の研究レポート⑤	24週	各クラスの計画に基づくまとめ
10週	各自の研究レポート⑥	25週	各クラスの計画に基づくまとめ
11週	グループ内での研究レポートの発表と議論③	26週	合同研究発表会①
12週	各自の研究レポート⑦	27週	合同研究発表会②
13週	各自の研究レポート⑧	28週	合同研究発表会③
14週	グループ内での研究レポートの発表と議論④	29週	合同研究発表会④
15週	中間発表④	30週	各クラスの計画に基づくまとめ

成績評価方法・基準

各クラスにおける平常のレポート40%、合同研究発表30%、実技演奏試験30%

教科書ソフト等

芸術書全般

参考書等

音楽関係書籍、辞書及び芸術一般の書物。

クラスコード

tm2nh4k

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

図書館等を活用し、学術的な書籍、音楽辞典及び美術や建築等の資料から広範囲に発展的に調べること。毎週調べたことをレポートにしてくること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

調べたことを、自分で要約し、まとめる。必ず自分の考察を加えること。グループ内での積極的発言、議論を視野にいれて、知識をつけてくること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・声楽）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	VM_MS 4107 VM_MS 4108

授業概要

まず、基本的な呼吸法、発声法を学ぶ。
正しい立ち方から始まり、声の出し方等、声楽に必要な訓練を徹底的に行う。
教材としては声質やレヴェルに適った教材を用い、時間をかけて学習する。
伴奏は学生が担当し、併せて伴奏指導も行う。

到達目標

① 「実技演奏法Ⅰ（主科・声楽）」
声楽学習の基本であるイタリア古典歌曲を正しい発音と発声で、詩の内容を適切に表現することを目指す。
② 「実技演奏法Ⅱ（主科・声楽）」以降
様々な楽曲をそれぞれの時代の適切な音楽スタイルで演奏できるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	学生の声を聴き、その声質やレヴェルに適った教材を選択して課題を与え、次週からの学習計画を示す
2週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける①
3週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける②
4週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける③
5週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける④
6週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑤
7週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑥
8週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑦
9週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑧
10週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑨
11週	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑩
12週	それまでに学んだ楽曲を歌い、その中から試験曲として1曲を選ぶ
13週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する①
14週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する②
15週	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する③

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

参考書等　コンコーネ50番、他

クラスコード　gfpl64s

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無　この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間　授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。
1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報　上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔声楽〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	三山　博司、針生　美智子	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	VM_MS 4001

授業概要

これまでに学んできたことを体系的にまとめ、その楽曲の分析や作曲家についての研究を行うことで、実技演奏に役立てる。前期の実技試験曲について、楽曲解説や訳詩に取り組み、プログラムを作成する。後期は、各自で選んだ専攻分野に関する出版本を読み、その書評を作成し、受講者全員で読み、質疑応答することで深い理解に至る。

到達目標

① これまで学んできた声楽作品について理解を深めることができる。
② 自分が歌う言語の詩を正しく読み解く力を身につけることができる。
③ 図書館や書店を活用して、自分に必要な資料・知識を手に入れることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス(年間の学習計画を示す)	16週	書評を書く本を読み概要をまとめる①
2週	これまでに学んできた楽曲を整理する	17週	中間発表①
3週	与えられたテーマについて研究する①	18週	提出した書評を読み質疑応答①
4週	第1回発表	19週	書評を書く本を読み概要をまとめる②
5週	別のテーマについて研究する②	20週	中間発表②
6週	第2回発表	21週	提出した書評を読み質疑応答②
7週	別のテーマについて研究する③	22週	書評を書く本を読み概要をまとめる③
8週	第3回発表	23週	中間発表③
9週	楽曲解説の作成	24週	提出した書評を読み質疑応答③
10週	楽曲解説の校正	25週	書評を書く本を読み概要をまとめる④
11週	訳詩の作成①	26週	中間発表④
12週	訳詩の作成②	27週	提出した書評を読み質疑応答④
13週	訳詩の校正	28週	書評を書く本を読み概要をまとめる⑤
14週	プログラム全体の校正	29週	中間発表⑤
15週	プログラムの印刷・製本	30週	提出した書評を読み質疑応答⑤

成績評価方法・基準

毎回与えられる課題の発表とその取り組み70%、実技演奏試験30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6kh5rbn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

前期は図書館、後期は主として書店を活用し、必要な資料を探し出し、レポートを作成すること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

書評を書くための本は各自で購入すること。また、毎週与えられる課題に取り組み、出席することが求められます。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・管弦打楽）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	OI_MS 4107 OI_MS 4108

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。伴奏付きのレパートリーによりピアニストとのコミュニケーションやアンサンブル能力を習得する。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。日々のレッスンから指導方法を学び、指導者としてのスキルも身につける。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	a6wfv6e
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。管弦打楽コースのみ履修可。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔管弦打楽〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	OI_MS 4001

授業概要	卒業研究として異なる様式（バロック、古典、ロマン、現代など）の作品を組み入れた40分程度のリサイタルプログラムでの演奏発表と、それぞれ選んだ曲の作曲者と作品についてを研究課題とし、演奏者としての能力を身につける。
到達目標	4年間の集大成として各専門分野での個々の演奏や研究成果を通し、音楽家、指導者として自律した活動ができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	研究課題を設定する	16週	演奏発表①
2週	資料集め・研究①	17週	演奏発表②
3週	資料集め・研究②	18週	演奏発表③
4週	資料集め・研究③	19週	演奏発表④
5週	レポート提出・研究課題設定①	20週	演奏発表⑤
6週	資料集め・研究④	21週	演奏発表⑥
7週	資料集め・研究⑤	22週	演奏発表⑦
8週	資料集め・研究⑥	23週	演奏発表⑧
9週	レポート提出・研究課題設定②	24週	演奏発表⑨
10週	資料集め・研究⑦	25週	演奏発表⑩
11週	資料集め・研究⑧	26週	演奏発表⑪
12週	レポート提出・研究課題設定③	27週	演奏発表⑫
13週	資料集め・研究⑨	28週	演奏発表⑬
14週	資料集め・研究⑩	29週	演奏発表⑭
15週	レポート提出・研究課題設定④	30週	演奏発表⑮

成績評価方法・基準	研究課題40%、実技演奏試験60%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	y67i6e5
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	演奏発表までに、充分に準備しておくこと。演奏発表は他の受講者の発表を聴講すること。 4時間から5時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	レポートは期日までに提出する。演奏発表の3週間前までに、プログラムを作成し提出すること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	作曲・編曲実技Ⅶ・Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	CP_MS 4107 CP_MS 4108

授業概要	作曲の実技指導を行います。また、必要に応じて、参考となる楽曲の鑑賞・分析や、和声法、対位法、管弦楽法の指導も行います。作曲の課題内容と、作曲方法については、各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。
到達目標	① 興味・関心に応じた楽曲を制作できる。 ② 他者の作品から、参考になる部分を学ぼうとすることができる。 ③ 作品制作で使用する楽器・機器に対する知識を身につけることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週 興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する 2週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析① 3週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析② 4週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析③ 5週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析④ 6週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑤ 7週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑥ 8週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑦ 9週 作品制作、楽曲の鑑賞・分析⑧ 10週 試演会での作品発表、上級学年の作品を鑑賞する 11週 試演会についてのディスカッション 12週 作品制作、浄書指導、仕上げ① 13週 作品制作、浄書指導、仕上げ② 14週 作品制作、浄書指導、仕上げ③ 15週 作品制作、浄書指導、仕上げ④
成績評価方法・基準	実技試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	小山:u43uxfh　内藤:ssir7f6　塚原:bot2wck　大黒:xhm3cii
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	自作品の制作は授業時間外に進めてください。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	楽譜を作成する場合は、使用する五線紙について指示する場合があります。指示があった場合はなるべく早めに用意してください。コンピュータを購入して楽曲制作をする場合は、指導教員に相談をしてください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔作曲〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	CP_MS 4001

授業概要

作曲コースの卒業研究を行います。
卒業作品を制作します。

到達目標

① 明確なコンセプトを持って作曲を企画できる。
② 4年間の集大成として、相応の完成度を持った作品を制作できる。
③ 自作品を客観的な視点で分析できる。
④ 自作品を他者に伝えるためのより良い方法を探ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	前期の復習と課題の確認
2週	課題の検討① 指導教員との打ち合わせ	17週	作品の制作と修正① 大まかな計画立て
3週	課題の検討② 卒業作品の方向付け	18週	作品の制作と修正② スケッチ
4週	課題の検討③ 卒業作品制作の計画検討	19週	作品の制作と修正③ スケッチ段階の修正
5週	課題の検討④ 制作に必要な情報収集	20週	作品の制作と修正④ スケッチの完成
6週	課題の決定① 指導教員との打ち合わせ	21週	作品の制作と修正⑤ 編曲
7週	課題の決定② 卒業作品の決定	22週	作品の制作と修正⑥ 編曲の修正
8週	他者の作品の研究① リズム	23週	作品の制作と修正⑦ 編曲の完成
9週	他者の作品の研究② 音色	24週	作品の検討、評価
10週	他者の作品の研究③ その他の要素	25週	作品の最終的な修正
11週	コンセプトの検討	26週	作品の完成
12週	コンセプトの修正	27週	楽曲解説の執筆① 構成の検討
13週	コンセプトの決定	28週	楽曲解説の執筆② 執筆
14週	コンセプトの仕上げ	29週	楽曲解説の執筆③ 完成
15週	前期のまとめ	30週	仕上げと研究成果の公開

成績評価方法・基準

作品評価70%、実技試験30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

p6q6ern

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自で設定した課題に応じて指示します。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

録音に必要な機器と楽譜作成ソフトウェアを用意する必要はありませんが、その他のものについては各自で準備してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れになりますが、設定した課題によっては変更します。その場合は、事前にお知らせします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・電子オルガン）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EO_MS 4107 EO_MS 4108

授業概要

電子オルガンの実技指導や楽曲のアナリーゼを個人レッスンで行い、基礎的な演奏テクニックや表現力を養います。レガート奏法、タッチコントロール、ペダル奏法など必要な奏法は、楽曲の中でマスターし、必要であればエチュードを用いて補強し、スコアを用いての編曲も実習していきます。

到達目標

① 電子オルガンの奏法・表現法をマスターできる。
② 楽曲の内容を正確に演奏・表現できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、個々のレベルに応じた楽曲の選択を行う。
2週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う①
3週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う②
4週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う③
5週	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う④
6週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる①
7週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる②
8週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる③
9週	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる④
10週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる①
11週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる②
12週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる③
13週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる④
14週	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる⑤
15週	実技試験に向けた仕上げを行う。

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

斉藤：3r5o4xu　播磨：b3uwzvt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実技試験前に試験で演奏する曲の楽譜の提出が求められます。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔電子オルガン〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	小山 隼平	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EO_MS 4001

授業概要

電子オルガンコースの卒業研究を行います。
卒業学年で制作した楽曲を録音・公開します。

到達目標

① 明確なコンセプトを持って作曲を企画できる。
② 4年間の集大成として、相応の完成度を持った作品を制作できる。
③ 自作品を客観的な視点で分析できる。
④ 自作品を他者に伝えるためのより良い方法を探ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	前期の復習と課題の確認
2週	課題の検討① 指導教員との打ち合わせ	17週	作品の制作と修正① 大まかな計画立て
3週	課題の検討② 卒業作品の方向付け	18週	作品の制作と修正② スケッチ
4週	課題の検討③ 卒業作品制作の計画検討	19週	作品の制作と修正③ スケッチ段階の修正
5週	課題の検討④ 制作に必要な情報収集	20週	作品の制作と修正④ スケッチの完成
6週	課題の決定① 指導教員との打ち合わせ	21週	作品の制作と修正⑤ 編曲
7週	課題の決定② 卒業作品の決定	22週	作品の制作と修正⑥ 編曲の修正
8週	他者の作品の研究① リズム	23週	作品の制作と修正⑦ 編曲の完成
9週	他者の作品の研究② 音色	24週	作品の検討、評価
10週	他者の作品の研究③ その他の要素	25週	作品の最終的な修正
11週	コンセプトの検討	26週	作品の完成
12週	コンセプトの修正	27週	楽曲解説の執筆① 構成の検討
13週	コンセプトの決定	28週	楽曲解説の執筆② 執筆
14週	コンセプトの仕上げ	29週	楽曲解説の執筆③ 完成
15週	前期のまとめ	30週	仕上げと研究成果の公開

成績評価方法・基準

作品演奏評価70%、実技試験30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

p6q6ern

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自で設定した課題に応じて指示します。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

録音に必要な機器と楽譜作成ソフトウェアを用意する必要はありませんが、その他のものについては各自で準備してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れになりますが、設定した課題によっては変更します。その場合は、事前にお知らせします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽療法実習Ⅲ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	高田　由利子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 4403

授業概要

音楽療法実習は音楽療法士を志す学生が児童、成人、高齢者領域において、施設、病院で実践を体験する中で、自らの決意と適性を確認するものである。音楽療法士としての資質や能力を体得することも目的で ある。音楽療法実習に際しては、施設や病院の音楽療法士や職員のもと、誠実にかつ意欲的に取り組まな ければならない。音楽療法が治療的行為であるために、対象者を知り、効果的なセッションの組み立てを実践し、客観的・主観的観察による評価をすることにある。
この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

① 対象者を正しく観察できる。
② 音楽療法のセッションは適切であったかを判断できる。
③ 音楽療法としての査定、実践、評価ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	施設や病院での実践と記録・評価⑧
2週	音楽療法士としての専門性① 治療哲学	17週	施設や病院での実践と記録・評価⑨
3週	音楽療法士としての専門性② 倫理観	18週	施設や病院での実践と記録・評価⑩
4週	音楽療法士としての専門性③ 独自の実践アプローチ	19週	施設や病院での実践と記録・評価⑪
5週	音楽療法士としての専門性④ 多職種連携	20週	施設や病院での実践と記録・評価⑫
6週	音楽療法実習の事前指導	21週	音楽療法の量的評価の検討①
7週	音楽療法におけるアセスメント①	22週	音楽療法の量的評価の検討②
8週	音楽療法におけるアセスメント②	23週	音楽療法におけるマルチメソッドな評価の検討
9週	施設や病院での実践と記録・評価①	24週	症例レポートの作成①
10週	施設や病院での実践と記録・評価②	25週	症例レポートの作成②
11週	施設や病院での実践と記録・評価③	26週	症例レポートの作成③
12週	施設や病院での実践と記録・評価④	27週	症例レポートの作成④
13週	施設や病院での実践と記録・評価⑤	28週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック
14週	施設や病院での実践と記録・評価⑥	29週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック
15週	施設や病院での実践と記録・評価⑦	30週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック

成績評価方法・基準

実習態度60%、レポート20%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

uy57yrm

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、音楽療法士としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

グループでの準備を有する課題を指示します。

実習前に事前確認する時間を確保してください。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

音楽療法実習は10回ないしは10日間行う(研修を含む)。年に数回外部施設での訪問音楽療法を実施 する。ゲストスピーカーによる特別講義があります。本科目は、「音楽療法実習Ⅰ」及び「音楽療法実習 Ⅱ」を修得していること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔音楽療法〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	高田　由利子	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MT_MS 4001

授業概要

4年間で培った学習の総仕上げとして、卒業研究課題としての卒業論文に取り組む。そして、その成果を発表します。

到達目標

4年間の学修の集大成として、各専門分野での個々の研究成果が、研究者として自律した活動ができること。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス	16週	卒論の書き進め方①　構成
2週	卒論とは何か	17週	卒論の書き進め方②　序論の書き方
3週	年間計画の立て方	18週	卒論の書き進め方③　問題と目的の書き方
4週	ゼミでの学び方	19週	卒論の書き進め方④　展開の仕方
5週	論文の書き方①　論文のきまりごと	20週	ワープロ機能を使った図表の作り方
6週	論文の書き方②　引用文献の扱い方	21週	卒論の書き進め方⑤　結果の書き方
7週	論文の書き方③　論理的な書き方	22週	卒論の書き進め方⑥　考察の書き方
8週	先行研究の集め方	23週	中間発表・講評
9週	先行研究の発表①	24週	中間発表・講評
10週	先行研究の発表②	25週	卒論の書き進め方⑦　題目・要約・謝辞・付録の付け方
11週	研究の進め方①　テーマの深め方	26週	卒論発表の仕方①　パワーポイントの使い方
12週	研究の進め方②　問いの立て方	27週	卒論発表の仕方②　レジュメの作り方
13週	研究の進め方③　研究方法	28週	卒業発表会に向けたリハーサル
14週	研究倫理	29週	卒業研究発表会・講評
15週	研究の進め方④　研究計画書の書き方	30週	卒業研究発表会・講評

成績評価方法・基準

卒業研究80%、中間発表・卒業研究発表20%

教科書ソフト等

『改訂新版　心理学論文の書き方』 河出書房新社

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

nyxigd4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

論文執筆は緻密な作業の積み重ねのため、各週に設定された計画をできるかぎり守るように努力すること。特に、資料収集と読解を充分に行うこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業はゼミ形式でおこなう。毎回、課題のフィードバックを行う。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ(副専攻・[…])	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MU_MS 4107 MU_MS 4108

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。 選択できる楽器及び科目は別紙に記載する。
到達目標	基礎と演奏又は作曲能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内試験90%(または実技試験90%)、平常点10%。音楽総合コースの主たる副専攻楽器の場合は実技試験とする。 実技試験の評価は、複数、または授業担当者の採点した素点を合計し、平均点を算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	lhktkpz
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（副科・[…]）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	HP閲覧者は最終ページの「実技演奏法担当教員一覧」を確認してください。 本学学生は下記URLからも確認できます。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Lz8N-xU_3eG-_QWcOhgKQZB3IG9QU2mJoivAz2CaPpo0/edit?usp=shari_ng	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4117 MU_MS 4118

授業概要	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。
到達目標	基礎と演奏能力を習得できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える 2週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する① 3週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する② 4週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③ 5週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④ 6週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤ 7週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥ 8週　与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦ 9週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する① 10週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する② 11週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③ 12週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④ 13週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤ 14週　試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥ 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内試験90%、平常点10% 実技試験の評価は、採点者の素点を合計し、算出します。
教科書ソフト等	なし。授業内で指示します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	vwc3ee6
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。 1時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	専攻楽器ごとに詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業研究〔音楽総合〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、三山　博司、黒山　映、谷本　聡子、小山　隼平、河野　泰幸、針生　美智子、大隅　雅人、萬　司	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MC_MS 4001

授業概要

4年間で培った学習の総仕上げとして、卒業研究として認定された課題に取り組む。
内容は、主に①音楽実技系、②音楽指導系、③音楽文化系に分かれる。
それぞれの分野において、テーマを決めて研究し、演奏発表または卒業論文に取り組む。

到達目標

①4年間の集大成として、各分野での研究成果を論文や演奏を通して発表することができる。
②発表のために、調べたり文章にまとめたりするなど、自律した活動をすることができる。
③その研究成果を、将来のキャリアにつなげることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	研究課題設定①	16週	レポート提出④
2週	資料集め・研究①	17週	研究課題設定⑤
3週	資料集め・研究②	18週	資料集め・研究⑨
4週	レポート提出①	19週	資料集め・研究⑩
5週	研究課題設定②	20週	資料集め・研究⑪
6週	資料集め・研究③	21週	レポート提出⑤
7週	資料集め・研究④	22週	研究発表に向け課題を設定
8週	レポート提出②	23週	資料集め・研究⑫
9週	研究課題設定③	24週	資料集め・研究⑬
10週	資料集め・研究⑤	25週	資料集め・研究⑭
11週	資料集め・研究⑥	26週	資料集め・研究⑮
12週	レポート提出③	27週	資料集め・研究⑯
13週	研究課題設定④	28週	資料集め・研究⑰
14週	資料集め・研究⑦	29週	資料集め・研究⑱
15週	資料集め・研究⑧	30週	研究発表

成績評価方法・基準

レポート提出40%、研究発表60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

x56jher

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自で設定した課題に応じて指示します。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

調べたり、まとめたり、演奏準備をしたりと、自律した活動や準備が求められる。そのため、計画性を持って取り組み、課題提出の期限を守ること。

授業科目	油彩研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	松村　繁、佐々木　剛、川口　浩	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4006

授業概要

オムニバス形式/90回(松村90回・佐々木90回・川口3回) 本授業は、絵画コース油彩分野の4年生を対象とし、より高度な研究を深める科目である。「油彩研究 A・B」によって学んだ技術と発想を基にし、イメージを伝えるために必要な表現方法や見せ方を工夫し全体の構成を考える。制作過程を確認するために、プレゼンテーションを通してディスカッションし、各自の発想やテーマがどの様に他人に伝わっているのかを把握させる。またエスキースを練り上げていく事で作品内容に適した画材と表現方法を追求し、オリジナリティ溢れる作品制作を目指す。これらの作業を通して卒業制作に向けた取り組み方や方向性をより明確にしていく。

到達目標

① 制作のテーマを明確にし、それを表現する方法を深めることができる。
② 画材・素材の表現方法を研究し、自分の表現方法を深めることができる。
③ ディスカッションを通し自分の作品を分析し、言語化できるところまで明確にすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	前提講義 / 課題1エスキースの作り方について [松村][佐々木]
2週	課題1-① 制作、コンセプト、エスキース [松村][佐々木]
3週	課題1-② 制作、構図・構成 [松村][佐々木]
4週	課題1-③ 制作、明暗バランス [松村][佐々木]
5週	課題1-④ 制作、色彩計画 [松村][佐々木]
6週	課題1-⑤ 制作、細部と全体 エスキース完成作品の講評 [松村][佐々木]
7週	課題2-① 制作、課題1のエスキースを元に本制作 [松村][佐々木]
8週	課題2-② 制作、本制作の構図・構成 [松村][佐々木]
9週	課題2-③ 制作、本制作の明暗と空間 [松村][佐々木]
10週	課題2-④ 制作、本制作の中間講評 [松村][佐々木]
11週	課題2-⑤ 制作、講評で指摘された部分を考え本制作継続 [松村][佐々木]
12週	課題2-⑥ 制作、本制作継続/屋外写生 [松村][佐々木]
13週	課題2-⑥ 制作、本制作継続/屋外取材をもとにエスキース [松村][佐々木]
14週	課題2-⑧ 制作、本制作継続/屋外取材タブロー小品6号制作 [松村][佐々木]
15週	課題2-⑧ 制作、各完成作品の講評 [松村][佐々木] [川口3コマ]

成績評価方法・基準

明確なイメージ20%、絵画的造形性20%、積極的な制作姿勢20%、完成度40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

fz2pfzk

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

普段から美術館やギャラリーの良質な展示作品を積極的に鑑賞すること。図書館やインターネット環境を最大限に活用し制作の参考になる資料を収集しておくこと。講評会には完成度 の高い作品を提出できるように授業時間外の制作を積極的に進め、画面上での模索を続けること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

アトリエ内は制作するための大切な場である。全員が協力し、緊張感ある空間にする様に心 がけること。作品提出日、時間は厳守。前もって画材の整備・準備の確認をすること。(私語の禁止・身の回りの整理整頓)
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	油彩研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	松村　繁、佐々木　剛、川口　浩	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4007

授業概要

オムニバス形式/90回(松村90回・佐々木90回・川口12回)
本授業は、絵画コース油彩分野の4年生を対象とし、より高度な研究を深めさせる科目である。「油彩研究C」によって培った作品の方向性を更に深めるとともに、作品の見せ方も考えていく。既存の様式にとらわれず自分の作品イメージをより強めていく方法を考える力を養っていく。自分のイメージを言語化し相手に伝えると同時に、イメージの先にある言語化できない深層をさらに深く掘り下げる制作を目指す。以上を踏まえ、卒業制作の質をレベルアップさせていくことにつなげて行く。

到達目標

① 各自のテーマを更に深め、そのイメージに合った表現方法で制作できる。
② 作品テーマを強調するための画面全体の構成を把握できる。
③ 画材の特性を生かした表現を用いて、作品にとって必要な要素をコントロールし完成度を高めることができる。
④ 自己の表現、思考について発表することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	授業概要説明 / 課題1-① コンセプト、エスキース制作開始 [松村][佐々木]
2週	課題1-② 構図 [松村][佐々木]
3週	課題1-③ 明暗と空間 [松村][佐々木]
4週	課題1-④ 色彩の効果 エスキース完成作品の講評 [松村][佐々木] [川口3コマ]
5週	課題2-① 新コンセプト、エスキース開始/ 並行して課題1の本制作 [松村][佐々木]
6週	課題2-② 構図/ 並行して課題1の本制作 [松村][佐々木] [川口3コマ]
7週	課題2-③ 明暗と空間/ 並行して課題1の本制作 [松村][佐々木]
8週	課題2-④ 色彩の効果 / 並行して課題1の本制作　エスキース完成作品と本制作中間講評 [松村][佐々木] [川口2コマ]
9週	課題3-① 課題1、2本制作の続き [松村][佐々木]
10週	課題3-② 課題1、2本制作の続き　構図チェック [松村][佐々木] [川口1コマ]
11週	課題3-③ 課題1、2本制作の続き　明暗バランスチェック [松村][佐々木]
12週	課題3-④ 課題1、2本制作の続き [松村][佐々木] [川口1コマ]
13週	課題3-⑤ 課題1、2本制作の続き [松村][佐々木]
14週	課題3-⑥ 課題1、2本制作の続き　完成作品の講評 [松村][佐々木] [川口2コマ]
15週	課題3-⑦ まとめ、額装 、発表 [松村][佐々木]

成績評価方法・基準

明確なイメージ25%、積極的な制作姿勢25%、完成度50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

yvpwd3e

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

本科目は卒業制作の本制作と密接な関わりを持っている。講評会には完成度の高いものを提出できるように、授業時間外に制作時間を設けて積極的に画面上での模索を続けること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

アトリエ内は制作するための大切な場である。全員が協力し緊張感ある共用空間にしていく事を心がけること。
(私語の禁止・身の回りの整理整頓)
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔油彩〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	松村　繁、佐々木　剛	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4008

授業概要

オムニバス形式/120回(松村120回、佐々木120回)
本授業では卒業制作として、油彩分野におけるオリジナル作品を制作させる。4年間の学習、研究の集大成としてこれまでに習得させた油彩の知識と技能、技法を踏まえて、個々の特性を生かし、密度を深め、完成度の高い作品を制作させることを目標とする。

到達目標

① 4年間の集大成である卒業制作として、完成度の高い作品を作り上げることができる。
② 自己の表現、思考について明確に言語化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(協調性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション [松村][佐々木]	16週	新作品エスキース [松村][佐々木]
2週	モノクロエスキース① [松村][佐々木]	17週	エスキースチェック [松村][佐々木]
3週	着彩エスキース② [松村][佐々木]	18週	制作2-① 構図 [松村][佐々木]
4週	エスキース①②のプレゼンテーション [松村][佐々木]	19週	制作2-② 明暗バランス [松村][佐々木]
5週	制作1-① 構図 [松村][佐々木]	20週	制作2-③ 色彩計画 [松村][佐々木]
6週	制作1-② 明暗バランス [松村][佐々木]	21週	制作2-④ 絵画空間 [松村][佐々木]
7週	制作1-③ 色彩計画 [松村][佐々木]	22週	制作2-⑤ イメージ確認 [松村][佐々木]
8週	制作1-④ 絵画空間 [松村][佐々木]	23週	制作2-⑥ 中間講評会 [松村][佐々木]
9週	制作1-⑤ イメージ確認 [松村][佐々木]	24週	制作2-⑦ アドバイスを参考にして [松村][佐々木]
10週	制作1-⑥ 中間講評会 [松村][佐々木]	25週	制作2-⑧ 表現方法の確認 [松村][佐々木]
11週	制作1-⑦ アドバイスを参考にして [松村][佐々木]	26週	制作2-⑨ 全体と細部のバランス [松村][佐々木]
12週	制作1-⑧ 表現方法の確認 [松村][佐々木]	27週	制作2-⑩ 描き込みと省略 [松村][佐々木]
13週	制作1-⑨ 細部制作 [松村][佐々木]	28週	制作2-⑪ 細部制作 [松村][佐々木]
14週	制作1-⑩ 全体感 [松村][佐々木]	29週	制作2-⑫ 全体感 [松村][佐々木]
15週	制作1-⑪ 完成作品の講評 [松村][佐々木]	30週	制作2-⑬ 完成作品の講評会 [松村][佐々木]

成績評価方法・基準

明確なイメージ20%、表現技法の的確さ20%、完成度60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

j6vt4uz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時間外の資料収集や試作を怠らないことが大切である。最終講評会には完成度の高いものを提出できるように授業時間内外を問わず、全てが制作時間だと捉えて積極的に画面上での模索を続けること。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

アトリエ内は制作するための大切な場である。卒業制作では1年間同じアトリエを使用する事になるので、制作に関係ないものは持ち込まず全員が協力して作業のしやすい緊張感ある空間にすることを心がけること。(私語の禁止・身の回りの整理整頓)

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本画研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	平向　功一	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4106

授業概要

本授業では「日本画研究A及びB」での研究を活かし制作を進める。課題1では自らのテーマを設定をさせ る。構想から下図までディスカッションと講評を繰り返しながら本画の制作につなげ、自らの創作活動の中に 新たな可能性を探求する。また課題2では自然の豊かさを感じ取りながら、光や色彩、空気感をとらえ自由 で個性的な日本画作品を制作することを目指す。

到達目標

① 各自の表現テーマを深め、そのイメージにあった技法や表現方法をもちいて制作できる。
② 画材の特性を生かした表現を用いて作品の完成度を高める。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　課題1 構想と小下図
2週　課題1 下図の制作
3週　課題1 本画の準備(パネル制作・和紙裏打ちなど)
4週　課題1 本画の制作①
5週　課題1 本画の制作②
6週　課題1 本画の制作③
7週　課題1 本画の制作④
8週　課題1 本画の制作⑤
9週　課題1 本画の制作⑥
10週　課題1 本画の制作⑦
11週　課題1 講評とまとめ
12週　課題2 写生
13週　課題2 下図と本画の準備
14週　課題2 本画の制作
15週　課題2 講評とまとめ

成績評価方法・基準

課題1 下図と構想(10%)、表現(40%)　課題2 写生(20%)、表現(30%)

教科書ソフト等

なし。授業内で指示します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jbkkppp

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題2については道内で学外写生を行う。詳細については授業時に説明する。・構想、小下図について場合によってはオンラインで授業を実施することがある。

6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

多様な日本画表現や技術を修得するため、外部機関での写生・見学・研修も行う。絵具・用具の整備、点検、補充を確実にしておくこと。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本画研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	水野　剛志	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4107

授業概要

絹本技法と人物デッサン、自画像制作を通し自己の表現を広げることを追求します。絹本作品の制作では 日本画技法の1つである絹本の特性を知り、自己の表現につなげることを目指します。人物デッサンでは人体を把握するためにヌードや着衣のデッサンに取り組むとともに、人物像を用いて自己のイメージを具体化 し表現することを目指します。自画像では、自己認識・日本画の素材を再確認し、表現の検討を行います。

到達目標

① 絹本の特性や技法を理解し、自己の表現に取り入れる。
② 人物デッサンを通して人体の構造を把握し、自分の作品に取り入れる。
③ 形態の把握、自己認識、日本画の素材を意識した作品を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	課題1 人物クロッキー（画材・用紙は自由）
2週	課題1 人物デッサン(画材・用紙は自由)
3週	課題2 自由課題制作①(課題設定・制作準備)
4週	課題2 自由課題制作②(下図・骨描)
5週	課題2 自由課題制作③(彩色)
6週	課題2 自由課題制作④(彩色)
7週	課題2 自由課題制作⑤(彩色)
8週	課題2 自由課題制作⑥(彩色)
9週	課題2 自由課題制作⑦(彩色・仕上げ)
10週	課題3 自画像の制作①絹本(制作準備)
11週	課題3 自画像の制作②絹本(下図・骨描)
12週	課題3 自画像の制作③絹本(彩色・裏彩色)
13週	課題3 自画像の制作④絹本(彩色)
14週	課題3 自画像の制作⑤絹本(彩色・仕上げ)・裏打ち(外部講師)
15週	表装実習・講評とまとめ

成績評価方法・基準

絹本制作40%、人体デッサン30%、自画像30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

wwvzan7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題作品の構想を練るため、資料収集やラフスケッチの制作などを指示します。11週目から の自画像、提出作品:F10号。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

多様な日本画表現や技術を習得するため、外部講師(表具師)による表装の伝統技法を学ぶ機会をもうける。絵具、用具の点検補充を確実にしておくこと。必要に応じ、学外の施設などにて資料の取材・収集・写生・研修を行うことがある。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔日本画〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	平向　功一	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4108

授業概要

本授業では卒業制作として、4年間の学習及び制作の成果の集大成として、これまでに習得させた日本画 専攻における知識と技術・技法を踏まえて日本画作品を制作させることを目標とする。

到達目標

4年間の集大成として、完成度の高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	制作Ⅱ① 構想
2週	制作Ⅰ① 構想	17週	制作Ⅱ② 小下図
3週	制作Ⅰ② 小下図	18週	制作Ⅱ③ 着彩
4週	制作Ⅰ③ 下図	19週	制作Ⅱ④ 着彩
5週	制作Ⅰ④ 着彩	20週	制作Ⅱ⑤ 着彩
6週	制作Ⅰ⑤ 着彩	21週	制作Ⅱ⑥ 着彩
7週	制作Ⅰ⑥ 着彩	22週	制作Ⅱ⑦ 着彩
8週	制作Ⅰ⑦ 着彩	23週	制作Ⅱ⑧ 着彩
9週	制作Ⅰ⑧ 着彩	24週	制作Ⅱ⑨ 着彩
10週	制作Ⅰ⑨ 着彩	25週	制作Ⅱ⑩ 着彩
11週	制作Ⅰ⑩ 着彩	26週	制作Ⅱ⑪ 着彩
12週	制作Ⅰ⑪ 着彩	27週	制作Ⅱ⑫ 着彩
13週	制作Ⅰ⑫ 着彩	28週	制作Ⅱ⑬ 着彩
14週	制作Ⅰ⑬ 着彩	29週	制作Ⅱ⑭ 着彩
15週	制作Ⅰ⑭ 仕上げ・まとめ	30週	制作Ⅱ⑮ 仕上げ・まとめ

成績評価方法・基準

日本画分野における制作過程と作品を総合的に評価する 100%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

utdevhb

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

必要に応じ、学外の施設などにて資料の取材・収集・写生・研修を行うことがある。構想段階において場合によってオンラインで授業を展開する。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

用具の整備、点検、補充を事前にしておいてください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	吉田　潤、鳴海　伸一	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4206

授業概要

すでに経験・習得した各版種の技法を組み合せた併用表現または専門版種を実験・実践・探究し、個性を生かした広い版表現を身につける。また、近代版画技法の考察や時代に沿った制作環境や身体にも安全な版画制作やその方法も習得する。

到達目標

① 木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンの特徴を理解した上で各版種を併用する表現を実践することができる。
② 技法にとらわれない豊かで個性のある表現力を身につけることができる。
③ 扱っている道具や材料を理解し、自主的に安全かつ正確に制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　併用・研究版種による自由制作、アイデア、計画の検討、併用版制版作業(試刷り含)1
2週　併用・研究する版の描画作業1-①
3週　併用・研究する版の製版作業1-②
4週　併用・研究する版の印刷作業1-③
5週　併用・研究する版の印刷作業1-④ 完成した作品のプレゼンテーションと講評
6週　研究版種による自由制作、アイデア、計画の検討、併用版制版作業(試刷り含)2
7週　研究版種の描画作業2-①
8週　研究版種の製版作業2-②
9週　研究版種の印刷作業2-③
10週　研究版種の印刷作業2-④ 完成した作品のプレゼンテーションと講評
11週　研究版種のまとめ 検証と成果の再考
12週　屋外写生
13週　研究版種による自由制作(描画、製版)
14週　研究版種による自由制作(印刷)
15週　研究版種による自由制作(プレゼンテーションと講評)

成績評価方法・基準

提出された作品の実験度・魅力・完成度(発想力・構成力・技術力)65%、併用または版種研究に対する積極的な意欲・ 姿勢35%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

3maxy2o

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

学内図書館等を利用し、版画に関する書籍(作品集、技法書など)を閲覧しておいて下さい。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	版画研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	吉田　潤	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4207

授業概要

本授業は4年生を対象とし、より高度な研究を深める科目である。各種の版画技法 を習得し、自由に操作できる力を得た次の段階として、作品制作を行う。「版画研究A・B・C」での習得内容を踏まえ、自由に版種を選択し、自主制作に臨む。制作に取りかかる前には、表現内容と選択した版種、 その必然性などを文章化しコンセプトシートとして提出する。制作の経過上で全体ミーティングを行い、コンセプトの確認、制作上の問題点など話し合う場を設け、無意識でなされる創作上の“表現”を意識化すること で、より深い表現領域に到達することを目的とする。

到達目標

テーマを確立し、表現領域を広げ、完成度の高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週前半	表現方法の確認・エスキース1	1週後半	表現方法の確認・エスキース2
2週前半	技法、表現方法の実習1	2週後半	表現方法の実習2
3週前半	自由制作（各自選択した版種の研究）	3週後半	自由制作（各自選択した版種の研究）
4週前半	選択した版種での制作・研究	4週後半	選択した版種での制作・研究
5週前半	選択した版種での制作・研究	5週後半	選択した版種での制作・研究
6週前半	ミーティング・コンセプトの確認1	6週後半	ミーティング・コンセプトの確認2
7週前半	コンセプトにもとづいた自由制作	7週後半	コンセプトにもとづいた自由制作
8週前半	コンセプトにもとづいた自由制作	8週後半	コンセプトにもとづいた自由制作
9週前半	コンセプトにもとづいた自由制作	9週後半	コンセプトにもとづいた自由制作
10週前半	ミーティング・制作スケジュールの確認	10週後半	ミーティング・制作スケジュールの確認
11週前半	制作スケジュール調整の上制作	11週後半	制作スケジュール調整の上制作
12週前半	制作スケジュール調整の上制作	12週後半	最終週に向けて完成度の高さを目指す
13週前半	最終週に向けて完成度の高さを目指す	13週後半	最終週に向けて完成度の高さを目指す
14週前半	最終週に向けて完成度の高さを目指す	14週後半	最終週に向けて完成度の高さを目指す
15週前半	最終週に向けて完成度の高さを目指す	15週後半	完成した作品のプレゼンテーションと講評

成績評価方法・基準

作品制作に積極的に取り組む姿勢20%、完成した作品80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

shx34dq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

主題は図書館などを活用し明確な意図の上で設定する。版画室の空き時間、放課後を利用 し制作に当てる。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

卒業制作に繋がる授業なので、自分が表現する内容、また方法(版種)についてのコンセプトを明確にする。
汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔版画〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	吉田　潤	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4208

授業概要

本授業では卒業制作として、版画分野におけるオリジナル作品を制作する。ここでは習得した版画技法を活かし、各自の個性が版表現を通して十分発揮できるように、個別指導の機会とグループ講評の場を設け、完成度を高めた作品を制作する力を身につける。

到達目標

4年間の学習及び制作の成果の集大成として、これまでに習得した専門知識と技術、技法を踏まえて版画表現に臨む力量を身につけた上で、作品を完成させることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	学生個々の制作に対応した個別指導①	16週	学生個々の制作に対応した個別指導⑮
2週	学生個々の制作に対応した個別指導②	17週	学生個々の制作に対応した個別指導⑯
3週	学生個々の制作に対応した個別指導③	18週	学生個々の制作に対応した個別指導⑰
4週	学生個々の制作に対応した個別指導④	19週	学生個々の制作に対応した個別指導⑱
5週	学生個々の制作に対応した個別指導⑤	20週	学生個々の制作に対応した個別指導⑲
6週	学生個々の制作に対応した個別指導⑥	21週	学生個々の制作に対応した個別指導⑳
7週	学生個々の制作に対応した個別指導⑦	22週	学生個々の制作に対応した個別指導㉑
8週	学生個々の制作に対応した個別指導⑧	23週	学生個々の制作に対応した個別指導㉒
9週	学生個々の制作に対応した個別指導⑨	24週	学生個々の制作に対応した個別指導㉓
10週	学生個々の制作に対応した個別指導⑩	25週	学生個々の制作に対応した個別指導㉔
11週	学生個々の制作に対応した個別指導⑪	26週	学生個々の制作に対応した個別指導㉕
12週	学生個々の制作に対応した個別指導⑫	27週	学生個々の制作に対応した個別指導㉖
13週	学生個々の制作に対応した個別指導⑬	28週	学生個々の制作に対応した個別指導㉗
14週	学生個々の制作に対応した個別指導⑭	29週	学生個々の制作に対応した個別指導㉘
15週	作品のプレゼンテーション、中間講評	30週	作品のプレゼンテーション、講評

成績評価方法・基準

作品制作に取り組む姿勢20%、提出作品80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

sxluuzv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

版画の展覧会に限らず、ギャラリーや美術館の企画展は積極的に鑑賞する。版画室の空き時間、放課後などを利用して作品を制作する。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

共有する版画室、暗室、製版室など協力して利用する。
汚れても良い服装、保護具などの用意、着用に心掛けること。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	立体造形研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実技
担当教員	松隈　康夫	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4306

授業概要

本授業では、立体造形についてのより高度な研究を深めることを目的とする。自己と向き合い、社会、環境 をしっかりと見つめ、3年次までに習得、研究してきた技術、素材、造形思考のもとに更にテーマを掘り下げ る。また、試行錯誤する中からより深い自己への問いかけと、表現の可能性を追求する。マケットをもとに ディスカッションを行い、各自の造形思考を深めることで、自分の内なるかたち「自己表現」を確立する能力 を身につける。

到達目標

① 制作コンセプトを明確にすることができる。
② 計画性と持続性を持って制作に取り組むことができる。
③ 素材や技術を活かしたオリジナリティのある作品を制作することができる

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

1週	造形作品紹介、鑑賞
2週	各自のコンセプトのもと素材、表現方法検討
3週	コンセプト検討、ディスカッション
4週	マケット制作(任意素材)、ディスカッション
5週	マケット制作(任意素材)、ディスカッション
6週	制作① 適宜個別指導
7週	制作② 適宜個別指導
8週	制作③ 適宜個別指導
9週	制作④ 適宜個別指導
10週	中間発表
11週	制作⑤ 適宜個別指導
12週	制作⑥ 適宜個別指導
13週	制作⑦ 適宜個別指導
14週	制作⑧ 適宜個別指導
15週	制作発表、講評、まとめ

成績評価方法・基準

提出作品80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hvzoyo4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

多くの作家の作品を見たり、社会を見つめ作品への意識を高める。積極的に制作を継続する。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作意図の立上げから選択した素材の考察・実験、制作の工夫、展示計 画」まで、また制作過程自体を授業毎時後、かならず制作ノートにまとめておくこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	立体造形研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	松隈　康夫	単位数	6	授業回数	90
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4307

授業概要

本授業では、立体造形における、より高度な自己表現の確立を目的とする。各自自由に選択した素材とじっくり向き合い、その性質や魅力をより深く理解し、強度と説得力のある作品制作をする能力を身につける。学外での作品発表を視野に入れ、作品と空間(場)の関係を意識し探求する。授業では適宜、個別指導を行う。

到達目標

① テーマや表現の志向を明確にすることができる。
② 計画性と持続性を持って制作に取り組むことができる。
③「現在」の自己表現としての作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　各自のコンセプトのもと素材、表現方法検討
2週　コンセプト検討、マケット制作、ディスカッション
3週　コンセプト検討、マケット制作、ディスカッション
4週　制作1-① 個別指導
5週　制作1-② 個別指導
6週　制作1-③ 個別指導
7週　制作1-④ 個別指導
8週　制作1-⑤ 中間講評
9週　制作1-⑥ 個別指導
10週　制作1-⑦ 個別指導
11週　制作1-⑧ 個別指導
12週　制作1-⑨ 個別指導
13週　制作1-⑩ 個別指導
14週　制作1-⑪ 個別指導
15週　制作1-⑫ まとめと講評

成績評価方法・基準

提出作品80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

クラスコード

us3awwr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

多くの作家の作品を見たり、社会を見つめ作品への意識を高める。積極的に制作を継続する。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

興味を持って授業にのぞむこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔立体造形〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	藤本　和彦	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EA_MS 4308

授業概要

本授業では、卒業制作として、立体造形分野におけるオリジナル作品を制作する。これまでに習得した専門知識と表現技術・造形思考のもと、提示環境なども含め、強度と説得力のある自己表現を確立する。

到達目標

① 4年間の集大成としての研究成果を、オリジナリティと完成度の高い作品として結実させる事ができる。② 其々が習得した造形思考や空間認識を各自のテーマに基づき展開・応用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	制作1 コンセプト、素材、表現方法検討	16週	制作2 コンセプト、素材、表現方法検討
2週	制作1 デッサン、マケットでのディスカッション	17週	制作2 デッサン、マケットでのディスカッション
3週	制作1-① 個別指導	18週	制作2-① 個別指導
4週	制作1-② 個別指導	19週	制作2-② 個別指導
5週	制作1-③ 個別指導	20週	制作2-③ 個別指導
6週	制作1 検討会・ディスカッション	21週	制作2 検討会・ディスカッション
7週	制作1-④ 個別指導	22週	制作2-④ 個別指導
8週	制作1-⑤ 個別指導	23週	制作2-⑤ 個別指導
9週	制作1-⑥ 個別指導	24週	制作2-⑥ 個別指導
10週	制作1 中間講評会・ディスカッション2	25週	制作2 中間講評会・ディスカッション2
11週	制作1-⑦ 個別指導	26週	制作2-⑦ 個別指導
12週	制作1-⑧ 個別指導	27週	制作2-⑧ 個別指導
13週	制作1-⑨ 個別指導	28週	制作2-⑨ 個別指導
14週	制作1 講評会	29週	制作2 講評会
15週	制作1-⑩ 個別指導	30週	制作2-⑩ 個別指導

成績評価方法・基準

提出作品80%、平常点20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

knwn6aj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

様々な作家の作品、展覧会を見る。積極的に制作を継続する。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

自己表現の確立をめざしてください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	今　義典、小町谷　圭	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EM_MS 4406

授業概要

(今義典/24回)　４×５インチのフィルムを1600dpiでスキャニングすると1億画素の画像が得られる。この超高精細の世界を、自身が撮影した被写体を通じ体験していく。
(小町谷圭/21回)作品プランに基づき具体化していくための指導を行う。プランの中から実現に必要な実験などを行いながら 習作を制作する。映画館や美術館、またはコンピュータ上の仮想空間との違いに意識を向けながら発表の場を選び、習作を基にプロポーザルを行うことを目標とする。

到達目標

当授業でのバリエーションを活かしながら、次年度開講する卒業制作で、様々な内容や形式を取捨選択できるような引き出しを多く持つことを念頭に置き、それを到達目標に掲げる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

[A] 1週　大型カメラガイダンス〔今〕	[B] 1週　映像インスタレーションガイダンス〔小町谷〕
[A] 2週　建築写真 参考事例紹介・撮影計画構築〔今〕	[B] 2週　作品紹介〔小町谷〕
[A] 3週　建築写真 参考事例紹介・撮影計画構築2〔今〕	[B] 3週　試作1〔小町谷〕
[A] 4週　機材講習1〔今〕	[B] 4週　試作1〔小町谷〕
[A] 5週　機材講習2〔今〕	[B] 5週　試作2〔小町谷〕
[A] 6週　構内撮影1建築写真内観〔今〕	[B] 6週　試作3〔小町谷〕
[A] 7週　屋外撮影2建築写真外観〔今〕	[B] 7週　試作4〔小町谷〕
[A] 8週　フィルム現像1(白黒)〔今〕	[B] 8週　発表・講評回〔小町谷〕
[A] 9週　フィルム現像2(白黒)〔今〕	[B] 9週　メディア・インスタレーションガイダンス〔小町谷〕
[A]10週　カラーネガフィルム現像出し1〔今〕	[B]10週　作品事例紹介〔小町谷〕
[A]10週　カラーネガフィルム現像出し2〔今〕	[B]11週　実制作1〔小町谷〕
[A]12週　カラーフィルムスキャン1(デジタル化)〔今〕	[B]12週　実制作2〔小町谷〕
[A]13週　カラーフィルムスキャン2(デジタル化)〔今〕	[B]13週　実制作3〔小町谷〕
[A]14週　出力講習会・展示準備〔今〕	[B]14週　実制作3〔小町谷〕
[A]15週　大型出力・講評会〔今〕	[B]15週　発表・講評回[小町谷〕

成績評価方法・基準

参加の積極性 30%、自発的な意欲をもって授業に参加していたか。授業の理解度およびオリジナリティー 30%、課題の達成度、完成度、提出率 40%

教科書ソフト等

Adobe Creative Cloud導入のこと。その他のソフトウエアは目的に応じて利用します。授業内で適宜、資料を 配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

今(hl3obfs)　小町谷(rww5zd5)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

取材等授業外で行う際は、事前に計画書をメールまたは文書で提出すること。また授業後の 自学・自習を前提に設定しています。所属する専攻の担当教員の指導を適宜受けること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今 義典、小町谷 圭	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4407

授業概要

(小町谷圭/21回)授業計画[A] 木曜第1週から第15週まで自身の課題を具体化させながら、展示における問題検証、ならびに解決を行いながら、ドキュメントやテックライダー、インストラクションシートといった資料作成について学ぶことができる。
(今義典/24回)授業計画[B] 金曜スライドショーの課題7週と、卒業制作に絡むテクニカルな面での技術指導を8週。後者は卒制を後押しできるようなメニューを小出しに用意していく。

到達目標

① 任意のテーマについて、計画を立てられるようになる。
② 客観的に作品の内容を協議・検証しながら、問題を発見し適切に研究を深めることができる。
③ 作品の意図を伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。
④ 卒業制作に弾みをつけていくような、モチベーションを上げるトレーニングの側面も持つ

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

[B] 1週	ガイダンス〔小町谷〕	[A] 1週	スライドショー・ガイダンス〔今〕
[B] 2週	作品事例紹介〔小町谷〕	[A] 2週	作品事例紹介〔今〕
[B] 3週	展示計画〔小町谷〕	[A] 3週	実制作1〔今〕
[B] 4週	展示設営1〔小町谷〕	[A] 4週	実制作2〔今〕
[B] 5週	展示設営2〔小町谷〕	[A] 5週	実制作3〔今〕
[B] 6週	展示設営3〔小町谷〕	[A] 6週	実制作4〔今〕
[B] 7週	課題講評会〔小町谷〕	[A] 7週	発表・講評回〔今〕
[B] 8週	卒業制作展に向け〔小町谷〕	[A] 8週	卒業制作展示に向け〔今〕
[B] 9週	内容と形式・会場視察〔小町谷〕	[A] 9週	内容と形式・会場視察〔今〕
[B]10週	展覧会資料作成、参考作品紹介〔小町谷〕	[A]10週	展覧会資料作成、参考作品紹介〔今〕
[B]11週	資料作成①〔小町谷〕	[A]11週	卒業制作関連①〔今〕
[B]12週	資料作成②〔小町谷〕	[A]12週	卒業制作関連②〔今〕
[B]13週	資料作成③〔小町谷〕	[A]13週	卒業制作関連③〔今〕
[B]14週	資料作成④〔小町谷〕	[A]14週	卒業制作関連④〔今〕
[B]15週	成績評価・内覧会・講評会〔小町谷〕	[A]15週	成績評価・内覧会・講評会〔今〕

成績評価方法・基準

参加の積極性30%(自発的な意欲をもって授業に参加していたか)、専門的な技術の理解度およびオリジナ リティー30%、課題の達成度・完成度・提出率40%

教科書ソフト等

使用ソフトは、Adobe Creative Cloudなど目的に応じて利用します。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

今(itqwkph) 小町谷(ukelhd2)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

写真の授業では、屋外での撮影をベースにするため、大学構内でのロケハンが極めて重要にな る。事前に撮影ポイントを決め、効率よく作業が進行するよう努める。撮影計画書を事前にメール または文書で提出すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講者の積極的な参加の姿勢が求められます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア表現ゼミC	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	今　義典、鳥宮　尚道、島名　毅、小町谷　圭、 戸澤　逸美、宮本　一行、堀　じゅん子、石岡　美久	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4410、4510、 4610、4710

授業概要	様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ(創作物)は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。4年は特に将来を見据えた創作活動に重きを置き、各自の研究を深めていきます。
到達目標	・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。 ・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。 ・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1. 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性) 2. 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性) 5. 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス、各自の個別テーマの検討 2週　研究計画書の作成 3週　研究①:テーマや領域の現状 4週　研究②:テーマや領域の課題 5週　研究③:先行研究や事例 6週　中間発表・ディスカッション 7週　研究④:研究テーマ 8週　研究⑤:研究手法 9週　研究⑥:実施 10週　研究⑦:検証 11週　研究⑧:実施 12週　研究⑨:検証 13週　研究⑩:公開 14週　最終発表 15週　まとめ
成績評価方法・基準	授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、指示します。
参考書等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
クラスコード	鳥宮・宮本(6tqktoa)島名・堀・戸澤(idvqxkj)石岡(mdaoxeo)　今・小町谷(zjtxsav)
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク・プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	メディア表現ゼミD	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今 義典、鳥宮 尚道、島名 毅、小町谷 圭、 戸澤 逸美、宮本 一行、堀 じゅん子、石岡 美久	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4411、4511、 4611、4711

授業概要

様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ(創作物)は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。4年後期は特に将来を見据えた創作活動に重点を置き、各自の研究を深めていきます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1. 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2. 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5. 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討
2週	研究計画書の作成
3週	研究①:テーマや領域の現状
4週	研究②:テーマや領域の課題
5週	研究③:先行研究や事例
6週	中間発表・ディスカッション
7週	研究④:研究テーマ
8週	研究⑤:研究手法
9週	研究⑥:実施
10週	研究⑦:検証
11週	研究⑧:実施
12週	研究⑨:検証
13週	研究⑩:公開
14週	最終発表
15週	まとめ

成績評価方法・基準

出席率、授業内での発表70%、授業内課題・授業内での質疑応答および発言30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、指示します。

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

クラスコード

鳥宮・宮本(6tqktoa)　島名・堀・戸澤(thivnb6)　今・小町谷(zjtxsav)　石岡(mdaoxeo)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔写真・映像・メディアアート〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	今　義典、小町谷　圭	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4412

授業概要

本授業では卒業制作として、写真・映像分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って写真・映像分野の制作・表現をすることを目標とする。

到達目標

① これまでに習得してきた専門知識と技術を踏まえた作品を制作することができる。
② 各自のテーマに基づき明確なコンセプトをもって制作することができる。
③ 各自のテーマに合ったメディアを選択し、そのメディアに合った表現ができるようになる。
④将来思い描く職業とリンクしていくような卒業制作作品を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション	16週	オリエンテーション
2週	写真およびコンテンポラリーアートの表現①	17週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現①
3週	写真およびコンテンポラリーアートの表現②	18週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現②
4週	写真およびコンテンポラリーアートの表現③	19週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現③
5週	写真およびコンテンポラリーアートの表現④	20週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現④
6週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑤	21週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑤
7週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑥	22週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑥
8週	中間講評	23週	中間講評
9週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑦	24週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑦
10週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑧	25週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑧
11週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑨	26週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑨
12週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑩	27週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑩
13週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑪	28週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑪
14週	写真およびコンテンポラリーアートの表現⑫	29週	映像メディアなど使用したメディアアートの表現⑫
15週	講評会	30週	講評会

成績評価方法・基準

参加の積極性30%(自発的な意欲をもって授業に参加したか)、ソフト・ハードを正しく使いこなせていたか 30%、課題の達成度・完成度・提出率40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jrqlvjd

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

スチル・ムービー問わず、屋外での撮影時、被写体探しやロケ地に赴く際、具体的プランを 携えていくのが重要となる為、事前に5W1Hが記された撮影計画書の提出を義務づける。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

積極的な姿勢を期待します。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	グラフィック・イラスト研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	島名　毅、堀　じゅん子、戸澤　逸美、 長谷部　さやか、土井　孝弥	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EM_MS 4506

授業概要

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性について、これまでに習得した専門知識や技法を用いて問題 発見、解決のための可能性を検討し、自らのテーマを設定する能力を身につける。なお、オ
目は主なグラフィック・イラストについて次の①から⑤の内容で担当教員が指導する(週4コマ、15週)。
① ゲームイラストなどの商業イラスト表現[長谷部さやか　土曜日3・4限]
② キャラクターやストーリー展開などの漫画表現[土井孝弥　月曜日3・4限]
③ 雑誌、新聞、エディトリアルデザインなどの広告表現 [堀じゅん子　金曜日3・4限]
④ 商品開発、CI、VIなどの広告表現 [島名毅　金曜日3・4限]
⑤ パッケージ、イラストレーションデザインなどの広告表現[戸澤逸美　金曜日3・4限]

到達目標

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性から広い視野に立ち、自らが取り組むべきテーマを設定し、表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション、課題説明 [長谷部]	プランニング、テーマ、コンセプト制作 [島名、堀、戸澤]
2週	キャラクターの立ち絵制作① ラフ [長谷部]	プランニング、テーマ、コンセプト制作 [島名、堀、戸澤]
3週	キャラクターの立ち絵制作② 線画 [長谷部]	リサーチ・ディスカッション [島名、堀、戸澤]
4週	キャラクターの立ち絵制作③ 線画 [長谷部]	実習① [島名、堀、戸澤]
5週	キャラクターの立ち絵制作④ 彩色 [長谷部]	実習② [島名、堀、戸澤]
6週	キャラクターの立ち絵制作⑤ 彩色 [長谷部]	検討会・ディスカッション① [島名、堀、戸澤]
7週	個別プレゼンテーション、講評 [長谷部]	実習③ [島名、堀、戸澤]
8週	実習①:キャラクターデザイン [土井]	実習④ [島名、堀、戸澤]
9週	実習②:題材設定 [土井]	実習⑤ [島名、堀、戸澤]
10週	実習③:ネーム・ストーリー制作 [土井]	検討会・ディスカッション② [島名、堀、戸澤]
11週	実習④:ネームの確認、修正 [土井]	実習⑥ [島名、堀、戸澤]
12週	実習⑤:ネームに基づいた漫画技法 [土井]	実習⑦ [島名、堀、戸澤]
13週	実習⑥:制作 [土井]	実習⑧ [島名、堀、戸澤]
14週	実習⑦:制作 [土井]	実習⑨ [島名、堀、戸澤]
15週	講評会 [土井]	講評会・プレゼンテーション [島名、堀、戸澤]

成績評価方法・基準

コンセプト・作品の完成度60%、プレゼンテーション20%、授業姿勢20%

教科書ソフト等

AdobeCC 授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

t3klpo7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題を意識し、周囲を観察すること。
新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニングおよび制作に対し、チェックを行い個別指導をする。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	グラフィック・イラスト研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	島名　毅、堀　じゅん子、戸澤　逸美	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4507

授業概要

これまでに習得させた専門知識や技法を踏まえ、各自が定めたオリジナルのテーマに基づく課題制作をし、個別指導を行う。ビジュアルコミュニケーションと社会との関係性から広い視野に立脚したグラフィックデザインの可能 性を追求し、問題発見および問題解決していく能力を身につける。なお、本科目は主なグラフィックデザインについ て次の1から3の内容で担当教員が指導する(週6コマ、15週)。
① 雑誌、新聞、エディトリアルデザインなどの広告表現 [堀 じゅん子]
② 商品開発、CI、VIなどの広告表現などの伝達表現 [島名 毅]
③ パッケージ、イラストレーションデザインなどの広告表現 [戸澤　逸美]

到達目標

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性から広い視野に立脚したグラフィックデザインとして完成度の 高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　プランニング、テーマ、コンセプト制作 [島名、堀、戸澤]
2週　プランニング、テーマ、コンセプト制作 [島名、堀、戸澤]
3週　リサーチ・ディスカッション [島名、堀、戸澤]
4週　実習① [島名、堀、戸澤]
5週　実習② [島名、堀、戸澤]
6週　検討会・ディスカッション① [島名、堀、戸澤]
7週　実習③ [島名、堀、戸澤]
8週　実習④ [島名、堀、戸澤]
9週　実習⑤ [島名、堀、戸澤]
10週　検討会・ディスカッション② [島名、堀、戸澤]
11週　実習⑥ [島名、堀、戸澤]
12週　実習⑦ [島名、堀、戸澤]
13週　実習⑧ [島名、堀、戸澤]
14週　実習⑨ [島名、堀、戸澤]
15週　講評会・プレゼンテーション [島名、堀、戸澤]

成績評価方法・基準

コンセプト・作品の完成度60%、プレゼンテーション20%、授業姿勢20%

教科書ソフト等

AdobeCC 授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

n7ideni

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題を意識し、周囲を観察すること。
新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニングおよび制作に対し、チェックを行い個別指導をする。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔グラフィック・イラスト〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	島名　毅、戸澤　逸美	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4512

授業概要

本授業では卒業制作として、グラフィックデザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。グラフィックデザインがビジュアルデザインの有効な手段であることを認識し、社会に発信できる作品制作を通して、問題解決のために提案していく専門的な能力を身につける。なお、本科目は主なグラフィックデザインについて次の①から③の内容で担当教員が 指導する(週4コマ、30週)。
① 雑誌・新聞等における広告表現を中心としたグラフィクデザインの作品制作を通して、異なるメディアにおいてメッセージを発信していく能力を身につける。[堀 じゅん子]
②商品開発・CI、VIなどの等に関連した広告表現を中心としたグラフィックデザインの作品制作を通して、問題発見及び問題解決していく能力を身につける。[島名 毅]
③ パッケージ、イラストレーションデザインを中心としたグラフィックデザインの作品制作を通して広く伝えるデザインを発信していく能力を身につける。[戸澤 逸美]

到達目標

4年間の集大成として、グラフィックデザインに立脚し、現代社会の多様な問題について考察し、問題解決のために提案していく完成度の高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	プランニング1-① テーマ、コンセプト制作 [島名][戸澤]	16週	プランニング3-① テーマ、コンセプト制作 [島名][戸澤]
2週	プランニング1-② テーマ、コンセプト発表 [島名][戸澤]	17週	プランニング3-② テーマ、コンセプト発表 [島名][戸澤]
3週	リサーチ・ディスカッション1 [島名][戸澤]	18週	リサーチ・ディスカッション3 [島名][戸澤]
4週	検討会・ディスカッション1 [島名][戸澤]	19週	実習3-① [島名][戸澤]
5週	実習1-① [島名][戸澤]	20週	実習3-② [島名][戸澤]
6週	実習1-② [島名][戸澤]	21週	検討会・ディスカッション3-① [島名][戸澤]
7週	講評会・プレゼンテーション1 [島名][戸澤]	22週	実習3-③ [島名][戸澤]
8週	プランニング2-① テーマ、コンセプト制作 [島名][戸澤]	23週	実習3-④ [島名][戸澤]
9週	プランニング2-② テーマ、コンセプト発表 [島名][戸澤]	24週	実習3-⑤ [島名][戸澤]
10週	リサーチ・ディスカッション2 [島名][戸澤]	25週	検討会・ディスカッション3-② [島名][戸澤]
11週	実習2-① [島名][戸澤]	26週	実習3-⑥ [島名][戸澤]
12週	検討会・ディスカッション2 [島名][戸澤]	27週	実習3-⑦ [島名][戸澤]
13週	実習2-② [島名][戸澤]	28週	実習3-⑧ [島名][戸澤]
14週	実習2-③ [島名][戸澤]	29週	実習3-⑨ [島名][戸澤]
15週	講評会・プレゼンテーション2 [島名][戸澤]	30週	講評会・プレゼンテーション3 [島名][戸澤]

成績評価方法・基準

コンセプト・作品の完成度60%、プレゼンテーション20%、授業姿勢20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ylpfmdx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題を意識し、周囲を観察すること。
新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニング及び制作に対し、チェックを行い、個別指導する。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鳥宮　尚道、宮本　一行	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4606

授業概要

「情報デザイン研究A、B」で学んだ専門的知識とスキルを踏まえ、日常の中にコミュニケーションの問題点を発見し、それをテーマとして観察・分析・デザイン提案をおこなうための演習をおこなう。これまでに身につけたデザイン提案のための一連のプロセスを洗練させることが目的である。また、最終年次の卒業制作に向け、デザイン提案にいたるまでの発想を各自が意識的に広げることに重点を置く。授業はグループワークで行い、途中、グループごとの発表、ディスカッション、相互批評の機会を設けながら進める。

到達目標

① 自発的に、デザインの課題を発見することができる。
② みずから発見した課題を解決するためのアイディアを複数考え、それらを収束させてデザイン提案に結びつけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週前半　課題発見のためのブレインストーミング（鳥宮・宮本）
2週前半　デザイン・リサーチ①（鳥宮・宮本）
3週前半　デザイン・リサーチ②（鳥宮・宮本）
4週前半　中間発表1 準備（鳥宮・宮本）
5週前半　中間発表1（鳥宮・宮本）
6週前半　デザイン・リサーチ③ フィールドワーク（鳥宮・宮本）
7週前半　デザイン・リサーチ④ フィールドワーク（鳥宮・宮本）
8週前半　中間発表2 準備（鳥宮・宮本）
9週前半　中間発表2、フィードバック（鳥宮・宮本）
10週前半　デザイン提案のための制作①（鳥宮・宮本）
11週前半　デザイン提案のための制作②（鳥宮・宮本）
12週前半　デザイン提案のための制作③（鳥宮・宮本）
13週前半　デザイン提案のための制作④（鳥宮・宮本）
14週前半　成果報告会準備（鳥宮・宮本）
15週前半　成果報告会、フィードバック（鳥宮・宮本）

成績評価方法・基準

各回の報告40%、最終報告書60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

i2qe2lg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題についての情報収集および整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鳥宮　尚道、宮本　一行	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4607

授業概要

「情報デザイン研究A、B、C」で習得した専門的知識とスキルなどを駆使し、それぞれがコミュニケーション の問題点を発見し、それをテーマとして観察・分析・デザイン提案・発信を身につけるための演習をおこなう。各自の進度に合わせて個別に指導をおこなうほか、発表、ディスカッション、相互評価の機会を設けなが ら授業を進める。

到達目標

① 自発的にデザインの課題を発見し、デザインに結びつけることができる。
② 効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルを身につける。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ブレインストーミング（鳥宮・宮本）
2週　デザイン・リサーチ①（鳥宮・宮本）
3週　デザイン・リサーチ②（鳥宮・宮本）
4週　コンセプトメイキング①（鳥宮・宮本）
5週　コンセプトメイキング②（鳥宮・宮本）
6週　中間発表 準備（鳥宮・宮本）
7週　中間発表、フィードバック（鳥宮・宮本）
8週　プロトタイプ制作①（鳥宮・宮本）
9週　プロトタイプ制作②（鳥宮・宮本）
10週　デザイン提案のための制作①（鳥宮・宮本）
11週　デザイン提案のための制作②（鳥宮・宮本）
12週　デザイン提案のための制作③（鳥宮・宮本）
13週　デザイン提案のための制作④（鳥宮・宮本）
14週　成果報告会準備（鳥宮・宮本）
15週　成果報告会、フィードバック（鳥宮・宮本）

成績評価方法・基準

各回の報告40%、最終報告書60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ihw6fyu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題についての情報収集および整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。

4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	卒業制作〔情報・プロダクトデザイン〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	鳥宮　尚道、宮本　一行	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EM_MS 4612

授業概要

この授業では、卒業制作として、情報デザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び 成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って情報デザインの企画・提案をすることを目標とする。中間報告会やディスカッションなど、学生間での相互評価の機会 も積極的に取り入れ、総合的かつ実践的な情報デザインの提案を身につける。

到達目標

① これまでに学んだ成果の集大成として、主体的にテーマの設定および情報デザインの提案を行うことができる。
② 適切なプレゼンテーションを行い、成果を他者に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション、取り組む準備(鳥宮・宮本)	16週	制作の準備① テーマ検討(鳥宮・宮本)
2週	事例研究①(鳥宮・宮本)	17週	制作の準備② テーマ検討(鳥宮・宮本)
3週	事例研究②(鳥宮・宮本)	18週	卒業制作テーマ報告会、ディスカッション(鳥宮・宮本)
4週	中間発表会の準備① 情報収集(鳥宮・宮本)	19週	制作の準備③ 情報収集(鳥宮・宮本)
5週	中間発表会の準備② 資料作成(鳥宮・宮本)	20週	制作①(鳥宮・宮本)
6週	中間発表会、ディスカッション(鳥宮・宮本)	21週	制作②(鳥宮・宮本)
7週	プレ制作の準備① テーマ検討(鳥宮・宮本)	22週	制作③(鳥宮・宮本)
8週	プレ制作の準備② テーマ検討(鳥宮・宮本)	23週	制作④(鳥宮・宮本)
9週	プレ制作の準備③ 情報収集(鳥宮・宮本)	24週	制作⑤(鳥宮・宮本)
10週	プレ制作の準備④ テーマ決定(鳥宮・宮本)	25週	卒業制作中間発表会、ディスカッション(鳥宮・宮本)
11週	プレ制作①(鳥宮・宮本)	26週	制作⑥(鳥宮・宮本)
12週	プレ制作②(鳥宮・宮本)	27週	制作⑦(鳥宮・宮本)
13週	プレ制作③(鳥宮・宮本)	28週	制作⑧(鳥宮・宮本)
14週	プレ制作④ 発表会の準備(鳥宮・宮本)	29週	成果発表(鳥宮・宮本)
15週	プレ制作⑤ 発表会、ディスカッション(鳥宮・宮本)	30週	ディスカッション、まとめ(鳥宮・宮本)

成績評価方法・基準

制作に対する意欲(各回の報告)30%、制作物の完成度70%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hphwl27

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自スケジュールを確認し、毎回制作作業を整理したうえで授業に臨むこと。

5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鳥宮　尚道、今　義典、石岡　美久、山本　武	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4706

授業概要

ファッションの歴史に触れながら、現代の要求に答えられる計画からデザインまでを行い、企画・生産・PR・販売までを通して、マーケットを意識した企画、商品デザインのアプローチを身に付け、魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを身につけます。また制作した被服は、メイクやコーディネートなどを含め、スチルによる撮影を行ない、宣材素材制作までを学びます。〔石岡美久,今 義典〕
アパレルCADによるパターンの設計や3Dプリントサービスなど、デジタル技術を活用したファッションブランドの企画から、ECサイトの構築まで個人事業開業の基礎知識を実践的に学びます。〔山本武〕

到達目標

①企画・生産・PR・販売までマーケットを意識した企画、商品デザインを身に付ける。
②魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを養う。
③メイクやコーディネートなどを含め、スチルによる撮影を行ない、宣材素材制作までを学ぶ。
①アパレルCADを使った作品の制作。
②インターネットでの販売スキル・ノウハウを習得。
③オンラインサービス等を利用し、デジタルを応用したサービス構築の能力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション	／ オリエンテーション
2週	撮影に向けてのデザイン〔石岡〕	／ ECサイト研究①〔鳥宮〕
3週	撮影に向けてのデザイン決定、企画、素材について〔石岡〕	／ ECサイト研究②〔鳥宮〕
4週	撮影にむけての製作マテリアル、パターン①〔石岡〕	／ ECサイト研究③〔鳥宮〕
5週	撮影に向けての製作、パターン、素材づくり②〔石岡〕	／ ECサイト研究④〔鳥宮〕
6週	撮影に向けての製作、パターン、素材づくり③)〔石岡〕	／ ECサイト研究⑤〔鳥宮〕
7週	撮影に向けての制作、トワル チェック〔石岡〕	／ 企画立案 〔鳥宮〕
8週	サイト構築①〔山本〕	／ 縫製①〔石岡〕
9週	サイト構築②〔山本〕	／ 縫製②〔石岡〕
10週	サイト構築③〔山本〕	／ 縫製③〔石岡〕
11週	サイト構築④〔山本〕	／ 撮影①〔今〕
12週	サイト構築⑤〔山本〕	／ 撮影②〔今〕
13週	サイト構築⑥〔山本〕	／ 編集①〔今〕
14週	サイト構築⑦〔山本〕	／ 編集②〔今〕
15週	講評 〔鳥宮、山本〕	／ 講評 〔石岡、今〕

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

6v6shvw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

課題に取り組むために、各自、事前のリサーチ、情報収集および整理、制作の事前準備を欠かさないでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動（eラーニング）を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン（共有フォルダやグループウエアなど）を用い授業を進めます。能動的な学習（アクティブラーニング）が求められる。

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	石岡　美久	単位数	4	授業回数	60
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4707

授業概要

企画・生産・PR・販売までを通して、マーケットを意識した企画、商品デザインのアプローチを身に付け、魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを身につけます。

到達目標

①企業デザイナーとしてのスキルを身につけることができる。
②オリジナルブランドを立ち上げるスキルを身につけることができる。
③プロとしての衣料の知識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　企画MD、ポートフォリオ〔石岡〕
2週　デザイン、トータルコーディネート
3週　デザイン、素材製作①
4週　素材製作②
5週　パターン①
6週　パターン②
7週　パターン③
8週　パターン④
9週　縫製①
10週　縫製②
11週　縫製③
12週　縫製④
13週　仕上げチェック
14週　プレゼン
15週　講評

成績評価方法・基準

制作物の完成度60%、課題に対する理解度40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

bwdohrv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウエアなど)を用い授業を進めます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。

授業科目	卒業制作 〔ファッション・デジタルファブリケーション〕	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	実技
担当教員	石岡　美久	単位数	8	授業回数	120
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	EM_MS 4712

授業概要

より社会に適応する為の柔軟性と、各々が目的に沿ったデザインを提案すること。
デザインに適したシルエットやフォルム、素材作り。
クオリティの高い縫製技術と仕上げの完成度。

到達目標

時代を読み解き、独自の企画提案ができる。
コンセプトやテーマに沿ったデザイン、素材、シルエットを作ることができる。
バランスの良い仕上がり、完成度の高さ。
伝わるプレゼンができること。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2　現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
5　4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	企画MD①	16週	パターン⑤
2週	企画MD②	17週	パターン⑥
3週	マップ製作、リサーチ	18週	トワル チェック
4週	コンセプト、シーズンテーマ、デザイン①	19週	縫製①
5週	デザイン②	20週	縫製②
6週	デザイン③	21週	縫製③
7週	ポートフォリオ企画発表	22週	縫製④
8週	素材製作①	23週	縫製⑤
9週	素材製作②	24週	縫製⑥
10週	素材製作③	25週	縫製⑦
11週	素材製作④	26週	縫製⑧
12週	パターン①	27週	始末、仕上げ①
13週	パターン②	28週	始末、仕上げ②
14週	パターン③	29週	作品チェック
15週	パターン④	30週	プレゼン

成績評価方法・基準

企画、コンセプト30%　作品完成度50%　プレゼン20%

教科書ソフト等

無し。

参考書等

無し。 教員によるプリント配布。

クラスコード

bnl676s

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

自主的にディティールやデザインソースとなるものを集めること。授業内で得た知識をまとめること。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業科目	専門演習Ⅲa	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

受講生の卒業研究に関連する分野の文献輪読とディスカッションを通じて、卒業研究の質を高めるための知識を獲得し、自身の問題関心に沿って福祉的な観点から思考を深めることが、本科目の授業目的である。

到達目標

① 自身の研究領域における課題の現状や先行研究について、具体的かつ整理された形で説明できる。
② 自身の研究領域における課題に対して、福祉的な思考に基づいて自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	前期ガイダンス
2週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　①リサーチ報告
3週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　②文献発表
4週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　③ディスカッション
5週	「若者と職場」に関するグループワーク　①リサーチ報告
6週	「若者と職場」に関するグループワーク　②文献発表
7週	「若者と職場」に関するグループワーク　③ディスカッション
8週	「多様性と福祉」に関するグループワーク　①リサーチ報告
9週	「多様性と福祉」に関するグループワーク　②文献発表
10週	「多様性と福祉」に関するグループワーク　③ディスカッション
11週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク　①文献発表
12週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク　②ディスカッション
13週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク　①文献発表
14週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク　②ディスカッション
15週	前期の振り返り

成績評価方法・基準

平常点(ゼミ発表・参加態度)50%、レポート評価50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

oiopyct

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習では、主として文献講読を通じて各研究分野の課題について理解を深める。事前に提示される文献については次回までに良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

授業科目	専門演習Ⅲb	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、テキストや論文を読み解く練習を重ねます。「卒業研究Ⅰ」の授業と連動しつつ、各自の卒業研究のテーマに関わる資料を幅広く収集し、論点をつかみ出していきます。この授業の目標はテーマに沿った資料を収集して論点を抽出してまとめていくことです。期末には卒業研究の先行研究をまとめた章を執筆することをめざします。

到達目標

① テキストや論文の論点を的確につかむことができる。
② 卒業研究のテーマに関する資料を広く収集することができる。
③ パラグラフを意識した文章作成ができる。
④ 卒業研究の先行研究をまとめることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス 卒業研究のテーマの確認
2週	各自のテーマとコミュニケーションの社会学との関連
3週	問と主張と論証
4週	アブストラクトとは
5週	コミュニケーション論の論文を読む
6週	アウトラインとは
7週	卒業研究に関する資料探索
8週	卒業研究に関する文献講読
9週	データを読む
10週	文献を批判的に読む
11週	「パラグラフ」を作る
12週	ブロック引用の練習
13週	要約引用の練習
14週	卒業研究に関するマクロなデータの収集と分析
15週	卒業研究に関する先行研究のまとめ

成績評価方法・基準

授業と研究への取り組み態度30%、資料収集の広さ20%、先行研究のまとめレポートの出来栄え50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

戸田山和久（著）『最新版 論文の教室』NHK出版

クラスコード

gxji5du

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料を用意すること。復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、次回の話題提供の材料に反映させること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間は各自の自己学習の成果である卒論作成の進捗状況を報告し、検討し合う場であるので、話題提供できる材料を用意して授業に臨んでください。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	専門演習Ⅲc	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	森 雅人	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して、論文の構成、緒言、課題・対象、方法、調査計画書について個別・具体的な執筆作業を進める。
適宜pptを作成して、卒業研究発表会に備える。

到達目標

卒業論文の緒言、課題、対象、方法、調査計画についてppt形式で整理できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	PCなどの所有機材を確認する
2週	社会学部における卒論の形式やスケジュールを確認する
3週	「緒言」(しょげん)の内容を理解する(社会的・産業的背景，研究の意義，先行研究，目的，専門用語の説明)
4週	卒論のテーマを検討する
5週	「緒言」の要件を満たして口頭発表し，適宜修正を加える
6週	「緒言」をpptに整理する
7週	卒論で取り扱う課題を明確にする
8週	課題に対して，何を対象に分析するのかを書き出す
9週	「課題」「対象」の理解を深める
10週	用いる方法を決める
11週	「方法」の理解を深める
12週	図表を他の論文や資料等から適宜引用する
13週	「課題」「対象」「分析方法」をpptに整理する
14週	調査計画書を作る
15週	「調査計画書」をpptに整理する

成績評価方法・基準

卒業論文への主体的取り組み50%，緒言，課題・対象，方法，調査計画50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

各自のテーマに応じて，適宜案内する。

クラスコード

zkffdg3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は、事前にGoogleドライブで共有できるようにしておきますので、
予習に役立ててください。授業後は、内容をpptに整理するとともに文章化してください。

2～3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業に関する質疑は、対面だけではなくオンラインで行うこともある。

授業科目	専門演習Ⅲd	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	吉岡　亮	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

前半では卒業論文とは何かを理解するための文献の輪読を行うと共に、各自の研究領域の先行研究を学ぶ。
後半では、各自の卒業研究のアウトラインに基づいて検討・議論を行い、卒業論文の構成を決定していく。

到達目標

①卒業論文の方法論について理解することができる。
②自分の研究領域の課題や先行研究について具体的に説明することができる。
③卒業論文の構成を決定し、執筆を進めていくことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　卒業論文とは何かを理解するための文献の輪読①
3週　卒業論文とは何かを理解するための文献の輪読②
4週　卒業論文とは何かを理解するための文献の輪読③
5週　先行研究についての検討・議論①
6週　先行研究についての検討・議論②
7週　先行研究についての検討・議論③
8週　先行研究についての検討・議論④
9週　先行研究についての検討・議論⑤
10週　卒業論文のアウトラインについての検討①
11週　卒業論文のアウトラインについての検討②
12週　卒業論文のアウトラインについての検討③
13週　卒業論文のアウトラインについての検討④
14週　卒業論文の構成の検討
15週　卒業論文の構成の決定

成績評価方法・基準

授業での議論参加・研究への取り組み50%、提出レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

戸田山和久『最新版　論文の教室』（NHKブックス、2022年）

クラスコード

emcmphn

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

（予習）事前に提示される資料等を次回までによく読み込んでおくこと。（復習）授業内での議論や指摘を整理して、卒業論文の草稿に反映させること。

2時間から3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。

授業科目	専門演習Ⅲe	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	二通 諭	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

教育学ゼミでは、現象としての「教育問題」にアプローチする。近年、通常学級から特別支援教育リソースへの大移動、不登校児童生徒の急増、増え続けるいじめの認知件数、急増する小学生の暴力、増加の一途をたどる児童虐待、7人に1人が貧困状態にあるという「子どもの貧困」、急増する子どもの自殺等々、否定的な事象に事欠かない。このような課題について、文献研究や聞き取り、フィールドワークによって解決の方途を考察する。

到達目標

1. 問題を発見し、把握できる。
2. 問題の背景を考察することができる。
3. 調査・研究のテーマを設定できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	オリエンテーション	
2週	子ども、若者をめぐる問題状況の把握	
3週	学校と教育をめぐる問題状況の把握 各自のライフヒストリーから①	
4週	学校と教育をめぐる問題状況の把握 各自のライフヒストリーから②	
5週	学校と教育をめぐる問題状況の把握 各自のライフヒストリーから③	
6週	通常学級から特別支援リソースへの大移動 データーが読み解くその現状	
7週	不登校児童生徒急増の原因論の議論から①	総論
8週	不登校児童生徒急増の原因論の議論から②	児童生徒が抱える課題
9週	不登校児童生徒急増の原因論の議論から③	学校や教員が抱える課題
10週	いじめ問題をめぐる議論から①	総論
11週	いじめ問題をめぐる議論から②	発達障害や愛着障害は介在するのか？
12週	いじめ問題をめぐる議論から③	競争主義的教育に由来しているのか？
13週	いじめ問題をめぐる議論から④	道徳教育は解決の切り札になるのか？
14週	問題関心の発表と討論	
15週	前期のまとめとレポート作成	

成績評価方法・基準

指定されたテーマごとのレポート30%、討論への参加姿勢20%、最終レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付する。

参考書等

苫野一徳『「学校」をつくり直す』(河出新書)

クラスコード

4oaxxaz

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有り。公立小中学校教員歴35年 特別支援教育コーディネーター歴7年 教育研究団体研究紀要編集長歴5年

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

メディアで報じられる教育事象に関心をもって接すること。現象と背景(本質)の関係を捉えるという視点から文献学習などに励むこと。配布資料を読み込むこと。

2時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

問題関心、問題意識に基づいて積極的に発言すること。

授業科目	専門演習Ⅲf	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	太田 稔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

専門演習Ⅰ・Ⅱ、フィールドワークからの学びを積み上げて卒業論文の執筆に取り組みます。卒業論文は、テーマを選択、先行研究の収集と整理、リサーチクエスチョンの設定、資料の読解と資料収集を繰り返しながら書き進めていきます。時にはリサーチクエスチョンの見直しが必要となる場面もありますが、迷った時には何を深めたかったかを確認します。本授業では、経営学的視点から課題を把握し、リサーチクエスチョンを設定し、議論することで理論的思考を習得します。

到達目標

①経営学の観点から課題を把握することができるようになる。
②自らリサーチクエスチョンを設定することができるようになる。
③ゼミ内でのディスカッションを通じて自分の意見を整理して議論できるようになる。
④学術論文を読み深めることができるようになる。
⑤研究の方法論を選択できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、卒業論文執筆の意義
2週	研究テーマの報告(PowerPointかGoogleプレゼンテーション)
3週	先行研究のレビュー報告①
4週	先行研究のレビュー報告②
5週	先行研究のレビュー報告③
6週	ゼミ内での中間発表(ディスカッション)
7週	論文執筆①、章立て報告
8週	論文執筆②、研究の進め方確認
9週	論文執筆③、文献の利用方法について
10週	研究方法の精査とデーター分析①
11週	研究方法の精査とデーター分析②
12週	研究方法の精査とデーター分析③
13週	中間報告会プレゼンテーション報告①
14週	中間報告会プレゼンテーション報告②
15週	前期まとめ、論文執筆計画の確認

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度(発表、討議)30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jsc4y2l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。

4時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

授業科目	専門演習Ⅲg	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4007

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。本科目では前期で学んだ経営理論の見方を変え、ビジネス現象と理論のマトリックスを教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる。
② ビジネス現象を経営学の観点から理解できるようになる。
③ ビジネスの現象を経営学の視点から説明し、ディスカッションをすることができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	昨年度の振り返り①経済学ディシプリンの経営理論
3週	昨年度の振り返り②マクロ心理学ディシプリンの経営理論
4週	昨年度の振り返り③ミクロ心理学ディシプリンの経営理論
5週	昨年度の振り返り④社会学ディシプリンの経営理論
6週	到達度チェック
7週	ビジネス現象と理論のマトリックス概要
8週	戦略とイノベーションと経営理論①
9週	戦略とイノベーションと経営理論②
10週	中間まとめ
11週	組織行動・人事と経営理論①
12週	組織行動・人事と経営理論②
13週	企業ガバナンスと経営理論①
14週	企業ガバナンスと経営理論②
15週	まとめと振り返り

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（プレゼンテーション・レポート）50%

教科書ソフト等

入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年。
※ 専門演習ⅠgⅡgと同じ教科書です。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

tvb4dhi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	専門演習Ⅳa	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

受講生の卒業研究に関連する分野の文献輪読とディスカッションを通じて、卒業研究の質を高めるための知識を獲得し、自身の問題関心に沿って福祉的な観点から思考を深めることが、本科目の授業目的である。

到達目標

① 自身の研究領域に関連する理論について、具体的に分かりやすく説明することができる。
② 自身の研究領域に関連する理論について、複数の観点を対比させつつ、自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　後期ガイダンス
2週　「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　①リサーチ報告
3週　「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　②文献発表
4週　「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク　③ディスカッション
5週　「若者と職場」に関するグループワーク　①リサーチ報告
6週　「若者と職場」に関するグループワーク　②文献発表
7週　「若者と職場」に関するグループワーク　③ディスカッション
8週　「多様性と福祉」に関するグループワーク　①リサーチ報告
9週　「多様性と福祉」に関するグループワーク　②文献発表
10週　「多様性と福祉」に関するグループワーク　③ディスカッション
11週　「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク　①文献発表
12週　「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク　②ディスカッション
13週　「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク　①文献発表
14週　「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク　②ディスカッション
15週　後期の振り返り

成績評価方法・基準

方法・基準 平常点（ゼミ発表・参加態度）50%、レポート評価50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

5ec4xgt

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習では、主として文献購読を通じて各分野の抱える課題や対応策について理解を深める。事前に提示される文献については次回までに良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。

2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

授業科目	専門演習Ⅳb	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

「卒業研究Ⅱ」の授業と連動しつつ、「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。また、卒業論文の中間発表会及び最終発表会に向けたプレゼンテーションの準備、質疑応答やコメントの仕方を学びます。この授業の目標は研究の発表や指導から得られるコメントやアドバイスを活かして卒業論文を推敲し、洗練させることです。卒業論文を仕上げていく過程でのゼミナールのメンバーの相互検討に重点を置きます。

到達目標

① 自分の卒業論文のテーマについての基礎的な知識を備えることができる。
② 自分の卒業論文の内容をわかりやすく伝えることができる。
③ ゼミ生の互いの研究や発表について、適切な質疑応答やコメントができる。
④ 他からの質問やコメントを卒業論文の推敲に活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	後期ガイダンス 卒論草稿の提出
2週	卒論中間発表会へ向けた準備
3週	卒論中間発表についての相互検討
4週	卒論に関する先行研究の報告
5週	先行研究の相互検討
6週	卒論の書式のガイドラインを確認する
7週	卒論草稿の相互検討
8週	卒論の推敲
9週	卒論最終発表会へ向けた準備
10週	卒論最終発表の資料作成
11週	卒論最終発表へのコメントを活かす
12週	卒論の書式の相互点検
13週	査読者のコメントを活かす
14週	卒論の加筆修正
15週	卒論完成稿の確認

成績評価方法・基準

授業と研究への取り組み態度30%、他のゼミ生の研究へのコメントの適切さ30%、
コメントを活かした推敲の取り組み40%、

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

戸田山和久（著）『最新版 論文の教室』NHK出版

クラスコード

wmjsawl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料(草稿やレジュメ)を用意すること。復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、草稿の推敲に反映させること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

ゼミ生相互のコメントのやりとりが重要です。ゼミの仲間の卒論をよりよいものにできるように質問やコメントをしましょう。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	専門演習Ⅳc	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	森 雅人	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して，方法の検討，調査，分析，考察，結論について個別・具体的な執筆作業を進める。卒業論文中間発表会及び卒業論文最終報告会を踏まえながら卒業論文を作成していく。

到達目標

卒業論文の緒言，課題，対象，方法，調査計画についてppt形式で整理・発表できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　卒業研究中間発表会準備
2週　卒業研究中間発表会
3週　1章の作成
4週　1章の修正
5週　2章の作成
6週　2章の修正
7週　3章の作成
8週　3章の修正
9週　考察の作成
10週　考察の修正
11週　結論の作成
12週　結論の修正
13週　卒業論文最終報告会用ppt作成
14週　卒業論文最終報告会
15週　卒業論文最終報告会を踏まえた修正

成績評価方法・基準

各週で作成・修正した卒業論文50%，卒業論文への取り組み姿勢40%，卒業論文中間発表会及び卒業論文最終報告会の提出資料10%。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

適宜案内する。

クラスコード

5vb3ybh

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにしておきますので，予習に役立ててください。授業後は，内容をpptに整理するとともに文章化してください。

2～3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

15週の授業終了後には，①卒業論文最終稿締切(1月中旬)，②主査・副査による卒業論文のチェックを踏まえた修正後の最終卒業論文提出(2月中旬)を予定している。

授業科目	専門演習Ⅳd	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	吉岡　亮	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

卒業論文の個別指導を中心としながら、中間発表や最終報告会の日程に合わせた活動も実施していく。自分の卒業論文の内容を他者に的確に説明すること、また、他者からのコメントを自分の卒業論文の内容に活用することを繰り返しながら、卒業論文を仕上げていく。

到達目標

①自分の卒業論文の内容を他者に具体的に説明することができる。
②他者からのコメントを卒業論文に活かすことができる。
③卒業論文執筆に必要な構想力や理論的思考を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	後期ガイダンス
2週	中間発表会の準備
3週	中間発表会
4週	中間発表会の振り返り、修正点の確認
5週	卒業論文執筆と個別指導①
6週	卒業論文執筆と個別指導②
7週	卒業論文執筆と個別指導③
8週	最終報告会の準備①
9週	最終報告会の準備②
10週	最終報告会
11週	最終報告会の振り返り
12週	卒業論文の提出
13週	修正期間①
14週	修正期間②
15週	卒業論文完成稿の提出

成績評価方法・基準

卒業論文50%、授業と研究への取り組み50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

戸田山和久『最新版　論文の教科書』（NHKブックス、2022年）

クラスコード

sjuxg77

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

（予習）事前に提示される資料等を次回までによく読み込んでおくこと。
（復習）授業内での議論や指摘を整理して、卒業論文に反映させること。

2時間から3時間／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

中間発表会、最終報告会での発表を単位取得の必要条件とする。

授業科目	専門演習Ⅳe	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	二通　諭	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

教育学ゼミでは、現下の教育問題にアプローチする。学校が抱えている課題について、子ども・若者、保護者、教員らの声から明らかにする。また、発達障害、愛着障害、ヤングケアラー、性的マイノリティ、外国ルーツの子ども・若者が抱える諸課題について、文献研究や聞き取り、フィールドワークによって探求する。

到達目標

1. 問題の所在と課題を提起できる。
2. 研究のテーマ、対象、方法を定めることができる。
3. 関連する資料、文献を収集することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション　教育問題概観
2週	資料の読み取り①　学校スタンダード、ゼロトレランス、過重な宿題、重すぎる鞄など
3週	資料の読み取り②　部活動の人間発達上の意義と諸課題
4週	資料の読み取り③　高校統廃合をめぐる議論と課題
5週	資料の読み取り④　部活動の人間発達上の意義と諸課題
6週	資料の読み取り⑤　被虐待経験者の困難と人生を切り拓く課題
7週	資料の読み取り⑥　場面緘黙・ひきこもり経験者の困難と人生を切り拓く課題
8週	資料の読み取り⑦　自閉スペクトラム症の方の困難と人生を切り拓く課題
9週	資料の読み取り⑧　注意欠如多動性障害の方の困難と人生を切り拓く課題
10週	資料の読み取り⑨　外国ルーツの子どもの教育と課題
11週	資料の読み取り⑩　性的マイノリティの子ども・若者の教育と課題
12週	アカデミック・ライティングの基本1
13週	アカデミック・ライティングの基本2
14週	問題関心の発表と討論
15週	まとめとレポート発表

成績評価方法・基準

指定されたテーマごとのレポート30%、討論への参加姿勢20%、最終レポート50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付する。

参考書等

二通諭『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』全障研出版部

クラスコード

lttcdrj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有り。公立小中学校教員歴35年　特別支援教育コーディネーター歴7年　教育研究団体研究紀要編集長歴5年

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

テレビドラマや映画、メディアで話題とされている教育事象を素材に、分析的に把握するトレーニングを積むこと。
配布資料や提示された文献を読み込むこと。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

問題関心、問題意識について他のメンバーと積極的に交流を図ること。

授業科目	専門演習Ⅳf	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	太田 稔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

卒業論文のテーマを選択、先行研究の収集と整理、リサーチクエスチョンの設定、資料の読解と資料収集から卒業論文を見直し、卒業論文としての質を上げていきます。本授業では、経営学的視点から理論的思考を駆使して授業と個別指導を行き来しながら卒業論文を完成させます。

到達目標

①経営学の観点から課題を把握することができるようになる。
②自らリサーチクエスチョンを設定することができるようになる。
③ゼミ内でのディスカッションを通じて自分の意見を整理して議論できるようになる。
④学術論文を読み深めることができるようになる。
⑤研究の方法論を選択できるようになる。
⑥卒業論文執筆に応えられる執筆能力と理論的思考を身につけることができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　中間報告プレゼン練習①、ディスカッション
2週　中間報告プレゼン練習②、ディスカッション
3週　卒業研究中間報告会
4週　中間報告の振り返り、修正点の確認
5週　卒業研究最終版に向けて、途中経過報告①
6週　卒業研究最終版に向けて、途中経過報告②
7週　卒業研究最終版に向けて、途中経過報告③
8週　卒業研究最終版に向けて、途中経過報告④
9週　卒業研究最終版に向けて、途中経過報告⑤
10週　卒業研究最終報告会
11週　論文修正
12週　卒業研究提出
13週　修正期間①、査読結果を元に全体修正
14週　修正期間②、査読結果を元に全体修正
15週　4年間のふりかえり

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度(発表、討議)30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

jsc4y2l

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

卒業論文を執筆するのは自分自身です。個別指導では授業時間、オフィスアワー、その他の時間をフルに使って執筆をしてもらいます。ゼミ全体で論文執筆とプレゼン資料の両方を準備しながら卒業論文提出まで進めます。

6時間から8時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。また中間発表会および最終発表会での発表を、単位取得の必要条件とします。

授業科目	専門演習Ⅳg	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4008

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。本科目では昨年度学んだ経営理論の見方を変え、ビジネス現象と理論のマトリックス、経営理論の組み立て方・実証の仕方について教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる。
② ビジネス現象を経学の観点から理解できるようになる。
③ ビジネスの現象を経営学の視点から説明し、ディスカッションをすることができるようになる。
④ 経営理論の組み立て方・実証の仕方を理解できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	グローバル経営と経営理論①
3週	グローバル経営と経営理論②
4週	アントレプレナーシップと経営理論①
5週	アントレプレナーシップと経営理論②
6週	企業組織のあり方と経営理論①
7週	企業組織のあり方と経営理論②
8週	中間まとめ
9週	ビジネスと経営理論①
10週	ビジネスと経営理論②
11週	経営理論の組み立て方①
12週	経営理論の組み立て方②
13週	世界標準の実証分析①
14週	世界標準の実証分析②
15週	まとめと振り返り

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（プレゼンテーション・レポート）50%

教科書ソフト等

入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019年。
※ 専門演習ⅠgⅡgⅢgと同じ教科書です。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

tvb4dhi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	卒業研究Ⅰa	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

3年次の専門演習での学びを活かしつつ、各受講生の研究テーマに沿った調査分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ⅰでは卒論執筆の準備期間として、各受講生の関心領域における先行研究を検討しつつ、適切な課題設定と研究の指針を反映した卒論構想レポートの完成を目指す。

到達目標

各自の研究テーマに沿って、研究テーマの設定、先行研究の検討やデータ活用等の研究過程を通じて、自身の研究構想を具体的な形で文章化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)

5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	前期ガイダンス
2週	文献探索の方法とテーマ設定
3週	研究構想の発表と検討①
4週	研究構想の発表と検討②
5週	研究構想の発表と検討③
6週	研究構想の発表と検討④
7週	課題の掘り下げと研究内容の具体化①
8週	課題の掘り下げと研究内容の具体化②
9週	課題の掘り下げと研究内容の具体化③
10週	課題の掘り下げと研究内容の具体化④
11週	資料・データの探索と活用①
12週	資料・データの探索と活用②
13週	卒業論文のアウトラインをつくる①
14週	卒業論文のアウトラインをつくる②
15週	中間報告資料の作成

成績評価方法・基準

演習時の参加態度50%、中間報告資料50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

guxguuu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習で課される課題について、次回授業までに提出すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各回の演習では、一連の研究のプロセスに沿って各受講生が成果を報告し、担当教員からのフィードバックや解説を行うため、課題については次回までに必ず提出すること。

授業科目	卒業研究Ⅰb	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。研究計画に基づいて、問いと仮説を立て、研究テーマにふさわしい方法を選択して研究 を進めます。この授業の目標は卒業論文にふさわしい問いを立てて、調査研究を進めることです。期末には第一次草稿を提出し、後期の卒論中間発表会の資料を仕上げることをめざします。

到達目標

① 卒業論文にふさわしい問いと仮説を立てることができる。
② 卒論のテーマについての理解を深め、根拠に基づいて自らの主張を展開できる。
③ 卒論のテーマに必要な資料の収集と分析ができる。
④ 卒業論文の完成までを導く行程表となるアウトラインが書ける。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討
2週	研究計画書の作成
3週	論文を読む
4週	説得力のある主張とは
5週	各自のテーマに即した資料収集
6週	資料の読み込み
7週	先行研究の批判的検討
8週	資料の紹介報告
9週	アウトラインの作成
10週	アウトラインの報告と検討
11週	詳細なアウトラインの執筆
12週	詳細なアウトラインの報告
13週	第一次草稿の作成、提出
14週	卒論中間発表会の準備① 資料の作成
15週	卒論中間発表会の準備② 資料の点検

成績評価方法・基準

授業と研究への取り組み態度30%、アウトラインと第一次草稿の出来栄え50%、卒論中間発表資料の出来栄え20%

教科書ソフト等

戸田山和久(著)『最新版 論文の教室』NHK出版

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

zh3sunm

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料を用意すること。復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、次回の話題提供の材料に反映させること。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間は各自の自己学習の成果である卒論作成の進捗状況を報告し、検討し合う場であるので、話題提供できる材料を用意して授業に臨んでください。課題等のフィードバックはClassroomおよび授業内で行います。

授業科目	卒業研究Ｉc	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	森 雅人	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して，論文の構成，緒言，課題・対象，方法，調査計画書について個別・具体的な執筆作業を進める。適宜pptを作成して，卒業研究発表会に備える。

到達目標

卒業論文の緒言，課題，対象，方法，調査計画についてppt形式で整理できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	PCなどの所有機材を確認する
2週	社会学部における卒論の形式やスケジュールを確認する
3週	「緒言」（しょげん）の内容を理解する（社会的・産業的背景，研究の意義，先行研究，目的，専門用語の説明）
4週	卒論のテーマを検討する
5週	「緒言」の要件を満たして口頭発表し，適宜修正を加える
6週	「緒言」をpptに整理する
7週	卒論で取り扱う課題を明確にする
8週	課題に対して，何を対象に分析するのかを書き出す
9週	「課題」「対象」の理解を深める
10週	用いる方法を決める
11週	「方法」の理解を深める
12週	図表を他の論文や資料等から適宜引用する
13週	「課題」「対象」「分析方法」をpptに整理する
14週	調査計画書を作る
15週	「調査計画書」をpptに整理する

成績評価方法・基準

卒業論文への主体的取り組み50%，緒言，課題・対象，方法，調査計画50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

各自のテーマに応じて，適宜案内する。

クラスコード

ugpy6xk

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにしておきますので，予習に役立ててください。授業後は，内容をpptに整理するとともに文章化してください。

2～3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業に関する質疑は，対面だけではなくオンラインで行うこともある。

授業科目	卒業研究Ｉｄ	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	吉岡　亮	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

3年次の専門演習での学びを踏まえながら、各自の研究テーマに沿った調査・分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ｉは卒論執筆の準備期間とし、各自の研究テーマに関する先行研究を検討しながら、研究構想・アウトラインの作成や中間発表会の準備などを行う。

到達目標

研究テーマの設定、先行研究の検討、アウトラインの作成等の研究の具体的な作業を通して、自分の研究構想を具体的な形で文章化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　前期ガイダンス
2週　文献探索の方法と研究テーマの設定
3週　研究構想の発表と検討①
4週　研究構想の発表と検討②
5週　先行研究の検討①
6週　先行研究の検討②
7週　研究内容の具体化①
8週　研究内容の具体化②
9週　研究内容の具体化③
10週　研究内容の具体化④
11週　研究内容の具体化⑤
12週　アウトラインの作成①
13週　アウトラインの作成②
14週　中間発表会の準備①
15週　中間発表会の準備②

成績評価方法・基準

卒業論文への取り組み姿勢と授業時の参加態度50%、中間報告資料50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

y5j2xj7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の授業で課される課題を、次回の授業までに提出すること。

2時間から3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

根気強く取り組むこと。

授業科目	卒業研究Ｉｅ	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	二通　諭	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要	教育問題や教育実践など教育事象全般から究明すべき課題を発見し、分析的にアプローチする。ライブラリーワーク(ドキュメント分析等)、フィールドワーク(参与観察等)など研究方法についても検討する。アカデミック・ライティングの基本を学ぶとともに、研究倫理についての認識も深める。
到達目標	1．絞りこまれたテーマをもとに研究計画を立てる。. 2．研究の目的、方法、先行研究、研究計画を明示できる。 3．期待される成果を明示できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性) 2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性) 5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　オリエンテーション　テーマやスケジュールの確認 2週　アカデミック・ライティング演習1 3週　アカデミック・ライティング演習2 4週　アカデミック・ライティング演習3 5週　アカデミック・ライティング演習4 6週　アカデミックライティング演習5 7週　過去の卒業論文から学ぶ1 8週　過去の卒業論文から学ぶ2 9週　過去の卒業論文から学ぶ3 10週　テーマ設定から目的、方法へ 11週　手がかりになる先行研究の収集 12週　先行研究の検討1 13週　先行研究の検討2 14週　先行研究の検討3 15週　まとめと展望
成績評価方法・基準	卒論完成までの経過と卒論の水準、中間報告会や最終報告会の発表を含め、総合的に評価する。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付する。
参考書等	二通信子・大島弥生他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)
クラスコード	za3utbf
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	有り。公立小中学校教員歴35年　特別支援教育コーディネーター歴7年　教育研究団体研究紀要編集長歴5年
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	指導教員からの進捗状況に応じたコメントなどをふまえ、主体的に取り組むこと。
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	個別指導が中心となるが、課題意識をもって指導を受けること。

授業科目	卒業研究Ｉｆ	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	太田　稔	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

専門演習（Ⅲ、Ⅳ）と卒業研究（Ⅰ、Ⅱ）は、ゼミ全体で考える専門演習と個人で論文を執筆し精査していく卒業研究で成り立っています。では本授業では何をするのかと言えば、論文を書き進めて最終的に完成させることにあります。専門演習では理論的に執筆する方法を学びますが、卒業研究では実際に手を動かして1年間かけて論文を積み上げていきます。基本的に毎週同じ時間に担当教員とマンツーマンで一人60分～90分を卒業研究の時間に充てます。毎週、事前にどこまで執筆できているかを確認し、卒業研究で研究についてのアドバイスや検討をします。また次の週までに事前課題として執筆することを段階的に進めますので、しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。

到達目標

本授業の到達目標は以下の5点である。
①卒業論文執筆に必要な倫理規定（剽窃問題やコピペ問題含む）を理解できるようになる。
②アカデミックライティングの基本を踏まえて文章を書くことができるようになる。
③図表の作成方法や引用・参考資料を使いこなすことができるようになる。
④質的研究と量的研究の違いを認識し分析せきるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、レポートと論文の違いについて、剽窃と研究者倫理
2週	研究テーマの確認とアブストラクト執筆
3週	先行研究のレビュー①、研究課題をめぐる背景の確認
4週	先行研究のレビュー②、主流となる研究者の確認
5週	先行研究のレビュー③、レビューーから見えてきた課題の確認
6週	中間発表（報告会に向けて）
7週	論文執筆①、章立ての確認
8週	論文執筆②、章ごとの確認
9週	論文執筆③、参考文献や引用の確認
10週	中間報告会資料作成①、論文より発表資料作成
11週	中間報告会資料作成②、論文より発表資料作成
12週	分析データーの確認、質的研究と量的研究
13週	中間報告会資料確認①
14週	中間報告会資料確認②
15週	前期のまとめ、卒業研究中間報告会資料の完成

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度（発表、討議）30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

evblgf3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。

4時間から6時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

授業科目	卒業研究Ｉg	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4011

授業概要

卒業研究として卒業論文の作成を目指します。論文の作成方法を学び、各自の設定テーマに基づき、卒業論文を作成をします。先行研究のレビュー方法を学び、問いの立て方を学び、研究計画を立てます。実証研究でのデータの集め方、その分析方法も学びます。また、卒業論文中間報告会を行うため、その資料作りなどの準備にも取り組みます。

到達目標

① 卒業論文の研究計画を立てることができるようになる。
② 先行研究のレビューができるようになる。
③ 実証研究の方法が分かるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	卒業論文テーマの選定
3週	テーマについての内容整理
4週	問題意識の整理
5週	仮アウトラインの作成
6週	社会的背景の整理
7週	先行研究のレビュー①
8週	先行研究のレビュー②
9週	研究方法の選定
10週	実証研究の計画と設計
11週	研究データの収集
12週	研究データの分析と結果
13週	研究の結果と考察
14週	卒業論文草案の完成
15週	卒業論文中間報告会の資料作成

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（進捗報告プレゼンテーション、卒業論文草案）50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

tvb4dhi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の予習として各週に行う内容について自分のテーマに沿って整理してきて下さい。復習としてその週の内容をスライドやドキュメントに整理してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

授業科目	卒業研究Ⅱa	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西浦　功	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

3年次の専門演習での学びを活かしつつ、各受講生の研究テーマに沿った調査分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰの成果を活かして資料調査やフィールドワークを実施し、適切な分析方法にそって結果を解釈し、科学的に完成度の高い卒業論文の完成を目指す。

到達目標

各自の研究テーマに沿って、研究目的に合った手法にて調査分析を行い、採りあげた社会問題に対する解決策を論文として形にすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)

5　社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	後期ガイダンス/中間レポートのフィードバック
2週	中間報告会の予行練習と想定問答
3週	中間報告会
4週	卒業論文指導①　課題の設定
5週	卒業論文指導②　引用箇所の確認と表記
6週	卒業論文指導③　論拠の確認
7週	卒業論文指導④　主張の提示
8週	卒業論文指導⑤　注・参考文献リストの作成
9週	最終報告会のゼミ内予行練習と想定問答
10週	最終報告会
11週	報告会の振り返り
12週	卒業論文提出(第1次)
13週	論文査読とフィードバック①
14週	論文査読とフィードバック②
15週	卒業論文の推敲と最終提出

成績評価方法・基準

中間発表会及び最終発表会への取組20%、卒業論文80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

xzhomdk

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の演習で課される課題について、次回授業までに提出すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各回の演習では、一連の研究のプロセスに沿って各受講生が成果を報告し、担当教員から のフィードバックや解説を行うため、課題については次回までに必ず提出すること。また中間発表会および最終発表会での発表を、単位取得の必要条件とする。

授業科目	卒業研究Ⅱb	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	西脇　裕之	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。卒業論文の中間発表会及び最終発表会でのプレゼンテーションと質疑応答・コメントを踏まえて、卒論草稿の推敲を繰り返し、卒業論文を完成させます。この授業の目標は研究の発表や指導から得られるコメントやアドバイスを活かして、説得力のある卒業論文を完成させることです。草稿の推敲の際には、個別指導に重点を置きます。

到達目標

① 卒論のテーマについての基礎的な知識を備える。
② 中間発表会・最終発表会において明快なプレゼンテーションができる。
③ 調査や資料の分析をふまえ、根拠に基づいて自らの主張を展開できる。
④ 説得力のある卒業論文を作成できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	後期ガイダンス 第一次草稿へのコメントと加筆修正
2週	卒論中間発表の準備 リハーサルと想定問答
3週	卒論中間発表会
4週	草稿をもとにした指導と推敲① 問いと主張の確認
5週	草稿をもとにした指導と推敲② 論拠の確認
6週	草稿をもとにした指導と推敲③ 引用の適切性の確認
7週	草稿をもとにした指導と推敲④ 註と参考文献
8週	草稿をもとにした指導と推敲⑤ 字句の修正
9週	卒論最終発表の準備 リハーサルと想定問答
10週	卒論最終発表会
11週	草稿をもとにした指導と推敲⑥ 引用と参考文献の対応の確認
12週	査読用卒論の完成、提出
13週	査読結果にもとづいた卒論の加筆修正
14週	査読結果にもとづいた補論、補註の作成
15週	卒論(最終版)の完成、提出

成績評価方法・基準

授業と研究への取り組み態度15%、中間発表の出来栄え10%、卒論発表の出来栄え15%、 卒業論文60%

教科書ソフト等

戸田山和久(著)『最新版 論文の教室』NHK出版

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ursd6x4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料(草稿やレジュメ)を用意すること。復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、草稿の改訂に反映させること。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

卒業論文中間発表会及び最終発表会での発表を単位修得条件の一つとする。
課題等は次回の授業時にフィードバックします。

授業科目	卒業研究Ⅱc	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	森 雅人	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して，方法の検討，調査，分析，考察，結論について個別・具体的な執筆作業を進める。卒業論文中間発表会及び卒業論文最終報告会を踏まえながら卒業論文を作成していく。

到達目標

卒業論文の緒言，課題，対象，方法，調査計画についてppt形式で整理・発表できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
5 社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　卒業研究中間発表会準備
2週　卒業研究中間発表会
3週　1章の作成
4週　1章の修正
5週　2章の作成
6週　2章の修正
7週　3章の作成
8週　3章の修正
9週　考察の作成
10週　考察の修正
11週　結論の作成
12週　結論の修正
13週　卒業論文最終報告会用ppt作成
14週　卒業論文最終報告会
15週　卒業論文最終報告会を踏まえた修正

成績評価方法・基準

各週で作成・修正した卒業論文50%，卒業論文への取り組み姿勢40%，卒業論文中間発表会及び卒業論文最終報告会の提出資料10%。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

適宜案内する。

クラスコード

25iqhvv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内容に関連した資料は，事前にGoogleドライブで共有できるようにしておきますので，予習に役立ててください。授業後は，内容をpptに整理するとともに文章化してください。

2～3時間程度／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

卒業論文中間発表会及び最終発表会での発表を単位修得条件の一つとする。
15週の授業終了後には，①卒業論文最終稿締切(1月中旬)，②主査・副査による卒業論文のチェックを踏まえた修正後の最終卒業論文提出(2月中旬)を予定している。

授業科目	卒業研究Ⅱd	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	吉岡　亮	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

3年次の専門演習での学びを踏まえながら、各自の研究テーマに沿った調査・分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰでの研究成果を活用しながら、完成度の高い卒業論文の完成を目指す。授業は個人面談を中心にして、各自の執筆をサポートしていく形式とする。

到達目標

各自の研究テーマに沿って適切な調査・分析を行い、取りあげた事象に対する自分なりの考察を論文として提示することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）

2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）

5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	後期ガイダンス
2週	中間発表会の準備
3週	中間発表会
4週	卒業論文指導①
5週	卒業論文指導②
6週	卒業論文指導③
7週	卒業論文指導④
8週	卒業論文指導⑤
9週	最終報告会の準備
10週	最終報告会
11週	最終報告会の振り返り
12週	卒業論文の提出（第1次）
13週	論文査読とフィードバック①
14週	論文査読とフィードバック②
15週	卒業論文の最終提出

成績評価方法・基準

中間発表会及び最終報告会での取り組み20%、卒業論文80%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

fqw5qk5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各回の授業で課される課題を、次回の授業までに提出すること。

2時間から3時間／週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

中間発表会、最終報告会での発表を単位取得の必要条件とする。

授業科目	卒業研究Ⅱe	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	二通　諭	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

設定したテーマに、ライブラリーワーク（ドキュメント分析等）、フィールドワーク（参与観察等）など適切な方法を駆使して分析的にアプローチする。アカデミック・ライティングの基本、研究倫理をふまえて執筆を進めていく。

到達目標

1．中間報告会において、到達点や成果を適切に発表できる。
2．アカデミック・ライティングの基本をふまえた論文作成ができる。
3．最終報告会において、研究の内容や成果を適切に発表できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	中間報告会に向けた準備1
2週	中間報告会に向けた準備2
3週	卒業研究中間報告会
4週	進捗状況に合わせた個別指導1
5週	進捗状況に合わせた個別指導2
6週	進捗状況に合わせた個別指導3
7週	進捗状況に合わせた個別指導4
8週	進捗状況に合わせた個別指導5
9週	進捗状況に合わせた個別指導6
10週	卒業研究最終報告会
11週	完成に向けた個別指導1
12週	完成に向けた個別指導2
13週	完成に向けた個別指導3　卒業研究提出
14週	完成に向けた個別指導4
15週	卒業研究最終版提出

成績評価方法・基準

卒論完成までの経過と卒論の水準、中間報告会や最終報告会の発表を含め、総合的に評価する。

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付する。

参考書等

二通信子・大島弥生他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版会）

クラスコード

tluy6w5

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有り。公立小中学校教員歴35年　特別支援教育コーディネーター歴7年　教育研究団体研究紀要編集長歴5年

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

指導教員からの進捗状況に応じたコメントなどをふまえ、主体的に取り組むこと。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

報告会等において、自身の研究の特徴と成果を適切に伝えることができるように準備すること。

授業科目	卒業研究Ⅱf	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	太田 稔	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

専門演習（Ⅲ、Ⅳ）と卒業研究（Ⅰ、Ⅱ）は、ゼミ全体で考える専門演習と個人で論文を執筆し精査していく卒業研究で成り立っています。では本授業では何をするのかと言えば、論文を書き進めて最終的に完成させることにあります。専門演習では理論的に執筆する方法を学びますが、卒業研究では実際に手を動かして1年間かけて論文を積み上げていきます。基本的に毎週同じ時間に担当教員とマンツーマンで一人60分～90分を卒業研究の時間に充てます。卒業研究Ⅰとの違いは、卒業論文の完成に向けて自主的に執筆してください。

到達目標

本授業の到達目標は以下の5点である。
①卒業論文執筆に必要な倫理規定（剽窃問題やコピペ問題含む）を理解できるようになる。
②アカデミックライティングの基本を踏まえて文章を書くことができるようになる。
③図表の作成方法や引用・参考資料を使いこなすことができるようになる。
④質的研究と量的研究の違いを認識し分析せきるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	中間報告資料確認①、全体の流れについて
2週	中間報告資料確認②、各章の確認
3週	卒業研究中間報告会
4週	卒業論文執筆個別指導①
5週	卒業論文執筆個別指導②
6週	卒業論文執筆個別指導③
7週	卒業論文執筆個別指導④
8週	卒業論文執筆個別指導⑤
9週	卒業論文執筆個別指導⑥
10週	卒業研究最終報告会
11週	卒業論文執筆個別指導⑦
12週	卒業研究提出
13週	卒業論文執筆個別指導⑧
14週	卒業論文執筆個別指導⑨
15週	卒業研究最終版提出

成績評価方法・基準

事前・事後課題50%、授業への参加度（発表、討議）30%、最終レポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

evblgf3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。
また、卒業論文中間発表会及び最終発表会での発表を単位修得条件の一つとします。

授業科目	卒業研究Ⅱg	配当年次	4年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田　政樹	単位数	4	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SOC 4012

授業概要

卒業研究として卒業論文の完成を目指します。論文の作成方法を学び、各自の設定テーマに基づき、卒業論文を作成し完成させます。卒業論文中間および最終報告会を行うため、その資料作りなどの準備にも取り組みます。

到達目標

① 卒業論文を作成できるようになる。
② 研究についての発表ができるようになる。
③ 研究論文の書き方が理解できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2　フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
5　社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション
2週	卒業論文中間報告会の準備
3週	卒業論文中間報告会
4週	卒業論文草案の改善点確認
5週	推敲とフィードバック①
6週	推敲とフィードバック②
7週	卒業論文のドラフト版作成
8週	卒業論文のドラフト版完成
9週	卒業論文最終報告会の資料作成
10週	卒業論文最終報告会
11週	卒業論文の提出
12週	査読とフィードバック①
13週	査読とフィードバック②
14週	卒業論文の修正と最終校正
15週	卒業論文の最終提出

成績評価方法・基準

平常点（準備学習・参加態度等）50%、アウトプット（中間および最終報告会、卒業論文）50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

クラスコード

tvb4dhi

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の予習として各週に行う内容について自分のテーマに沿って整理してきて下さい。復習としてその週の内容をスライドやドキュメントに整理してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

予習、復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックはClassroomおよび授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。卒業論文中間発表会及び最終発表会での発表を単位修得条件の一つとします。

授業科目	おもてなしの英語C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	川内　裕子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 4863

授業概要

「おもてなしの英語C」では、「おもてなしの英語A・B」で習得した技能をさらに伸ばすことを学生は目指す。おもてなしの英語Aで使用した教科書を使って表現力を高めると同時に、教科書の中から選んだトピック、身の回りで興味あるトピックについて、事前にリサーチをし、発言内容を準備し、会話を楽しめるようにする。以前に作った、または新たに作成するプレゼンテーションを基に、さらに魅力的なプレゼンテーションを行なうことと、質疑応答をし、会話をはずませるための初歩的な技術、技能を実践的に指導する。

到達目標

① 「おもてなしの英語A」から学んでいる通訳技能をさらに発展させ、より一層効果的な表現を身につける。
② 会話やディスカッションでは、準備した内容だけではなく、その場で話題を発展させることができるようになる。
③ より魅力的にプレゼンテーションを行ない、質疑応答がスムーズにこなせるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
美術学科 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)

授業計画

1週	コースおよび教材と、異文化間の交流や交渉における通訳者の役割についての説明＋実践練習
2週	日→英／英→日通訳の復習をする(1)＋授業内で行なう2種類のプレゼンテーションの改善・新規作成計画
3週	日→英／英→日通訳の復習をする(2)＋授業内で行なう2種類のプレゼンテーションの改善・新規作成計画
4週	日→英／英→日通訳の復習をする(3)＋授業内で行なう2種類のプレゼンテーションの改善・新規作成計画
5週	会議で使う基本的表現、意見を述べる表現の復習をする(1)
6週	同上(2):トピックを選ぶ／意見をまとめる／リサーチが必要な内容を確認する／議長の使う表現
7週	同上(3):選んだトピックについて会話を深めるために、具体的に何が必要かを確認できる
8週	同上(4):選んだトピックについてのディスカッションをリハーサルする
9週	同上(5):これまでの練習に基づき、実践形式でディスカッションを行なう＝実践形式小テスト(第1回)＋フィードバック
10週	英語でのプレゼンテーション(1)-自己紹介(第2～3週目で確認した内容に基づき、原稿の準備をする)
11週	英語でのプレゼンテーション(2)- プレゼンテーション原稿完成、リハーサル、質問の扱い方
12週	同上(3)- 実践形式小テスト(第2回―自己紹介)＋特定の地域または日本の文化に関するプレゼンを準備＋フィードバック
13週	同上(4)- プレゼンテーション原稿作成(添削)ができるようになる
14週	同上(5)- プレゼンテーション原稿の作成(添削)とリハーサルができるようになる
15週	英語プレゼンテーションの実践形式小テスト (第3回)＋フィードバック

成績評価方法・基準

授業内小テスト(3回)90%、授業参加度10%

教科書ソフト等

斎藤彩子他 Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition> (『通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]』) 南雲堂

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

36pvwiw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員は現役の翻訳家、会議同時通訳者。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習は、授業で指示される課題を準備してくること。復習は、授業で学修した語彙や表現を、予習課題として与えられる具体的なタスクの中で実際に使ってみることで、それらの使い方に慣れたり、理解が十分でない点がないか確認する。質問事項をまとめておく。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

辞書必携。ただし、高校時代に使っていたもので良い。電子辞書でも構わない。

授業科目	おもてなしの英語D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	ミラー望月	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	SO-CE 4864

授業概要	In this class, we will focus on discussion in English of various topics.
到達目標	The goal of this semester will be to increase students' confidence and ability to present opinions and discuss topics in English.
学科のディプロマ・ポリシー	音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 美術学科 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性) 地域社会学科 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
授業計画	1週 Introduction to the class and each other 2週 Brainstorming with a partner: Health, Giving each other advice 3週 Brainstorming with a partner; Favorite Foods, Talking about experiences 4週 Brainstorming with a partner; Favorite Actors, Actresses, Singers, Describing people 5週 Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced 6週 Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced 7週 Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced 8週 Q and A time in a group; talk about oneself and answer questions 9週 Q and A time in a group; talk about a personal experience in the past and answer questions 10週 Q and A time in a group; talk about a future plan and answer questions 11週 Lead a discussion; Each student will prepare a topic for the class to discuss 12週 Lead a discussion; Each student will prepare a topic for the class to discuss 13週 Both sides of an argument, practiced first with simple topics 14週 Both sides of an argument practice continued with more complex topics 15週 Perform both sides of an argument with a partner in groups and in front of the class
成績評価方法・基準	Grades will be based on class participation (60%), Preparation of discussion topic (20%) and final discussion in front of the class (20%)
教科書ソフト等	No assigned textbook. Teacher will provide handouts for use in the class.
参考書等	No preparation is necessary before the class.
クラスコード	vm7fwde
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	There are no special requirements for the course. 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	As an oral communication based course, pair and group speaking exercises will be continually used in class as well as a basis for quizzes.

授業科目	オペラ制作演習Ⅶ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 岡崎　正治、萩原　のり子	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 3107

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　ソロ音楽稽古/合唱稽古①
3週　ソロ音楽稽古/合唱稽古②
4週　講義Ⅰ(予定)
5週　ソロ音楽稽古/合唱稽古③
6週　ソロ音楽稽古/合唱稽古④
7週　身体表現特別講義(予定)
8週　作品の講義Ⅱ(予定)
9週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤
10週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥
11週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦
12週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧
13週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨
14週　ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩
15週　ソロ、合唱、歌唱試験

成績評価方法・基準

アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%

教科書ソフト等

オリジナル楽譜、一部指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること(指定します)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aesrdoq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。
5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	オペラ制作演習Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	針生　美智子、鎌倉　亮太、角　岳史、千葉　潤、 河野泰幸、岡崎　正治、萩原　のり子	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 3108

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割、舞台技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　音楽セリフ通し稽古
2週　ソロ、合唱稽古/セリフ稽古
3週　立ち稽古①
4週　身体表現特別講義
5週　立ち稽古②
6週　立ち稽古③
7週　立ち稽古④
8週　立ち稽古⑤
9週　立ち稽古⑥
10週　立ち稽古⑦
11週　立ち稽古⑧
12週　通し稽古①
13週　通し稽古②
14週　通し稽古③
15週　G.P/本番

成績評価方法・基準

アンサンブル試験および、受講状況による評価80%　平常点20%

教科書ソフト等

オリジナル楽譜、一部指定したものを各自準備。各自ステージシューズを購入すること(指定します)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

aesrdoq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。
5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の前に発声練習をしてください。授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	映像制作演習Ⅶ・Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	(音楽学科)小山　隼平、大黒　淳一 (美術学科)小町谷　圭、門間　友佑	単位数	3	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MF-CE 4207 MF-CE 4208

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

① 音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
② 異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③ 異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
音楽学科 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
音楽学科 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
美術学科 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
美術学科 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
美術学科 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　企画の提案と決定
3週　企画会議①　グループの編成
4週　企画会議②　内容の検討
5週　企画会議③　内容の決定
6週　作業スケジュールの作成、広報業務の分担
7週　グループごとの制作①　プロットの決定
8週　グループごとの制作②　台本、絵コンテの制作
9週　グループごとの制作③　前半部分の撮影
10週　グループごとの制作④　中間部の撮影、編集
11週　グループごとの制作⑤　後半の撮影、編集、作曲
12週　グループごとの制作⑥　すり合わせ
13週　初号試写、修正作業
14週　仕上げ、発表当日業務の確認・分担
15週　研究発表

成績評価方法・基準

参加状況60%、作品の審査40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

前期:p5vo453　後期:kmprsuy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。

3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者が主体的に作品に対する決定を行っていく授業形態(アクティブ・ラーニング)をとりますので、自発的に授業にかかわることが求められます。なお、上記の授業計画は基的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ(ピアノ)	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	阿部　佳子、後山　美菜子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4601

授業概要

ピアノ指導のための基礎知識を習得し、様々な問題(音楽性の養成、テクニックの習得、コミュニケーション のあり方)に対応できる指導方法を実習研究する。「実技教材研究Ⅰ・Ⅱ(ピアノ)」で得た知識を基に実際に レッスン計画を立てて各々、個人レッスン生を受け持つ。

到達目標

将来指導する際の(生徒個々の可能性を見極め、問題点に対して幅広い解決法を持ち、構成力あるレッスンを計画し、それを効果的に実行する)即戦力を得る。

学科のディプロマ・ポリシー

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	ガイダンス
2週	導入レッスン見学実習
3週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学①
4週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学②
5週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学③
6週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学④
7週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑤
8週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑥
9週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑦
10週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑧
11週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑨
12週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑩
13週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑪
14週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑫
15週	モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑬　及びディスカッション

成績評価方法・基準

実習状況80%、レポート(実習プランと記録)20%

教科書ソフト等

なし。授業内で資料配布する。但し、自分のレッスン内で使用するテキスト(開講後決定)は購入する。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

dt7yw5x

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や指導者としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

担当モデル生に選択された教材については、全体に目を通し内容をしっかり把握した上 で、レッスンプランを十分に準備し実習に臨むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

モデル生の保護者とのコンタクトも含め、初歩生徒の音楽体験への責任を意識して実習にあたること。モデル生のカルテをレポートとして提出すること、参考のために、各自の担当生に選択したテキストを購入すること。また、主に「実技教材研究Ⅰ、Ⅱ(ピアノ)」で紹介した導入テキストや曲集を参考資料とすること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（ピアノ）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	阿部　佳子、後山　美菜子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4602

授業概要

「音楽実技教授法Ⅰ」に引き続き、ピアノ指導の様々な問題(音楽性の養成、テクニックの習得、コミュニケーション のあり方)に対応できる方法を実習研究する。発表会の企画実践を通してマネージングを経験する。

到達目標

将来指導する際の(生徒個々の可能性を見極め、問題点に対して幅広い解決法を持ち、構成力あるレッス ンを計画し、それを効果的に実行する)即戦力を得る。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　前期音楽実技教授法Ⅰ（ピアノ）に引き続き、個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学①
2週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学②
3週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学③
4週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学④
5週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑤
6週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑥
7週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑦
8週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑧
9週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑨
10週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑩
11週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑪
12週　試験とディスカッション
13週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑫
14週　モデル生の個人レッスン実習(30分) 他学生実習の見学⑬
15週　モデル生発表会の企画実践

成績評価方法・基準

実習状況60%、イベント企画参加状況20%、試験とレポート20%

教科書ソフト等

なし。授業内で資料配布する。但し、自分のレッスン内で使用するテキスト(開講後決定)は購入する。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

tiav257

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や指導者としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

担当モデル生に選択された教材については、全体に目を通し内容をしっかり把握した上 で、レッスンプランを十分に準備し実習に臨むこと。学園附属音楽教室での見学とイベント参加実習を推奨する。詳細は開講後周知します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

モデル生の保護者とのコンタクトも含め、初歩生徒の音楽体験への責任を意識して実習にあたること。モデル生のカルテをレポートとして提出すること、参考のために、各自の担当生に選択したテキストを購入すること。また、主に「実技教材研究Ⅰ、Ⅱ(ピアノ)」で紹介した導入テキストや曲集を参考資料とすること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ（吹奏楽）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	河野　泰幸	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4611

授業概要	この授業は合奏の指導者を育成することを目的とする。楽器の特性を理解し、スコアの読解力を高めるこ と、楽曲への理解を深め、より実践的な指導力を身につける。 自分が専攻している楽器を研究する回のときは、学生がその他受講生に専攻楽器の特性について説明する。 実技教材研究で製作した楽譜を使用し、実際に指導体験をする。
到達目標	吹奏楽で使用される楽器の特性を理解し、吹奏楽の指導ができるようになる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性） 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性） 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）
授業計画	1週　ガイダンス 2週　木管楽器の特性を研究する①クラリネット 3週　木管楽器の特性を研究する②フルート 4週　木管楽器の特性を研究する③オーボエ 5週　木管楽器の特性を研究する④ファゴット 6週　木管楽器の特性を研究する④サクソフォン 7週　金管楽器の特性を研究する①ホルン 8週　金管楽器の特性を研究する②トランペット 9週　金管楽器の特性を研究する③トロンボーン 10週　金管楽器の特性を研究する④ユーフォニアム 11週　金管楽器の特性を研究する⑤チューバ 12週　打楽器の特性を研究する① 13週　打楽器の特性を研究する② 14週　弦楽器の特性を研究する 15週　前期のまとめ
成績評価方法・基準	平常点60%、発表40%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	s7zeykq
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。 実技教材研究(吹奏楽)Ⅲ以上を履修していること。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	五線紙・指揮棒を持参すること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（吹奏楽）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	河野　泰幸	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4612

授業概要

この授業は合奏の指導者を育成することを目的とする。楽器の特性を理解し、スコアの読解力を高めるこ と、楽曲への理解を深め、より実践的な指導力を身につける。
自分が専攻している楽器を研究する回のときは、学生がその他受講生に専攻楽器の特性について説明する。
実技教材研究で製作した楽譜を使用し、実際に指導体験をする。

到達目標

吹奏楽で使用される楽器の特性を理解し、スコアを読解できるようになる。基礎的な指揮法を習得し、指揮・指導ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー

2　音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　指揮法基礎①
2週　指揮法基礎③
3週　指揮法基礎②
4週　スコアリーディング①
5週　スコアリーディング②
6週　スコアリーディング③
7週　リハーサル①
8週　リハーサル②
9週　リハーサル③
10週　バンド・スコアリーディング①
11週　バンド・スコアリーディング②
12週　バンド・スコアリーディング③
13週　バンド・スコアリーディング④
14週　バンド・スコアリーディング⑤
15週　バンド・リハーサル実践

成績評価方法・基準

平常点60%、リハーサル実践40%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

lt2p35e

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。
実技教材研究(吹奏楽)Ⅲ以上を履修していること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

五線紙・指揮棒を持参すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ（合唱）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4621

授業概要

この授業は合唱指導の専門家を育成することを目的とする。前期は、実際の合唱指導の観点において、合唱を歌う上での体の使い方について学ぶ。またそれをどのように指導するかについて研究する。後期は、実技教材研究Ⅲ（合唱）で学んだ邦人作曲家たちの作品を取り上げ、具体的な音楽の指導方法について学ぶ。

到達目標

① 実際の合唱指導の現場において、練習の進め方について理解できる。
② 合唱するための体の使い方を理解し、それを言葉や体を使って指導することが出来る。
③ 合唱譜を見て、指揮をすることができ、具体的なポイントを押さえながら指導することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス
2週	姿勢、身体の使い方について
3週	ブレス（呼吸について）息の流れについて①
4週	ブレス（呼吸について）息の流れについて②
5週	ブレス（呼吸について）息の流れについて③
6週	発音について①
7週	発音について②
8週	発音について③
9週	発声について①
10週	発声について②
11週	発声について③
12週	発声について④
13週	ウォーミングアップの仕方について①ストレッチ
14週	ウォーミングアップの仕方について②発声練習
15週	ウォーミングアップの仕方について③カデンツ、音色の統一の仕方

成績評価方法・基準

授業内での課題50%、学修状況50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

uhr6db6

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

前期は与えられた課題について積極的に調べ、十分に理解してから授業に臨むこと。後期は与えられた楽曲について、充分に練習し、曲の背景や歌詞についても可能な限り調べてから授業に臨むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際の合唱団を指導するための方法を考察する意義深い授業であることを、参加する学生は十分に認識し、授業に参加すること。与えられた楽曲を分析・調査しておくことが求められることはもちろん、調査結果をどのように合唱団員に伝えるか、事前の準備が必要とされる。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（合唱）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4622

授業概要

この授業は合唱指導の専門家を育成することを目的とする。前期は、実際の合唱指導の観点において、合唱を歌う上での体の使い方について学ぶ。またそれをどのように指導するかについて研究する。後期は、実技教材研究Ⅲ（合唱）で学んだ邦人作曲家たちの作品を取り上げ、具体的な音楽の指導方法について学ぶ。

到達目標

① 実際の合唱指導の現場において、練習の進め方について理解できる。
② 合唱するための体の使い方を理解し、それを言葉や体を使って指導することが出来る。
③ 合唱譜を見て、指揮をすることができ、具体的なポイントを押さえながら指導することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ①
2週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ②
3週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ③
4週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ④
5週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑤
6週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑥
7週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑦
8週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑧
9週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑨
10週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑩
11週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑪
12週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑫
13週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑬
14週	実際の曲を用いて指揮法、指導のポイント等を学ぶ⑭
15週	試演会、まとめ

成績評価方法・基準

授業内での課題50%、学修状況50%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

c3ujohw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

前期は与えられた課題について積極的に調べ、十分に理解してから授業に臨むこと。後期は与えられた楽曲について、充分に練習し、曲の背景や歌詞についても可能な限り調べてから授業に臨むこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

実際の合唱団を指導するための方法を考察する意義深い授業であることを、参加する学生は十分に認識し、授業に参加すること。与えられた楽曲を分析・調査しておくことが求められることはもちろん、調査結果をどのように合唱団員に伝えるか、事前の準備が必要とされる。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	即興演奏Ⅶ・Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	小山　隼平、向坂　元吾	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4367 MU_MS 4368

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

① コードネームを理論的に理解できる。
② コードネームに沿って即興的に音を出すことができる。
③ 適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　グループ分け、選曲
3週　グループごとにセッションをする（前半）①　コードネームの理解
4週　グループごとにセッションをする（前半）②　コードネームの表現
5週　グループごとにセッションをする（前半）③　リズムの表現
6週　グループごとにセッションをする（前半）④　スケールの理解
7週　グループごとにセッションをする（前半）⑤　スケールに沿ったメロディーの表現
8週　グループごとにセッションをする（前半）⑥　総括
9週　中間発表
10週　グループごとにセッションをする（後半）①　コードネームの表現
11週　グループごとにセッションをする（後半）②　リズムの表現
12週　グループごとにセッションをする（後半）③　スケールの理解
13週　グループごとにセッションをする（後半）④　スケールに沿ったメロディーの表現
14週　グループごとにセッションをする（後半）⑤　総括
15週　期末発表とまとめ

成績評価方法・基準

中間発表20%、期末発表20%、取り組む姿勢60%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

特にありません。必要に応じて、授業内で配付します。

クラスコード

前期：kecex2m　後期：ufqqere

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（吹奏楽・オーケストラ）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU-MS 4217 MU-MS 4218

授業概要

合奏（大編成）を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけると共にアンサンブルの技能を高める。演奏会実現のなかで様々な役割を担いプロの演奏家及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、授業内容、目的・計画、役割分担	16週	定期演奏会練習⑥　仕上げ
2週	簡単な楽曲を使いサウンド作り	17週	定期演奏会総練習
3週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ	18週	定期演奏会本番
4週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ	19週	キャンパスコンサート練習①　基礎
5週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ	20週	キャンパスコンサート練習②　質の向上
6週	仮）吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ	21週	キャンパスコンサート練習③　仕上げ
7週	キャンパスコンサート練習①	22週	キャンパスコンサート本番①
8週	キャンパスコンサート練習②	23週	キャンパスコンサート本番②
9週	キャンパスコンサート練習③	24週	定期演奏会練習①　基礎
10週	キャンパスコンサート　本番	25週	定期演奏会練習②　質の向上
11週	定期演奏会練習①　譜読み	26週	定期演奏会練習③　質の向上
12週	定期演奏会練習②　基礎	27週	定期演奏会練習④　仕上げ
13週	定期演奏会練習③　基礎	28週	定期演奏会練習⑤　仕上げ
14週	定期演奏会練習④　質の向上	29週	定期演奏会総練習
15週	定期演奏会練習⑤　質の向上	30週	定期演奏会本番

成績評価方法・基準

演奏発表及び特別練習に参加すること50%、合奏に必要な基本的奏法がなされているかを評価する30%、
楽曲分析、演奏表現ができているかを評価する20%

教科書ソフト等

担当教員から指示を受けたライブラリアンが準備・配付しますが、コロナ禍のため、クラスルームにアップされたものを各自プリント

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

qzaxhtr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに譜読みし、練習をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、コンサートに合わせ授業科目別の授業計画は変更が考えられます、その場合事前にお知らせいたします。コンサート前の別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種コンサートに絡み、授業回数が増える事があります。授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。管弦打楽コース以外でも履修を希望する場合、プレスメントテストを行う場合がある。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（弦楽合奏・オーケストラ）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	大隅　雅人、河野　泰幸、グレブ・ニキティン、 中島　杏子、岩渕　晴子、富岡　雅美	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4227 MU_MS 4228

授業概要

オーケストラ音楽の主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術とアンサンブルによる表現方法を学ぶ。また、定期演奏会などで研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲にあった奏法を身につけると共にアンサンブルの重要性を理解する。演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ定期演奏会などでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング①	16週	弦楽器パートの正しいボーイング⑥
2週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング②	17週	弦楽器パートの正しいボーイング⑦
3週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング③	18週	弦楽器パートの正しいボーイング⑧
4週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング④	19週	弦楽器パートの正しいボーイング⑨
5週	弦、木管、金管楽器の正しいチューニング⑤	20週	弦楽器パートの正しいボーイング⑩
6週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備①	21週	初見能力①
7週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備②	22週	初見能力②
8週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備③	23週	初見能力③
9週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備④	24週	初見能力④
10週	スコアの読譜、書き込み等、資料の正しい準備⑤	25週	初見能力⑤
11週	弦楽器パートの正しいボーイング①	26週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏①
12週	弦楽器パートの正しいボーイング②	27週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏②
13週	弦楽器パートの正しいボーイング③	28週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏③
14週	弦楽器パートの正しいボーイング④	29週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏④
15週	弦楽器パートの正しいボーイング⑤	30週	オーケストラ曲の習得、講義やコンサートでの演奏⑤

成績評価方法・基準

授業への受講状況50%、合奏技術の達成度30%、演奏に取り組む姿勢20%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

hkyntvx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業までに譜読みし、練習をしておくこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業の前にセッティングを行い、各自音だし・チューニングを済ませておくこと。数台の弦楽器については貸し出しを行うが、原則、楽器は個人持ちとする。演奏会経費が別途かかります。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。演奏会前の特別練習などで授業回数が増える場合があります。弦楽器のみの合奏の発表も予定されています。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	器楽合奏Ⅶ・Ⅷ （電子オルガン・ハイブリッドオーケストラ）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	斉藤　宏子	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4237 MU_MS 4238

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

① 楽曲にあった奏法を実践することができる。
② アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	ガイダンス、グループ編成の決定	16週	グループ全体での音作り（2曲目前半）
2週	選曲	17週	グループ全体での音作り（2曲目後半）
3週	楽器等の理解	18週	アンサンブル練習（2曲目前半）
4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	19週	アンサンブル練習（2曲目後半）
5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	20週	グループ全体での音作り（3曲目前半）
6週	楽譜作成、個々の音色づくり（1曲目）	21週	グループ全体での音作り（3曲目後半）
7週	楽譜作成、個々の音色づくり（2曲目）	22週	アンサンブル練習（3曲目前半）
8週	楽譜作成、個々の音色づくり（3曲目）	23週	アンサンブル練習（3曲目後半）
9週	楽譜作成、個々の音色づくり（4曲目）	24週	グループ全体での音作り（4曲目前半）
10週	グループ全体での音作り（1曲目前半）	25週	グループ全体での音作り（4曲目後半）
11週	グループ全体での音作り（1曲目後半）	26週	アンサンブル練習（4曲目前半）
12週	アンサンブル練習（1曲目前半）	27週	アンサンブル練習（4曲目後半）
13週	アンサンブル練習（1曲目後半）	28週	演奏会場でのサウンドプロダクション
14週	アンサンブル練習（1曲目仕上げ）	29週	G. P.
15週	前期のまとめ	30週	演奏会での発表

成績評価方法・基準

演奏技術の達成度40%、合奏における役割の理解度と表現力40%、演奏会に参加すること20%

教科書ソフト等

エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付（ヤマハ音楽振興会）

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

msfaejv

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。
この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ピアノアンサンブルⅦ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、黒山　映、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4317

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
12週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

2jhx5ul

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨む こと。
グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ～Ⅵを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、
授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。
発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

授業科目	ピアノアンサンブルⅧ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	鎌倉　亮太、谷本　聡子、外山　啓介	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4318

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　オリエンテーション　グループ組を決める。
2週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
3週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
4週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
5週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
6週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
7週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
8週　合同の発表会
9週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
10週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
11週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に読譜を行う。
12週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
13週　自由曲（連弾または2台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
14週　アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
15週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

演奏試験50%、発表会40%、平常点10%
演奏試験、発表会の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は原則的に「原典版」を使用する。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

twi7yoe

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨む こと。
グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。

1時間以上/日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修には、ピアノアンサンブルⅠ～Ⅷを履修済みであること。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、
授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。
発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

授業科目	合唱Ⅶ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4207

授業概要

これまでの合唱ⅠからⅥで学んだことに加え、大学3年間で全ての科目において学んできたことを音楽表現に生かしてゆく。さらに声楽アンサンブルにおいて練習や表現で必要となる様々な方法論のほか、最高学年として集団をリードするそのスキルと必要性などについても考え身に付けてゆく。また、定期演奏会にむけてオーケストラとの共演のために必要な準備を考え、演奏の観点のみならず演奏会全体をプロデュースする立場としての仕事のあり方やそのための具体的な作業を知る。

到達目標

1. アンサンブルのための声楽的テクニックを身に付ける。
2. 合唱が人生に果たす役割と重要性を認識する。
3. 合唱を歌い手として音楽的にリードする方法を身に付ける。
4. 演奏会にむけて主体的にそのプロセスに関わることで、プロデュースの知識も身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	年度初めのガイダンス。取り上げる合唱曲についてはGoogle classroomに曲名を掲示。
2週	①日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
3週	②日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
4週	③日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
5週	④日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
6週	⑤日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
7週	⑥日本の合唱作品を学ぶ：混声合唱曲
8週	⑦日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
9週	⑧日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
10週	⑨日本の合唱作品を学ぶ：女声合唱曲および男声合唱曲
11週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習①
12週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習②
13週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習③
14週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習④
15週	定期演奏会の譜読みおよびパート、アンサンブル練習⑤

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%
平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

参考書等

なし。 授業内で指定します。

クラスコード

5l44cin（5，エル、4，4、シー、アイ、エヌ） ※必要な資料等は「合唱Ⅲ」のクラスルームに掲示するためクラスコードxez2johからの招待も承認してください。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行うこと。特に譜読みを終えた楽曲については、念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1～2時間程度/ 週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	合唱Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	内藤　淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4208

授業概要

前期の合唱Ⅶと同様、これまでの合唱Ⅰ からⅥで学んだことに加え、大学3年間で全ての科目において学んできたことを後期の合唱Ⅷでも音楽表現に生かしてゆく。さらに声楽アンサンブルにおいて練習や表現で必要となる様々な方法論のほか、最高学年として集団をリードするそのスキルと必要性などについても考え身に付けてゆく。また、定期演奏会にむけてオーケストラとの共演のために必要な準備を考え、演奏の観点のみならず演奏会全体をプロデュースする立場としての仕事のあり方やそのための具体的な作業を知る。

到達目標

1. アンサンブルのための声楽的テクニックを身に付ける。
2. 合唱が人生に果たす役割と重要性を認識する。
3. 合唱を歌い手として音楽的にリードする方法を身に付ける。
4. 演奏会にむけて主体的にそのプロセスに関わることで、プロデュースの知識も身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく①
2週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく②
3週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく③
4週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく④
5週	定期演奏会で取り上げる作品を分析し、その合唱表現をさらに深めてゆく⑤
6週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく①
7週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく②
8週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく③
9週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく④
10週	定期演奏会にむけた全体練習を通してオーケストラと一体となった音楽表現を深めてゆく⑤
11週	定期演奏会全体総練習
12週	定期演奏会本番をこれに充てる
13週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り①
14週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り②
15週	混声合唱、女声合唱、男声合唱の振り返り③

成績評価方法・基準

毎回授業の最後に提出するチェックシート70%

平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り組む意欲及び受講態度）30%

教科書ソフト等

授業で使用する楽譜はそのつど指示する。定期演奏会で使う楽譜は教科書として購入すること。

参考書等

なし。授業内で指定します。

クラスコード

qrmed6i（キュー、アール、エム、イー、ディー、6，アイ）※必要な資料等は「合唱Ⅳ」のクラスルームに掲示するためクラスコードietdhkbからの招待も承認してください。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業で取り上げる楽曲の予習・復習は必ず行うこと。特に譜読みを終えた楽曲については念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。

1～2時間/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習および発声練習を行う。音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加（歌唱）することが求められます。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合は、次回の授業までに楽譜などの配付物を取りに来てください。また、楽譜を忘れた場合には授業への参加を認めませんので、事前にコピーをするなど各自で対処した上で出席してください。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	演奏解釈Ⅰ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	黒山　映、岡本　孝慈、外山　啓介、森　洋子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4001

授業概要	共通の作品を通して演奏解釈の創造、議論を行い実際の演奏に反映させていく。各時代の音楽表現方法 や考え方、特にバロック、古典の作品について様々な疑問点、矛盾点を、各自解決していき作品への理解 を深める。
到達目標	作品を様々な角度から考察した上で主体的に課題をみつけだし演奏解釈に裏打ちされた説得力のある演奏を目指す。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス〔黒山、岡本〕 2週　チェンバロとバロック音楽①〔森〕〔黒山、岡本〕 3週　チェンバロとバロック音楽②〔森〕〔黒山、岡本〕 4週　チェンバロとバロック音楽③〔森〕〔黒山、岡本〕 5週　チェンバロとバロック音楽④〔森〕〔黒山、岡本〕 6週　古典の作品について①〔黒山、岡本〕 7週　古典の作品について②〔黒山、岡本〕 8週　古典の作品について③〔黒山、外山、岡本〕 9週　古典の作品について④〔黒山、岡本〕 10週　古典の作品について⑤〔黒山、岡本〕 11週　古典の作品について⑥〔黒山、外山、岡本〕 12週　演奏解釈発表①〔黒山、岡本〕 13週　演奏解釈発表②〔黒山、外山、岡本〕 14週　演奏解釈発表③〔黒山、外山、岡本〕 15週　演奏解釈発表④〔黒山、外山、岡本〕
成績評価方法・基準	授業内での演奏、演奏に対する解釈の発表70%、取り組む姿勢30%
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	aumkqma
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	各自が自選曲についての解釈、演奏を発表できるようにすること。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	演奏発表をすること。その際楽譜の解釈について説明すること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	演奏解釈Ⅱ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	岡本　孝慈、外山　啓介、森　洋子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4002

授業概要

共通の作品を通して演奏解釈の創造、議論を行い実際の演奏に反映させていく。各時代の音楽表現方法 や考え方、特にバロック、古典の作品について様々な疑問点、矛盾点を、各自解決していき作品への理解 を深める。

到達目標

作品を様々な角度から考察した上で主体的に課題をみつけだし演奏解釈に裏打ちされた説得力のある演 奏を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)

5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
2週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
3週	古典、ロマン派以後の作品について〔外山、岡本〕
4週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
5週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
6週	古典、ロマン派以後の作品について〔外山、岡本〕
7週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
8週	古典、ロマン派以後の作品について〔森〕〔岡本〕
9週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
10週	古典、ロマン派以後の作品について〔外山、岡本〕
11週	古典、ロマン派以後の作品について〔岡本〕
12週	演奏解釈発表①〔外山、岡本〕
13週	演奏解釈発表②〔外山、岡本〕
14週	演奏解釈発表③〔外山、岡本〕
15週	演奏解釈発表④〔外山、岡本〕

成績評価方法・基準

授業内での演奏、演奏に対する解釈の発表70%、取り組む姿勢30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

czhb54v

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各自が自選曲についての解釈、演奏を発表できるようにすること。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

演奏発表をすること。その際楽譜の解釈について説明すること。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本歌曲研究Ⅰ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4131

授業概要	滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演 奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト(詩)をどのように読み解いて曲 (旋律とピアノパート)を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピ アノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週 2 曲程度を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。
到達目標	① 正しい日本語の発音で歌唱することができる。 ② 歌、ピアノパートともにテキスト(詩)に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　ガイダンス 2週　日本歌曲の誕生から現在までの流れ① 3週　日本歌曲の誕生から現在までの流れ② 4週　日本歌曲の誕生から現在までの流れ③ 5週　日本語歌唱の基本と注意点について 6週　山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究① 7週　山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究② 8週　山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究③ 9週　戦前の作品を歌唱とピアノの両面から研究① 10週　戦前の作品を歌唱とピアノの両面から研究② 11週　戦前の作品を歌唱とピアノの両面から研究③ 12週　戦前の作品を歌唱とピアノの両面から研究④ 13週　戦前の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑤ 14週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究① 15週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究②
成績評価方法・基準	授業での演習70%、平常点(受講態度など)30%
教科書ソフト等	『最新・日本歌曲選集　日本歌曲名歌集(原調版)』(音楽之友社)
参考書等	『日本名歌110曲集1・2』(全音楽譜出版社)、『日本歌曲全集1～45』(音楽の友社)他
クラスコード	c2wnv36
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	与えられた課題曲を演奏できるようになるために、予習・復習を充分してから授業に臨むこと。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修者は年度末の発表演奏会で歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏をしなければなりません。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	日本歌曲研究Ⅱ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4132

授業概要	滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演 奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト(詩)をどのように読み解いて曲 (旋律とピアノパート)を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピ アノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週 2曲程度を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。
到達目標	① 正しい日本語の発音で歌唱することができる。 ② 歌、ピアノパートともにテキスト(詩)に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性) 5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)
授業計画	1週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究③ 2週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究④ 3週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑤ 4週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑥ 5週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑦ 6週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑧ 7週　戦後の作品を歌唱とピアノの両面から研究⑨ 8週　現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究① 9週　現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究② 10週　現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究③ 11週　現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究④ 12週　発表演奏会に向けての総合演習① 13週　発表演奏会に向けての総合演習② 14週　発表演奏会に向けての総合演習③ 15週　発表演奏会
成績評価方法・基準	授業での演習50%、発表演奏会に向けての取り組み20%、平常点(受講態度など)30%
教科書ソフト等	『最新・日本歌曲選集　日本歌曲名歌集(原調版)』(音楽之友社)
参考書等	『日本名歌110曲集1・2』(全音楽譜出版社)、『日本歌曲全集1～45』(音楽の友社)他
クラスコード	faxhvd3
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	与えられた課題曲を演奏できるようになるために、予習・復習を充分してから授業に臨むこと。 1時間から2時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修者は年度末の発表演奏会で歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏をしなければなりません。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	声楽特別研究C	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4323

授業概要

西洋クラシック音楽の源流である宗教音楽について起源から今日までの歴史を学ぶ。その上で代表的な作品を取り上げ、声楽アンサンブルを中心に、ソロも交えて演習する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。取り上げる楽曲については履修状況に合わせて適宜選択する。

到達目標

①宗教音楽から始まる様々な声楽曲・合唱曲についての知識を深めることが出来る。
②取り上げる楽曲で用いられるラテン語・ドイツ語・フランス語を正しく美しい発音で歌唱することが出来る。
③声楽アンサンブルに必要な様々な知識とテクニックを身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

授業計画

1週　ガイダンス
2週　宗教音楽の起源について
3週　宗教音楽の歴史①
4週　宗教音楽の歴史②
5週　レクイエム①
6週　レクイエム②
7週　オラトリオ①
8週　オラトリオ②
9週　ルネサンス期の宗教音楽（1） 演習①
10週　ルネサンス期の宗教音楽（2） 演習②
11週　バロック時代の宗教音楽（1） 演習③
12週　バロック時代の宗教音楽（2） 演習④
13週　バロック以降の宗教音楽（1） 演習⑤
14週　バロック以降の宗教音楽（2） 演習⑥
15週　まとめと振り返り

成績評価方法・基準

授業での演習70%、平常点(受講態度など)30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

クラスコード

cfhwhbl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた課題曲を演奏できるようになるために、予習・復習を充分してから授業に臨むこと。
1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者は年度末の発表演奏会で担当する楽曲について責任をもって十分な練習をすること。

授業科目	声楽特別研究D	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	三山　博司	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4324

授業概要

西洋クラシック音楽の源である宗教音楽についての起源から今日までの歴史を学ぶ。その上で代表的な作品を取り上げ、声楽アンサンブルを中心に、ソロも交えて演習する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。取り上げる楽曲については履修状況に合わせて適宜選択する。

到達目標

①宗教音楽から始まる様々な声楽曲・合唱曲についての知識を深めることが出来る。
②取り上げる楽曲で用いられるラテン語・ドイツ語・フランス語を正しく美しい発音で歌唱することが出来る。
③声楽アンサンブルに必要な様々な知識とテクニックを身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー

1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
5　正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　発表演奏会の演目を決定し、それぞれ担当する曲目、パートを話し合う。
2週　発表演奏会の楽曲について、担当する曲目、パートを決定する。
3週　発表演奏会で取り上げる曲目の譜読みを行う①
4週　発表演奏会で取り上げる曲目の譜読みを行う②
5週　発表演奏会で取り上げる曲目のパート練習、アンサンブル練習を行う①
6週　発表演奏会で取り上げる曲目のパート練習、アンサンブル練習を行う②
7週　発表演奏会で取り上げる曲目のパート練習、アンサンブル練習を行う③
8週　発表演奏会で取り上げる曲目のパート練習、アンサンブル練習を行う④
9週　発表演奏会で取り上げる曲目のパート練習、アンサンブル練習を行う⑤
10週　発表演奏会に向けてテキストと声の両面からできるようになるまで細部に亘って練習する①
11週　発表演奏会に向けてテキストと声の両面からできるようになるまで細部に亘って練習する②
12週　発表演奏会に向けてテキストと声の両面からできるようになるまで細部に亘って練習する③
13週　発表演奏会のへ向けて総稽古①
14週　発表演奏会のへ向けて総稽古②
15週　発表演奏会

成績評価方法・基準

授業での演習70%、平常点(受講態度など)30%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

クラスコード　c6fsgrw

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

与えられた課題曲を演奏できるようになるために、予習・復習を充分してから授業に臨むこと。
1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

履修者は年度末の発表演奏会で担当する楽曲について責任をもって十分な練習をすること。

授業科目	伴奏法Ⅴ・Ⅵ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	岡本　孝慈、浅井　智子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4035 MU_MS 4036

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。（岡本：グレード取得方向、浅井：教員採用試験方向）

到達目標

① ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、自然に初見演奏能力も向上する。
② 既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週	オリエンテーション（合同） あらかじめアンケートで希望する進路方向を提出しそれぞれのクラス分かれる。
2週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）①
3週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）②
4週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）③
5週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）④
6週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑤
7週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑥
8週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑦
9週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑧
10週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑨
11週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑩
12週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑪
13週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑫
14週	対面、オンラインに関わらず課題に取り組み、個人指導があります。（2カ所に分割）⑬
15週	試験

成績評価方法・基準

試験70%、課題30% 〔平常点有り〕

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付しますので保管ファイルを用意すること。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

Ⅴa(岡本) marixmf　Ⅴb(浅井) rwjqpky　Ⅵa(岡本) xg3xend　Ⅵb(浅井) 3rmupdg

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

授業科目	伴奏実習Ⅶ・Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	演習
担当教員	黒山　映、河野　泰幸、針生　美智子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4357 MU_MS 4358

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
2 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

授業計画

1週　ガイダンス
2週　パートナーとの充分なリハーサル
3週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
4週　パートナーとの充分なリハーサル
5週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
6週　パートナーとの充分なリハーサル
7週　総練習
8週　本番①（演奏会・試験等）
9週　パートナーとの充分なリハーサル
10週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
11週　パートナーとの充分なリハーサル
12週　レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
13週　パートナーとの充分なリハーサル
14週　総練習
15週　本番②（演奏会・実技試験等）

成績評価方法・基準

平常点50%、協調性20%、表現力30%

教科書ソフト等

授業ごとに指示する。

参考書等

授業ごとに指示する。

クラスコード

wqoer5p

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅶ・Ⅷ	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実習
担当教員	小山　隼平、千葉　潤、谷本　聡子、黒山　映、外山　啓介、 三山　博司、針生　美智子、大隅　雅人、河野　泰幸、 高田　由利子、鎌倉　亮太、大黒　淳一	単位数	1	授業回数	
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4727 MU_MS 4728

授業概要	大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定されます。 本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。
到達目標	①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。 ②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。 ③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。
学科のディプロマ・ポリシー	1　主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性） 3　音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性） 4　コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
授業計画	「授業計画」は、「コンサート」の内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 なお、この授業科目の大まかな流れは次のとおりとなります。 ①　履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。 ②　各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。 ③　コンサートに向けて、任務に応じた準備を行い、当日は任務を遂行する。 ④　担当教員は、履修者の事前準備、当日の動き方を観察し、評価する。 ⑤　コンサート終了後、担当教員は履修者に評価と改善点を伝える。 以上、①から⑤までの手順を、コンサートごとに繰り返す。
成績評価方法・基準	「授業計画」と同様、「成績評価方法・基準」は、コンサートの内容により異なります。 コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。
参考書等	宮崎　隆男著『「マエストロ、時間です」 ～サントリーホール　ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア
クラスコード	ebh2kux
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

授業科目	実技演奏研究Ⅴ・Ⅵ（演奏クラス）	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	三山博司、大隅雅人、黒山映、小山隼平、 谷本聡子、針生美智子、鎌倉亮太、河野泰幸	単位数	3	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4125 MU_MS 4126

授業概要	個人レッスンの形式で、専攻分野に対する研究を深めます。 また、学外のオーディション、コンクールや演奏会等へ参加するか、または発表機会を設けることを前提とし、それに対しての準備や事後評価を行います。
到達目標	①自分の専攻分野について研究を深め、社会の中での音楽家、演奏家としてのあり方を能動的に考えることができる。 ②学外のオーディションやコンクール、演奏会等へ参加したり、自分で発表の機会を作ったりすることで、１人の音楽家として、社会に向けた自己の発信をすることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。 4 知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。
授業計画	1週　ガイダンス 2週　研究テーマの検討 3週　研究テーマの決定 4週　演奏研究または作品制作① 5週　演奏研究または作品制作② 6週　演奏研究または作品制作③ 7週　演奏研究または作品制作④ 8週　演奏研究または作品制作⑤ 9週　演奏研究または作品制作⑥ 10週　演奏研究または作品制作⑦ 11週　発表に向けての準備① 12週　発表に向けての準備② 13週　発表に向けての準備③ 14週　発表に向けての準備④ 15週　発表に向けての準備⑤
成績評価方法・基準	① 学外のコンサート（前期は音の輪コンサートを含む）やオーディション、演奏会などの発表機会を最低１回は持つこと60% ② 取り組む姿勢20% ③ ①以外の演奏機会に対する積極性20%
教科書ソフト等	授業内で指示します。
参考書等	授業内で指示します。
クラスコード	h755e47
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家あるいは作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	練習や創作の時間を充分確保することはもちろんですが、それに加えて楽曲分析や文献の調査、創作環境の向上につながる情報収集を絶えず行って下さい。 3時間以上/日
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	事前に実施した、演奏クラス選抜試験に合格した学生のみが履修できます。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

授業科目	室内楽Ⅴ・Ⅵ	配当年次	2～3年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	実技
担当教員	河野 泰幸、谷本 聡子、大隅 雅人、黒山 映、鎌倉 亮太、外山 啓介、グレブ・ニキティン、石川 祐支、石橋 克史、大家 和樹、小杉 恵、佐藤 淳一、坂東 邦宣、中野 耕太郎、小野木 遼、川口 晃	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	MU_MS 4305 MU_MS 4306

授業概要

ピアノ、管弦打楽器を様々な形で組み合わせ、アンサンブルを実技レッスン形式で行う。編成は二重奏から八重奏くらいまでの範囲とする。バロックから近現代までのオリジナルの室内楽曲を中心に、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができるようにする。アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験することを目指す。

学科のディプロマ・ポリシー

1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）

5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

授業計画

1週　ガイダンスを行い、履修グループごとに課題曲を決める

2週　楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する

3週　楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する

4週　アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする

5週　アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする

6週　アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする

7週　アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする

8週　演奏試験とまとめ

成績評価方法・基準

実技試験90%、平常点10%
実技試験の評価は、複数の採点者の素点を合計し、平均点を算出します。

教科書ソフト等

楽譜は「原典版」を使用することが望ましい。

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。

クラスコード

lu4cfyl

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

取り上げるのは、原則出版されているオリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。実技演奏法（主科）又は実技演奏法（副専攻）を履修していること。副専攻の場合は同一楽器で1年以上レッスンを受講している事。

1時間以上／日

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

取り上げるのは、原則オリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。ピコース・管弦打楽コース以外の学生が履修を希望する場合、プレスメントテストを行う場合が有る。

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

授業科目	教育原理	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	井上　大樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1002

授業概要

様々な教育職に通底する、教育に関する基本的な知見（歴史、法制度、学問領域、現代的課題など）を得る。中でも、学習する一人ひとりの権利が様々な教育実践によって内実が深まってきた経緯に重点をおく。講義全体をとおして、具体的な教育問題や教育実践を取りあげ、理論と実践を結ぶ視点を育む。

到達目標

自分が目指す教育職との関わりを認識しつつ、以下を理解する。
・教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解し、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
・教育に関する代表的な教育家の思想と理念や実際の学校との関わり
・家族と社会の教育の歴史、近代教育制度の成立と展開
・歴史的な視点を含めた現代社会における教育課題

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	オリエンテーション／教育（学）とは何か	授業展開、到達目標，成績評価方法などの確認
2週	教育の本質と目標	義務教育未了者の苦労と学ぶ喜びを実感している姿に学ぶ
3週	代表的な教育家の思想と現代の教育観	教育観（教育に対する基本的な考え方）の歴史
4週	家族と社会による教育の歴史	家族や（地域）社会における教育的（子育て）機能の変遷
5週	家庭や子どもに関わる教育の思想	多様化する家庭教育の価値観と思想的ルーツ
6週	近代学校の成立から高等教育の大衆化まで	普通教育の制度整備や大学大衆化の社会的ニーズの視点から
7週	教育問題から見る現在の学校制度、学校文化	現在の教育問題に潜む、学校の「あたりまえ」（制度の基本概念、文化）
8週	学校や学習に関わる教育の思想	教育課程編成の原理や授業における児童の位置づけ
9週	「学力」とは何か（1）	測定方法の変遷と日本の課題
10週	「学力」とは何か（2）	「学力向上」の授業づくりの要点
11週	生徒指導・生活指導の原理	生徒の人間関係の現状をふまえて
12週	学校における道徳教育の意義	特別な教科としての道徳教育の位置づけ
13週	学校教育と生涯学習・社会教育	学校と地域社会との連携・融合の今日的課題
14週	変容する社会と教育問題	子育て家庭の貧困、格差社会、若者の就職難、多文化共生など
15週	教育専門職として探求すべき実践課題	まとめとふりかえり

成績評価方法・基準

提出物55%、授業態度15%、学習のまとめ30%

教科書ソフト等

勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学〔改訂版〕』有斐閣

参考書等

児美川 孝一郎『まず教育論から変えよう』太郎次郎社エディタス、『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年7 月、文部科学省）『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年度改訂、同上）

クラスコード

b3yvmuy

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

（予習） Google Classroomで連絡（テキストもしくは配布資料の講読）
（復習） テキスト及び配布資料、説明資料・動画のみなおし

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教員免許状の取得を前提とする講義であるので、教員を目指す意思を持って臨むこと。
※第1週にGoogle Classroomで、クラスコード「b3yvmuy」で登録するのを忘れずに。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

授業科目	教師論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1001

授業概要

教育の基本概念や教員の服務等に関する基礎的内容、学校教育の社会的意義や教員に求められる資質や能力，服務上・身分上の義務などを理解する。また、現代社会における教員の役割、学校内外で連携する取り組みについて理解する。

到達目標

① 学校教育や教員の服務等に関する基礎的な知識を身に付け、説明することができる。
② 教員に求められる資質や能力、現代社会で求められる教員の役割について説明することができる。
③ 教職課程の全体像を理解し、「教育実地研究」（教育実習）までの見通しを持っている。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	オリエンテーション:「教育」の意味や目的
2週	教職課程のカリキュラム
3週	教員に求められる資質や能力
4週	学校教育の歴史と教育関連法の変遷（教育基本法、他）
5週	教員の服務と身分保障　※レポート試験①
6週	教育課程の編成の基本、学校種による教員の業務の違い
7週	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導
8週	チーム学校や校外の関係機関との連携
9週	信頼される学校づくり　※レポート試験②
10週	いじめに関する取り組み
11週	虐待や保護者対応に関する取り組み
12週	特別支援教育に関する取り組み
13週	学校安全やジェンダーに関する取り組み
14週	学校教育での多様な取り組み　※レポート試験③
15週	「教育実地研究」（教育実習）の目的の理解と準備

成績評価方法・基準

レポート試験（80%）、授業内の小課題やグループワークのまとめ（20%）

教科書ソフト等

中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月、文部科学省)
高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月、同)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

66ljnc4

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

教育に関する課題意識を持ち関心を高め、授業の復習を通して理解が深まるようにしてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

各時の授業で配付されるプリントを振り返り、疑問に思ったことや理解できなかったところは積極的に質問してください。また、各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

授業科目	教育の方法及び技術 （情報通信技術の活用含む）	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1020

授業概要

学習指導要領等で求められる育みたい資質・能力や学習指導案の基本構成を理解するとともに、ICTを活用する意義と理論を理解して学習者支援や情報活用のための基礎的な技能を身に付ける。

到達目標

①教育方法の基本的理論と学習指導を展開するための基礎的な技能を身に付け、学習指導案の構成や教材研究の方法を理解することができる。
②学校のICTの現状を把握するとともに、ICT活用の基本的な考え方や教材等の作成や提示法などの基礎的な技能を身に付けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	オリエンテーション：教育方法の概念
2週	授業構築の基礎的原理とICT（Google Classroomの活用）
3週	学習指導要領に基づく学習指導案の構成
4週	授業づくりの考え方と指導展開の基本
5週	教材研究の目的や意義　※レポート試験①
6週	主体的・対話的で深い学びと学習形態
7週	学習環境の整備と学校現場のデジタル化
8週	ICT活用のための基本的なスキル
9週	教科指導におけるICTの利用（WEBの活用）
10週	教科書の外部リンク及びデジタル教科書の活用　※レポート試験②
11週	学習者の多様性に応じたICTの利用（ZoomやGoogle Meetの活用）
12週	ICTを利用した授業づくりと指導展開（jamboardの活用）
13週	PowerPointを利用した授業づくり　※レポート試験③
14週	情報教育と情報活用能力の育成
15週	学習評価の概念及び校務処理のデジタル化　※レポート試験④

成績評価方法・基準

レポート試験（80%）、授業内の小課題やグループワークのまとめ（20%）

教科書ソフト等

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示 同）

参考書等

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 同）

クラスコード

oanvkky

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各時の授業で配付するプリントを活用した復習と、授業で使用するPCのアプリケーションが操作できるように準備してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

疑問に思ったことや理解できなかったところは積極的に質問してください。また、各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

授業科目	特別支援教育論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	二通　諭	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1002

授業概要

①障害者史、障害児教育史、特別支援教育の理念を概観し、その実践応用性について探究する。②学校教育法施行令第22 条の3に定める障害の程度について概観し、自立活動など障害と発達をふまえた教育内容と方法を理解する。③特別支援学校・学級、通級による指導等の特別支援教育システムについて概観し、歴史、背景、課題について把握する。④ 障害の有無にかかわらず発達障害やLGBT、被虐待、日本語未習得など特別な教育的支援を要する児童生徒に対する教育 実践上の課題を把握する。⑤あそびや物づくり、教科指導等のエッセンスを実践的に身につける。⑥児童生徒の意欲、主体性を引き 出す言葉かけなどの方法のエッセンスを実践的につける身に。⑦連携のツールとしての「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計 画」の意義を理解し、児童生徒理解をふまえた実態把握の方法を知る。⑧保護者との連携のうえで担任や特別支援教育コー ディネーターに必須となるカウンセリングマインドのエッセンスを実践的に身につける。

到達目標

①インクルーシブ教育を包含した特別支援教育の制度、理念、仕組みを説明できる。②特別な支援を必要とする幼児児童生徒 の心身の発達や心理的特性、障害による学習上又は生活上の困難、学習過程の特徴、「通級による指導」の位置づけと内 容、教育課程や支援の方法について説明できる。③様々な障害のある幼児児童生徒の学習上・生活上の困難と、その改善・克 服を目指す「自立活動」など教育課程全般の基礎的事項について説明できる。④教員や関係機関と連携しながら組織的に対応す るツールとしての「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成の意義と方法、特別支援教育コーディネーターらによる 支援体制構築の必要性について説明できる。⑤障害はないが母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児 童生徒の学習上、生活上の困難とその組織的な対応の必要性について説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	障害児教育史上「特殊教育」から「特別支援教育」への移行とインクルーシブ社会、共生社会の構築
2週	特別支援学校、特別支援学級の教育課程と実践① 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等
3週	特別支援学校、特別支援学級の教育課程と実践② 自閉症・情緒障害 言語障害等
4週	通級による指導および通常の学級における実践 合理的配慮、ユニバーサルデザインを視野に入れて
5週	通常の学級における特別な支援を要する児童生徒へのアプローチ① 自閉症スペクトラム障害(ASD)
6週	通常の学級における特別な支援を要する児童生徒へのアプローチ② LD、ADHD)ワークショップ有
7週	通常の学級における特別な支援を要する児童生徒へのアプローチ③ 被虐待・愛着障害、過敏(不安過多) 不登校、性的マイノリティ(LGBT)、日本語未習得など ワークショップ有
8週	特別支援教育コーディネーターの実践 担任支援、保護者支援と個別の指導計画・支援計画の作成

成績評価方法・基準

授業毎の課題提出30%、適宜実施する小テスト20%、試験50%、そのほかワークショップ等の状況も加味して総合的に評価する。

教科書ソフト等

『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』 二通諭　全障研出版部

参考書等

『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』文部科学省、
『キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の障害児教育』玉村公二彦 清水貞夫　黒田学 向井啓二 編 クリエイツかもがわ

クラスコード

jlp3ywx

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小・中学校特別支援学級担任（35年間） 地域特別支援教育コーディネーター（7年間） 大学生自助グループファシリテーター（10年間）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業前にテキスト、配付資料をよく読んでおくこと。授業後には講義における課題について考察す ること。障害者・マイノリティを描くテレビドラマ、映画などを特別支援教育の視点から鑑賞すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教員免許状の取得を前提とする講義であるので、教員を目指す意志を持って臨むこと。

授業科目	生徒・進路指導論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	橋本　尚典	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1021

授業概要

主体的な学習者の育成という視点から、学校教育にどのような課題が存在するのかについて関心を高 め、生徒指導・進路指導の役割について理解を深め、必要な知識・技術や素養を身につける。いじめや不 登校・中退問題や青年期における問題行動などについて、実践的な視点から考え、他者との議論を通じて 具体的な方策を考え、他者に伝えることができるようになることを目的とする。

到達目標

① 学校教育における生徒指導および進路指導の役割について理解し、他者に説明できる。
② カウンセリングの概念を理解し、その考え方を生かして相談活動を行うことができる。
③ 生徒指導および進路指導上の課題について、グループまたは個人でその解決のための方策を考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	教育課程における生徒指導、進路指導・キャリア教育の位置付け
2週	若者の現状と課題 なぜ、生徒指導、進路指導・キャリア教育が必要なのか
3週	学校教育における生徒指導の経緯と理論的背景
4週	青年期の心理と生徒指導
5週	生徒指導の具体的な実践
6週	学校教育における進路指導の経緯と理論的背景
7週	生徒指導と進路指導の関連と学校教育における位置づけ
8週	生徒指導、進路指導・キャリア教育に関わる教育政策と法令
9週	生徒指導、進路指導における学校外の機関との連携 ゲストスピーカー
10週	キャリアガイダンスの基礎理論
11週	キャリアカウンセリングの基礎理論
12週	生徒指導・進路指導を推進するための校内組織について
13週	生徒の進路選択・キャリア発達に関わる具体的な事例の検討
14週	子ども・若者を取り巻く課題と生徒指導、進路指導・キャリア教育の果たすべき役割の検討
15週	講義全体の総括:今日的問題と日々の生徒指導の在り方

成績評価方法・基準

論文50%、レポート(2回を予定)30%、授業内活動への参加状況10%、レスポンスシート10%

教科書ソフト等

『生徒指導・進路指導の理論と方法』(北樹出版、978-4779306488)『中学校学習指導要領解説 総則編』(平成29年7月、文部科学省)、『高等学校学習指導要領解説 総則 編』(平成29年度改訂、同上)

参考書等

『生徒指導提要』(平成22年3月、同上)、渡辺三枝子編(2007)『新版キャリアの心理学-キャリア支援への発達的アプローチ』ナカニシヤ出版、吉田辰雄他(2007)『進路指導・キャリア教育の理論と実践』日本文化科学社

クラスコード

ii6v72h

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

次の授業のテーマについて関連する資料を新聞や書籍から探し、基礎的な知識を得ておくこと。また授業で配付された資料や解説の内容をメモしたノートなどを用いて、授業終了時にはかならず振り返りを行うこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業は、学生の発表および議論を中心に構成されます。かならず予習を行うこと。また、授 業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。また、授業 で課されたレポート等は、期限を守って提出すること。

授業科目	教育心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	吉野 巌	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2003

授業概要

「わかること」「覚えること」「考えること」「できるようになること」を中心的テーマとして扱い、心理学実験を 体験しながら理解していく。また上記のテーマについて乳幼児、児童生徒、青年期へとどのように発達するか、障がいのある子どもと健常児との違いは何か、という問題についても同時に考えていく。

到達目標

「わかること」「覚えること」「考えること」「できるようになること」を中心的テーマとして扱い、心理学実験を 体験しながら理解していく。また上記のテーマについて乳幼児、児童生徒、青年期へとどのように発達するか、障がいのある子どもと健常児との違いは何か、という問題についても同時に考えていく。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	ガイダンス、「わかる」とは ①	文章理解についての実験、知識の役割
2週	「わかる」とは ②	スキーマの特徴と理解における役割
3週	「わかる」ことの発達 ①	乳幼児期における発達の特徴と課題
4週	「わかる」ことの発達 ②	児童期・青年期における発達の特徴と課題
5週	学習の理論① 基礎編	古典的条件づけとオペラント条件づけ
6週	学習の理論② 応用編	社会的学習と行動療法
7週	発達と学習の関係	遺伝と環境の役割、レディネス、初期学習
8週	愛着と親子関係が発達に及ぼす影響	愛着のタイプと母子相互作用
9週	「覚えること」記憶①	記憶の種類と記銘・学習に関わる諸要因
10週	「覚えること」記憶②	効果的な記憶の方法と知識獲得
11週	「できるようになること」	技能の練習と熟達
12週	メタ認知	メタ認知の特徴と育成
13週	動機づけ①	動機付けと報酬・罰の効果
14週	動機づけ②	外発的動機づけと内発的動機づけ
15週	心身の発達と学校の対応	主体的学習を支える集団づくり・学習評価
定期試験		

成績評価方法・基準

毎回のリアクションペーパー15%、毎回の課題60%、期末試験もしくはレポート25%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

大村彰道編『教育心理学I発達と学習指導の心理学』(東京大学出版会西村克彦)、『わかるしくみ』(新曜社 藤田哲也編)『絶対役立つ教育心理学』(ミネルヴァ書房)

クラスコード

a3ishax

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業後は講義内容をよくまとめノート整理を行うとともに、課題に取り組んでください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

リアクションペーパーの質問や課題についてのフィードバックを行う。

授業科目	教育相談の基礎と方法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	新川　貴紀	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2022

授業概要

教育職員免許法に定められた科目であり、教育相談においてなぜカウンセリングマインドが必要なのか理解する。児童生徒の中には、集団を単位とする一般的な教育的働きかけのみではスムーズに育って行けない者も存在する。そうした対象に関わる際に必要とされるのがカウンセリングマインドであり、さまざまなカウ ンセリング理論、技法の学習を通じて、カウンセリングマインドを持って児童生徒、保護者に関わるための考え方と基礎的な方法を学習する。

到達目標

さまざまな問題を抱える児童生徒への教育相談におけるカウンセリングの知識、技法の有効さを知り、活用する姿勢を獲得する。
児童・生徒の抱える問題を理解する基本的枠組みを修得し、事例に応じた基礎的対応方法ををを身につける。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週　ガイダンス 教育相談とは
2週　相談対象の理解① 情緒の発達とシグナル
3週　相談対象の理解② いじめ
4週　相談対象の理解③ 不登校
5週　相談対象の理解④ 非行
6週　相談対象の理解⑤ 発達障害
7週　相談技法の基礎① S.フロイトと精神分析
8週　相談技法の基礎② C.ロジャーズと来談者中心療法
9週　相談技法の実際① C.ロジャーズの面接ビデオ視聴
10週　相談技法の基礎③ 行動療法
11週　相談技法の基礎④ 教育相談における組織的取組みの必要性
12週　相談技法の基礎⑤ 教育相談にかかわる体制
13週　相談技法の実際② ソリューション、フォーカスト、教育相談の進め方
14週　相談技法の実際③ 傾聴と共感、保護者対応と地域連携
15週　まとめ(教育相談の意義と課題)

成績評価方法・基準

リアクションペーパーの記載等の講義への参加度75%　最終レポート25%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

ygfbbqr

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小中高校スクールカウンセラーとしてカウンセリング実務を経験

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予告された内容について文献、インターネット等で各回のテーマを事前学習

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業はグループワークを取り入れた講義形式で行います。

授業科目	教育課程論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	松田　剛史	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP1005

授業概要

1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について，学生が教育課程編成の観点から主体的に考える。
2 自らが意見をもち，受講者相互に議論し，批判し，協力し，参画しながら新たな気づきや学びを深める。

到達目標

1 教育課程の意義や効果的な教育課程編成のあり方について理解することができる。
2 カリキュラムマネジメントの実際と課題について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	教育課程と自己をつなげる　～わたしの「学校時代」～
2週	人間を計画通りに育てることはできるのか？　～「教育目的」へいたる道のりとしての教育課程～
3週	人を計画的に育てることはどのように考えられてきたか？　～学校における生活知をめぐる教育論争からカリキュラム論の誕生へ～
4週	学校で用いられる「言葉」にルールはあるのか？　～カリキュラムにおける言語コードの規範と再生産～
5週	何を学ぶのかをなぜ自由に決めることができないのか？　～教育課程に関する法と制度～
6週	何が変わったのか？どうして変えるのか？　～学習指導要領の変遷から広がる世界～
7週	なぜ「ゆとり教育」だったのか？　～1998・1999年改定学習指導要領～
8週	現場の教師はどうやって授業をつくるか？　～「本質的な問い」を軸にした授業～
9週	現場の教師はどうやって授業をつくるか？　～国語教育の事例を通して～
10週	「頭がいい」ってどういうこと？　～教育課程設計の前提となるさまざまな資質・能力観～
11週	アクティブ・ラーニングに教師はいらない？　～ヒドゥン・カリキュラムとしての教師の身体～
12週	授業の”外”が授業／学校を変える？　～反転授業の発想と教科外領域への視点～
13週	「普通」のカリキュラムって何だろう？　～オルタナティブ教育における教育課程～
14週	教師がカリキュラムの開発・編成を行うことは可能か？　～学校を基盤としたカリキュラム開発～
15週	遊びで満たされた学びの舞台　～主体性の育成とパフォーマティブな学び～

成績評価方法・基準

・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）30%：学習評価シート
・能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）30%：学習状況の観察
・各種学習成果（学修度）40%：考査や提出物等
※フィードバックは授業時間やGoogle classroom等において随時伝達、共有する

教科書ソフト等

1. 尾崎博美、井上元　編『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版　2018年 9784779512674
2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』東山書房　2018年　9784827815597

参考書等

授業中に適宜紹介する

クラスコード

xtlrymq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

本科目は事前にワークや事前学習が終了していることを前提として授業を行う。基本的に履修者による対話型による学習が中心であることに意識を高くもち、以下のことに留意実践すること。・学習（学修）内容の整理や確認・検証するための情報収集およびまとめ　・資料等の読み込みや自己の意見形成など、次時の学習内容や活動に関する事前準

・概ね45分程度を目安とするが、個々の学びに向かう意識や必要感を前提とした主体的な判断で行うこと

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。
・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。
・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。
・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については4週間前までに履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散、オンラインによる実施の場合あり）
・Google formやGoogle スライドなどのG Suite、mentimeter、MiroといったICTツールを活用して授業を展開する。また、活動にはzoomなどのオンライン会議ツールを活用する場合がある。
・対面授業の場合にも、上記ツールを活用できるデバイスを持参する

授業科目	道徳教育の理論と実践	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	川元 藍	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2018

授業概要

1. 道徳教育の意義と課題、学校教育全体における役割を説明できる。
2. 道徳教育の歴史を通して、道徳科を担う教師の立場と役割を考察できる。
3. 道徳の指導案作成を通して、道徳授業の在り方を見直すことができる。
4. 受講者相互の活発な意見交換を通して、道徳教育に対する自己の立場・考えを深めることができる。

を目標とした講義をしていきます。自ら学び、考える皆さんの姿に期待しています。
※以下の授業計画は変更になる場合があります。

到達目標

道徳教育の理念や歴史の学習のみならず、「道徳の時間」の実践的な指導力を身につけることができる。
学習指導案の作成と同時に、模擬授業を行うことによって子どもの道徳性をどのように育てるかを考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週　ガイダンス＆道徳とは何か
2週　日本における道徳教育の歴史①
3週　日本における道徳教育の歴史②
4週　学習指導要領を読み解く①
5週　学習指導要領を読み解く②
6週　実践紹介
7週　道徳科の授業の在り方
8週　指導案作成方法について
9週　グループ分け＆指導案作成準備①
10週　指導案作成準備②
11週　模擬授業①
12週　模擬授業②
13週　模擬授業③
14週　模擬授業④
15週　まとめ　授業の振り返りと授業改善の方向性

成績評価方法・基準

毎講義の振り返り40%、学習指導案作成と模擬授業50%、学期末レポート10%

教科書ソフト等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

『中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編』(文部科学省)・貝塚茂樹『道徳教育の教科書』学術出版会(2009年)

クラスコード

cyeghml

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有（公立中学校教諭）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業内で議論の時間も設けます。事前に疑問点や自分の意見等を整理してきてもらうこともあります。また、毎回、「振り返り」を課します。なお、後半は指導案の作成とその発表をグループごとにおこなっていただきます。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本講義の内容は、中学校学習指導要領に基づいて構成します。各自、中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編を購入するなどし、手元において本講義との関連を図ってください。また、道徳教育は、「特別の教科 道徳」の新設(平成27年3月)により、中学校では令和元年度から教科として行われています。この意義も確認しながら、道徳教育の充実道徳科の授業作りについて理解を深めます。学生の皆さんの積極的な学びを期待しています。

授業科目	教育制度論	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	望月　由美子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP3004

授業概要

① 教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。
② 学校と地域との連携の意義や、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組の特徴を把握する。

到達目標

教育制度における基礎的な知識を身に付けるとともにその成り立ちを理解し、諸制度の特徴をとらえ、現状 分析から今日的教育制度の課題を取り上げ、解決方策を考察することができる。学校と地域との連携に関 する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	教育行政の基本原理①『教育勅語』と教育基本法における基本理念
2週	教育行政の基本原理②「人格の完成」と「生きる力」
3週	教育行政の基本原理③ 日本国憲法・教育基本法と教育行政
4週	教育行政の基本原理④ 教育基本法改正をめぐる諸問題
5週	教育行政の制度① 教育制度の基本原理:学習権や教育権
6週	教育行政の制度② 公教育制度を支える制度的枠組み
7週	学校制度① 学校の公共性と教員の権利
8週	学校制度② 教育課程と中央行政の関わり
9週	学校制度③ 教育委員会の仕組みと役割
10週	学校と地域との連携① 地域との連携・協働による学校教育活動
11週	学校と地域との連携② 地域との連携・協働における歴史的背景
12週	学校と地域との連携③ 北海道における地域との連携・協働の具体的事例
13週	学校安全への対応① 学校保健安全法に基づいた 危機管理のあり方
14週	学校安全への対応② 学校をとりまく新たな安全上の課題
15週	学校安全への対応③ 学校安全を目指した具体的な取り組み

成績評価方法・基準

毎授業後のレスポンスシート 30%、レポート1回 60%　授業内参加度10%
レスポンスシートについては、授業内で口頭でフィードバックを行う。

教科書ソフト等

なし。毎回授業でレジュメを配布します。

参考書等

授業内で適宜お伝えしますが、参考書としてとりわけ以下は重要。堀尾輝久『いま、教育基本法を読む』岩波書店、2006年；大桃敏行・背戸博史編『日本型公教育の再検討』岩波書店、苅谷剛彦『教と平等』中公新書、2009年；横井敏郎・滝沢順・佐藤智子編『公教育制度の変容と教育行政』福村出版

クラスコード

s6vg7wo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

担当教員はイタリア留学経験をもち、現在、外国人児童生徒の教育保障を中心に教育制度の問題について研究を進めている。そのため、日本との比較を含めた事例についても適宜、紹介していきたい 。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

（予習）授業で触れるテーマについてより定着度を高めるために参考文献を幅広く読み、授業前に興味関心を深めることを強く推奨します（1時間程度／週）。（復習）授業で理解したことをさらに客観的に整理し、日々の新聞やニュースにも目を向けながら、公教育制度の諸問題について意識を高めるよう学習に取り組んで下さい。（1時間程度／週）

1時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本授業では、教員からの一方的な知識伝達にとどまらず、適宜、受講者からの積極的な意見や質問を求め、インタラクティブな授業運営の方式を採用します。

授業科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	村田　尋如	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP3019

授業概要

① 中学校・高等学校の「特別活動」のねらいや意義、取り組みの内容を、具体的な実践事例等を通して理解し、教科指導とは異なる「特別活動」の指導法を修得し、具体的に実践できる力を身に付ける。
② 中学校・高等学校の「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」のねらいや意義、取り組みの内容を、具体的な実践事例等を通して理解し、教科横断的で創造的な指導法を修得し、具体的に実践できる力を身に付ける。
③ 「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」との共通点や相違点を明確に理解し、ねらいの違いを踏まえたそれぞれの領域・分野の特徴を踏まえた、創造性に富んだ授業を構成する力を身に付ける。

到達目標

① 実践事例を通して、「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」のねらい、特徴、指導方法を把握でき、具体的な授業の在り方を追究できる。
② 「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の、授業改善を主体的に図る必要性を理解し、実践的指導力を身に付けることができる。
③ 中学校あるいは高校の教師としての高い志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週　オリエンテーション ・・・「特別活動」、「総合的な学習の時間」とは何か。学習指導要領の理解。
2週　「特別活動」の理解①・・・目的、意義、活動の種類、取り組み方法等
3週　「特別活動」の理解②・・・ケーススタディ①（学級活動・HR活動の例）
4週　「特別活動」の理解③・・・ケーススタディ②（生徒会活動の例）
5週　「特別活動」の理解④・・・ケーススタディ③（行事の例）
6週　「総合的な学習（探究）の時間」の理解①・・・目的、意義、取り組み方
7週　「総合的な学習（探究）の時間」の理解②・・・ケーススタディ①（教科横断的取り組みの例）
8週　「総合的な学習（探究）の時間」の理解③・・・ケーススタディ②（学校全体で取り組むテーマ学習の例）
9週　「総合的な学習（探究）の時間」の理解④・・・ケーススタディ③（アクティブ・ラーニングの例）
10週　「特別活動」の設計①（学級活動・HR活動の例）
11週　「特別活動」の設計②（学校祭の例）
12週　「総合的な学習（探究）の時間」の設計①（教科横断的取り組みの例）
13週　「総合的な学習（探究）の時間」の設計②（アクティブ・ラーニングの例）
14週　「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の評価・・・パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価
15週　まとめ・課題レポートのフィードバック

成績評価方法・基準

ケーススタディレポート（2つ）60%、授業設計レポート（2つ）40%

教科書ソフト等

「中学校学習指導要領解説－特別活動編」（平成29年7月　文部科学省）
「中学校学習指導要領解説－総合的な学習の時間」（平成29年7月　文部科学省）

参考書等

クラスコード　kpzeg6z

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時の指示を踏まえて、教科書や配付資料をもとにレポート作成の準備を進め、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

よりよい教師力を身に付けようとする意欲を持って授業に出席すること。授業中の発表や協議、質疑応答に積極的に参加すること。

授業科目	介護等体験	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	二通　諭	単位数	1	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP3026

授業概要	教職履修者には福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の体験が求められる。高齢者や障害のある 人々との出会いを通じて、個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践主体としての態度を養う。またこのような 態度の育成は、教職をめざす者にとって、子ども一人ひとりの多様な人間性を認めることにもつながる。受講後、福祉施設と特別支援学校での実地体験が行われる。
到達目標	1．介護等体験の基礎的な知識や心構えを修得する。 2．個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践に活かす。
学科のディプロマ・ポリシー	
授業計画	1週　教職課程における介護等体験の意義 2週　実習に関わる諸注意と実習日誌の書き方(諸注意、実習の出勤・退勤、実習中の態度・服装・緊 急時の対応・実習後の対応など心構え実習日誌の書き方、概要・一日の流れ・感想) 3週　社会福祉施設における体験学習の講義① 高齢者・障害者福祉施設の現状と課題 (福祉施設の種類及びそれぞれの役割) 4週　社会福祉施設における体験学習の講義② 福祉現場の現状と実習生に求められるもの (福祉施設関係者あるいは研究者を招き、施設の実状等を講義) 5週　社会福祉施設における体験学習の講義③ 実習へ向けての心構え (実習時に特に気をつけるべき点: 車いす、食事介助などを講義) 6週　特別支援学校における体験学習の講義④ 特別支援教育の現状と課題 (特別支援学校の役割、発達障害など) 7週　特別支援学校における体験学習の講義⑤ 特別支援教育の現状と実習生に求められるもの (特別支援学校関係者あるいは研究者を招き、特別支援学校の実状等を講義) 8週　事後指導 ①高齢者と障がいを有する子どもとの関わりから学んだこと、②介護等体験を通して 学んだことを教職にどう活かすか ディスカッションおよび事後レポート作成
成績評価方法・基準	実習施設・実習校の評価50%、講義中のレポート30%、事後レポート20%
教科書ソフト等	『フィリア』THE EARTH 教育新社、『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
参考書等	授業内で適宜、資料を配付します。
クラスコード	jj4kzfr
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	有り。　公立小学校20年、同中学校15年にわたり特別支援学級教員。そのうち地域連携型特別支援教育コーディネーター歴7年)。
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	実習先との連絡・調整等は早めに確実に行うこと。 1時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	講義全8回のうち、最低7回の出席が実地体験へ進む条件となる。レポート未提出者は、単位を認定しない。

授業科目	教育実習事前事後指導	配当年次	3～4年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	講義
担当教員	萬　司、平向　功一、二通　諭	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP5023

授業概要	教育実地研究（教育実習）を円滑に実施するために必要な事前準備と、教育実習後の振り返りや改善などの事後整理を行う。教育実習に関する事務手続きを滞りなく完了させることや教材研究・学習指導案等の準備をすること、実習を振り返りとして教育実習報告書を作成するなど、教育実地研究（教育実習）の事前事後に求められる内容を理解する。
到達目標	① 教育実習に必要な心構えや事務手続きを理解し完了することができる。 ② 教科指導に必要な準備を行い、学習指導案を作成準備することができる。 ③ 教育実習を振り返り改善点などを教育実習報告書にまとめることができる。
学科のディプロマ・ポリシー	三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ 2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力 4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力
授業計画	1週　3年次① 教育実習事前事後指導ガイダンス 2週　3年次② 教育実習報告会の参加(発表聴取、質疑応答、参加報告書作成) 3週　3年次③『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み① 4週　3年次④『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み② 5週　3年次⑤『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み③ 6週　3年次⑥ 教員採用に係る基本的な理解と対応 7週　3年次⑦ 教育実習までのスケジュールと準備内容の確認 8週　3年次⑧「実習生調査書」の作成 9週　3年次⑨ 教育実習の事務的な準備、「教育実習日誌」の書き方 10週　4年次① 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業） 11週　4年次② 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業） 12週　4年次③ 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業） 13週　4年次④ 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業） 14週　4年次⑤ 教育実習前の最終確認指導（実施期間別） 15週　4年次⑥ 教育実習修了後の手続き、教育実習報告書の作成
成績評価方法・基準	事前指導の教育実習報告会参加報告書、CBT問題集の取り組み、実習事務手続きの完了状況60%、事後指導の教育実習報告書40%
教科書ソフト等	教育実習の手引き（学術図書出版）、教職課程履修の手引き（ 本学出版）、実習校の校種に応じた学習指導要領とその解説編、 実習校から指定された教科書
参考書等	なし。授業内で指示します。
クラスコード	6bhjhyy
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	3年次は教育実習の事務手続きを滞りなく丁寧に行い完了することと、4年次は学習指導案や報告書にしっかり時間をかけ内容の充実を図ってください。 2時間から3時間程度/週
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	3年次①は後期第1週に、②以降は11月中旬頃より時間割の設定で実施します。 4年次①～⑤は実習時期に応じたグループごとに随時実施とし、⑥は全ての学生の教育実習終了後に別途日程にて実施します。

授業科目	教育実地研究	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	萬　司、平向　功一、二通　諭	単位数	4	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP4024

授業概要

教育実地研究（教育実習）はこれまで履修してきた教職課程の集大成であり、実践として学校現場で学ぶ貴重な機会でもある。これまでの学修の成果を活用し、教科指導や学級指導などについて基礎的な指導技術を身に付ける。真摯な態度で実習にのぞむことが求められ、実習期間は15日間（3週間相当）で120時間を標準とする。

到達目標

① 学校運営、教科や学級の運営、教員の諸業務を理解する。
② 教科指導や学級指導を実践し改善を図ることができる。
③ 教科教育の基礎的な指導方法を身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

実習期間は15日間（3週間相当）で120時間を標準とし、実習内容は次が考えられる。
① 学校経営の方針、運営計画、校務分掌などの理解（校長、教務主任、生徒指導部長等による）
② 指導担当教員監督下での教科指導（授業観察や参加、指導体験など）
③ 研究授業での実践(担当教科)
④ 指導担当教員監督下での学級指導(朝・帰りのSHR、昼食・給食、清掃など)
⑤ 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などの授業観察や参加
※註　高等学校に道徳の時間は時間割に位置づけられない。
⑥ 実習中に実施される学校行事などの観察や参加
⑦ 教員の諸業務の体験
⑧ 部活動の指導の体験
⑨ 実習日誌の記入と整理、実習の振り返り
⑩ 大学教員による指導・助言

成績評価方法・基準

教育実習の評価表の内容35%、実習日誌の記述内容35%、研究授業の学習指導案（またはこれに準ずる学習指導案）30%

教科書ソフト等

実習校の校種に応じた学習指導要領とその解説編、実習校から指定された教科書など

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

cfbhwfj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

実習前の確認を十分行い、担当教科や学級・学年の指導計画を把握して準備してください。実習中の授業内容が指示された場合は、学習指導案をあらかじめ用意してください。
実習前に事前確認及び準備をする時間を確保してください

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

「教育実習事前事後指導」の事前指導を欠席した場合は教育実地研究は実施できません。同様に事後指導も受講を必須とします。

授業科目	教職実践演習(中・高)	配当年次	4年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	TEP4025

授業概要

教職実践演習は、これまでの履修科目の成果や教育実習を振り返り、教員に必要な資質や能力を補ったり高めたりすることを目的としている。教員に求められる生徒理解や対人関係能力、学校運営・学級経営・教科経営などへの理解、教員としての使命感・服務規程に関する事項、専門教科の指導力について演習やグループワークなどを行いながら身に付ける。

到達目標

① 教員の使命感や倫理観を理解し説明することができる。
② 学校現場での協働を意図し、必要な対人関係能力を身に付け実践することができる。
③ 生徒理解や学級経営・教科経営の基本的内容を理解し説明することができる。
④ 専門教科の学習指導を計画し、生徒の発達やレディネスに応じた指導ができる。

学科のディプロマ・ポリシー

三学科に共通するよう大学のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
1 基礎的汎用的スキル：教育に関わる諸活動において協働し実践する力
2 自律性：教育に関わる目標達成のために努力を重ねる力
3 課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、教育に関わる課題を発見する力
4 知識活用：教育に関わる専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

授業計画

1週	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と内容
2週	教育実習の振り返り①教科指導
3週	教育実習の振り返り②教材研究と研究授業の学習指導案
4週	教育実習の振り返り③学級指導
5週	教育実習の振り返り④ICT活用や学校行事他
6週	学級経営案の様式と作成　※レポート試験①
7週	教科経営案の様式と作成
8週	教育実習のまとめと報告　※レポート試験②
9週	学習評価の基本概念、生徒指導要録の様式と作成
10週	特別活動と学校行事・年間計画
11週	道徳教育について　※レポート試験③
12週	特別支援教育と教育相談・就学指導
13週	学校経営と学習指導要領
14週	関係機関との連携　−いじめ防止対策を事例に−
15週	履修カルテによる振り返り　※レポート試験④

成績評価方法・基準

レポート試験（80%）、授業内の小課題やグループワークのまとめ（20%）

教科書ソフト等

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示 同）

参考書等

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 同）、高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月、同)

クラスコード

r53maig

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業終了時に次時の内容を提示するので、自分の経験や考えをまとめグループワークや演習を円滑に実施できるように準備してください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教員として補ったり高めたりしなければならない資質や能力を意識し、それらを身に付けるように取り組んでください。また、履修カルテの提出を必須とします。各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

授業科目	音楽教育法A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2006

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領に示される音楽科の目標や内容を理解し、教材研究を通して音楽科の授業を構築するための基礎的な能力を身に付ける。

到達目標

① 高等学校および中学校の音楽科の目標や内容などを理解し、その概要を説明することができる。
② 音楽科の授業を構築するための教材研究の方法を理解し、その結果を説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
2　自律性：主体的に音楽科教育に関わる課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4　知識活用：修得した専門的な知識やスキルを、音楽科教育に活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション：音楽教育と音楽科教育
2週　中学校及び高等学校の学習指導要領（音楽）及び解説編の活用
3週　音楽科及び各学年の目標
4週　歌唱分野の内容について（歌唱共通教材含む）
5週　器楽分野の内容について
6週　創作分野の内容について
7週　鑑賞分野の内容について
8週　〔共通事項〕の内容について
9週　目標や内容の振り返り　※レポート試験①
10週　歌唱分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）
11週　器楽分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）
12週　創作分野の教材研究（指定の教科書掲載活動例）
13週　鑑賞分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）
14週　教材研究の振り返り　※レポート試験②
15週　各学年の目標や内容の違いと指導展開の考え方

成績評価方法・基準

レポート試験80%、授業内の小課題やグループワークの内容20%

教科書ソフト等

高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編(平成30年7月、文部科学省)、
中学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月、同)、中学音楽1　音楽のおくりもの、中学音楽2・3上　音楽のおくりもの、
中学音楽2・3下　音楽のおくりもの、中学器楽　音楽のおくりもの　（令和3年，教育出版）

参考書等

なし

クラスコード

4mvngmq

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

各時間の内容は指導法の基本的な事項となるため、各学習指導要領解説をテキストにして復習してください。授業で検討した教材研究等については随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目の内容は後期の音楽教育法Bに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

授業科目	音楽教育法B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2006

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して基礎的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領と学習指導案との関係を理解し説明することができる。
② 高等学校及び中学校の学習指導要領に基づき教材分析を行い、学習指導案に記述することができる。
③ 高等学校及び中学校の学習指導要領に基づき指導展開を検討し、学習指導案を作成することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
2　自律性：主体的に音楽科教育に関わる課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4　知識活用：修得した専門的な知識やスキルを、音楽科教育に活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション：学習指導案の様式について
2週　鑑賞分野＜歌曲＞〔共通事項〕に基づく教材分析
3週　鑑賞分野＜歌曲＞指導展開の検討
4週　鑑賞分野＜歌曲＞学習指導案の作成
5週　鑑賞分野＜歌曲＞学習指導案の振り返り　※レポート試験①
6週　歌唱分野＜歌唱共通教材＞〔共通事項〕に基づく教材分析
7週　歌唱分野＜歌唱共通教材＞指導展開の検討
8週　歌唱分野＜歌唱共通教材＞学習指導案の作成
9週　歌唱分野＜歌唱共通教材＞学習指導案の振り返り　※レポート試験②
10週　歌唱分野＜斉唱＞〔共通事項〕に基づく教材分析
11週　歌唱分野＜斉唱＞指導展開の検討
12週　歌唱分野＜斉唱＞学習指導案の作成
13週　歌唱分野＜斉唱＞模擬授業（グループワーク）
14週　歌唱分野＜斉唱＞学習指導案の再検討と振り返り　※レポート試験③
15週　指導計画作成と内容の取扱いの配慮事項

成績評価方法・基準

レポート試験（学習指導案）80%、授業内の小課題やグループワーク（模擬授業）の内容20%

教科書ソフト等

中学音楽1　音楽のおくりもの、中学音楽2・3上　音楽のおくりもの、中学音楽2・3下　音楽のおくりもの
中学器楽　音楽のおくりもの　（令和3年，教育出版）

参考書等

高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編(平成30年7月、文部科学省)、中学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月、同)

クラスコード

topyiie

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目の内容は2年次の音楽教育法Cに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

授業科目	音楽教育法C	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP3008

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して実践的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容を適切に取り扱う学習指導案を作成することができる。
② グループワークや模擬授業等を通して学習指導案を検討し改善することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
2　自律性：主体的に音楽科教育に関わる課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4　知識活用：修得した専門的な知識やスキルを、音楽科教育に活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション：模擬授業の目的と進め方
2週　器楽分野＜リコーダー＞教材分析と指導展開の検討
3週　器楽分野＜リコーダー＞学習指導案の検討
4週　器楽分野＜リコーダー＞模擬授業（グループワーク）
5週　器楽分野＜リコーダー＞学習指導案の再検討　※レポート試験①
6週　鑑賞分野＜弦楽合奏＞教材分析と指導展開の検討
7週　鑑賞分野＜弦楽合奏＞学習指導案の検討
8週　鑑賞分野＜弦楽合奏＞模擬授業（グループワーク）
9週　鑑賞分野＜弦楽合奏＞学習指導案の再検討　※レポート試験②
10週　歌唱分野＜合唱＞教材分析と指導展開の検討
11週　歌唱分野＜合唱＞学習指導案の検討
12週　歌唱分野＜合唱＞模擬授業①（グループワーク）
13週　歌唱分野＜合唱＞模擬授業②（グループワーク）
14週　歌唱分野＜合唱＞学習指導案の再検討と　※レポート試験③
15週　領域・分野の関連を図る題材構成

成績評価方法・基準

レポート試験（学習指導案）80%、授業内の小課題やグループワーク（模擬授業）の内容20%

教科書ソフト等

中学音楽1　音楽のおくりもの、中学音楽2・3上　音楽のおくりもの、中学音楽2・3下　音楽のおくりもの
中学器楽　音楽のおくりもの　（令和3年，教育出版）

参考書等

高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編(平成30年7月、文部科学省)、中学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月、同)

クラスコード

qoqfnou

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

本科目の内容は後期の音楽教育法Dに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

授業科目	音楽教育法D	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	萬　司	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP3009

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して実践的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容を適切に取り扱う学習指導案を作成することができる。
② グループワークや模擬授業等を通して学習指導案を検討し改善することができる。

学科のディプロマ・ポリシー

音楽学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
2　自律性：主体的に音楽科教育に関わる課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
4　知識活用：修得した専門的な知識やスキルを、音楽科教育に活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション：模擬授業の目的と進め方
2週　鑑賞分野＜箏曲＞教材分析と指導展開の検討
3週　鑑賞分野＜箏曲＞学習指導案の検討
4週　鑑賞分野＜箏曲＞模擬授業（グループワーク）
5週　鑑賞分野＜箏曲＞学習指導案の再検討　※レポート試験①
6週　器楽分野＜箏＞教材分析と指導展開の検討
7週　器楽分野＜箏＞実技指導の確認
8週　器楽分野＜箏＞学習指導案の検討
9週　器楽分野＜箏＞模擬授業（グループワーク）
10週　器楽分野＜箏＞学習指導案の再検討　※レポート試験②
11週　創作分野＜旋律づくり＞教材分析と指導展開の検討
12週　創作分野＜旋律づくり＞学習指導案の検討
13週　創作分野＜旋律づくり＞学習指導案の再検討　※レポート試験③
14週　【高校音楽1】我が国の音楽文化の取扱い －雅楽－
15週　【高校音楽2】我が国の音楽文化の取扱い －能・文楽・歌舞伎－

成績評価方法・基準

レポート試験（学習指導案）80%、授業内の小課題やグループワーク（模擬授業）の内容20%

教科書ソフト等

中学音楽1　音楽のおくりもの、中学音楽2・3上　音楽のおくりもの、中学音楽2・3下　音楽のおくりもの
中学器楽　音楽のおくりもの　（令和3年，教育出版）

参考書等

高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編(平成30年7月、文部科学省)、中学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月、同)

クラスコード

d73qlh3

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有　：　中学校学習指導要領解説 音楽編（平成20年9月）作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。

授業科目	美術教育法A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	花輪　大輔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2010

授業概要

教育現場で子どもの前に立つには、美術教師としての生徒理解や生徒指導など全人的な教養と、表現や鑑賞の技能や指導法とを結びつけて理解する必要がある。この授業では、美術教育の理論や現代的な課題を把握し、美術表現とそれを媒介とした教育の可能性を追究する。学習指導案の作成の視点から、これからの社会に必要とされる美術教育の在り方を考察し、美術教育の指導者としての指導観や識見の深まりを目指す。

到達目標

現代的な教育的な課題を踏まえ、美術表現とそれを媒介とした教育の可能性の考察をと通して、美術教育に関わる教師としての資質・能力の向上を目指す。
① 美術教育の目標や内容が理解できる。
② 教材研究の方法を理解するとともに学習指導案の作成ができる。
③ 各領域の指導を模擬授業を通して実践できる。

学科のディプロマ・ポリシー

美術学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に自己表現を具現化し、美術科教育に関わる技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、美術科教育に活用することができます。

授業計画

1週　オリエンテーション、美術科教育の意義・目的（学校教育における美術役割、教科の意義）
2週　学習指導要領の概要（教科の目標、表現と鑑賞、学年と目標・指導内容、教師の役割）
3週　美術教育の内容把握（心象を表すことと機能をもつ表現の違い）
4週　美術教育の抱える課題(教科内容学と現場との意識の乖離・授業時数と社会的背景・指導の固着化)
5週　学習指導案作成のポイント(作成の意義、既習事項の把握、育てたい資質能力・学習課題・発問)
6週　表現領域の指導の在り方（資質能力獲得に向けた指導方法・評価の工夫、多校種との接続）
7週　学習指導案の検討(生徒観・題材観・指導観・題材の目標と計画・評価規準・本事案・本時の評価)
8週　模擬授業 ①　表現(導入部分のみ実施後、教材活用をテーマとした授業改善ディスカッション)
9週　模擬授業 ②　表現(授業改善発表)
10週　鑑賞領域の指導の在り方（資質能力獲得に向けた指導方法・評価の工夫）
11週　学習指導案の検討（生徒・題材・指導観・題材の目標と計画・評価規準・本事案・本時の評価）
12週　模擬授業 ③　鑑賞(導入部分のみ実施後、教材活用をテーマとした授業改善ディスカッション)
13週　模擬授業 ④　鑑賞(授業改善発表)
14週　3年間を見通した年間指導計画の作成
15週　北海道教育大学附属札幌中学校教育研究会参観（美術教育と自己実現・教科の目標達成の尺度）
定期試験

成績評価方法・基準

レポート課題30%、学期末試験20%、模擬授業12の指導案及び教材など25%、模擬授業34の指導案及び教材など25%を基準として、授業参加、取り組みへの態度を加味し総合的に判断する。

教科書ソフト等

『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年6月、文部科学省)、『美術教育の基礎知識』(平成22年10 月 建帛社)、『中学校美術1年、2/3年上、2/3年下』(平成28年 日本文教出版)

参考書等

『高等学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年度改訂、文部科学省)

クラスコード

nysvv4a

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

H9年3月～H24年3月まで国立・公立中学校教諭（美術）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

北海道教育大学附属札幌中学校教育研究会での研究授業参観および事後検討会参加を 予定しています(詳細については別途指示します)。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

教育現場に関わることになるので、大人として相応しい身なり・振る舞いを求めます。また、模擬授業の当日までに学習指導案を作成していない場合は、教室への入室を認めないこと があります。

授業科目	美術教育法B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	水野　一英	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2011

授業概要

学習指導要領の内容や教育現場の実態を踏まえて、題材研究を行いながら学習指導法についての指導を 行う。

到達目標

中学校及び高等学校の美術教育における基礎的・基本的事項について学習し、実践的な指導力を修得する。

学科のディプロマ・ポリシー

美術学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ

自律性：主体的に自己表現を具現化し、美術科教育に関わる技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。

知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、美術科教育に活用することができます。

授業計画

1週　中学校の現状と課題について

2週　高等学校の現状と課題について

3週　中学校学習指導要領について①　全般・表現領域・共通事項について

4週　中学校学習指導要領について②　鑑賞領域など

5週　高等学校学習指導要領について　全般・中学校との接続について

6週　実践例 ①　指導計画と授業過程、授業評価

7週　実践例 ②　授業過程における教材、情報機器の扱い

8週　演習 ①　参考作品についての発案、学問領域との関わり

9週　演習 ②　学問領域との関わりに着目した参考作品の制作

10週　演習 ③　参考作品についての発案、発展的な学習内容

11週　演習 ④　発展的な学習内容の導入を目指した参考作品の制作

12週　演習 ⑤　中学校および高等学校学習指導案の作成

13週　演習 ⑥　模擬授業・第1グループ、中学校における題材

14週　演習 ⑦　模擬授業・第2グループ、高等学校における題材

15週　美術科の学習指導についてのまとめ

成績評価方法・基準

教材作品とワークシートの制作20%、学習指導案20%、実践研究発表20%、レポート20%、小テスト20%

教科書ソフト等

『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年6月、文部科学省)、『高等学校学習指導要領解説 美術 編』(平成29年度改訂、同上)、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」(中学校編　美術科)』(国立教育 政策研究所　教育出版)

参考書等

授業内で適宜指示。

クラスコード

pu3ar2z

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

『中学校学習指導要領解説美術編』をしっかりと読みこむこと。

1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

将来、教員として教える側に立つことを意識して、主体的に講義に参加すること。事前学習 課題を基にした発表、討議等の場面もあり、フィードバックされた内容を、実践形式の講義の 場面で生かしてください。また、重要な内容を口頭で伝える場面もあるので、適宜メモをする などしてください。

授業科目	美術教育法C	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	平向　功一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	TEP3012

授業概要

① 子どもの絵の発達過程や小学校の図工の現状や造形遊びなどの授業内容を理解することで、中学校・ 高等学校美術科とのつながりを理解させる。
② アクティブラーンニングを取り入れた実践プログラム「アートキャラバン」を通して、実際に小中学校においてスクールミュージアム(鑑賞授業)やアートワーク(創作活動)を行うことにより図工・美術の学習 指導の方法を主体的に学ばせる。

到達目標

① こどもの絵の発達過程と小学校の授業内容を理解し、中学校・高等学校美術とのつながりを理解する。
② 実践プログラム「アートキャラバン」での授業実践やグループワークを通し、学習指導の方法や教材開発について修得する。
③ 実際に児童生徒と触れ合うことで、生徒理解や学習指導の効果などについて理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

美術学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に自己表現を具現化し、美術科教育に関わる技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、美術科教育に活用することができます。

授業計画

1週	こどもの絵の発達過程について
2週	小学校の現状と課題、図画工作学習指導要領について、中学校美術への接続
3週	ICTを活用した教材研究（表現）題材の検討
4週	ICTを活用した教材研究（表現）学習指導案の作成
5週	ICTを活用した教材研究（表現）教材研究
6週	ICTを活用した教材研究（表現）模擬授業
7週	ICTを活用した教材研究（表現）模擬授業
8週	ICTを活用した教材研究（表現）授業改善についてのディスカッション
9週	鑑賞をテーマにした実践プログラム
10週	題材の検討
11週	学習指導案の作成
12週	模擬授業
13週	模擬授業
14週	模擬授業
15週	授業実践のまとめと振り返り

成績評価方法・基準

課題レポート①30%、課題レポート②40%、授業内での発表・質疑応答・授業中の協議での発言等30%

教科書ソフト等

『美術 表現と鑑賞』(開隆堂出版)、『中学美術1』(開隆堂出版)、『中学美術2・3』(開隆堂出版)

参考書等

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』(平成20年8月 文部科学省)、『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成20年9月 文部科学省)

クラスコード

ox3xt2t

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

必要に応じて図書館などで関連資料を調べ、実践プログラムに向けて事前事後に資料を作成す るようにする。また実践プログラムに向けて学内の実習室などで教材の作成などを行う。2時間か ら3時間程度。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

第5回目は外部講師による特別授業を実施する。(但し、講師の都合により、実施日が移動する場合もある)実践プログラムでは道内または札幌市内小中学校で実施する場合もある。(但し、学校の予定により、実施日は未定)

授業科目	美術教育法D	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	平向　功一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	TEP3013

授業概要

高等学校学習指導要領の内容や高等学校の美術教育について理解させる。高等学校美術科の授業内容 及び学習指導法についてアクティブラーンニングを取り入れたプログラム(表現や鑑賞授業)を高等学校に おいて実施し、題材研究・教材開発・授業実践などを総合的に行う。

到達目標

① 高等学校学習指導要領と美術科の授業内容を理解する。
② 題材研究や教材開発、模擬授業を通し、学習指導の方法を修得する。
③ 実際に高校生に対し授業実践を行うことで、生徒理解や学習指導の効果などについて理解する。

学科のディプロマ・ポリシー

美術学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に自己表現を具現化し、美術科教育に関わる技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、美術科教育に活用することができます。

授業計画

1週	高等学校学習指導要領について①
2週	高等学校学習指導要領について②
3週	ICTを使った鑑賞の指導①
4週	ICTを使った鑑賞の指導②
5週	ICTを使った鑑賞の指導③
6週	表現の指導① 題材研究(映像メディア表現)
7週	表現の指導② 題材研究(絵画)
8週	教育現場の現状と課題
9週	授業実践① 題材研究 (内容の検討)
10週	授業実践② 題材研究 (プレゼンテーション)
11週	授業実践③ 題材研究 (ディベート・ディスカッション)
12週	授業実践④ 学習指導案の作成
13週	授業実践⑤ 教材開発
14週	授業実践⑥ 高等学校での授業
15週	高等学校の美術教育のまとめと振り返り

成績評価方法・基準

課題レポート①30%、課題レポート②40%、授業内での発表・質疑応答・授業中の協議での発言等30%

教科書ソフト等

『高等学校学習指導要領解説 美術編』、『高校生の美術』(日本文教出版)、『高校美術1』(光村図書)

参考書等

なし。授業内で指示します。

クラスコード

volfdhj

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

有

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

必要に応じて図書館などで関連資料を調べ、実践プログラムに向けて事前事後に資料を作成す るようにする。
また実践プログラムに向けて学内の実習室などで教材の作成などを行う。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

・第8回目は外部講師による特別授業を実施する。(但し、講師の都合により、実施日が移動する場合もある)
・第14週の授業実践では札幌大谷高校で実施する。(但し、高等学校の予定により、実施日が移動する場合もある)

授業科目	社会科教育法A	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	村田　尋如	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2014

授業概要

変化の激しい社会において望ましい市民としての基礎的資質を育成する豊かな社会科教育を実践するた めの基礎を講義する。社会科において何をどのように教えるか、生徒が市民として主体的、能動的に生きて いくために必要な資質・能力を育成するために必要な授業について、理解を深め教師としての力量を高める。

到達目標

① 社会科教育の全体像を把握し、社会科の授業方法を理解できる。
② 社会事象に関心を持ち、社会を構成する「人」について深く理解し人を愛する大切さを理解できる。
③ 主体的、能動的な学習の必要性を理解し、実践しようとする意欲、関心を高めることができる。
④ 社会科教師としての志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

地域社会学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に課題に取り組み、社会科教育に関わる目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、社会科教育に活用することができます。

授業計画

1週	社会科とは何か① オリエンテーション・課題レポートの取組方、提出方法などの説明
2週	社会科教育の本質① 社会科教育とは何か 目標・ねらい、学校でなすべきこと
3週	社会科教育の本質②「地理」「歴史」を学ぶ楽しさ、高等学校との接続
4週	社会科教育の本質③「公民」を学ぶ楽しさ、高等学校との接続
5週	指導計画①　「地理分野」の年間指導計画、指導と評価の一体化
6週	指導計画②　「歴史分野」の年間指導計画、指導と評価の一体化
7週	指導計画③　「公民分野」の年間指導計画、指導と評価の一体化
8週	指導方法①　課題解決学習、探究的・協働的学習:アクティブ・ラーニングの取組
9週	指導方法②　思考ツールの活用:二次元表、座標軸、ピラミッドチャート、ウェブマッピング
10週	指導方法③　KJ法の活用、NIEの取組、ICTの活用、ジグソー法、体験学習、調査学習
11週	他の教科・領域との連携① 法教育、消費者教育、環境教育等との連携
12週	他の教科・領域との連携② キャリア教育、道徳教育、総合的な学習の時間等との連携
13週	学習評価①　形成的評価、総括評価、観点別評価等の意義
14週	学習評価②　パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価の活用
15週	社会科とは何か② まとめ・社会科教師の使命と役割・課題レポートのフィードバック

成績評価方法・基準

課題レポート①30%、課題レポート②40%、授業内での発表・協議での発言等30%

教科書ソフト等

『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年6月、文部科学省)、『中学社会 地理　地域に学ぶ』(教育出版)、『新しい社会　歴史』(東京書籍)、『中学校社会　公民　ともに生きる』(教育出版)、「中学校社会科地図」(帝国書院)、「アクティブ地理総合」(浜島書店)、「資料カラー歴史」(浜島書店)

参考書等

『授業を磨く』(田村学 著 東洋館出版社 2015)、『すぐにわかる!できる!アクティブ・ラーニング』(西川純 著 学陽書房 2015)

クラスコード

rcubsnu

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに予復習を行い、よりよい課題レポートを作成するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

① よりよい教師力を身につけようとする意欲を持って授業に出席すること。
② 授業中の発表や協議、質疑応答に積極的に参加すること。

授業科目	社会科教育法B	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	村田　尋如	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	TEP2015

授業概要

市民的資質の育成は、21世紀の社会科の核である。教師が一方的に教え込むだけの授業ではなく、一定の 問題提起を行い、それに対して生徒の意見を引き出し、それらを有機的に結合させて、最終的には生徒そ れぞれの社会認識を発展させ、社会参加をする力を養い、市民としての信念を培う基盤を提供するのが社 会科の授業である。本講義を通じて、共に履修しているほかの学生と協働しながら、社会科教育観をさらに 深めていくとともに一人ひとりが納得できる授業つくりを探究していってもらいたい。

到達目標

社会科とは民主主義社会における責任ある市民として、生徒一人ひとりがその市民的資質を培う教科であ る。そして社会科教師はその支援者である。本講義は前期で学んだ理論をベースに学習指導案作りと模擬 授業といった実践中心に学びを深める。従って中学校社会科教員免許の取得を目指す皆さんには、以下の ような学びをしてもらいたい。
①社会科教育の意義及び目標(市民としての生き方、社会参加する意欲と態度、そして多様な視点から様々な社会事象を理解し探究し考察する力)、自らの被教育経験をもとに社会科教育観を深める。
②上記1を踏まえたうえで、自らの社会に対する問題意識を生かした社会科の授業を創ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

地域社会学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ

自律性：主体的に課題に取り組み、社会科教育に関わる目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。

知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、社会科教育に活用することができます。

授業計画

1週	オリエンテーション(近年の社会科教育実践にみられる傾向)
2週	情報機器活用の具体例の提示
3週	グループによる学習指導案(略案)づくり① 本時の目標及び導入
4週	グループによる学習指導案(略案)づくり② 展開I
5週	グループによる学習指導案(略案)づくり③ 展開II III
6週	グループによる学習指導案(略案)づくり④ まとめ、評価の観点、板書案
7週	模擬授業及び実習へ向けての反省会① 各自作成の指導案についての意見交換
8週	模擬授業及び実習へ向けての反省会② 板書やワークシートの使用などの授業向け準備
9週	模擬授業及び実習へ向けての反省会③ 地理の模擬授業実施
10週	模擬授業及び実習へ向けての反省会④ 地理の模擬授業の反省
11週	模擬授業及び実習へ向けての反省会⑤ 歴史の模擬授業実施
12週	模擬授業及び実習へ向けての反省会⑥ 歴史の模擬授業の反省
13週	模擬授業及び実習へ向けての反省会⑦ 公民の模擬授業実施
14週	模擬授業及び実習へ向けての反省会⑧ 公民の模擬授業の反省
15週	まとめ(社会科教師の使命と社会科授業の果たす役割)

成績評価方法・基準

模擬授業評価レポート35%、学習指導案30%、模擬授業20%、授業参加15%

教科書ソフト等

『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年6月、文部科学省)、『中学社会 地理　地域に学ぶ』(教育出版)、『新しい社会　歴史』(東京書籍)、『中学校社会　公民　ともに生きる』(教育出版)、「中学校社会科地図」(帝国書院)、「アクティブ地理総合」(浜島書店)、「資料カラー歴史」(浜島書店)

参考書等

『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業のデザイン』(2009)明治図書、『中学校・高校の"優れた社 会科授業の条件"』(2008)明治図書、『社会科の授業診断 良い授業に潜む危うさ研究』(20 明治図書

クラスコード

pilz5vo

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

学習指導要領を良く読み込むこと。参考書などにも目を通し、疑問点や意見をまとめておくこと。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

①授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに予復習を行い、よりよい課題レポートを作成 するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。②よりよい教師力を身につけようとする意 欲を持って授業に出席すること。③模擬授業実施の際は授業者は自己評価カード、参観者 は意見交換カードを記入して提出すること。その際にも極力具体的な記述を求める。

授業科目	公民教育法A	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	村田　尋如	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	TEP3016

授業概要

① 変化の激しい社会において、生徒に望ましい市民としての基礎的資質を育成する豊かな公民科教育を実践できる教師力を身につける。
② 教育の目的と手法を深く理解し、公民科とは何か、何を教えるのか、どのように教えることがよいのか、生徒が市民として主体的、能動的に生きていくために必要な資質・能力を育成するには、どのような公民科授業が必要かなどについて、理解を深め、探究し、教師としての力量を高める。

到達目標

① 公民科教育の全体像を理解できる。
② 公民科の授業方法を理解できる。
③ 社会事象に積極的に関心を持ち、社会を構成する「人」について、深く理解し、人を愛することの大切さを理解できる。
④ 主体的、能動的な学習の必要性を理解し、実践しようとする意欲、関心を高めることができる。
⑤ 公民科教師としての志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

地域社会学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に課題に取り組み、公民科教育に関わる目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、公民科教育に活用することができます。

授業計画

1週	公民科とは何か① オリエンテーション・課題レポートの取組方、提出方法等の説明
2週	公民科教育の本質① 公民科教育とは何か・・・目標・ねらい、学校でなすべきこと
3週	公民科教育の本質② 「公共」「倫理」「政治・経済」を学ぶ楽しさ①
4週	公民科教育の本質③ 「公共」「倫理」「政治・経済」を学ぶ楽しさ②
5週	指導計画① 「公共」の年間指導計画、指導と評価の一体化
6週	指導計画② 「倫理」の年間指導計画、指導と評価の一体化
7週	指導計画③ 「政治・経済」の年間指導計画、指導と評価の一体化
8週	指導方法① 課題解決学習、探究的・協働的学習:アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の進め方
9週	指導方法② 思考ツールを活用した授業の進め方
10週	指導方法③ 指導案の内容の理解と作成
11週	他の教科・領域との連携① 地理歴史科、法教育、消費者教育、環境教育等との連携
12週	他の教科・領域との連携② キャリア教育、道徳教育、総合的な学習の時間等との連携
13週	学習評価 観点別評価等の意義、パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価の活用
14週	新科目「公共」の理解と実践
15週	公民科とは何か② まとめ・公民科教師の使命と役割・課題レポートのフィードバック

成績評価方法・基準

課題レポート①30%、課題レポート②40%、授業内での発表・質疑応答・授業中の協議での発言等30%

教科書ソフト等

『高等学校学習指導要領解説-公民編』(平成30年7月 文部科学省) 教育出版、『私たちの公共』(清水書院)、『高等学校 新倫理』(清水書院)、『高等学校 政治・経済』(清水書院)、『最新版 倫理資料集 ソフィエ～智を学び夢を育む～』(清水書院)、『政治・経済資料集』(清水書院)

参考書等

『高等学校教育課程 編成・実施の手引』-公民科-(令和元～3年度)北海道教育委員会(HP掲載資料)、『すぐにわかる！できる！アクティブ・ラーニング』(西川純 著 学陽書房 2015)

クラスコード

24nh2tc

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに予復習を行い、よりよい課題レポートを作成す るなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

よりよい教師力を身につけようとする意欲を持って授業に出席すること。
授業中の発表や協議、質疑応答に積極的に参加すること。

授業科目	公民教育法B	配当年次	3年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	村田　尋如	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	TEP3017

授業概要

① 変化の激しい社会において、生徒に望ましい市民としての基礎的資質を育成する豊かな公民科教育を実践できる教師力を身に付ける。
② 公民科授業の理解を深め、年間学習指導計画、授業デザインなどを踏まえた模擬授業や研究協議を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導方法や思考ツールの活用、評価の方法等、公民科に必要な教科指導法を身に付ける。

到達目標

① 模擬授業を通して、学習指導計画が把握でき、具体的な指導方法を追究できる。
② 模擬授業の結果分析等を通して、授業改善を主体的に図る必要性を理解し、実践的指導力を身に付けることができる。
③ 公民科教師としての志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー

地域社会学科のディプロマ・ポリシーを基に教職課程に合わせ
自律性：主体的に課題に取り組み、公民科教育に関わる目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、公民科教育に活用することができます。

授業計画

1週	指導案の作成方法、模擬授業の取組方法、授業後の協議方法の理解
2週	指導案の作成と発表、協議①「公共」
3週	指導案の作成と発表、協議②「倫理」
4週	指導案の作成と発表、協議③「政治・経済」
5週	模擬授業(授業・研究協議)①「公共」
6週	模擬授業(授業・研究協議)②「倫理」
7週	模擬授業(授業・研究協議)③「政治・経済」
8週	地理歴史科と連携した授業方法(演習)
9週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組①「公共」の授業改善と研究協議
10週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組②「倫理」の授業改善と研究協議
11週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組③「政治・経済」の授業改善と研究協議
12週	年間指導計画に基づく授業内容の理解①「公共」
13週	年間指導計画に基づく授業内容の理解②「倫理」
14週	年間指導計画に基づく授業内容の理解③「政治・経済」
15週	公民科教育のまとめ・課題レポートのフィードバック

成績評価方法・基準

課題レポート130%、課題レポート240%、模擬授業の状態、授業内での発表・質疑応答・授業中の協議での発言等30%

教科書ソフト等

『高等学校学習指導要領解説-公民編』(平成30年7月 文部科学省) 教育出版、『私たちの公共』(清水書院)、『高等学校 新倫理』(清水書院)、『高等学校 政治・経済』(清水書院)、『最新版 倫理資料集 ソフィエ～智を学び夢を育む～』(清水書院)、『政治・経済資料集』(清水書院)

参考書等

『高等学校教育課程 編成・実施の手引』-公民科-(令和元～3年度)北海道教育委員会(HP掲載資料)

クラスコード

hi6pryf

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに模擬授業の準備を進め、よりよい課題レポートを作成するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。

2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報

よりよい教師力を身に付けようとする意欲を持って授業に出席すること。授業中の発表や協議、模擬授業、質疑応答に積極的に参加すること。